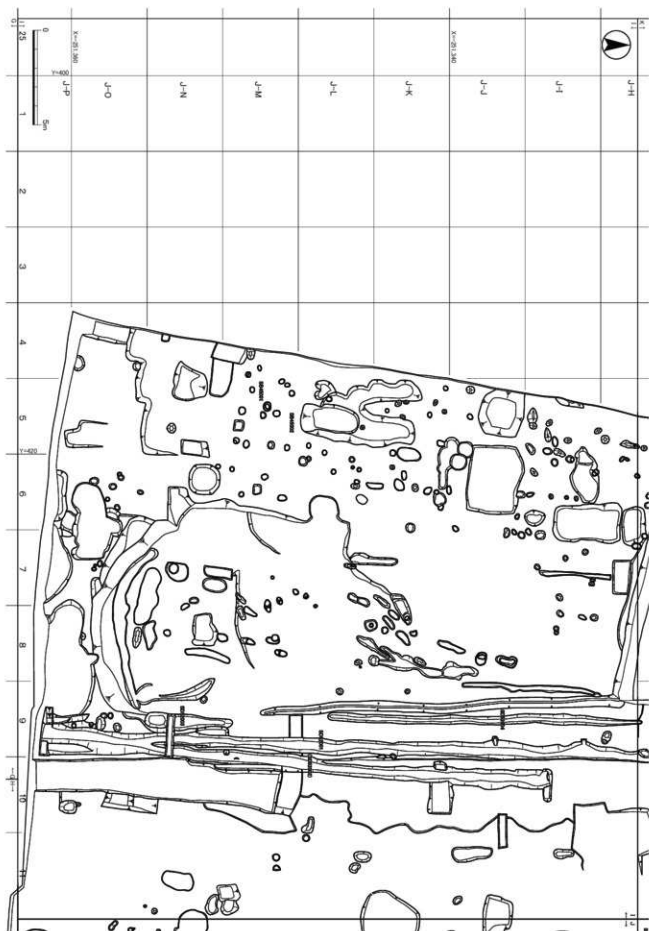




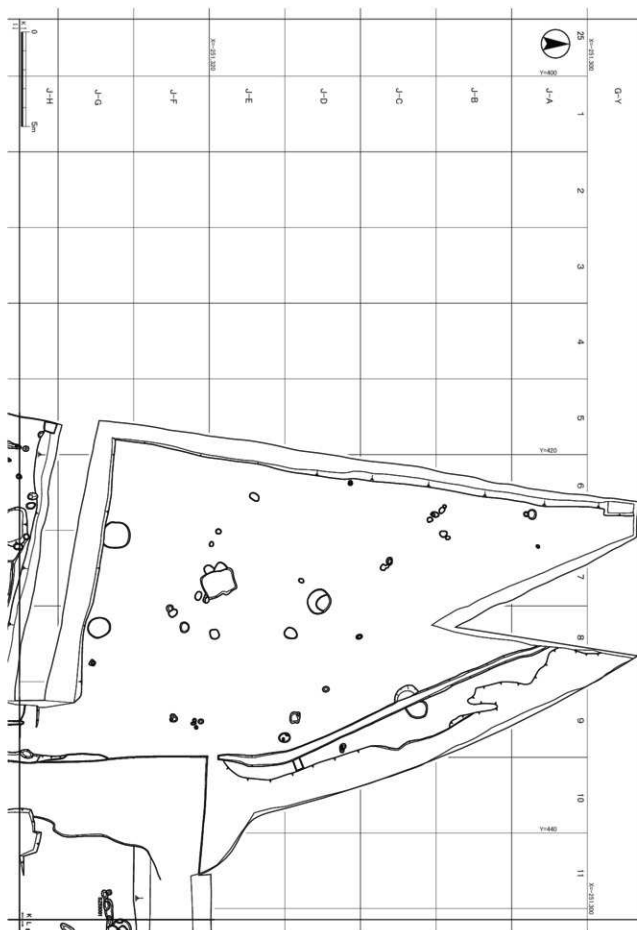
第Ⅲ-13図 遺構平面図H (1:200)



第Ⅲ-14 遺構平面図 I (1:200)



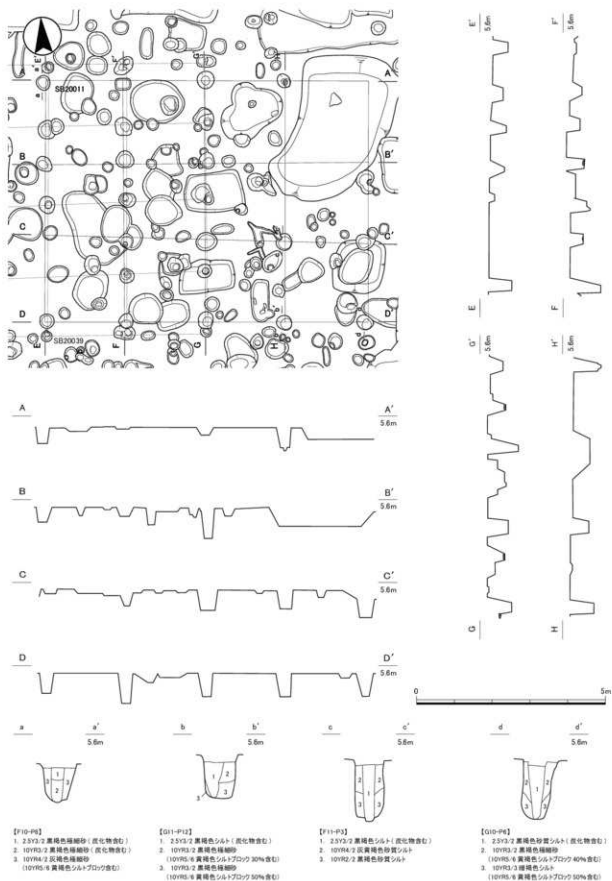
第三-15図 遺構平面図J (1:200)



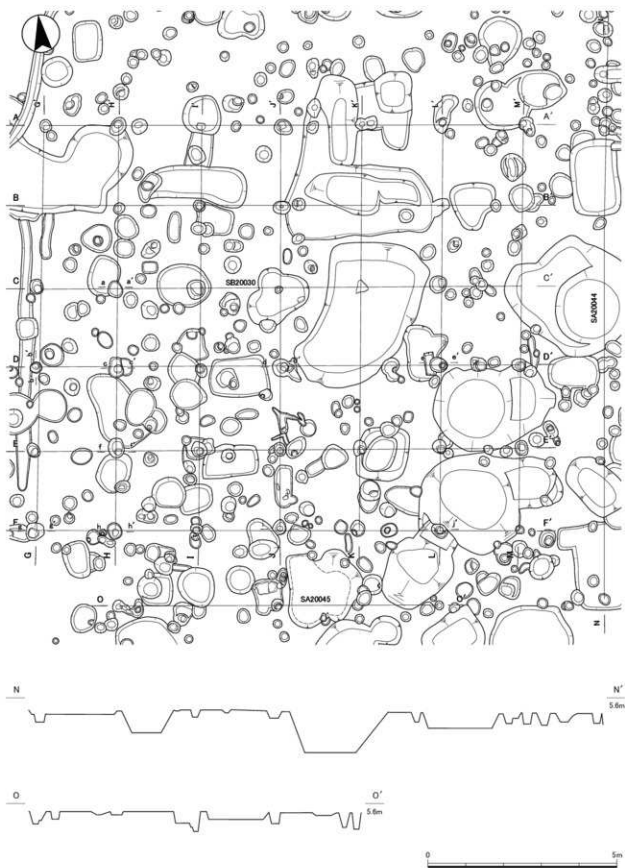
第三-16 圖 遺構平面圖K (1:200)



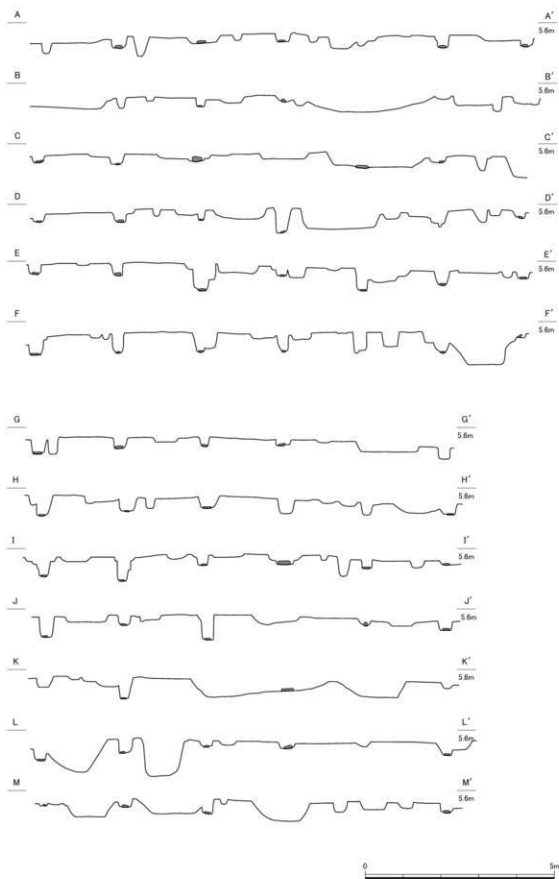
第Ⅲ-17図 遺構平面図L (1:200)



第三-18 図 SB 20011 平面図・断面図、柱穴土層断面図 (1:100, 1:40)



第Ⅲ-19图 SB 20030、SA 20044、20045 平面图·断面图、柱穴土层断面图(1:100)



第Ⅲ-20圖 SB 20030 断面圖 (1:100)

る。柱間の芯々距離は南北両端の2間のみが1.5m、1.6m、それ以外が2.0m、2.1mである。また、梁行は、東西端の柱穴芯々で6.25mであり、各柱間の芯々距離は2.05～2.1mである。SB 20011と重複している。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈し、長軸0.3～0.5m、短軸0.3～0.5mの規模で、検出面からの深さは0.2～0.8mである。柱穴底部17ヶ所のうち12ヶ所で根石を確認した。また、柱穴4ヶ所で断割を行い、柱痕跡などを確認することができた。柱痕跡の径は0.1～0.15mである。

柱穴の埋土から13世紀後半の山茶碗などが出土した。

SA 20040

柱穴4ヶ所を確認した。3間の東西方向の柱列とした。方向はN 80° Eである。SB 20030と重複

している。全長は6.3mである。

柱穴の埋土から中世の山茶碗などが出土した。

SB 20043 (第Ⅲ-23図)

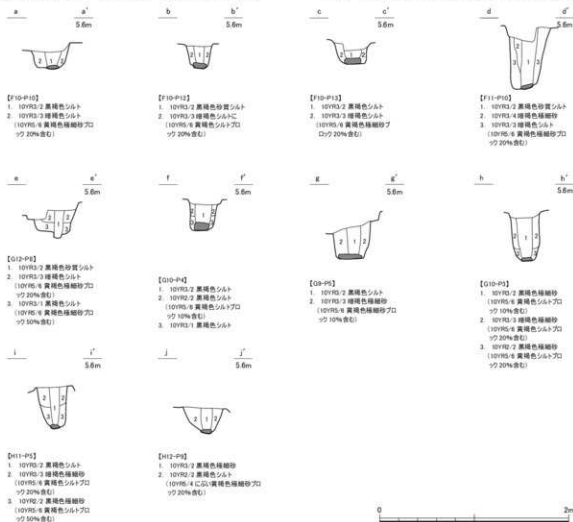
桁行2間、梁行1間の建物である。棟方向はN 6° E、南北棟である。桁行は、南北端の柱穴芯々で3.4mあり、各柱間の芯々距離は1.7mである。また、梁行は、東西端の柱穴芯々で1.8mである。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.3～0.5m、短軸0.3m、検出面からの深さは0.1～0.5mである。

柱穴の埋土から中世の土師器小片などが出土した。

SA 20044 (第Ⅲ-19図)

柱穴5ヶ所を確認した。一部の柱穴は攪乱などにより確認することができなかった。周囲の状況から柱穴8ヶ所、7間の南北方向の柱列とした。方向はN 8° Eである。SB 20030の東側に位置している。



第Ⅲ-21図 SB 20030 柱穴土層断面図 (1:40)

全長は14.4mで、各柱間の芯々距離は2.1mである。

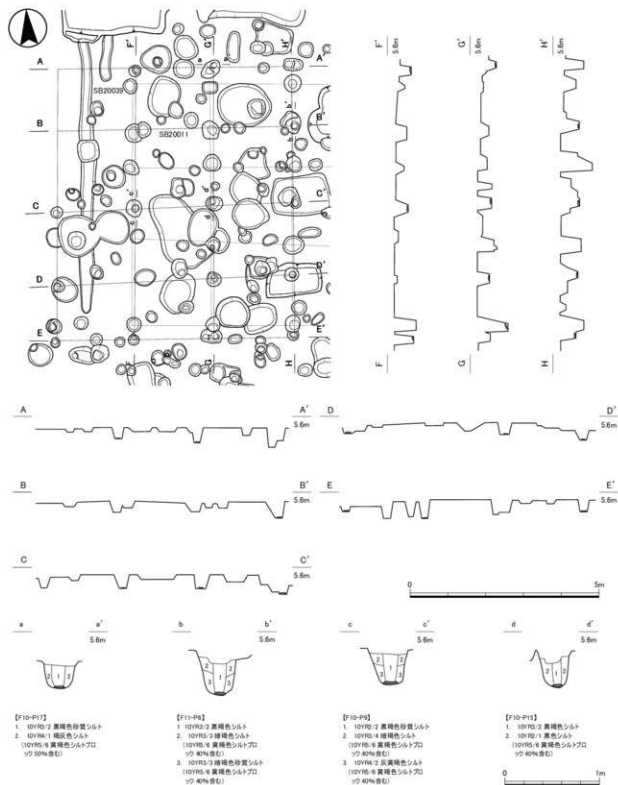
柱列を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形となる。規模は長軸0.2～0.3m、短軸0.2～0.3m、検出面からの深さは0.2～0.3mである。

柱穴の埋土から土師器小片や13世紀前半の山茶

碗などが出土した。

SA 20045 (第三-19 図)

柱穴5ヶ所からなる4間の東西方向の柱列で、方向はN 88° Eである。SB 20030の南側に位置している。全長8.4m、各柱間の芯々距離は2.1mである。



第三-22 図 SB 20039 平面図・断面図、柱穴土層断面図 (1:100, 1:40)

柱列を構成する各柱穴の平面形は、円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸 0.3～0.6m、短軸 0.2～0.4m、検出面からの深さは 0.3～0.5m である。

柱穴の埋土から中世の土師器小片などが出土した。

SB 32007 (第Ⅲ-24 図)

桁行 2 間、梁行 1 間の建物である。建物北西部分の柱穴は確認できなかった。棟方向は N 7° E、南北棟である。桁行は、南北端の柱穴芯々で 3.7m、各柱間の芯々距離は 1.8～1.9m である。また、梁行は、東西端の柱穴芯々で 2.9m である。S K 42005 と重複している。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕

円形を呈している。規模は、長軸 0.3～0.4m、短軸 0.2～0.3m で、検出面からの深さは 0.2～0.3m である。

柱穴の埋土から小片ではあるが中世の土師器片などが出土した。

SA 32008 (第Ⅲ-24 図)

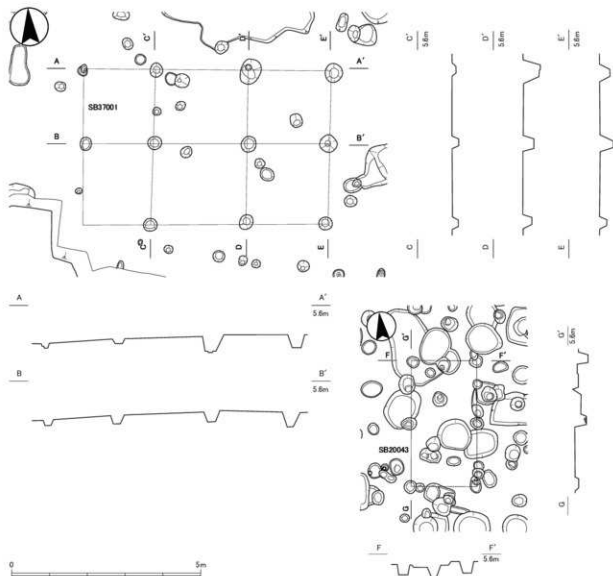
柱穴 4 ヶ所からなる 3 間の柱列で、方向は N 12° E である。全長は 6.8m、各柱間の芯々距離は 2.0～2.7m と等間隔ではない。

柱列を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸 0.3～0.5m、短軸 0.2～0.4m、検出面からの深さは 0.1～0.3m である。

柱穴の埋土から中世の土師器片などが出土した。

SB 32009 (第Ⅲ-24 図)

桁行 2 間、梁行 1 間の建物である。棟方向は N 3

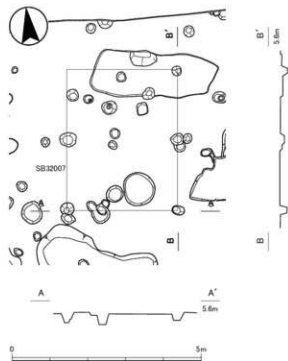


第Ⅲ-23 図 SB 20043, 37001 平面図・断面図 (1:100)

° E、南北棟である。桁行は、南北端の柱穴芯々で3.6m、各柱間の芯々距離は1.8mである。また、梁行は、東西端の柱穴芯々で2.2mである。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.3～0.5m、短軸0.3～0.4m、検出面からの深さは0.2～0.5mである。

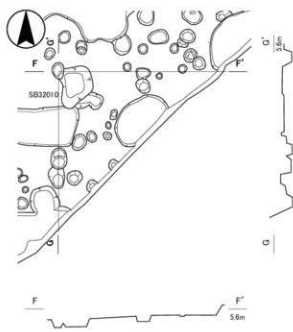
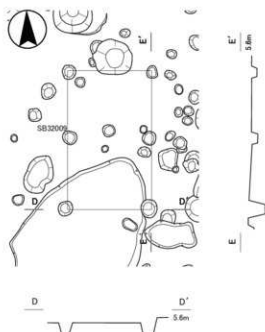
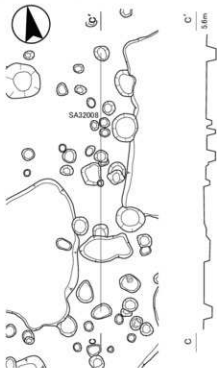
柱穴の埋土から中世の土師器小片などが出土した。



SB 32010 (第三-24図)

東西1間以上、南北1間以上を確認した。建物の方向はN 1° Eである。柱穴3ヶ所から構成され、調査区外に延びる。各柱間の芯々距離は、東西2.3m以上、南北2.3m以上である。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.4m、短軸0.2～0.4m、検出面からの深さは0.2～0.3mである。



第三-24図 SB 32007, 32009, 32010、SA 32008 平面図・断面図 (1:100)

柱穴の埋土から中世の土師器小片などが出土した。

SB 33014 (第Ⅲ-25 図)

桁行 3 間、梁行 2 間の建物である。棟方向は N 96° E、東西棟である。桁行は、東西端の柱穴芯々で 6.5m であり、各柱間の芯々距離は 2.0 ~ 2.3m である。また、梁行は、南北端の柱穴芯々で 4.1m であり、各柱穴の芯々距離は 1.95 ~ 2.1m である。

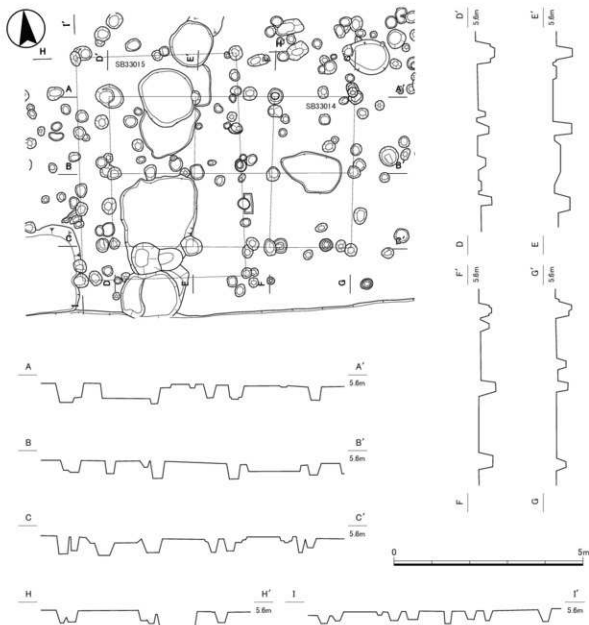
建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸 0.3 ~ 0.6m、短軸 0.3 ~ 0.6m である。北西隅の柱穴は少し大きくなっている。検出面からの深さは 0.3 ~ 0.5m である。

柱穴の埋土から 12 世紀前半の山茶碗などが出土した。

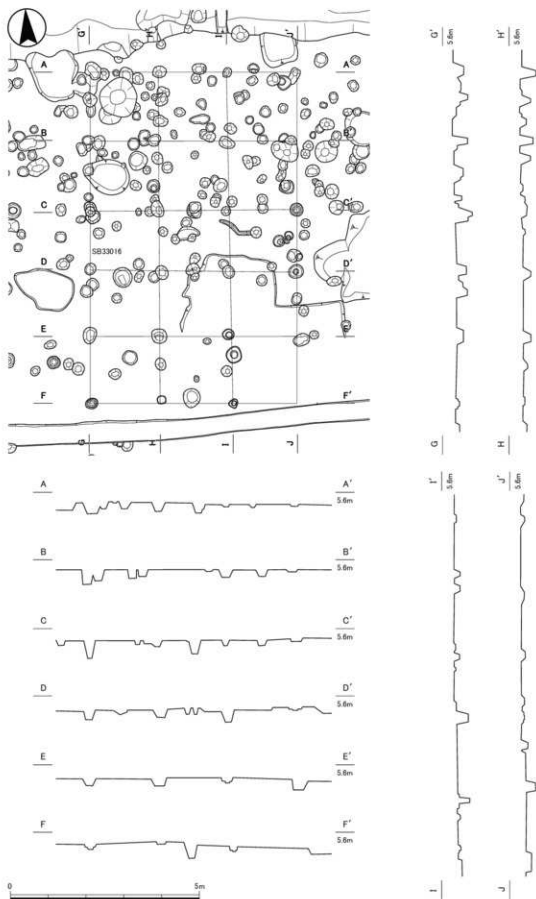
SB 33015 (第Ⅲ-25 図)

桁行 3 間、梁行 2 間の側柱建物である。柱穴の一部は SK 42006 により確認することができなかった。棟方向は N 6° E、南北棟である。桁行は、南北端の柱穴芯々で 5.9m、各柱間の芯々距離は 1.9 ~ 2.0m である。また、梁行は、東西端の柱穴芯々で 4.2m、各柱間の芯々距離は 2.05 ~ 2.15m である。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形となる。規模は長軸 0.3 ~ 0.5m、短軸 0.3 ~ 0.4m、検出面からの深さは 0.2 ~ 0.4m である。



第Ⅲ-25 図 SB 33014, 33015 平面図・断面図 (1:100)

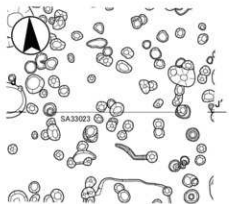
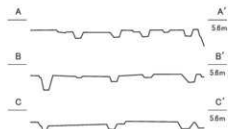
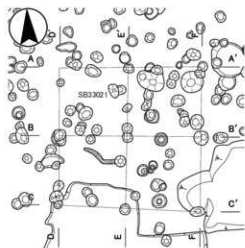


第三-26圖 SB 33016平面圖・断面圖(1:100)

柱穴の埋土から13世紀後半の山茶碗などが出土した。

SB 33016 (第Ⅲ-26 図)

桁行5間、梁行3間の総柱建物である。南東隅の柱穴は確認することができなかった。棟方向はN4°E、南北棟である。桁行は、南北端の柱穴芯々で8.7mである。柱間の芯々距離は中央の間が1.5m、それ以外は1.8mである。また、梁行は、東西端の

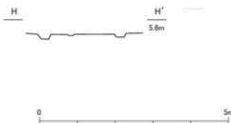
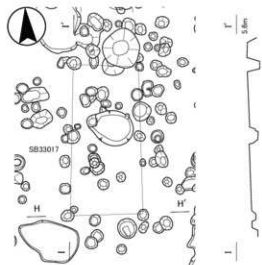
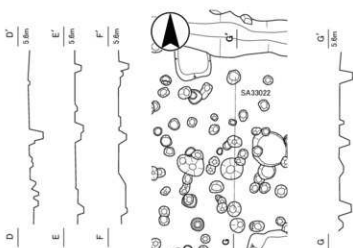


柱穴芯々で5.4m、各柱間の芯々距離は1.7～1.9mである。

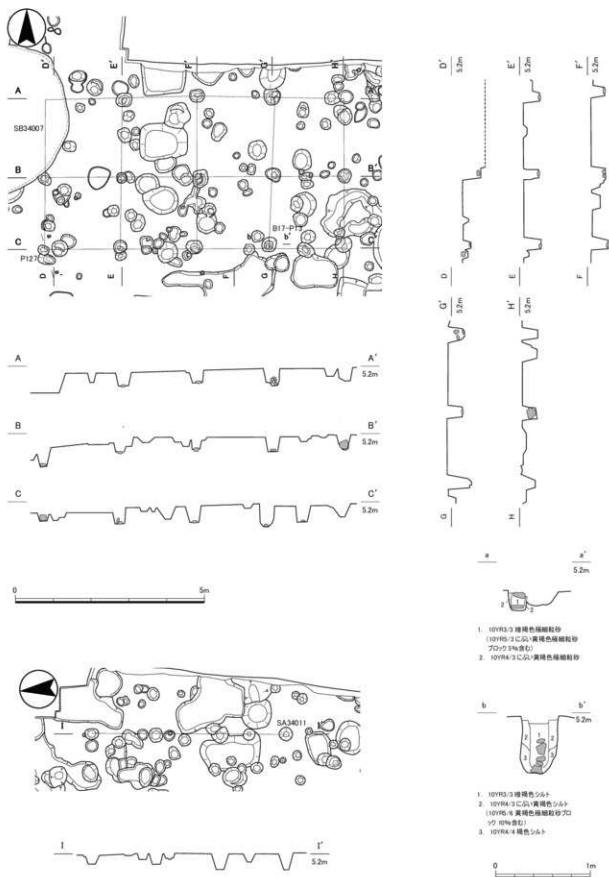
建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は、長軸0.3～0.5m、短軸0.2～0.4m、検出面からの深さは0.2～0.4mである。柱穴底部1ヶ所で根石を確認した。

柱穴の埋土から土錘などが出土した。

SB 33017 (第Ⅲ-27 図)



第Ⅲ-27 図 SB 33017, 33021, SA 33022, 33023 平面図・断面図 (1:100)



第三-28 図 SB 34007、SA 34011 平面図・断面図、柱穴土層断面図 (1:100、1:40)

桁行2間、梁行1間の建物である。棟方向はN5°E、南北棟である。桁行は、南北端の柱穴芯々で4.0m、各柱間の芯々距離は1.9～2.1mである。また、梁行は、東西端の柱穴芯々で1.9mである。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は、長軸0.2～0.4m、短軸0.2～0.4m、検出面からの深さは0.1～0.4mである。

柱穴の埋土から中世の土師器小片などが出土した。

SB 33021 (第Ⅲ-27図)

南北2間、東西2間の総柱建物である。北西隅の柱穴を確認することができなかった。棟方向はN4°E、南北棟である。桁行は、南北端の柱穴芯々で3.9mであり、各柱間の芯々距離は1.8～2.1mである。また、梁行は、東西端の柱穴芯々で3.7mであり、各柱間の芯々距離は1.75～1.95mである。桁・梁ともに柱間間隔は不揃いである。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.3～0.4m、短軸0.3

～0.4m、検出面からの深さは0.1～0.4mである。

埋土から中世の土師器銅小片などが出土した。

SA 33022 (第Ⅲ-27図)

柱穴3ヶ所からなる2間の南北方向の柱列である。方向はN0°である。全長は3.7m、各柱間の芯々距離は1.85mである。

柱列を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は、長軸0.3～0.4m、短軸0.3～0.4m、検出面からの深さは0.3～0.4mである。

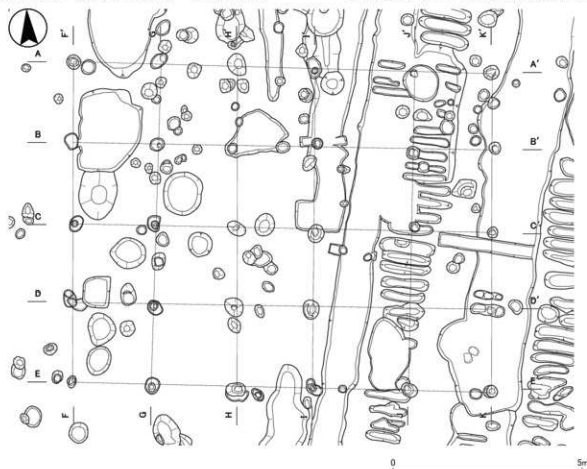
柱穴の埋土から16世紀代の鉄鍬、山茶碗小片などが出土した。

SA 33023 (第Ⅲ-27図)

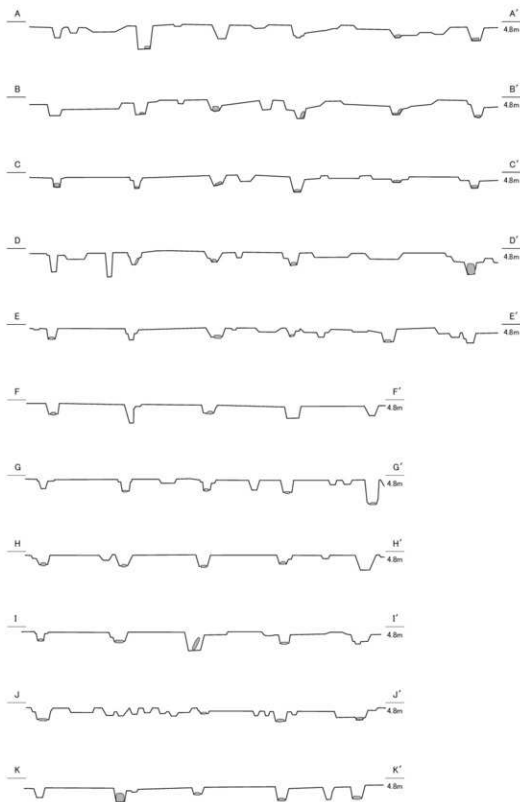
柱穴3ヶ所からなる2間の東西方向の柱列である。方向はN86°Eである。全長は3.6m、各柱間の芯々距離は1.8mである。

柱列を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は、長軸0.3～0.4m、短軸0.2～0.3m、検出面からの深さは0.1～0.3mである。

柱穴の埋土から中世の土師器小片などが出土し



第Ⅲ-29図 SB 37008 平面図 (1:100)



第三-30圖 SB 37008 断面圖 (1:100)

た。

SB 34007 (第Ⅲ-28 図)

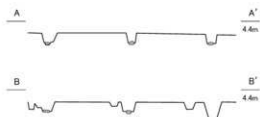
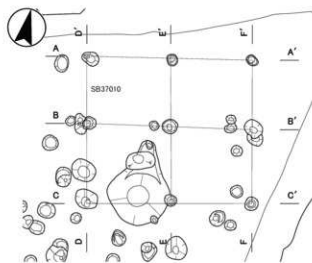
桁行4間、梁行2間の総柱建物である。北西隅部の柱穴については確認できなかった。棟方向はN 96° E、東西棟である。桁行は、東西端の柱穴芯々で7.9m、各柱間の芯々距離は1.9～2.1mである。また、梁行は、南北端の柱穴芯々で4.0m、各柱間の芯々距離は1.9～2.1mである。平面の歪みは少ないものといえる。

建物を構成する各柱穴の平面形は、円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.3～0.4m、短軸0.2～0.3m、検出面からの深さは0.2～0.7mである。柱穴14ヶ所のうち、12ヶ所の底部で根石を確認した。また、柱穴2ヶ所で断削を行い、柱痕跡などを確認した。径は0.2m程度である。

柱穴の埋土から瓦器椀、14世紀前半の山茶碗などが出土した。

SA 34011 (第Ⅲ-28 図)

柱穴4ヶ所からなる3間の南北方向の柱列である。方向はN 6° Eである。全長は5.1m、各柱間の芯々距離は1.7mである。



柱列を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は、長軸0.4m、短軸0.3～0.4m、検出面からの深さは0.2～0.5mである。

柱穴の埋土から遺物は確認できなかった。

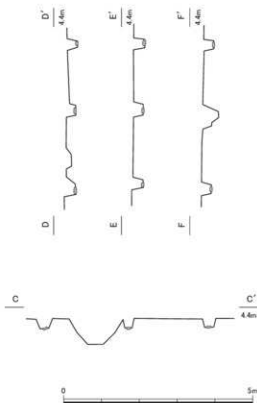
SB 37001 (第Ⅲ-23 図)

桁行3間、梁行2間の総柱建物である。南西隅の柱穴については確認することができなかった。棟方向はN 81° E、東西棟である。桁行は、東西端の柱穴芯々で6.5mである。柱間の芯々距離は西端の1間が1.8～1.9m、中央の1間が2.4～2.5m、東端の1間が2.2mと不揃いである。また、梁行は、東西端の柱穴芯々で4.0mであり、各柱間の芯々距離は1.9～2.1mである。

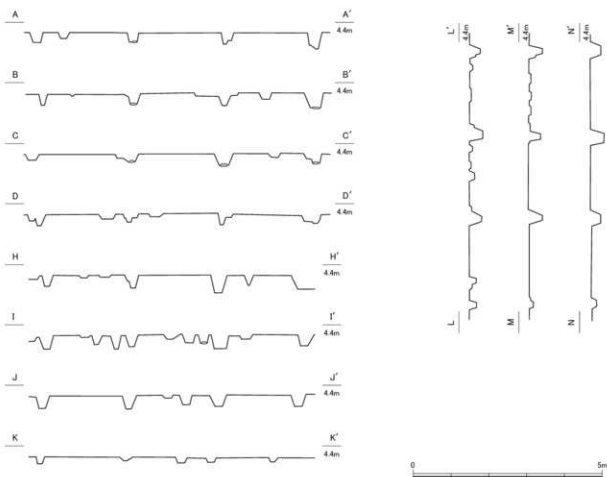
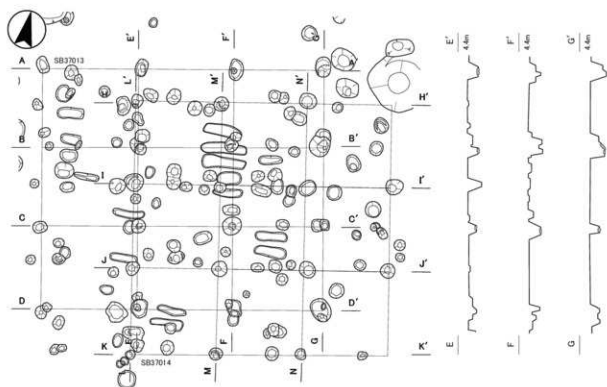
建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は、長軸0.4～0.7m、短軸0.3～0.5m、検出面からの深さは0.2～0.4mである。

柱穴の埋土から13世紀代の土師器鍋、山茶碗、白磁碗、白磁壺、土鍾などが出土した。出土遺物の時期については、12世紀前半の遺物もあり幅がある。

SB 37008 (第Ⅲ-29,30 図)



第Ⅲ-31 図 SB 37010 平面図・断面図 (1:100)



第三-32圖 SB 37013, 37014 平面圖・断面圖 (1:100)

桁行5間、梁行4間の総柱建物である。柱穴の一部は攪乱などにより確認できなかった。棟方向はN96°E、東西棟である。桁行は、東西端の柱穴芯々で11.0mである。柱間の芯々距離は2.05～2.2mであるが、一部2.6mと長くなる。また、梁行は、南北端の柱穴芯々で8.4m、各柱間の芯々距離は2.0～2.3mである。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.3～0.6m、短軸0.2～0.4m、検出面からの深さは0.2～0.7mである。柱穴29ヶ所のうち22ヶ所で、底部に根石を確認した。

柱穴の埋土から土師器羽釜、13世紀後半の山茶碗、山皿、石鍋、鉄製釘などが出土した。出土遺物の時期については、若干の幅がある。

SB 37010 (第三-31 図)

桁行2間、梁行2間の総柱建物である。棟方向はN78°E、東西棟である。桁行は、東西端の柱穴芯々で4.4m、各柱間の芯々距離は2.2mである。梁行は、南北端の柱穴芯々で3.9m、各柱間の芯々距離は北側1.8m、南側2.1mである。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈し、長軸0.3～0.7m、短軸0.2～0.5mである。検出面からの深さは0.2～0.3mである。柱穴9ヶ所のうち8ヶ所で、底部に根石を確認した。地盤が不安定な地点であったのであろうか。

柱穴の埋土から山皿、鉄製釘などが出土した。

SB 37013 (第三-32 図)

桁行3間、梁行3間の総柱建物である。棟方向はN83°E、東西棟である。桁行は、東西端の柱穴芯々で7.4m、各柱間の芯々距離は2.4～2.5mである。梁行は、南北端の柱穴芯々で6.4m、各柱間の芯々距離は2.0～2.2mである。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.3～0.6m、短軸0.2～0.4m、検出面からの深さは0.2～0.4mである。柱穴16ヶ所のうち6ヶ所の底部で根石を確認した。

柱穴の埋土から13世紀前半の山茶碗などが出土した。出土遺物の時期については、若干の幅がある。

SB 37014 (第三-32 図)

桁行3間、梁行3間の総柱建物である。北東隅お

よび南東隅の柱穴は確認することができなかった。棟方向はN7°W、南北棟である。桁行は、南北端の柱穴芯々で6.8m、各柱間の芯々距離は2.2～2.3mである。また、梁行は、東西端の柱穴芯々で6.6m、各柱間の芯々距離は2.15～2.3mである。SB 37013と重複している。

建物を構成する各柱穴の平面形は、円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.3～0.6m、短軸0.2～0.4m、検出面からの深さは0.1～0.4mである。

柱穴の埋土から12世紀後半の山皿などが出土した。

SB 37015 (第三-33 図)

桁行2間、梁行2間の総柱建物である。棟方向はN82°E、東西棟である。桁行は、東西端の柱穴芯々で4.8mである。各柱間の芯々距離は東から2.2m、2.6mである。梁行は、南北端の柱穴芯々で4.2m、各柱間の芯々距離は2.15m、2.05mである。柱列の柱通りは良くない。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.3～0.5m、短軸0.2～0.4m、検出面からの深さは0.3～0.4mである。

柱穴の埋土から中世の山茶碗小片などが出土した。

SB 37016 (第三-34 図)

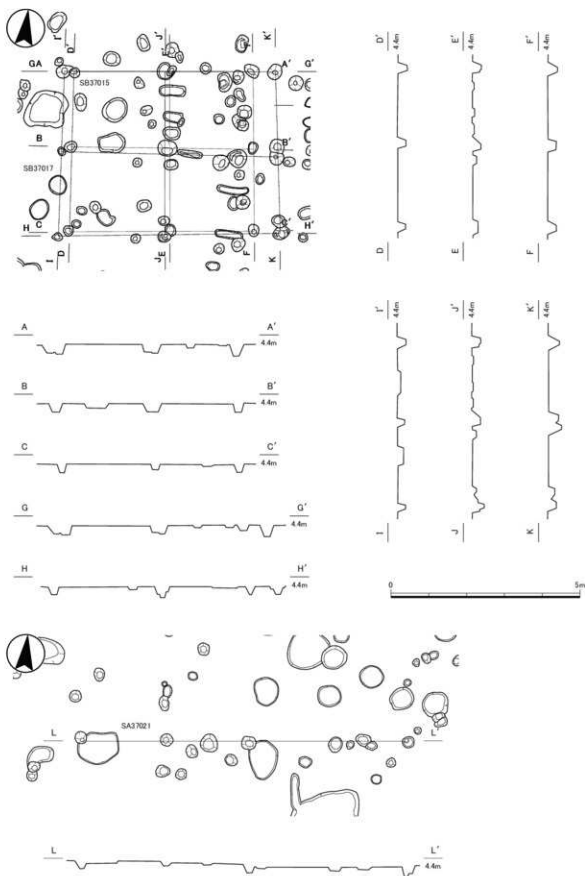
桁行2間、梁行2間の側柱建物である。棟方向はN88°E、東西棟である。桁行は、東西端の柱穴芯々で5.2m、各柱間の芯々距離は2.45m、2.75mである。梁行は、南北端の柱穴芯々で4.3m、各柱間の芯々距離は2.1m、2.2mである。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.3～0.6m、短軸0.2～0.4m、検出面からの深さは0.1～0.5mである。

柱穴の埋土から山茶碗や14世紀中頃前後の山皿などが出土した。出土遺物の時期については、12世紀初頭の遺物もあり幅がある。

SB 37017 (第三-33 図)

桁行2間、梁行2間の総柱建物である。棟方向はN81°E、東西棟である。桁行は、東西端の柱穴芯々で5.8m、各柱間の芯々距離は2.8m、3.0mである。梁行は、南北端の柱穴芯々で4.4m、各柱間の芯々



第三-33圖 SB 37015, 37017, SA 37021 平面圖・断面圖 (1:100)

距離は2.1m、2.3mである。柱間は不等間となっている。SB 37015と重複している。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.2～0.5m、短軸0.2～0.4m、検出面からの深さは0.2～0.4mである。

柱穴の埋土から中世の山茶碗などが出土した。

SA 37018 (第Ⅲ-34 図)

6ヶ所からなる5間の東西方向の柱列で、方向はN 84° Eである。全長は11.9m、各柱間の芯々距離

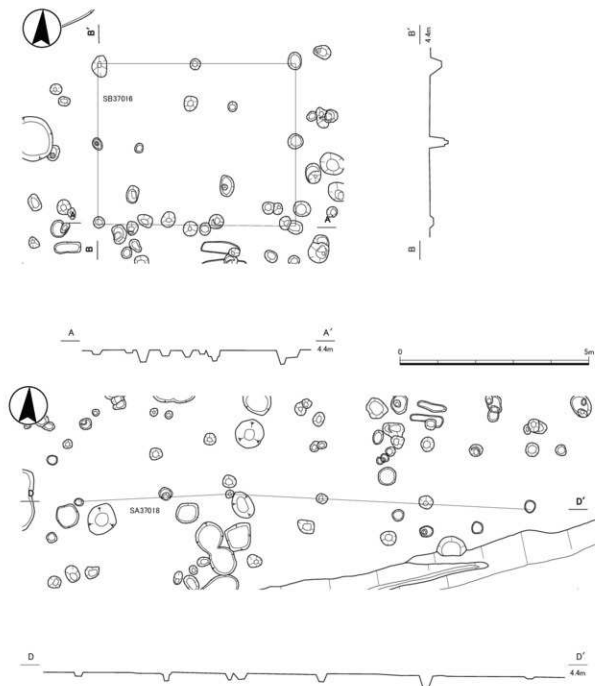
は1.8～2.8mと、不等間である。

柱列を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.2～0.3m、短軸0.2～0.3m、検出面からの深さは0.1～0.3mである。

柱穴の埋土から中世の土師器小片や山茶碗小片などが出土した。

SB 37019 (第Ⅲ-35 図)

桁行3間、梁行2間の総柱建物である。柱穴1ヶ所については確認できなかった。棟方向はN 5° W、

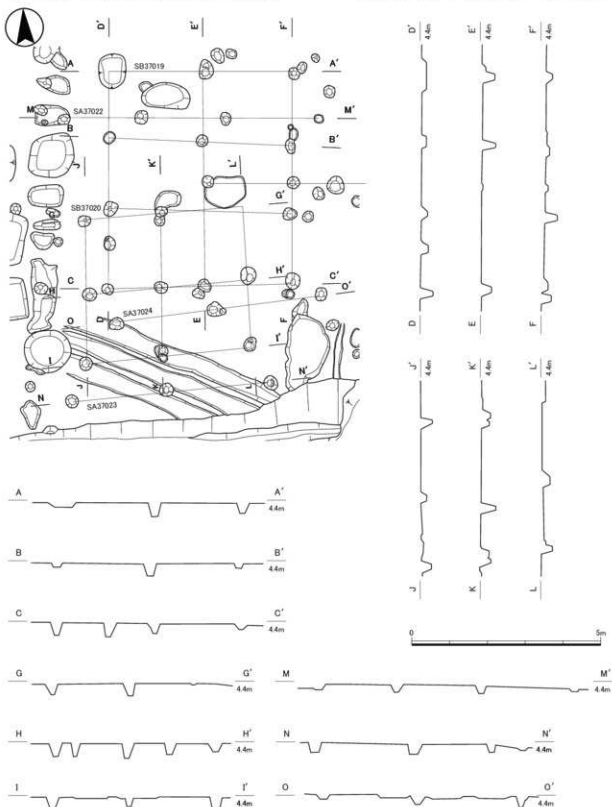


第Ⅲ-34 図 SB 37016, SA 37018 平面図・断面図 (1:100)

南北棟である。桁行は、南北端の柱穴芯々で5.7mである。各柱間の芯々距離は1.75～2.2mである。また、梁行は、東西端の柱穴芯々で4.8m、各柱穴の芯々距離は2.3m、2.5mである。建物の平面形は

台形を呈している。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.3～0.5m、短軸0.2～0.3m、検出面からの深さは0.1～0.4mである。



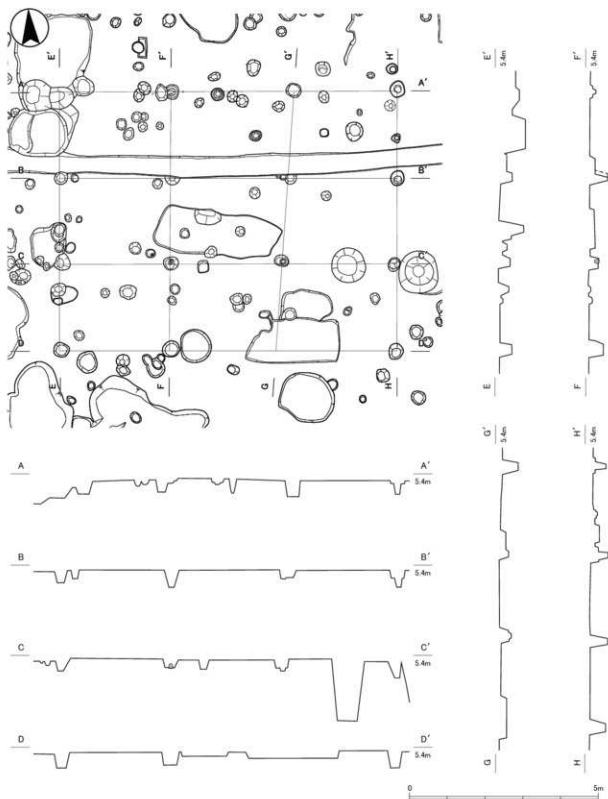
第三-35 図 SB 37019, 37020, SA 37022, 37023, 37024 平面図・断面図 (1:100)

柱穴の埋土から12世紀後半の山茶碗などが出土した。

SB 37020 (第Ⅲ-35 図)

桁行2間、梁行2間である。棟方向はN 97° E、

東西棟である。桁行は、東西端の柱穴芯々で4.4m、各柱間の芯々距離は2.05m、2.35mである。梁行は、南北端の柱穴芯々で3.8m、各柱間の芯々距離は1.8m、2.0mである。建物の平面形は歪んだ形と



第Ⅲ-36 図 SB 42013 平面図・断面図 (1:100)

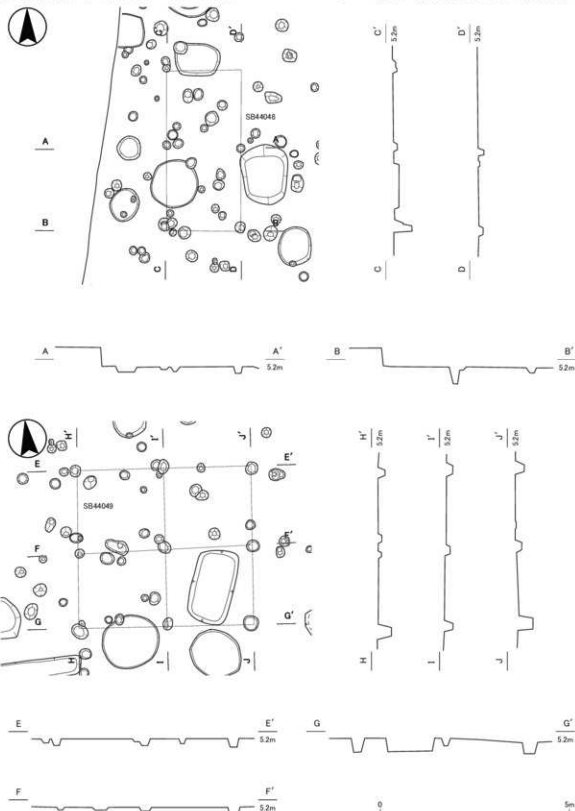
なっている。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸 0.3 ~ 0.4m、短軸 0.3 ~ 0.4m、検出面からの深さ 0.3 ~ 0.4m である。

柱穴の埋土から 13 世紀初頭の山茶碗などが出土した。

SA 37021 (第Ⅲ-33 図)

5つの柱穴から構成される4間の東西方向の柱列



第Ⅲ-37 図 SB 44048, 44049 平面図・断面図 (1:100)

で、方向はN 84° Eである。全長は8.6m、各柱間の
の芯々距離は1.9～2.3mである。

柱列を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕
円形を呈している。規模は長軸0.3～0.4m、短軸
0.3～0.4m、検出面からの深さは0.1～0.3mである。

柱穴の埋土から中世の土師器小片などが出土し
た。

SA 37022 (第三-35 図)

柱穴4ヶ所からなる3間の東西方向の柱列で、方
向はN 97° Eである。全長は6.7m、各柱間の芯々
距離は2.0～2.4mである。

柱列を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕
円形を呈している。規模は長軸0.2～0.4m、短軸0.2
～0.3m、検出面からの深さは0.1～0.2mである。

柱穴の埋土から中世の土師器小片などが出土し
た。

SA 37024 (第三-35 図)

柱穴3ヶ所から構成される2間の東西方向の柱列

で、方向はN 104° Eである。全長は5.5m、各柱間
の芯々距離は2.6m、2.9mである。

柱列を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕
円形を呈している。規模は長軸0.3～0.5m、短軸
0.3～0.4m、検出面からの深さは0.2～0.3mである。

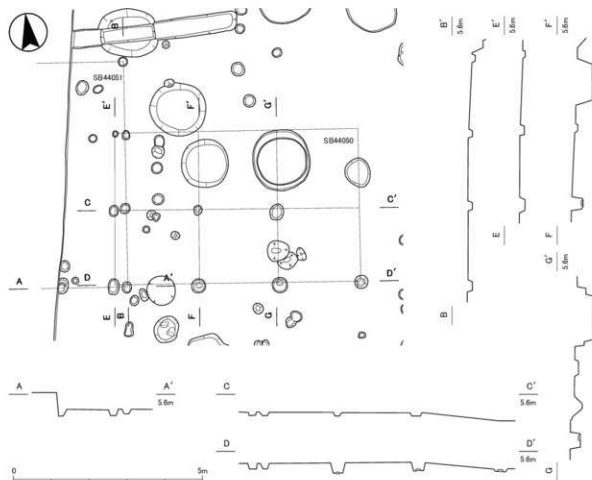
柱穴の埋土から中世の陶器小片などが出土した。

SB 42013 (第三-36 図)

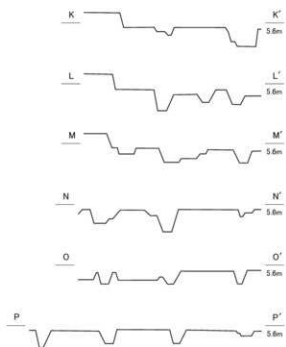
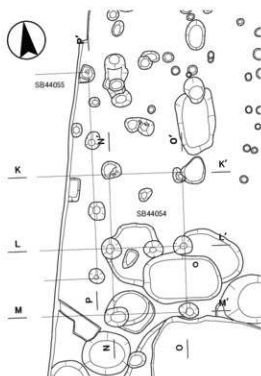
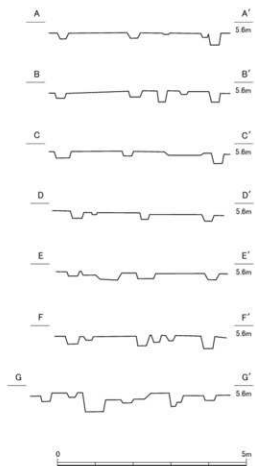
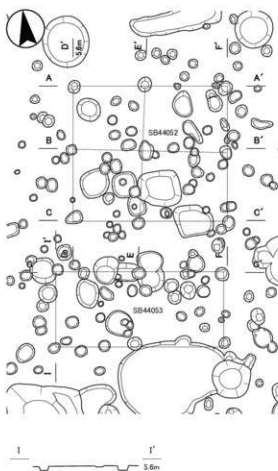
桁行3間、梁行3間の総柱建物である。一部の柱
穴は攪乱などにより確認することができなかった。
棟方向はN 95° E、東西棟である。桁行は、東西
端の柱穴芯々で8.9m、各柱間の芯々距離は2.7～
3.25mである。梁行は、南北端の柱穴芯々で6.85m、
各柱間の芯々距離は2.25～2.35mである。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕
円形を呈している。規模は長軸0.3～0.5m、短軸0.3
～0.4m、検出面からの深さは0.2～0.5mである。

柱穴の埋土から中世の山茶碗小片などが出土し
た。



第三-38 図 SB 44050, 44051 平面図・断面図 (1:100)



第三-39圖 SB 44052, 44053, 44054, 44055 平面圖・断面圖(1:100)

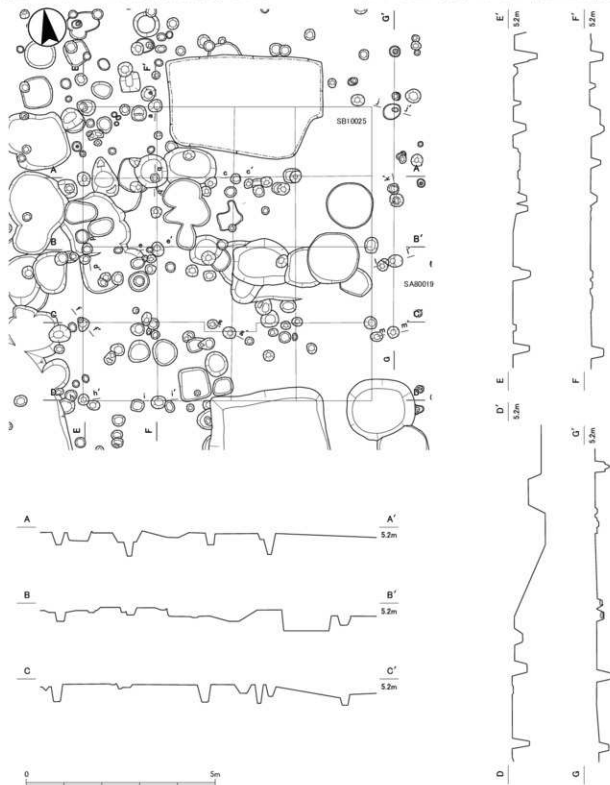
SB 44048 (第Ⅲ-37 図)

桁行 2 間、梁行 1 間の建物で、棟方向は $N1^{\circ}E$ 、南北棟である。調査区外に延びる可能性がある。桁行は、南北端の柱穴芯々で 4.2m、各柱間の芯々距離は 2.05m、2.15m である。梁行は、東西端の柱穴芯々

で 2.0m である。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸 0.2 ~ 0.3m、短軸 0.2 ~ 0.3m、検出面からの深さは 0.1 ~ 0.5m である。

柱穴の埋土から小片ではあるが中世の土師器小片



第Ⅲ-40 図 SA 80019、SB 10025 平面図・断面図 (1:100)

などが出土した。

SB 44049 (第Ⅲ-37 図)

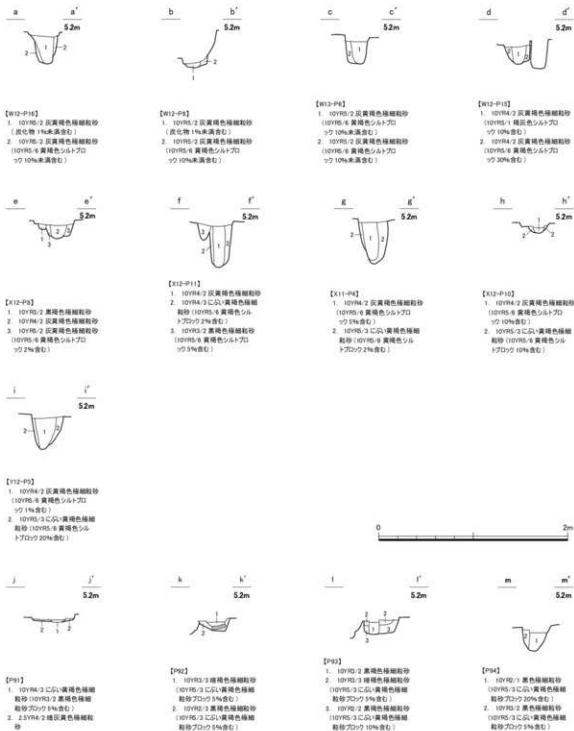
桁行2間、梁行2間の総柱建物である。棟方向はN 96° E、東西棟である。桁行は、東西端の柱穴芯々で4.6m、各柱間の芯々距離は2.3mである。梁行は、南北端の柱穴芯々で4.2m、各柱間の芯々距離は2.0m、2.2mである。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.2～0.4m、短軸0.2～0.4m、検出面からの深さは0.1～0.4mである。

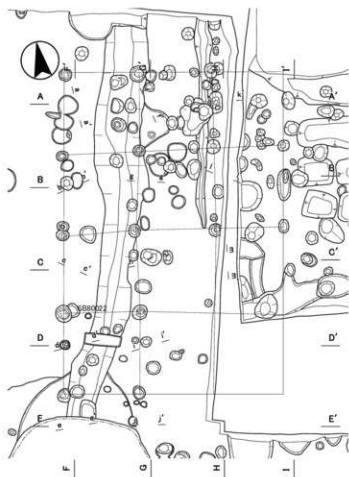
柱穴の埋土から中世の土師器小片などが出土した。

SB 44050 (第Ⅲ-38 図)

桁行3間、梁行2間の総柱建物である。柱穴の一



第Ⅲ-41 図 SA 80019、SB 10025 柱穴土層断面図 (1:40)



第三-43圖 SB 80022平面圖・断面圖(1:100)



部は攪乱などにより確認することができなかった。棟方向はN 98° E、東西棟である。桁行は、東西端の柱穴芯々で6.5m、各柱間の芯々距離は2.1～2.2mである。梁行は、南北端の柱穴芯々で4.0m、各柱間の芯々距離は2.0mである。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.2～0.3m、短軸0.2～0.3m、検出面からの深さは0.1～0.3mである。柱穴8ヶ所のうち3ヶ所の底部で根石を確認した。



- 【P111】
1. 10YR4/3 に灰・黄褐色細粒砂 (10YR5/3 に灰・黄褐色細粒砂 20%含む)
2. 10YR3/3 暗褐色細粒砂 (10YR5/3 に灰・黄褐色細粒砂 20%含む)
3. 10YR3/4 暗褐色細粒砂



- 【P112】
1. 10YR3/4 暗褐色細粒砂
2. 10YR4/3 に灰・黄褐色細粒砂 (10YR5/3 に灰・黄褐色細粒砂 30%含む)
3. 10YR4/4 暗褐色細粒砂 (10YR3/4 暗褐色細粒砂 30%含む)



- 【P113】
1. 10YR3/3 暗褐色細粒砂 (10YR5/3 に灰・黄褐色細粒砂 10%含む)
2. 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂



- 【P114】
1. 7.5YR3/2 黄褐色細粒砂 (10YR5/3 に灰・黄褐色細粒砂 10%含む)



- 【P115】
1. 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂
2. 2.5Y/1 黄褐色細粒砂
3. 2.5Y/2 灰黄褐色細粒砂



- 【P116】
1. 7.5YR4/3 暗褐色細粒砂
2. 7.5YR 灰黄褐色細粒砂



- 【P117】
1. 10YR3/2 灰黄褐色細粒砂 (10YR5/3 に灰・黄褐色細粒砂 10%含む)
2. 10YR4/3 に灰・黄褐色細粒砂 (10YR5/3 に灰・黄褐色細粒砂 5%含む)



- 【P118】
1. 10YR3/2 黄褐色細粒砂 (10YR5/3 に灰・黄褐色細粒砂 5%含む)
2. 10YR3/3 暗褐色細粒砂 (10YR5/3 に灰・黄褐色細粒砂 2%含む)
3. 10YR2/2 黄褐色細粒砂 (10YR5/3 に灰・黄褐色細粒砂 5%含む)



- 【P119】
1. 10YR3/2 黄褐色細粒砂 (10YR5/3 に灰・黄褐色細粒砂 10%、灰化層含む)
2. 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 (10YR5/3 に灰・黄褐色細粒砂 5%含む)
3. 10YR3/1 黄褐色細粒砂



- 【P120】
1. 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 (10YR5/3 に灰・黄褐色細粒砂 2%含む)
2. 10YR3/3 暗褐色細粒砂



- 【P121】
1. 7.5YR3/2 黄褐色細粒砂 (10YR5/3 に灰・黄褐色細粒砂 5%含む)
2. 10YR3/3 暗褐色細粒砂 (10YR5/3 に灰・黄褐色細粒砂 10%含む)



- 【P122】
1. 7.5YR3/2 黄褐色細粒砂 (10YR5/3 に灰・黄褐色細粒砂 5%含む)
2. 10YR4/3 に灰・黄褐色細粒砂 (10YR5/3 に灰・黄褐色細粒砂 20%含む)
3. 10YR3/3 暗褐色細粒砂 (10YR5/3 に灰・黄褐色細粒砂 5%含む)



- 【P123】
1. 10YR3/3 暗褐色細粒砂 (10YR5/3 に灰・黄褐色細粒砂 10%含む)
2. 10YR5/3 に灰・黄褐色細粒砂 (10YR5/3 に灰・黄褐色細粒砂 10%含む)



第Ⅲ-44 図 S B 80022 柱穴土層断面図 (1:40)

柱穴の埋土から遺物の出土は確認できなかった。

S B 44051 (第Ⅲ-38 図)

桁行 3 間、梁行 1 間以上の建物で、調査区外に延びる。棟方向はN 6° E、南北棟である。桁行は、南北端の柱穴芯々で6.0m、各柱間の芯々距離は1.9～2.0mである。梁行は、東西端の柱穴芯々で1.8m以上である。S B 44050 と重複している。

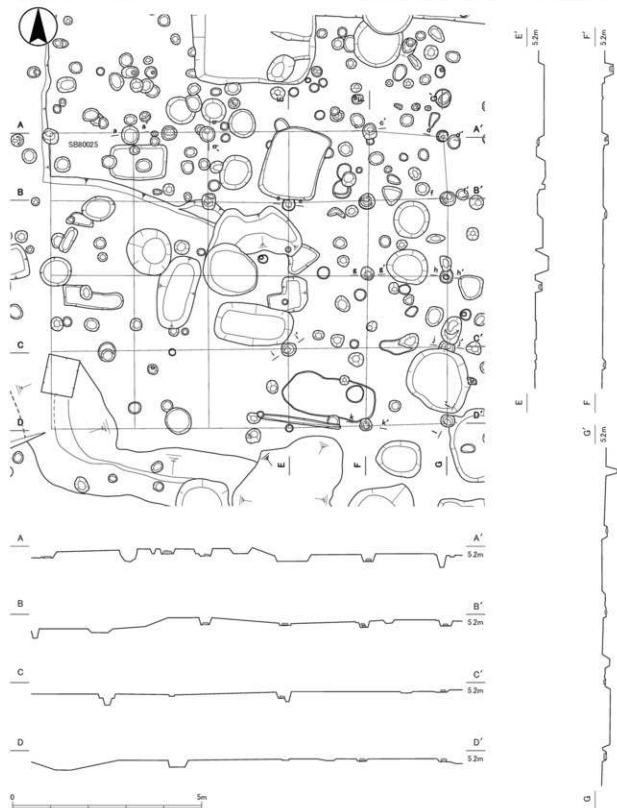
建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.2～0.4m、短軸0.2

～0.3m、検出面からの深さは0.1～0.2mである。

柱穴の埋土から中世の山茶碗小片などが出土した。

SB 44052 (第Ⅲ-39 図)

桁行2間、梁行2間の総柱建物である。棟方向はN 102° E、東西棟である。桁行は、南北端の柱穴芯々で4.1m、各柱間の芯々距離は1.8m、2.3mである。梁行は、東西端の柱穴芯々で3.6m、各柱間の芯々



第Ⅲ-45 図 SB 80025 平面図・断面図 (1:100)

距離は1.65～1.9mである。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.3～0.5m、短軸0.2～0.3m、検出面からの深さは0.2～0.3mである。

柱穴の埋土から中世の陶器小片などが出土した。

SB 44053 (第三-39 図)

桁行2間、梁行1間の建物で、SB 44052の南側に位置している。棟方向はN 102° E、東西棟である。桁行は、東西端の柱穴芯々で4.4m、各柱間の芯々距離は2.1m、2.3mである。梁行は、南北端の柱穴芯々で2.0mである。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.3m、短軸0.2～0.3m、検出面からの深さは0.1～0.3mである。

柱穴の埋土から遺物の出土は確認できなかった。

SB 44054 (第三-39 図)

桁行2間、梁行1間以上の建物である。調査区外に延びる可能性がある。棟方向はN 8° E、南北棟

である。桁行は、南北端の柱穴芯々で3.7m、各柱間の芯々距離は1.8m、1.9mである。梁行は、東西端の柱穴芯々で1.7m以上である。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.4～0.6m、短軸0.3～0.5m、検出面からの深さは0.3～0.6mである。

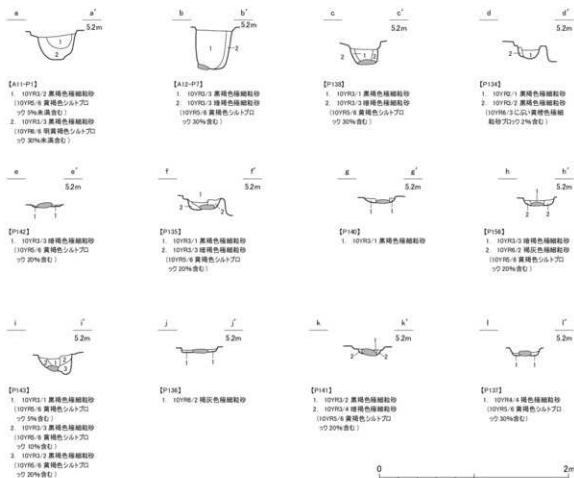
柱穴の埋土から中世の土師器皿や鍋などが出土した。

SB 44055 (第三-39 図)

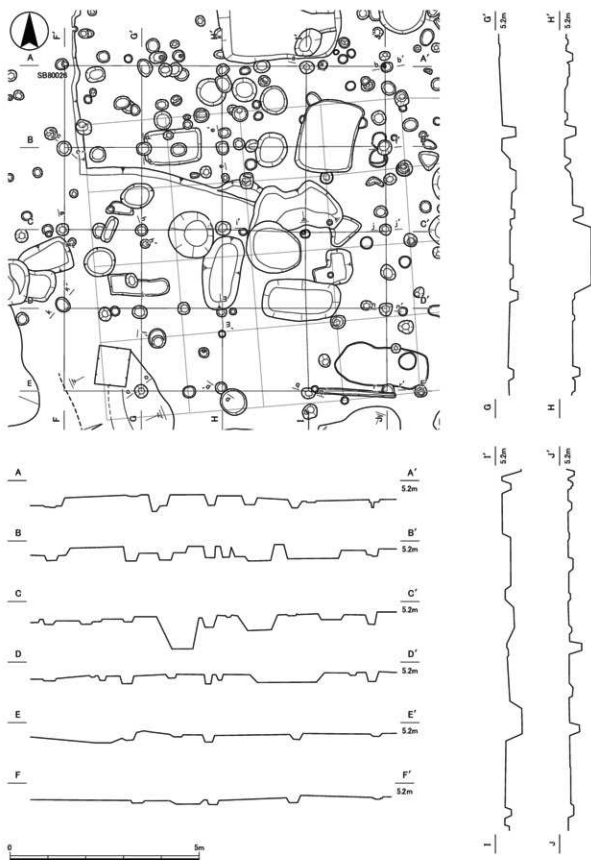
柱穴4ヶ所からなる3間の南北方向の柱列であるが、調査区外に延びる建物とした。方向はN 7° Eである。南北端の柱穴芯々で5.4m、各柱間の芯々距離は1.7～1.9mである。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.4～0.5m、短軸0.3～0.4m、検出面からの深さは0.1～0.5mである。

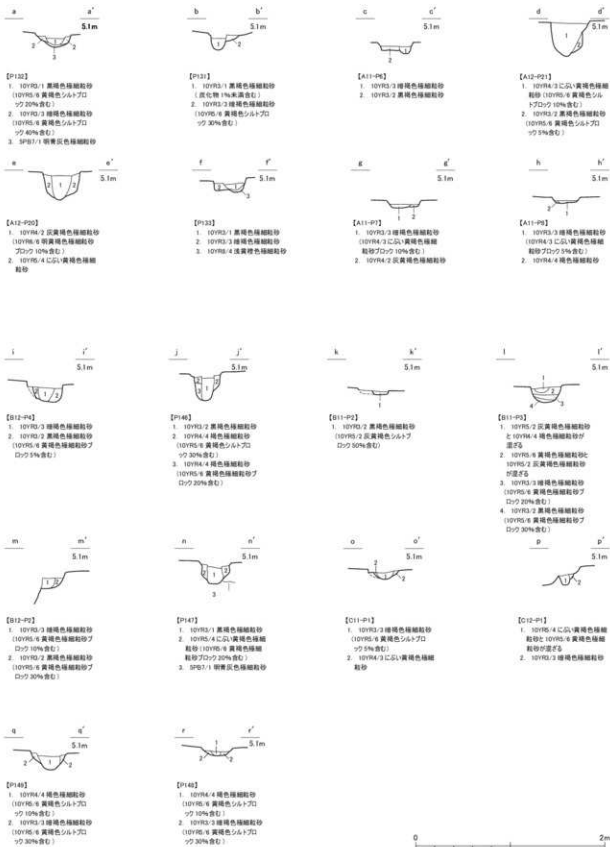
柱穴の埋土から遺物の出土は確認できなかった。



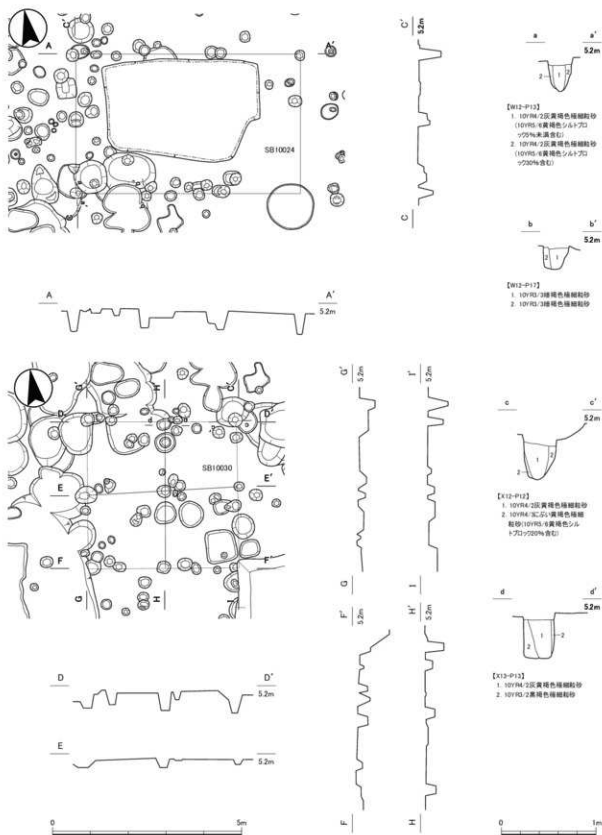
第三-46 図 SB 80025 柱穴土層断面図 (1:40)



第三-47圖 SB 80026 平面圖・断面圖(1:100)



第三 -48 図 SB 80026 柱六土層断面図 (1:40)



第三 -49 図 SB 10024, 10030 平面図・断面図、柱穴土層断面図 (1:100、1:40)

SA 80019 (第Ⅲ-40 図)

柱穴5ヶ所からなる4間の南北方向の柱列で、方向はN8°Eである。南北端の柱穴芯々で7.45m、各柱間の芯々距離は1.55～2.1mで不等間である。

柱列を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.3m、短軸0.2～0.3m、検出面からの深さは0.1～0.4mである。柱穴1ヶ所で底部に根石を確認した。柱穴4ヶ所で断割を行い、柱痕跡などを確認することができた。

柱穴の埋土から中世の陶器甕などが出土した。

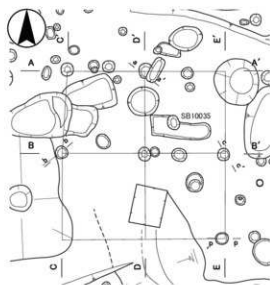
SB 80021 (第Ⅲ-42 図)

桁行3間、梁行2間の総柱建物である。南東隅の柱穴は攪乱などにより確認することができなかった。

た。棟方向はN4°E、南北棟である。桁行は、南北端の柱穴芯々で6.5m、各柱間の芯々距離は2.1～2.25mである。梁行は、東西端の柱穴芯々で4.85m、各柱間の芯々距離は2.3～2.7mである。全体的に柱通りが歪んでいる。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.2～0.5m、短軸0.2～0.4m、検出面からの深さは0.1～0.3mである。柱穴10ヶ所で断割を行い、柱痕跡などを確認することができた。柱痕跡の径は0.1m以下のものが多い。P101の柱痕跡から、ほぼ完形の山皿が出土しており、何らかの意図が感じられる。

柱穴の埋土から12世紀後半の山皿などが出土し

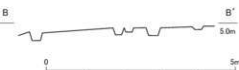
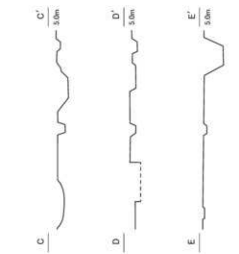


【A11-P9】

1. 10YR2/3黄褐色極細粒砂
(10YR4/3Cに黄褐色シル
トブロン20%含む)
2. 10YR2/3黄褐色極細粒砂
(10YR4/3Cに黄褐色シル
トブロン25%含む)

【B11-P5】

1. 10YR2/3黄褐色極細粒砂
(10YR5/4黄褐色シルトブ
ロン10%含む)
2. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂
210YR5/4黄褐色極細粒砂
が混ざる



【B12-P2】

1. 10YR2/3黄褐色極細粒砂
(10YR5/4黄褐色極細粒砂
ブロン10%含む)
2. 10YR5/3Cに黄褐色極細
粒砂(10YR5/4黄褐色極細
粒砂ブロン20%含む)

【C12-P2】

1. 10YR2/3黄褐色極細粒砂
(10YR5/4黄褐色極細粒砂
ブロン10%含む)
2. 10YR3/3黄褐色極細粒砂



第Ⅲ-50 図 SB 10035 平面図・断面図、柱穴土層断面図 (1:100、1:40)

た。

SB 80022 (第Ⅲ-43 図)

桁行 4 間、梁行 3 間である。南東隅の柱穴は攪乱などにより確認できなかった。棟方向は N 7° E、南北棟である。桁行は、南北端の柱穴芯々で 8.5m、各柱間の芯々距離は 2.0 ~ 2.2m である。梁行は、東西端の柱穴芯々で 5.8m、各柱間の芯々距離は 1.75 ~ 2.0m である。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸 0.3 ~ 0.4m、短軸 0.3 ~ 0.4m、検出面からの深さは 0.2 ~ 0.4m である。柱穴 15ヶ所のうち、13ヶ所で底部に根石を確認した。P114 では長辺 0.2m、短辺 0.15m、厚さ 0.2m の石が根石として使われている。

柱穴の埋土から中世の山皿などが出土した。

SB 80025 (第Ⅲ-45, 46 図)

桁行 5 間、梁行 4 間の総柱建物である。棟方向は N 94° E、東西棟である。建物西側の柱穴の多くは攪乱などにより確認できなかった。桁行は、東西端の柱穴芯々で 10.6m、各柱間の芯々距離は 1.95 ~ 2.2m である。梁行は、南北端の柱穴芯々で 7.7m、各柱間の芯々距離は 1.7 ~ 2.1m である。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸 0.3 ~ 0.4m、短軸 0.3 ~ 0.4m、検出面からの深さは 0.05 ~ 0.2m である。柱穴 16ヶ所のうち、11ヶ所の底部で根石を確認した。根石の使用石材は、砂岩、泥岩、花崗岩である⁽¹⁾。また、柱穴 12ヶ所で断割を行い、柱痕跡などを確認することができた。

柱穴の埋土からは 13 世紀前半の山皿などが出土した。

SB 80026 (第Ⅲ-47, 48 図)

桁行 4 間、梁行 4 間の総柱建物である。一部の柱穴は攪乱などにより確認することができなかった。棟方向は N 8° E、南北棟である。桁行は、南北端の柱穴芯々で 8.6m、各柱間の芯々距離は 2.05 ~ 2.2m である。梁行は、東西端の柱穴芯々で 8.5m、各柱間の芯々距離は 2.05 ~ 2.3m である。SB 80025 と重複している。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸 0.3 ~ 0.5m、短軸 0.2

~ 0.5m、検出面からの深さは 0.1 ~ 0.4m である。柱穴 20ヶ所で断割を行い、一部で柱痕跡などを確認した。B11-P3 では、硬くしまった埋土を確認した。

柱穴の埋土から中世の土師器鍋小片などが出土した。

SB 10024 (第Ⅲ-49 図)

桁行 3 間、梁行 2 間の建物である。攪乱により総柱建物なのか否かを確認することができなかった。棟方向は N 98° E、東西棟である。桁行は、東西端の柱穴芯々で 5.9m、各柱間の芯々距離は 1.85 ~ 2.1m である。梁行は、南北端の柱穴芯々で 3.7m、各柱間の芯々距離は 1.85m である。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸 0.3 ~ 0.5m、短軸 0.2 ~ 0.4m、検出面からの深さは 0.3 ~ 0.6m である。柱穴 2ヶ所で断割を行い、柱痕跡などを確認した。

柱穴の埋土から 15 世紀後半の土師器皿、山茶碗、陶器壺などが出土した。出土遺物の時期としては、13 世紀前半のものもあり、幅がある。

SB 10025 (第Ⅲ-40 図)

桁行 4 間、梁行 4 間の総柱建物である。建物東側の柱穴については攪乱などにより確認することができなかった。棟方向は N 9° E、南北棟である。桁行は、南北端の柱穴芯々で 7.8m、各柱間の芯々距離は 2.0 ~ 2.3m である。梁行は、東西端の柱穴芯々で 7.7m、柱間の芯々距離は 1.9 ~ 2.1m、一部短い 1.7m の柱間もある。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸 0.3 ~ 0.4m、短軸 0.2 ~ 0.3m、検出面からの深さは 0.2 ~ 0.7m である。

柱穴の埋土から土師器皿、18 世紀初頭前後の土師器鍋、土師器器台などが出土した。出土遺物の時期は、古墳時代前期と考えられるものもあり幅がある。

SB 10030 (第Ⅲ-49 図)

桁行 2 間、梁行 2 間の総柱建物である。関連する柱穴を全て確認することができた。棟方向は N 98° E、東西棟である。桁行は、東西端の柱穴芯々で 4.0m、柱間の芯々距離は東から 1.95m、2.05m である。梁行は、南北端の柱穴芯々で 3.9m、柱間の芯々距離は南から 1.95m、1.95m である。

報告番号	調査時番号	調査次数	グリッド	ビット番号	桁+面 間	桁行 m	梁行 n	面積 m ²	主軸方位	建物タイプ	備考
S820011	S820011	2	L-F10	P112	4x3	8.50	6.40	54.40	N94° E	縦柱 東西棟	
			L-F10	P118							
			L-F10	P1114							
			L-F11	P111							
			L-F11	P112							
			L-F11	P113							
			L-G10	P111							
			L-G10	P117							
			L-G10	P1116							
			L-G11	P111							
			L-G11	P116							
			L-G11	P1111							
			L-G11	P1112							
S820030	S820030	2	L-G12	P116	6x5	12.90	10.7	138.03	N99° E	縦柱 東西棟	
			L-E10	P112							
			L-E11	P116							
			L-E12	P113							
			L-E12	P114							
			L-E13	P1114							
			L-F10	P1110							
			L-F10	P1112							
			L-F10	P1113							
			L-F11	P117							
			L-F11	P1110							
			L-F12	P115							
			L-F13	P112							
			L-G9	P115							
			L-G10	P113							
			L-G10	P114							
			L-G10	P115							
			L-G10	P1115							
			L-G12	P117							
			L-G12	P118							
S820039	S820039	2	L-G12	P119	4x3	7.20	6.25	45.00	N6° E	縦柱 南北棟	
			L-F10	P113							
			L-F10	P119							
			L-F10	P1115							
			L-F10	P1116							
			L-F10	P1117							
			L-F10	P1118							
			L-F11	P115							
			L-F11	P116							
			L-G10	P1117							
SA20040	SA20040	2	L-G11	P115							
			L-G11	P118							
SA20041	SA20041	2	L-G10	P112	3	6.30	—	—	N00° E	東西柱列	
			L-G11	P1110							
S820043	SA20043	2	L-H10	P111	2x1	3.40	1.80	6.12	N0° E	側柱 南北棟	
SA20044	SA20044	2	L-E14	P1123	7	14.40	—	—	N0° E	南北柱列	
			L-G13	P117							

第三 - 1 表 掘立柱建物詳細情報 1

報告番号	調査時番号	調査次数	グリッド	ピット番号	桁+梁 間	桁行 m	梁行 m	面積 m ²	主軸方位	建物タイプ	備考
SA20045	SA20045	2	L-H12	P115	4	8.40	—	—	N88° E	東西柱列	
SB32007	SB32007	3	L-P9	P111	2×1	3.70	2.90	10.73	N7° E	側柱 南北棟	
SA32008	SA32008	3	L-R12	P111	3	6.80	—	—	N12° E	南北柱列	
SB32009	SB32009	3	L-Q12	P113	2×1	3.60	2.20	7.92	N3° E	側柱 南北棟	
SB32010	SB32010	3	L-R11	P111	1×1+	2.30+	2.30+	5.29+	N1° E	—	
			L-R11	P113							
			L-S11	P113							
SB33014	SB33014	3	L-M9	P112	3×2	6.50	4.10	26.65	N96° E	端柱 東西棟	
			L-M9	P113							
			L-M10	P112							
			L-M10	P116							
			L-M10	P118							
			L-M10	P119							
SB42011	SB42011	4	L-Q10	P112	3×2	5.90	4.20	24.78	N6° E	側柱 南北棟	
			L-M8	P114							
			L-M9	P111							
			L-M9	P114							
			L-M8	P116							
SB43016	SB43016	3	L-M10	P118	5×3	8.70	5.40	46.98	N4° E	端柱 南北棟	
			L-M11	P114							
			L-M11	P1110							
			L-M10	P115							
			L-M11	P111							
			L-M11	P114							
			L-M11	P115							
			L-M12	P112							
	SB42010	4	L-Q11	P111							
			L-Q11	P112							
	SB42010	4	L-Q11	P113							
			L-Q11	P117							
			L-Q12	P112							
SB33017	SB33017	3	L-M10	P116	2×1	4.00	1.90	7.60	N5° E	側柱 南北棟	
SB33021	SB33021	3	L-M11	P1110	2×2	3.90	3.70	14.43	N4° E	端柱 南北棟	
			L-M12	P115							
SA33022	SA33022	3	L-M12	P111	2	3.70	—	—	N0°	南北柱列	
			L-M12	P114							
			L-M12	P114							
SA33023	SA33023	3	L-M11	P111	2	3.60	—	—	N60° E	東西柱列	
SB34007	SB34007	3	L-A16	P115	4×2	7.90	4.00	31.60	N94° E	端柱 東西棟	
			L-A17	P111							
			L-A17	P117							
			L-A17	P118							
			L-A17	P1111							
			L-A18	P115							
			L-A18	P1113							
			L-B16	P111							
			L-B16	P113							
			L-B17	P111							
			L-B17	P1113							
	SB80023	8	—	P11126							
			—	P11127							
			—	P11128							
			—	P11128							
SA34011	SA34011	3	L-Q17	P118	3	5.10	—	—	N6° E	南北柱列	

第三 - 2 表 掘立柱建物詳細情報 2

報告番号	調査時番号	調査次数	グリッド	ビット番号	桁+面 間	桁行 m	梁行 n	面間 ml	主軸方位	建物タイプ	備考
S837001	S837001	3	J-013	P115	3x2	6.50	4.00	26.00	N81° E	雑柱 東西棟	
			J-014	P111							
			J-014	P112							
			J-014	P113							
			J-014	P115							
			J-015	P111							
			J-015	P112							
			J-P13	P111							
			J-P14	P112							
			J-P15	P111							
S837008	S837008	3	J-L18	P111	5x4	11.00	8.40	92.40	N96° E	雑柱 東西棟	根石
			J-L18	P112							
			J-L19	P115							
			J-L19	P1111							
			J-M17	P111							
			J-M17	P112							
			J-M17	P113							
			J-M17	P114							
			J-M18	P112							
			J-M18	P113							
			J-M18	P117							
			J-M19	P117							
			J-M19	P118							
			J-M20	P111							
			J-M20	P112							
			J-M20	P115							
			J-M17	P112							
			J-M17	P114							
			J-M17	P115							
			J-M17	P116							
			J-M18	P111							
			J-M18	P113							
			J-M18	P114							
			J-M18	P117							
			J-M19	P111							
			J-M20	P115							
			J-M20	P116							
			J-O17	P111							
			J-O17	P115							
			J-O18	P111							
			J-O18	P112							
			J-O19	P111							
S837010	S837010	3	J-F21	P111	2x2	4.40	3.90	17.16	N78° E	雑柱 東西棟	根石
			J-F22	P111							
			J-G21	P112							
			J-G21	P114							
			J-G21	P1110							
			J-G21	P1111							
			J-G22	P112							
			J-G22	P114							
S837013	S837013	3	J-G20	P112	3x3	7.40	6.40	46.99	N83° E	雑柱 東西棟	
			J-G21	P115							
			J-M19	P111							

第Ⅲ - 3 表 掘立柱建物詳細情報 3

報告番号	調査時番号	調査次数	グリッド	ピット番号	桁+梁 間	桁行 m	梁行 m	面積 m ²	主軸方位	建物タイプ	備考
SB37013	SB37013	3	J-H19	P118	3×3	7.40	6.35	46.99	N43° E	総柱 東西棟	
			J-H19	P111							
			J-H19	P115							
			J-H20	P114							
			J-H20	P118							
			J-H21	P112							
			L-H21	P116							
			J-119	P114							
			J-120	P114							
			J-120	P115							
SB37014	SB37014	3	J-120	P116	3×3	6.80	6.60	44.88	N7° W	総柱 南北棟	
			J-120	P118							
			J-121	P113							
			J-121	P115							
			J-120	P111							
			J-120	P117							
			J-120	P118							
			J-120	P119							
			J-H19	P114							
			J-H20	P115							
SB37015	SB37015	3	J-H20	P117	2×2	4.80	4.20	19.95	N62° E	総柱 東西棟	
			J-H20	P111							
			J-H19	P112							
			J-H19	P112							
			J-H19	P112							
SB37016	SB37016	3	J-G19	P111	2×2	5.20	4.30	22.36	N68° E	側柱 東西棟	
			J-G19	P112							
			J-G20	P111							
			J-G21	P116							
			J-H19	P116							
SB37017	SB37017	3	J-H18	P111	2×2	5.80	4.40	25.52	N61° E	総柱 東西棟か	
			J-H19	P119							
			J-H20	P110							
			J-119	P112							
SA37018	SA37018	3	J-118	P111	5	11.90	—	—	N64° E	東西柱列	
			J-119	P111							
			J-120	P111							
SB37019	SB37019	3	J-115	P111	3×2	5.70	4.80	27.36	N5° W	総柱 南北棟	
			J-115	P112							
			J-115	P113							
			J-116	P111							
			J-116	P114							
			J-115	P113							
SB37020	SB37020	3	J-K15	P114	2×2	4.40	3.80	16.72	N97° E	総柱 東西棟	
			J-115	P111							
			J-115	P112							
			J-115	P113							

第三 - 4 表 掘立柱建物詳細情報 4

報告番号	調査時番号	調査次数	グリッド	ビット番号	桁+間 隔	桁行 m	桁列 m	面積 m ²	主軸方位	建物タイプ	備考
SB37020	SB37020	3	J-K15	P113	2x2	4.40	3.80	16.72	N97° E	竪柱 東西棟	
			J-K15	P115							
SA37021	SA37021	3	J-J17	P111	4	8.60	—	—	N84° E	東西柱列	
			J-J18	P112							
SA37022	SA37022	3	J-I15	P114	3	6.70	—	—	N97° E	東西柱列	
			J-I16	P112							
			J-I16	P114							
			J-J16	P112							
SA37023	SA37023	3	—	—	2	5.20	—	—	N102° E	東西柱列	遺物の出土はなし。
SA37024	SA37024	3	J-K15	P112	2	5.50	—	—	N104° E	東西柱列	
			J-K15	P115							
SB42013	—	3	L-P9	P112	3x3	8.90	6.85	60.97	N95° E	竪柱 東西棟	
			L-P9	P113							
			L-P11	P111							
			L-Q9	P116							
	SB42013	4	L-Q10	P111							
			L-Q10	P117							
			L-Q10	P119							
			L-Q10	P112							
			L-Q11	P112							
			L-Q11	P114							
			L-P9	P111							
			L-P9	P114							
			L-P10	P112							
			L-P11	P111							
SB44048	SB44048	4	J-W3	P112	2x1	4.20	2.00	8.40	N1° E	側柱 南北棟	
			J-W4	P117							
SB44049	SB44049	4	J-S4	P111	2x2	4.60	4.20	19.32	N94° E	竪柱 東西棟	
			J-S5	P113							
SB44050	SB44050	4	—	—	3x2	6.50	4.00	25.00	N98° E	竪柱 東西棟	礎石
SB44051	SB44051	4	J-Y3	P111	3x1+	6.00	1.8+	10.80+	N6° E	— 南北棟	
			L-Q4	P112							
SB44052	SB44052	4	L-E4	P118	2x2	4.1	3.6	14.76	N102° E	竪柱 東西棟	
			L-E4	P111							
SB44053	SB44053	4	—	—	2x1	4.40	2.00	8.80	N102° E	側柱 東西棟	
SB44054	SB44054	4	L-E2	P112	2x1+	3.70	1.70+	6.29+	N8° E	竪柱 南北棟	
			L-E2	P113							
			L-E2	P114							
			L-E2	P115							
SB44055	SB44055	4	—	—	3x0+	5.40	1.00+	2.70+	N7° E	— —	建物になる可能性
SB80019	SB80019	8	—	P1190	4	7.45	—	—	N8° E	南北柱列	
			—	P1191							
			—	P1192							
			—	P1193							
			—	P1194							
SB80021	SB80021	8	—	P1199	3x2	6.50	4.85	31.53	N4° E	竪柱 南北棟	
			—	P1100							
			—	P1101							
			—	P1102							
			—	P1104							
			—	P1105							
			—	P1106							
			—	P1107							
			—	P1108							

第三 - 5 表 掘立柱建物詳細情報5

報告番号	調査時番号	調査次数	グリッド	ピット番号	桁+梁 間	桁行 m	梁行 m	面積 m ²	主軸方位	建物タイプ	備考
SB00021	SB00021	8	—	Pt109	3×2	6.50	4.90	31.85	N4° E	総柱 南北棟	
			—	Pt110							
SB00022	—	5	J-W17	Pt14	4×3	8.50	5.80	49.30	N7° E	総柱 南北棟	板石
			J-W17	Pt13							
			—	Pt111							
			—	Pt112							
			—	Pt113							
			—	Pt114							
			—	Pt115							
			—	Pt116							
			—	Pt117							
			—	Pt118							
			—	Pt119							
			—	Pt120							
			—	Pt121							
			—	Pt122							
SB00025	SB00025	8	—	Pt123	5×4	10.60	7.70	81.62	N9° E	総柱 東西棟	
			—	Pt134							
			—	Pt135							
			—	Pt136							
			—	Pt137							
			—	Pt138							
			—	Pt139							
			—	Pt140							
			—	Pt141							
			—	Pt142							
			—	Pt143							
			—	Pt156							
	SB10044	10	L-A11	Pt1							
			L-A12	Pt17							
			L-A12	Pt17							
			L-A12	Pt19							
SB00026	SB00026	8	—	Pt131	4×4	8.6	8.5	73.1	N8° E	総柱 南北棟	
			—	Pt132							
			—	Pt133							
		8	—	Pt146							
			—	Pt147							
			—	Pt148							
	SB10036	10	J-Y11	Pt16							
			J-Y12	Pt15							
			L-A11	Pt16							
		10	L-A11	Pt17							
			L-A11	Pt18							
			L-A12	Pt15							
		10	L-A12	Pt120							
			L-A12	Pt121							
		10	L-B11	Pt12							
			L-B11	Pt13							
			L-B12	Pt12							
		10	L-B12	Pt14							
			L-C11	Pt11							
			L-C12	Pt11							
SB10024	—	8	—	Pt143	3×2	5.90	3.70	21.83	N9° E	総柱？ 東西棟	
	SB10024	10	J-Y12	Pt19							

第三 - 6 表 掘立柱建物詳細情報 6

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸 0.3～0.6m、短軸 0.2～0.4m、検出面からの深さは 0.3～0.5m を測り、柱穴底面の標高は概ね 4.7～4.9m にある。柱穴 2ヶ所で断割を行い、柱痕跡などを確認した。

埋土から 13 世紀後半の山茶碗などが出土した。

SB 10035 (第Ⅲ-50 図)

桁行 2 間、梁行 2 間の総柱建物である。建物に関連する全ての柱穴を確認することができた。棟方向は N 4° E である。桁行は、南北端の柱穴芯々で

4.4m、柱間の芯々距離は南から 2.25m、2.15m である。梁行は、東西端の柱穴芯々で 4.3m、柱間の芯々距離は東から 2.1m、2.2m である。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸 0.3～0.4m、短軸 0.3m、検出面からの深さは 0.1～0.3m である。柱穴 4ヶ所で断割を行い、柱痕跡を確認することができた。

柱穴の埋土から中世の土師器小片などが出土した。

報告番号	調査時番号	調査次数	グリッド	ピット番号	桁×梁 間	桁行 m	梁行 m	面積 m ²	主軸方位	建物タイプ	備考
SB10024	SB10024	10	J-W12	P111	3x2	5.90	3.70	21.83	N90° E	総柱 東西棟	
			J-W12	P113							
			J-W12	P117							
			J-W13	P117							
			—	P1146							
SB10025	SB10025	10	—	P1147	4x4	7.8	7.7	60.06	N0° E	総柱 南北棟	
			J-W12	P116							
			J-W12	P118							
			J-W12	P114							
			J-W12	P115							
			J-W12	P116							
			J-W13	P111							
			J-W13	P116							
			J-K11	P114							
			J-K12	P118							
			J-K12	P1110							
			J-K12	P1111							
			J-K12	P1114							
			J-Y12	P113							
			J-K11	P115							
SB10030	SB10030	10	J-K11	P116	2x2	4.00	3.90	15.60	N90° E	総柱 東西棟	
			J-K12	P112							
			J-K12	P113							
			J-K12	P113							
SB10035	SB10035	10	L-A11	P119	2x2	4.40	4.30	18.92	N0° E	総柱 南北棟	
			L-A11	P1110							
			L-B11	P114							
			L-B11	P115							
			L-B12	P113							
			L-C12	P112							

第Ⅲ-7 表 掘立柱建物詳細情報 7

第4節 土坑・井戸

土坑と井戸の記号については、土坑をSK、井戸をSEとした。土坑と井戸の平面形の差はないものの、底部付近の形状や土層断面の状況から判断した。遺構番号の横には個別遺構図の番号を表記した。表記していないものは、第Ⅲ-8図～第Ⅲ-16図を参照がたい。以下に報告する。

SK 20004 (第Ⅲ-51 図)

平面形は円形、規模は直径2.2m、検出面からの深さ0.3mである。土坑と考えられる。

埋土から中世の陶器小片、磁器小片などが出土した。

SK 20005 (第Ⅲ-51 図)

平面形は楕円形、規模は長軸2.2m、短軸2.1m、検出面からの深さ0.5mである。土坑と考えられる。SK 20004と近接した位置にある。埋土の上層には0.2～0.4m大の礫や炭化物が含まれていた。

埋土から19世紀前半の陶器擂鉢、土師器鍋、陶器皿、陶器鉢、磁器碗、瓦などが出土した。出土遺物の時期は、17世紀代と考えられる遺物もあり幅がある。

SK 20007 (第Ⅲ-51 図)

平面形は隅丸長方形、規模は長辺2.8m、短辺1.8m、検出面からの深さ0.5mである。土坑と考えられる。

埋土から土師器焙烙、19世紀代の陶器擂鉢、陶器蓋、陶器壺、陶器鉢、磁器碗、磁器蓋、瓦などが出土した。出土遺物の時期は、18世紀代と考えられるものもあり幅がある。

SK 20009

攪乱などにより全体を確認できなかった。残存部分は、長軸4.0m、短軸2.3m、検出面からの深さ0.5mである。土坑と考えられる。

埋土から19世紀前半の土師器鍋、陶器皿、天目茶碗などが出土した。出土遺物の時期は、17世紀前半と考えられるものもあり幅がある。

SK 20013

平面形は楕円形、規模は長軸1.2m、短軸1.1m、検出面からの深さ0.2mである。土坑と考えられる。

埋土から中世の土師器皿、陶器片口鉢などが出土

した。

SE 20016 (第Ⅲ-51 図)

平面形は楕円形、規模は長軸3.0m、短軸2.7m、検出面からの深さ3.8mである。井戸と思われる。井戸枠や曲物は確認できなかった。底部にむけ窄まっていく。底部には曲物が据えられていたであろうか。

埋土から土師器皿、14世紀前半の須恵器鉢、山茶碗、陶器鉢、青磁碗などが出土した。

SK 20019

平面形は楕円形、規模は長軸1.4m、短軸0.9m、検出面からの深さは0.5m、土坑と考えられる。

埋土から土師器皿、13世紀前半の山茶碗などが出土した。

SK 20020

平面形は楕円形、規模は長軸2.1m、短軸2.0m、検出面からの深さ0.8m、土坑と考えられる。

埋土から中世の陶器壺、山茶碗などが出土した。

SK 20021

平面形は隅丸方形、規模は長辺1.4m、短辺0.9m、検出面からの深さは0.2m、土坑と考えられる。

埋土から鉄製鎌、中世の土師器皿、陶器小片などが出土した。

SK 20023

平面形は隅丸方形、規模は長辺2.0m、短辺1.2m、検出面からの深さは0.4m、土坑と考えられる。

埋土から中世の陶器皿などが出土した。

SK 20025

攪乱などにより全体を確認できなかった。残存部分は、長軸1.4m、短軸1.1mで、検出面からの深さ0.1mである。土坑と考えられる。

埋土から13世紀前半の土師器鍋、鉄製釘などが出土した。

SK 20027

平面形は隅丸長方形、規模は長辺1.6m、短辺1.1m、検出面からの深さは0.3mである。土坑と考えられる。

埋土から土師器皿、土師器鍋、陶器皿、15世紀代の須恵器鉢などが出土した。15世紀代までは存

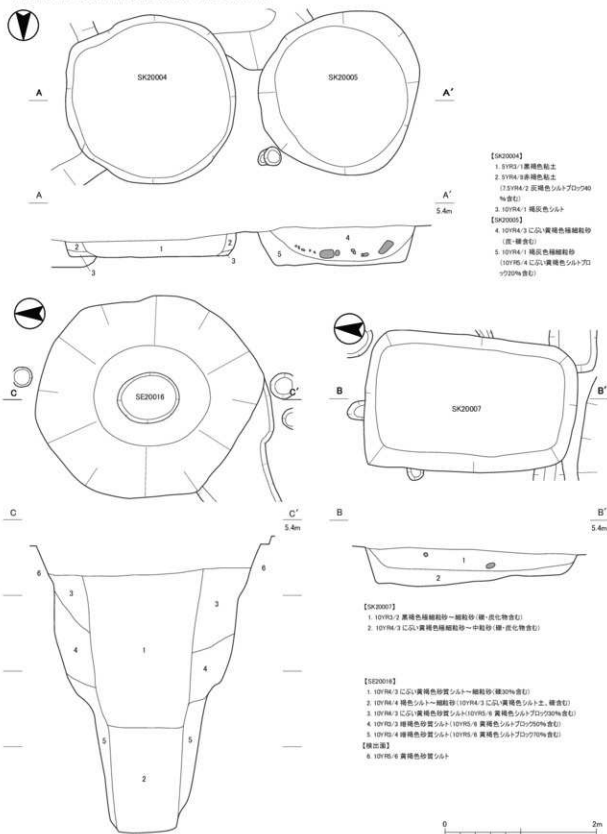
在したものであろう。

SK 20029

平面形は隅丸長方形、長辺 1.1m、短辺 0.8m、検

出面からの深さは 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から中世の土師器小片、土錘などが出土した。



第Ⅲ -51 図 SK 20004、20005、20007、SE 20016 平面図・土層断面図 (1:50)

SK 20031 (第Ⅲ-52 図)

平面形は不整形円形、規模は長軸 3.8m、短軸 2.8m、検出面からの深さは 0.5m である。底部にむけて窄んでいく。土坑と考えられる。埋土の上方には 0.1 ~ 0.3m 大の礫が含まれていた。

埋土から 13 世紀前半の山茶碗、天目茶碗、磁器碗などが出土した。

SK 20032

攪乱などにより全体を確認できなかった。残存部分は長軸 2.6m、短軸 1.5m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から 17 世紀後半の天目茶碗や陶器壺などが出土した。

SK 31003 (第Ⅲ-53 図)

攪乱などにより全体は確認できなかった。残存部分は、長軸 2.5m、短軸 0.7m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から中世の土師器皿などが出土した。

SK 31004 (第Ⅲ-53 図)

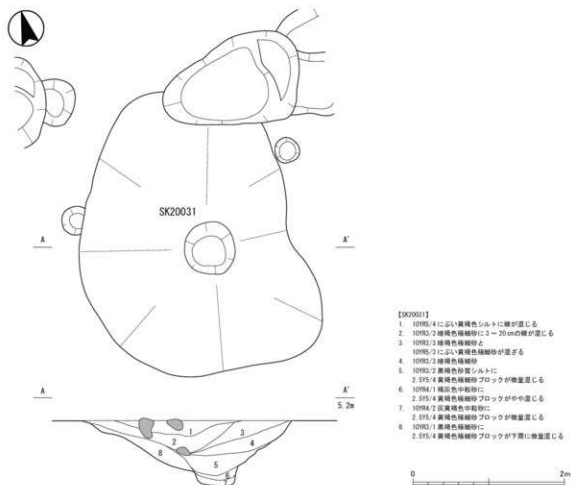
攪乱などにより全体は確認できなかった。残存部分は長軸 1.0m、短軸 0.5m、検出面からの深さ 0.4m である。土坑と考えられる。南側の底部は北側よりやや深くなる。

埋土から土師器皿、山茶碗、18 世紀後半の磁器碗、丸瓦などが出土した。出土遺物の時期は、13 世紀前半と考えられる遺物もあり、かなり幅がある。

SE 31005 (第Ⅲ-53 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 2.2m、短軸 1.9m、検出面からの深さ 0.7m である。井戸と思われる。土層断面の観察から井戸枠状のものが据えられている可能性がある。SK 31012 と重複している。

埋土から土師器皿、灰釉陶器碗、天目茶碗、陶器皿、18 世紀前半の陶器播鉢、砥石などが出土した。出土遺物の時期は、11 世紀代と考えられる遺物もあり、かなり幅がある。



第Ⅲ-52 図 SK 20031 平面図・土層断面図 (1:50)

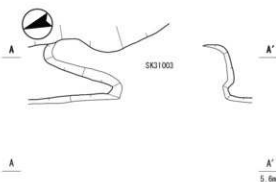
SK 31006 (第Ⅲ-54 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 2.2m、短軸 2.1m、検出面からの深さは 0.7m である。土坑と考えられる。埋土の最下層では 0.1 ~ 0.3m 大の礫が多くに含まれていた。SD 31011、SD 31020 と重複している。

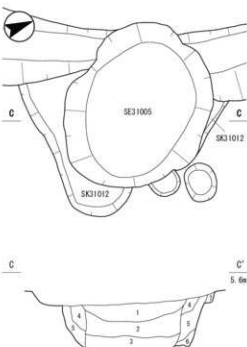
埋土から中世以降の土師器、陶器片などが出土した。

SK 31007 (第Ⅲ-54 図)

平面形は円形、規模は直径 1.5m、検出面からの



- 【SK31003】
1. 10YR4/4 褐色極細砂～シルト (10YR5/2 に近い黄褐色シルトブロック5%含む)
2. 埋土



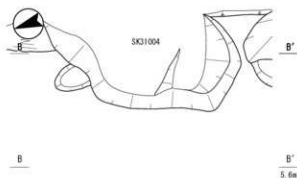
深さ 0.8m である。土坑と考えられる。SD 31001 と重複している。

埋土から中世以降の陶器皿、磁器碗小片などが出土した。

SK 31012 (第Ⅲ-53 図)

平面形は不整形、規模は長辺 5.0m、短辺 3.0m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。SD 31001、SK 31005 と重複している。

埋土から土師器羽釜などが出土した。



- 【SK31004】
1. 10YR5/3 に近い黄褐色極細砂～中粒砂 (礫含む)
2. 10YR4/4 褐色極細砂 (礫含む)
3. 10YR4/2 灰黄褐色極細砂

- 【SE31005】
1. 10YR3/4 暗褐色極細砂
(10YR6/8 黄褐色粘土ブロック24%、礫1%未満含む)
2. 10YR4/3 に近い黄褐色極細砂
(10YR6/8 暗黄褐色粘土ブロック5%、炭化物1%未満含む)
3. 10YR4/3 に近い黄褐色極細砂
(10YR6/8 暗黄褐色粘土ブロック24%、炭化物1%未満含む)
4. 2.5Y4/7 緑灰色シルト
(10YR6/8 暗黄褐色粘土ブロック30%含む)
5. 2.5Y4/3 オリーブ褐色極細砂
(10YR6/8 暗黄褐色粘土ブロック4%含む)
6. 2.5Y4/3 オリーブ褐色極細砂と
2.5Y5/2 緑灰色極細砂が混ざる
【SK31012】
7. 10YR3/2 黄褐色シルト

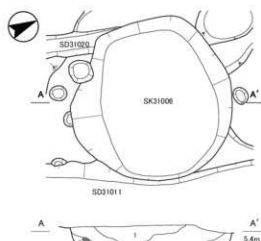


第Ⅲ-53 図 SK 31003, 31012, 31004、SE 31005 平面図・土層断面図 (1:50)

SK 31013

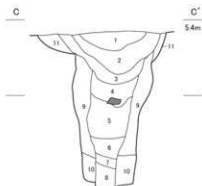
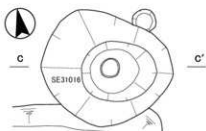
平面形は楕円形、規模は長軸 1.3m、短軸 1.2m、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。

埋土から 19 世紀中頃の磁器仏具などが出土し



[SK31006]

1. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 (炭化物・小礫含む)
2. 10YR5/3 黄褐色粘質土 (10YR5/1 緑灰色粘質土プロット20%含む)
3. 10YR5/4 灰色黄褐色粘質土 (礫30%含む)



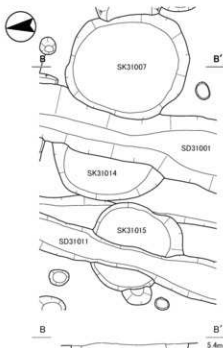
[SE31016]

1. 10YR5/1 緑灰色シルト～礫細砂 (小礫含む)
2. 10YR5/2 灰黄褐色粘細砂 (10YR6/4 灰色黄褐色シルトプロット20%含む)
3. 10YR5/3 黄褐色シルト～粘土 (炭化物 1%未満含む)
4. 2.5Y3/3 緑褐色シルト～黄褐色シルト (10YR5/1 緑灰色粘土が混ざり、炭化物 1%未満含む)
5. 2.5Y4/2 緑灰黄色シルト
6. 2.5Y4/2 緑灰黄色粘土
7. 2.5Y4/2 灰黄褐色粘細砂 (2.5Y6/8 黄褐色シルトプロット60%含む)
8. 2.5Y4/1 黄灰色シルト (2.5Y6/8 2.5Y6/8 灰黄褐色粘細砂が混ざり、炭化物 1%未満含む)
9. 2.5Y4/2 緑灰黄色シルト (2.5Y5/4 黄褐色粘細砂プロット20%含む)
10. 2.5YR/2 灰黄色シルト～礫細砂
11. 2.5Y5/2 緑灰黄色粘細砂～礫細砂

た。

SK 31014

平面形は楕円形、規模は長軸 1.4m、短軸 0.5m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

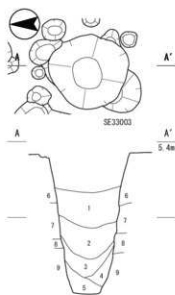


[SK31007]

1. 10YR5/4 灰色黄褐色粘細砂 (10YR6/8 黄褐色シルトプロット10%、炭化物 1%未満含む)
2. 10YR4/3 灰色黄褐色粘細砂～礫砂 (10YR3/3 緑褐色シルトプロット5%含む)
3. 10YR4/3 灰色黄褐色粘細砂
4. 10YR5/4 灰色黄褐色シルト (10YR3/4 緑褐色シルトプロット5%含む)

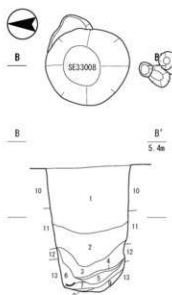
第三 -54 図 SK 31006, 31007, SE 31016 平面図・土層断面図 (1:50)





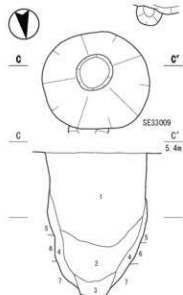
【SE33003】

1. 10YR2/3 暗褐色シルト (10YR5/8 黄褐色シルトブロック20%, 皮化物1%未満含む)
 2. 10YR2/4 暗褐色シルトと10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂が混ざる
 3. 10YR6/2 灰黄褐色シルト～極細粒砂 (皮化物1%未満含む)
 4. 10YR6/2 灰黄褐色極細粒砂と10YR4/4 褐色シルトが混ざる
 5. 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト～極細粒砂
- 【検出源】
1. 10YR5/8 黄褐色シルト
 2. 2.5Y5/1 黄灰色極細粒砂～細粒砂
 3. 2.5Y6/6 明黄褐色シルト
 4. 2.5Y5/1 黄灰色極細粒砂と2.5Y5/4 黄褐色極細粒砂～細粒砂が混ざる



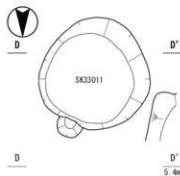
【SE33008】

1. 7.5YR2/1 黄褐色シルト (10YR5/8 に近い黄褐色シルトブロック10%, 皮化物1%未満含む)
 2. 10YR5/4 に近い黄褐色シルト～極細粒砂 (糠、皮化物1%未満含む)
 3. 2.5Y5/1 黄灰色極細粒砂と10YR4/3 に近い黄褐色極細粒砂が互層
 4. 10YR2/2 黄褐色シルト
 5. 10YR6/6 明黄褐色極細粒砂 (10YR6/3 に近い黄褐色極細粒砂ブロック20%含む)
 6. 2.5Y5/1 黄灰色極細粒砂～細粒砂
 7. 10YR6/2 に近い黄褐色極細粒砂と2.5Y7/2 灰黄色極細粒砂が混ざる
 8. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト
 9. 10YR6/2 灰黄褐色シルト
- 【検出源】
10. 10YR5/8 黄褐色シルト
 11. 2.5Y5/1 黄灰色極細粒砂～細粒砂
 12. 2.5Y6/6 明黄褐色シルト
 13. 2.5Y5/1 黄灰色極細粒砂と2.5Y5/4 黄褐色極細粒砂～細粒砂が混ざる



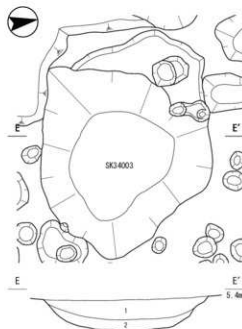
【SE33009】

1. 10YR2/3 暗褐色シルト (糠、皮化物含む)
 2. 10YR5/3 に近い黄褐色シルト～極細粒砂
 3. 2.5Y4/1 褐色シルト～極細粒砂
 4. 2.5Y5/1 黄灰色シルト
- 【検出源】
5. 2.5Y5/1 黄灰色極細粒砂～細粒砂
 6. 2.5Y6/6 明黄褐色シルト
 7. 2.5Y5/1 黄灰色極細粒砂と2.5Y5/4 黄褐色極細粒砂～細粒砂が混ざる



【SK33011】

1. 10YR2/4 暗褐色シルト～極細粒砂 (糠含む)
2. 10YR6/2 灰黄褐色シルトと10YR5/1 褐色シルトが混ざる
3. 10YR6/2 に近い黄褐色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトブロック80%含む)



【SK34003】

1. 7.5YR2/2 黄褐色シルト (糠含む)
2. 7.5YR2/2 黄褐色シルトと7.5YR4/2 灰褐色極細粒砂が混ざる
3. 10YR6/6 明黄褐色シルト5%含む

第Ⅲ-55図 SK 33011, 34003, SE 33003, 33008, 33009 平面図・土層断面図 (1:50)

SD 31001と重複している。

埋土から16世紀前半の土師器の鍋などが出土した。

SE 31016 (第三-54図)

平面形は楕円形、規模は長軸1.7m、短軸1.6mの、検出面からの深さ2.6mである。井戸と思われる。井戸枠や曲物は確認できなかった。底部むかって窄んでいく。

埋土から土師器皿、陶器鉢、13世紀代の土師器鍋などが出土した。

SK 31019

平面形は円形、規模は直径1.2m、検出面からの深さ0.7mである。土坑と考えられる。

埋土から13世紀後半の山茶碗などが出土した。

SE 32002

平面形は円形、規模は直径1.6m、検出面からの深さ0.8mである。井戸と思われる。

埋土から19世紀前半の陶器碗、陶器甕、鉄製釘などが出土した。

SE 32003

平面形は楕円形、規模は長軸1.6m、短軸1.5m、検出面からの深さ1.0mである。井戸と思われる。

埋土から18世紀後半以降の陶器槽鉢、陶器碗などが出土した。

SE 32005

平面形は楕円形、規模は長軸1.4m、短軸1.3m、検出面からの深さ1.0mである。井戸と思われる。

埋土から土師器皿、土師器台付皿、13世紀前半の陶器甕などが出土した。

SE 33003 (第三-55図)

平面形は楕円形、規模は長軸1.0m、短軸0.9m、検出面からの深さ1.8mである。井戸と思われる。底部にむかって窄んでいく。

埋土から15世紀後半の土師器皿、青磁碗などが出土した。出土遺物の時期は、13世紀前半と考えられるものもあり幅がある。

SK 33007

攪乱などにより全体を確認できなかった。残存部分は長軸4.3m、短軸1.8m、検出面からの深さ0.1mである。土坑と考えられる。

埋土から中世以降の土師器皿などが出土した。

SE 33008 (第三-55図)

平面形は楕円形、規模は長軸1.1m、短軸1.0m、検出面からの深さ1.6mである。井戸と思われる。ほぼ垂直に掘り込まれている。井戸枠などは確認できなかった。

埋土から土師器皿、土師器台付皿、14世紀前半の土師器鍋、山茶碗、瓦器椀などが出土した。出土遺物の時期は、13世紀前半と考えられるものもあり幅がある。

SE 33009 (第三-55図)

平面形は楕円形、規模は長軸1.4m、短軸1.3m、検出面からの深さ1.9mである。井戸と思われる。ほぼ垂直に掘り込まれている。井戸枠などは確認できなかった。

埋土から土師器鍋、土師器羽釜、山茶碗、青磁碗、白磁皿、14世紀前半の石鍋などが出土した。出土遺物の時期は、12世紀前半と考えられる遺物もあり幅がある。

SK 33011 (第三-55図)

平面形は円形、規模は直径1.5m、検出面からの深さ0.3mである。

埋土から土師器台付皿、17世紀前半の陶器槽鉢、磁器碗などが出土した。

SK 33013

攪乱などにより全体を確認できなかった。残存部分は長軸2.0m以上、短軸1.0m、検出面からの深さ0.1mである。土坑と考えられる。SD 32004、SD 33004と重複している。

埋土から15世紀後半の土師器鍋、山茶碗などが出土した。出土遺物の時期は、13世紀後半と考えられる遺物もあり幅がある。

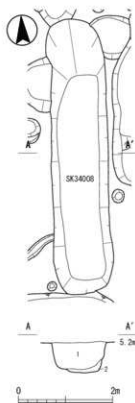
SK 34001

平面形は隅丸方形、規模は長辺1.3m、短辺1.0m、検出面からの深さ0.6mである。土坑と考えられる。埋土から中世以降の土師器皿などが出土した。

SK 34002

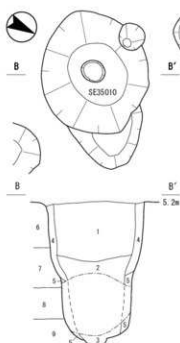
平面形は隅丸方形、規模は長辺1.2m以上、短辺0.7m以上、検出面からの深さ0.4mである。土坑と考えられる。北側の調査区外に延びる。

埋土から土師器皿、15世紀代の須恵器鉢、陶器鉢などが出土した。



【SK34008】

1. 101R2/3 緑褐色シルト～緑細粒砂
- (101R5/6 黄褐色粘土ブロック1%、緑含む)
2. 101R4/7 褐色シルト～粘土

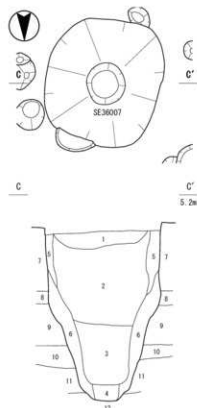


【SE35010】

1. 101R2/2 黄褐色シルト（炭化物含む）
2. 101R4/2 灰黄褐色シルト
- (101R5/6 黄褐色シルト～緑細粒砂ブロック20%含む)
3. 101R4/1 褐色シルト
4. 101R2/4 緑褐色シルト
- (101R5/6 黄褐色シルト～緑細粒砂ブロック10%含む)
5. 101R4/1 褐色シルトと
- 101R4/3 に近い黄褐色シルトが混ざる

【検出品】

4. 101R5/6 黄褐色シルト～緑細粒砂
7. 101R5/2 灰黄褐色緑細粒砂
8. 101R6/6 明黄褐色シルト～緑細粒砂
9. 101R5/1 褐色シルト～粘土

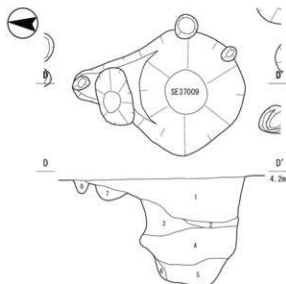


【SE36007】

1. 101R4/4 褐色シルト
- (101R5/6 黄褐色シルトブロック70%、炭化物含む)
2. 101R2/3 緑褐色シルト
- (101R5/6 黄褐色シルトブロック20%、炭化物含む)
3. 101R2/3 緑褐色シルト
- (101R5/6 黄褐色シルトブロック5%含む)
4. 101R4/1 褐色粘土
5. 101R4/2 灰黄褐色シルト
- (101R5/6 黄褐色シルトブロック70%含む)
6. 101R2/2 灰黄褐色シルト～粘土
7. 101R5/6 黄褐色シルト～緑細粒砂
8. 2. S17/4 灰黄色緑細粒砂
9. 2. S15/4 黄褐色シルト
10. 101R2/2 褐色黄褐色シルト～粘土
11. 2. S15/6 黄褐色シルト～粘土
12. 砂礫

【SE37009】

1. 101R4/2 灰黄褐色シルト（灰含む）
2. 2. S17/4 灰黄色シルト～粘土（灰含む）
3. 2. S15/1 灰黄色シルト～粘土
- S17/4 灰黄色緑細粒砂～粘土が混ざる
4. S15/1 灰黄色シルト～粘土
- S17/4 灰黄色緑細粒砂～粘土が混ざる（鉄分やや含む）
5. 2. S16/1 灰黄色緑細粒砂
- (2. S16/1 灰黄色シルト粘土ブロック、鉄分、緑含む)
6. S17/2 灰白色シルト粘土（鉄分やや含む）
7. 2. S17/4 灰黄色緑細粒砂に
- (101R5/2 灰黄褐色シルトブロックやや含む)
8. 101R2/3 緑褐色シルト



第三 -56 図 SK 34008、SE 35010、36007、37009 平面図・土層断面図 (1:80、1:50)

SK 34003 (第三 -55 図)

平面形は不整形円形、規模は長軸 2.5m、短軸 2.3m、検出面からの深さ 0.5m である。埋土の上層には、0.1 ~ 0.3m 大の礫が多く含まれていた。

埋土から 18 世紀前半の土師器焙烙、陶器甕、青磁碗などが出土した。

SK 34004

攪乱などにより全体を確認できなかった。残存部分は長軸 3.5m、短軸 2.0m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から 16 世紀代の土師器鍋、陶器皿などが出土した。

SK 34005

平面形は隅丸方形、規模は長軸 1.4m、短軸 1.3m、検出面からの深さ 0.4m である。土坑と考えられる。

埋土から 15 世紀前半の瓦質土器風炉などが出土した。

SK 34006

平面形は隅丸方形、規模は長軸 2.5m、短軸 1.4m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から 17 世紀中頃前後の陶器皿などが出土した。

SK 34008 (第三 -56 図)

平面形は隅丸方形、規模は長軸 6.0m、短軸 1.2m、検出面からの深さ 0.9m である。土坑と考えられる。南北に細長い。埋土の上層から主に遺物が出土した。

埋土から土師器皿、土師器焙烙、陶器碗、陶器皿、19 世紀後半の陶器鉢、陶器瓶掛、陶器播鉢、陶器鍋、陶器壺、陶器土瓶、陶器汁次、磁器碗、青磁香炉、青磁壺、石製硯、縄文土器深鉢などが出土した。出土遺物の時期は、17 世紀前半以降と考えられるものもあり幅がある。

SK 34010

平面形は不整形円形、規模は長軸 0.9m、短軸 0.7m、検出面からの深さ 0.6m である。土坑と考えられる。

埋土から 19 世紀初頭の土師器焙烙、陶器土瓶、陶器壺などが出土した。出土遺物の時期は、若干の幅がある。

SK 35002

平面形は楕円形、規模は長軸 1.9m、短軸 0.8m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から 12 世紀後半の山皿などが出土した。

SE 35010 (第三 -56 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 1.5m、短軸 1.4m、検出面からの深さ 1.9m である。井戸と思われる。ほぼ垂直に掘り込まれていた。底部にむけて窄んでいく。下層部分は崩落の危険があり土層確認を行うことができなかった。

埋土から土師器皿、13 世紀前半の山茶碗、青磁碗などが出土した。

SE 36004

平面形は楕円形、規模は長軸 2.0m、短軸 1.8m、検出面からの深さ 0.8m である。井戸と思われる。SD 35003 と重複している。

埋土から 14 世紀後半の陶器卸皿などが出土した。

SE 36007 (第三 -56 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 1.7m、短軸 1.5m、検出面からの深さ 2.3m である。井戸と思われる。井戸枠や曲物は確認できなかった。底部には曲物が据えられていた可能性がある。

埋土から土師器羽釜、13 世紀後半の陶器片口鉢、白磁碗などが出土した。出土遺物の時期は、若干の幅がある。

SK 37003

平面形は不整形円形、規模は長辺 11.6m、短辺 2.2m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から土師器皿、土師器鍋、山茶碗、13 世紀前半の山皿、陶器片口鉢、陶器甕、青磁碗などが出土した。出土遺物の時期は、若干の幅がある。

SK 37004

平面形は楕円形、規模は長軸 1.1m、幅 1.0m、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。

埋土から 13 世紀前半の山茶碗などが出土した。

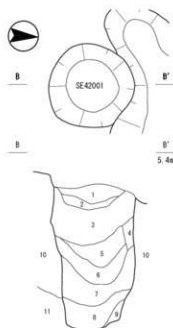
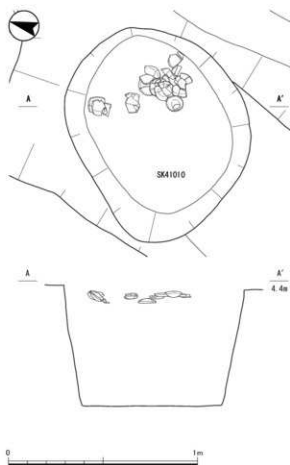
SE 37009 (第三 -56 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 2.0m、短軸 1.8m、検出面からの深さ 1.4m である。井戸と思われる。井戸枠や曲物は確認できなかった。

埋土から山茶碗、13 世紀前半の山皿などが出土した。出土遺物の時期は、12 世紀初頭前後と考えられる遺物もあり幅がある。

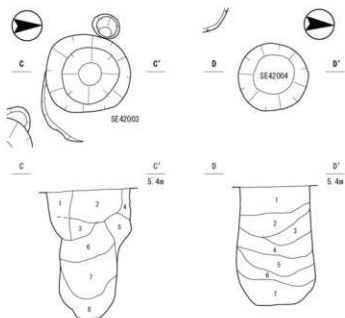
SK 37012

平面形は不整形円形、規模は長軸 2.0m、短軸 1.1m、



[SE40001]

1. 2. S15/2 緑泥黄色砂質土 (炭化物、土器含む)
 2. S17/4 黄褐色細砂
 3. 10195/2 灰褐色砂質土 (礫、炭化物、土器少量含む)
 4. 10198/6 黄褐色砂質シルト
 5. 10195/2 灰褐色砂質シルト (礫、炭化物、土器少量含む)
 6. 2. S15/2 緑泥黄色砂質シルト (礫、炭化物少量含む)
 7. 2. S15/2 緑泥黄色砂質シルト (2. S19/4 灰褐色砂質シルトブロック含む)
 8. 2. S15/1 黄褐色砂質シルト (炭化物、土器含む)
 9. S17/2 灰褐色砂質シルト
- [出土品]
10. 2. S16/3 にふい黄色砂質土
 11. 2. S17/4 灰褐色砂質土



[SE40003]

1. 腰瓦
2. 7. S192/4 黄褐色砂質土 (炭化物含む)
3. 7. S192/4 黄褐色砂質土 (2. S194/6 オリーブ褐色砂質土少量含む)
4. 2. S14/3 オリーブ褐色砂質土
5. 7. S192/2 黄褐色砂質シルト
6. 10194/4 褐色砂質土 (炭化物含む)
7. 10193/4 緑褐色砂質土 (炭化物、礫含む)
8. 10194/2 灰褐色砂質シルト (2. S14/3 オリーブ褐色砂質土ブロック少量含む)

[SE40004]

1. 10192/2 緑褐色砂質土 (炭化物含む)
2. 2. S14/2 緑泥黄色砂質土
3. 2. S14/3 オリーブ褐色砂質土 (2. S15/4 黄褐色砂質土ブロック含む)
4. 2. S14/3 オリーブ褐色砂質土 (炭化物少量含む)
5. 2. S14/7 緑泥黄色砂質シルト
6. 2. S14/3 オリーブ褐色砂質土
7. 10194/2 灰褐色砂質シルト (炭化物少量含む)

第Ⅲ-57図 SK 41010、SE 42001、42003、42004 平面図・土層断面図 (1:20、1:50)

検出面からの深さ 0.1m である。土坑と考えられる。

埋土から 13 世紀前半の山茶碗、陶器瓶、陶器壺、陶器甕などが出土した。出土遺物の時期は、12 世紀前半と考えられる遺物もあり幅がある。

SK 41002

平面形は円形、規模は長軸 1.7m、短軸 1.6m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。SD 32006 と重複している。

埋土から 14 世紀後半の陶器鉢、縄文土器深鉢などが出土した。

SK 41004

平面形は円形、規模は直径 1.4m、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。SD 32006 と重複している。

埋土から 18 世紀中頃以降の土師器皿などが出土した。

SK 41007

後世の攪乱などにより全体は確認できなかった。残存部分は長軸 1.8m、短軸 0.7m、検出面からの深さ 0.4m である。土坑と考えられる。

埋土から土師器皿、18 世紀後半の土師器焙烙などが出土した。

SK 41009

攪乱を受け全体を確認するには至らなかった。残存部分は長軸 1.3m、短軸 0.6m、検出面からの深さ 0.5m である。土坑と考えられる。

埋土から 14 世紀前半の土師器鍋、山茶碗などが出土した。

SK 41010 (第Ⅲ-57 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 1.2m、短軸 0.9m、検出面からの深さ 0.7m である。土坑と考えられる。SD 33004 と重複している。

埋土から中世以降の土師器皿などが出土した。

SE 42001 (第Ⅲ-57 図)

平面形は円形、規模は直径 1.2m、検出面からの深さ 2.1m である。井戸と思われる。ほぼ垂直に掘り込まれている。井戸枠や曲物は確認できなかった。埋土上層に礫や炭化物が含まれていた。

埋土から土師器皿、土師器台付皿、土師器羽釜、山茶碗、陶器鉢、白磁碗、14 世紀以降の白磁皿、白磁壺、石製硯、鉄製刀子などが出土した。出土遺

物の時期は、12 世紀前半と考えられるものもあり幅がある。

SE 42003 (第Ⅲ-57 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 1.1m、短軸 1.0m、検出面からの深さ 1.7m である。土坑と思われる。ほぼ垂直に掘り込まれている。井戸枠などは確認できなかった。

埋土から土師器台付皿、14 世紀初頭前後の土師器鍋、鉄釜などが出土した。

SE 42004 (第Ⅲ-57 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 0.9m、短軸 0.8m、検出面からの深さ 1.6m である。井戸と思われる。ほぼ垂直に掘り込まれている。井戸枠や曲物は確認できなかった。

埋土から中世以降の土師器皿などが出土した。

SK 42008

攪乱などにより全体を確認できなかった。残存部分は一辺 1.3m、検出面からの深さ 0.5m である。土坑と考えられる。

埋土から陶器碗、18 世紀後半の陶器皿などが出土した。出土遺物の時期は、17 世紀前半と考えられる遺物もあり幅がある。

SK 43002

平面形は楕円形、規模は長軸 0.9m、短軸 0.8m、検出面からの深さ 0.8m である。土坑と考えられる。

埋土から 14 世紀前半の土師器羽釜などが出土した。

SK 43004

平面形は楕円形、規模は長軸 1.1m、短軸 0.8m、検出面からの深さ 1.2m である。土坑と考えられる。

埋土から中世以降の土師器皿など出土した。

SK 44001 (第Ⅲ-58 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 2.6m、短軸 1.7m、検出面からの深さ 0.5m である。土坑と考えられる。埋土の上方には礫が含まれていた。

埋土から 18 世紀前半の土師器焙烙、土師器鍋、天目茶碗などが出土した。出土遺物の時期は、13 世紀代と考えられる遺物もあり幅がある。

SK 44002 (第Ⅲ-58 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 1.3m、短軸 1.2m、検出面からの深さ 0.6m 以上である。土坑と考えら

れる。SK 44001 と重複している。

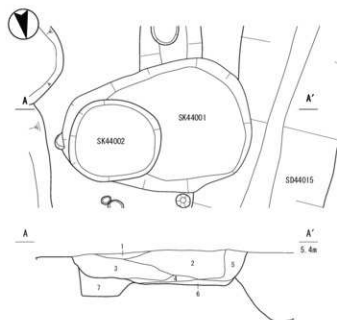
埋土から遺物の出土は確認できなかった。

SK 44005

平面形は不整形円形、規模は長軸 2.5m、短軸 0.9m、

検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。

埋土から 19 世紀前半以降の陶器鉢、磁器皿、鉄製釘などが出土した。出土遺物の時期は、18 世紀後半と考えられる遺物もあり幅がある。

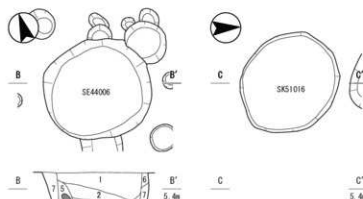


【SK44001】

1. 2. S15/2 緑灰黄色砂質土 (緑、炭化物含む)
2. 10YR5/2 灰黄褐色砂質土 (緑、炭化物含む)
3. 2. S14/1 黄灰色砂質土 (緑含む)
4. S16/2 灰オリーブ色砂質土
5. S15/3 灰黄色シルト (S17/2 灰黄色シルトブロック含む)
6. S16/3 オリーブ黄色砂質土

【SK44002】

1. 2. S16/2 灰黄色砂質シルト (炭化物少量含む)

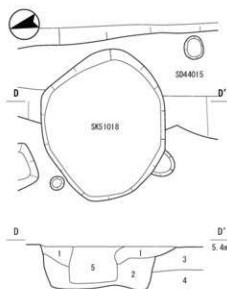


【SE44006】

1. 2. S15/2 緑灰黄色砂質土 (2. S17/4 淡黄色砂質土ブロック、炭化物含む)
3. S15/2 灰オリーブ色砂質土 (2. S17/4 淡黄色砂質土ブロック含む)
4. 2. S14/2 緑灰黄色砂質シルト (緑含む)
5. S14/1 灰黄色シルト (S16/3 オリーブ黄色砂質シルトブロック含む)
6. 2. S14/1 黄灰色砂質土 (緑含む)
7. S16/2 灰オリーブ色砂質土
8. 7. S16/1 灰黄色砂質土

【SK51018】

1. 10YR2/2 黄褐色砂質土 (炭化物含む)
2. 10YR2/2 黄褐色砂質シルト (10YR5/6 黄褐色ブロック多量含む)



【SK51018】

1. 2. S15/2 緑灰黄色極細砂質シルト (炭化物含む)
2. 2. S15/1 黄灰色極細砂質シルト (炭化物含む)

【SK44015】

3. 10YR5/3 に近い黄褐色砂質土 (10YR5/6 明黄褐色シルトブロック少量含む)
4. 10YR4/4 褐色砂質土 (10YR5/6 明黄褐色シルトブロック多量含む)
5. 腐乱

第Ⅲ -58 図 SK 44001, 44002, 51016, 51018, SE 44006 平面図・土層断面図 (1:50)

SE 44006 (第Ⅲ-58 図)

平面形は楕円形、長軸 1.4m、短軸 1.3m、検出面からの深さ 0.6m である。井戸と思われる。土層断面の状況から枠状のものが掘えられていた可能性がある。

埋土から 18 世紀前半の陶器徳利、青磁壺、鉄製釘などが出土した。

SK 44008

平面形は円形、規模は直径 1.8m、検出面からの深さ 0.5m である。土坑と考えられる。

埋土から陶器碗、13 世紀前半の陶器鉢、鉄製釘などが出土した。

SK 44009

平面形は楕円形、規模は長軸 1.5m、短軸 1.3m、検出面からの深さ 0.9m である。土坑と考えられる。SD 44015 と重複している。

埋土から 19 世紀初頭前後の土師器皿、陶器皿、陶器香炉、土錘などが出土した。

SK 44010

平面形は楕円形、規模は長軸 1.5m、短軸 1.1m、検出面からの深さ 0.4m である。土坑と考えられる。

埋土から中世の山茶碗、陶器碗などが出土した。

SK 44012

平面形は楕円形、規模は長軸 1.2m、短軸 1.1m、検出面からの深さ 1.0m 以上である。土坑と考えられる。掘削の安全性を確保しながら必要な調査を行った。

埋土から土師器皿、18 世紀前半の土師器焙烙などが出土した。

SK 44013

平面形は楕円形、規模は長軸 1.2m、短軸 1.0m、検出面からの深さ 0.5m である。土坑と考えられる。

埋土から 13 世紀前半の山茶碗、土製移動式カマドなどが出土した。出土遺物の時期は、若干の幅がある。

SK 44016

平面形は不整形形、規模は長軸 1.3m、短軸 1.1m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。SB 44054 と重複している。

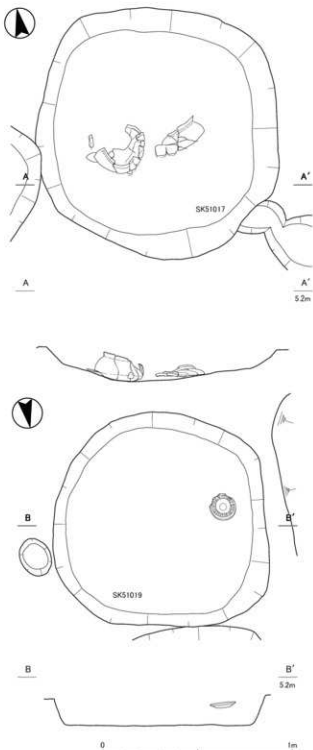
埋土から 13 世紀後半の山茶碗などが出土した。

SK 44018

平面形は不整形形、規模は長軸 1.3m、短軸 1.2m、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。埋土から 11 世紀代の灰軸陶器碗などが出土した。

SK 44019

平面形は不整形形、規模は長軸 2.0m、短軸 1.9m、検出面からの深さ 0.5m である。土坑と考えられる。



第Ⅲ-59 図 SK 51017, 51019 平面図・断面図 (1:20)

埋土から土師器茶釜、陶器香炉、陶器播鉢、陶器壺、磁器碗、18世紀末前後の磁器皿などが出土した。

SK 44020

平面形は楕円形、規模は長軸 1.3m、短軸 1.2m、検出面からの深さ 0.4m である。土坑と考えられる。

埋土から近世の陶器土版などが出土した。

SK 44022

平面形は楕円形、規模は長軸 1.0m、短軸 0.9m、検出面からの深さ 0.4m である。土坑と考えられる。

埋土から 18 世紀前半以降の磁器碗などが出土した。

SK 44023

平面形は楕円形、規模は長軸 1.5m、短軸 1.4m、検出面からの深さ 0.4m である。土坑と考えられる。

埋土から 12 世紀後半の山皿、白磁碗などが出土した。

SK 44025

平面形は楕円形、規模は長軸 1.7m、短軸 1.5m、検出面からの深さ 0.5m である。土坑と考えられる。

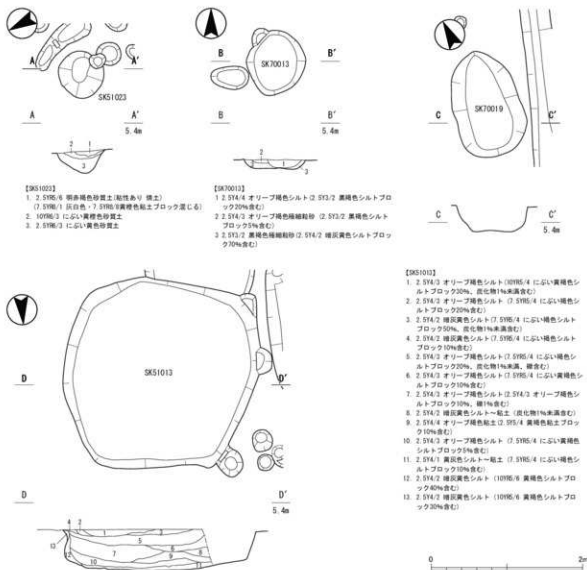
埋土から陶器蓋、19 世紀前半以降の磁器碗、土製 L 字状製品、石製円盤状製品、鉄製板状製品、鉄製釘などが出土した。

SK 44027

平面形は楕円形、規模は長軸 2.0m、短軸 1.7m、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。

埋土から 17 世紀後半の土師器焙烙、陶器小坏などが出土した。

SK 44028



第三 -60 図 SK 51013, 51023, 70013, 70019 平面図・土層断面図 (1:50)

平面形は不整形、規模は長軸 2.6m、短軸 1.3m、検出面からの深さ 0.5m である。土坑と考えられる。

埋土から山茶碗、18 世紀後半の陶器碗、陶器皿、磁器皿、軒丸瓦、砥石、石製硯などが出土した。出土遺物の時期は、12 世紀中頃前後と考えられる遺物もあり、かなりの幅がある。

SK 44031

他の遺構との重複などにより全体を確認できなかった。残存部分は長軸 1.2m、短軸 0.8m、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。SK 44008 と重複している。

埋土から中世以降の磁器碗などが出土した。

SK 44032

平面形は円形、規模は直径 1.8m、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。SD 44015 と重複している。

埋土から土師器皿、陶器壺、19 世紀前半の磁器碗、土製人形などが出土した。

SK 44033

平面形は円形、規模は長軸 2.1m、短軸 1.0m、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。

埋土から陶器碗、19 世紀前半の磁器碗などが出土した。

SK 44034

平面形は隅丸方形、規模は長辺 2.1m、短辺 1.3m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から 18 世紀中頃以降の陶器碗、磁器碗などが出土した。

SK 44035

遺構が調査区外に延びるため全体を確認できなかった。調査区内での規模は長軸 1.1m、短軸 0.8m、検出面からの深さ 0.5m である。土坑と考えられる。

埋土から土師器焙烙、磁器碗、磁器紅小皿、19 世紀代の磁器蓋、磁器鉢、土鍾などが出土した。

SK 44036

平面形は楕円形、規模は長軸 1.3m、短軸 1.2m、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。

埋土から陶器播鉢、19 世紀中頃以降の磁器碗などが出土した。

SK 44037

平面形は不整形、規模は長軸 1.0m、短軸 0.8m、

検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から 17 世紀後半の土師器焙烙などが出土している。

SK 44038

平面形は楕円形、規模は長軸 0.9m、短軸 0.8m、検出面からの深さは 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から陶器碗、18 世紀後半以降の陶器片口鉢、磁器碗などが出土した。

SK 44039

攪乱などにより全体は確認できなかった。残存部分は長軸 1.3m、短軸 0.8m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から陶器蓋、陶器壺、19 世紀代の磁器碗、青磁香炉などが出土した。

SK 44040

遺構が調査区外に延びるため全体を確認できなかった。調査区内での規模は長軸 1.3m 以上、短軸 0.9m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から土師器皿、19 世紀代の磁器碗などが出土した。

SK 44042

平面形は楕円形、規模は長軸 1.4m、短軸 1.2m、検出面からの深さ 0.4m である。土坑と考えられる。

埋土から 18 世紀中頃以降の土師器皿などが出土した。

SK 44043

平面形は楕円形、規模は長軸 2.0m、短軸 1.3m、検出面からの深さは 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から 19 世紀前半の陶器碗などが出土した。

SK 44044

平面形は不整形、規模は長軸 1.6m 以上、短軸 1.2m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から 19 世紀代の陶器皿、磁器碗、陶器仏具などが出土した。

SK 44046

北側は SK 44027、南側は後世の攪乱などにより全体を確認できなかった。残存部分は長軸 1.7m 以

上、短軸 1.5m、検出面からの深さ 0.1m である。土坑と考えられる。

埋土から陶器碗、陶器仏餉具、陶器徳利、19 世紀代の磁器碗、18 世紀代の磁器紅小皿、磁器蓋、白磁碗などが出土した。出土遺物の時期については、12 世紀前半のものもあり幅がある。

SK 51004

平面形は楕円形、規模は長軸 1.3m、短軸 1.2m、検出面からの深さ 0.4m である。土坑と考えられる。

埋土から 12 世紀後半の土師器鍋などが出土した。

SK 51006

平面形は楕円形、規模は長軸 2.2m、短軸 2.0m、検出面からの深さ 0.8m である。土坑と考えられる。SD 35004 と重複している。

埋土から土師器焙烙、19 世紀前半の陶器播鉢、磁器碗、磁器皿、青磁碗、砥石などが出土した。出土遺物の時期は、18 世紀前半と考えられる遺物もあり幅がある。

SK 51008

他遺構の重複により全体を確認できなかった。残存部分は長軸 0.8m、短軸 0.6m、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。SK 51009 と重複している。

埋土から 18 世紀末の陶器碗、磁器皿などが出土した。

SK 51009

平面形は楕円形、規模は長軸 1.0m、短軸 0.8m、検出面からの深さ 0.5m である。土坑と考えられる。SK 51008 と重複している。

埋土から 18 世紀前半の土師器焙烙などが出土した。

SK 51010

平面形は楕円形、規模は長軸 2.4m、短軸 1.3m、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。

埋土から土師器皿、陶器小碗、陶器蓋、陶器仏餉具、19 世紀前半の陶器播鉢、磁器碗、磁器蓋などが出土した。

SK 51011

平面形は円形、規模は直径 1.4m、検出面からの深さ 0.6m である。土坑と考えられる。

埋土から土師器皿、陶器皿、陶器仏餉具、陶器

鉢、陶器土瓶、陶器加工円盤、19 世紀前半の磁器碗、磁器猪口、磁器瓶、土製し字状製品、軒平瓦、砥石などが出土した。

SK 51012

平面形は楕円形、規模は長軸 1.4m、短軸 1.2m、検出面からの深さ 0.1m である。土坑と考えられる。

埋土から 19 世紀中頃前後の陶器鉢、陶器蓋、砥石などが出土した。

SK 51013 (第Ⅲ-60 図)

平面形は隅丸方形、規模は長辺 2.5m、短辺 2.4m、検出面からの深さ 0.7m である。土坑と考えられる。

埋土から土師器皿、土師器焙烙、山茶碗、陶器碗、陶器皿、19 世紀前半の陶器播鉢、陶器徳利、磁器碗、磁器小坏、磁器蓋、磁器水滴、磁器加工円盤、青磁碗、土製し字状製品、砥石、右製円盤状製品、鉄製鍋、銅製煙管などが出土した。出土遺物の時期は、13 世紀前半と考えられる遺物もあり、かなり幅がある。

SK 51014

平面形は円形、規模は直径 1.6m、検出面からの深さ 0.4m である。土坑と考えられる。

埋土から 19 世紀前半の陶器碗、陶器火鉢、磁器皿などが出土した。出土遺物の時期は、17 世紀初頭前後と考えられる遺物もあり幅がある。

SK 51015

平面形は楕円形、規模は長軸 1.5m、短軸 1.2m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から中世の山皿などが出土した。

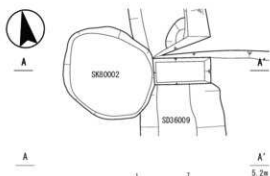
SK 51016 (第Ⅲ-58 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 1.4m、短軸 1.2m、検出面からの深さ 0.5m である。土坑と考えられる。

埋土から土師器台付皿、土師器鍋、12 世紀後半の山皿、陶器鉢、土鉢、縄文土器深鉢などが出土した。SK 51017 (第Ⅲ-59 図)

平面形は隅丸方形、規模は長辺 1.3m、短辺 1.2m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。形状や規模から簡易な倉庫としての使用が考えられる。底部付近で正立した状態の土師器鍋が出土した。

埋土から土師器皿、土師器鍋、14 世紀前半の瓦器碗、陶器山茶碗、陶器山皿などが出土した。出土遺物の時期は、13 世紀後半と考えられる遺物もあ



【SK80002】

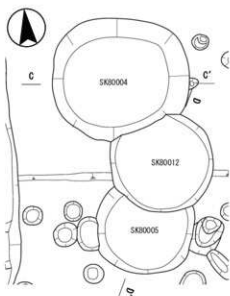
1. 3YR2.4緑褐色極細砂（皮化物含む）
2. 10YR2.3黄褐色極細砂（皮化物含む）
3. 10YR2.2黄褐色極細砂—シルト
4. 10YR2.3黄褐色極細砂
5. 10YR2.2黄褐色極細砂と10YR5.6黄褐色シルトブロック20%含む
6. 10YR2.2黄褐色極細砂（10YR5.6黄褐色シルトブロック20%含む）

【SD36009】

7. 10YR4.4褐色極細砂
8. 10YR5.4にふい黄褐色極細砂

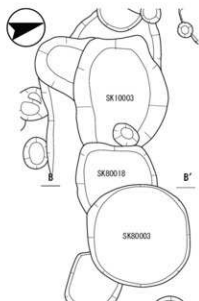
【基盤部】

9. 10YR5.6黄褐色極細砂



【SK80004】

1. 10YR4.3にふい黄褐色極細砂（粘土ブロック50%含む）
2. 10YR5.2黄褐色極細砂（硬20%含む）
3. 10YR3.1黄褐色極細砂（10YR5.6黄褐色極細砂ブロック3%未満含む）
4. 10YR2.2黄褐色極細砂（10YR5.6黄褐色極細砂ブロック20%、皮化物含む）
5. 10YR4.2黄褐色極細砂（10YR5.6黄褐色極細砂ブロック10%、皮化物含む）
6. 10YR5.3にふい黄褐色極細砂—シルト（10YR5.2黄褐色シルト5%含む）
7. 10YR5.4にふい黄褐色極細砂—シルト（10YR5.2黄褐色シルト5%含む）



【SK80012】

1. 10YR4.2黄褐色極細砂（10YR3.2黄褐色極細砂ブロック10%含む）
2. 10YR4.4褐色極細砂（10YR2.2黄褐色極細砂ブロック2%含む）
3. 10YR4.3にふい黄褐色極細砂（10YR2.2黄褐色極細砂ブロック2%含む）
4. 10YR2.2黄褐色極細砂（10YR5.3にふい黄褐色極細砂ブロック10%含む）
5. 10YR4.1褐色極細砂（10YR5.3にふい黄褐色極細砂ブロック10%含む）
6. 10YR4.2黄褐色極細砂（10YR5.3にふい黄褐色極細砂ブロック10%含む）
7. 10YR2.1黄褐色極細砂（10YR5.3にふい黄褐色極細砂ブロック10%含む）

【SK90002】

8. 10YR5.1褐色極細砂（10YR5.3にふい黄褐色極細砂ブロック20%含む）
9. 10YR2.2褐色極細砂（10YR2.2黄褐色極細砂ブロック5%含む）
10. 5Y4.1灰色極細砂（10YR5.3にふい黄褐色極細砂ブロック2%含む）
11. 2.5Y4.1黄褐色極細砂（10YR5.3にふい黄褐色極細砂ブロック10%含む）
12. 2.5Y5.1黄褐色極細砂（10YR5.3にふい黄褐色極細砂ブロック20%含む）



【SK80012】

1. 10YR4.2黄褐色極細砂（硬、皮化物1%未満含む）
2. 10YR4.2黄褐色極細砂（10YR5.6黄褐色シルトブロック2%含む）
3. 10YR4.3にふい黄褐色極細砂（10YR5.6黄褐色極細砂ブロック40%、皮化物1%未満含む）
4. 10YR4.3にふい黄褐色極細砂（10YR5.6黄褐色極細砂ブロック5%、皮化物1%未満含む）
5. 2.5Y5.2黄褐色極細砂（10YR5.6黄褐色極細砂ブロック30%含む）
6. 2.5Y5.2黄褐色極細砂と10YR5.6黄褐色極細砂が混ざる
7. 10YR5.6黄褐色極細砂と10YR5.2黄褐色極細砂が混ざる

【SK90003】

8. 10YR2.2黄褐色極細砂（10YR5.6黄褐色極細砂ブロック20%含む）
9. 10YR4.2黄褐色極細砂
10. 10YR4.2黄褐色極細砂（10YR5.6黄褐色極細砂ブロック30%含む）
11. 10YR5.6黄褐色極細砂と10YR5.2黄褐色極細砂が混ざる
12. 10YR5.6黄褐色極細砂と10YR5.3にふい黄褐色極細砂が混ざる



第三 -61 図 SK 80002, 80003, 80004, 80005, 80012, 80018 平面図・土層断面図 (1:50)

り幅がある。また、埋土には炭化物が含まれていた。

SK 51018 (第Ⅲ-58 図)

平面形は円形、規模は直径 1.7m、検出面からの深さ 0.5m である。土坑と考えられる。ほぼ垂直に掘り込まれている。SD 44015 と重複している。

埋土から土師器焙烙、天目茶碗、陶器播鉢、18 世紀後半の磁器碗などが出土した。出土遺物の時期は、17 世紀後半と考えられる遺物もあり幅がある。

SK 51019 (第Ⅲ-59 図)

平面形は隅丸方形、規模は 1 辺 1.2m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。陶器皿が底部から 0.1m 上面で出土した。

埋土から 17 世紀初頭前後の陶器皿、砥石などが出土した。

SK 51020

平面形は楕円形、規模は長軸 2.0m、短軸 1.9m、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。

埋土から 16 世紀前半の土師器鍋などが出土した。

SK 51021

平面形は楕円形、規模は長軸 2.1m、短軸 1.5m、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。

埋土から陶器碗、陶器皿、陶器香炉、18 世紀中頃の磁器碗などが出土した。出土遺物の時期は、17 世紀前半と考えられる遺物もあり幅がある。

SK 51023 (第Ⅲ-60 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 0.8m、短軸 0.7m、検出面からの深さ 0.6m である。土坑と考えられる。埋土上面で多量の焼土ブロックや炭化物を確認した。埋土からの遺物の出土は確認できなかった。

SK 51025

後世の攪乱などにより全体を確認できなかった。残存部分は長軸 2.0m 以上、短軸 1.5m、検出面からの深さ 0.1m である。土坑と考えられる。

埋土から 17 世紀後半の土師器焙烙などが出土した。

SK 51026

平面形は不整形、規模は長軸 1.6m、短軸 1.4m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から土師器皿、陶器水注、19 世紀中頃前後の陶器鉢、磁器碗、磁器蓋などが出土した。

SK 51027

平面形は不整形、規模は長辺 2.1m、短辺 2.0m、検出面からの深さ 0.4m である。土坑と考えられる。

埋土から 11 世紀初頭前後の灰軸陶器碗などが出土した。

SK 51028

平面形は不整形、規模は長軸 3.3m、短軸 1.8m、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。

埋土から陶器蓋、砥石などが出土した。

SK 53002

平面形は不整形、規模は長軸 1.1m、短軸 0.5m、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。

埋土から 12 世紀後半の山茶碗などが出土した。

SK 70013 (第Ⅲ-60 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 0.9m、短軸 0.8m、検出面からの深さ 0.1m である。土坑と考えられる。

埋土から 18 世紀前半の陶器壺などが出土した。

SK 70019 (第Ⅲ-60 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 1.3m、短軸 0.9m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。埋土の下層で焼土ブロックを確認した。

埋土から土製 L 字状製品、近世の平瓦などが出土した。

SK 80002 (第Ⅲ-61 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 1.3m、短軸 1.1m、検出面からの深さ 0.4m である。土坑と考えられる。SD 36009 と重複している。

埋土から 17 世紀前半の陶器皿などが出土した。

SK 80003 (第Ⅲ-61 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 1.4m、短軸 1.3m、検出面からの深さ 0.4m である。土坑と考えられる。

埋土から土師器羽釜、19 世紀代の陶器瓶、陶器碗、磁器碗などが出土した。

SK 80004 (第Ⅲ-61 図)

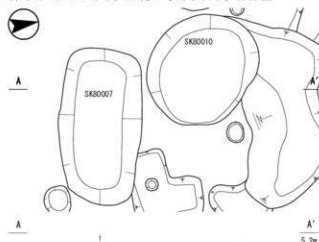
平面形は楕円形、規模は長軸 1.8m、短軸 1.6m、検出面からの深さ 0.5m である。土坑と考えられる。

SK 80005, 80012 と重複している。

埋土から天目茶碗、陶器蓋、陶器播鉢、19 世紀代の陶器徳利、磁器猪口、砥石、石製円盤状製品、石板などが出土した。出土遺物の時期は、17 世紀後半と考えられる遺物もあり幅がある。

SK 80005 (第Ⅲ-61 図)

平面形は円形か。規模は直径 1.3m、検出面からの深さは 0.4m である。土坑と考えられる。ほぼ垂

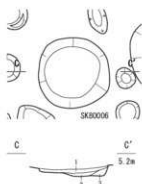


【SK80007】

1. 10YR2/2 黄褐色極細砂
2. 10YR2/1 黄褐色極細砂 (10YR2/6 黄褐色極細砂ブロック 1% 含む)
3. 10YR2/2 黄褐色極細砂 (10YR2/6 黄褐色極細砂ブロック 10% 含む)
4. 10YR6/1 黄褐色粘土

【SK80010】

5. 10YR2/1 黄褐色極細砂
6. 10YR4/3 に近い黄褐色極細砂
7. 10YR4/3 に近い黄褐色極細砂と 10YR2/1 黄褐色極細砂が混ざる
8. 10YR2/1 黄褐色極細砂
9. 10YR2/2 黄褐色極細砂



【SK80006】

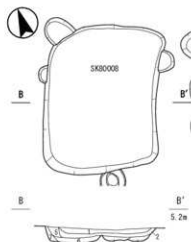
1. 10YR2/2 黄褐色極細砂と 10YR2/3 黄褐色極細砂が混ざる
2. 10YR4/2 黄褐色極細砂
3. 10YR5/4 に近い黄褐色極細砂ブロック 10% 含む (10YR5/4 に近い黄褐色極細砂ブロック 10% 含む)
4. 10YR2/2 黄褐色極細砂 (10YR5/6 黄褐色極細砂ブロック 1% 含む)

【SK80009】

1. 10YR6/2 黄褐色極細砂 (10YR6/6 黄褐色極細砂ブロック 5%, 炭化物 1% 未調査)
2. 10YR4/3 に近い黄褐色極細砂 (10YR6/6 黄褐色極細砂ブロック 1%, 炭化物 1% 未調査)
3. 10YR2/3 黄褐色極細砂 (10YR6/6 黄褐色極細砂ブロック 5%, 炭化物 1% 未調査)
4. 10YR4/2 黄褐色極細砂 (10YR6/6 黄褐色極細砂ブロック 10%, 炭化物 1% 未調査)
5. 10YR2/4 黄褐色極細砂 (10YR6/6 黄褐色極細砂ブロック 1%, 炭化物 1% 未調査)
6. 10YR2/2 黄褐色極細砂 (10YR6/6 黄褐色極細砂ブロック 5%, 炭化物 1% 未調査)
7. 10YR2/2 黄褐色極細砂 (10YR6/6 黄褐色極細砂ブロック 5%, 炭化物 1% 未調査)
8. 10YR2/2 黄褐色極細砂 (10YR6/6 黄褐色極細砂ブロック 40% 含む)
9. 10YR2/2 黄褐色極細砂 (10YR6/6 黄褐色極細砂ブロック 20% 含む)

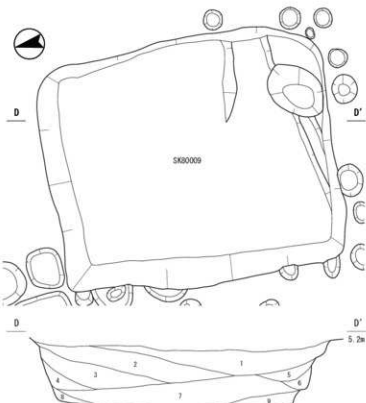
直に掘り込まれている。SK 80012 と重複している。

埋土から 18 世紀前半の陶器壺などが出土した。



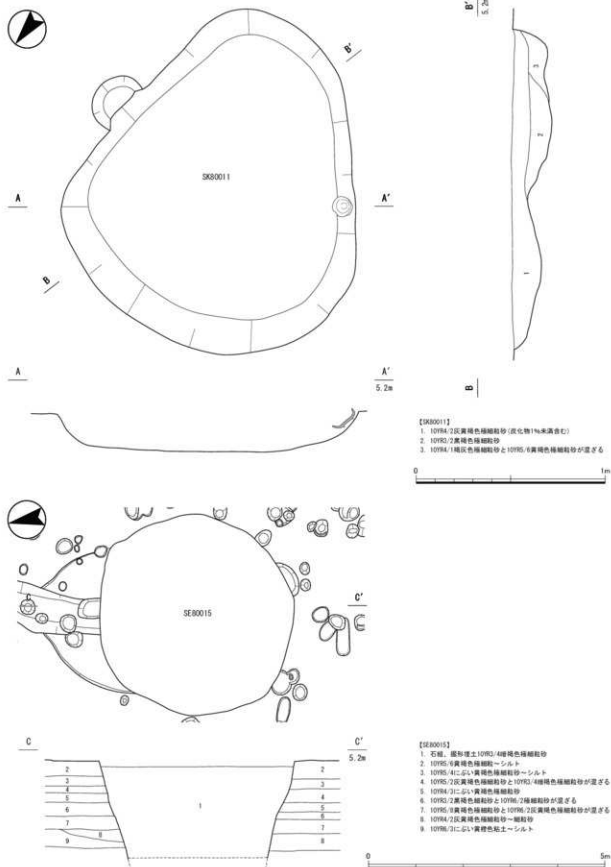
【SK80008】

1. 10YR4/3 に近い黄褐色極細砂 (埋土 1% 未調査)
2. 10YR4/2 黄褐色極細砂 (10YR5/6 黄褐色極細砂ブロック 1% 未調査)
3. 10YR4/2 黄褐色極細砂 (10YR5/6 黄褐色極細砂ブロック 40% 含む)
4. 10YR4/2 黄褐色極細砂 (10YR5/6 黄褐色極細砂ブロック 60% 含む)
5. 10YR4/2 黄褐色極細砂 (10YR5/6 黄褐色極細砂ブロック 20% 含む)
6. 10YR5/6 黄褐色極細砂 (10YR5/2 黄褐色極細砂ブロック 10% 含む)
7. 10YR4/2 黄褐色極細砂 (10YR5/6 黄褐色極細砂ブロック 30% 含む)



第Ⅲ-62 図 SK 80006, 80007, 80008, 80009, 80010 平面図・土層断面図 (1:50)





第Ⅲ-63図 SK 80011、SE 80015 平面図・土層断面図 (1:20、1:80)

SK 80006 (第Ⅲ-62図)

平面形は楕円形、規模は長軸 1.0m、短軸 0.9m、
検出面からの深さ 0.1m である。土坑と考えられる。

埋土の上層には砂礫が含まれていた。

埋土からの遺物の出土は確認できなかった。

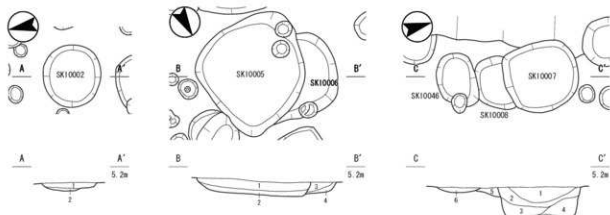
SK 80007 (第Ⅲ-62図)

平面形は細長い隅丸方形、規模は長辺 2.1m、短
辺 1.1m、検出面からの深さ 0.4m である。

埋土から陶器仏龕具、陶器土瓶、19 世紀前半の
磁器碗、砥石などが出土した。

SK 80008 (第Ⅲ-62図)

平面形は不整形、規模は長辺 1.9m、短辺 1.5m、



【SK10002】

1. 10YR6/3に多い黄褐色極細粒砂 (皮化物1%含む)
2. 10YR6/4に多い黄褐色極細粒砂 (皮化物1%含む)

【SK10005】

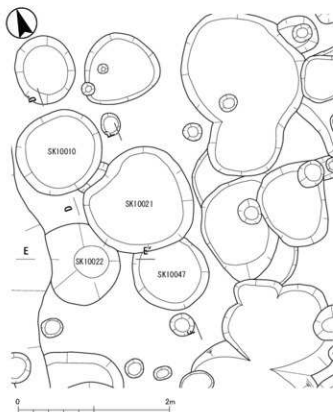
1. 10YR3/2暗褐色極細粒砂 (砂礫1%、10YR4/4褐色極細粒砂ブロック2%含む)
2. 10YR6/3に多い黄褐色極細粒砂 (10YR4/4褐色極細粒砂ブロック5%含む)

【SK10006】

3. 10YR6/2灰黄褐色極細粒砂
4. 10YR6/3に多い黄褐色極細粒砂 (10YR4/4褐色極細粒砂ブロック2%含む)

【SK10007】

1. 10YR3/2暗褐色極細粒砂 (10YR4/3に多い黄褐色極細粒砂ブロック2%含む)
2. 10YR3/4暗褐色極細粒砂 (10YR4/3に多い黄褐色極細粒砂ブロック2%含む)
3. 10YR4/4褐色極細粒砂 (10YR4/3に多い黄褐色極細粒砂ブロック1%含む)
4. 10YR3/2暗褐色極細粒砂 (10YR4/3に多い黄褐色極細粒砂ブロック2%含む)
5. 10YR4/6褐色極細粒砂 (10YR3/2暗褐色極細粒砂ブロック2%含む)
6. 10YR3/2暗褐色極細粒砂



【SK10010】

1. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂と10YR5/1褐色シルトが混ざる
2. 10YR3/2暗褐色極細粒砂 (10YR5/1黄褐色極細粒砂ブロック20%含む)
3. 10YR2/2黄褐色極細粒砂 (皮化物1%未満含む)
4. 10YR3/2暗褐色極細粒砂 (10YR5/1黄褐色極細粒砂ブロック10%含む)



【SK10022】

1. 10YR3/2暗褐色極細粒砂 (皮化物1%含む)
2. 10YR3/2暗褐色極細粒砂 (10YR4/3に多い黄褐色極細粒砂ブロック20%含む)



【SK10021】

1. 10YR4/4褐色極細粒砂と10YR5/6黄褐色極細粒砂ブロック40%含む
2. 10YR3/2暗褐色極細粒砂 (10YR5/6黄褐色極細粒砂ブロック1%含む)
3. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂 (10YR6/3に多い黄褐色シルトブロック5%含む)
4. 2. 5YR.3オリーブ褐色極細粒砂

第Ⅲ-64図 SK 10002, 10005, 10006, 10007, 10008, 10010, 10021, 10022 平面図・土層断面図 (1:50)

検出面からの深さ0.2mである。土坑と考えられる。

埋土から19世紀前半の磁器碗などが出土した。

SK 80009 (第Ⅲ-62 図)

平面形は隅丸長方形、規模は長軸3.8m、短軸3.3m、検出面からの深さは1.1mである。土坑と考えられる。底面はほぼ平坦となっていた。土坑の南側には階段状の段がある。

埋土から土師器皿、土師器鍋、瓦器碗、瓦器皿、須恵器鉢、須恵器甕、山茶碗、山皿、陶器卮皿、陶器鉢、15世紀前半の陶器搥鉢、陶器壺、陶器甕、緑釉陶器盤、白磁碗、青磁碗、青磁皿、石鍋、砥石、鉄製刀子、鉄製鋸などが出土した。出土遺物の時期は、12世紀前半と考えられる遺物もあり幅がある。

SK 80010 (第Ⅲ-62 図)

平面形は楕円形、規模は長軸1.5m、短軸1.3m、検出面からの深さ0.4mである。土坑と考えられる。

埋土から土師器皿、瓦質土器火鉢、陶器鉢、19世紀前半の陶器搥鉢、陶器壺、磁器碗、砥石などが出土した。出土遺物の時期は、18世紀前半と考えられる遺物もあり幅がある。

SK 80011 (第Ⅲ-63 図)

平面形は不整形、長軸1.8m、短軸1.6m、検出面からの深さ0.2mである。土坑と考えられる。ほぼ完形の陶器皿が遺構西端付近から出土した。

埋土から土師器皿、陶器皿、土師器焙烙、18世紀後半の磁器碗、陶器加工円盤、石製円盤状製品、砥石などが出土した。

SK 80012 (第Ⅲ-61 図)

平面形は楕円形、規模は直径1.4m、検出面からの深さ0.5mである。土坑と考えられる。遺構北部分でSK 80004と重複する。

埋土から遺物の出土は確認できなかった。

SE 80015 (第Ⅲ-63 図)

平面形は楕円形、規模は長軸2.7m、短軸2.6m、検出面から深さ1.3m以上である。石組井戸で、一辺30～40cmの方形の石が円形に積み上げられていた。埋土には塩ビ管が入り込んでいた。掘削の安全性などを踏まえ記録作成を行った。

埋土から土師器鍋、17世紀前半の陶器皿、陶器搥鉢、陶器甕、青磁碗、石製円盤状製品などが出土した。出土遺物の時期は、13世紀前半と考えられ

る遺物もあり、かなりの幅がある。

SK 80018 (第Ⅲ-61 図)

平面形は円形、規模は直径1.1m、検出面からの深さ0.4mである。土坑と考えられる。SK 80003と重複している。

埋土から18世紀代の瓦質土器鍋などが出土した。

SK 10002 (第Ⅲ-64 図)

平面形は円形、規模は直径0.8m、検出面からの深さ0.1mである。土坑と考えられる。

埋土からの遺物の出土は確認できなかった。

SK 10003

他遺構との重複などで全体を確認することができなかった。残存部分は長軸1.5m、短軸1.2m、検出面からの深さ0.3mである。土坑と考えられる。遺構の北側でSK 80018と重複している。

埋土から18世紀中頃遺構の土師器皿、陶器鉢などが出土した。

SK 10004

他遺構との重複などで全体を確認することができなかった。残存部分は長軸0.9m、短軸0.7m以上、検出面からの深さは0.3mである。土坑と考えられる。遺構の北側でSK 10003と重複している。

埋土から陶器鉢、19世紀中頃前後、磁器碗などが出土した。

SK 10005 (第Ⅲ-64 図)

平面形は隅丸方形、規模は長辺1.7m、短辺1.4m、検出面からの深さ0.2mである。土坑と考えられる。

埋土から土師器皿、18世紀中頃前後の陶器香炉などが出土した。

SK 10006 (第Ⅲ-64 図)

他遺構との重複などで全体を確認することができなかった。残存部分は長軸1.1m、短軸0.4m以上の規模、検出面からの深さ0.1mである。円形の土坑であったのではないだろうか。

埋土から遺物の出土は確認できなかった。

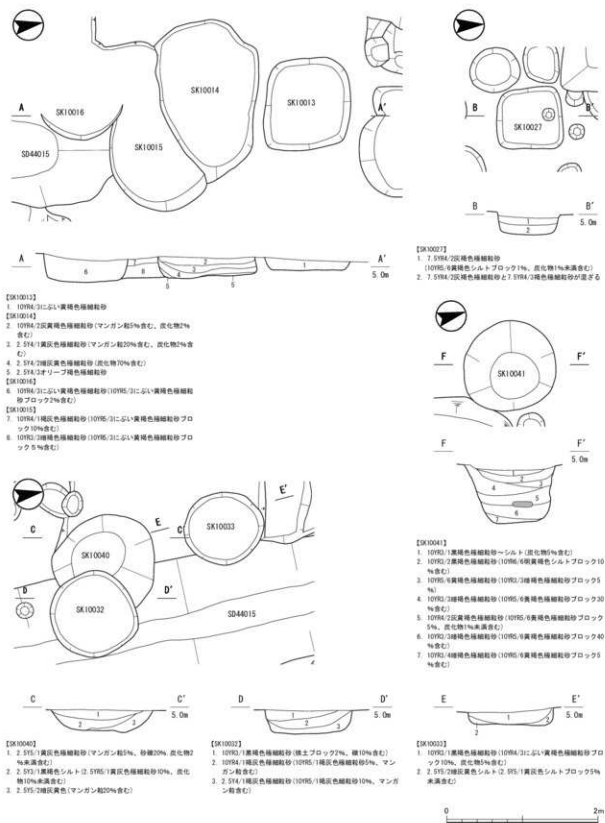
SK 10007 (第Ⅲ-64 図)

平面形は楕円形、規模は長軸1.0、短軸0.9m、検出面からの深さ0.4mである。土坑と考えられる。

埋土から古代の須恵器などが出土している。

SK 10008 (第Ⅲ-64 図)

他遺構との重複で全体を確認できなかった。残存



第三 -65 図 SK 10013, 10014, 10015, 10016, 10027, 10032, 10033, 10040, 10041 平面図・土層断面図 (1:50)

部分は長軸 0.7m、短軸 0.3m 以上、検出面からの深さ 0.1m である。SK 10007 と重複している。

埋土から遺物の出土は確認できなかった。

SK 10010 (第Ⅲ-64 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 1.2m、短軸 1.1m、検出面からの深さは 0.5m である。土坑と考えられる。埋土には 0.1 ~ 0.4m の礫が入り込んでいた。

埋土から近世の磁器碗などが出土した。

SK 10013 (第Ⅲ-65 図)

平面形は隅丸方形、規模は長辺 1.2m、短辺 1.1m、検出面からの深さ 0.1m である。土坑と考えられる。

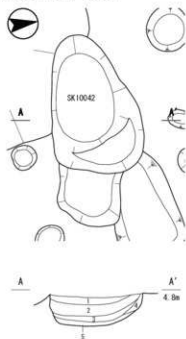
埋土から 17 世紀後半の陶器碗などが出土した。

SK 10014 (第Ⅲ-65 図)

平面形は不整形、規模は長軸 2.2m、短軸 1.3m、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。

埋土から 17 世紀後半の陶器茶入、磁器加工円盤などが出土した。

SK 10015 (第Ⅲ-65 図)



[SK10042]

1. 10YR2/3暗褐色細粒砂(灰化層、層1%未満含む)
2. 10YR4/1褐色細粒砂と10YR6/3に多い黄褐色細粒砂が混ざる(灰化層1%未満含む)
3. 10YR4/1褐色細粒砂(10YR5/6黄褐色シルトブロック5%未満含む)
4. 10YR2/3暗褐色細粒砂(10YR5/6黄褐色シルトブロック20%含む)
5. 10YR4/1褐色細粒砂と10YR6/3明黄褐色細粒砂が混ざる

0 2m

第Ⅲ-66 図 SK 10042, 10045 平面図・土層断面図 (1:50)

他遺構との重複などで全体を確認できなかった。残存部分は長軸 1.3m、短軸 1.0m 以上、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。遺構の北側で SK 10014、南側で SK 10016 と重複している。

埋土から 17 世紀前半の陶器描鉢などが出土した。SK 10016 (第Ⅲ-65 図)

捜乱などにより全体を確認できなかった。残存部分は長軸 1.1m、短軸 0.3m 以上、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。

埋土から 19 世紀初頭前後の陶器皿、陶器描鉢、磁器碗などが出土した。

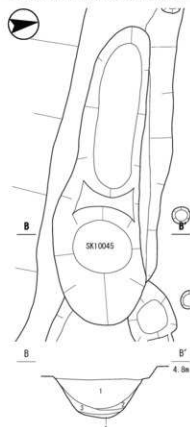
SK 10017

平面形は楕円形、規模は長軸 1.2m、短軸 1.0m、検出面からの深さ 0.4m である。土坑と考えられる。

埋土から土師器皿、13 世紀前半の山皿、土鍾などが出土した。

SK 10018

平面形は楕円形、規模は長軸 1.7m、短軸 1.5m、



[SK10045]

1. 2. 5Y4/3オリーブ褐色シルトと10YR5/6暗褐色細粒砂が混ざる
2. 2. 5Y5/2黄褐色細粒砂(2. 5Y5/3黄褐色細粒砂ブロック10%含む)
3. 2. 5Y5/2黄褐色細粒砂
4. 2. 5Y5/1黄褐色細粒砂

検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から 15 世紀前半の土師器皿などが出土した。
SK 10021 (第Ⅲ-64 図)

平面形は不整形円形、規模は長軸 1.5m、短軸 1.4m、
検出面からの深さは 0.3m である。土坑と考えられ
る。

埋土から 15 世紀前半の土師器皿、土師器茶釜、
山茶碗などが出土した。出土遺物の時期は、13 世
紀前半と考えられる遺物もあり幅がある。

SK 10022 (第Ⅲ-64 図)

他遺構との重複などで全体を確認できなかった。
残存部分は長軸 1.1m、短軸 0.9m 以上、検出面から
の深さ 0.3m である。土坑と考えられる。遺構西側
で SD 32006、北東側で SK 10021 と重複している。

埋土から遺物の出土は確認できなかった。

SK 10027 (第Ⅲ-65 図)

平面形は隅丸長方形、規模は長辺 0.9m、短辺 0.8m、
検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。
埋土には炭化物が含まれていた。

埋土から土師器皿、15 世紀代の須恵器鉢などが
出土した。

SK 10028

平面形は楕円形、規模は長軸 2.6m、短軸 1.2m、
検出面からの深さは 0.3m である。土坑と考えられ
る。

埋土から土師器皿、陶器碗、陶器壺、19 世紀前
半の磁器蓋などが出土した。

SK 10032 (第Ⅲ-65 図)

平面形は円形、規模は直径 1.1m、検出面からの
深さ 0.3m である。土坑と考えられる。SD 44015
と重複している。

埋土から土師器皿、土師器焙烙、陶器香炉、陶器
蓋、19 世紀前半の磁器猪口、青磁碗、敲石などが
出土した。出土遺物の時期は、17 世紀中頃前後と
考えられる遺物もあり幅がある。

SK 10033 (第Ⅲ-65 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 1.1m、短軸 1.0m、
検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から 17 世紀代の土師器焙烙などが出土した。

SK 10038

平面形は長方形、長辺 1.9m、短辺 1.2m、検出面
からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から 13 世紀前半の山皿などが出土した。

SK 10040 (第Ⅲ-65 図)

他遺構との重複などで全体を確認できなかった。
残存部分は長軸 1.4m、短軸 1.3m、検出面からの深
さは 0.3m である。遺構の東側で SK 10032 と重複
する。

埋土から土師器茶釜、18 世紀後半の磁器碗など
が出土した。出土遺物の時期は、16 世紀代と考え
られるものもあり幅がある。

SK 10041 (第Ⅲ-65 図)

平面形は円形、規模は直径 1.2m の円形、検出面
からの深さ 0.8m である。土坑と考えられる。ほぼ
垂直に掘り込まれ、底面は平坦であった。

埋土から土師器皿、13 世紀前半の山皿、石鍋、
鉄製 L 字状製品などが出土した。

SK 10042 (第Ⅲ-66 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 2.6m、短軸 1.2m、
検出面からの深さ 0.4m である。土坑と考えられる。

埋土から土師器皿、土師器焙烙、陶器碗、陶器皿、
陶器片口鉢、陶器土瓶、19 世紀中頃前後の磁器碗、
磁器小坏、磁器皿、土製魚形製品、土製炉壁、瓦、
砥石などが出土した。出土遺物の時期は、17 世紀
末前後と考えられる遺物もあり幅がある。

SK 10045 (第Ⅲ-66 図)

平面形は不整形円形、規模は長軸 4.0m、短軸 1.2m、
検出面からの深さ 0.5m である。土坑と考えられる。
SD 32006 と重複している。

埋土から土師器皿、陶器措鉢、磁器碗、19 世紀
前半の磁器蓋、磁器鉢、石製円盤状製品、鉄製鎌な
どが出土した。

SK 10047 (第Ⅲ-64 図)

他遺構との重複などで全体を確認できなかった。
残存部分は長軸 1.0m、短軸 0.8m 以上、検出面か
らの深さ 0.1m である。土坑と考えられる。遺構の
北側で SK 10021 と重複している。

埋土から遺物の出土は確認できなかった。

第5節 溝

溝については、記号はSDとした。軸の方向は、座標北から東西南北のいずれかに傾く。南北方向に延びるものはN〇°、E、N〇° Wと表記した。東西方向に延びるものはN〇° Eのみとした。遺構番号は、発掘調査は複数年度にわたっており、年度ごとに付与されている。そのため、遺構のつながりなどを整理したうえで、以下に報告する。溝の位置や規模などについては、第Ⅲ-8表～第Ⅲ-16表を参照ねがいたい。

SD 20022 (第Ⅲ-77図)

規模は、調査区内での延長21.1m以上、幅0.3～0.6m、検出面からの深さ0.1mである。軸の方向はN 92° E、東西方向に延びる溝である。L-D10で南側に屈曲する。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から山茶碗や14世紀前半の陶器皿などが出土した。出土遺物の時期は、13世紀前半と考えられるものもあり幅がある。14世紀前半までは存在したものといえよう。

SD 20028

規模は、調査区内での延長7.1m以上、幅0.3m以上、検出面からの深さ0.1mである。軸の方向がN 104° Eも溝である。途中で掘り込みが確認できなかった。調査時点のSD 80013とつながる。

埋土から陶器描鉢や16世紀代の土師器鍋などが出土した。出土遺物の時期は、若干の幅がある。16世紀代までは存在したものといえよう。

SD 20041 (第Ⅲ-77図)

規模は、調査区内での延長14.7m、幅0.3～0.8m、検出面からの深さ0.1mである。軸の方向はN 98° Eである。埋土から遺物の出土は確認できなかった。

SD 31001 (第Ⅲ-67図)

規模は、調査区内での延長2.0m以上、幅1.0～1.2m、検出面からの深さ0.5mである。断面形はU字状となる。軸の方向がN 20° Eの溝である。調査時点のSD 90002とつながる。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から土師器皿、15世紀前半の土師器鍋、須

恵器鉢、山茶碗、陶器皿、陶器壺、白磁碗、青磁碗、青白磁梅瓶、土鍾、磁石、磨石などが出土した。出土遺物の時期は、12世紀前半と考えられる遺物もあり幅がある。15世紀前半までは存在したものといえよう。

SD 31002 (第Ⅲ-67図)

規模は、調査区内での延長2.0m以上、幅0.5～1.0m、検出面からの深さ0.3mである。断面形はU字状となる。軸の方向がN 20° Eの溝である。調査時点のSD 70008とつながる。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から16世紀前半の土師器鍋、陶器壺などが出土した。出土遺物の時期は、14世紀前半と考えられる遺物もあり幅がある。16世紀前半までは存在したものであろう。

SD 31009 (第Ⅲ-67図)

規模は、調査区内での延長18.0m以上、幅0.3～0.9m、検出面からの深さ0.3mである。断面形はU字状となる。軸の方向はN 15° E、南北方向に延びる溝である。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から16世紀代の土師器鍋、石製円盤状製品などが出土した。16世紀代までは存在したものといえよう。

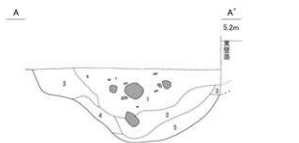
SD 31011 (第Ⅲ-67図)

規模は、調査区内での延長17.0m以上、幅0.5～0.7m、検出面からの深さ0.3mである。断面形はU字状となる。軸の方向はN 21° Eである。調査時点のSD 70017とつながる。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から16世紀代の土師器鍋、山茶碗、山皿、陶器鉢、陶器壺、青磁碗などが出土した。出土遺物の時期は、12世紀後半と考えられる遺物もあり幅がある。16世紀代までは存在したものであろう。

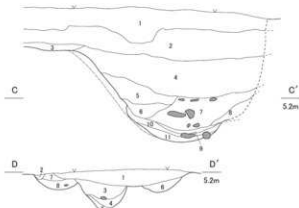
SD 31020 (第Ⅲ-67図)

規模は、調査区内での延長16.0m以上、幅0.4～0.7m、検出面からの深さ0.3～0.5mである。軸の方向はN 21° Eである。調査時点のSD 70018とつながる。建物などの周囲の状況から、土地を区分



[SD3006/41001]

1. 10YR6/4褐色シルト(礫含む、土層割大量に含む)
2. 2.5Y4/3C灰色砂質土
3. 2.5Y4/6灰褐色砂質土(10YR6/4褐色シルト20%含む)
4. 10YR6/3C灰色黄褐色砂質土(砂礫含む)
5. 2.5Y2/2暗褐色砂質土(砂礫含む)



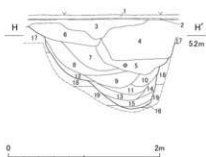
[SD31001-SD31002-SD31009-SK31010]

1. 10YR5/3C灰色黄褐色シルト→極細砂(10YR5/6黄褐色シルトプロの30%含む) [SK31010埋土]
2. 10YR3/2黄褐色シルト
3. 10YR3/3黄褐色シルト(皮化物2%含む) [SD31001埋土]
4. 10YR4/3C灰色黄褐色シルト→極細砂(10YR4/4褐色シルトが混ざる) [SD31001埋土]
5. 10YR4/2灰黄褐色シルト→極細砂(10YR4/4褐色シルトが混ざる) [SD31001埋土]
6. 10YR4/2灰黄褐色シルト(10YR6/4C灰色黄褐色シルト70%含む) [SD31009埋土]
7. 10YR6/4C灰色黄褐色シルト→極細砂 [SD31002埋土]
8. 10YR6/3C灰色黄褐色シルト→極細砂(10YR6/4C灰色黄褐色シルト50%含む) [SD31002埋土]



[SD31001-SD31002]

1. 10YR3/2黄褐色極細砂(10YR5/6黄褐色シルトプロの25%、礫含む) [SD31001埋土]
2. 10YR3/3黄褐色極細砂(礫、皮化物1%未満含む) [SD31001埋土]
3. 2.5YR3/4暗褐色極細砂 [SD31001埋土]
4. 10YR4/4暗褐色極細砂→シルト(10YR6/4C灰色黄褐色シルトプロの10%含む) [SD31002埋土]



[SD3006/43001]

1. 2.5Y4/3F褐色砂質土(礫、皮化物少量含む)
2. 2.5Y5/4暗褐色砂質土(皮化物微量含む)
- 2.5Y4/4暗褐色粘質土(礫、皮化物微量含む)
4. 2.5Y4/3F褐色粘質土(礫、皮化物微量含む)
5. 2.5Y5/4暗褐色粘質土(礫、皮化物微量含む)
6. 2.5Y5/2暗灰黄色粘土(礫、皮化物少量含む)

[SD3006/33001] 東壁

1. 2.5YR3/3暗褐色シルトと10YR6/4暗黄褐色極細砂→中粒砂が混ざる(礫含む)
2. 2.5YR3/4暗褐色シルト→極細砂(皮化物1%未満含む)
3. 2.5YR4/4暗褐色シルト→極細砂(砂多量含む)
4. 10YR3/3暗褐色シルト→細砂(礫含む) [SD33001埋土]
5. 10YR4/3C灰色黄褐色シルト→極細砂 [SD33001埋土]
6. 10YR4/2灰黄褐色シルト→極細砂 [SD33001埋土]
7. 10YR3/2黄褐色シルト→極細砂(礫含む) [SD33001埋土]
8. 10YR4/2灰黄褐色シルト [SD33001埋土]
9. 10YR5/2灰黄褐色粘土 [SD33001埋土]
10. 10YR3/2黄褐色極細砂(礫20%、皮化物1%未満含む) [SD33001埋土]
11. 10YR3/1黄褐色極細砂(礫30%含む) [SD33001埋土]



[SD31011]

1. 10YR4/3C灰色黄褐色シルト→粘土
2. 10YR4/2灰黄褐色シルト
3. 10YR4/2灰黄褐色シルトに10YR5/1暗灰色極細砂が混ざる



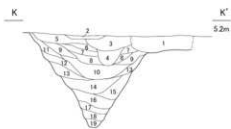
[SD31001-SD31002] 南壁

1. 10YR3/2黄褐色極細砂 [SD31001埋土]
2. 10YR3/3黄褐色極細砂(礫、皮化物1%未満含む) [SD31001埋土]
3. 2.5YR3/4暗褐色極細砂 [SD31001埋土]
4. 10YR4/4暗褐色極細砂→シルト(10YR6/4C灰色黄褐色シルトプロの10%含む) [SD31002埋土]
5. 10YR4/3C灰色黄褐色シルト→極細砂 [SD31009埋土]

[SD4015/39018]

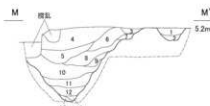
1. 砂石
2. 10YR7/6黄褐色シルト(埋土)
3. 10YR4/1灰色シルト(礫、皮化物含む) [埋土]
4. 砂石(コンクリート(埋土))
5. 2.5Y4/4暗褐色シルト→極細砂(礫、皮化物含む) [SD70018埋土]
6. 10YR6/3C灰色黄褐色シルト(礫含む) [SD70018埋土]
7. 10YR4/2灰黄褐色シルト(皮化物含む) [SD70018埋土]
8. 2.5Y4/2灰黄褐色シルト(皮化物含む) [SD70018埋土]
9. 10YR4/3C灰色黄褐色シルト(礫含む) [SD70018埋土]
10. 2.5Y4/2灰黄褐色極細砂と10YR5/6黄褐色極細砂が混ざる
11. 10YR4/3C灰色黄褐色シルト→粘土 [SD70018埋土]
12. 10YR4/3C灰色黄褐色シルトと10YR5/6黄褐色極細砂が混ざる [SD70018埋土]
13. 10YR5/3C灰色黄褐色シルト [SD70018埋土]
14. 10YR5/2灰黄褐色極細砂と10YR5/6黄褐色極細砂が混ざる [SD70018埋土]
15. 2.5Y4/3F褐色極細砂と2.5Y5/2暗灰黄色シルトが混ざる [SD70018埋土]
16. 2.5Y5/2暗灰黄色極細砂と2.5Y5/2暗灰黄色シルトが混ざる [SD70018埋土]
17. 10YR5/6黄褐色極細砂(遺構基盤層)
18. 2.5Y4/4暗褐色シルト→極細砂(遺構基盤層)
20. 2.5Y5/2暗灰黄色極細砂(遺構基盤層)

第三 -68 図 SD 31001, 31002, 31009, 31011, 32006, 44015 土層断面図 (1:50)



[SD44015/30023]

1. 7.5VRS/3層褐色砂礫層【埋戻土・市第5次調査区埋戻土】
2. 7.5VRS/1層褐色極細砂・砂礫層【埋戻土】
3. 2.5V4/2層7V褐色極細砂（埋戻土1%含む）
4. 2.5V4/2層埋戻土極細砂（2.5V4/2層埋戻土極細砂20%含む）【SD1003埋戻土】
5. 10VRS/2C/2層埋戻土極細砂（10VRS/2層埋戻土極細砂プロク1%含む）【SD1003埋戻土】
6. 10VRS/2C/2層埋戻土極細砂（10VRS/1層埋戻土極細砂プロク1%含む）【SD1003埋戻土】
7. 2.5V4/4層7V褐色極細砂（埋戻土2%含む）
8. 2.5V4/3層7V褐色極細砂（10VRS/1層埋戻土極細砂プロク1%含む）【SD1003埋戻土】
9. 10VRS/4層埋戻土極細砂（埋戻土1%未満含む）【SD1003埋戻土】
10. 10VRS/2層埋戻土極細砂（10VRS/3層7V褐色極細砂プロク20%含む）【SD1003埋戻土】
11. 10VRS/2C/2層埋戻土極細砂（10VRS/1層埋戻土極細砂プロク10%含む）【SD1003埋戻土】
12. 10VRS/3層埋戻土極細砂（10VRS/2C/2層埋戻土極細砂プロク5%含む）【SD1003埋戻土】
13. 10VRS/4層埋戻土極細砂（10VRS/2C/2層埋戻土極細砂プロク10%含む）【SD1003埋戻土】
14. 10VRS/2層埋戻土極細砂（10VRS/2C/2層埋戻土極細砂プロク20%含む）【SD1003埋戻土】
15. 10VRS/3層埋戻土極細砂（10VRS/2C/2層埋戻土極細砂プロク30%含む）【SD1003埋戻土】
16. 10VRS/2層埋戻土極細砂（10VRS/2C/2層埋戻土極細砂プロク50%含む）【SD1003埋戻土】
17. 10VRS/3層埋戻土極細砂（10VRS/2C/2層埋戻土極細砂プロク10%含む）【SD1003埋戻土】
18. 10VRS/3層埋戻土極細砂（10VRS/2C/2層埋戻土極細砂プロク5%、埋戻土1%未満含む）【SD1003埋戻土】
19. 10VRS/2C/2層埋戻土極細砂（10VRS/2C/2層埋戻土極細砂5%、埋戻土1%含む）【SD1003埋戻土】



[SD31002/70008・70009・44015/70010]

1. 10VRS/3層褐色シルト・極細砂【SD70008埋戻土】
2. 10VRS/2C/2層埋戻土極細砂【SD70008埋戻土】
3. 10VRS/2層埋戻土極細砂【SD70008埋戻土】
4. 埋戻土
5. 10VRS/2層埋戻土極細砂
6. 10VRS/2C/2層埋戻土極細砂（埋戻土1%未満含む）【SD70010埋戻土】
7. 10VRS/2C/2層埋戻土極細砂（埋戻土1%未満含む）【SD70010埋戻土】
8. 10VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土1%未満含む）【SD70010埋戻土】
9. 10VRS/2C/2層埋戻土極細砂（埋戻土5%、埋戻土1%未満含む）【SD70010埋戻土】
10. 10VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土5%未満含む）【SD70010埋戻土】
11. 10VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土5%未満含む）【SD70010埋戻土】
12. 10VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土5%未満含む）【SD70010埋戻土】
13. 10VRS/1層埋戻土極細砂（埋戻土5%未満含む）【SD70010埋戻土】
14. 10VRS/1層埋戻土極細砂（埋戻土5%未満含む）【SD70010埋戻土】
15. 10VRS/1層埋戻土極細砂（埋戻土5%未満含む）【SD70010埋戻土】



[SD44015/70010]

1. 10VRS/4C/2層埋戻土極細砂（埋戻土1%、埋戻土1%未満含む）
2. 10VRS/4層埋戻土極細砂（埋戻土1%未満含む）
3. 10VRS/2C/2層埋戻土極細砂（埋戻土1%未満含む）
4. 10VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土1%未満含む）
5. 10VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土1%未満含む）
6. 10VRS/2C/2層埋戻土極細砂（埋戻土1%未満含む）
7. 10VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土1%未満含む）
8. 10VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土1%未満含む）
9. 10VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土1%未満含む）
10. 10VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土1%未満含む）
11. 10VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土1%未満含む）
12. 10VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土1%未満含む）
13. 2.5V4/4層7V褐色極細砂（埋戻土2%未満含む）
14. 2.5V4/3層7V褐色極細砂（埋戻土2%未満含む）
15. 2.5V4/2層埋戻土極細砂（埋戻土2%未満含む）
16. 2.5V4/2層埋戻土極細砂（埋戻土2%未満含む）
17. 2.5V4/2層埋戻土極細砂（埋戻土2%未満含む）



[SD44020/1007]

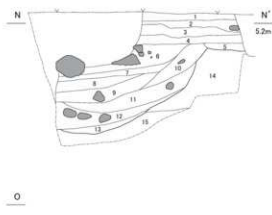
1. 10VRS/2層埋戻土極細砂
2. 10VRS/2C/2層埋戻土極細砂



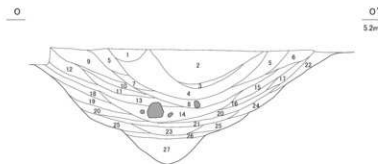
[SD31002/70008・44015/70010]

1. 2.5V4/3層7V褐色極細砂（埋戻土5%未満含む）
2. 5VRS/1層埋戻土極細砂（埋戻土5%未満含む）
3. 3.5VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土5%未満含む）
4. 3.5VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土5%未満含む）
5. 3.5VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土5%未満含む）
6. 3.5VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土5%未満含む）
7. 3.5VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土5%未満含む）
8. 3.5VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土5%未満含む）
9. 3.5VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土5%未満含む）
10. 3.5VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土5%未満含む）
11. 3.5VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土5%未満含む）
12. 3.5VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土5%未満含む）
13. 3.5VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土5%未満含む）
14. 3.5VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土5%未満含む）
15. 3.5VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土5%未満含む）
16. 3.5VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土5%未満含む）
17. 3.5VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土5%未満含む）
18. 3.5VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土5%未満含む）
19. 3.5VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土5%未満含む）
20. 3.5VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土5%未満含む）
21. 3.5VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土5%未満含む）
22. 3.5VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土5%未満含む）
23. 3.5VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土5%未満含む）
24. 3.5VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土5%未満含む）
25. 3.5VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土5%未満含む）
26. 3.5VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土5%未満含む）
27. 3.5VRS/2層埋戻土極細砂（埋戻土5%未満含む）

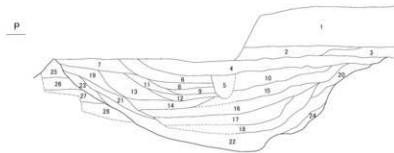
第三 -70 図 SD 31002, 44015, 44030 土層断面図 (1:50)



- [SD32006/70001]
1. 10YR6-4C(灰・黄褐色シルト〔表土〕)
 2. 25Y4-2R(灰黄色粘土〔表土〕)
 3. 10YR6-3C(灰・黄褐色シルト〔砂礫含む〕)〔遺物包含層〕
 4. 10YR6-4(褐色シルト〔10YR6-4明黄褐色シルトプロック5%, 砂礫、炭化物含む〕)
 5. 10YR6-3C(灰・黄褐色シルト〔10YR6-4明黄褐色シルトプロック20%含む〕)
 6. 10YR6-3C(灰・黄褐色シルト〔10YR6-4C(灰・黄褐色シルトプロック, 礫含む)〔SD70-001〕])
 7. 10YR6-2(灰黄褐色シルト〔SD70001〕埋土)
 8. 25Y4-2R(グリープ褐色シルト〔SD70001〕埋土)
 9. 10YR6-2(灰黄褐色シルト〔礫含む)〔SD70001〕埋土)
 10. 25Y4-4R(グリープ褐色シルト〔礫含む)〔SD70001〕埋土)
 11. 25Y4-2R(グリープ褐色シルト〔炭化物含む)〔SD70001〕埋土)
 12. 10YR3-2(暗褐色シルト→暗褐色砂〔礫含む)〔SD70001〕埋土)
 13. 25Y3-2(暗グリープ褐色砂〔SD70001〕埋土)
 14. 10YR6-4(黄褐色シルト→暗褐色砂〔礫含む])
 15. 7.5Y5-1(灰色砂礫砂と10YR6-4明黄褐色砂礫砂が混じる〔礫出面])



- [SD32006/10001]
1. 10YR6-3C(灰・黄褐色砂礫砂と10YR6-2(灰黄褐色砂礫砂が混じる)〔砂礫10%未満含む〕)
 2. 10YR6-4(褐色砂礫砂〔10YR6-4黄褐色シルトプロック20%, 砂礫10%含む〕)
 3. 10YR6-4(暗褐色砂礫砂〔炭化物1%未満含む〕)
 4. 10YR6-2(灰黄褐色砂礫砂〔砂礫20%含む〕)
 5. 10YR6-3C(灰・黄褐色砂礫砂)
 6. 10YR6-4(褐色砂礫砂〔10YR6-2(灰黄褐色砂礫砂プロック10%含む〕)
 7. 10YR6-3C(灰・黄褐色砂礫砂)
 8. 10YR6-4(褐色砂礫砂)
 9. 10YR6-4(褐色砂礫砂と10YR6-4C(灰・黄褐色砂礫砂が混じる))
 10. 10YR6-4C(灰・黄褐色砂礫砂→シルト)
 11. 10YR6-3C(灰・黄褐色砂礫砂→シルト)
 12. 10YR6-4C(灰・黄褐色砂礫砂)
 13. 10YR6-4(褐色砂礫砂)
 14. 10YR6-4C(灰・黄褐色砂礫砂→シルト〔砂礫10%未満含む〕)
 15. 10YR6-3C(灰・黄褐色砂礫砂)
 16. 25Y3-2(黄褐色砂礫砂)
 17. 25Y3-2(灰黄褐色砂礫砂)
 18. 10YR6-4C(灰・黄褐色砂礫砂→シルト)
 19. 10YR6-4C(灰・黄褐色砂礫砂→シルト)
 20. 10YR6-3C(灰・黄褐色砂礫砂→シルト)
 21. 25Y4-2R(灰・黄褐色砂礫砂→シルト)
 22. 25Y3-2(暗灰黄褐色砂礫砂)
 23. 25Y3-1(黄褐色砂礫砂と25Y3-4(黄褐色砂礫砂が混じる))
 24. 25Y3-4(黄褐色砂礫砂)
 25. 25Y3-1(黄褐色砂礫砂と7.5YR6-4(褐色砂礫砂が3%以下に混雑))
 26. 5YR-2(グリープ砂礫砂と3YR6-2(暗褐色砂礫砂が2%以下に混雑))
 27. 5YR-2(グリープ砂礫砂→中砂礫と3YR6-4C(灰・黄褐色砂礫砂が3%以下に混雑))



- [SD32006]
1. 25Y3-1(黄褐色砂礫砂→砂礫〔埋戻土〕)
 2. 25Y3-2(黄褐色砂礫砂→暗砂礫〔グリープ褐色砂礫砂20%含む〕)
 - 2.5Y3-2(暗グリープ褐色砂礫砂〔砂礫1%未満, 炭化物5%含む〕)
 4. 10YR3-2(暗褐色砂礫砂→暗砂礫〔灰白色シルトプロック5%, 礫、炭化物30%含む〕)
 5. 10YR6-2(灰黄褐色砂礫砂→暗砂礫〔炭化物1%未満含む〕)
 6. 25Y4-2(灰黄褐色砂礫砂→暗砂礫〔黄褐色砂礫砂10%含む〕)
 7. 10YR6-2(灰黄褐色シルト)
 8. 25Y4-3(グリープ褐色シルト〔炭化物1%未満含む〕)
 9. 25Y3-2(黄褐色シルト〔褐色シルトプロック5%, 炭化物5%含む〕)
 10. 10YR3-2(暗褐色砂礫砂→暗砂礫〔砂礫2%, 炭化物1%含む〕)
 11. 10YR3-2(暗褐色砂礫砂→暗砂礫〔砂礫20%含む〕)
 12. 10YR3-2(暗褐色シルト〔礫5%含む〕)
 13. 10YR6-3C(灰・黄褐色シルト〔炭化物1%未満含む〕)
 14. 10YR6-2(灰黄褐色シルト)
 15. 10YR6-3C(灰・黄褐色シルト→暗褐色砂礫〔砂礫1%未満含む〕)
 16. 10YR6-2(黄褐色シルト→暗褐色砂礫〔礫含む〕)
 17. 10YR3-2(黄褐色シルト〔灰白色シルトプロック20%, 炭化物1%未満含む〕)
 18. 10YR3-2(暗褐色シルト〔灰白色シルトプロック10%, 炭化物含む〕)
 19. 10YR6-3C(灰・黄褐色砂礫砂)
 20. 7.5YR6-2(暗褐色シルト〔灰白色シルトプロック5%含む〕)
 21. 10YR6-4(暗褐色シルト→暗褐色砂礫)
 22. 10YR3-2(暗褐色シルト〔灰白色シルトプロック5%, 炭化物含む〕)
 23. 25Y4-2(暗灰黄褐色砂礫砂〔黄褐色砂礫砂5%含む〕)
 24. 10YR6-4C(灰・黄褐色砂礫砂→シルト〔埋戻土〕)
 25. 10YR6-4C(灰・黄褐色砂礫砂→シルト〔埋戻土〕)
 26. 10YR6-4(黄褐色砂礫砂〔礫出面])
 27. 25Y4-2(グリープ褐色砂礫砂→暗砂礫〔礫出面])
 28. 25Y3-4(黄褐色シルト→暗褐色砂礫〔礫出面])

第三 -71 図 SD 32006 土層断面図 (1:50)

するためのものといえよう。

埋土から14世紀代の土師器羽釜、山茶碗などが出土した。14世紀代までは存在したものといえよう。

SD 32004 (第Ⅲ-67図)

規模は、調査区内での延長18.5m以上、幅0.3～1.5m、検出面からの深さ0.1～0.5mである。断面形は逆三角形状となる。調査時点のSD 33002、SD 42007とつながる。軸の方向はN 21° Eである。

埋土から土師器皿、13世紀前半の山茶碗、陶器鉢、白磁碗、鉄製釘などが出土した。出土遺物の時期は、12世紀前半と考えられる遺物もあり幅がある。13

世紀前半までは存在したものであろう。

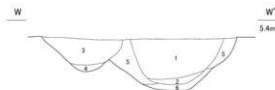
SD 32006 (第Ⅲ-67図)

規模は、調査区内での延長30.5m以上、幅2.0～3.3m、検出面からの深さ0.3～1.1mである。断面形はU字状である。軸の方向はN 11° E、南北方向に延びる溝である。調査時点のSD 33001、SD 36001、SD 41001、SD 42009、SD 43003、SD 70001、SD 70011、SD 90001、SD 10001につながる。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から土師器皿、土師器鍋、土師器焙烙、土師器羽釜、須恵器鉢、山茶碗、山皿、陶器碗、陶器皿、



- 【SD32004(33002-33006) 埋土】
1. 10YR4-2黄褐色シルトに10YR5-6黄褐色シルトが少量混ざる
 2. 10YR4-4褐色シルト～縁組粒砂に10YR5-6黄褐色シルトが少量混ざる
 3. 10YR3-2黄褐色シルト～縁組粒砂【SD33006埋土】
 4. 10YR3-3黄褐色シルト(縁組粒砂)【SD33002埋土】
 5. 10YR4-3C灰黄褐色シルト【SD33002埋土】



- 【SD32004(33002-33004-33006)】
1. 10YR4-4褐色シルトに10YR5-6黄褐色シルトが少量混ざる【SD33004埋土】
 2. 10YR5-3C灰黄褐色シルト～縁組粒砂(縁組粒、炭化物、餅少量含む)【SD33004埋土】
 3. 10YR3-2黄褐色シルト(縁組粒含む)【SD33006】
 4. 10YR5-3C灰黄褐色シルト【SD33006】
 5. 10YR4-4褐色シルト～縁組粒砂に10YR5-6黄褐色シルトが少量混ざる【SD33002埋土】
 6. 10YR5-4C灰黄褐色縁組粒砂【SD33002埋土】



- 【SD32004(33004-33006)】
1. 10YR3-4黄褐色シルトに10YR5-6黄褐色シルトが少量混ざる【SD33004埋土】
 2. 10YR5-3C灰黄褐色シルト～縁組粒砂(炭化物、餅少量含む)【SD33004埋土】
 3. 10YR3-2黄褐色シルト(縁組粒含む)【SD33006埋土】
 4. 2.5Y4-3灰黄褐色シルト～縁組粒砂【SD33003埋土】



- 【SD32006(33002-33004-33006)】
1. 10YR3-2黄褐色シルト～縁組粒砂【SD33006埋土】
 2. 10YR3-3黄褐色シルトに10YR5-6黄褐色シルトが少量混ざる【SD33006埋土】
 3. 10YR4-3C灰黄褐色シルト【SD33002埋土】
 4. 10YR4-4褐色シルトに10YR5-6黄褐色シルトが少量混ざる(炭化物、餅少量含む)【SD33004埋土】



- 【SD33004】
1. 10YR3-4黄褐色シルトに10YR5-6黄褐色シルトが少量混ざる
 2. 10YR5-3C灰黄褐色シルト～縁組粒砂(炭化物、餅少量含む)



- 【SD33012】
1. 10YR3-2黄褐色シルト～縁組粒砂(10YR5-6黄褐色シルトが少量混ざる、餅含む)
 2. 10YR4-4褐色シルト～縁組粒砂(10YR5-6黄褐色シルトが少量混ざる)



- 【SD33012】
1. 10YR3-2黄褐色シルト～縁組粒砂(10YR5-6黄褐色シルトが少量混ざる、餅含む)
 2. 10YR4-4褐色シルト～縁組粒砂(10YR5-6黄褐色シルトが少量混ざる、餅含む)

第Ⅲ-73図 SD 32004, 33004, 33006, 33012 土層断面図 (1:50)

陶器香炉、陶器鉢、陶器壺、19世紀前半の磁器碗、磁器皿、磁器瓶、磁器仏花瓶、磁器鉢、白磁碗、白磁壺、青磁碗、青磁壺、青花磁器碗、瓦、石鍋、鉄製釘などが大量に出土した。出土遺物の時期は、12世紀前半と考えられる遺物もあり幅がある。19世紀前半までは断続的に存在したものでいよう。

SD 33004 (第Ⅲ-72 図)

規模は、調査区内での延長26.5m、幅0.8～2.0m、検出面からの深さ0.3～0.7mである。断面形はU字状となる。軸の方向はN 95° E、東西方向に延びる溝である。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から土師器皿、14世紀後半の土師器鍋、土師器羽釜、山茶碗、山皿、陶器卸皿、陶器鉢、陶器壺、陶器甕、青磁碗、鉄製釘などが出土した。出土遺物の時期は、13世紀前半と考えられる遺物もあり幅がある。14世紀後半までは存在したものであろう。

SD 33006 (第Ⅲ-72 図)

規模は、調査区内での延長10.0m以上、幅0.7～1.0m、検出面からの深さ0.3～0.4mである。断面形は逆三角形形状となる。軸の方向がN 84° Eの溝である。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から17世紀前半の土師器鍋、山皿などが出



第Ⅲ-74 図 溝平面図4 (1:300)

土した。出土遺物の時期は、14世紀前半と考えられる遺物もありかなりの幅がある。17世紀前半までは断続的に存在したものとしよう。

SD 33012 (第三-72 図)

規模は、調査区内での延長14.0m以上、幅1.7m、検出面からの深さ0.3～0.5mである。断面形はU字状となる。軸の方向はN90°E、東西方向に延びる溝である。

埋土から土師皿、17世紀前半の土師器鍋、瓦器皿、山茶碗、山皿、天目茶碗、陶器鉢、陶器壺、白磁皿、青磁碗、青白磁梅瓶などが出土した。出土遺物の時期は、13世紀と考えられる遺物もありかなりの幅がある。17世紀前半までは断続的に存在したものである。

SD 35003 (第三-75 図)

規模は、調査区内での延長16.0m以上、幅1.0～1.4m、検出面からの深さ0.2～0.6mである。断面形は逆三角形状となる。軸の方向はN95°E、東西方向に延びる溝である。調査時点のSD 36005、SD 51003につながる。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から土師器鍋、山茶碗、陶器皿、陶器碗、16世紀後半の陶器描鉢、陶器壺、陶器甕などが出土した。出土遺物の時期は、13世紀前半と考えられる遺物もあり、かなりの幅がある。16世紀後半までは断続的に存在したものとしよう。

SD 35004 (第三-75 図)

規模は、調査区内での延長20.0m以上、幅2.5～5.0m、検出面からの深さ0.9～1.5mである。断面形は逆三角形状となる。軸の方向はN95°Eである。調査時点のSD 36002、SD 44021、SD 51001、SD 70004につながる。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から土師器皿、土師器鍋、土師器焙烙、瓦質土器羽釜、灰釉陶器碗、山茶碗、山皿、19世紀前半の陶器碗、天目茶碗、陶器皿、陶器卸皿、陶器鉢、陶器片口鉢、19世紀前半の陶器描鉢、陶器火鉢、陶器花瓶、陶器甕、磁器碗、磁器皿、白磁碗、白磁壺、青磁碗、青磁香炉、青磁壺、瓦、石鍋、石製碾白、砥石、石製円盤状製品、鉄鉢、鉄製小札、鉄製釘などが出土した。出土遺物の時期は、9世紀前半と考

えられる遺物もあり、かなりの幅がある。19世紀前半までは断続的に存在したものであろう。

SD 35007 (第三-75 図)

規模は、調査区内での延長20.0m以上、幅0.7～1.5m、検出面からの深さ0.2～0.6mである。断面形はU字状となる。軸の方向はN91°E、東西方向に延びる溝である。調査時点のSD 36008につながる。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から18世紀中頃以降の土師器皿、土師器鍋、山茶碗、山皿、天目茶碗、陶器片口鉢、陶器描鉢、陶器壺、陶器甕、白磁碗、白磁皿、白磁壺、軒丸瓦などが出土した。出土遺物の時期は、12世紀中頃前後と考えられる遺物もあり幅がある。18世紀中頃以降までは断続的に存在したものとしよう。

SD 36003 (第三-75 図)

規模は、調査区内での延長12.0m以上、幅1.5m、検出面からの深さ0.1～0.5mである。断面形はU字状となる。軸の方向がN95°Eの溝である。調査時点のSD 51005、SD 70003につながる。

埋土から土師器皿、土師器焙烙、山茶碗、陶器碗、陶器皿、陶器鉢、19世紀前半の陶器描鉢、陶器徳利、陶器壺、磁器仏具、土製人形、石製碾白などが出土した。出土遺物の時期は、13世紀前半と考えられる遺物もあり、かなりの幅がある。19世紀前半までは断続的に存在したものであろう。

SD 36006 (第三-75 図)

規模は、調査区内での延長10.0m以上、幅1.4m、検出面からの深さ1.0mである。軸の方向がN95°Eの溝である。

埋土から山茶碗、17世紀代以降の銅製銭貨などが出土した。出土遺物の時期は、13世紀前半と考えられる遺物もあり幅がある。17世紀代までは断続的に存在したものとしよう。

SD 36009

規模は、調査区内での延長3.5m以上、幅1.0m以上、検出面からの深さ0.1～0.2mである。軸の方向がN11°Eの溝である。調査時点のSD 80001につながる。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から14世紀前半の土師器鍋、土師器羽釜、



第Ⅲ-75 圖 溝平面圖5、SD 35003, 35007, 36003, 51024, 70007土層断面圖(1:300、1:50)

青磁碗などが出土した。出土遺物の時期は、12世紀後半と考えられる遺物もあり幅がある。14世紀前半までは断続的に存在したものであろう。

SD 37002 (第Ⅲ-74図)

規模は、調査区内での延長19.0m以上、幅0.5～0.9m、検出面からの深さ0.1～0.3mである。軸の方向はN 0°、南北方向に延びる溝である。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から13世紀前半の山茶碗などが出土した。13世紀前半までは断続的に存在したものでいえよう。

SD 37005 (第Ⅲ-74図)

規模は、調査区内での延長15.0m以上、幅0.7～1.0m、検出面からの深さ0.3mである。軸の方向は

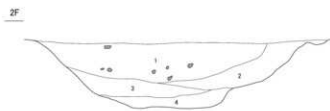
N 69° E、東西方向に延びる溝である。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から15世紀前半の土師器鍋などが出土した。15世紀前半までは断続的に存在したものであろう。

SD 37007 (第Ⅲ-74図)

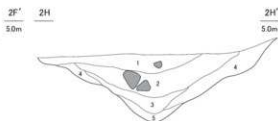
規模は、調査区内での延長27.0m以上、幅0.2～3.0m、検出面からの深さ0.1～0.8mである。軸の方向はN 75° E、東西方向に延びる溝である。調査時点のSD 37011、SD 53004、SD 53005につながる。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から15世紀後半の土師器鍋、山茶碗、陶器鉢、陶器壺、陶器甕などが出土した。出土遺物の時期は、13世紀前半と考えられる遺物もあり幅がある。15



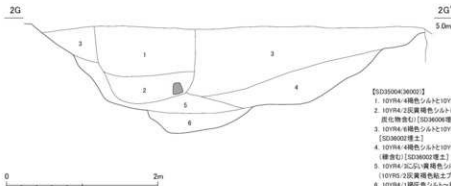
【SD35004】西壁

1. 10YR3-2暗褐色シルト～暗褐色砂(燐、炭化物含む)
2. 10YR4-4褐色シルト～暗褐色砂(西山プロック含む)
3. 10YR4-2灰黄褐色暗褐色砂(10YR5-1褐色シルトプロック10%、マンゴを含む)
4. 10YR4-2灰黄褐色暗褐色砂～暗褐色(10YR5-1褐色粘土プロック含む)



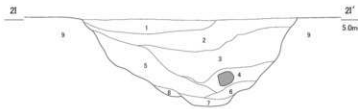
【SD53004S1001】

1. 10YR4-2灰黄褐色砂質土(炭化物、炭分含む)
2. 10YR4-3C5-5黄褐色砂質土(炭化物多量含む、燐含む)
3. 2.5Y5-4C5-5黄褐色砂質土(炭化物、燐含む)
4. 2.5Y7-4黄褐色砂質土
5. 2.5Y7-1灰白色砂質シルト(炭分多量含む、炭化物少量含む)



【SD35004S0002】

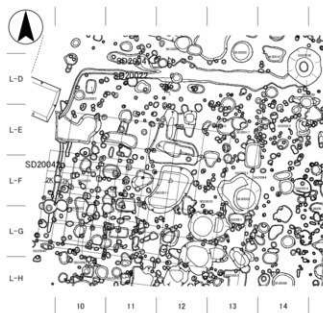
1. 10YR4-4褐色シルトと10YR3-2暗褐色シルトが混ざる【SD36000埋土】
2. 10YR4-2灰黄褐色シルト・10YR4-1黄灰色粘土プロック80%、マンゴ、炭化物含む【SD36000埋土】
3. 10YR4-6褐色シルトと10YR5-8黄褐色シルトが混ざる(燐含む)【SD36002埋土】
4. 10YR4-4褐色シルトと10YR5-8黄褐色シルト～暗褐色砂が混ざる(燐含む)【SD36002埋土】
5. 10YR4-3C5-5黄褐色シルトと10YR5-8黄褐色シルト～暗褐色砂が混ざる(10YR5-2灰黄褐色粘土プロック含む)【SD36002埋土】
6. 10YR4-1褐色シルト～暗褐色砂【SD36002埋土】



【SD35006A0021】

1. 2.5Y5-4C5-5黄褐色砂質土
2. 2.5Y4-2黄褐色暗褐色砂(燐含む)
3. 2.5Y4-2黄褐色暗褐色砂(燐含む)
4. 2.5Y4-2黄褐色暗褐色砂(燐含む)
5. 2.5Y4-2黄褐色暗褐色砂(燐含む)
6. 2.5Y5-2黄褐色砂質土
7. 2.5Y5-2黄褐色砂質土
8. 2.5Y5-2黄褐色砂質土C3Y5-2灰白色粘土(燐分含む)
9. 2.5Y5-8黄褐色暗褐色砂(燐分含む)

第Ⅲ-76図 SD 35004土層断面図(1:50)



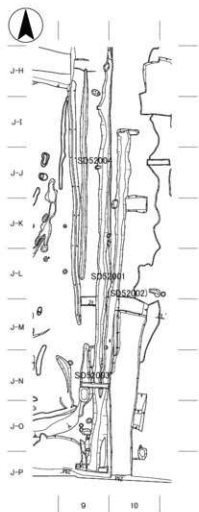
【SD2002-2004】

1. 10VR3-3黄褐色シルト・2SV5-3黄褐色極細砂・ブロック9%含む【SD2002埋土】
2. 10VR4-2灰黄褐色シルト・極細砂【2SV5-3黄褐色極細砂・ブロック10%含む】【SD2002埋土】
3. 10VR4-3にない黄褐色シルト・極細砂【SD2004埋土】
4. 10VR4-3にない黄褐色シルト・2SV5-4Cにない黄褐色極細砂・ブロック20%含む【SD2004埋土】
5. 10VR5-6黄褐色シルト・極細砂【掘出層】



【SD2002】

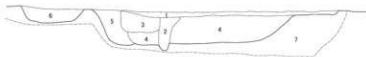
1. 10VR2-3黄褐色シルト・2SV5-3黄褐色極細砂・ブロック20%未満含む【SD2002埋土】
2. 10VR4-2灰黄褐色シルト・2SV5-3黄褐色極細砂・ブロック10%未満含む【SD2002埋土】
3. 10VR5-6黄褐色シルト・極細砂【掘出層】



2L

2L'

5.2m



【SD51004/52002-52001】

1. 10VR7-2にない黄褐色砂質土・掘多量含む【埋土】
2. 5SV5-1灰色シルト粘土・炭化物含む【埋土】
3. 5VR-2灰オリーブ色細砂【埋土、水道管埋土】
4. 7SV6-1灰色シルト粘土・炭化物含む【埋土】
5. 2SV7-3黄褐色砂質土【SD52002】
6. 10VR5-3灰黄褐色砂質土【SD52001】
7. 5VR-3灰・アープ黄褐色砂質土・掘少量含む



【SD51004/52002-52001-52003】

1. 10VR7-2にない黄褐色砂質土・掘多量含む【埋土】
2. 10VR6-4Cにない黄褐色砂質土【埋土】
3. 10VR6-4Cにない黄褐色砂質土・掘多量含む【埋土】
4. 2SV6-2灰黄褐色砂質土・掘少量含む【SD52003】
5. 5SV7-1灰白色細砂【埋土】
6. 2SV7-3灰黄褐色シルト粘土【埋土】
7. 5V7-3灰黄褐色細砂・掘少量含む【埋土】
8. 10VR7-2にない黄褐色砂質土・10VR6-2灰白色粘土・ブロック含む【埋土】

9. 2SV6-2にない黄褐色シルト粘土【SD52001】
10. 5VR-3灰・アープ黄褐色シルト粘土・掘少量含む【SD52002】
11. 5V7-2灰白色シルト粘土・掘少量含む【埋土】
12. 10VR6-2にない黄褐色砂質土・10VR6-2灰白色粘土・ブロック含む【埋土】
13. 10VR6-6黄褐色シルト・黄褐色砂質土

0 2m

第Ⅲ-77図 溝平面図6、SD 20022, 20041, 51024, 52001, 52003土層断面図 (1:300, 1:50)

世紀後半までは断続的に存在したものであろう。

SD 43001 (第三-67, 72 図)

規模は、調査区内での延長 40.0m 以上、幅 1.6 ~ 2.3m、検出面からの深さ 0.7 ~ 0.9m である。断面形は逆三角形となる。軸の方向は N 90° E、東西の方位にのった溝である。調査時点の SD 70012 につながる。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から土師器皿、土師器鉢、土師器鍋、土師器羽釜、15 世紀代の須恵器鉢、山茶碗、山皿、陶器碗、陶器皿、陶器鉢、陶器壺、白磁碗、白磁壺、土鍾、石鍋、砥石、鉄製釘、銅製筭などが出土した。出土遺物の時期は、12 世紀前半と考えられる遺物もあり幅がある。15 世紀代までは断続的に存在したもののといえよう。

SD 44015 (第三-67, 72 図)

規模は、調査区内での延長 35.0m 以上、幅 1.5 ~ 1.7m、検出面からの深さ 0.9 ~ 1.1m である。断面形は逆三角形となる。軸の方向は N 18° E、南北方向に延びる溝である。L-M3 で N 104° E の方向に屈曲する。調査時点の SD 51022、SD 70010、SD 70016、SD 10023 につながる。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から土師器皿、土師器鍋、土師器焙烙、土師器羽釜、須恵器鉢、山茶碗、陶器皿、19 世紀後半の陶器播鉢、陶器甕または壺、磁器碗、白磁碗、青磁皿、青磁香炉、砥石などが出土した。出土遺物の時期は、12 世紀前半と考えられる遺物もあり、かなりの幅がある。19 世紀後半までは断続的に存在したものであろう。

SD 44030 (第三-69 図)

規模は、調査区内での延長 27.5m、幅 0.9 ~ 2.2m、検出面からの深さ 0.2 ~ 1.2m である。断面形は U 字状となる。軸の方向は N 105° E の東西方向に延びる溝である。J-U8 で N 17° E の方向に屈曲する。調査時点の SD 51007 につながる。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から 16 世紀後半の土師器鍋、山茶碗、天目茶碗、陶器鉢、青磁器台などが出土した。出土遺物の時期は、13 世紀前半と考えられる遺物もあり幅

がある。16 世紀後半までは断続的に存在したもののといえよう。

SD 51002 (第三-69 図)

規模は、調査区内での延長 16.0m 以上、幅 0.9m、検出面からの深さ 0.3m である。軸の方向は N 83° E、東西方向に延びる溝である。

埋土から土師器焙烙、山茶碗、18 世紀中頃前後の陶器碗、天目茶碗、陶器皿、陶器播鉢、陶器壺、磁器碗、白磁碗、青磁碗などが出土した。出土遺物の時期は、12 世紀前半と考えられる遺物もあり、かなりの幅がある。18 世紀中頃までは断続的に存在したものであろう。

SD 51024 (第三-74 図)

規模は、調査区内での延長 27.2m 以上、幅 0.5 ~ 1.8m、検出面からの深さ 0.2 ~ 0.6m である。断面形は U 字状となる。軸の方向は N 4° E、南北方向に延びる溝である。調査時点の SD 52002、SD 70006 につながる。

埋土から土師器羽釜、瓦質土師器釜、灰陶器碗、山茶碗、山皿、17 世紀後半の陶器碗、白磁碗などが出土した。出土遺物の時期は、11 世紀前半と考えられる遺物もあり、かなりの幅がある。17 世紀後半までは断続的に存在したもののといえよう。

SD 52001 (第三-77 図)

規模は、調査区内での延長 32.0m 前後、幅 0.7 ~ 1.0m、検出面からの深さ 0.2 ~ 0.3m である。断面形は U 字状となる。軸の方向は N 1° E、南北方向に延びる溝である。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から土師器皿、土師器鍋、瓦器碗、瓦質土師器羽釜、山茶碗、山皿、19 世紀前半の陶器碗、陶器鉢、磁器碗、青磁碗、石鍋、銅製銭貨などが出土した。出土遺物の時期は、13 世紀前半と考えられる遺物もあり、かなりの幅がある。19 世紀前半までは断続的に存在したものであろう。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

SD 52003 (第三-77 図)

規模は、調査区内での延長 5.4m 以上、幅 0.4 ~ 0.9m、検出面からの深さ 0.1m である。断面形は U 字状となる。軸の方向が N 1° E の溝である。

埋土から遺物の出土は確認できなかった。

SD 52004 (第Ⅲ-77 図)

規模は、調査区内での延長 16.7m、幅 0.2～0.6m、検出面からの深さ 0.1～0.2m である。軸の方向が N 1° E の溝である。調査時点の SD 70005 につながる。

埋土から 13 世紀代の陶器甕または壺などが出土した。13 世紀代までは存在したものといえよう。

SD 70007 (第Ⅲ-69 図)

規模は、調査区内での延長 2.0m 以上、幅 0.8～

1.1m、検出面からの深さ 0.2m である。断面形は U 字状となる。軸の方向が N 1° E の溝である。埋土から遺物の出土は確認できなかった。

SD 70009 (第Ⅲ-69 図)

規模は、調査区内での延長 16.0m 以上、幅 0.6～1.2m、検出面からの深さ 0.1m である。断面形は U 字状となる。軸の方向が N 13° E の溝である。埋土から中世以降の土師器皿、土鉢など出土した。

第 6 節 その他の遺構

遺構の性格が判然としないものについて、ここでは SZ として報告する。

SZ 44041

平面形は不整形形、規模は長軸 2.0m、短軸 1.1m、検出面からの深さは 0.2m である。

埋土から山皿、陶器碗、17 世紀中頃前後の陶器片口鉢などが出土した。SD 44015 と重複している。

SZ 44045

平面形は不整形形、規模は長軸 3.7m、短軸 2.2m、検出面からの深さは 0.3m 以上である。

埋土から山茶碗、18 世紀中頃以降の土師器皿、石製硯などが出土した。

SZ 44047

平面形は長方形、規模は長軸 4.4m、短軸 0.5m、検出面からの深さは 0.2m である。

埋土から 18 世紀中頃の磁器碗・皿などが出土した。(渡辺和仁 鐸木厚太 小濱学)

【註】

(1) 三重県立総合博物館 津村善博氏の御教授による。

報告番号	調査時 番号	調査 次数	グリッド	規模 (m)			主な出土遺物	備考
				長さ/長径 /幅/行	幅/短径 /幅/行	深さ/ 深さ/		
SK 20001	SK2001	2	L-C12	1.40	1.30	0.50	土師器、陶器、瓦	
SK 20002	SK2002	2	L-F13, 14, L-G13	3.40	2.80	1.00	陶器、磁器、瓦	
SK 20003	SK2003	2	L-C13, L-F13	1.70	1.70	0.70	土師器、陶器、磁器	
SK 20004	SK2004	2	L-I13, 14, K-J13, 14	2.20*	2.20	0.30	土師器、陶器、磁器	
SK 20005	SK2005	2	L-I13, L-J13	2.20	2.10	0.50	土師器、陶器、磁器、瓦	
SK 20006	SK2006	2	L-H14	1.80	1.50	0.40	陶器、磁器	
SK 20007	SK2007	2	L-I14, 15, L-H14, 15	2.80	1.80	0.50	土師器、陶器、磁器、瓦	
SK 20008	SK2008	2	L-I13, 14	2.10	0.90	0.30	なし	
SK 20009	SK2009	2	L-I14, L-J15	4.00	2.30	0.50	土師器、陶器	
SK 20010	SK2010	2	L-G14	1.10	1.00	0.40	陶器、磁器	
SK 20011	SK2011	2	L-F10, 11, L-G10, 11, 12	8.50	6.40	4*3	土師器、陶器、青磁、土製品	
SK 20012	SK2012	2	L-C14, L-G14	1.90	1.20	0.20	土師器、陶器	
SK 20013	SK2013	2	L-F14	1.20	1.10	0.20	土師器、陶器	
SK 20014	SK2014	2	L-F14	1.50	1.30	0.10	土師器、陶器	
SK 20015	SK2015	2	L-C14	1.20	0.70	0.10	土師器、陶器	
	SK80014	8						
SK 20016	SK2016	2	L-C14, 15, L-G14, 15	3.00	2.70	1.80	土師器、陶器、青磁	
SK 20017	SK2017	2	L-E13	1.30	1.10	0.20	土師器、陶器	
SK 20018	SK2018	2	L-E13	1.50	1.40	0.10	土師器、陶器	
SK 20019	SK2019	2	L-E14	1.40	0.90	0.50	土師器、陶器、白磁	
SK 20020	SK2020	2	L-G14, 15	2.10	2.00	0.80	土師器、陶器、青磁	

第Ⅲ-8 表 遺構一覧表 1

報告番号	調査時 番号	調査 次数	グリッド	規模 (m)			主な出土遺物	備考
				長さ/幅 /奥行	幅/奥行 /高さ	高さ/厚さ		
SK 20021	SK2021	2	I-G13	1.40	0.90	0.20	土師器、陶器、青磁、瓦、鉄製品	
SD 20022	SD2022	2	I-D10, I-12, I-13, I-14, I-15, I-E10	21.10*	0.30~0.60	0.10	土師器、陶器、白磁、土製品	
SK 20023	SK2023	2	I-E13, I-14, I-F13, I-14	2.00	1.20	0.40	土師器、陶器	
SK 20024	SK2024	2	I-H13, I-14	1.20	1.00	0.20	陶器、土製品	
SK 20025	SK2025	2	I-F10, I-G10	1.40	1.10	0.10	土師器、陶器、鉄製品	
SK 20026	SK2026	2	I-F10, I-11	1.40	1.10	0.20	磁器	
SK 20027	SK2027	2	I-F11, I-G11	1.60	1.10	0.30	土師器、須恵器、陶器、鉄製品	
SD 20028	SD2028	2	I-H11, I-12, I-C12	7.10*	0.30*	0.10	土師器、陶器	
	SD20013	8						
SK 20029	SK2029	2	I-D10	1.10	0.80	0.20	土師器、土製品	
SR 20030	SR2030	2	I-E10, I-11, I-12, I-13, I-F10, I-11, I-12, I-13, I-G8, I-10, I-12, I-13, I-H11, I-12	12.90	10.70	6*5	土師器、陶器、鉄製品	
SK 20031	SK2031	2	I-D10, I-11	3.80	2.80	0.50	土師器、陶器、磁器、青磁、白磁	
	SK10034	10						
SK 20032	SK2032	2	I-H12, I-13	2.60	1.50	0.20	陶器	
SK 20033	SK2033	2	I-H13	2.40	1.40	1.10	土師器、陶器	
SK 20034	SK2034	2	I-110	1.20	1.10	0.30	陶器	
SK 20035	SK2035	2	I-10, I-110	2.10	2.00	0.10	陶器	
SD 20036	SD2036	2	I-H8, I-10	2.60	0.50	0.10	陶器、瓦	
SD 20038	SD2038	2	I-B11, I-C11, I-12	6.40*	1.50~2.00	0.40	土師器、磁器、瓦	
SD 20039	SD2039	2	I-F10, I-11, I-G10, I-11	7.20	6.25	4*3	土師器、陶器	
SA 20040	SA2040	2	I-G10, I-11	6.30	—	3	土師器、陶器	
SD 20041	SD2041	2	I-D11, I-12, I-13, I-14, I-15	14.70	0.30~0.80	0.10	なし	
SD 20042	SD2042	2	I-E10, I-F10, I-G9	7.20*	0.40	0.10	なし	
SR 20043	SR2043	2	I-G10, I-H10	3.40	1.80	2*1	土師器	
SA 20044	SA2044	2	I-E14, I-F13, I-G13, I-H13	14.40	—	7	土師器、陶器	
SA 20045	SA2045	2	I-H10, I-11, I-12	8.40	—	4	土師器	
SD 31001	SD31001	3	I-G4, I-P3, I-Q3, I-R2, I-S2, I-T2, I-U1	2.00*	1.00~1.20	0.50	土師器、須恵器、陶器、青磁、白磁、青白磁、土製品、石製品	
	SD20002	9						
SD 31002	SD31002	3	I-P3, I-Q3, I-R2, I-S2, I-T2, I-U2	2.00*	0.50~1.00	0.30	土師器、陶器	
	SD20008	7						
SK 31003	SK31003	3	I-U2	2.50	0.70	0.20	土師器	
SK 31004	SK31004	3	I-S3	1.00	0.50	0.40	土師器、陶器、磁器、瓦	
	SK41008	4						
SE 31005	SE31005	3	I-Q3	2.20	1.90	0.70	土師器、灰陶陶器、陶器、瓦、石製品	
SK 31006	SK31006	3	I-Q2	2.20	2.10	0.70	土師器、陶器、磁器、瓦	
SE 31007	SE31007	3	I-Q3, I-4, I-P3 + 4	1.50	1.50	0.80	陶器、磁器	
SK 31008	SK31008	3	I-R2	1.10	0.60	0.30	土師器、陶器	
SD 31009	SD31009	3	I-R2, I-3	18.00*	0.30~0.90	0.30	土師器、陶器、石製品	
SK 31010	SK31010	3	I-R3, I-S2, I-T2, I-U2	3.00	2.00	0.20	土師器、陶器、磁器	
SD 31011	SD31011	3	I-R3, I-Q3, I-P3, I-Q2, I-R2, I-S2	17.00*	0.50~0.70	0.30	土師器、陶器、青磁	
	SD20017	7						
SK 31012	SK31012	3	I-Q2, I-3	5.00	3.00	0.20	土師器、陶器	
SK 31013	SK31013	3	I-P2	1.30	1.20	0.30	土師器、磁器	
SK 31014	SK31014	3	I-Q3, I-P3	1.40	0.50	0.20	土師器、陶器、青磁、石製品	
SK 31015	SK31015	3	I-Q3, I-P3	1.20	1.20	0.20	なし	

第三 - 9 表 遺構一覧表2

報告番号	調査時 番号	調査 次数	グリッド	規模 (m)			主な出土遺物	備考
				長さ/奥行き /掘行	幅/掘理 /掘行	高さ/掘深		
SE 31016	SE31016	3	K-R23	1.70	1.60	2.10	土師器、陶器	
SA 31017	SA31017	3	L-R1	2.80	1.20	0.50	土師器	
SD 31018	SD31018	3	K-R24, 25, K-R25	3.00+	0.30	0.10	土師器、陶器	
SA 31019	SA31019	3	L-R2	1.20	1.20	0.70	陶器	
SD 31020	SD31020	3	L-R3, L-R3, L-R2, L-R2, L-R1	16.00+	0.40~0.70	0.30~0.50	土師器、陶器	
	SD31018	7						
SD 32001	SD32001	3	L-R4, L-R4	3.50+	0.50	0.10	土師器	
SE 32002	SE32002	3	L-R9	1.60	1.60	0.80	土師器、陶器、磁器、鉄製品	
SE 32003	SE32003	3	L-Q8	1.60	1.50	1.00	土師器、陶器、磁器	
SD 32004	SD32004	3	L-R3, L-R7, R, L-R7, L-R7, L-R6, L-R6, L-R5	18.50+	0.30~1.50	0.10~0.50	土師器、陶器、白磁、鉄製品	
	SD32002	3						
	SD32007	4						
SE 32005	SE32005	3	L-P6	1.40	1.30	1.00	土師器、陶器	
SD 32006	SD32006	3	J-T10, 11, J-Q10, 11, J-V10, 11, J-W9, 10, J-R9, 10, J-P9, 10, L-R9, 10, L-Q8, 9, L-Q8, 9, L-R9, 9, L-P7, R, L-Q7, R, L-R5, L-R5, L-R7, R, L-R7, R, L-R7, L-R6, L-P5, L-P5, L-Q5, L-Q5, L-R4, 5, L-S4, L-T3, L-T3, L-Q3, L-Q3, L-R3, L-R3, L-R3	30.50+	2.00~3.30	0.30~1.10	縄文土器、土師器、土師器土器、須恵器、石川陶器、陶器、磁器、青磁、白磁、青花磁器、瓦、土製品、石製品、鉄製品	
	SD33001	3						
	SD36001	3						
	SD41001	4						
	SD42009	4						
	SD43003	4						
	SD70001	7						
	SD70011	7						
	SD90001	9						
	SD10001	10						
SB 32007	SB32007	3	L-Q9, 10, L-P9, 10	3.70	2.90	2*1	土師器	
SA 32008	SA32008	3	L-P12, L-Q12, L-R12	6.80	—	3	土師器	
SB 32009	SB32009	3	L-P11, 12, L-Q11, 12	3.60	2.20	2*1	土師器	
SB 32010	SB32010	3	L-R11, L-S11	2.30+	2.30+	1+1+	土師器	
SE 33003	SE33003	3	L-R10	1.00	0.90	1.80	土師器、青磁	
SD 33004	SD33004	3	L-L6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, L-R6, 12, 13, L-R5, L-Q5, L-P5, L-Q4, 5	26.50	0.80~2.00	0.30~0.70	土師器、陶器、青磁、鉄製品	
SD 33005	SD33005	3	L-L8, 10, L-Q10, 11	11.00	0.40	0.10	なし	
SD 33006	SD33006	3	L-L8, 9, 10, 11	10.00+	0.70~1.00	0.30~0.40	土師器、陶器	
SA 33007	SA33007	3	L-R11	4.30	1.80	0.10	土師器	
SE 33008	SE33008	3	L-R12	1.10	1.00	1.60	土師器、瓦器、陶器	
SE 33009	SE33009	3	L-R13	1.40	1.30	1.90	土師器、陶器、青磁、白磁、石製品	
SD 33010	SD33010	3	L-R13, L-R14	5.50+	0.50	0.10~0.20	土師器、陶器	
	SA32002	4						
SA 33011	SA33011	3	L-R13	1.50	1.50	0.30	土師器、陶器、磁器	
SD 33012	SD33012	3	L-L14, 15, L-R13, 14, L-R13, 14	14.00+	1.70	0.30~0.50	土師器、瓦器、陶器、白磁、青磁、青白磁	
SA 33013	SA33013	3	L-L11	2.00+	1.00	0.10	土師器、陶器	
SB 33014	SB33014	3	L-R6, L-R6, 9, 10, L-Q9, 10	6.50	4.10	3*2	土師器、陶器	
	SA32011	4						
SB 33015	SB33015	3	L-R6, 9, L-R6, 9, L-Q9, 10	5.90	4.20	3*2	土師器、陶器	
SB 33016	SB33016	3	L-R10, 11, 12, L-R10, 11, 12, L-Q10, 11	8.70	5.40	5*3	土師器、陶器、青磁、土製品	
	SA32010	4						
SB 33017	SB33017	3	L-R10, 11, L-R10, 11	4.00	1.90	2*1	土師器、白磁	

第Ⅲ -10 表 遺構一覧表3

報告番号	調査時 番号	調査 次数	グリッド	埋深 (m)			主な出土遺物	備考
				長さ/長さ /掘行	幅/幅 /掘行	深さ/ 掘深		
SK 33018	SK33018	3	L-114	1.40	1.00	0.80	土師器	
SD 33019	SD33019	3	L-104	4.00+	0.40~0.80	0.50	土師器	
SB 33021	SB33021	3	L-101, 12, L-101, 12	3.90	3.70	2*2	土師器	
SA 33022	SA33022	3	L-102, L-102	3.65	—	2	土師器、陶器、鉄製品	
SA 33023	SA33023	3	L-101, L-101	3.55	—	2	土師器	
SK 34001	SK34001	3	L-116	1.30	1.00	0.60	土師器、陶器	
SK 34002	SK34002	3	J-V16	1.20+	0.70+	0.40	土師器、須恵器、陶器	
SK 34003	SK34003	3	L-116, 17	2.50	2.30	0.50	土師器、陶器、青磁	
SK 34004	SK34004	3	L-016	3.50	2.00	0.20	土師器、陶器、青磁	
SK 34005	SK34005	3	L-015	1.40	1.30	0.40	土師器、瓦質土器、陶器	
	SK34006	8						
SK 34006	SK34006	3	L-115	2.50	1.40	0.20	土師器、陶器	
SB 34007	SB34007	3	L-116, 17, 18, L-116, 17	7.90	4.00	4*2	土師器、瓦器、陶器	
	SB34008	8						
SK 34008	SK34008	3	L-105, L-115	6.00	1.20	0.90	縄文土器、土師器、土師質土器、陶器、磁器、青磁、石製品	
SK 34009	SK34009	3	L-015	1.50	1.10	0.10	土師器、陶器、磁器	
SK 34010	SK34010	3	L-106	0.90	0.70	0.60	土師器、陶器、磁器	
SA 34011	SA34011	3	L-017	5.10	—	3	なし	
SK 35002	SK35002	3	J-117	1.90	0.80	0.20	陶器	
	SK35009	3						
SD 35003	SD35003	3	J-108, 9, 11, 12, 13, 14, J-517, 18, 19, 20	16.0+	1.00~1.40	0.20~0.60	土師器、陶器、青磁、白磁	
	SD36005	3						
	SD36100	5						
SD 35004	SD35004	3	J-103, 4, 5, 6, J-53, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, J-110, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19	20.0+	2.50~5.00	0.90~1.50	土師器、瓦質土器、灰釉陶器、陶器、磁器、青磁、白磁、瓦、石製品、鉄製品	
	SD36002	3						
	SD44021	4						
	SD51001	5						
	SD70004	7						
SK 35005	SK35005	3	J-V18	0.70	0.60	0.10	陶器	
SK 35006	SK35006	3	J-517	0.60	0.40+	0.30	土師器、陶器	
SD 35007	SD35007	3	J-111, 12, 13, J-013, 14, 15, 16, 17, 18, 19	20.0+	0.70~1.50	0.20~0.60	土師器、陶器、白磁、瓦、鉄製品	
	SD36008	3						
SK 35008	SK35008	3	J-V18	0.70	0.70	—	土師器、陶器	
SE 35010	SE35010	3	J-V18	1.50	1.40	1.90	土師器、陶器、青磁	
SD 36003	SD36003	3	J-108, 10, 11, 12, J-512, 13	12.00+	1.50	0.10~0.50	土師器、陶器、磁器、土製品、石製品	
	SD51005	5						
	SD70003	7						
SE 36004	SE36004	3	J-514	2.00	1.80	0.80	陶器、磁器	
SD 36006	SD36006	3	J-511, 12, 13, 14	10.0+	1.40	1.00	土師器、陶器、鉄製品	
SE 36007	SE36007	3	J-V15	1.70	1.50	2.30	土師器、陶器、白磁	
SD 36009	SD36009	3	J-V16	3.50+	1.00+	0.10~0.20	土師器、青磁	
	SD80001	8						
SB 37001	SB37001	3	J-013, 14, 15, J-P13, 14, 15	6.50	4.00	3*2	土師器、陶器、白磁、土製品	
SD 37002	SD37002	3	J-115, J-105, J-115, J-015, J-P15	19.00+	0.50~0.90	0.10~0.30	土師器、陶器	
SK 37003	SK37003	3	J-100	11.60	2.20	0.20	土師器、陶器、青磁	

第Ⅲ -11 表 遺構一覧表4

報告番号	調査時 番号	調査 次数	グリッド	規模 (m)			主な出土遺物	備考
				長さ/奥行き	幅/奥行き	高さ/厚さ		
SK 37004	SK37004	3	J-K17		1.10	1.00	陶器	
SD 37005	SD37005	3	J-L18, J-K18, 20	15.00+	0.70-1.00	0.30	土師器	
SD 37006	SD37006	3	J-K21	4.00+	0.30-0.50	0.20	土師器、陶器	
SD 37007	SD37007	3	J-K15, 16, 17, 18, 19, 20, J-L12, 13, 14, 15, J-J19, 20, 21	27.00+	0.20-3.00	0.10-0.80	土師器、陶器、青磁、土製品	
	SD37011	3						
	SD37004	5						
	SD37005	5						
SD 37008	SD37008	3	J-L18, 19, J-K17, 18, 19, 20, J-K17, 18, 19, 20, J-G17, 18, 19	11.00	8.40	5*4	土師器、陶器、石製品、鉄製品	
SE 37009	SK37009	3	J-G21	2.00	1.80	1.40	土師器、灰釉陶器 7、陶器	
SD 37010	SD37010	3	J-F21, 22, J-G21, 22	4.40	3.90	2*2	土師器、陶器、鉄製品	
SK 37012	SK37012	3	J-K18	2.00	1.10	0.10	土師器、陶器	
SD 37013	SD37013	3	J-G20, 21, J-H19, 20, 21, J-I19, 20, 21	7.40	6.40	3*3	土師器、陶器	
SD 37014	SD37014	3	J-H19, 20, 21, J-I19, 20, 21	6.80	6.40	3*3	土師器、陶器	
SD 37015	SD37015	3	J-H18, 19, 20, J-I18, 19, 20	4.80	4.20	2*2	土師器、陶器	
SD 37016	SD37016	3	J-G19, 20, 21, J-H19	5.20	4.30	2*2	土師器、陶器	
SD 37017	SD37017	3	J-H18, 19, 20, J-I18, 19, 20	5.80	4.40	2*2	土師器、陶器	
SA 37018	SA37018	3	J-I18, 19, 20, 21	12.10	—	5	土師器、陶器	
SD 37019	SD37019	3	J-I15, 16, J-J15, 16, J-K15	5.70	4.80	3*2	土師器、陶器	
SD 37020	SD37020	3	J-J15, 16, J-K15, 16	4.40	3.80	2*2	土師器、陶器	
SA 37021	SA37021	3	J-J15, 16, 17, 18, J-I18	8.60	—	4	土師器、陶器	
SA 37022	SA37022	3	J-I14, 15, 16	6.70	—	3	土師器、陶器	
SA 37023	SA37023	3	J-K15, 16	5.20	—	2	なし	
SA 37024	SA37024	3	J-K15, 16, J-J16	5.50	—	2	陶器	
SK 41002	SK41002	4	L-F3	1.70	1.60	0.20	縄文土器、土師器、陶器	
SK 41003	SK41003	4	L-T4	1.80	1.80	0.30	陶器、磁器	
SK 41004	SK41004	4	L-T4	1.40	1.40	0.30	土師器、陶器	
SK 41007	SK41007	4	L-S3, L-T3	1.80	0.70	0.40	土師器、陶器	
SK 41009	SK41009	4	L-R3	1.30	0.60	0.50	土師器、陶器	
SK 41010	SK41010	4	L-P5	1.20	0.90	0.70	土師器	
SK 41011	SK41011	4	L-W3	0.70	0.50	0.40	土師器	
SE 42001	SE42001	4	L-Q13	1.20	—	2.10	土師器、陶器、青磁、白磁、石製品、鉄製品	
SE 42002	SE42002	4	L-Q13, L-P13	2.70	1.70+	0.14	なし	
SE 42003	SE42003	4	L-P11	1.10	1.00	1.70	土師器、陶器、白磁、鉄製品	
SE 42004	SE42004	4	L-P11	0.90	0.80	1.60	土師器	
SK 42005	SK42005	4	L-Q9, 10, L-P9, 10	3.20	1.10	0.10	土師器、陶器、瓦	
SK 42006	SK42006	4	L-Q8, 9	1.90	1.20	0.30-0.80	陶器、磁器、瓦	
SK 42008	SK42008	4	L-W6, L-Q6	1.30	1.30	0.50	土師器、陶器	
SD 42013	SD42013	4	L-Q9, 10, 11, L-P9, 10, 11	8.90	6.90	3*3	土師器、陶器	
SD 43001	SD43001	4	L-I6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, L-K5, 6, L-C5, L-M4, 5	40.00+	1.60-2.30	0.70-0.90	土師器、漆器、陶器、青磁、白磁、土製品、石製品、鉄製品	
	SD70012	7						
SK 43002	SK43002	4	L-K8	0.90	0.80	0.80	土師器、陶器	
SK 43004	SK43004	4	L-K7	1.10	0.80	1.20	土師器	
SD 43005	SD43005	4	L-J16, 17	5.80+	0.90-1.00	0.10-0.20	なし	
SK 44001	SK44001	4	L-L4	2.60	1.70	0.50	土師器、陶器	
	SK70014	7	L-L4					

第Ⅲ-12表 遺構一覧表5

報告番号	調査時 番号	調査 次数	グリッド	深度 (m)			主な出土遺物	備考
				奥之/最浅 /深行	幅/最浅 /深行	深さ/ 間数		
SK 4002	SKA002	4	L-14	1.30	1.20	0.60+	なし	
SK 4003	SKA003	4	L-K1, 2	1.60	0.80	0.20	なし	
SK 4004	SKA004	4	K-J25, K-K25, L-11, L-K7	1.60	1.50	0.70	なし	
SK 4005	SKA005	4	K-I25, K-J25, L-11	2.50	0.90	0.30	陶器、鉄製品、磁器	
SE 4006	SKA006	4	L-I2, L-I2	1.40	1.30	0.60	陶器、磁器、青磁	
SK 4007	SKA007	4	K-K25, K-I25, L-H1, L-11	1.70	0.70	0.30	土師器、瓦葺、磁器、青磁	
SK 4008	SKA008	4	L-J5, L-K5	1.80	1.80	0.50	陶器、鉄製品	
SK 4009	SKA009	4	L-15, L-J5	1.50	1.30	0.90	土師器、陶器、土製品	
SK 4010	SKA010	4	L-14, S, L-J4	1.50	1.10	0.40	陶器	
SK 4011	SKA011	4	L-H5, L-15	1.20	1.20	1.00+	なし	
SK 4012	SKA012	4	L-G6	1.20	1.10	1.00+	土師器、陶器	
SK 4013	SKA013	4	L-F1	1.20	1.00	0.50	土師器、陶器、青磁、土製品	
SZ 4014	SKA014	4	L-F1, 2, L-G1, 2, 3	4.90	4.00	0.80+	なし	
SD 4015	SKA015	4	J-VB, B, J-WB, B, J-VB, J-WB, L-B7, B, L-B7, B, L-C7, B, L-D6, T, L-E6, T, L-F6, L-G5, B, L-H5, B, L-15, L-14, S, L-M4, S, L-11, 2, 3, 4, L-N1, 2, 3, 4	35.00+	1.50~1.70	0.90~1.10	土師器、須恵器、陶器、磁器、青磁、白磁、石製品	
	S051022	5						
	S070010	7						
	S070016	7						
	S070023	10						
SK 4016	SKA016	4	L-F1, 2	1.30	1.10	0.20	陶器	
SK 4017	SKA017	4	L-F1	1.30	1.10	0.30	土師器	
SK 4018	SKA018	4	L-G1	1.30	1.20	0.30	土師器、灰釉陶器、陶器	
SK 4019	SKA019	4	L-F3	2.00	1.90	0.50	土師器、陶器、磁器	
SK 4020	SKA020	4	J-B4, 5	1.30	1.20	0.40	陶器	
SK 4022	SKA022	4	J-S5	1.00	0.90	0.40	磁器	
SK 4023	SKA023	4	J-B4, J-Y4	1.50	1.40	0.40	土師器、陶器、白磁	
SK 4024	SKA024	4	J-Y3	1.50	1.40	0.30	なし	
SK 4025	SKA025	4	J-Y4, L-M	1.70	1.50	0.50	陶器、磁器、石製品、土製品、鉄製品	
SK 4026	SKA026	4	J-T3, L-A3	1.30	1.20	0.40	陶器、磁器	
SK 4027	SKA027	4	L-C2	2.00	1.70	0.30	土師器、陶器、磁器	
SK 4028	SKA028	4	J-S3, 4, J-T3	2.60	1.30	0.50	陶器、磁器、瓦、石製品	
SK 4029	SKA029	4	J-S4	1.50	1.20	0.70	なし	
SD 4030	SDA030	4	J-T3, 4, S, 6, T, J-U7, B, J-VB, J-W7, B, J-X7	27.50	0.90~2.20	0.70~1.20	土師器、陶器、白磁、青磁	
	S051007	5						
SK 4031	SKA031	4	L-J5	1.20	0.80	0.30	青磁	
SK 4032	カクラン①	4	L-H5, 6	1.80	1.80	0.30	土師器、陶器、磁器、土製品	
SK 4033	カクラン②	4	L-G6	2.10	1.00	0.30	陶器、磁器	
SK 4034	カクラン③	4	L-F2	2.10	1.30	0.20	陶器、磁器	
SK 4035	カクラン	4	K-J25	1.10	0.80	0.50	土師器、磁器、土製品	
SK 4036	カクラン?	4	L-H1	1.30	1.20	0.30	陶器、磁器	
SK 4037	カクラン④	4	L-F3	1.00	0.80	0.20	土師器	
SK 4038	カクラン⑤	4	L-J4	0.90	0.80	0.20	陶器、磁器	
SK 4039	カクラン⑥	4	L-G5, 6	1.30	0.80	0.20	陶器、磁器、青磁	
SK 4040	カクラン⑦	4	J-X3	1.30+	0.90	0.20	土師器、磁器	
SZ 4041	カクラン上層①	4	L-E6, L-F6	2.00	1.10	0.20	陶器、青磁	
SK 4042	カクラン	4	L-D3	1.40	1.20	0.40	土師器	

第Ⅲ-13表 遺構一覽表6

報告番号	調査時 番号	調査 次数	グリッド	坑深 (m)			主な出土遺物	備考
				奥之/奥壁 /前打	幅/地盤 /前打	深さ/ 間隔		
SK 44043	カクラン	4	L-J2	2.00	1.30	0.20	陶器	
SK 44044	カクラン	4	J-V4, J-W4	1.60+	1.20	0.20	陶器、磁器	
S2 44045	カクラン1	4	J-S4.5, J-T4.5	3.70	2.20	0.30+	土師器、陶器、磁器、石製品	
SK 44046	カクラン1	4	L-C2	1.70+	1.50	0.10	陶器、磁器、白磁	
S2 44047	カクラン	4	J-Y3.4	4.40+	0.50	0.20	陶器、磁器	
S8 44048	S8A048	4	J-W3.4, J-Y3.4	4.20	2.00	2±2	土師器	
S8 44049	S8A049	4	J-W4.5, J-X4.5	4.60	4.20	2±1	土師器、陶器	
S8 44050	S8A050	4	J-Y3.4, L-A2.3, 4	6.50	4.00	3±2	なし	
SK 44051	S8A051	4	J-Y3, L-A2.3	6.00	1.80+	3±1+	陶器	
SK 44052	S8A052	4	L-D3.4, L-E3.4	4.10	3.60	2±2	土師器、陶器	
S8 44053	S8A053	4	L-E3.4, L-F3.4	4.40	2.00	2±1	なし	
S8 44054	S8A054	4	L-E1.2, L-F1.2	3.70	1.70+	2±1+	土師器、陶器	
SA 44055	SA4055	4	L-D1, L-E1, L-F1	5.40	1.00+	3±1+	なし	
S0 51002	S0S1002	5	J-K6.7	16.0+	0.90	0.30	土師器、陶器、磁器、青磁、白磁	
SK 51004	SKS1004	5	J-T8	1.30	1.20	0.40	土師器	
SK 51006	SKS1006	5	J-S8.9, L-T8.9	2.20	2.00	0.80	土師器、陶器、磁器、青磁、石製品	
SK 51008	SKS1008	5	J-S6	0.80	0.60	0.30	陶器、磁器	
SK 51009	SKS1009	5	J-S6	1.00	0.80	0.50	土師器	
SK 51010	SKS1010	5	J-U6.7	2.40	1.30	0.30	土師器、陶器、磁器	
SK 51011	SKS1011	5	J-U8	1.40	1.40	0.60	土師器、陶器、磁器、瓦、石製品、土製品	
SK 51012	SKS1012	5	J-T6.7	1.40	1.20	0.10	陶器、石製品	
SK 51013	SKS1013	5	J-U8.9	2.50	2.40	0.70	土師器、陶器、磁器、青磁、土製品、石製品、鉄製品、銅製品	
	SK70002	7						
	SK10009	10						
SK 51014	SKS1014	5	J-X7.8	1.60	1.60	0.40	陶器、磁器、瓦質土器	
SK 51015	SKS1015	5	J-X7	1.50	1.20	0.20	陶器	
SK 51016	SKS1016	5	J-Y4.5	1.40	1.20	0.50	縄文土器、土師器、陶器、土製品	
SK 51017	SKS1017	5	J-X6, J-Y6	1.30	1.20	0.20	土師器、瓦器、陶器	
SK 51018	SKS1018	5	L-C6.7	1.70	1.70	0.50	土師器、陶器、磁器	
SK 51019	SKS1019	5	L-C6, L-D6	1.20	1.20	0.20	陶器、石製品	
SK 51020	SKS1020	5	L-K7	2.00	1.90	0.30	土師器	
SK 51021	SKS1021	5	L-B4.5	2.10	1.50	0.30	陶器、磁器	
SK 51023	SKS1023	5	J-T7	0.80	0.70	0.60	なし	
S0 51024	S0S1024	5	J-T10, J-T10, J-K10, J-L10, J-M6, 10, J-M9, 10, J-S9, J-P9, J-Q9	27.20+	0.50-1.80	0.20-0.60	土師器、瓦質土器、灰釉陶器、陶器、白磁	
	S0S2002	5						
	S070006	7						
SK 51025	カクラン1	5	L-C6.7	2.00+	1.50	0.10	土師器	
SK 51026	カクラン1	5	J-X6.7	1.60	1.40	0.20	土師器、陶器、磁器	
SK 51027	カクラン1	5	L-A6, L-B6	2.10	2.00	0.40	灰釉陶器	
SK 51028	カクラン1	5	L-C5.6	3.30	1.80	0.30	磁器、石製品	
SK 51029	カクラン1	5	J-U7, J-Y7	1.90	0.80	0.10	陶器	
SK 52001	S0S2001	5	J-G9, 10, J-H9, 10, J-I9, J-J9, J-K9, J-L9, J-M9, J-N9, J-O9, J-P9	32.00	0.70-1.00	0.20-0.30	縄文土器、土師器、瓦器、瓦質土器、陶器、磁器、青磁、石製品、銅製品	
S0 52003	S0S2003	5	J-M9, J-N9, J-O9	5.40+	0.40-0.90	0.10	なし	
S0 52004	S0S2004	5	J-H9, J-I9, J-J9, J-K9, J-L9	16.70	0.20-0.60	0.10-0.20	陶器	
	S070005	7						

第Ⅲ-14表 遺構一覽表7

報告番号	調査時 番号	調査 次数	グリッド	規模 (m)			主な出土遺物	備考
				長さ/長さ /奥行	幅/幅 /奥行	深さ/ 敷設		
SZ 53001	SK53001	5	J-G11, 12	1.40	0.40	0.10	なし	
SK 53002	SK53002	5	J-H12	1.10	0.50	0.30	陶器	
SK 53003	SK53003	5	J-H12	1.00	0.90	0.40	なし	
SD 70007	SD70007	7	J-R9	2.00+	0.80~1.10	0.20	なし	
SD 70009	SD70009	7	K-B7, E-C7, K-D7	16.00+	0.40~1.20	0.10	土師器、陶器、土製品	
SK 70013	SK70013	7	L-K15	0.90	0.80	0.10	陶器	
SK 70015	SK70015	7	L-L4, L-M4	1.10	0.80	0.10	なし	
SK 70019	SK70019	7	L-O2	1.30	0.90	0.20	瓦、土製品	
SK 70020	SK70020	7	L-R2	1.00	0.90	0.20	なし	
SK 80002	SK80002	8	L-Y16, L-W16	1.30	1.10	0.40	陶器	
SK 80003	SK80003	8	J-X13	1.40	1.30	0.40	土師器、陶器、磁器	
SK 80004	SK80004	8	J-Y13	1.80	1.60	0.50	陶器、磁器、石製品	
SK 80005	SK80005	8	J-Y13, 14	1.30	1.30	0.40	陶器	
SK 80006	SK80006	8	L-A14, L-B14	1.00	0.90	0.10	なし	
SK 80007	SK80007	8	L-B12, 13	2.10	1.10	0.40	陶器、磁器	
SK 80008	SK80008	8	L-A13	1.90	1.50	0.20	磁器	
SK 80009	SK80009	8	J-Y12, 13	3.80	3.30	1.10	土師器、須恵器、瓦器、陶器、緑釉陶器、青磁、白磁、石製品、鉄製品	
	SK19029	10						
SK 80010	SK80010	8	B13	1.50	1.30	0.40	土師器、瓦質土器、陶器、磁器、石製品	
	SK19037	10						
SK 80011	SK80011	8	L-B14, L-C14	1.80	1.60	0.20	土師器、陶器、磁器、石製品	
SK 80012	SK80012	8	J-Y13, 14	1.40	1.40	0.50	なし	
SE 80015	SE80015	8	J-Y15, L-A15	2.70	2.60	1.30+	土師器、陶器、青磁、石製品	
SK 80017	SK80017	8	L-C15	1.60	1.20	0.40	なし	
SK 80018	SK80018	8	J-X13	1.10	1.10	0.40	瓦質土器	
	SK19026	10						
SA 80019	SA80019	8	J-W14, J-X14	7.50	—	4	土師器、陶器	
SB 80021	SB80021	8	J-X14, 15, J-Y14, 15	6.50	4.90	3*2	土師器、陶器	
SB 80022	SB80022	8	J-W15, 16, 17, J-X15, 16, 17, J-Y15, 16, 17	8.50	5.80	4*3	土師器、陶器	
SB 80025	SB80025	8	L-A11, 12, 13, 14, L-B11, 12, 13, 14, L-C11, 12, 13, 14	10.60	7.70	5*4	土師器、陶器、青磁	
	SB19044	10						
SB 80026	SB80026	8	J-Y11, 12, L-A11, 12, 13, L-B11, 12, 13, L-C11, 12, 13	8.60	8.50	4*4	土師器、陶器	
	SB19036	10						
SK 10002	SK10002	10	J-Y11, 12	0.80	0.80	0.10	なし	
SK 10003	SK10003	10	J-X13	1.50	1.20	0.30	土師器、陶器	
SK 10004	SK10004	10	J-X13	0.90	0.70+	0.30	陶器、磁器	
SK 10005	SK10005	10	J-W11, 12	1.70	1.40	0.20	土師器、陶器	
SK 10006	SK10006	10	J-W11	1.10	0.40+	0.10	なし	
SK 10007	SK10007	10	J-Y11	1.00	0.90	0.40	須恵器	
SK 10008	SK10008	10	J-Y11	0.70	0.30+	0.10	なし	
SK 10010	SK10010	10	J-W11	1.20	1.10	0.50	磁器	
SK 10011	SK10011	10	J-X11	1.20	1.00	0.20	なし	
SK 10012	SK10012	10	J-O6, J-Y9	1.80	1.10+	0.50	なし	
SK 10013	SK10013	10	J-W11	1.20	1.10	0.10	陶器	
SK 10014	SK10014	10	J-W8, 9	2.20	1.30	0.30	陶器、磁器	

第Ⅲ-15 表 遺構一覧表8

報告番号	調査時 番号	調査 次数	グリッド	規模 (m)			主な出土遺物	備考
				長さ/奥行き /掘行	幅/掘進 /掘行	深さ/ 掘数		
SK 10015	SK10015	10	J-YB, 9	1.30	1.00+	0.20	陶器	
SK 10016	SK10016	10	J-YB, J-8B	1.10	0.30+	0.30	陶器、磁器	
SK 10017	SK10017	10	L-A12	1.20	1.00	0.40	土師器、陶器、土製品	
SK 10018	SK10018	10	J-W11, 12	1.70	1.50	0.20	土師器	
SK 10019	SK10019	10	J-X11	1.50	1.20+	0.10	なし	
SK 10020	SK10020	10	J-W11, J-X11	1.10	0.90	0.30	なし	
SK 10021	SK10021	10	J-W11	1.50	1.40	0.30	土師器、陶器	
SK 10022	SK10022	10	J-W11, J-X11	1.10	0.90+	0.30	なし	
SB 10024	SB10024	10	J-Y12, 13, 14, J-W12, 13	5.90	3.70	3*2	土師器、陶器	
SB 10025	SB10025	10	J-W12, 13, 14, J-X12, 13, 14, J-Y12, 13	7.80	7.70	4*4	土師器、陶器	
SK 10027	SK10027	10	J-K12, Y12	0.90	0.80	0.30	土師器、須恵器	
SK 10028	SK10028	10	J-X10, 11	2.60	1.20	0.30	土師器、陶器、磁器	
SB 10030	SB10030	10	J-X11, 12, J-W11, J-Y12	4.00	3.90	2*2	土師器、陶器	
SK 10031	SK10031	10	J-Y12	0.80	0.70	0.20	なし	
SK 10032	SK10032	10	L-A8	1.10	1.10	0.30	土師器、陶器、磁器、青磁、石製品	
SK 10033	SK10033	10	J-Y8	1.10	1.00	0.20	土師器	
SB 10035	SB10035	10	L-A11, L-B11, 12, L-C12	4.40	4.30	2*2	土師器、陶器	
SK 10038	SK10038	10	L-A12	1.90	1.20	0.20	陶器	
SK 10040	SK10040	10	L-K7, 8	1.40	1.30	0.30	土師器、磁器	
SK 10041	SK10041	10	L-A12, L-B13	1.20	1.20	0.80	土師器、陶器、石製品、鉄製品	
SK 10042	SK10042	10	L-B10, 11	2.60	1.20	0.40	土師器、陶器、磁器、土製品、石製品、瓦	
SK 10045	SK10045	10	J-Y10, L-A10	4.00	1.20	0.50	土師器、陶器、磁器、石製品、鉄製品	
SK 10046	SK10046	10	J-Y11, W11	0.70	0.50	0.10	なし	
SK 10047	SK10047	10	J-X11	1.00	0.80+	0.10	なし	

第Ⅲ -16 表 遺構一覧表9

第Ⅳ章 遺物

第1節 出土した遺物

鶴殿西遺跡（第1～5・7～10次）発掘調査では掘立柱建物・柱列、土坑・井戸、溝、その他の遺構（遺構の性格が判然としないもの及びピット）の各遺構埋土や表土及び包含層から遺物が出土した。出土した遺物は、縄文時代、平安時代末を含む古代、鎌倉時代～江戸時代、近代初頭頃にまで及んでおり、主体となる遺物は鎌倉時代～江戸時代の幕末にかけてのものである。以下、遺構単位や層位ごとに出土した遺物について報告する。

なお、本報告における中近世の土器・陶磁器の分類・編年や層年代観は、註で特に断らない限り下記の文献に従っている。基本的に生産地編年・分類を重視しつつ、消費地編年・分類を補足的に参照している。なお、調査指導により指摘や助言を受けた内容を踏まえた年代観や特質すべき内容については、註にて補足している。

【南伊勢系土師器】

・伊藤裕偉 1990「中世南伊勢系の土師器に関する一試論」『Mie history』vol. 1 三重歴史文化研究会

・伊藤裕偉 1996「伊勢の中世煮沸用土器から東海を見る」『鍋と甕そのデザイン』東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会

・伊藤裕偉 2008「南伊勢・志摩地域の中世土器」『三重県史』資料編 考古2 三重県

・伊藤裕偉 2015「近世土師器の形態と変遷」『高河原遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター

※本文中では、伊藤編年として示す。

【播磨型土師器鍋】

・長谷川眞 2007「播磨における土製煮炊具の様相」『中近世土器の基礎研究』21 日本中世土器研究会

※本文中では、長谷川編年として示す。

【大坂・明石系及び大坂・堺系土師器焙烙、大坂系土師器皿】

・積山 洋 1995「近世大坂出土の土師質土器編年、素描」『大阪府埋蔵文化財協会研究紀要』3 財団

法人大阪府埋蔵文化財協会

・積山 洋 1999「大坂の土師質土器—主要器種を中心に—」『関西近世考古学研究』Ⅶ 関西近世考古学研究会

※本文中では、積山編年として示す。

【和泉型瓦器椀】

・佐藤重聖 2022「第2章 畿内産瓦器椀」『新版 概説中世の土器・陶磁器』真陽社

※本文中では、上記で提示されている和泉型の面区分で示す。

【紀伊型瓦器椀】

・北野隆亮 2006「紀伊型瓦器椀の編年と分布」『中近世土器の基礎研究』XX 日本中世土器研究会

※本文中では、北野編年として示す。

【東播系須恵器】

・佐藤重聖 2022「第4章 東播系須恵器」『新版 概説中世の土器・陶磁器』真陽社

※本文中では、佐藤編年として示す。

【灰釉陶器】

・井上喜久男「第4章 特論 第5節 編年論 瓷器」『愛知県史』別編 窯業1 古代 猿投系 愛知県

※本文中では、上記で整理されている窯式編年の各期を示す。

【山茶碗・山皿】

・藤澤良祐 1994「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要』第3号 三重県埋蔵文化財センター

・山本智子 2022「第3章 山茶碗」『新版 概説中世の土器・陶磁器』真陽社

※本文中では、上記で整理されている各地域型の型式名を示す。

【瀬戸・美濃製品陶器】

・愛知県史編さん委員会編 2007「愛知県史」別編 窯業2 中世・近世 瀬戸系 愛知県

・田口昭二 1983『美濃焼』考古学ライブラリー 17 ニューサイエンス社

・檜崎彰一 1990「付表1・2 近世美濃窯年表」『尾

呂』瀬戸市教育委員会

※本文中では、上記で整理されている各様式期を示す。

【渥美製品陶器】

・安井俊則 2012「第1章 総論 第2節 渥美窯」『愛知県史』別編 中世・近世 常滑系 愛知県

※本文中では、上記で整理されている型式を示す。

【常滑製品陶器】

・中野晴久 2012「第1章 総論 第3節 常滑窯」『愛知県史』別編 中世・近世 常滑系 愛知県

・中野晴久 1996「常滑窯の研究～近世赤物について～」「知多古文化研究」10 知多古文化研究会

・扇浦正義 1987「常滑大甕の編年の考察」『自證院遺跡』新宿区教育委員会

※本文中では、上記で整理されている型式及び年代を示す。

【備前製品陶器】

・重根弘和 2022「第5章 中世陶器 第2節 備前」『新版 概説中世の土器・陶磁器』真陽社

※本文中では、重根編年として示す。

・乗岡 実 2002「第3節 近世備前焼埴鉢の編年案」『岡山城三之曲輪跡』岡山市教育委員会

※本文中では、乗岡編年として示す。

【堺・明石系陶器・埴鉢】

・稲原昭嘉 2000「明石埴鉢の編年について」『近世

の実年代資料』関西近世考古学研究会

※本文中では、稲原編年として示す。

【肥前系陶磁器】

・大橋康二 1989『肥前陶磁』考古学ライブラリー 55 ニューサイエンス社

・九州近世陶磁学会 2000『九州陶磁の編年』

・佐賀県教育委員会 1996『内野山北涼跡』

※本文中では、上記で整理されている年代を示す。

【白磁・青磁（貿易陶磁器）】

・山本信夫 2022「第7章 貿易陶磁器 第1節 中世前期の貿易陶磁器」『新版 概説中世の土器・陶磁器』真陽社

※本文中では、山本編年として示す。

・續伸一郎 2022「第7章 貿易陶磁器 第2節 中世後期の貿易陶磁器」『新版 概説中世の土器・陶磁器』真陽社

※本文中では、上記で整理されている時期区分として示す。

【滑石製石鍋】

・木戸雅寿 1993「石鍋の生産と流通について」『中世土器の基礎研究』IX 日本中世土器研究会

・木戸雅寿 1995「13. 石鍋」『概説中世の土器・陶磁器』真陽社

※本文中では、木戸編年として示す。

第2節 掘立柱建物・柱列出土遺物

SB 20011（第IV-1図）

1は、土師器の甕である。口縁端部は内側に折り返されて肥厚する。2～5は、陶器の山茶碗である。口縁部に向かって直線的にのび、4は外反する。3・5の高台には靱殻痕が残る。尾張型のもので12世紀後半～13世紀前半のものと考えられる。6は、青磁の皿である。口縁端部に向かって外反し、端部には輪花がある。7・8は、土鍾である。外面はナデにより調整されている。

SB 20030（第IV-1図）

9は、土師器の皿である。南伊勢系であり、16世紀前半のものと考えられる。10は、土師器の焙烙である。口縁部は外側へ屈曲し、内面には耳が貼り付けられている。口縁部の形状と内耳の存在から

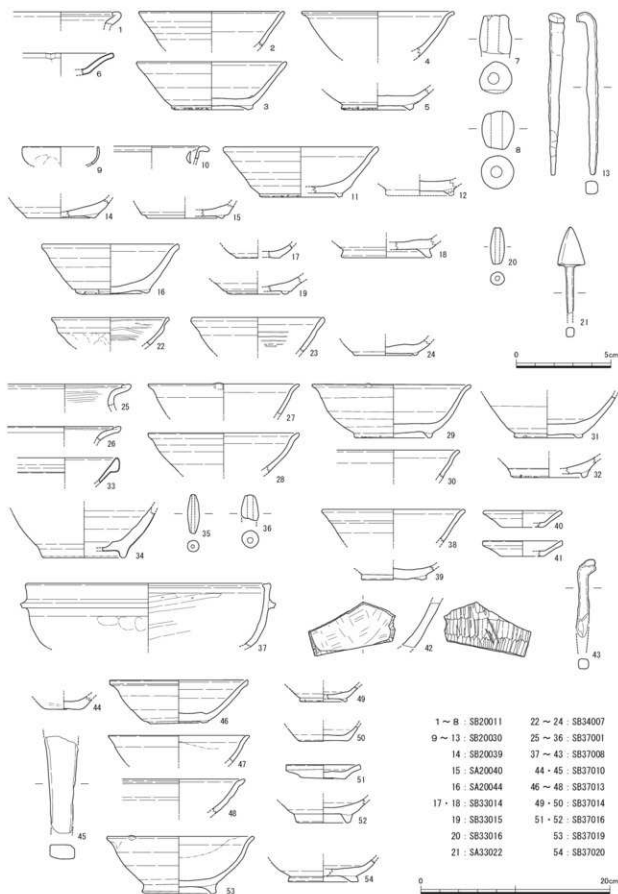
讃岐地域の中讃型焙烙と考えられる。中讃型焙烙a型式の17世紀～18世紀代のものと考えられる⁽¹⁾。11・12は、陶器の山茶碗である。11の高台には靱殻痕が残る。尾張型第5型式の13世紀前半のものと考えられる。13は、鉄製の釘である。断面形状は方形で頂部が折れ曲がった折釘と考えられる。

SB 20039（第IV-1図）

14は、陶器の山茶碗である。高台の断面形状は、潰れた逆三角形である。尾張型とみられ13世紀前半～中頃のものと考えられる。

SA 20040（第IV-1図）

15は、陶器の山茶碗である。高台には靱殻痕が残る。



第IV - 1 図 出土遺物実測図1 (1:4, 12, 21, 43 は 1:2)

SA 20044 (第IV-1図)

16は、陶器の山茶碗である。口縁部は外反して端部は外傾面を持つ。高台には粉殻痕が残る。尾張型第5型式の13世紀前半のものと考えられる。

SB 33014 (第IV-1図)

17・18は、陶器の山茶碗である。17は、小型碗の高台が剥離してしまった状態の底部である。いずれも12世紀前半の渥美湖西型のものと考えられる。

SB 33015 (第IV-1図)

19は、陶器の山茶碗である。高台には粉殻痕が残る。13世紀後半の渥美湖西型のものと考えられる。

SB 33016 (第IV-1図)

20は、土鍾である。中央がやや膨らんだ形状のもので、外面はナデで調整されている。

SA 33022 (第IV-1図)

21は、鉄鍬である。鍬身部と筥被部の断面形状が方形のもので、津野分類が示す角根式のものである。鍬身部が小さく、全体の長さも短いことから、角根Ⅱ式であり、時期は15世紀～16世紀のものと考えられる⁽²⁾。

SB 34007 (第IV-1図)

22は、瓦器の椀である。内面には口縁端部付近まで圈線状のミガキが施されている。ミガキの間隔は広い。和泉型のもので、和泉型Ⅲ-3期の13世紀前半のものと考えられる。23・24は、陶器の山茶碗である。23の内面には、沈線状の浅い凹線がみられる。尾張型第7型式の13世紀後半のものと考えられる。

SB 37001 (第IV-1図)

25・26は、土師器の鍋である。口縁端部は粘土が内側に折り返されて肥厚し、端部は丸く収められ

ている。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅱa・Ⅱb期の13世紀代のものと考えられる。27～32は、陶器の山茶碗である。27・29の口縁端部には輪花があり、32の高台には粉殻痕が残る。渥美湖西型2a型式～2b型式の12世紀後半～13世紀前半にかけてのものと考えられる。33・34は、白磁の碗と甕である。33の口縁端部は肥厚して外傾面を持つ。福建省系であり、山本編年C期の11世紀後半～12世紀前半のものと考えられる。34は、高台の両側面と外面底部の見込みまで釉が掛り、内面は露胎である。35・36は、土鍾である。外面はナデにより調整されている。

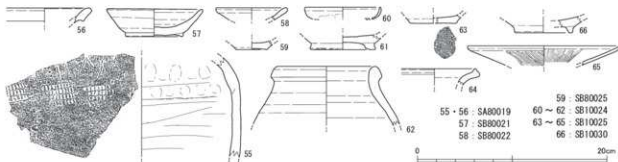
SB 37008 (第IV-1図)

37は、土師器の羽釜である。口縁部は短く直立ぎみにのび、端部は内側に突出して上端は面を持つ。鈿の突出は短い。体部内面は工具ナデで調整され、一部がケズリ状に砂粒が動いている。外面には煤が付着している。38・39は、陶器の山茶碗である。39の高台は、底部外面の見込みと高さがほぼ変わらない。渥美湖西型3b型式の13世紀中頃～後半のものと考えられる。40・41は、陶器の山皿である。口縁端部は外傾面を持つ。尾張型第6型式の13世紀前半のものと考えられる。42は、滑石製の石鍋である。体部の破片で、外面には鑿による加工痕、内面には線状の使用痕が残る。側面には意図的に割られた痕跡があることから、石鍋として使用された後に二次加工されたものと考えられる。43は、鉄製の釘である。先端が欠損している。

SB 37010 (第IV-1図)

44は、陶器の山皿である。45は、鉄製の釘である。断面形状は方形で、両端が欠損している。

SB 37013 (第IV-1図)



第IV-2図 出土遺物実測図2(1:4)

46～48は、陶器の山茶碗である。46の高台は低く、断面形状は逆台形である。尾張型第6型式の13世紀前半のものと考えられる。

SB 37014 (第IV-1図)

49・50は、陶器の山皿である。49の高台には粉殻痕、50の底部外面には糸切痕が残る。12世紀後半のものと考えられる。

SB 37016 (第IV-1図)

51は、陶器の山皿である。口縁端部は角張った外傾面を持つ。尾張型第9型式の14世紀中頃前後のものと考えられる。52は山茶碗で、11世紀末～12世紀初頭のものと考えられる。

SB 37019 (第IV-1図)

53は、陶器の山茶碗である。口縁端部には輪花が施されている。渥美湖西型1c型式の12世紀後半のものと考えられる。

SB 37020 (第IV-1図)

54は、陶器の山茶碗である。渥美湖西型2a型式の12世紀後半～13世紀初頭のものと考えられる。

SA 80019 (第IV-2図)

55は、陶器の壺である。体部肩付近の破片で、格子の押印がされている⁽¹⁾。常滑製品と考えられる。56は、陶器の壺の可能性がある。

SB 80021 (第IV-2図)

57は、陶器の山皿である。尾張型第4型式の12

世紀後半のものと考えられる。

SB 80022 (第IV-2図)

58は、陶器の山皿である。口縁端部は膨らんで丸く収められている。

SB 80025 (第IV-2図)

59は、陶器の山皿である。12世紀後半～13世紀前半のものと考えられる。

SB 10024 (第IV-2図)

60は、土師器の皿である。南伊勢系であり、伊藤編年中世IVa期の15世紀前半～後半のものである。61は、陶器の山茶碗である。高台には粉殻痕が残る。13世紀前半のものと考えられる。62は、陶器の壺である。口縁部は短くのごびて、端部は外側へ肥厚している。

SB 10025 (第IV-2図)

63は、土師器の皿である。底部外面には糸切痕が残ることから、ロクロ土師器と考えられる。64は、土師器の鍋または焙烙である。南伊勢系であり、伊藤編年近世I期の17世紀後半～18世紀初頭前後のものと考えられる。65は、土師器の器台の可能性があり、内外面には縦方向の細かなミガキが施されている。古墳時代前期のものであろうか。

SB 10030 (第IV-2図)

66は、陶器の山茶碗である。渥美湖西型2b型式の13世紀後半のものと考えられる。

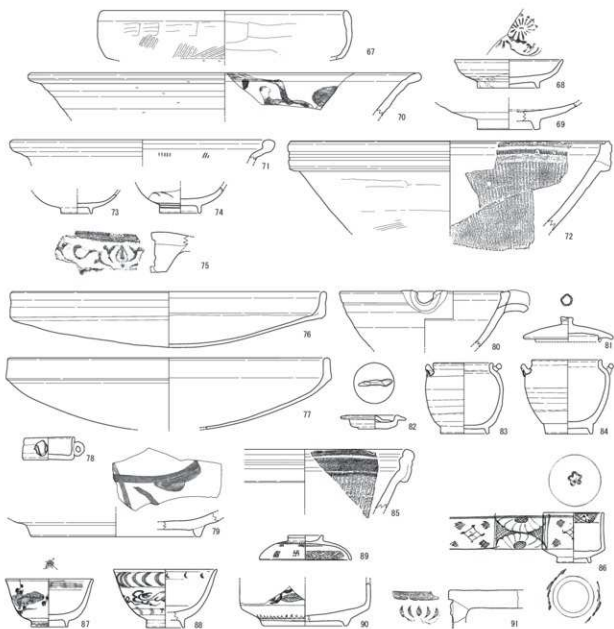
第3節 土坑・井戸出土遺物

SK 20005 (第IV-3図)

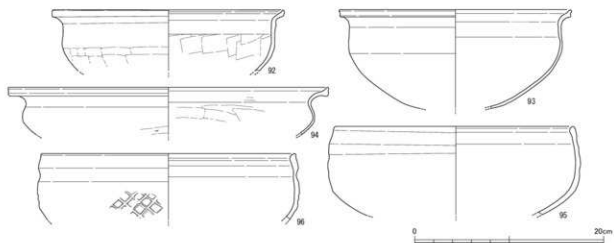
67は、土師器の鍋である。外面は平行タタキ、内面は工具ナデで調整されている。播磨型のもので、17世紀中頃のものと考えられる。68・69は、陶器の皿である。68は、内面見込みに菊文の摺絵がある。瀬戸・美濃製品であり、登窯第2段階第6小期～第7小期の18世紀前半のものと考えられる。70は、陶器の鉢である。口縁部は外反し、内面には鉄絵が描かれている。瀬戸・美濃製品であり、登窯第2段階第6小期～第7小期の18世紀前半のものと考えられる。71・72は、陶器の播鉢である。71の口縁端部は玉縁状に膨らむ。瀬戸・美濃製品であり、登窯第1段階4小期の17世紀後半のものと考えられる。72は口縁部形状から堺・明石系のもので、桶

原編年I-1類の18世紀～19世紀前半のものと考えられる。73・74は、磁器の碗である。74の外面には染付で文様等が描かれている。肥前系であり、17世紀後半～18世紀後半にかけてのものと考えられる。75は、軒平瓦である。瓦当は中心飾り付近に残り、左右に唐草文が展開するものと考えられる。SK 20007 (第IV-3図)

76・77は、土師器の焙烙である。いずれも口縁部が直立してのびたもので、76の口縁部と底部との境はケズリで面取りされている。大坂系のもので、積山編年13段階～14段階の19世紀前半のものと考えられる。78は、陶器の餌じょくである。把手が1箇所付く。瀬戸・美濃製品であり、登窯期のものと考えられる。79は、陶器の鉢である。内面に



67 ~ 75 : SK20005 76 ~ 91 : SK20007 92 ~ 96 : SK20009



第IV - 3図 出土遺物実測図3 (1:4)

は鉄絵が描かれている。瀬戸・美濃製品である。80は、陶器の片口鉢である。瀬戸・美濃製品である。81・82は、陶器の蓋である。中央には切り込みが入った円形の紐が付く。外面全体は緑色の釉が掛るが、内面は露胎であり煤が付着している。83・84は陶器の耳が付く双耳の小型壺である。82は83・84のいずれかに伴う陶器の蓋で、セット関係のものである。瀬戸・美濃製品であり、19世紀前半のものと考えられる。85は、陶器の播鉢である。口縁端部は上方へ突出して玉縁状に膨らむ。堺・明石系であり、稲原編年Ⅱ-2類の18世紀後半～19世紀代のものと考えられる。

86～88は、磁器の碗である。86は筒形碗、87・88は端反碗である。いずれも内外面には染付で文様等が描かれており、86は菊文と菱文・格子文、87は椿文、88は飛雲が表現された文様がある。86の内面の見込みには、コンニャク印判の五弁花文、87には「壽」の文字がある。これらのうち、86・87は肥前系であり、88は瀬戸・美濃製品の可能性がある。18世紀～19世紀前半頃にかけてのものと考えられる。89は、磁器の蓋である。碗の蓋とみられ、内外面には染付で文様などが描かれている。外面には卍と変形字の文様、内面には四方椿文がある。肥前系のもので、17世紀末～18世紀後半のものと考えられる。90は、磁器の鉢である。外面には染付で草花文が描かれている。肥前系のものである。91は、軒平瓦である。瓦当部は中心飾り部分のみが残る。

SK 20009 (第Ⅳ-3図)

92～97は、土師器の鍋である。92～94は南伊勢系で、口縁端部が上方へ突出している。伊藤編年近世Ⅱ期～Ⅲ期の18世紀～19世紀前半のものと考えられる。95～97は播磨型である。95は外面全体に煤が厚く付着しており、タタキの有無については不明である。96には格子タタキ、97には平行タタキが施され、97の内面は工具ナデで調整されている。95・96は長谷川編年Ⅶ期の16世紀後半～17世紀前半のものと考えられる。98は、陶器の天目茶碗である。内外面には鉄釉が施されているが、体部下半は露胎となる。瀬戸・美濃製品であり、大窯第2段階後半の16世紀中頃前後のものと考えられ

る。99は、陶器の皿である。底部内面には、摺絵による文花がある。瀬戸・美濃製品であり、登窯第2段階第7小期の18世紀中頃前後のものと考えられる。

SK 20013 (第Ⅳ-4図)

100は、土師器の皿である。口縁部はヨコナデ、その他はナデで調整されている。101は、陶器の片口鉢である。口縁端部は外傾面を持つ。常滑製品と考えられる。

SE 20016 (第Ⅳ-4図)

102～104は、土師器の皿である。102は平底で、口縁部は端部に向かって直線的にのびる。底部外面には糸切痕が残る。103・104は、碗に近い形状のもので、口縁端部はやや内傾して丸く収められている。103の外面には粘土紐の接合痕が残る。104の内面は工具ナデで調整されており、ハケメに近い条線を残す。105は、須恵器の鉢である。口縁端部は上方に突出して丸く収められている。東播系須恵器であり、佐藤編年Ⅲ-3類の13世紀後半～14世紀前半のものと考えられる。106は、陶器の山茶碗である。内面は使用による摩耗が激しい。尾張型第5型式の13世紀前半頃のものと考えられる。107は、陶器の鉢である。内外面はロクロナデで調整され、底部外面には糸切痕が残る。108は、青磁の碗である。外面には鎗蓮弁文が施されている。龍泉窯系のもので、山本編年E期の13世紀前半頃のものと考えられる。

SK 20019 (第Ⅳ-4図)

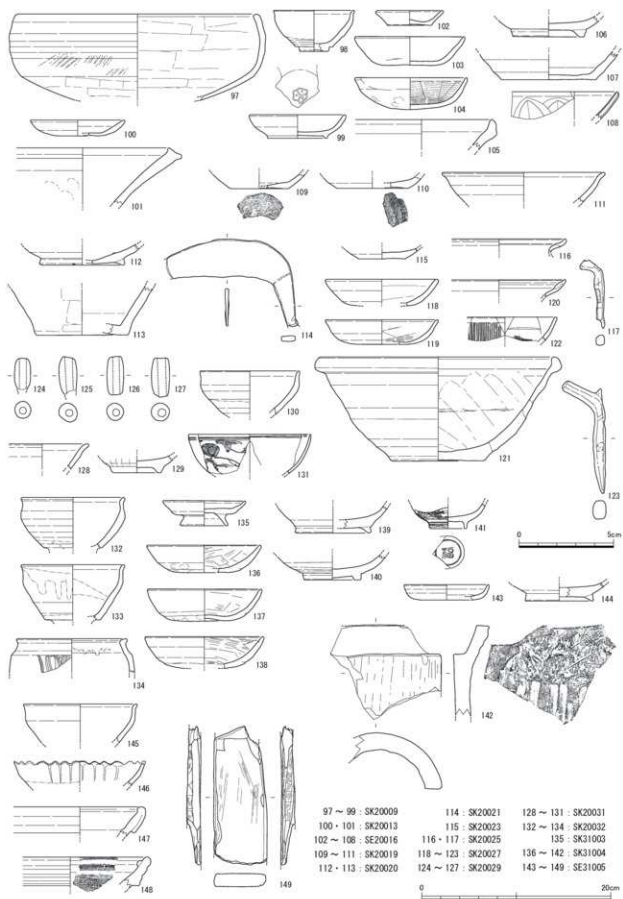
109・110は、土師器の皿である。いずれも平底で、外面には糸切痕が残る。111は、陶器の山茶碗である。尾張型第4型式～第5型式の12世紀後半～13世紀前半のものと考えられる。

SK 20020 (第Ⅳ-4図)

112は、陶器の山茶碗である。高台の形状は逆三角形を呈しており、粉殻痕がみられる。113は、陶器の甕である。外面には工具ナデの痕跡が残る。常滑製品と考えられる。

SK 20021 (第Ⅳ-4図)

114は、鉄製の鎌である。刃部と柄部の先端が欠損している。



第IV - 4図 出土遺物実測図4 (1:4, 117, 123は1:2)

SK 20023 (第IV-4図)

115は、陶器の皿である。平底のもので、糸切痕が残る。

SK 20025 (第IV-4図)

116は、土師器の鍋である。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅱa期の13世紀前半のものと考えられる。117は、鉄製の釘である。断面形状は方形で、頂部が片側に折り曲げられた折釘と考えられる。

SK 20027 (第IV-4図)

118・119は、土師器の皿である。119の内面は工具ナデで調整され、ハケメ状の条線が残る。120は、土師器の鍋である。口縁端部の粘土は内側に折り返されている。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅱb期～Ⅲa期の13世紀代のものと考えられる。121は、須恵器の鉢である。口縁端部は内側に折り返されて玉縁状となる。内面には粘土の接合痕が残る。外面及び口縁端部内面には煤が付着している。東播系須恵器であり、佐藤編年Ⅳ類の14世紀末～15世紀のものと考えられる。122は、陶器の皿である。内外面には櫛描きによる条線が施されている。瀬戸・美濃製品の可能性がある。123は、鉄製の釘である。頭部が欠損している。断面形状は方形である。

SK 20029 (第IV-4図)

124～127は、土師である。いずれも外面はナデで調整されている。

SK 20031 (第IV-4図)

128は、陶器の山茶碗である。渥美湖西型2b型式の13世紀前半のものと考えられる。129・130は、陶器の碗である。129の内外面には、黄色の釉が施されている。130は天目茶碗であり、内外面には鉄釉が施されているが、体部下半は露胎となる。いずれも瀬戸・美濃製品である。131は、磁器の碗である。外面には草花文とみられる文様が描かれている。染付の色調や胎土から漳州窯系の青花磁器の可能性が有る。

SK 20032 (第IV-4図)

132・133は、陶器の天目茶碗である。内外面には鉄釉が掛り、下半以下は露胎となる。瀬戸・美濃製品であり、登窯第1段階の17世紀前半～後半のものと考えられる。134は、陶器の壺である。瀬戸・美濃製品と考えられる。

SK 31003 (第IV-4図)

135は、土師器の台付皿である。「ハ」の字状に開く高台を持つ。

SK 31004 (第IV-4図)

136～138は、土師器の皿である。椀に近い形状のもので、口縁端部は丸く収められている。内面は工具ナデで調整されている。137・138には、粘土紐の接合痕が残る。139は、陶器の山茶碗である。渥美湖西型2b型式の13世紀前半のものと考えられる。140は、陶器の碗である。片口鉢の底部の可能性もある。内面にはトチンの痕跡が残る。瀬戸・美濃製品とみられる。141は、磁器の碗である。外面には染付で草本文があり、底部外面の見込みには「福」の文字がある。肥前系であり、17世紀後半～18世紀後半のものと考えられる。142は、丸瓦である。凸面は縦方向のナデ後に横方向のナデで調整され、凹面には布目痕と棒状圧痕が残る。端部は面取り後にナデで整えられている。

SE 31005 (第IV-4図)

143は、土師器の皿である。144は、灰陶陶器の碗である。高台は断面逆三角形を呈する。百代寺窯式期の11世紀前半～後半のものと考えられる。145は、陶器の天目茶碗である。内外面には鉄釉が掛かる。瀬戸・美濃製品と考えられる。146は、陶器の皿である。口縁端部が波状になる。瀬戸・美濃製品の菊皿であり、登窯第1段階第4小期の17世紀後半のものと考えられる。147・148は、陶器の播鉢である。147の口縁端部の粘土は、外側へ薄く折り返されている。瀬戸・美濃製品であり、登窯第2段階第6小期の18世紀前半のものと考えられる。148は、堺・明石系のもの可能性がある。149は、砥石である。表面には使用による線状の擦痕が顕著に残る。SK 31008 (第IV-5図)

150は、土師器の皿である。底部外面にはユビオサエの痕跡が残る。151は、陶器の皿である。瀬戸・美濃製品の折縁皿である。

SK 31012 (第IV-5図)

152は、土師器の羽釜である。口縁部は直立してのびる。

SK 31013 (第IV-5図)

153は、磁器の仏具である。外面には染付で斜

格子文が描かれている。肥前系であり、18世紀後半～19世紀中頃のものと考えられる。

SK 31014 (第IV - 5図)

154・155は、土師器の鍋である。いずれも南伊勢系である。154の口縁端部は上方に擠み上げられ、内外面には煤が付着している。伊藤編年中世IVb期の16世紀前半のものと考えられる。156は、石製の円盤状製品である。円形に加工されており、端部は細かく打ち欠かれて尖っている。片面には自然面が残り、一部が階段状に剥離している。材質は泥岩系のものと考えられる。現状で類例が見当たらないため、どのように使われたものか不明だが、削器のような用途で使われたものの可能性がある⁽⁴⁾。

SE 31016 (第IV - 5図)

157～159は、土師器の皿である。いずれも椀に近い形状のもので、157・158の内面は工具ナデで調整されている。160は、土師器の鍋である。南伊勢系であり、伊藤編年中世IIa期～IIb期の13世紀代のものと考えられる。161は、陶器の鉢である。外面は縦方向のナデで調整されている。常滑製品とみられる。

SK 31019 (第IV - 5図)

162は、陶器の山茶碗である。尾張型第6型式の13世紀後半のものと考えられる。

SE 32002 (第IV - 5図)

163は、陶器の碗である。瀬戸・美濃製品の丸碗であり、登窯期のものと考えられる。164は、陶器の皿である。内面には蛇ノ目軸刺ぎの範囲がある。肥前系のものと考えられる。165は、陶器の甕である。口縁端部は水平面を持ち、両端は内外に突出する。常滑製品の大甕であり、19世紀前半のものと考えられる。166は、磁器の碗である。外面には染付でコンニャク印判の文花とみられる文様がある。肥前系であり、17世紀末～18世紀後半のものと考えられる。167は、鉄製の釘である。断面形状は方形である。

SE 32003 (第IV - 5図)

168は、陶器の播鉢である。堺・明石系であり、稲原編年I - 2類の18世紀後半以降のものと考えられる。169は、陶器の碗である。肥前系であり、17世紀末～18世紀後半のものと考えられる。

SE 32005 (第IV - 5図)

170・171は、土師器の皿である。平底のもので、外面には糸切痕が残る。172は、土師器の台付皿である。底部外面の見込みには糸切痕が残る。173は、陶器の甕である。渥美製品であり、渥美2b型式の12世紀後半～13世紀前半のものと考えられる。

SE 33003 (第IV - 5図)

174～176は、土師器の皿である。174・175は椀に近い形状のもので、口縁端部はやや内湾する。175の口縁端部には煤が付着していることから、灯明皿として使用されたと考えられる。176は、南伊勢系である。伊藤編年中世IVa期の15世紀後半のものと考えられる。177・178は、青磁の碗である。いずれも外面には鍋蓮弁文が施されている。龍泉窯系のものとみられ、山本編年E期の13世紀前半のものと考えられる。

SK 33007 (第IV - 5図)

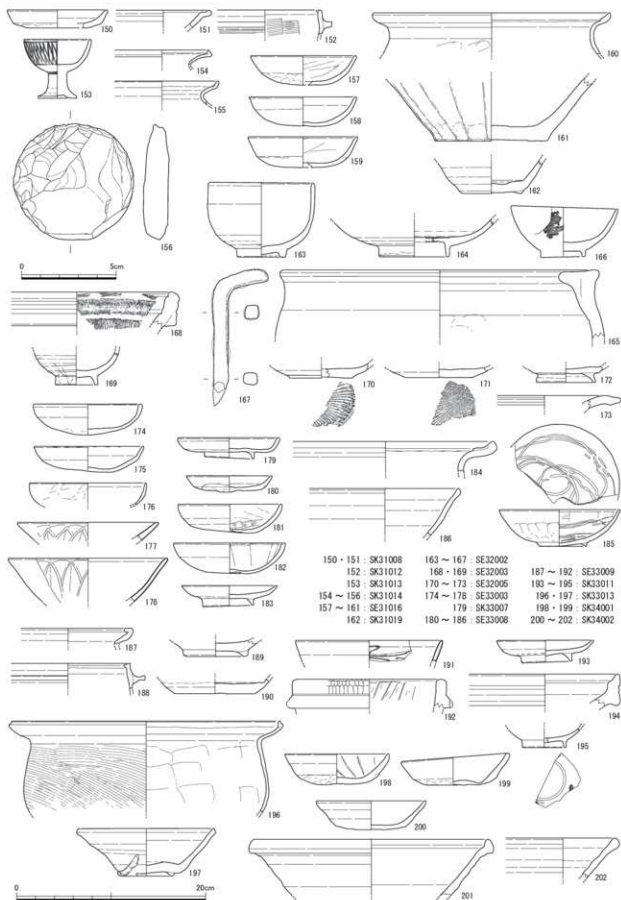
179は、土師器の台付皿である。平底の皿に低い高台が付いたものである。

SE 33008 (第IV - 5図)

180～182は、土師器の皿である。180は小型品で、外面には粘土紐の接合痕とユビオサエの痕跡が残る。181・182は、椀に近い形状のもので、内面は工具ナデで整えられており、182は口縁端部付近まで工具ナデが及んでいる。工具は左回りに動いて全周している。183は、土師器の台付皿である。平底で「ハ」の字状に開いた低い高台が付く。184は、土師器の鍋である。南伊勢系であり、伊藤編年中世IIb期の13世紀後半～14世紀前半のものと考えられる。185は、瓦器の椀である。口縁部は外反して端部は丸く、高台は断面逆三角形の小さなものが付く。内面には螺旋状の暗文が施されているが、暗文は太くて密でない。紀伊型であり、北野編年III - 2期の13世紀後半のものと考えられる。186は、陶器の山茶碗である。口縁端部は外傾面を持って膨らむ。尾張型第6型式の13世紀前半のものと考えられる。

SE 33009 (第IV - 5図)

187は、土師器の鍋である。口縁端部は粘土が内側に折り返されている。南伊勢系と考えられる。188は、土師器の羽釜である。南伊勢系であり、伊



第IV - 5図 出土遺物実測図5 (1:4, 156, 167は1:2)

藤編年中世Ⅱb期の13世紀後半～14世紀前半のものと考えられる。189は、陶器の山茶碗である。渥美湖西型3a型式の13世紀前半のものと考えられる。190は、白磁の皿である。福建省系とみられ、山本編年C期の11世紀後半～12世紀前半のものと考えられる。191は、青磁の碗である。内面には刻劃文の文様が施されている。龍泉窯系とみられ、山本編年D期の12世紀中頃～後半のものと考えられる。192は、滑石製の石鍋である。口縁部の破片で、鈎の端部は欠損している。口縁部外面と内面には細かな鑿の加工痕が残る。肥前西彼杵半島産の可能性がある⁽⁵⁾。木戸編年Ⅲ類-cの14世紀前半のものと考えられる。

SK 33011 (第Ⅳ-5図)

193は、土師器の台付皿である。器高が低い皿に小さな高台が付くもので、胎土は精良である。高台付近の外面には工具痕が残る。194は、陶器の播鉢である。口縁端部は両端と内面に拡張して広がり、外傾面には2条の沈線がめぐる。備前製品であり、乗岡編年近世Ⅱa期の17世紀前半のものと考えられる。195は、磁器の碗である。肥前系のものでみられる。

SK 33013 (第Ⅳ-5図)

196は、土師器の鍋である。口縁端部は積み上げられている。体部外面には条線が太くて粗いハケメ、内面には工具ナデが施されている。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅳa期の15世紀後半のものと考えられる。197は、陶器の山茶碗である。口縁部は外反しながら直線的にのび、端部は外傾面をもつ。高台の一部は、体部に付着した状態になっている。尾張型第7型式の13世紀後半のものと考えられる。

SK 34001 (第Ⅳ-5図)

198・199は、土師器の皿である。いずれも椀に近い形状のものである。198の内面は工具ナデで調整され、口縁端部付近まで及ぶ。199の内面には、底部から立ち上がる部分が大きく窪むことから、内面側から押し出し成形された可能性がある。

SK 34002 (第Ⅳ-5図)

200は、土師器の皿である。201は、須恵器の鉢である。口縁端部は膨らみ、上端は突出し下端も拡張して広がる。東播系須恵器であり、佐藤編年Ⅳ類

の14世紀末～15世紀代のものと考えられる。202は、陶器の鉢である。口縁端部は膨らんで玉縁状になっている。

SK 34003 (第Ⅳ-6図)

203は、土師器の焙烙である。口縁端部に向かって内湾しながらのび、端部は面を持つ。大坂・明石系であり、横山編年8段階の18世紀前半のものと考えられる。204は、陶器の甕である。205は、青磁の碗である。外面には櫛目の条線があり、内面にも文様が施されている。同安窯系の可能性がある。

SK 34004 (第Ⅳ-6図)

206は、土師器の鍋である。口縁端部は積み上げられている。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅳb期～Ⅳc期の16世紀代のものと考えられる。207は、陶器の皿である。瀬戸・美濃製品であり、大窯第2段階の16世紀前半～中頃前後のものと考えられる。SK 34005 (第Ⅳ-6図)

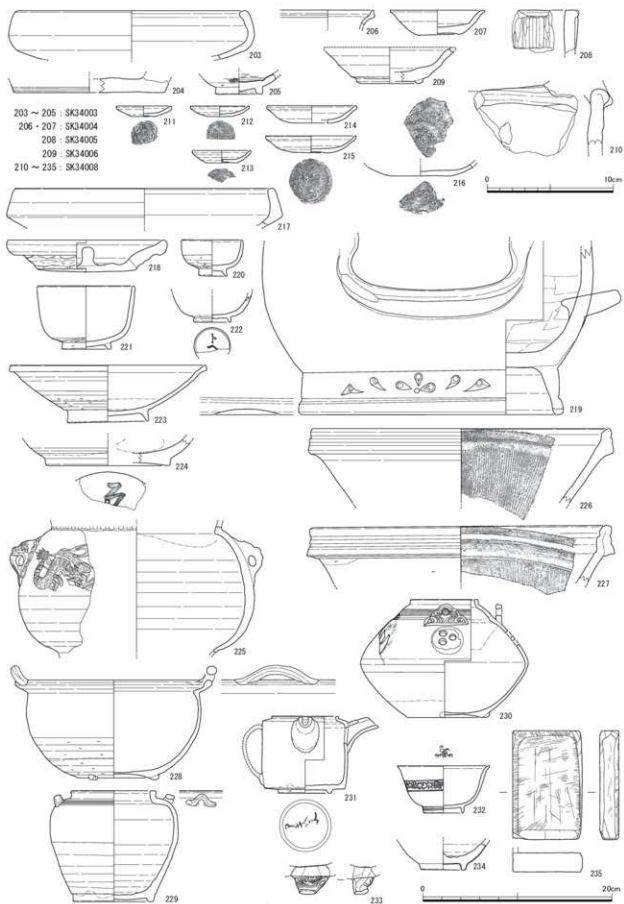
208は、瓦質土器の風炉である。口縁部の破片で、外面にはギザミ状の凹凸がめぐる。大和系の瓦質土器であり、14世紀後半～15世紀前半のものと考えられる⁽⁶⁾。

SK 34006 (第Ⅳ-6図)

209は、陶器の皿である。瀬戸・美濃製品の輪壳皿であり、登窯第1段階第3小期の17世紀中頃前後のものと考えられる。

SK 34008 (第Ⅳ-6図)

210は、縄文土器の深鉢である。緩い波状口縁になるもので、橋状突起または粘土塊附付突起が付く個体の可能性がある。縄文時代後期後半のものと考えられる。211～216は、土師器の皿である。いずれも底部には糸切痕が残り、内外面ともにクロコナデで調整され、内面全体と口縁部外面には透明釉が掛かる。211と214の口縁端部には煤が付着しており、灯明皿として使用されたと考えられる。216の内面見込みには、文字の印刻があるが、何の文字かは不明である。いずれも大坂系であり、横山編年10段階～12段階の18世紀中頃～末前後のものと考えられる。217は、土師器の焙烙である。口縁部に向かって内傾しながら直線的にのび、端部は丸く収められている。大坂系であり、横山編年12段階の18世紀末前後のものと考えられる。218は土師



第IV - 6図 出土遺物実測図6 (1:4、210は1:3)

質土器の蓋である。壺類の身にはめ込むタイプの落とし蓋となるもので、中央には柱状の鈕が付く。器面には煤が付着しており、ユビオサエの凹凸が顕著に残る。火消壺の可能性があり、18世紀以降のものと考えられる⁽⁷⁾。219は、土師質土器の風炉である。火窓は舌状に開いたタイプのもので、外面はナデ、内面は工具ナデで調整されている。高台の外面には透かし穴があるが、いずれも貫通しない。高台底面には2箇所に半月状の挟りがある。外面全体には赤色の塗料が塗られている。同様の製品は和歌山城跡での出土がある⁽⁸⁾。

220～222は、陶器の碗である。いずれも瀬戸・美濃製品である。221は高台と底部外面を除いて内外面全体に赤褐色の釉が掛かっている。登窯第2段階第5小期～第6小期の17世紀後半～18世紀前半のものと考えられる。222の底部外面の見込みには、「トヘ口」と記された墨書がある。220・222は、登窯第3段階第8小期～第9小期の18世紀後半～19世紀前半のものと考えられる。223は、陶器の皿である。口縁部は外反しながら屈曲し、端部は外傾面を持つ。瀬戸・美濃製品であり、登窯第3段階第8小期の18世紀後半のものと考えられる。224は、陶器の鉢である。外面には墨書による文字の一部がみられ、内面には重ね焼きの痕跡が残る。瀬戸・美濃製品であり、登窯第3段階第11小期の19世紀中頃～後半のものと考えられる。225は、陶器の瓶掛である。体部は球形で、上部には把手が付く。把手の外面には獣面の文様、体部外面には龍の文様が型押しで施されている。外面全体には緑色の釉が掛かり、内面には煤が付着している。瀬戸・美濃製品であり、18世紀以降のものと考えられる。226・227は、陶器の插鉢である。226は備前製品であり、乗岡編年近世2b期の17世紀後半のものと考えられる。227は堺・明石系のもので、稲原編年Ⅱ・2類の18世紀後半～19世紀代のものと考えられる。228は、陶器の鍋である。口縁部は受口状の形態で、2箇所に把手が付く。瀬戸・美濃製品の可能性があり、18世紀後半～19世紀前半のものであろうか。229は、陶器の双耳壺である。体部外面の肩には櫛状工具による沈線が5条めぐ。外面には高台を除いて黄色の釉が全面に掛かる。瀬戸・美濃製品とみられ、登

窯期のものと考えられる。230は、陶器の土瓶である。全体が算盤玉状の形態で、外面には給付けがある。注口を欠損し、体部にある円孔は3つである。把手外面には、渦状の意匠がみられる。京都・信楽系の可能性がある。231は、陶器の汁次である。底部外面の見込みには文字が墨書されている。瀬戸・美濃製品であり、登窯第3段階第10小期以降の19世紀代のものと考えられる。

232は、磁器の碗である。口縁部が外反する端反碗であり、外面には染付で團縁と唐草文・花文、底部内面の見込みには草花文が描かれている。肥前系であり、18世紀末～19世紀中頃のものと考えられる。233は、青磁の香炉である。脚部の破片で、外面には型押しで獣面が表現されている。国産青磁の可能性ある。234は、青磁の壺である。内面は無釉で、クロロ目の凹凸が顕著に残る。15世紀末以降のものと考えられる。235は、石製の硯を砥石として二次利用されたものである。硯としての形状は方形で、側面には二次利用に伴う加工がみられる。砥石として使用された面には、線状の顕著な擦痕が残る。17世紀前半以降のものと考えられる。

SK 34010 (第Ⅳ・7図)

236～239は、土師器の焙烙である。いずれも大坂・明石系のものである。238は底部から立ち上がる部分の外面は、膨らんで段状になる。横山編年8～12段階の18世紀前半～19世紀初頭にかけてのものと考えられる。240は、陶器の土瓶である。体部外面には山水が表現された文様が施されている。底部外面には文字が墨書されている。京都・信楽系の可能性がある。241は、陶器の壺である。備前製品の可能性がある。

SK 35002 (第Ⅳ・7図)

242は、陶器の山皿または山茶碗の口縁部である。渥美湖西型2a型式の12世紀後半のものと考えられる。

SE 35010 (第Ⅳ・7図)

243は、土師器の皿である。底部外面には糸切痕が残る。244は、陶器の山茶碗である。渥美湖西型3a型式の13世紀前半のものと考えられる。245・246は、青磁の碗である。内外面ともに無文様のものである。

SE 36004 (第IV - 7 図)

247 は、陶器の卮皿である。瀬戸・美濃製品であり、古瀬戸後期様式 I 期の 14 世紀後半のものと考えられる。

SE 36007 (第IV - 7 図)

248 は、土師器の羽釜である。口縁部は内傾し、端部は水平な面を持つ。鈎の突出は小さい。249 は、陶器の片口鉢である。口縁部は外反しながらのび、端部は外傾面を持つ。常滑製品であり、常滑第 2 段階 6 b 型式の 13 世紀後半のものと考えられる。250・251 は、白磁の碗である。250 の口縁端部は外側へ突出している。251 は底部外面が露胎で、内面に釉が掛かる。いずれも福建省系とみられ、山本編年 D 期の 12 世紀中頃～後半のものと考えられる。

SK 37003 (第IV - 8 図)

252・253 は、土師器の皿である。252 は平底のものである。253 は椀に近い形状のもので、口縁部に向かって内湾ぎみにのびて端部は丸い。底部外面には 3 本の線刻が施されおり、工具痕の可能性のある短い線状痕が放射状に残る。254 は、土師器の鍋とみられる破片である。口縁端部は内側へ大きく屈曲し、端部は丸く収められている。特異な形状のもので、讃岐地域でみられる瓦質系土器の鍋に類似品があるという⁽⁹⁾。255～262 は、陶器の山茶碗である。このうち、256 が尾張型でそれ以外は渥美湖西型で

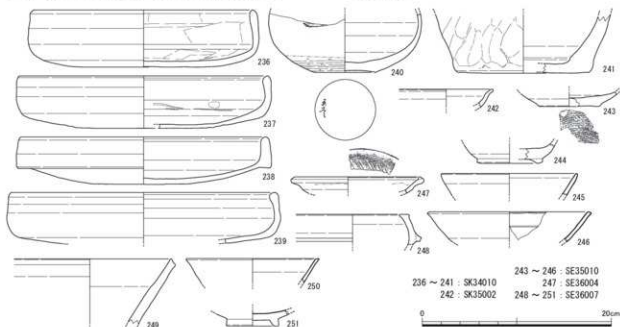
ある。12 世紀前半～13 世紀前半にかけてのものと考えられる。263～266 は、陶器の山皿である。いずれも平底のもので、263～265 の底部から立ち上がる部分の外面には段がある。渥美湖西型 2 a 型式～2 b 型式の 12 世紀後半～13 世紀前半のものと考えられる。267・268 は、陶器の片口鉢である。267 は渥美製品であり、渥美 2 b 型式の 12 世紀末～13 世紀前半のものと考えられる。268 は常滑製品であり、常滑第 2 段階 5 型式の 13 世紀前半のものと考えられる。269 は、陶器の甕である。体部は途中で大きく膨らんでおり、焼き歪みの可能性がある。内面には自然釉が全体に掛かる。常滑製品の可能性がある。270 は、青磁の碗である。内外面ともに無文様である。

SK 37004 (第IV - 8 図)

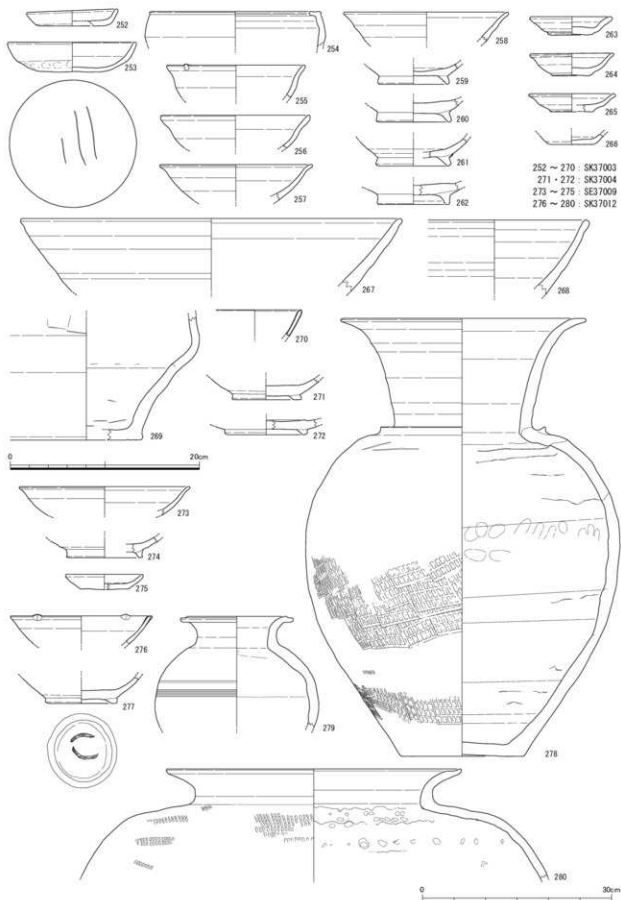
271・272 は、陶器の山茶碗である。271 の高台接地面には、離れ砂が付着している。渥美湖西型 2 b 型式～3 a 型式の 13 世紀前半のものと考えられる。

SE 37009 (第IV - 8 図)

273 は、陶器の山茶碗である。尾張型第 3 型式の 12 世紀初頭前後のものと考えられる。274 は、灰釉陶器の可能性のある碗である。275 は、陶器の山皿である。平底のもので、口縁部に向かって直線的にのびる。渥美湖西型 3 a 型式の 13 世紀前半のものと考えられる。



第IV - 7 図 出土遺物実測図 7 (1:4)



第IV - 8図 出土遺物実測図8 (1:4, 280は1:6)

SK 37012 (第IV - 8図)

276・277 は、陶器の山茶碗である。276 の口縁端部には輪花があり、277 の底部外面の見込みに記号が墨書されている。渥美湖西型 1 c 型式～2 b 型式の 12 世紀後半～13 世紀前半のものと考えられる。278 は、陶器の瓶である。広口瓶であり、口縁部は頸部から直線的にのびて大きく外反する。体部の肩には、断面三角形の突帯がめぐる。体部は中位で最大径となり、底部に向かって窄まる。体部外面には格子タタキが施され、肩の外面にはヘラ記号状の線刻がある。常滑製品であり、常滑第 1 段階 1 b 型式の 12 世紀前半のものと考えられる。279 は、陶器の壺である。球形の体部とラッパ状に外反する頸部と口縁部が付く。体部外面には、櫛を使って施された浅い沈線が 5 条めぐる。常滑製品とみられ、常滑第 2 段階以降の 12 世紀後半頃のもの可能性がある。280 は、陶器の壺である。大型のもので、口縁部は外反して、端部は小さく摘み上げられている。体部外面には、細かな格子タタキが施され、内面にはユビオサエの指頭圧痕と粘土紐の接合痕が顕著に残る。渥美製品であり、渥美 2 a 型式～2 b 型式の 12 世紀後半～13 世紀前半のものと考えられる。

SK 41002 (第IV - 9図)

281～285 は、縄文土器の深鉢である。281 は、口縁部の破片で、縄文時代中期末以降のものと考えられる。282～285 は体部の破片で、外面には条線、内面にはミガキが施されている。いずれも縄文時代中期末以降のものと考えられる。286 は、陶器の鉢である。口縁端部は外傾面をもち、面の中央は窪む。常滑製品であり、常滑第 3 段階 8 型式の 14 世紀後半のものと考えられる。

SK 41004 (第IV - 9図)

287・288 は、土師器の皿である。底部外面には糸切痕が残る、内外面ともにクロコナデで調整されている。口縁部には煤が付着していることから灯明皿として使用されたものと考えられる。いずれも大坂系であり、横山編年 10 段階以降の 18 世紀中頃以降のものと考えられる。

SK 41007 (第IV - 9図)

289 は、土師器の皿である。椀に近い形状のもので、口縁部に向かって内湾ぎみにのび、端部は丸く

収められている。290 は、土師器の焙烙である。口縁部は内傾し、端部は丸く収められている。外面には円形の押圧痕とみられる痕跡がある。大坂・明石系であり、横山編年 6 段階の 18 世紀後半のものと考えられる。

SK 41009 (第IV - 9図)

291 は、土師器の鍋である。口縁端部は粘土が内側に折り返されて肥厚する。南伊勢系であり、伊藤編年中世 II b 期の 13 世紀後半～14 世紀前半のものと考えられる。292 は、陶器の山茶碗である。

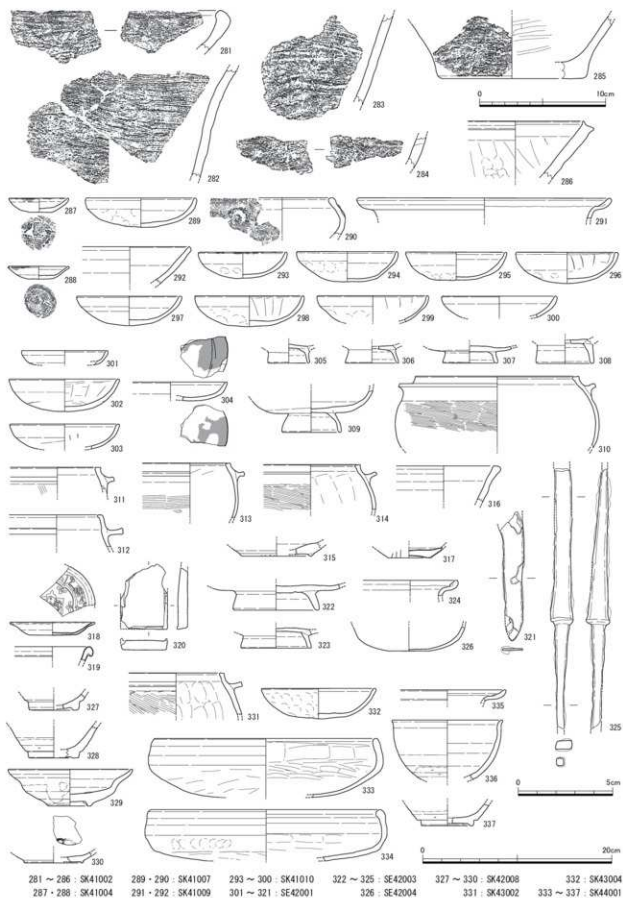
SK 41010 (第IV - 9図)

293～300 は、土師器の皿である。いずれも椀に近い形状のもので、口縁部に向かって内湾しながらのび、端部は丸く収められている。296・298・299 の内面は、工具ナデで調整されている。

SE 42001 (第IV - 9図)

301～304 は、土師器の皿である。301・304 は器高が低く平らな形状のもので、302・303 は椀に近い形状のものである。302・303 の内面は工具ナデで調整されている。305～309 は、土師器の台付皿である。いずれも高台の破片であり、305・307・308 は下方に直線的にのびたもので、306・309 は「ハ」の字状に開いている。310～314 は、土師器の羽釜である。いずれも南伊勢系であり、伊藤編年中世 II b 期～III a 期の 13 世紀後半～14 世紀代のものと考えられる。

315 は、陶器の山茶碗である。断面逆三角形の高台で粉殻痕が残る。尾張型第 6 型式の 13 世紀前半のものと考えられる。316 は、陶器の鉢である。常滑製品であり、常滑第 2 段階 6 a 型式の 13 世紀後半のものと考えられる。317・318 は、白磁の皿である。317 は外面に工具痕とみられる条線が残る。福建省系であり、山本編年 C 期の 11 世紀後半～12 世紀前半のものと考えられる。318 の内面には、型押しによる唐草文と花文が組み合わさった文様が施されている。口縁端部のみ釉が掛からない口売げ皿である。14 世紀以降のものと考えられる。319 は、白磁の壺である。口縁部の破片で、端部は外側に屈曲している。耳壺の可能性があり、福建省系とみられる。山本編年 C 期の 12 世紀末前後のものと考えられる。320 は、石製の硯である。墨受け側と左隅



第IV - 9図 出土遺物実測図9 (1:4, 281 ~ 285 は 1:3, 321, 325 は 1:2)

が欠損している。321 は、鉄製の刀子の可能性のある破片である。

SE 42003 (第IV - 9 図)

322・323 は、土師器の台付皿である。323 の底部外面の見込みには糸切痕とみられる痕跡が残る。324 は、土師器の鉢である。口縁端部は内側に折り返されて肥厚する。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅱa 期～Ⅱb 期の 13 世紀中頃前後～14 世紀初頭前後のものと考えられる。325 は、鉄鏝である。鏝身部の断面形状が長方形の鑿根式のものである。全体の形状が長い鑿根Ⅰ式で、環状間・台状間タイプのものとみられる。11 世紀後半以降のものと考えられる⁽¹⁸⁾。

SE 42004 (第IV - 9 図)

326 は、土師器の皿である。椀に近い形状のものと考えられる。

SK 42008 (第IV - 9 図)

327・328 は、陶器の碗である。いずれも瀬戸・美濃製品の天目茶碗の可能性が高い。329・330 は、陶器の皿である。329 は、口縁部に向かって外面に屈曲する形態で、内面の見込みと高台の接地面には離れ砂が残る。肥前系であり、17 世紀末～18 世紀後半のものと考えられる。330 の底部内面の見込みには、菊文の印刻がある。瀬戸・美濃製品であり、大窯第3段階～第4段階の 16 世紀後半～17 世紀前半のものと考えられる。

SK 43002 (第IV - 9 図)

331 は、土師器の羽釜である。口縁部は短く、端部は水平な面を持つ。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅱb 期の 13 世紀後半～14 世紀前半のものと考えられる。

SK 43004 (第IV - 9 図)

332 は、土師器の皿である。椀に近い形状のもので、外面にはユビオサエの痕跡が顕著に残る。手づくね成形されたものと考えられる。

SK 44001 (第IV - 9 図)

333・334 は、土師器の焙烙である。いずれも口縁部に向かって内湾しながらのび、端部は丸く収められている。大坂・明石系であり、横山編年6段階～8段階の 17 世紀後半～18 世紀前半のものと考えられる。335 は、土師器の鉢である。口縁端部の粘

土は内側に折り返されて肥厚する。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅱa 期～Ⅱb 期の 13 世紀代のものと考えられる。336・337 は、陶器の天目茶碗である。瀬戸・美濃製品と考えられる。

SK 44005 (第IV - 10 図)

338 は、陶器の鉢である。底部の破片で、内面には重ね焼き痕が残る。瀬戸・美濃製品の練鉢であり、登窯第3段階第9小期以降の 19 世紀前半以降のものと考えられる。339 は、陶器の擂鉢である。底部中央に円孔があることから、植木鉢として転用されたものと考えられる。円孔は、内面に剥離痕跡があることから、外面から打ち欠かれたと考えられる。340 は、磁器の皿である。口縁端部には輪花が施されている。内外面には染付で文様が描かれており、外面には唐草文、内面には魚文と竹文、底部内面の見込みにはコンニャク印判の五弁花文、底部外面の見込みには字体が崩れた「寿」とみられる文字がある。肥前系であり、17 世紀後半～18 世紀後半のものと考えられる。341 は、鉄製の釘である。断面形状は方形で、頂部が折れ曲がった折釘である。

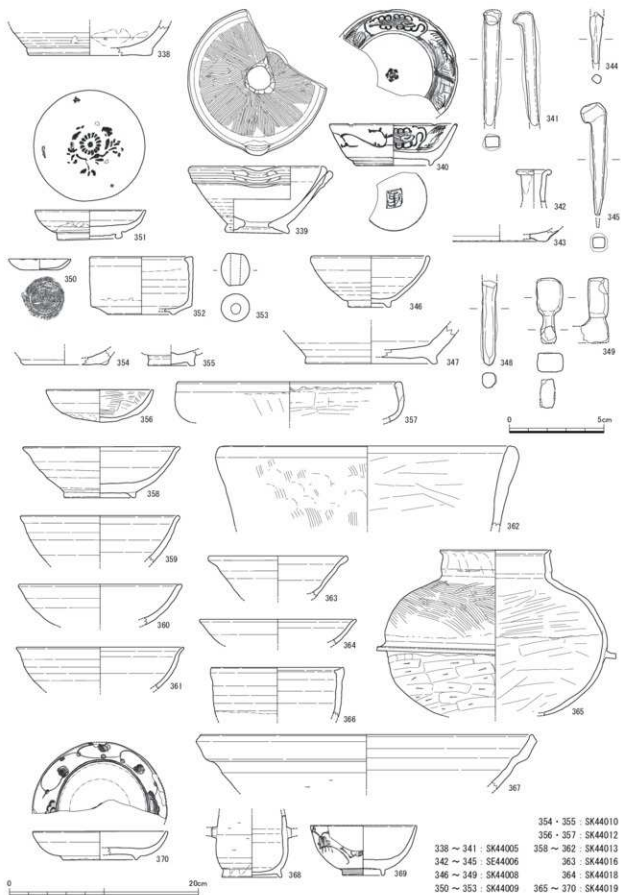
SE 44006 (第IV - 10 図)

342 は、陶器の徳利である。細長い頸部が付くもので、口縁部は外側へ大きく屈曲している。瀬戸・美濃製品であり、登窯第2段階第6小期の 18 世紀前半のものと考えられる。343 は、青磁の壺である。内面は露胎となり、外面のみに釉が掛かる。344・345 は、鉄製の釘である。344 は先端部の破片、345 は断面形状が方形で、頂部が折れ曲がった折釘である。SK 44008 (第IV - 10 図)

346 は、陶器の碗である。口縁部はやや内湾し、端部は膨らんで小さく玉縁状になる。瀬戸・美濃製品とみられる。347 は、陶器の鉢である。高台の断面形状は逆台形である。常滑製品であり、常滑第2段階5型式の 13 世紀前半のものと考えられる。348 は、鉄製の釘である。頂部が欠損している。349 は、鉄製の金具の可能性のある破片である。

SK 44009 (第IV - 10 図)

350 は、土師器の皿である。底部には糸切痕が残る。口縁端部には煤が付着し、灯明皿として利用されたものと考えられる。大坂系であり、横山編年12段階の 19 世紀初頭前後のものと考えられる。



第IV-10図 出土遺物実測図 10(1:4, 341, 344, 346, 348, 349は1:2)

351 は、陶器の皿である。底部内面の見込みには、草花文の摺絵が施されている。瀬戸・美濃製品であり、登窯第2段階第6小期以降の18世紀前半～中頃前後のものと考えられる。352 は、陶器の香炉である。全体の形状は筒形で、口縁端部は内側へ屈曲して引き出されている。瀬戸・美濃製品の筒形香炉であり、登窯第3段階第8小期の18世紀後半のものと考えられる。353 は、土錘である。算盤玉状の形状で、外面はナデにより調整されている。

SK 44010 (第IV-10 図)

354 は、陶器の山茶碗である。355 は、陶器の碗である。瀬戸・美濃製品の可能性がある。

SK 44012 (第IV-10 図)

356 は、土師器の皿である。椀に近い形状のもので、口縁端部は丸く収められている。内面は工具ナデで調整されている。357 は、土師器の焙烙である。口縁部は内湾ぎみにのび、端部はやや膨らむ。内面は工具ナデで調整され、内外面には粘土紐の接合痕が残る。大坂・明石系であり、横山編年7段階～8段階の17世紀末～18世紀前半のものと考えられる。

SK 44013 (第IV-10 図)

358～361 は、陶器の山茶碗である。渥美湖西型または尾張型とみられ、12世紀前半～13世紀前半にかけてのものである。362 は、土製品の移動式カマドである。土製品としては硬く焼き締っており、陶器に近い印象を持つ。口縁部の破片とみられ、外面はユビオサエ及びハケメ、内面は工具ナデで調整されている。讃岐または河内地域で作られた船用の移動式カマドである可能性が考えられる⁽¹¹⁾。

SK 44016 (第IV-10 図)

363 は、陶器の山茶碗である。尾張型第7型式の13世紀中頃～後半のものと考えられる。

SK 44018 (第IV-10 図)

364 は、灰釉陶器の碗とみられる破片である。口縁部はやや外反し、端部は丸く収められている。百代寺窯式期のものであろうか。

SK 44019 (第IV-10 図)

365 は、土師器の茶釜である。口縁部に向かって直立してのび、端部は外反している。体部の中位に鐙が付く。外面は体部上半がハケメ、下半がケズリ、内面は工具ナデで調整されている。南伊勢系であり、

伊藤編年中世IVc期～近世I期の17世紀以降のものと考えられる。366 は、陶器の香炉である。口縁端部は内傾面を持つ。瀬戸・美濃製品の筒形香炉であり、登窯第2段階第7小期の18世紀中頃前後～後半のものと考えられる。367 は、陶器の播鉢である。口縁部は外反しながら屈曲し、口縁端部は外傾面を持ち、上端は突出している。瀬戸・美濃製品であり、登窯第3段階第8小期の18世紀後半のものと考えられる。368 は、陶器の壺である。体部の中位には把手状のものが付く。瀬戸・美濃製品であり、登窯期のものであろうか。369 は、磁器の碗である。外面には染付で草花文とみられる文様が描かれている。肥前系であり、17世紀末～18世紀後半のものと考えられる。370 は、磁器の皿である。内面には染付で崩れた唐草文が描かれ、見込みにはコンニャク印判の五弁花文がある。肥前系であり、17世紀末～18世紀末前後のものと考えられる。

SK 44020 (第IV-11 図)

371 は、陶器の土瓶である。底部と注口が欠損している。球形の体部で、外面には草文とみられる文様が描かれている。京都・信楽系のものであろうか。

SK 44022 (第IV-11 図)

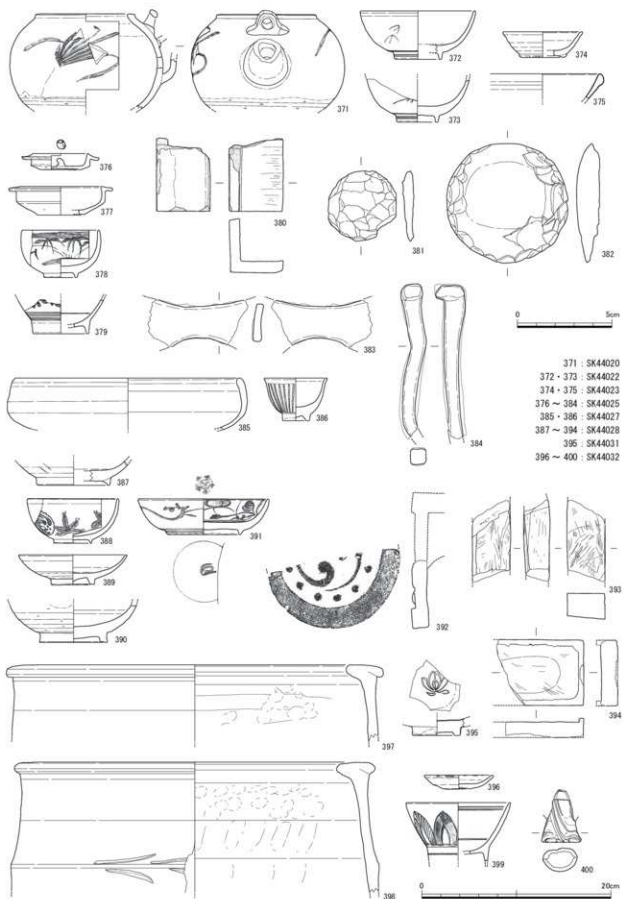
372・373 は、磁器の碗である。いずれも外面には染付で文様が描かれている。肥前系であり、18世紀前半以降のものと考えられる。

SK 44023 (第IV-11 図)

374 は、陶器の山皿である。高台には粉痕が残る。渥美湖西型2a型式の12世紀後半のものと考えられる。375 は、白磁の碗である。口縁端部は外側へ折り返されて肥厚する。福建省系であり、山本編年C期の11世紀後半～12世紀前半のものと考えられる。

SK 44025 (第IV-11 図)

376・377 は、陶器の蓋である。いずれも落とし蓋になるもので、376の中央には柱状の紐が付く。瀬戸・美濃製品であり、登窯期のものと考えられる。378・379 は、磁器の碗である。378は丸碗、379は広東碗の底部である。いずれも染付の文様などがあり、378の外面には竹文が描かれている。肥前系とみられ、19世紀前半以降のものと考えられる。380 は、土製のL字状製品である。板状のものがL字に



第IV-11 図 出土遺物実測図 11(1:4, 381 ~ 384 は 1:2)

曲がったもので、土師質というよりも瓦質に近い。表面はナデまたは工具ナデで調整されている。L字の凸面側には煤が付着していることから、何らかの火処で使用された製品と考えられるが、用途は不明である。381・382は、石製の円盤状製品である。円形に加工されており、端部は細かく打ち割られている。382の片面は端部を除いて未加工である。いずれも材質は泥岩系のものと考えられる。現状で類例が見当たらないため、どのように使われたのかわからないが、削器のような用途であった可能性が考えられる⁽¹²⁾。383は、加工された鉄製の板状製品である。384は、鉄製の釘である。先端が欠損している。断面形状は方形で、頂部が折れ曲がった折釘である。SK 44027 (第IV-11 図)

385は、土師器の焙烙である。口縁部に向かって内湾しながらのび、端部は丸く収められている。大坂・明石系であり、横山編年6段階の17世紀後半のものと考えられる。386は、陶器の小杯である。外面には削ぎによる縦方向の凹線が施されている。SK 44028 (第IV-11 図)

387は、陶器の山茶碗である。体部外面には工具の線状痕が残る。尾張型第4型式の12世紀前半～中頃前後のものと考えられる。388は、陶器の碗である。外面には染付で若松文が描かれた陶胎染付である。17世紀後半～18世紀後半のものと考えられる。389は、陶器の皿である。内面には蛇ノ目釉剥ぎの範囲があり、高台は削り出されて底部外面の見込みには兜巾がある。肥前系であり、17世紀後半～18世紀後半のものと考えられる。390は、陶器の鉢とみられる破片である。器厚が厚いことから、片口鉢である可能性が高い。瀬戸・美濃製品とみられ、登窯期のものであろうか。391は、磁器の皿である。外面には染付で崩れた唐草文、内面には草花文が描かれ、底部外面の見込みには崩れた文字、内面の見込みにはコンヤク印判の五弁花文がある。肥前系であり、17世紀末～18世紀後半のものと考えられる。392は、軒丸瓦である。瓦当下部の外縁及び中心付近にかけての破片である。外側に珠文を配し、内側には巴文が展開する。393は、砥石である。短辺の両端は欠損している。394は、石製の硯である。長方形のもので、墨受け側と外縁の大半が欠損

している。表面には墨を刷った際の使用痕が残る。SK 44031 (第IV-11 図)

395は、青磁の碗である。内面の見込みには花文の陰刻が施されている。

SK 44032 (第IV-11 図)

396は、土師器の皿である。底部には糸切痕が残る。内面と口縁部外面には透明釉が掛かり、口縁端部内外面には煤が付着している。大坂系であり、横山編年10段階以降の18世紀中頃以降のものと考えられる。397・398は、陶器の甕である。いずれも常滑製品であり、398の体部外面にはヘラによる文様がみられる。半胴甕の可能性もある。18世紀後半のものと考えられる。399は、磁器の碗である。広東碗で、内外面には染付で文様などが描かれている。18世紀後半～19世紀前半のものと考えられる。400は、土製の人形である。人物の脚部分の破片で、上半身が欠損している。内部は中空で側面に粘土の継ぎ目があることから、2つの粘土板を接合して成形され、型押しで作られたものと考えられる。SK 44033 (第IV-12 図)

401は、陶器の碗である。外面には白土を掛けた刷毛目文様がある。肥前系であり、18世紀以降のものと考えられる。402・403は、磁器の碗である。いずれも外面には染付で文様が描かれており、402には雨降文、403には草花文がある。肥前系であり、18世紀後半～19世紀前半のものと考えられる。

SK 44034 (第IV-12 図)

404は、陶器の碗である。瀬戸・美濃製品のいわゆる挙骨茶碗と呼ばれるもので、外面には筋状の窪みがある。18世紀中頃以降のものと考えられる。405は、磁器の碗である。外面には染付で菊花文が描かれている。肥前系であり、18世紀前半～中頃のものと考えられる。

SK 44035 (第IV-12 図)

406は、土師器の焙烙である。大坂・明石系であり、横山編年12段階の19世紀初頭前後のものと考えられる。407・408は、磁器の碗である。408は小碗で、外面には色絵で牡丹文が描かれている。肥前系であり、18世紀後半以降のものと考えられる。408は口縁部が外反する端反碗で、内外面には染付で松文などの文様が描かれている。肥前系であり、19世紀



第IV-12図 出土遺物実測図 12(1:4)

代のもと考えられる。409は、磁器の紅小皿である。型押し成形されたもので、蛸唐草状の文様がある。肥前系であり、19世紀中頃のもと考えられる。410は、磁器の蓋である。碗の蓋とみられ、内外面には染付で斜線文などの文様が描かれている。肥前系であり、19世紀代のもと考えられる。411は、磁器の鉢である。底部には蛇ノ目高台が付いている。内外面には染付で文様が描かれており、外面には山水文、内面には雲文、内面の見込みには圈線と花文とみられる文様がある。肥前系であり、17世紀後半～19世紀前半のもと考えられる。412は、土鍾である。細長い柱状のもので、外面はナデで調整されている。

SK 44036 (第IV-12図)

413は、陶器の播鉢である。播目は放射状に連続して施されている。堺・明石系であり、稲原編年I～2類の18世紀中頃～19世紀前半のもと考えられる。414は、磁器の碗である。口縁部が外反する端反碗で、内外面には染付で文様が描かれている。外面には斜線文と扇文、内面には斜格子文、内面の見込みには「寿」の文字がある。肥前系であり、19世紀中頃以降のもと考えられる。

SK 44037 (第IV-12図)

415は、土師器の焙烙である。大坂・明石系であり、積山編年6段階の17世紀後半のもと考えられる。SK 44038 (第IV-12図)

416は、陶器の碗である。口縁部に向かって内湾しながらのびる。内面には草木文とみられる文様が描かれている。京都・信楽系の可能性がある。417は、陶器の片口鉢である。半球状の形状で、口縁端部は内側に引き出されて突出している。瀬戸・美濃製品であり、登窯第3段階第8小期以降の18世紀後半以降のもと考えられる。418は、磁器の碗である。外面には染付で枝梅花文が描かれている。肥前系であり、18世紀前半のもと考えられる。

SK 44039 (第IV-12図)

419-420は、陶器の蓋と壺である。いずれも瀬戸・美濃製品と考えられる。421は、陶器の壺または徳利である。瀬戸・美濃製品とみられ、登窯期の18世紀後半以降のもと考えられる。422は、磁器の碗である。口縁部が外反した端反碗で、内外面には

染付で文様が描かれている。外面には米俵文、内面にも圈線内に米俵文が展開し、底部外面の見込みには「福」の文字がある。肥前系であり、19世紀代のもと考えられる。423は、青磁の香炉である。口縁端部は内側へ屈曲し、丸く収められている。軸の色調や胎土から国産のもと考えられる。

SK 44040 (第IV-12図)

424は、土師器の皿である。内面と口縁部には透明釉が掛かる。大坂系であり、積山編年10段階以降の18世紀中頃以降のもと考えられる。425・426は、磁器の碗である。内外面には染付で文様が描かれている。425の外面には東屋山水文、内面には雷文がある。426の外面には格子文、内面の見込みには井桁文がある。いずれも肥前系であり、18世紀後半～19世紀代のもと考えられる。

SK 44042 (第IV-12図)

427～429は、土師器の皿である。いずれも内面と口縁部には透明釉が掛かり、端部には煤が付着している。大坂系であり、積山編年10段階以降の18世紀中頃以降のもと考えられる。

SK 44043 (第IV-12図)

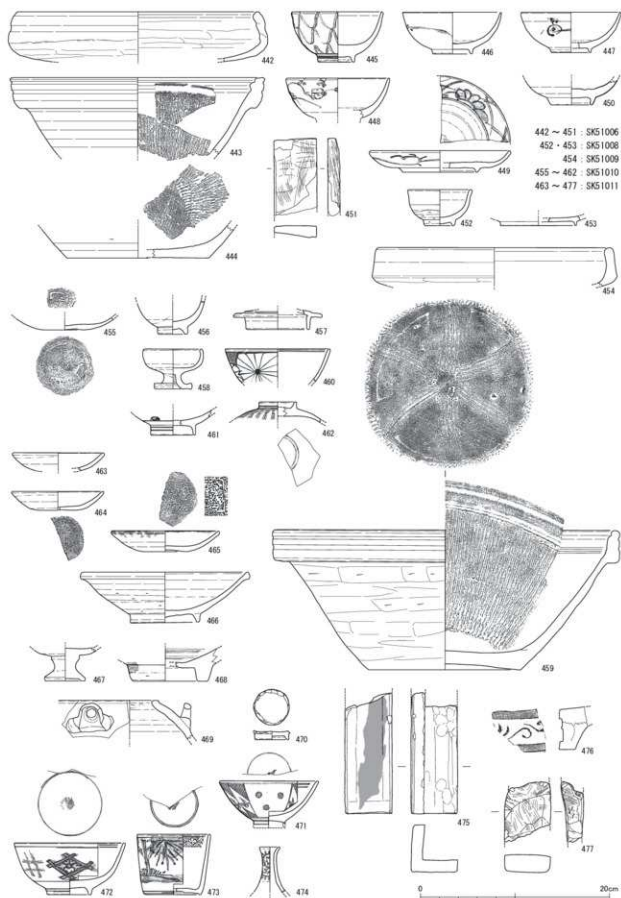
430は、陶器の碗である。陶胎染付であり、外面には捻花文、内面の見込みには五弁花状の花文がある。瀬戸・美濃製品とみられ、19世紀前半のもと考えられる。

SK 44044 (第IV-12図)

431は、陶器の皿である。いわゆる馬の目皿と呼ばれるもので、鉄釉で目が描かれている。瀬戸・美濃製品であり、19世紀代のもと考えられる。432は、磁器の仏具である。外面には染付で圈線が施されている。肥前系であり、17世紀末～18世紀後半のもと考えられる。433は、磁器の碗である。内外面には染付で文様などが描かれており、外面には草花文がある。肥前系であり、18世紀後半以降のもと考えられる。

SK 44046 (第IV-12図)

434は、陶器の碗である。瀬戸・美濃製品の丸碗であり、登窯第2段階第5小期～第6小期の17世紀末～18世紀初頭前後のもと考えられる。435は、陶器の仏具である。瀬戸・美濃製品と考えられる。436は、陶器の徳利である。内面には口ロ口目が顕



第IV-13図 出土遺物実測図 13(1:4)

著に残る。瀬戸・美濃製品と考えられる。437は、磁器の碗である。外面には染付で文様が描かれている。肥前系とみられ、18世紀前半～中頃のものと考えられる。438は、磁器の紅小皿である。外面には型押しで貝殻状の文様が施されている。肥前系であり、18世紀後半以降のものと考えられる。439は、磁器の蓋である。碗の蓋であり、内外面には染付で文様などが描かれている。内面にはコンニャク印判の五弁花文がある。肥前系であり、18世紀前半～中頃のものと考えられる。440は、白磁の碗である。口縁端部は外側に肥厚し、上端は細かな波状となっている。福建省系であり、山本編年C期の11世紀後半～12世紀前半のものと考えられる。

SK 51004 (第IV-12図)

441は、土師器の鍋である。南伊勢系であり、伊藤編年中世I b期の12世紀後半のものと考えられる。

SK 51006 (第IV-13図)

442は、土師器の焙烙である。底部から立ち上がる部分の外面にはケズリが施されており、粘土紐の接合痕が残る。大坂・明石系であり、横山編年8段階の18世紀前半のものと考えられる。443・444は、陶器の槽鉢である。443は堺・明石系であり、稲原編年I-1類の18世紀前半～19世紀前半のものと考えられる。445～448は、磁器の碗である。いずれも外面に染付で文様が描かれており、445は三段の網目文、447は花文、448は梅枝文がある。すべて肥前系であり、17世紀後半～18世紀後半のものと考えられる。449は、磁器の皿である。内外面には染付で文様が描かれており、外面には唐草文、内面には牡丹文と斜格子文がある。肥前系であり、17世紀後半～18世紀後半のものと考えられる。450は、青磁の碗である。451は、磁石である。表面には線状の擦痕が残る。

SK 51008 (第IV-13図)

452は、陶器の碗である。瀬戸・美濃製品の小碗であり、登窯第3段階第8小期の18世紀後半～末のものと考えられる。453は、磁器の皿である。

SK 51009 (第IV-13図)

454は、土師器の焙烙である。大坂・明石系であり、横山編年8段階の18世紀前半のものと考えられる。

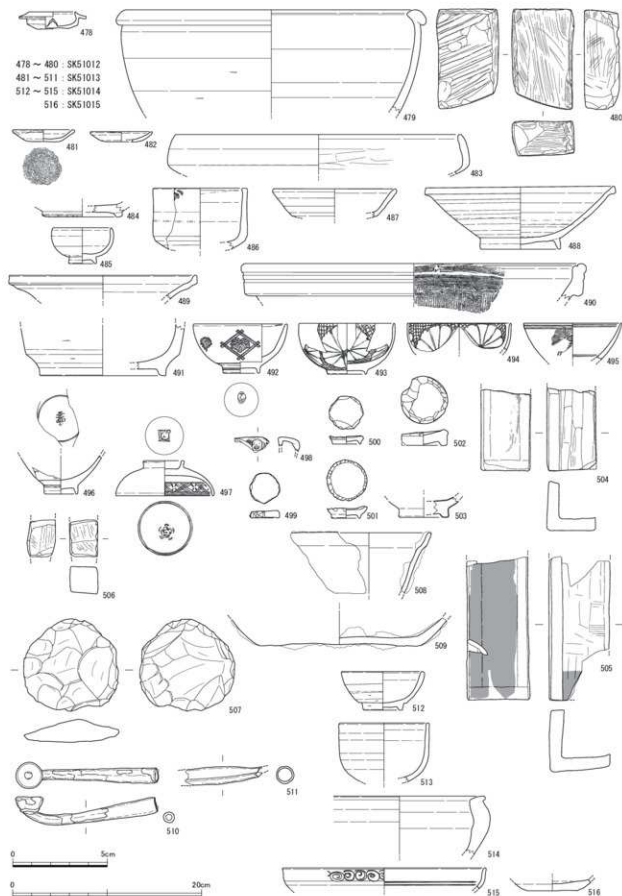
SK 51010 (第IV-13図)

455は、土師器の皿である。底部外面には糸切痕が残り、内面には四角の枠の中に「□井□」と記された印刻がある。内面には透明釉が掛かっている。大坂系であり、横山編年10段階の18世紀中頃以降のものと考えられる。456は、陶器の小碗である。瀬戸・美濃製品とみられる。457は、陶器の蓋である。土瓶に付随するもので、瀬戸・美濃製品と考えられる。458は、陶器の仏具である。瀬戸・美濃製品であり、登窯第3段階第7小期以降の18世紀中頃以降のものと考えられる。459は、陶器の槽鉢である。外面はケズリで調整されており、描目は放射状に連続して施されている。堺・明石系であり、稲原編年I-2類の18世紀中頃前後～19世紀前半のものと考えられる。460・461は、磁器の碗である。内外面には染付で文様などが描かれており、460の外面には菊花文と斜格子文がある。肥前系であり、17世紀後半～19世紀前半のものと考えられる。462は、磁器の蓋である。内外面には染付で文様などが描かれており、外面には網目文がある。肥前系であり、17世紀後半～18世紀後半のものと考えられる。

SK 51011 (第IV-13図)

463～465は、土師器の皿である。464・465の底部には糸切痕が残る。465の内面には四角の枠の中に「八□八与」と記された印刻がある。いずれも内面と口縁端部外面には透明釉が掛かる。大坂系であり、横山編年10段階の18世紀中頃以降のものと考えられる。466は、陶器の皿である。内面には帯状に釉が無い範囲がある。瀬戸・美濃製品の輪壳皿であり、登窯第3段階第8小期の18世紀後半のものと考えられる。467は、陶器の仏具である。瀬戸・美濃製品であり、18世紀以降のものと考えられる。468は、陶器の鉢である。内面には白土を掛けた刷毛目文様が施されている。肥前系であり、17世紀後半～18世紀後半のものと考えられる。469は、陶器の土瓶である。口縁部と把手部分の破片で、瀬戸・美濃製品とみられる。470は、陶器の加工円盤である。碗底部の高台に沿って打ち欠かれて円形に加工されている。

471・472は、磁器の碗である。いずれも内外面



第IV-14図 出土遺物実測図 14(1:4, 507, 510, 511 は 1:2)

には染付で文様などが施されている。このうち 472 の外面には、コンニャク印判の井桁文と花菱文がある。肥前系であり、17 世紀後半～19 世紀前半のものと考えられる。473 は、磁器の猪口である。蛇ノ目高台で、内外面には染付で文様などが描かれている。外面には竹文、内面には四方樺文がある。肥前系であり、19 世紀前半のものと考えられる。474 は、磁器の瓶である。口縁部から頸部の破片で、小型のものである。外面には染付で蛸唐草文が描かれている。肥前系であり、19 世紀前半のものと考えられる。475 は、土製の L 字状製品である。板状のものが L 字に曲がったもので、土師質というよりも瓦質に近い。表面はいずれもナデとユビオサエで調整されている。L 字の凸面側には煤が付着していることから、何らかの火処で使用された製品と考えられるが、用途は不明である。476 は、軒平瓦である。瓦当部の破片で、唐草文の中心飾りの一部が残る。断面には平瓦部に沈線を入れ、瓦当部の粘土を貼り付けた痕跡がある。477 は、磁石である。表面には線状の擦痕が残る。

SK 51012 (第Ⅳ-14 図)

478 は、陶器の蓋である。落とし蓋の形状で、外面中央には小さな鈕が付く。瀬戸・美濃製品であり、登窯第 3 段階第 11 小期の 19 世紀中頃前後のものと考えられる。479 は、陶器の鉢である。口縁部の粘土は外側に折り返されて肥厚し、端部は内傾している。瀬戸・美濃製品の練鉢であり、登窯第 3 段階第 11 小期の 19 世紀中頃前後のものと考えられる。480 は、磁石である。全ての面が使用されており、線状の擦痕と凹凸状の研磨痕が残る。

SK 51013 (第Ⅳ-14 図)

481・482 は、土師器の皿である。481 の底部外面には糸切痕が残る。内面全体と口縁端部外面には透明釉が掛かっている。482 の口縁端部には煤が付着しており、灯明皿として利用されたものと考えられる。いずれも大坂系であり、積山編年 10 段階以降の 18 世紀中頃以降のものと考えられる。483 は、土師器の焙烙である。口縁部に向かって内傾してのび、端部は丸く収められている。内面は工具ナデで調整されている。大坂・明石系であり、積山編年 7 段階の 17 世紀末前後のものと考えられる。484 は、

陶器の山茶碗である。高台の外面には粉般痕が残る。渥美瀬西型 2 b 型式の 13 世紀前半のものと考えられる。485・486 は、陶器の碗である。486 の口縁部外面には、花弁状の文様が施されている。いずれも瀬戸・美濃製品であり、登窯期の 18 世紀後半以降のものと考えられる。487～489 は、陶器の皿である。488 は輪壳皿であり、内面には帯状に釉が掛かっている範囲がある。瀬戸・美濃製品であり、18 世紀以降のものと考えられる。490 は、陶器の描鉢である。堺・明石系であり、稲原編年 I-1 類の 18 世紀前半～19 世紀前半のものと考えられる。491 は、陶器の徳利または壺とみられ、瀬戸・美濃製品の可能性がある。

492～495 は、磁器の碗である。いずれも肥前系のものである。内外面には染付で文様などが描かれており、492 の外面にはコンニャク印判の菊花文と桐文、底部外面の見込みに字体が崩れた「福」とみられる文字がある。17 世紀末～18 世紀後半のものと考えられる。493・494 には菊花文と格子文、495 の外面には松文がみられる。17 世紀末～19 世紀前半にかけてのものと考えられる。496 は、磁器の小杯である。内外面には染付で文様などが描かれており、内面の見込みに「壽」の文字がある。肥前系であり、18 世紀前半のものと考えられる。497 は、磁器の蓋である。内外面には染付で文様などが描かれており、内面には四方樺文と五弁花文がある。肥前系であり、17 世紀末～18 世紀後半のものと考えられる。498 は、磁器の水滴である。型押し成形されており、大黒天の表現がある。肥前系であり、17 世紀後半～18 世紀代のものと考えられる。499～502 は、磁器で作られた加工円盤である。499 は碗または皿の底部、500・501 は小杯の底部、502 は碗の底部が利用されており、打ち欠いて円形にされている。503 は、青磁の碗である。

504・505 は、土製の L 字状製品である。板状のものが L 字に曲がったもので、土師質というよりも瓦質に近い。表面はいずれもナデまたは工具ナデで調整されている。L 字の凸面側には煤が付着していることから、何らかの火処で使用された製品と考えられるが、用途は不明である。506 は磁石である。表面には使用による線状の擦痕がある。507 は、石

製の円盤状製品である。円形に加工されており、端部は細かく打ち割られて尖る。材質は泥岩系のものと考えられる。現状で類例が見当たらないため、どのように使われたものか不明だが、削器のようなものである可能性が考えられる⁽¹³⁾。508・509は、鉄製の鍋である。508は口縁部の破片で、受口状に屈曲している。509は底部の破片である。510・511は、銅製の煙管である。510は雁首部分が完存したもので、火皿の中には炭が薄く付着している。形状から18世紀後半～19世紀代のものと考えられる⁽¹⁴⁾。511は吸口部分の破片である。

SK 51014 (第IV-14 図)

512・513は、陶器の碗である。いずれも瀬戸・美濃製品であり、登窯期の18世紀後半～19世紀前半のものと考えられる。514は、陶器の火鉢である。常滑製品の赤物であり、16世紀後半～17世紀初頭前後のものと考えられる。515は、磁器の皿である。内外面には染付で文様などが描かれており、外面には渦文がある。肥前系であり、17世紀後半～18世紀代のものと考えられる。

SK 51015 (第IV-14 図)

516は、陶器の山皿である。

SK 51016 (第IV-15 図)

517は、縄文土器の深鉢である。口縁部付近の破片で、外面には沈線で構成された文様がある。縄文時代後期前半以降のものと考えられる。518は、土師器の台付皿である。519は、土師器の鍋である。口縁端部の粘土は内側に折り返されて摘み出されている。南伊勢系であり、伊藤編年中世I b期の12世紀代のものと考えられる。520は、陶器の山皿である。尾張型第4型式の12世紀後半のものと考えられる。521は、陶器の鉢とみられる破片である。瀬戸・美濃製品であろうか。522は、土錘である。外面はナデで調整されている。

SK 51017 (第IV-15 図)

523～526は、土師器の皿である。口径・器高ともに小型で全体の器厚が厚い。13世紀後半における当地域の土師器皿の形態を示す資料とみられる。527は、土師器の鍋である。口縁端部の粘土は内側に折り返されて肥厚する。体部の内外面ともに上半はナデ及びユビオサエ、下半はケズリが施されてお

り、ユビオサエの指頭圧痕が顕著に残る。南伊勢系であり、伊藤編年中世II a期～II b期の13世紀初頭前後～後半のものと考えられる。528・529は、瓦器の碗である。528の口縁部はやや外反し、端部は丸く収められている。底部には低くて粗雑な高台が付く。外面はユビオサエの指頭圧痕が顕著に残り、内面の見込みには崩れた輪状の暗文、口縁部付近には放射状の暗文が施されている。紀伊型であり、北野編年III～2期の13世紀後半のものと考えられる。529の口縁部はやや内湾し、端部は丸く収められている。外面にはユビオサエの指頭圧痕と粘土紐の接合痕が残り、内面には粗い螺旋状暗文が施されている。和泉型であり、和泉型IV～4期の14世紀前半のものと考えられる。530は、陶器の山茶碗である。口縁部に向かって外反しながら直線的にのび、端部は外傾面を持つ。高台は断面逆三角形が潰れた形状で、外面には粉痕が残る。尾張型第7型式の13世紀中頃前後～後半のものと考えられる。531は、陶器の山皿である。

SK 51018 (第IV-15 図)

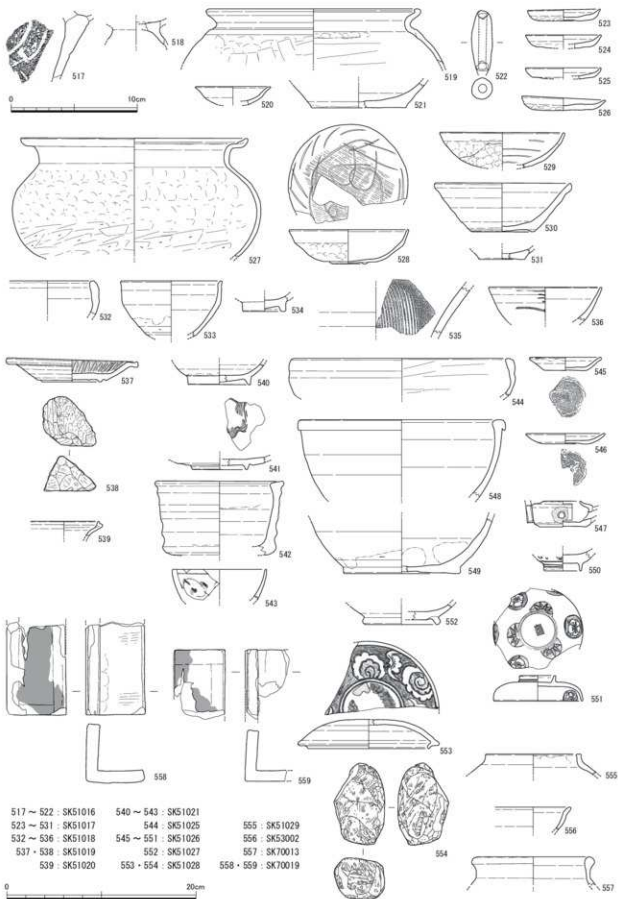
532は、土師器の焙烙である。大坂・明石系であり、横山編年6段階の17世紀後半のものと考えられる。533は、陶器の天目茶碗である。内外面には鉄釉が掛かっている。瀬戸・美濃製品であり、登窯第2段階第5小期の17世紀後半のものと考えられる。534は、陶器の碗である。瀬戸・美濃製品の天目茶碗の可能性がある。535は、陶器の播鉢である。536は、磁器の碗である。外面には染付で文様が描かれている。肥前系とみられ、17世紀後半～18世紀後半のものと考えられる。

SK 51019 (第IV-15 図)

537は、陶器の皿である。内面には削ぎによって花卉が表現されている。瀬戸・美濃製品の折縁菊皿であり、大窯第4段階後半～末の16世紀末～17世紀初頭前後のものと考えられる。538は、軽石製の砥石である。表面は部分的に剥離しており、使用された面には線状の擦痕がみられる。

SK 51020 (第IV-15 図)

539は、土師器の鍋である。口縁端部は摘み上げられている。南伊勢系であり、伊藤編年中世IV b期の15世紀末前後～16世紀前半のものと考えられる。



第IV-15図 出土遺物実測図 15(1:4, 517は1:3)

SK 51021 (第IV-15 図)

540 は、陶器の碗である。瀬戸・美濃製品と考えられる。541 は、陶器の皿である。内面には櫛描きで波状の文様が施されている。瀬戸・美濃製品と考えられる。542 は、陶器の香炉である。口縁端部は内傾面を持ち、両端は突出している。瀬戸・美濃製品の筒形香炉であり、登窯第1段階第2小期の17世紀前半のものと考えられる。543 は、磁器の碗である。外面には染付で文様が描かれている。肥前系であり、18世紀前半～中頃のものと考えられる。

SK 51025 (第IV-15 図)

544 は、土師器の焙烙である。大坂・明石系であり、積山編年6段階の17世紀後半のものと考えられる。

SK 51026 (第IV-15 図)

545・546 は、土師器の皿である。外面には糸切痕が残る。内面全体と口縁端部外面には透明釉が掛かっている。大坂系であり、積山編年10段階以降の18世紀中頃以降のものと考えられる。547 は、陶器の水注である。注口と把手が欠損している。瀬戸・美濃製品であり、18世紀以降のものと考えられる。548・549 は、陶器の鉢である。口縁端部は外側に折り返されて肥厚する。瀬戸・美濃製品の練鉢であり、登窯第3段階第10小期～第11小期の19世紀前半～中頃前後のものと考えられる。550 は、磁器の碗である。外面には染付で文様などが描かれている。17世紀後半～18世紀後半のものと考えられる。551 は、磁器の蓋である。碗の蓋であり、内外面には染付で文様などが描かれており、梅文と竹文がある。肥前系であり、19世紀前半～中頃前後のものと考えられる。

SK 51027 (第IV-15 図)

552 は、灰釉陶器の碗である。H-72 号窯式期の10世紀後半～11世紀初頭前後のものと考えられる。

SK 51028 (第IV-15 図)

553 は、磁器の蓋である。鉢の蓋とみられ、外面には熨斗形の鈕があった痕跡が残る。外面に染付で文様が描かれている。554 は、軽石製の砥石である。表面は部分的に剥離しているが、全ての面で使用による線状の擦痕がある。

SK 51029 (第IV-15 図)

555 は、陶器の土瓶とみられる破片である。口縁

部は短くのびて、水平な面を持つ。

SK 53002 (第IV-15 図)

556 は、陶器の山茶碗である。渥美湖西型2 a 型式の12世紀後半のものと考えられる。

SK 70013 (第IV-15 図)

557 は、陶器の壺である。頸部から直立ぎみにのび、口縁端部は玉縁状に膨らむ。瀬戸・美濃製品とみられ、登窯第2段階第6小期の18世紀前半のものと考えられる。

SK 70019 (第IV-15, 16 図)

558・559 は、土製のL字状製品である。板状のものがL字に曲がったもので、土師質というよりも瓦質に近い。表面はいずれもナデまたは工具ナデで調整されている。L字の凸面側には煤が付着していることから、何らかの火処で使用された製品と考えられるが、用途は不明である。560～562 は、平瓦である。凸面は工具ナデまたはナデ、凹面はナデで調整され、端面は面取り後にナデが施されている。563 は、丸瓦である。凸面は縦方向のナデ、凹面には縦方向の工具ナデで調整され、布目痕が残る。端面は面取り後にナデが施されている。

SK 80002 (第IV-16 図)

564 は、陶器の皿である。底部外面には兜巾があり、削り出された高台は低い。肥前系であり、16世紀末～17世紀前半のものと考えられる。

SK 80003 (第IV-16 図)

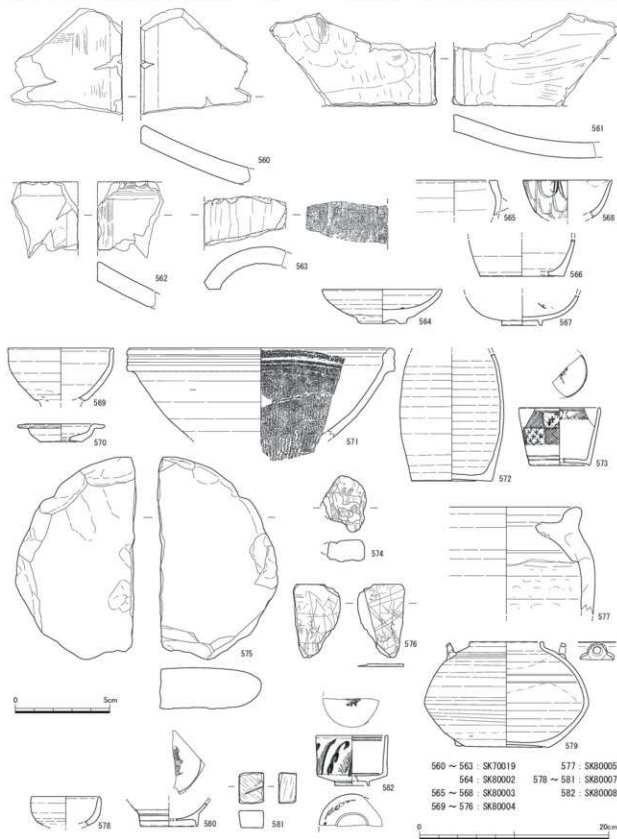
565 は、土師器の羽釜とみられる破片である。外面には鈎が付着していた痕跡が残る。566 は、陶器の瓶または徳利である。底部は平底で、外面には暗褐色の釉が掛かっている。瀬戸・美濃製品であり、登窯期の19世紀代のものと考えられる。567 は、陶器の碗である。内面には草文とみられる文様がある。京都・信楽系の可能性がある。568 は、磁器の碗である。外面には染付で三段の網目文が描かれている。肥前系であり、17世紀末～18世紀後半のものと考えられる。

SK 80004 (第IV-16 図)

569 は、陶器の天目茶碗である。瀬戸・美濃製品であり、登窯第2段階第5小期の17世紀後半のものと考えられる。570 は、陶器の蓋である。落とし蓋タイプのもので、瀬戸・美濃製品であり登窯期の

17世紀～18世紀代のものと考えられる。571は、陶器の播鉢である。播目は重なり合いながら密に施されている。堺・明石系であり、稲原編年Ⅰ-Ⅰ類

の18世紀前半～19世紀前半のものと考えられる。572は、陶器の徳利である。体部の膨らみが弱く、頸部に向かって緩やかに窄まる形状で、底部は平底



第Ⅳ-16図 出土遺物実測図 16(1:4、575は1:2)

である。外面には灰褐色の釉が掛かっている。瀬戸・美濃製品であり、登窯期の19世紀代のものの可能性がある。573は、磁器の猪口である。高台は蛇ノ目凹形のものである。内外面には染付で文様などが描かれており、外面には格子文、内面には四方櫛文がある。肥前系であり、19世紀前半のものと考えられる。574は、軽石製の砥石である。表面は部分的に剥離しているが、線状の擦痕が残る。575は、石製の円盤状製品である。他の円盤状製品とは異なり大型のもので、材質は砂岩系のもと考えられる。576は、石板である。厚さが薄く、表面は両面ともに平滑で無数の線状痕が残る。材質は泥岩系のもと考えられる。

SK 80005 (第IV-16 図)

577は、陶器の甕である。常滑製品の赤物であり、17世紀後半～18世紀前半のものと考えられる。

SK 80007 (第IV-16 図)

578は、陶器の仏前具である。瀬戸・美濃製品であり、登窯第1段階第4小期の17世紀後半のものと考えられる。579は、陶器の土瓶である。体部は算盤玉状の形状で、底部外面には足が三方に付く。外面と内面の一部には、灰褐色の釉が掛かっている。瀬戸・美濃製品の可能性がある。580は、磁器の碗である。高台の長さや形状から広東碗とみられ、内外面には染付で文様などが描かれている。肥前系であり、18世紀後半～19世紀前半のものと考えられる。581は、砥石である。表面には使用による線状の擦痕がみられる。

SK 80008 (第IV-16 図)

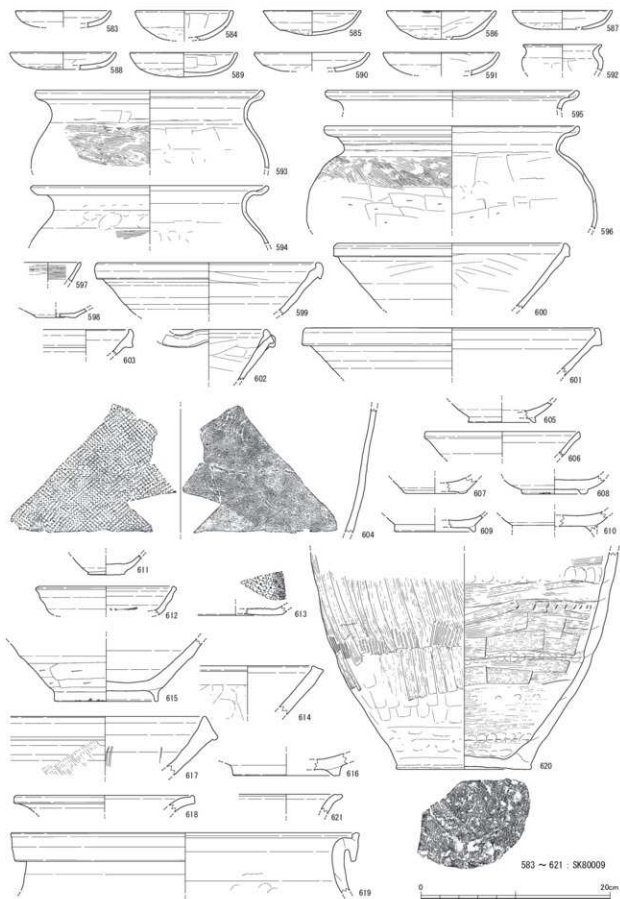
582は、磁器の碗である。内外面には染付で文様などが描かれており、外面には唐草文と草文、内面の見込みにはコンニャク印判の五弁花文がある。肥前系の筒形碗であり、18世紀後半～19世紀前半のものと考えられる。

SK 80009 (第IV-17, 18 図)

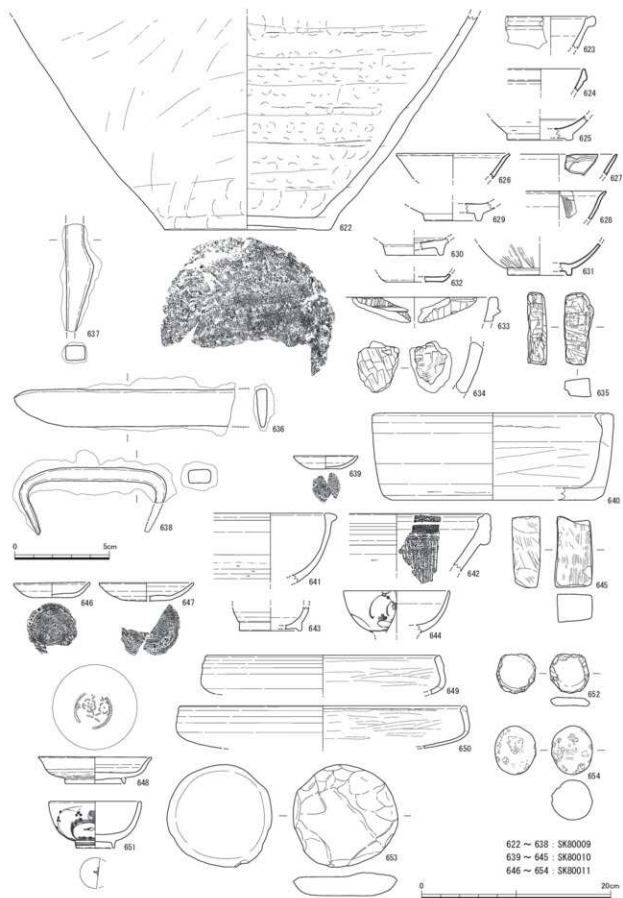
583～591は、土師器の皿である。583・587・589～591は、口縁部に向かって内湾ぎみにのびているもので、584～586は、碗に近い形状のものである。内面が工具ナデで調整されているものが多い。592は、土師器の壺とみられる破片である。593～596は、土師器の鍋である。口縁部は粘土が

内側に折り返されて肥厚し、端部は丸く収められている。いずれも南伊勢系であり、伊藤編年Ⅱb期の13世紀後半～14世紀前半のものと考えられる。597は、瓦器の碗である。内外面には横方向のミガキが施されている。13世紀頃までのものと考えられる。598は、瓦器の皿または碗の底部である。外面には糸切痕が残る。599～603は、須恵器の鉢である。口縁端部は上下に突出して外傾面を持つ。600の内面には使用時の擦痕があるが、摩滅が著しい。いずれも東播磨系須恵器であり、佐藤編年Ⅲ-3類～Ⅲ-4類の13世紀後半～14世紀前半のものと考えられる。604は、須恵器の甕である。体部の破片で、外面には格子タタキ、内面には同心円状の当て具痕がナデ消されている。

605～610は、陶器の山茶碗である。605・606は尾張型、607～609は瀬美湖西型のもので、12世紀後半～13世紀後半のものと考えられる。611は、陶器の山皿である。瀬美湖西型2b型式の13世紀前半のものと考えられる。612・613は、陶器の卸皿である。613には格子状に卸目が施されている。瀬戸・美濃製品であり、古瀬戸前期様式IV期～中期様式Ⅱ期の13世紀後半～14世紀前半のものと考えられる。614～616は、陶器の鉢である。614・615は常滑製品、616は瀬美製品とみられる。12世紀後半～13世紀後半のものと考えられる。617は、陶器の播鉢である。口縁端部は外傾面を持ち、両端は突出している。外面には板状工具の痕跡がある。備前製品であり、重根編年ⅣA期の14世紀中頃～15世紀前半のものと考えられる。618～620は、陶器の壺である。618の口縁端部は、外傾面を持ち上端は小さく突出している。常滑製品であり、常滑第1段階4型式～第2段階5型式の12世紀末前後～13世紀前半のものと考えられる。619の口縁部は、外側へ大きく折り曲げられ、端部が上下に突出して広い外傾面を持つ。常滑製品であり、常滑第2段階7型式の14世紀前半のものと考えられる。620は底部から体部にかけての破片で、体部外面は平行タタキと工具ナデ、内面は工具ナデで調整されており、内面には成形時のユビオサエによる指頭圧痕と粘土紐の接合痕が顕著に残る。底部外面には、方形の板材を敷いていたとみられる痕跡が残る。瀬美製品で



第IV-17図 出土遺物実測図 17(1:4)



第IV-18図 出土遺物実測図 18(1:4、636～638、653は1:2)

あり、渥美2 a 型式～2 b 型式の13世紀初頭前後のものと考えられる。621は、陶器の甕または壺の口縁部である。渥美製品であり、渥美2 a 型式の12世紀後半のものと考えられる。622は、陶器の甕である。底部から体部にかけての破片で、内面には成形時のユビオサエによる指頭圧痕と粘土紐の接合痕が顕著に残る。常滑製品とみられる。

623は、緑釉陶器の盤である。口縁部の破片で、端部は外側に屈曲して玉縁状に膨らむ。中国華南地方のものの可能性がある⁽¹⁵⁾。624・625は、白磁の碗である。624の口縁端部は、外側に肥厚する。いずれも福建省系であり、山本編年C期の11世紀後半～12世紀前半のものと考えられる。626～631は、青磁の碗である。627の口縁端部には、輪花状の窪みがあり内面には刻劃文が施されている。龍泉窯系であり、山本編年D期の12世紀中頃～後半のものと考えられる。628の外面には、櫛による条線の文様がみられる。同安窯系とみられ、山本編年D期の12世紀中頃～後半のものと考えられる。631の外面には、錦蓮弁文が施されている。龍泉窯系であり、山本編年E期の13世紀初頭前後～前半のものと考えられる。632は、青磁の皿である。633・634は、滑石製の石罍である。633は口縁部の破片で、罍は断面形状が三角形になっている。634は体部の破片である。いずれも内外面には鑿による加工痕が残る。肥前西彼杵半島産の可能性があり、14世紀前半のものと考えられる⁽¹⁶⁾。635は、軽石製の砥石である。表面には使用による線状の擦痕が残る。636は、鉄製の刀子である。茎は残存していない。637は、鉄製の片刃状製品である。両端が欠損しているため、どのような製品かは断定できないが、片刃がある鉄鐔の可能性もある。638は、鉄製の鋸である。断面形状は方形で、片側の先端が欠損している。

SK 80010 (第IV-18図)

639は、土師器の皿である。外面には糸切痕が残る。大坂系であり、横山編年10段階以降の18世紀中頃以降のものと考えられる。640は、瓦質土器の火鉢である。口縁部は内側へ折り出されて、端部は丸く収められている。底部外面には足が剥離した痕跡が残る。17世紀末～18世紀前半のものと考えられる。641は、陶器の鉢である。口縁端部は外側へ

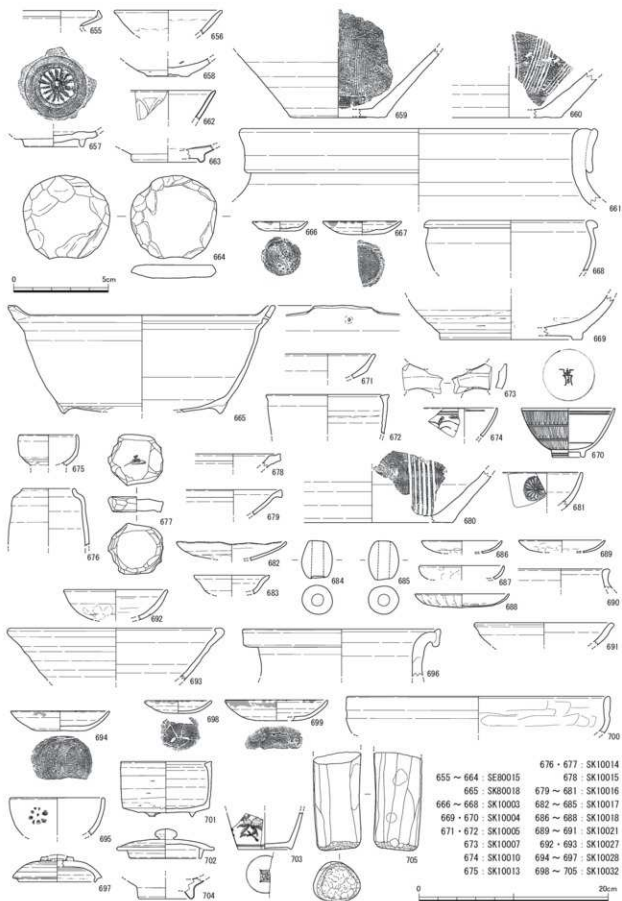
膨らんで肥厚する。瀬戸・美濃製品の鉢鉢であり、17世紀後半のものと考えられる。642は、陶器の播鉢である。堺・明石系であり、稲原編年I-1類の18世紀前半～19世紀前半のものと考えられる。643は、陶器の壺である。644は、磁器の碗である。肥前系のものと考えられる。645は、砥石である。表面には使用による線状の擦痕が残る。

SK 80011 (第IV-18図)

646・647は、土師器の皿である。外面には糸切痕が残る。大坂系であり、横山編年10段階以降の18世紀中頃以降のものと考えられる。648は、陶器の皿である。底部内面の見込みには、梅文の摺絵が施されている。瀬戸・美濃製品であり、登窯第2段階第5小期～第6小期の17世紀後半のものと考えられる。649・650は、土師器の焙烙である。大坂・明石系であり、横山編年7段階の17世紀末前後のものと考えられる。651は、磁器の碗である。外面には染付で草花文が描かれている。肥前系であり、17世紀末～18世紀後半のものと考えられる。652は、陶器の山茶碗が転用された加工円盤である。底部を打ち欠き円形に加工されており、端部は鋭くなっている。表面の一部には高台があった痕跡が残る。653は、石製の円盤状製品である。端部は細かく打ち欠かれて円形に加工されており、端部は尖る。一方の面は無加工である。材質は泥岩系のものと考えられる。現状で類例が見当たらないため、どのように使われたものか不明だが、削器のようなものである可能性が考えられる⁽¹⁷⁾。654は、敲石である。敲打痕と線状の擦痕がみられる。

SE 80015 (第IV-19図)

655は、土師器の鍋または焙烙である。口縁端部は折り上げられて突出している。南伊勢系であり、伊藤編年中世IV b 期～IV c 期の16世紀代のものと考えられる。656～658は、陶器の皿である。657の内面には菊文の印刻がある。瀬戸・美濃製品であり、登窯1段階第2小期の17世紀前半のものと考えられる。658の高台は低く、兜巾がみられる。肥前系の可能性がある。659・660は、陶器の播鉢である。661は、陶器の甕である。常滑製品であり、常滑第3段階10型式の15世紀後半のものと考えられる。662・663は、青磁の碗である。662の外面に



第IV-19図 出土遺物実測図 19(1:4, 664は1:2)

は竈蓮弁文が施されている。龍泉系とみられ、山本編年E期の13世紀初頭前後～前半のものと考えられる。664は、石製の円盤状製品である。円形に打ち欠かれて加工されており、端部は尖る。材質は泥岩系のものであると考えられる。現状で類例が見当たらないため、どのように使われたものか不明だが、削器のようなものである可能性が考えられる⁽¹⁸⁾。

SK 80018 (第IV-19 図)

665は、瓦質土器の鉢である。口縁部には円形の孔があり、底部には断面逆三角形の足が付く。双耳鉢とみられ、安濃津柳山遺跡(津市)で類似品が出土している⁽¹⁹⁾。17世紀後半～18世紀代のものと考えられる。

SK 10003 (第IV-19 図)

666・667は、土師器の皿である。いずれも外面には糸切痕が残り、内面には透明釉が掛かっている。口縁端部外面には煤が付着していることから、灯明皿として利用されたものと考えられる。大坂系であり、横山編年10段階以降の18世紀中頃以降のものと考えられる。668は、陶器の鉢である。口縁端部は外側へ折り返されて膨らむ。瀬戸・美濃製品の練鉢であり、登窯第3段階第9小期の19世紀前半のものと考えられる。

SK 10004 (第IV-19 図)

669は、陶器の鉢である。瀬戸・美濃製品の練鉢であり、登窯第3段階第8小期～第9小期の18世紀後半～19世紀前半のものと考えられる。670は、磁器の碗である。内外面には染付で文様などが描かれており、外面には線状文、内面の見込みには篆書体の銘がある。肥前系であり、19世紀前半～中頃前後のものと考えられる。

SK 10005 (第IV-19 図)

671は、土師器の皿である。672は、陶器の香炉である。瀬戸・美濃製品の筒形香炉であり、登窯第2段階第7小期の18世紀中頃前後のものと考えられる。

SK 10007 (第IV-19 図)

673は、須恵器破片。器種は不明だが、側面には円形状の切り込みがあり、透かしの可能性がある。

SK 10010 (第IV-19 図)

674は、磁器の碗である。内外面には染付で文様

などが描かれている。肥前系とみられる。

SK 10013 (第IV-19 図)

675は、陶器の碗である。瀬戸・美濃製品の小碗であり、登窯第2段階第5小期の17世紀後半のものと考えられる。

SK 10014 (第IV-19 図)

676は、陶器の茶入である。口縁部は短く、び、体部が筒形のものである。瀬戸・美濃製品であり、17世紀後半のものと考えられる。677は、磁器の碗を転用した加工円盤である。高台を含めて打ち欠き円形に加工されている。

SK 10015 (第IV-19 図)

678は、陶器の描鉢である。口縁端部は外外面を持つ。瀬戸・美濃製品であり、登窯第1段階第1小期の17世紀前半のものと考えられる。

SK 10016 (第IV-19 図)

679は、陶器の皿である。瀬戸・美濃製品の輪壳皿であり、登窯第3段階第8小期の18世紀後半～19世紀初頭前後のものと考えられる。680は、陶器の描鉢である。681は、磁器の碗である。外面には染付でコニヤク印判の菊花文がある。肥前系であり、17世紀末～18世紀後半のものと考えられる。

SK 10017 (第IV-19 図)

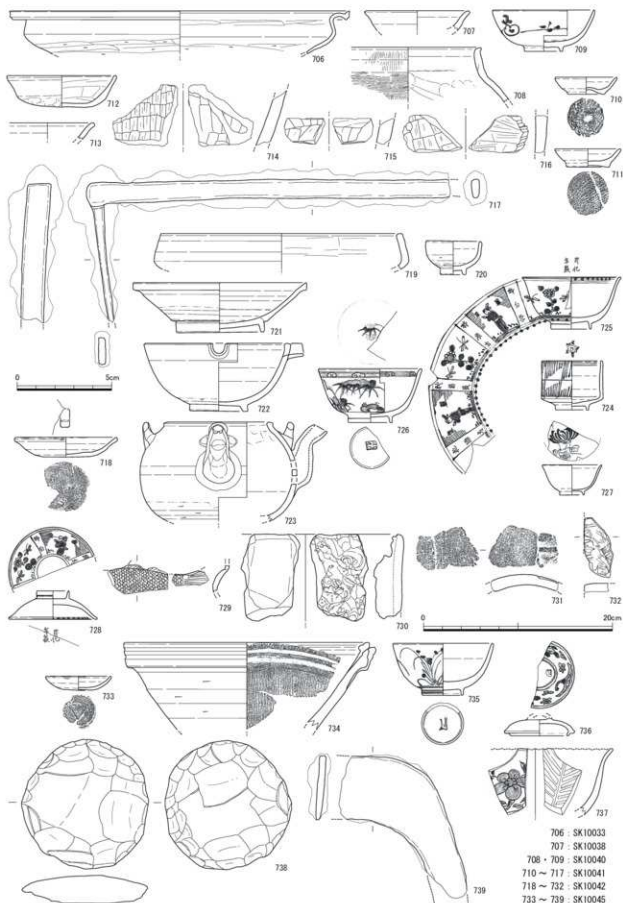
682は、土師器の皿である。口縁部の成形と調整が不十分で波状になっている。683は、陶器の山皿である。渥美湖西型3a型式の13世紀前半のものと考えられる。684・685は、土錘である。丸みを帯びた算盤玉状のもので、外面はナデにより調整されている。

SK 10018 (第IV-19 図)

686～688は、土師器の皿である。器厚が薄く、口縁端部以外は内外面ともにナデ及びユビオサエで調整されている。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅲb期の15世紀前半のものと考えられる。

SK 10021 (第IV-19 図)

689は、土師器の皿である。器厚が薄く、口縁端部以外は内外面ともにナデ及びユビオサエで調整されている。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅳa期の15世紀前半のものと考えられる。690は、土師器の茶釜の口縁部とみられる。691は、陶器の山茶碗である。尾張型第6型式の13世紀前半のものと考え



第IV-20図 出土遺物実測図 20(1:4、717、738、739は1:2)

られる。

SK 10027 (第IV-19図)

692 は、土師器の皿である。椀に近い形状のもので、外面には粘土紐の接合痕が残り、内面は工具ナデで調整されている。693 は、須恵器の鉢である。口縁部は内側に折り返されており、端部は内側へ突出している。東播系須恵器であり、佐藤編年IV類の14世紀末前後～15世紀代のものと考えられる。

SK 10028 (第IV-19図)

694 は、土師器の皿である。外面には糸切痕が残り、内面と口縁端部外面には透明釉が掛かっている。口縁端部内外面には煤が付着しており、灯明皿として利用されたものと考えられる。大坂系であり、横山編年10段階以降の18世紀中頃以降のものと考えられる。695 は、陶器の碗である。外面には染付で花文が施された陶胎染付である。17世紀末～18世紀後半のものと考えられる。696 は、陶器の壺である。口縁部は外反し、端部は上下に突出して外傾面を持つ。常滑製品であり、常滑第2段階5型式の13世紀前半のものと考えられる。697 は、磁器の蓋である。鉢の蓋とみられ、外面には梨斗形の紐が付く。肥前系であり、17世紀末～19世紀前半のものと考えられる。

SK 10032 (第IV-19図)

698・699 は、土師器の皿である。外面には糸切痕が残り、口縁端部内外面には煤が付着している。699の内面には透明釉が掛かっている。大坂系であり、横山編年10段階以降の18世紀中頃以降のものと考えられる。700 は、土師器の焙烙である。大坂・明石系であり、横山編年7段階の17世紀末前後のものと考えられる。701 は、陶器の香炉である。口縁端部は内傾面を持つ。瀬戸・美濃製品の筒形香炉であり、登窯第2段階第7小期の17世紀中頃前後のものと考えられる。702 は、陶器の蓋である。土瓶の蓋とみられ、瀬戸・美濃製品の可能性がある。703 は、磁器の猪口である。外面には染付で草花文、底部の見込みにはいわゆる渦福の「福」がある。肥前系であり、18世紀中頃～19世紀前半のものと考えられる。704 は、青磁の碗である。705 は、敲石である。加工された棒状石材の先端には、敲打痕がみられる。材質は砂岩系のものと考えられる。

SK 10033 (第IV-20図)

706 は、土師器の焙烙である。内外面ともにケズリで、頸部の内面には工具ナデが施されている。南伊勢系であり、伊藤編年中世IVc期～近世I期の16世紀末～17世紀代のものと考えられる。

SK 10038 (第IV-20図)

707 は、陶器の山皿である。渥美湖西型3a型式の13世紀前半のものと考えられる。

SK 10040 (第IV-20図)

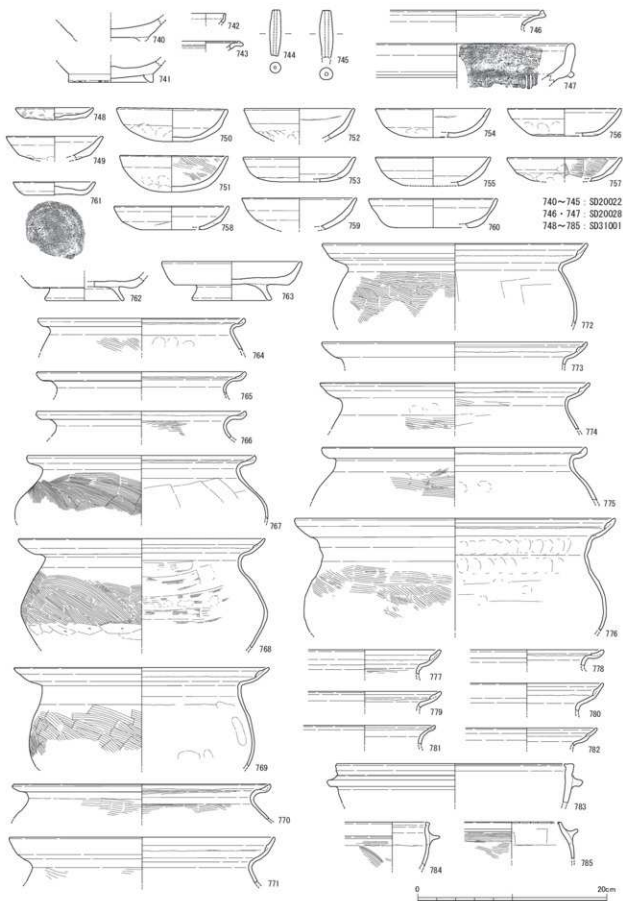
708 は、土師器の茶釜である。外面はハケメ、内面はナデで調整されており、頸部内面には粘土紐の接合痕が残る。南伊勢系であり、16世紀代のものと考えられる。709 は、磁器の碗である。外面には染付で梅枝文が描かれており、内面には蛇ノ目釉剥ぎの範囲がある。肥前系であり、17世紀末～18世紀後半のものと考えられる。

SK 10041 (第IV-20図)

710～712 は、土師器の皿である。710の底部は上げ底状の平底で、外面には縦方向の木目状の痕跡が残る。711は平底で外面に縦方向の木目状の痕跡が残る。712は、椀に近い形状のもので、内面は工具ナデで調整されている。713は、陶器の山皿である。渥美湖西型の13世紀前半のものと考えられる。714～716 は、滑石製の石鍋である。いずれも体部の破片で、表面には鑿による加工痕が残る。714の外面には煤が付着している。715の側面には、加工痕とみられる単位がある。717は、鉄製のL字状製品である。断面形状は扁平な方形で、2つの扁平な棒状製品が合わさっている可能性がある。

SK 10042 (第IV-20図)

718 は、土師器の皿である。外面には糸切痕が残り、内面には方形棒の印刻がされている。内面と口縁部内外面には透明釉が掛る。大坂系であり、横山編年10段階以降の18世紀中頃以降のものと考えられる。719 は、土師器の焙烙である。大坂・明石系であり、横山編年7段階の17世紀末前後のものと考えられる。720 は、陶器の碗である。瀬戸・美濃製品の小碗であり、登窯第3段階9小期の19世紀前半のものと考えられる。721 は、陶器の皿である。内面には帯状に釉が掛かっている範囲がある。瀬戸・美濃製品の輪壳皿であり、登窯第2段階第8小



第IV-21 図 出土遺物実測図 21(1:4)

期の18世紀後半のものと考えられる。722は、陶器の片口鉢である。瀬戸・美濃製品であり、18世紀前半～19世紀前半のものと考えられる。723は、陶器の土瓶である。瀬戸・美濃製品の可能性がある。724～726は、磁器の碗である。いずれも内外面には染付で文様などが描かれている。724の外面には斜線文、内面の見込みには五弁花文がみられる。肥前系の筒形碗とみられ、18世紀後半～19世紀初頭前後のものと考えられる。725の外面には、花蝶唐人文と文字から構成された中華風の文様、内面には丸文と「成化年製」の銘がある。肥前系の端反碗であり、18世紀後半～19世紀中頃前後のものと考えられる。726の外面には、笹文と如意頭文、内面には如意頭文などがある。肥前系であり、18世紀後半～19世紀中頃前後のものと考えられる。727は、磁器の小杯である。内面には色絵で花文が描かれている。肥前系であり、18世紀後半～19世紀前半のものと考えられる。728は、磁器の蓋である。碗の蓋で、文様構成と大きさから725とセットである。外面には花蝶唐人文と文字から構成された中華風の文様、内面には丸文と「成化年製」の銘がある。肥前系であり、18世紀後半～19世紀中頃前後のものと考えられる。729は、土製の魚形製品である。型押し成形で、表面には鱗や尾鰭と背鰭が表現されている。730は、鍛冶炉の壁面とみられる破片である。表面にはガラス質の凹凸がある。731は、丸瓦状の

製品である。凸面には横方向の凹凸、凹面には布目痕が残る。732は、砥石である。表面には使用による線状の擦痕がみられる。

SK 10045 (第IV-20図)

733は、土師器の皿である。外面には糸切痕が残る。口縁端部内外面には煤が付着している。大坂系であり、積山編年10段階以降の18世紀中頃以降のものと考えられる。734は、陶器の描鉢である。堺・明石系であり、稲原編年I～1類の18世紀前半～19世紀前半のものと考えられる。735は、磁器の碗である。外面には染付で草花文などが描かれている。肥前系であり、17世紀末～18世紀後半のものと考えられる。736は、磁器の蓋である。外面には熨斗形の鈕が付き、染付で花文が描かれている。肥前系であり、17世紀末～19世紀前半のものと考えられる。737は、磁器の鉢である。型押し技法により成形されており、口縁端部は細かな波状が表現されている。外面には染付で牡丹文が描かれており、内面は型で文様が施されている。肥前系であり、17世紀末～19世紀前半のものと考えられる。738は、石製の円盤状製品である。端部は細かく打ち欠かれ、表面は階段状に剝離している。円形に加工されており、端部は尖る。材質は泥岩系のものと考えられる。現状で類別が見当たらないため、どのように使われたものか不明だが、削器のようなものである可能性が考えられる⁽²⁰⁾。739は、鉄製の鎌である。

第4節 溝出土遺物

SD 20022 (第IV-21図)

740・741は、陶器の山茶碗である。741の高台には初焼痕が残る。尾張型第5型式の13世紀前半のものと考えられる。742は、陶器の天目茶碗である。瀬戸・美濃製品と考えられる。743は、陶器の皿である。口縁端部が内側へ折り曲げられており、内外面には緑色系の釉が掛かっている。瀬戸・美濃製品であり、古瀬戸中期様式期の14世紀前半のものと考えられる。744・745は、土鍾である。細長い棒状の形態で、外面はナデにより調整されている。

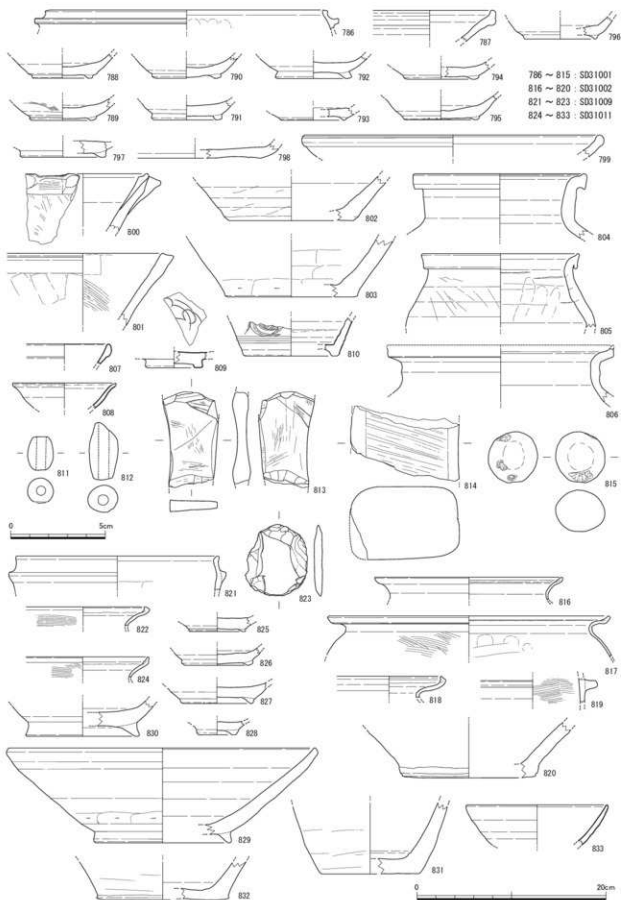
SD 20028 (第IV-21図)

746は、土師器の鍋である。南伊勢系であり、伊藤編年中世IV期の16世紀代のものと考えられる。

747は、陶器の描鉢である。備前製品であり、重根編年IVb期の15世紀前半～16世紀初頭のものと考えられる。

SD 31001 (第IV-21,22図)

748～761は、土師器の皿である。748は、口径・器高ともに小さく、外面には工具ナデの条線がみられる。750～760は、椀に近い形状のもので、751・757の内面は工具ナデで調整されている。761の底部には糸切痕が残る。762・763は、土師器の台付皿である。いずれも平底の皿に「ハ」の字状に開いた高台が付く。764～782は、土師器の鍋である。全て南伊勢系であり、764～767・770・775・776・778・781は、口縁端部の粘土が内側に折り返され



第IV-22図 出土遺物実測図 22(1:4、823は1:2)

て肥厚するもので、768・769・771～774・777・779・780・782は、口縁端部からやや下がった内面に断面三角形の膨らみを持つものである。外面はハケメ、内面はハケメや工具ナデで調整され、776の内面にはユビオサエによる指頭圧痕が顕著に残る。伊藤編年中世Ⅱb期～Ⅲb期の13世紀後半～15世紀前半にかけてのものと考えられる。783～786は、土師器の羽釜である。口縁部は直立し、端部は内側に小さく引き出されている。786の口縁端部にはキザミ状の小さな窪みがある。いずれも南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅱb期～Ⅲa期の13世紀後半～14世紀後半のものと考えられる。

787は、須恵器の鉢である。口縁端部の上端は突出して外傾面を持つ。東播系須恵器であり、佐藤編年Ⅲ-3類の13世紀後半～14世紀前半のものと考えられる。788～797は、陶器の山茶碗である。789～792・794・797は渥美湖西型、793・795・796は尾張型とみられる。12世紀前半～13世紀後半にかけてのものと考えられる。798・799は、陶器の皿である。798は、外面に粘土の剥離痕があり、脚が付くものと考えられる。瀬戸・美濃製品と考えられる。800は、陶器の片口鉢である。片口部分の破片であり、常滑製品と考えられる。801・802は、陶器の鉢である。いずれも常滑製品と考えられる。803は、陶器の甕である。底部外面はケズリ、内面は強いナデが施されている。804～806は、陶器の甕である。いずれも常滑製品であり、常滑第2段階5型式～6b型式の13世紀前半～後半のものと考えられる。807は、白磁の碗である。口縁端部は外側へ肥厚している。福建省系であり、山本編年C期の11世紀後半～12世紀前半のものと考えられる。808・809は、青磁の碗である。808は口縁端部のみ釉が掛かっていない口売げである。809の底部内面の見込みには、刻劃文が施されている。龍泉窯系とみられ、山本編年D期の12世紀中頃～後半のものと考えられる。810は、青白磁の梅瓶（メイビン）である。底部から体部の破片で、外面には滴文とみられる文様が展開している。内面底部と高台までの体部外面に釉が掛かっている。811・812は、土鍾である。811は、算盤玉に近い形状で、外面はナデにより調整されている。813は、砥石である。814は、

磨石である。表面は研磨されており、線状の擦痕もみられる。815は、敲石である。

SD 31002（第Ⅳ-22図）

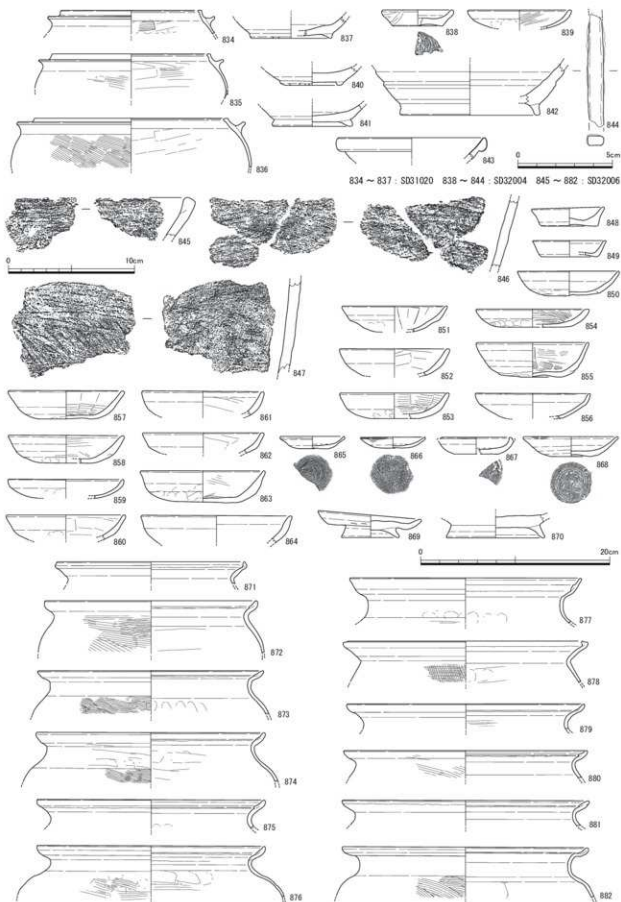
816～818は、土師器の鍋である。すべて南伊勢系である。816・817の口縁端部の粘土は、内側に折り返されて肥厚する。伊藤編年中世Ⅱa期～Ⅱb期の13世紀前半～14世紀前半のものと考えられる。818の口縁端部は、摘み上げられて突出している。伊藤編年中世Ⅳa期～Ⅳb期の15世紀後半～16世紀前半のものと考えられる。819は、土師器の羽釜である。内面はハケメで調整されている。820は、陶器の甕である。常滑製品の可能性がある。

SD 31009（第Ⅳ-22図）

821・822は、土師器の鍋である。821の口縁部直下には、鈎状の突起がめぐる。播磨型の羽釜形タイプとみられ、長谷川編年Ⅶ期の16世紀代のものと考えられる。822は、南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅳa期の15世紀後半のものと考えられる。823は、石製の円盤状製品である。端部は細かく打ち欠かれて楕円形に加工され、端部は尖る。もう一方の面には自然面が残り、一部が階段状に剥離している。材質は泥岩系のものと考えられる。現状で類例が見当たらないため、どのように使われたものか不明だが、削器のようなものである可能性が考えられる⁽²¹⁾。

SD 31011（第Ⅳ-22図）

824は、土師器の鍋である。口縁端部は摘み上げられている。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅳ期の16世紀代のものと考えられる。825～827は、陶器の山茶碗である。825・826は渥美湖西型、827は尾張型とみられ、12世紀後半～14世紀前半のものと考えられる。828は、陶器の山皿である。渥美湖西型1c型式の12世紀後半のものと考えられる。829・830は、陶器の鉢である。829は、底部から立ち上がる部分の外面にケズリが施されている。常滑製品であり、常滑第1段階3型式の12世紀後半のものと考えられる。831・832は、陶器の甕である。いずれも外面は工具ナデで調整されており、内面には自然釉が掛かっている。833は、青磁の碗である。内外面ともに無文様である。14世紀後半以降のものと考えられる。



第IV-23図 出土遺物実測図 23(1:4、844は1:2、845～847は1:3)

SD 31020 (第IV-23 図)

834～836 は、土師器の羽釜である。いずれも口縁部は短く内傾しながらのび、端部は内側へ引き出されている。内面は工具ナデで調整されている。すべて南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅱb 期～Ⅲa 期の 13 世紀後半～14 世紀代のものと考えられる。837 は、陶器の山茶碗である。高台には粉殻痕が残る。尾張型第 5 型式の 12 世紀後半～13 世紀前半のものと考えられる。

SD 32004 (第IV-23 図)

838・839 は、土師器の皿である。838 の底部には糸切痕が残り、839 の内面には工具ナデが施されている。840・841 は、陶器の山茶碗である。840 は尾張型第 6 型式、841 は瀬美湖西型 2 b 型式でいずれも 13 世紀前半のものと考えられる。842 は、陶器の鉢である。常滑製品であり、常滑第 2 段階 5 型式の 13 世紀前半のものと考えられる。843 は、白磁の碗である。口縁端部は外側へ玉縁状に膨らんでいる。福建省系であり、山本編年 C 期の 11 世紀後半～12 世紀前半のものと考えられる。844 は、鉄製の釘である。両端が欠損している。

SD 32006 (第IV-23 ～ 34 図)

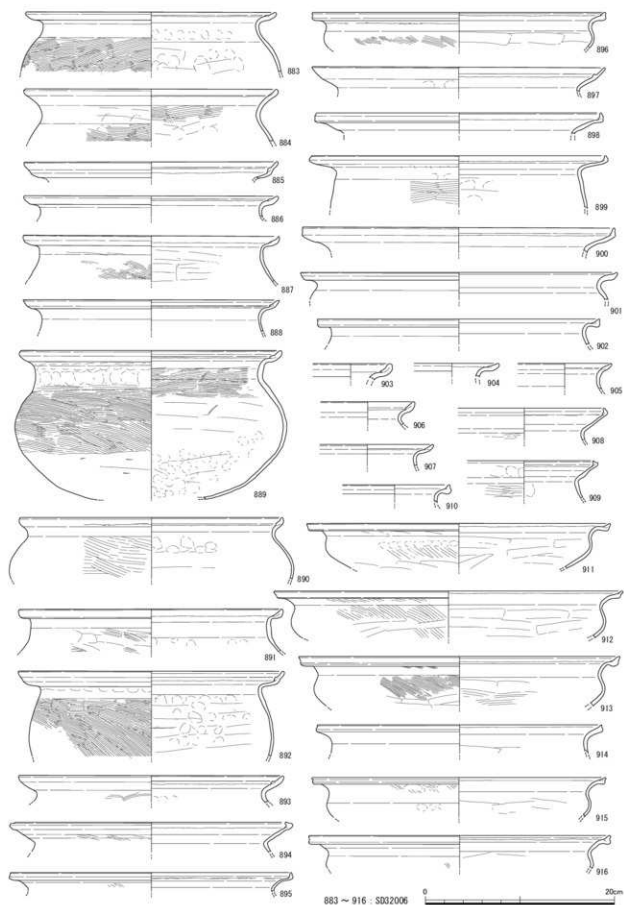
845～847 は、縄文土器の深鉢である。845 は口縁部の破片で、端部と内面はミガキ、外面は条線で調整されている。846・847 は体部の破片で、外面は条線またはナデ、内面はミガキで調整されている。いずれも縄文時代中期末以降のものと考えられる。

848～868 は、土師器の皿である。848・849 は平底で小型のもの、850～853・855～858・860～864 は椀に近い形状のもの、854 は器高が低いもの、859 は器厚が薄くて胎土が精良なもの、865～868 は底部に糸切痕が残るものがある。このうち、851～855・857・858・860～863 の内面は工具ナデで調整されている。底部に糸切痕が残るものうち、867 は口縁部の外側に受け状の突出が付き、865・867・868 の内面から口縁端部外面には透明釉が掛かっている。糸切痕があるものは、すべて大坂系であり、横山編年 10 段階以降の 18 世紀代のものと考えられる。869・870 は、土師器の台付皿である。「ハ」の字状に開いた低い高台が付く。

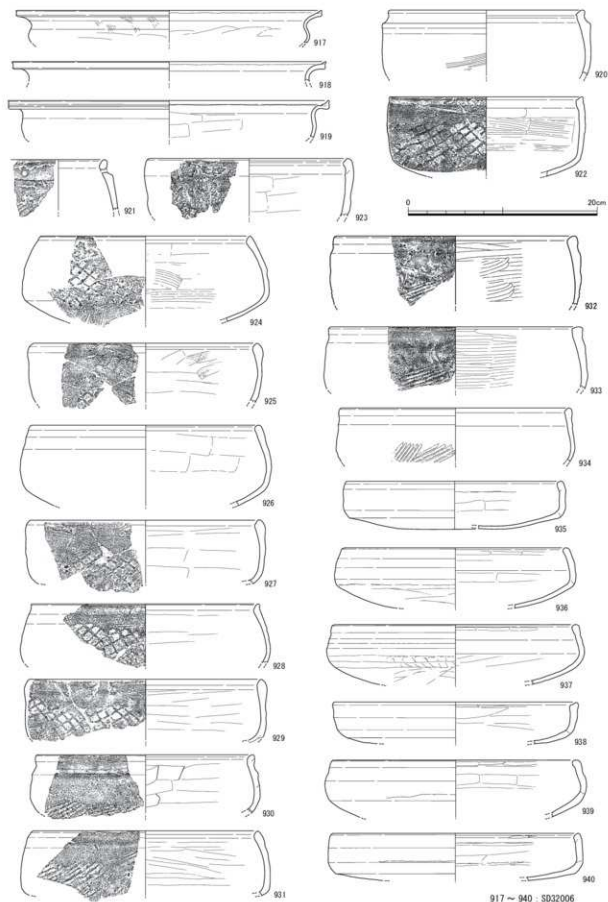
871～919 は、南伊勢系の土師器の鍋と焙烙であ

る。871～910 は鍋である。口縁部の形状から 4 つに分かれる。872～876・879～884・886・887～891・903～907 は口縁部の粘土が内側に折り返されて肥厚するもの(①)、877・885・892・893・897 は口縁端部からやや下がった内面に断面三角形の膨らみを持つもの(②)、871・878・894・895・898～900・908・909 は口縁端部が積み上げられているもの(③)、896・901・902・910 は口縁端部に外傾面を持つもの(④)がある。①は伊藤編年中世Ⅱb 期の 13 世紀後半～14 世紀前半、②は伊藤編年中世Ⅲa 期～Ⅲb 期の 14 世紀後半～15 世紀前半、③は伊藤編年中世Ⅳa 期～Ⅳb 期の 15 世紀後半～16 世紀前半、④は伊藤編年中世Ⅳc 期～近世Ⅰ期の 16 世紀後半～17 世紀代のものと考えられる。911～919 は、焙烙である。いずれも口縁端部の上端は、小さく積み上げられて外側へと突出するが、911～913 は突出が大きく、914～919 は突出が小さい。伊藤編年中世Ⅳc 期～近世Ⅱ期の 16 世紀末前後～18 世紀後半にかけてのものと考えられる。

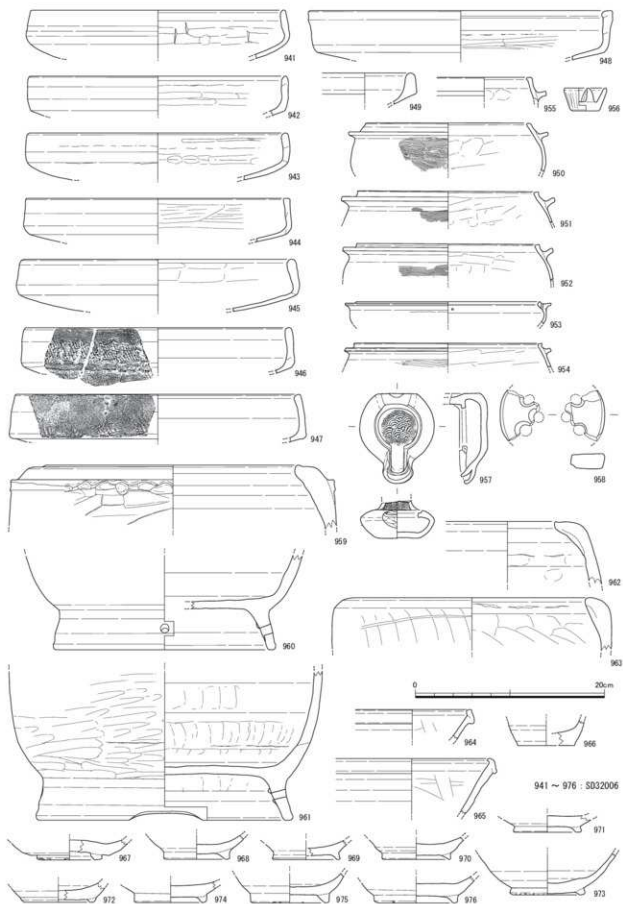
920～949 は、播磨型または大坂・堺系、大坂・明石系の土師器の鍋と焙烙である。920～934 は、播磨型の鍋である。920・921 は、羽釜形の形状で口縁部の直下に鐙状の突出がある。いずれも外面は平行タタキが施されている。921 の口縁部には小さな円孔が穿かれている。いずれも外面には煤が厚く付着している。922～934 は、羽釜形にあった鐙状の突出が消失したものである。外面は格子タタキまたは平行タタキが施され、煤が付着している。内面は多くが工具ナデで調整されている。これら播磨型の鍋は、長谷川編年Ⅶ期～Ⅷ期の 16 世紀前半～17 世紀前半のものと考えられる。935～949 は、大坂・明石系あるいは大坂・堺系の焙烙である。936・937・939・941 は口縁端部に向かって内湾ぎみにのびた形状のもので、935・938・940・942～949 は底部から直立ぎみに立ち上がり、口縁端部に向かったのびた形状のものである。外面は主にヨコナデまたはナデにより調整されているが、946・947 は平行タタキと底部から立ち上がる部分にはケズリが施されている。内面は多くが工具ナデで調整されている。935・938・943・949 の底部外面には細かな砂の付着が確認できることから、外型作りされたもの



第IV-24図 出土遺物実測図 24(1:4)



第IV-25図 出土遺物実測図 25(1:4)



第IV-26図 出土遺物実測図 26(1:4)

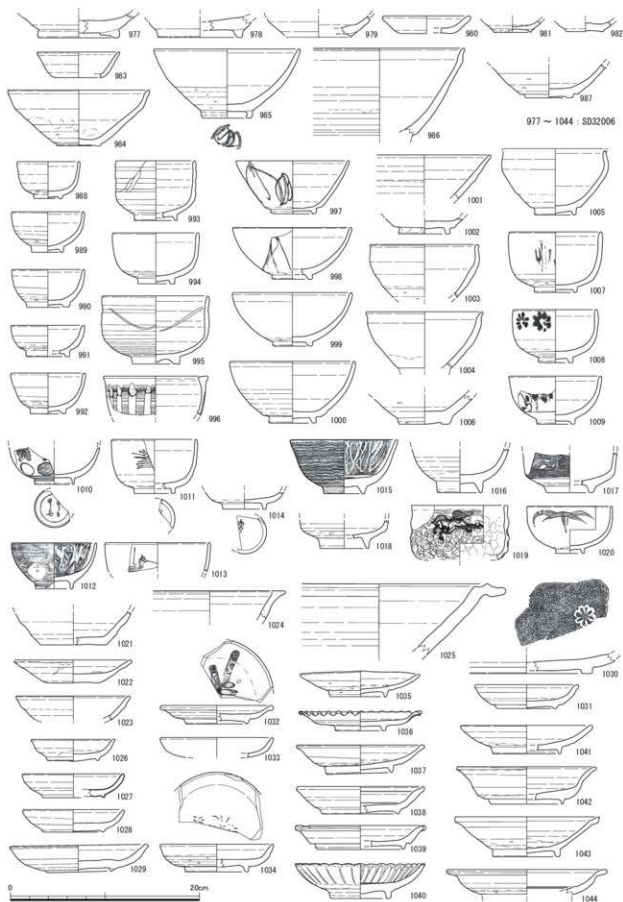
と考えられる。これら大坂・明石系あるいは大坂・堺系の焙烙は、17世紀中頃～19世紀前半のものと考えられる。950～955は、土師器の羽釜である。いずれも口縁部は内傾しながら短くのび、鈎は斜め上方へと突出している。953の口縁部には円孔がある。すべて南伊勢系であり、950～952・954・955は、伊藤編年中世Ⅱb期の13世紀後半～14世紀前半、953は伊藤編年中世Ⅳc期の16世紀後半のものと考えられる。

956・957は、土師質土器の乗燭である。956は小型のもので、外面には煤が付着している⁽²²⁾。957は、舌状の口と扁平な棒状の把手が付くもので、内面には青海波の文様、把手の付け根部分には文字の可能性のある印刻がある。いずれも18世紀後半以降のものと考えられる。江戸遺跡で出土例がある⁽²³⁾。958は、土師質土器の目皿である。円形の穿孔が複数あり、焔炉などの火具に付属するものと考えられる⁽²⁴⁾。959～963は、土師質土器の風炉または火鉢である。959の口縁部は、内傾して丸く収められている。外面には指で押圧された突帯状の凹凸がめぐる。外面は工具ナデで調整されている。960・961は底部から体部にかけての破片である。960の高台には円形の透かしが穿かれている。残存する円孔は2箇所、完全に貫通していないものがあり、配置から想定すると四方に穿かれているものと考えられる。961の高台には円形の透かしと接地面から穿かれた半月状の透かしが交互に配されている。体部外面は幅が広い粗い横方向のミガキが施されており、内面には当て具痕の可能性のある圧痕が残る。962・963は、口縁部の破片で、いずれも口縁端部は内傾し、煤が付着している。963の破片側面には、工具で切り込みを入れた面があることから、口縁部が窓状に窪んだ部分がある可能性が高い。

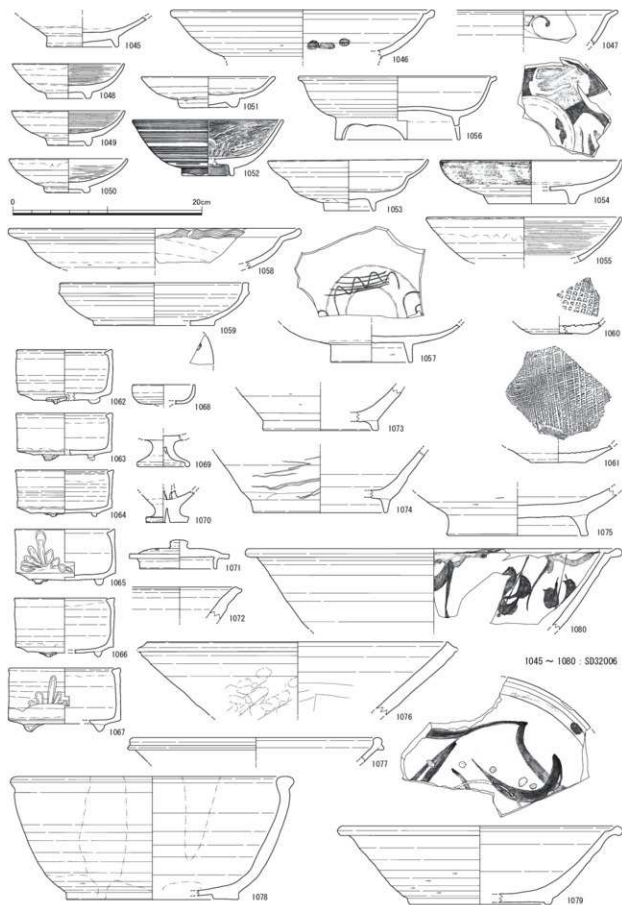
964・965は、須恵器の鉢である。東播系須恵器であり、佐藤編年Ⅳ期の14世紀後半～15世紀代のものと考えられる。966は、灰釉陶器の壺とみられる破片である。小型壺と考えられ、内面には朱が付着している。967～979は、陶器の山茶碗である。このうち、967・968・971～974・977・978は渥美湖西型、969・970・975・976は尾張型とみられ、12世紀後半～13世紀前半のものと考えられる。

980～982は、陶器の山皿である。980・982は渥美湖西型、981は尾張型とみられ、12世紀後半～13世紀前半のものと考えられる。

983～1020は、陶器の碗である。983は、内外面に濃い緑色の釉が掛かっており、青織部とみられる。984～986は平碗で、内外面には浅黄色の釉が掛かっている。985の底部外面の見込みには、墨書による花押がみられ、古瀬戸後期様式Ⅰ期のものである。いずれも瀬戸・美濃製品であり、古瀬戸後期様式期の14世紀後半～15世紀後半のものと考えられる。987は平碗の底部である可能性がある。988～992は、小碗である。いずれも瀬戸・美濃製品であり、登窯第2段階第7小期～第3段階第9小期の18世紀中頃前後～19世紀前半のものと考えられる。993・995は、いわゆる挙骨茶碗と呼ばれるものである。内外面には口ロ口目が顕著に残り、外面には線状の窪みがある。瀬戸・美濃製品とみられ、18世紀中頃以降のものと考えられる。994・998～1000は、丸碗である。このうち998の外面には鉄絵による文様が施されている。いずれも瀬戸・美濃製品であり、登窯期のものと考えられる。996の外面は、カキメタの条線が施されたのち、縦方向の削ぎがされている。瀬戸・美濃製品の可能性がある。997は、柳茶碗である。外面には鉄絵が描かれている。瀬戸・美濃製品であり、18世紀中頃～後半のものと考えられる。1001は、平碗の口縁部である可能性がある。1002は、口縁部に向かって「ハ」の字状に開く稜碗とみられる。1003～1005は、天目茶碗である。内外面には鉄絵が掛かっている。瀬戸・美濃製品であり、登窯期のものと考えられる。1007～1009は、陶胎染付の碗である。外面には染付で文様が施されている。瀬戸・美濃製品とみられる。1010は陶胎染付の可能性のある碗である。胎土や釉が細かく貫入している状況から判断したが、磁器の可能性もある。外面には染付でコンニャク印判の丸文などがあり、底部外面の見込みには字体が崩れた「大明年製」とみられる銘がある。肥前系の可能性がある。1011・1013・1014は、京焼風陶器またはその可能性がある碗である。1011・1013の外面には、山水文とみられる文様が描かれており、1011の底部外面の見込みには印刻の一部がある。1014



第IV-27図 出土遺物実測図 27(1:4)



第IV-28図 出土遺物実測図 28(1:4)

の底部外面の見込みには「清水」の印刻がある⁽²⁵⁾。いずれも 17 世紀末～18 世紀後半のものと考えられる。1012・1015・1017 は、白土を掛けた刷毛目模様や丸文などがある碗である。いずれも肥前系のもので、17 世紀末～18 世紀後半のものと考えられる。1016・1018 も形態と胎土から肥前系の可能性があるものである。1019 は、外面に鉄絵で馬が描かれた型押しによる駒形が貼り付けられており、内外面に不定形の凹凸がある。オリーブ色の釉が掛かり、釉の中に無数のヒビが入った貫入がある。福島県の大堀相馬製品の手びねり碗とみられ、18 世紀末～19 世紀中頃前後のものと考えられる⁽²⁶⁾。1020 は、陶器の碗である。外面には色絵で笹文が描かれており、肥前系の可能性がある。1021 は、陶器の皿または碗である。平底で糸切痕が残る。

1022～1059 は、陶器の皿である。1022・1023 は、緑釉小皿である。瀬戸・美濃製品であり、古瀬戸後期様式期～大窯第 1 段階の 14 世紀後半～15 世紀後半にかけてのものと考えられる。1024・1025 は、折縁皿である。いずれも瀬戸・美濃製品であり、1024 は古瀬戸後期様式 I 期の 14 世紀後半のもの、1025 も古瀬戸後期様式期に収まるものと考えられる。1026～1028・1033 は、丸皿である。いずれも瀬戸・美濃製品であり、大窯期の 15 世紀～16 世紀代のものと考えられる。1029 は、内売皿である。大窯第 3 段階の 16 世紀後半のものと考えられる。1030 は、底部径が大きい皿で、内面には菊花文の押印が施されている。瀬戸・美濃製品の大窯期のものと考えられる。1031 は、志野丸皿である。内外面には灰白色の釉が掛かる。登窯第 1 段階第 1 小期～第 3 小期の 17 世紀前半～中頃前後のものと考えられる。1032 は、鉄絵皿である。内面に鉄絵で文様が描かれている。登窯第 1 段階第 4 小期の 17 世紀後半のものと考えられる。1034 は、摺絵皿である。底部内面の見込みに摺絵で文様が描かれている。登窯第 2 段階第 7 小期の 18 世紀前半～中頃前後のものと考えられる。1035～1039・1041・1042・1044 は、反り皿である。1036 の口縁部は大きく外反し、端部は波状になっている。1039 の口縁端部には輪花状の窪みがある。いずれも瀬戸・美濃製品であり、登窯期の 17 世紀前半～18 世紀中頃にかけてのもの

と考えられる。1040 は、菊皿である。内面は菊花文が型押しされており、外面は削ぎで花卉が表現され、口縁端部はヘラで花卉状に切り込まれて波状になっている。瀬戸・美濃製品であり、登窯第 1 段階第 4 小期以降の 17 世紀後半～18 世紀前半のものと考えられる。1043・1045 は、輪売皿である。内面には帯状に釉が掛からない範囲がある。瀬戸・美濃製品であり、登窯第 2 段階～第 3 段階の 18 世紀初頭前後～後半のものと考えられる。1047 は、陶胎染付の皿または鉢である。口縁部は外反し、端部は丸く収められている。内面には染付で文様が描かれている。

1048～1050・1055 は銅緑釉が掛かった皿である。内面はカキメ状の条線と蛇ノ目釉刺ぎの範囲がある。肥前系であり、17 世紀後半～18 世紀後半のものと考えられる。1052 は、外面に白土を掛けた刷毛目文様、内面には斑状の文様が施された皿である。1054 にも内面に刷毛目の不定形な文様が施されている。いずれも肥前系であり、17 世紀末～18 世紀後半のものと考えられる。1053 の口縁部は外側へ屈曲して内湾し、端部は丸く収められている。肥前系であり、17 世紀後半～18 世紀後半のものと考えられる。1051・1056・1057・1058 は肥前系の可能性がある皿である。1051 の高台には、半円形の透かしが三方にある。1057 は内面に蛇ノ目釉刺ぎの範囲があり、鉄絵が描かれている。1058 は、口縁部内面に刷毛目状の文様が施されている。1059 は、口縁部外面の直下には突帯状の突出があり、底部外面には印刻の一部がある。1060・1061 は、陶器の卍皿である。底部内面には格子状の卍目がある。1060 の内面には緑色の釉がかかっている。瀬戸・美濃製品と考えられ、古瀬戸後期様式期の 14 世紀後半～15 世紀代のものと考えられる。

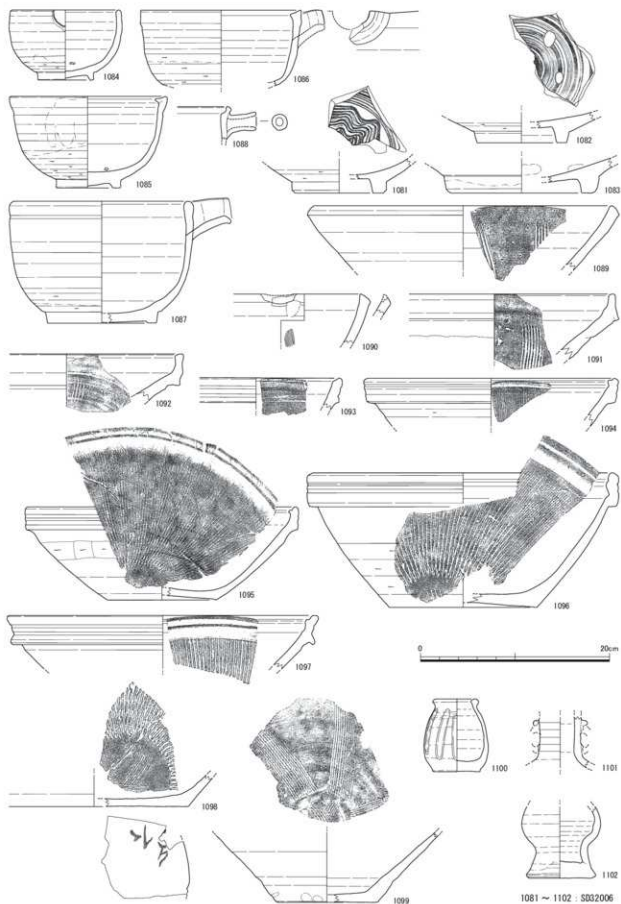
1062～1067 は、陶器の香炉である。いずれも瀬戸・美濃製品である。口縁端部は内側へ突出して内傾面を持ち、底部には三足の脚が付く。1065・1067 の外面には削ぎの文様が施されており、登窯第 2 段階第 7 小期の 18 世紀中頃前後のものと考えられる。1068・1069 は、陶器の仏具である。1069 の脚部内面には、粘土の絞り目痕が残る。いずれも瀬戸・美濃製品であり、登窯期の 18 世紀代のものと考え

られる。1070 は、陶器の乗燭である。瀬戸・美濃製品であり、登窯第3段階第8小期の18世紀後半のものと考えられる。1071 は、陶器の蓋である。土瓶の蓋と考えられ、外面には釉が掛かっている。瀬戸・美濃製品とみられる。1046・1072～1083 は、陶器の鉢である。1072・1073 は渥美製品、1074・1075 は常滑製品と考えられる。片口鉢の可能性もある。1074 の外面には、工具痕の可能性のある不定方向の沈線が残る。12世紀中頃～13世紀前半にかけてのものと考えられる。1076 は、播鉢の可能性もある鉢である。常滑製品であろうか。1077 は、口縁端部は上方が玉縁状となり、下端が突出している。1078 は、鉢鉢である。口縁端部は大きく膨らみ外側へ丸く突出している。瀬戸・美濃製品であり、登窯第3段階第8小期の18世紀後半のものと考えられる。1046・1079・1080 は、鉄絵鉢である。口縁部は外反して端部は玉縁状に膨らむ。内面には鉄絵が描かれている。瀬戸・美濃製品とみられ、登窯第1段階第4小期の17世紀後半のものと考えられる。1081・1082 は、内面に白土を掛けた刷毛目文様が施されたものである。肥前系であり、17世紀末～18世紀後半のものと考えられる。1083 も高台の形状と胎土から肥前系とみられる。1084～1087 は、陶器の片口鉢である。1084・1087 は口縁端部が丸く取められており、1085・1086 は口縁端部が内側に突出して内傾面を持つ。いずれも瀬戸・美濃製品であり、登窯第2段階第5小期以降の17世紀後半～18世紀後半のものと考えられる。1088 は、陶器の柄付片口である。小さな受口状の口縁部とその直下に中空の柄が付くものである。瀬戸・美濃製品であり、古瀬戸中期様式Ⅱ期の14世紀前半のものと考えられる。

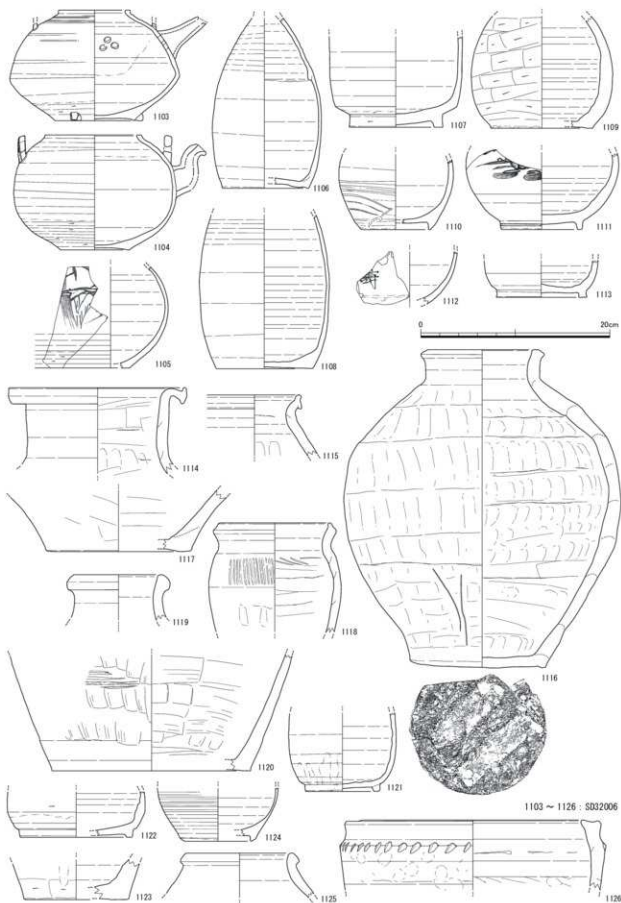
1089～1099 は、陶器の播鉢である。1089～1093 は備前製品である。1089・1090 は口縁端部に外傾面を持つもので、重根編年ⅣA期の14世紀後半～15世紀初頭前後のものと考えられる。1091・1092 は、口縁部が受口状で外面下端が突出しており、重根編年ⅣB期～ⅤA期の15世紀前半～16世紀前半のものと考えられる。1093 の口縁端部は内傾面をもち、外面には2条の沈線がめぐめるもので、乗岡編年近世4期の18世紀中頃のものと考えられ

る。1094～1097 は堺・明石系のものである。口縁部の形状から、1094・1095 は稲原編年Ⅰ～Ⅰ類の18世紀前半～19世紀前半のもの、1095～1097 は稲原編年Ⅱ～Ⅱ類の18世紀後半～19世紀中頃前後のものと考えられる。1098 の底部外面には、文字と思われる墨書がある。1099 は形態と描目の状況から瀬戸・美濃製品の可能性がある。1100 は、陶器の茶入である。外面には縦方向の削ぎが施されている。瀬戸・美濃製品の可能性がある。1101・1102 は、陶器の花瓶である。1101 は頸部の破片で、外面には耳の一部が残る。いずれも瀬戸・美濃製品であり、古瀬戸中期様式期～後期様式期の14世紀前半～15世紀前半のものと考えられる。1103～1105 は、陶器の土瓶である。1103 の底部外面には三方に足が付く。1103・1104 の外面と内面の一部には暗赤褐色の釉が掛かっている。瀬戸・美濃製品の可能性がある。1105 の外面には竹文とみられる文様が描かれている。京都・信楽系の可能性がある。1106・1108・1109 は陶器の徳利である。1106・1108 は、体部の膨らみが弱く、頸部に向かって緩やかに窄まる形状のもので、底部は平底であり、外面には暗赤褐色の釉が掛かっている。1109 の外面にはケズリ状の調整が施されている。1107 は徳利の可能性のあるもので、底部には高台が付く。いずれも瀬戸・美濃製品の可能性がある。18世紀代～19世紀代のものであろうか。1110・1112・1113 は陶器の瓶または壺である。1110 の外面には、白土を掛けた刷毛目文様が施されている。肥前系のものであろうか。1112・1113 は高台が付くもので、体部は上方へ直線的にのびている。このうち1112 の外面には「壽」の文字がある。1111 は、陶器の瓶で陶胎染付である。19世紀代のものである。

1114～1125 は、陶器の壺である。1114～1118 は常滑製品またはその可能性があるものである。1114 の頸部は直立してのび、口縁部は外側へ大きく屈曲して端部は上下に突出している。常滑第2段階6型式の13世紀後半のものと考えられる。1115 の口縁端部は、両端が突出して丸く取められており、上端が外側へ少し屈曲する。常滑第2段階6b型式の13世紀中頃～後半のものと考えられる。1116 は、体部が大きく口縁部が小さい短頸壺に近い形状のも



第IV -29 図 出土遺物実測図 29(1:4)



第IV-30図 出土遺物実測図 30(1:4)

のである。外面には線刻と粘土紐の接合痕、内面には成形時の押圧痕と粘土紐の接合痕がある。外面に掛かる軸の一部は覆っている。底部外面には方形の板材を敷いていた痕跡が残る。常滑第3段階12型式の16世紀後半のものと考えられる⁽²⁷⁾。1118は、肩の張りや頸部の屈曲が弱い体部のもので、外面には平行タタキ、内面は工具ナデで調整されている。内外面には粘土紐の接合痕が残り、粗く整えられている。蛸壺の可能性があり、19世紀代の常滑製品であろうか。1119は、備前製品の可能性があるものである。口縁端部は膨らみ外側へと肥厚する。1120は、渥美製品の可能性があるもので、体部内外面には工具ナデが施されており、外面には工具の線状痕がある。1121～1123・1125は、瀬戸・美濃製品またはその可能性があるものである。登窯期の17世紀中頃～19世紀代にかけてのものであろうか。1124は、壺または瓶で肥前系の可能性があるものである。外面には沈線状の凹線が施されている。1126～1129は陶器の甕である。すべて常滑製品である。1126・1128は赤物で、1128は17世紀後半のものと考えられる。1127・1128は、常滑第3段階9型式～10型式の15世紀前半～後半のものと考えられる。1130は、陶器の台付製品である。何らかの製品の脚部であり、外面には彫られた線文様が展開している。内面にはユビオサエ及びナデの痕跡が顕著に残る。1131～1133は、陶器の碗を使用して作られた加工円盤である。1131は、色絵の碗の高台に沿って打ち欠かれ、円形に加工されている。

1134～1171は、磁器の碗である。1135～1169の内外面には染付で文様などが描かれており、このうち1158は陶胎染付の可能性があり、1134・1135は、筒形碗である。1134の外面には唐草文と梅竹文、内面の見込みには昆虫文がある。1135の外面には唐草文と丸文、内面には四方禪文、底部内面の見込みにはコンニャク印判の五弁花文がある。1136～1169は丸碗などである。1136の外面には二段の網目文、1137・1138の外面には笹文、1139の外面には雨降文、1140の外面にはコンニャク印判の花文、1141の外面には三段の網目文がある。1142は外面に圈線文があり、口縁端部には軸が掛かっている口売げの状態で、煤が付着している。1143の外面

には草花文、1144の外面には梅枝文、1145の外面にはコンニャク印判の菊花文がある。1146は外面にコンニャク印判の桐文、底部外面の見込みにはいわゆる渦福の「福」の銘がある。1147の外面には、三段の網目文があり他の網目文と比べて網の先端が尖っている。1148の外面にはコンニャク印判の桐文がある。1149は外面に草花文、底部外面の見込みに変形字がある。1150は外面に三段の網目文、内面にコンニャク印判の菊花文と花弁状の文様が全体に展開している。1151は外面に梅枝文、底部外面の見込みに字体が崩れた「大明年製」とみられる銘がある。1152の外面には型紙刷りの桜花文、1153の外面には菊花文、1154の外面には三段の網目文がある。1155は外面に四段の網目文、内面には菊花文と三段の網目文が展開し、底部外面の見込みに変形字がある。1156は外面に三段の網目文、内面にはコンニャク印判の桜花文と三段の網目文状の文様が展開している。1157の外面にはコンニャク印判の桜花文がある。1159は外面に丸文、内面に四方禪文、内面の見込みにコンニャク印判の五弁花文、外面の見込みに方形枠内に変形字がある。1162は底部外面の見込みに字体が崩れた「大明年製」とみられる銘がある。1163は外面に縦方向の圈線と「中」の文字が描かれ、底部内面の見込みに圈線と花文とみられる文様がある。1164は底部外面の見込みに字体が崩れた「大明年製」の銘がある。1165は外面に四段の網目文、内面には菊花文と網の先端が尖った四段の網目文が展開し、底部外面の見込みに二重の方形枠内に変形字が記されている。1166は外面に草花文、底部外面の見込みに二重の方形枠内にいわゆる渦福「福」の銘がある。1169は外面に縦方向の沈線が入り、沈線間には染付で「口福壽」と記されている。1158・1160・1161・1167・1168の外面または内面にも文様や文字があるが、文様の種類は判然としない。これら染付がある碗は、すべて肥前系のもので、17世紀後半～18世紀後半にかけてのもと考えられる。1170・1171は色絵で文様が描かれており、1170の外面には梅枝文、1171の外面には草花文がある。いずれも肥前系であり、18世紀後半～19世紀前半のものと考えられる。1172・1173は、磁器の小坏

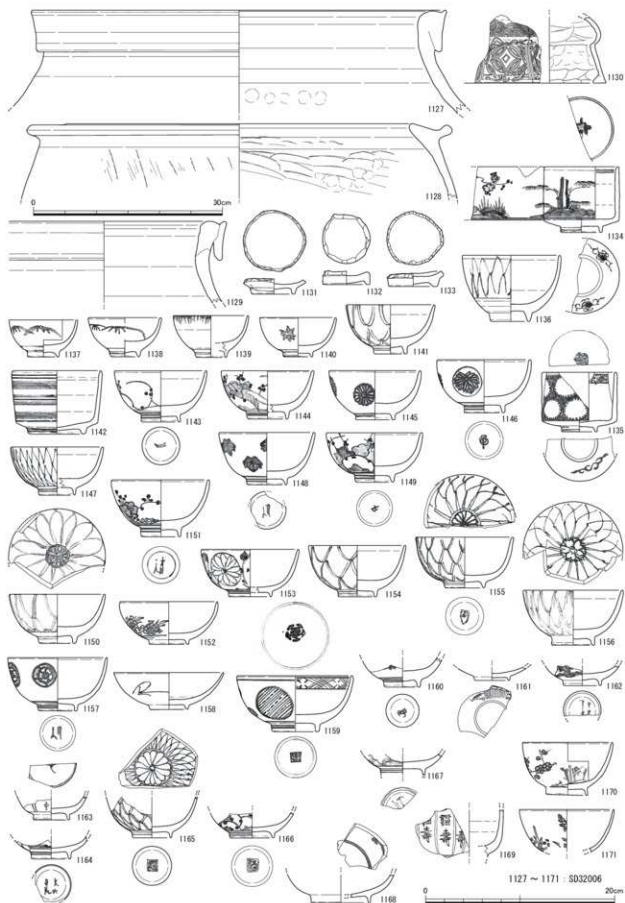
である。いずれも外面に染付で文様が描かれており、1173には松文がある。肥前系であり、17世紀後半～18世紀前半のものと考えられる。1174は、磁器の猪口とみられる。外面には染付で草文とみられる文様が描かれている。肥前系とみられ、17世紀末～18世紀後半のものと考えられる。1175・1176は、磁器の仏匱具である。いずれも外面には染付で世文があり、1175の底部外面の見込みにには墨書で文字が記されている。

1177～1193は、磁器の皿である。内外面には染付で文様などが描かれている。1177は、型押し技法により花卉状に成形されており、内面には型紙刷りの文様がある。1178・1180は、内面に蛇ノ目釉剥ぎの範囲があり、斜線状の文様がある。1181・1182は、外面に唐草文、内面に網目點文、内面の見込みににはコンニャク印判の五弁花文があり、底部外面の見込みにには字体が崩れた「大明年製」とみられる銘がある。1183～1185・1187は、外面に唐草文、内面に草花文がある。1183・1184には内面の見込みにコンニャク印判の五弁花文があり、1183の底部外面の見込みにには、いわゆる満福の「福」の文字がある。1186は、高台が蛇ノ目凹形のもので、口縁端部に輪花状の窪みがある。外面には唐草文、内面に大きな菊花文と草花文があり、底部外面の見込みにには二重の方形枠内に窯場名である「筒江」の銘が記されている⁽²⁸⁾。1188・1189は大皿である。1188は、口縁端部に輪花状に窪んだもので、外面には唐草文、内面は草花文がある。内面の見込みにには手描きの五弁花文、底部外面の見込みにには「太明成化年製」の銘があり、焼成時のハリの痕跡が6箇所残る。1189は、外面に唐草文とみられる文様の一部、内面には見込みにある牡丹文を中心に文様が展開している。1190は、外面に花唐草文とみられる文様、内面に花文とみられる文様がある。1191は、型押し技法により花卉状に成形されたもので、内面には文様がある。1192・1193は大皿の破片とみられ、1192の内面には花文とみられる文様の一部、1193の内面には虎文がある。これらは、すべて肥前系の17世紀後半～19世紀前半にかけてのものと考えられる。

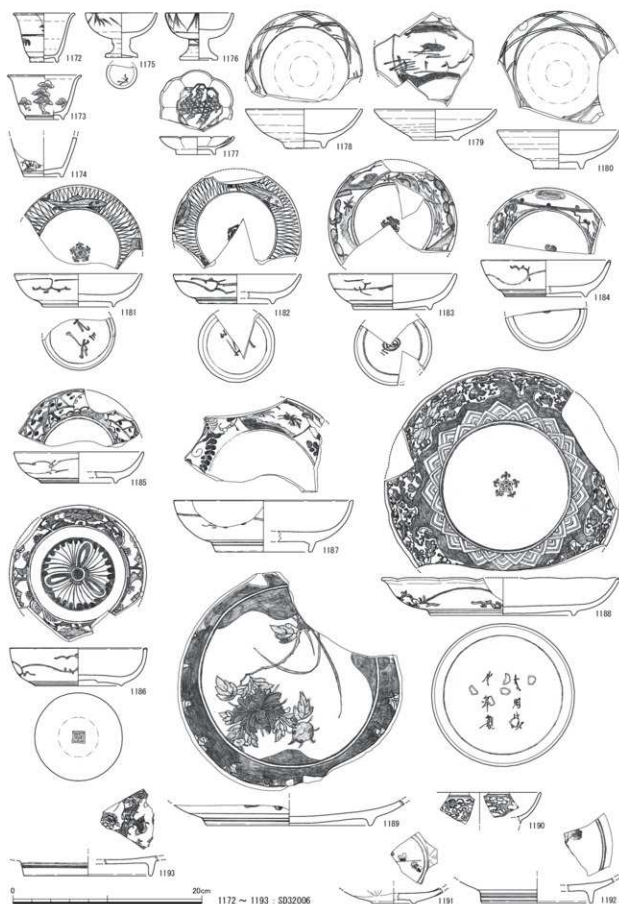
1194～1196は、磁器の蓋で鉢に伴うものであ

る。1194は、外面に染付で花文とみられる文様が描かれている。1195・1196は中央に柱状の鈕が付くものである。外面には染付で文様が描かれており、1195には團線文、1196には草花文がある。すべて肥前系の17世紀末～18世紀後半のものと考えられる。1197は、磁器の鉢である。外面には染付で草花文が描かれている。肥前系とみられ、17世紀末～18世紀後半のものと考えられる。1198は、磁器の水滴である。表面は型押しにより成形された文様の凹凸が表現され、染付により着色されている。1199～1212は、磁器の瓶である。1199～1210の外面には染付で文様が描かれている。1199は、体部が大きく下膨れしているもので、外面には草花文がある。1200～1202は、下膨れした体部のもので、外面には花唐草文がある。1201の外面には松文がある。1202の外面には、團線のみがある。1203は、体部が縦長にのびたもので、外面には牡丹草文がある。1204の外面には團線がある。1207・1208は、体部が大きく下膨れしているもので、1207の外面には花文、1208の外面には梅枝文がある。1210は、体部が下膨れしているもので、外面には蛸唐草文がある。1211・1212は、外面に朱色の團線が施されている。いずれも全て肥前系の17世紀後半～19世紀中頃にかけてのものと考えられる。1213は、磁器の水指である。外面には把手が付いていた痕跡があり、染付の文様の一部が残る。1214～1217は青磁の香炉である。青磁釉が掛かったもので、白い胎土や釉の発色から国産青磁と考えられる。1218は、青磁の仏花瓶である。外面と内面頸部付近の内面まで青磁釉が掛かる。国産青磁と考えられる。1219～1221は、磁器の碗を使用した加工円盤である。高台に沿って打ち欠かれて円形に加工されている。

1222～1227は、白磁の碗である。1222は、口縁端部が外反しているもので、内面には櫛の条線が施されている。福建省系であり、山本編年D期の12世紀中頃～後半のものと考えられる。1223・1224は、口縁端部が外側へ肥厚するものである。福建省系であり、山本編年C期の11世紀後半～12世紀前半のものと考えられる。1225の高台は、兜巾を残す形で削り出され、内面には花文の陰刻がある。福建省系であり、山本編年G期の14世紀初頭～中頃の



第IV-31図 出土遺物実測図 31(1:4, 1128は1:6)



第IV-32圖 出土遺物實測圖 32(1:4)

のと考えられる。1226の外表面は露胎で、内面に軸が掛かっている。福建省系であり、山本編年G期の14世紀初頭～中頃のものと考えられる。1227の高台は直線的に長くのびたもので、内面には櫛の条線が放射状に施されている。福建省系であり、山本編年D期の12世紀中頃～後半のものと考えられる。1228～1240は、青磁の碗またはその可能性があるものである。1228・1240は、内外面とも無文様またはその可能性が高いものである。1229・1230・1232・1233は、外面に鎮蓮弁文が施されているものである。龍泉窯系であり、山本編年E期～G期の13世紀初頭前後～14世紀中頃にかけてのものと考えられる。1234・1235・1238は、内面に花文または花卉状の陰刻があるものである、14世紀中頃～15世紀中頃にかけてのものと考えられる。1241は、青磁の皿である。器高が低い小型のものとみられる。1242は、青磁の瓶とみられる。1243は、青磁の壺とみられる。内面の一部と外面には軸が掛かっている。龍泉窯系の13世紀頃のものであろうか。1244は、白磁の壺である。体部の肩付近の破片で、外面には耳の貼り付け部分が残っていることから、四耳壺である可能性が高い。山本編年E期の13世紀初頭前後～前半のものと考えられる。1245は、輸入磁器の碗である。淡い発色の染付で文様が描かれており、胎土はくすんだ灰白色である。漳州窯系の青花磁器と考えられる⁽²⁹⁾。

1246～1249は、土鍾である。いずれも外面はナデにより調整されている。1250は、土製のL字状製品である。板状のものがL字に曲がったもので、土師質というよりも瓦質に近い。Lのうちの片側が残った破片で、表面はいずれもナデまたは工具ナデで調整されている。1251は、土製の大型製品である。脚部と尾の部分が欠損している。表面にはナデやユビオサエの痕跡が残っており、手づくねで成形されたものである。1252は、土製の人形である。上半身の破片で、手や顔・足は欠損している。表面は型押しされていると考えられる。1253～1254は、軒丸瓦である。1253の瓦当部は、外側に珠文を配し中心部に巴文から構成されている。丸瓦部の凸面はナデ、凹面と瓦当部裏面はナデ及びユビオサエで調整されている。1254は、瓦当部に菊花文が展開する。

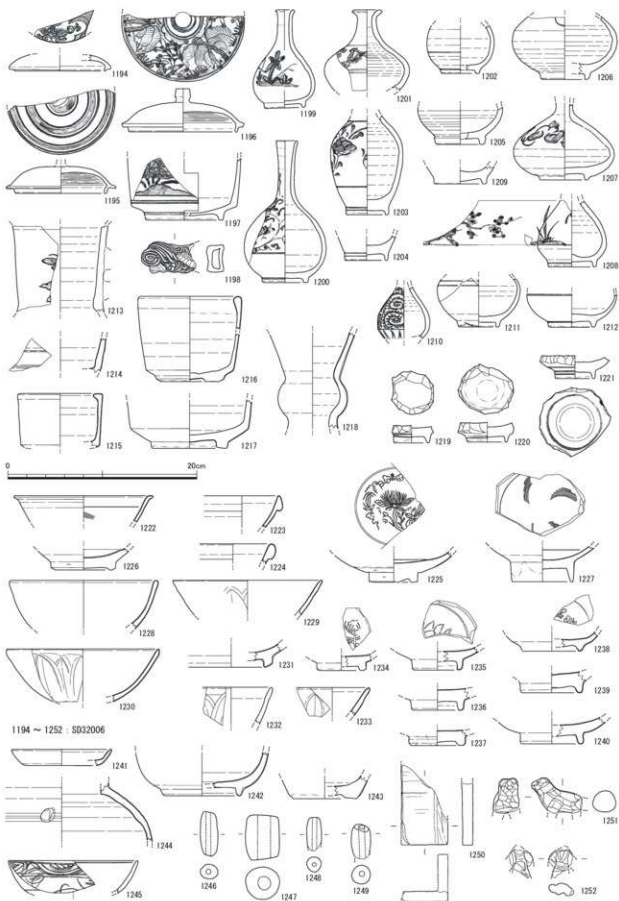
断面では丸瓦部と接合するための沈線状の凹凸が確認できる。1255は、軒平瓦である。瓦当部の中心飾り付近の破片で、唐草文が左右に展開するものと考えられる。

1256・1257は、滑石製の石鐏である。いずれも羽釜形のもので、内外面には鑿による加工痕が残っており、内面には使用時の線状の擦痕がみられる。1257の側面には、部分的に打ち欠かれた箇所があることから、二次加工されて温石等に再利用されたものである可能性がある。肥前西彼杵半島産の可能性があり、木戸編年Ⅲ類-bの13世紀代のものと考えられる⁽³⁰⁾。1258～1260は、砥石である。このうちの1258・1259は軽石製である。いずれも表面は部分的に剥離しているが、線状の擦痕が残る。1261は、砥石である。表面には敲打痕が残る。1262～1264は、石製の円盤状製品である。打ち欠かれて円形に加工され、端部は尖る。1262は両面が加工されており、階段状に剥離している。材質は泥岩系のものであると考えられる。1263の材質は砂岩系のものであると考えられ、両面には絵の可能性のある墨書がある。1264は両面とも一部に自然面が残る。材質は泥岩系のものであると考えられる。これらは、現状で類例が見当たらないため、どのように使われたものか不明だが、削器のような用途のものの可能性が考えられる⁽³¹⁾。

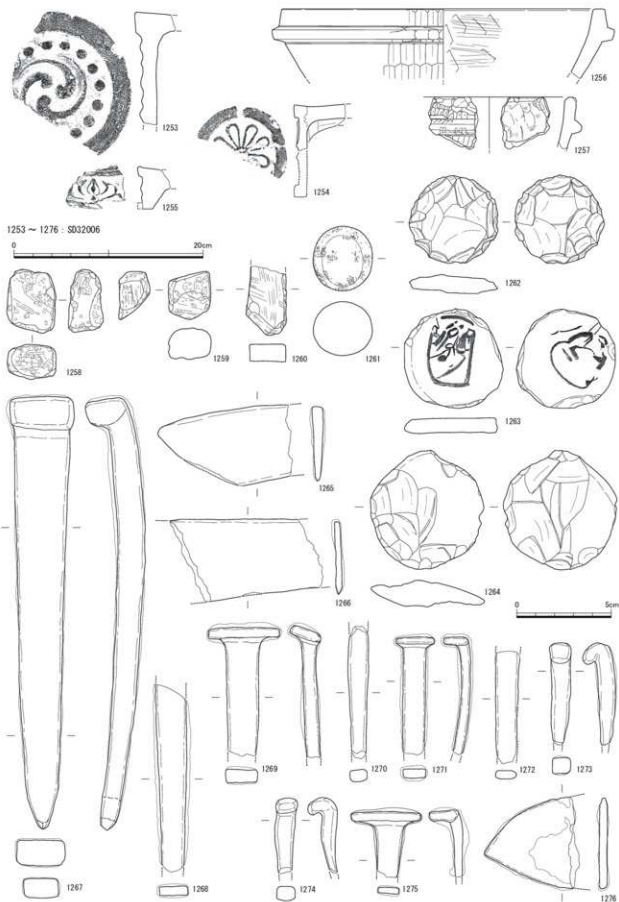
1265・1266は、鉄製の刀状製品である。1265は刀先部分の破片、1266は刀先から茎までの間の破片である。いずれも断面形状から刀状製品と判断した。1267～1275は、鉄製の釘である。1267は大型の釘で完存した状態で出土した。頂部が折れ曲がった折釘で、長さ23.0cm、厚さ1.1～1.5cmを測る。大きさから大型の構造物に用いられたものである可能性が考えられる。1268・1270・1272は頂部と先端が欠損したものである。1269・1271・1273～1275は先端側が欠損したもので、頂部の形状が横に広がるものと広がらないものがある。いずれも断面形状は方形だが、正方形に近いものと長方形に近いものの2つがある。1276は、鉄製の板状製品である。

SD 33004 (第IV-35図)

1278～1284は、土師器の皿である。いずれも碗に近い形状のもので、1278・1282～1284の内面



第IV-33圖 出土遺物実測図 33(1:4)



第IV-34図 出土遺物実測図 34(1:4、1262 ~ 1276は 1:2)

は工具ナデで調整されている。1278・1284の口縁部には煤が付着しており、灯明皿として使用された可能性がある。1285・1286は、土師器の鍋である。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅱa期～Ⅱb期の13世紀前半～14世紀後半のものと考えられる。1287～1290は、土師器の羽釜である。1287は南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅱb期の13世紀後半～14世紀前半のものと考えられる。1288～1290は、口縁部は短く直立してのび、鈎の突出が短いものである。1290は鈎が口縁端部のほぼ直下に付いている。体部内面は工具ナデまたはハケメで調整されている。1291は、陶器の山皿である。1292は、陶器の山茶碗である。渥美湖西型3a型式の13世紀前半のものと考えられる。1293は、陶器の卸皿である。内面には格子状に卸目が入り、緑色系の釉が掛かる。瀬戸・美濃製品と考えられる。1294は、陶器の鉢である。常滑製品であり、常滑第2段階5型式の13世紀前半のものと考えられる。1295は、陶器の壺である。口縁端部の両端は突出している。常滑製品であり、常滑第2段階6b型式の13世紀後半のものと考えられる。1296は、陶器の壺である。常滑製品であり、常滑第2段階7型式の14世紀前半のものと考えられる。1297・1298は、青磁の碗である。1297は龍泉窯系のもので、山本編年E期の13世紀前半のものと考えられる。1299は、鉄製の釘である。先端が欠損している。頂部が折れ曲がった折釘である。断面形状は方形である。

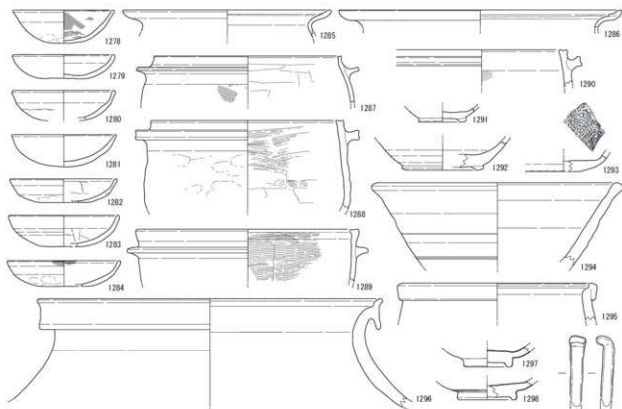
SD 33006 (第IV-35 図)

1300～1306は、土師器の鍋である。1300～1302は南伊勢系のものである。1300・1301は口縁端部が摘み上げられたもので、伊藤編年中世Ⅳ期の15世紀後半～16世紀代のものと考えられる。1302は口縁部の粘土が内側に折り返されて、端部が肥厚したもので、伊藤編年中世Ⅱb期の13世紀後半～14世紀前半のものと考えられる。1303～1306は播磨型のものである。1303の外面には平行タタキ、1304の外面には格子タタキが施され、内面は工具ナデで調整される。いずれも長谷川編年Ⅷ期の16世紀後半～17世紀前半のものと考えられる。1307は、陶器の山皿である。

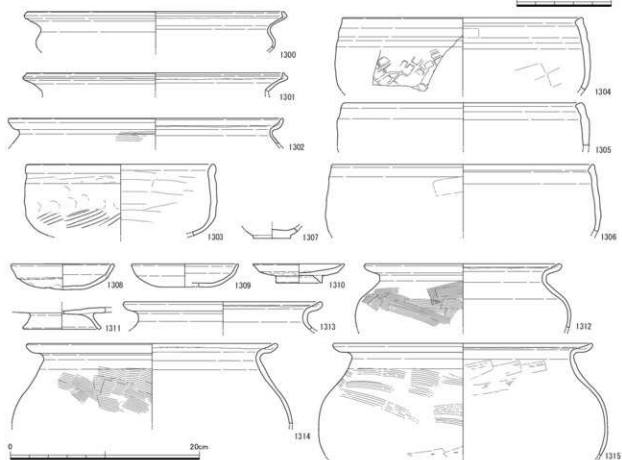
SD 33012 (第IV-35, 36 図)

1308・1309は、土師器の皿である。いずれも楕に近い形状のものだが、1309は器厚が薄いものである。南伊勢系の影響を受けたものの可能性がある。1310・1311は、土師器の台付皿である。1310は器高が低い小型の皿に小さな高台が付くもので、胎土は精良である。体部外面にはユビオサエが顕著に残る。1312～1321は、土師器の鍋である。1312～1321は、南伊勢系のものである。1312～1318は、口縁部の粘土が内側に折り返されて肥厚したもので、伊藤編年中世Ⅱb期の13世紀後半～14世紀前半のものと考えられる。1319・1320は、伊藤編年中世Ⅳb期の15世紀末～16世紀前半のものと考えられる。1321は、播磨型のもので、長谷川編年Ⅷ期の16世紀後半～17世紀前半のものと考えられる。1322は、土師器の羽釜である。口縁部が短く直立し、鈎の突出も短いものである。1323は、土師器の羽釜または羽釜形の鍋である。口縁部と鈎が一連でつながっており、口縁端部は丸みをおびた水平面を持つ。阿波や讃岐地域の羽釜形の鍋の形状に似ている⁽¹²⁾。1324は、土師器の茶釜の可能性のあるものである。口縁部は直立ぎみに外反し、端部は内側に屈曲している。1325は、瓦器の皿である。炭素の吸着が弱く焼成も甘いため、土師器に似た黄色となっている。このような焼成となる瓦器は、泉南地域で見られるものに類似する⁽¹³⁾。口縁端部内面にはミガキが施され、底部外面はユビオサエによる指頭圧痕や粘土紐の接合痕が顕著に残る。12世紀後半～13世紀代のものと考えられる。

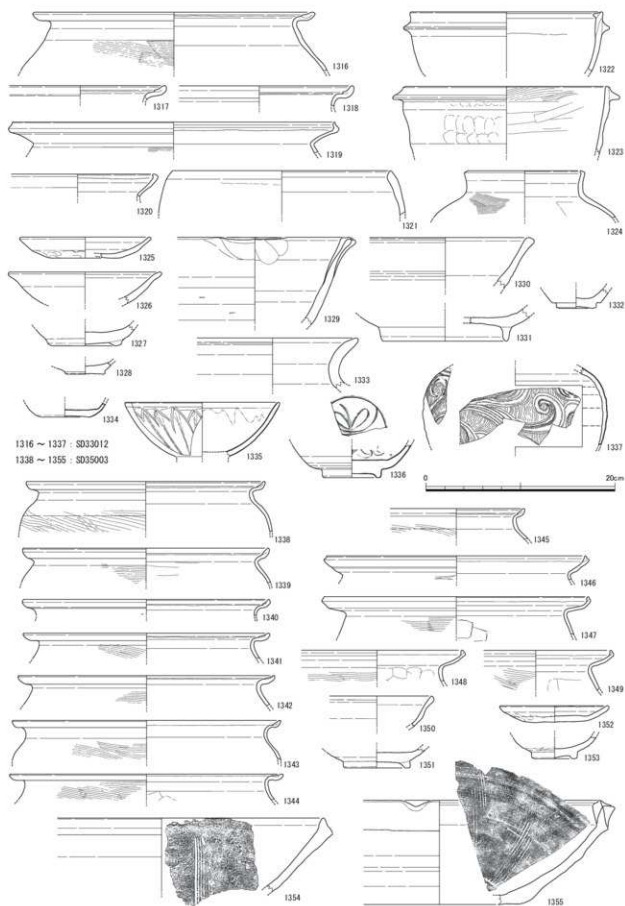
1326・1327は、陶器の山茶碗である。1326は尾張型、1327は渥美湖西型とみられ、12世紀後半～13世紀後半のものと考えられる。1328は、陶器の山皿である。渥美湖西型とみられ、12世紀後半～13世紀前半のものと考えられる。1329は、陶器の片口鉢である。口縁部は外反し、上端は水平な面を成して浅い沈線がめぐる。1330・1331は、陶器の鉢である。1332は、陶器の天目茶碗である。外面は露胎となり、内面には鉄釉が掛かっている。瀬戸・美濃製品と考えられる。1333は、陶器の壺である。口縁部は大きく外反し、端部は丸く収められている。渥美製品であり、渥美2b型式の12世紀後半～13世紀前半のものと考えられる。



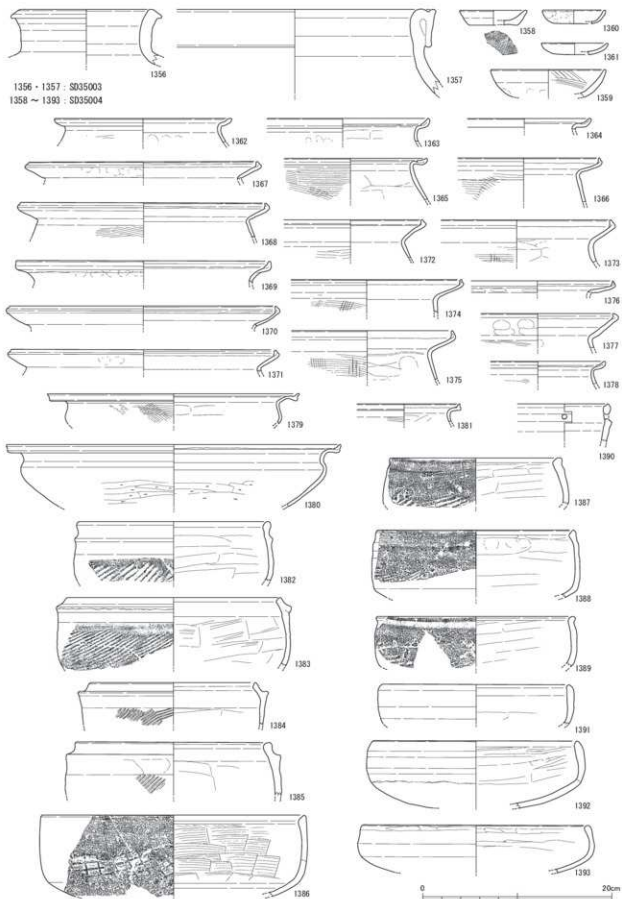
1278 ~ 1299 : S033004 1300 ~ 1307 : S033006 1308 ~ 1315 : S033012



第IV-35図 出土遺物実測図 35(1:4、1299は1:2)



第IV-36図 出土遺物実測図 36(1:4)



第IV -37 図 出土遺物実測図 37(1:4)

1334は、白磁の皿である。1335・1336は、青磁の碗である。1335の体部外面には鎗蓮弁文、1336の内面の見込みに刻劃文が施されている。いずれも龍泉窯系とみられ、山本編年D期～F期の12世紀前半～14世紀前半のものと考えられる。1337は、青白磁の梅瓶(メイビン)である。体部の破片で肩に近い部分のものと考えられる。図上では、同一品とみられる破片を復元的に合成して表現した。器厚が薄く、内面にはロクロ目が残る。外面には鎗滴花文が配され、櫛による条線で充填されている。青白磁の優品であり、同様の梅瓶は熊野川の対岸にある新宮下本町遺跡(和歌山県新宮市)でも出土している⁽³⁴⁾。

SD 35003 (第IV-36, 37図)

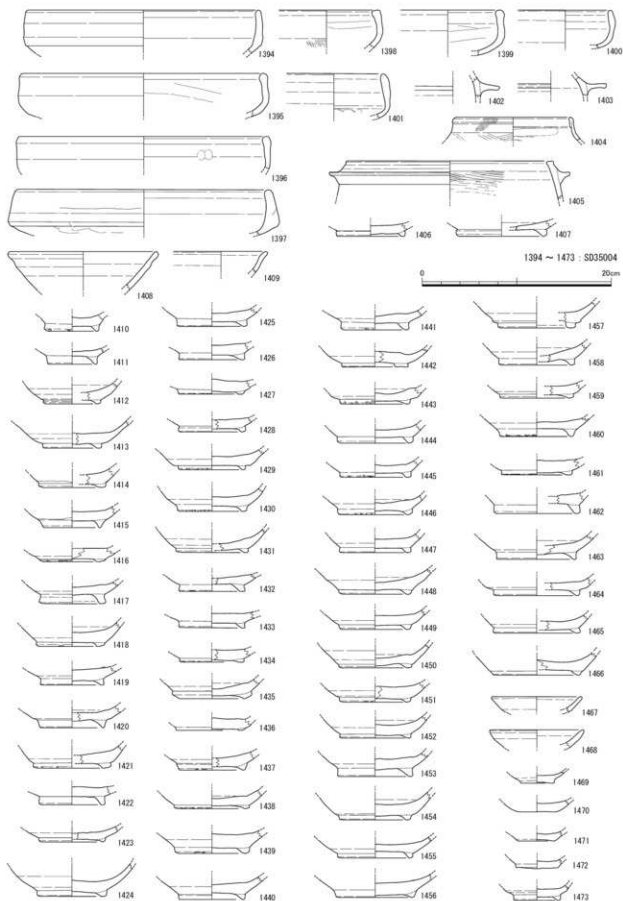
1338～1349は、土師器の鍋である。すべて南伊勢系のものである。1338～1345は、口縁端部の粘土が内側に折り返されて肥厚するもので、伊藤編年中世Ⅱb期～Ⅲa期の13世紀後半～14世紀後半にかけてのものと考えられる。1346～1349は、口縁端部が積み上げられたもので、伊藤編年中世Ⅳa期～Ⅳb期の15世紀後半～16世紀前半のものと考えられる。1348の外面は、条線が太くて粗いハケメで調整されている。

1350・1351は、陶器の山茶碗である。1350は尾張型、1351は渥美湖西型とみられ、13世紀前半～後半のものと考えられる。1352は、陶器の皿である。口縁部内外面に緑色の釉が掛かるもので、器高は低い。瀬戸・美濃製品であり、古瀬戸後期様式Ⅲ期の15世紀前半のものと考えられる。1353は、陶器の碗である。瀬戸・美濃製品とみられる。1354・1355は、陶器の播鉢である。いずれも備前製品であり、内面の播目は1単位ごとの間隔が広い。1355には片口となる窪みがある。重根編年ⅣB期～ⅤA期の15世紀前半～16世紀後半にかけてのものと考えられる。1356は、陶器の壺である。口縁部は外反し、端部は下端が小さく突出している。渥美製品であり、渥美2b型式の12世紀後半～13世紀前半のものと考えられる。1357は、陶器の壺である。口縁部は外側に大きく折り返され、端部両端は突出して丸く収められている。常滑製品であり、常滑第3段階9型式の15世紀前半のものと考えられる。

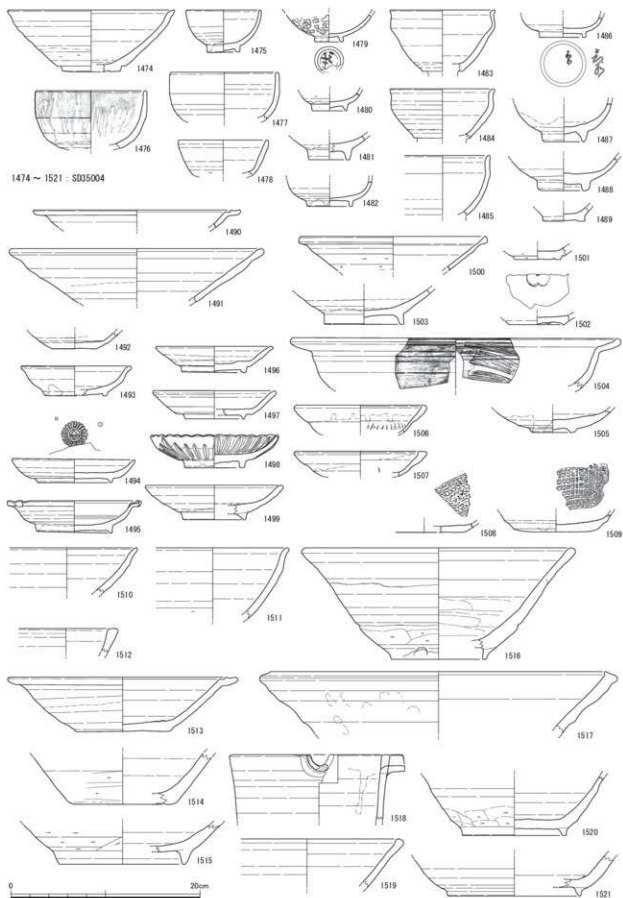
SD 35004 (第IV-37～43図)

1358～1361は、土師器の皿である。1358は平底で、口径・器高ともに小型のものである。底部には糸切痕が残る。1359は碗に近い形状のもので、内面は工具ナデで調整されており、口縁端部付近まで及んでいる。1360・1361は南伊勢系のものである。器厚が薄く、小型のものでナデ及びユビオサエで調整されている。1362～1381は南伊勢系の鍋と焙烙である。1362～1378は鍋である。1362～1366・1378は、口縁端部の粘土が内側に折り返されて肥厚するもので、伊藤編年中世Ⅱb期の13世紀後半～14世紀前半のものと考えられる。1365の外面に施されたハケメは、頸部屈曲付近まで及んでいる。1367～1377は、口縁端部が積み上げられているもので、伊藤編年中世Ⅳa期～Ⅳb期の15世紀後半～16世紀前半のものと考えられる。1368・1373～1375の外面は、粗いハケメで調整されている。1379～1381は、焙烙である。口縁部は外側に大きく屈曲し、口縁端部は上方へ積み上げられている。伊藤編年中世Ⅳc期の16世紀後半～17世紀初頭前後のものと考えられる。

1382～1401は、播磨型または大坂・明石系の土師器の鍋と焙烙である。1382～1390は、播磨型の鍋である。1382～1385は、羽釜形のもので口縁部の直下に鈎状の突出がある。外面は平行タタキ、内面は工具ナデまたはナデで調整されている。長谷川編年Ⅶ期の16世紀前半～後半のものと考えられる。1386～1390は、羽釜形にあった鈎状の突出が消失したものである。外面は格子タタキまたは平行タタキ、内面は工具ナデまたはナデで調整されている。1390には口縁端部の直下に円形の穿孔がある。長谷川編年Ⅷ期の16世紀後半～17世紀前半のものと考えられる。1391～1401は、大坂・明石系の焙烙である。口縁部に向かって内湾しながらのびるものと、立ち上がりから直線的にのびるものがある。1398は口縁部の器厚が厚いものである。内面は工具ナデで調整されたものがある。これら大坂・明石系のもは、積山編年4段階～12段階の17世紀中頃～18世紀末前後にかけてのものと考えられる。1402・1403は、土師器の羽釜である。いずれも鈎の破片である。1404は、土師器の茶釜とみられる。



第IV-38図 出土遺物実測図 38(1:4)



第IV-39圖 出土遺物実測図 39(1:4)

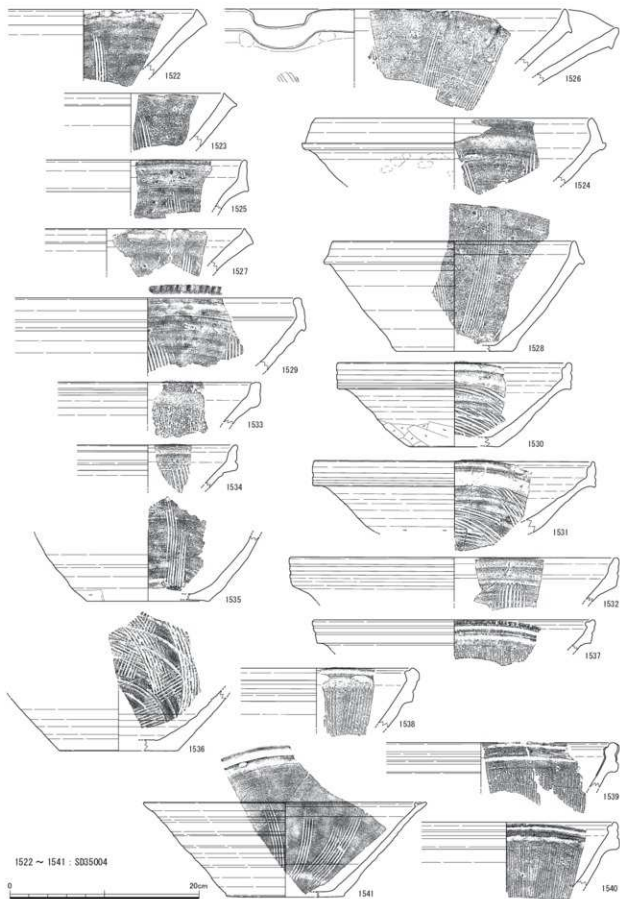
1405 は、瓦質土器の羽釜である。口縁端部は水平な面を持ち、鈎の端部は丸く収められている。内面はハケメで調整されている。

1406・1407 は、灰釉陶器の碗である。1406 の高台端部はシャープに作り出されている。1406 は K-14 号窯式期の 9 世紀前半のもの、1407 は H-72 号窯式または百代寺窯式期の 10 世紀後半以降のものと考えられる。1408～1466 は、陶器の山茶碗である。12 世紀前半～14 世紀初頭前後にかけての尾張型または渥美湖西型のものと考えられる。1467～1473 は、陶器の山皿である。尾張型及び渥美湖西型の 12 世紀後半～13 世紀前半のものと考えられる。1474～1489 は、陶器の碗である。1474 は、口縁部に向かって直線的に外反しながらのびるもので、瀬戸・美濃製品の平碗である。古瀬戸後期様式Ⅳ期古段階の 15 世紀中頃～後半のものと考えられる。1475・1480 は、瀬戸・美濃製品の小碗である。登窯第 2 段階第 7 小期～第 3 段階第 9 小期の 18 世紀中頃前後～19 世紀前半のものと考えられる。1476・1477 は、瀬戸・美濃製品の丸碗である。登窯第 2 段階第 7 小期の 18 世紀中頃前後のものと考えられる。1479 の底部外面の見込みには、墨書で文字が記されている。1483～1485 は、瀬戸・美濃製品の天目茶碗である。1485 は大窯第 3 段階後半の 16 世紀後半、1483・1484 は登窯第 1 段階第 4 小期～登窯第 2 段階第 6 小期の 17 世紀～18 世紀前半のものと考えられる。1486 は肥前系の京焼風陶器であり、底部外面見込みに「清水」の印刻がある⁽³⁵⁾。1481・1482・1487～1489 は、肥前系とみられ、17 世紀後半～18 世紀後半のものと考えられる。

1490～1505・1513 は、陶器の皿である。1490～1503 は瀬戸・美濃製品、1504・1505 は肥前系のものと考えられる。1490・1513 は折縁深皿である。1490 は古瀬戸中期様式Ⅰ期の 14 世紀後半、1513 は古瀬戸後期様式Ⅲ期の 15 世紀前半のものと考えられる。1495 の口縁端部には輪花状の窪みがあり、口縁部内面の屈曲部分と底部からの立ち上がり部分には、圏線状の文様がめぐる。大窯第 4 段階の 16 世紀末前後～17 世紀初頭のものと考えられる。1491 は口径が大きい直縁大皿であり、内外面には浅黄色の釉が掛かっている。古瀬戸後期様式Ⅳ期古

段階の 15 世紀中頃前後のものと考えられる。1492 は、緑釉小皿である。古瀬戸後期様式期の 14 世紀後半～15 世紀後半にかけてのものと考えられる。1493 は、端反皿である。底部外面の見込みに輪トチの痕跡が残る。大窯第 2 段階の 16 世紀前半～中頃前後のものと考えられる。1494・1498 は、菊皿である。1494 は、底部内面の見込みに菊花文の印刻が施されており、大窯第 2 段階後半の 16 世紀中頃前後のものと考えられる。1498 の内面には菊花文が型押しされており、外面は削ぎで花卉が表現され、口縁端部はヘラで切り込まれて波状になっている。登窯第 1 段階第 4 小期の 17 世紀後半のものと考えられる。1496・1499・1500・1503 は、輪壳皿である。登窯第 1 段階第 4 小期～第 3 段階第 8 小期の 17 世紀後半～18 世紀後半のものと考えられる。1497 は、稜皿である。登窯第 1 段階第 3 小期の 17 世紀中頃前後～後半のものと考えられる。1502 は、丸皿である。1504 の内面には、刷毛目文様が施されている。1505 の内面には砂目が残り、高台は低くて兜巾がみられる。17 世紀後半～18 世紀後半にかけてのものと考えられる。1506～1509 は、陶器の卍皿である。いずれも瀬戸・美濃製品であり、古瀬戸中期様式Ⅲ期～後期様式期の 14 世紀前半～後半のものと考えられる。

1510～1512・1514～1521 は、陶器の鉢である。このうち 1516・1518～1521 は、片口鉢である。1510・1511・1515 は渥美製品であり、渥美 1 b～2 b 型式の 12 世紀後半～13 世紀前半のものと考えられる。1516・1517・1520 は常滑製品であり、常滑第 2 段階 5 型式～第 3 段階 10 型式の 13 世紀前半～15 世紀後半のものと考えられる。1518 は、瀬戸・美濃製品であり、登窯第 1 段階第 3 小期の 17 世紀中頃前後のものと考えられる。1521 は、尾張型のものと考えられる。1522～1548 は、陶器の描鉢である。1522～1536 は、備前製品またはその可能性のあるものである。1522・1523・1527 の口縁端部は、両端が小さく突出して外傾面を持つもので、重根編年ⅣA期の 14 世紀中頃～15 世紀前半のものと考えられる。1526 には舌状の片口を持ち、外面の一部には工具ナデが施されている。1524～1526・1528 は、口縁端部の両端が突出して外傾面を持つ



第IV-40図 出土遺物実測図 40(1:4)

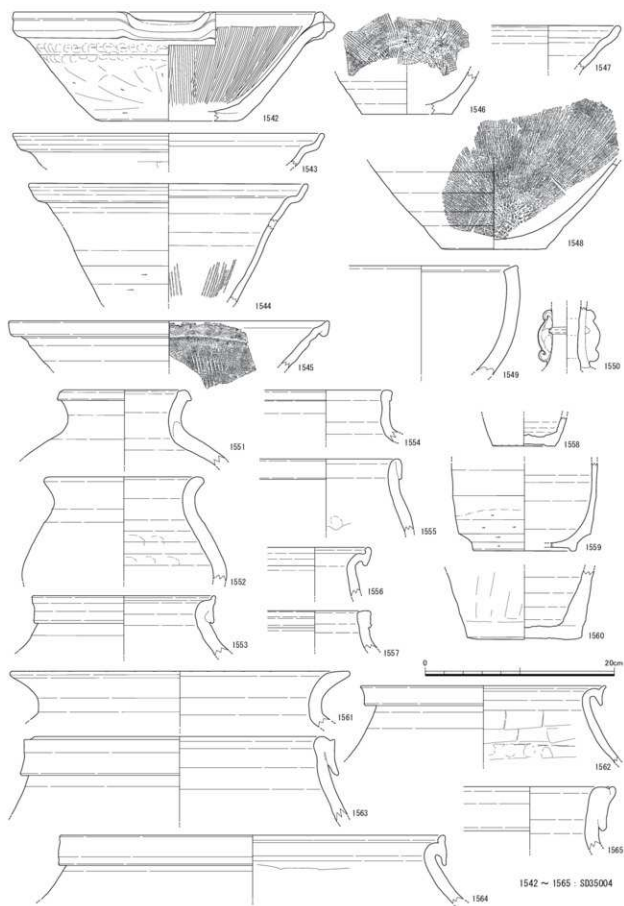
ものである。1528・1529 は、口縁部が上方へ大きく拡張しており、上端は小さく玉縁状に膨らむ。描目と口縁部の境には強いロクロナデによる段がある。重根編年ⅣB期～ⅤA期の15世紀末～16世紀後半のものと考えられる。1530・1531の口縁端部は丸く収められて内側は段をなし、外傾面には2～3条の沈線がめぐる。乗岡編年近世Ⅰ期の16世紀後半～17世紀初頭前後のものと考えられる。1532～1534は、乗岡編年近世2～4期の17世紀前半～18世紀中頃のものと考えられる。1537～1540は、堺・明石系のものである。1540の口縁端部は上端が突出している。端部の内側に1条の深い沈線、外傾面に2条の沈線がめぐる。内面の描目は各単位が間隔を空けず放射状に施されている。稲原編年Ⅰ～Ⅰ類の18世紀前半～19世紀前半のものと考えられる。1541・1543～1548は、瀬戸・美濃製品またはその可能性があるものである。1541は、口縁端部の内面に突線がめぐり、内面にある描目は放射状に施されて、体部中位までのびている。古瀬戸後期様式Ⅳ期古段階の15世紀中頃前後のものと考えられる。1543～1545・1547・1548は、登窯第1段階第4小期～登窯第3段階第8小期の17世紀後半～18世紀初頭前後のものと考えられる。

1549は、陶器の火鉢である。口縁端部は内傾面を持つ。常滑製品の赤物であり、16世紀後半～17世紀前半のものと考えられる。1550は、陶器の花瓶である。頸部の外面には蕨手状の耳が付く。瀬戸・美濃製品であり、古瀬戸中期様式Ⅰ期～Ⅱ期の14世紀前半のものと考えられる。1551～1557・1560は、陶器の壺または徳利の可能性のあるものである。1551は、口縁端部の両端が小さく突出し、先端は丸く収められている。丹波または越前製品であろうか⁽³⁶⁾。1552は、体部の肩の張りが弱いもので、16世紀後半以降の備前製品の可能性がある。1553～1557は常滑製品であり、常滑第2段階6b型式～第3段階12型式の13世紀後半～16世紀後半にかけてのものと考えられる。1558・1559は瀬戸・美濃製品の可能性があるものである。1561～1567は、陶器の壺である。1561は渥美製品であり、渥美2b型式の13世紀初頭前後のものと考えられる。1562～1567は常滑製品またはその可能性があるも

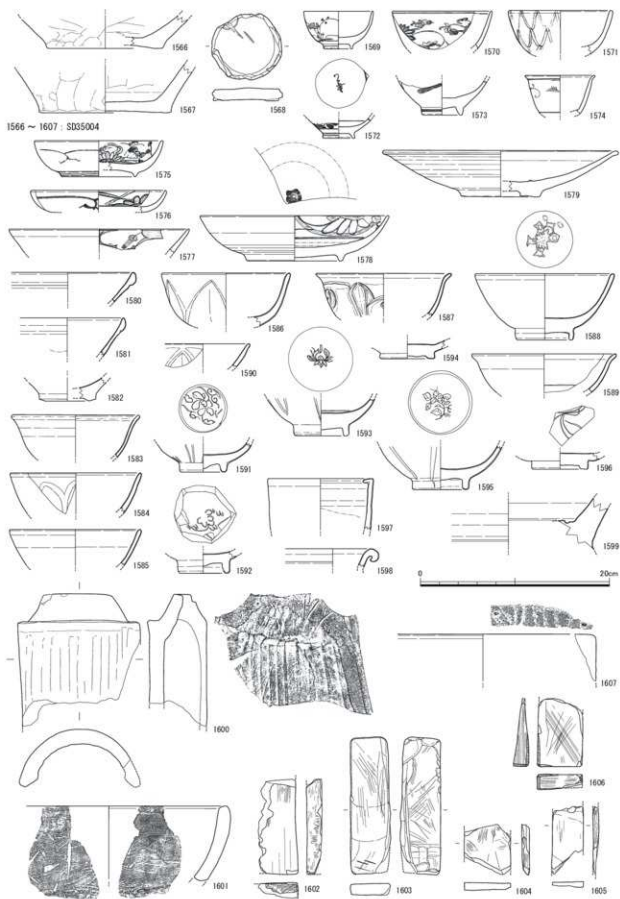
のである。常滑第2段階7型式～常滑第3段階10型式の14世紀前半～15世紀後半にかけてのものと考えられる。1568は、陶器の加工円盤である。山茶碗の底部を打ち欠いて作られており、片面には高台が残る。

1569～1572は、磁器の碗である。いずれも染付で文様などが描かれている。1569の外面には草花文、1570の外面には草花文と菊文、1571の外面には三段の網目文、1572の底部内面の見込みには「寿」とみられる崩れた文字がある。1573は、碗または瓶で外面には文様などが描かれている。いずれも肥前系で、17世紀末～18世紀後半のものと考えられる。1574は、磁器の小坏である。肥前系とみられ、17世紀後半～18世紀前半のものと考えられる。1575～1579は、磁器の皿である。1579以外には染付で文様などが描かれている。1575の外面には唐草文と内面には草花文、1576の外面には唐草文と内面には花文、1578の内面には菊花とみられる花文と見込みにコンニャク印判の五弁花文がある。1579の底部内面には、蛇ノ目輪刺ぎの範囲がある。いずれも肥前系であり、17世紀末～18世紀後半にかけてのものと考えられる。

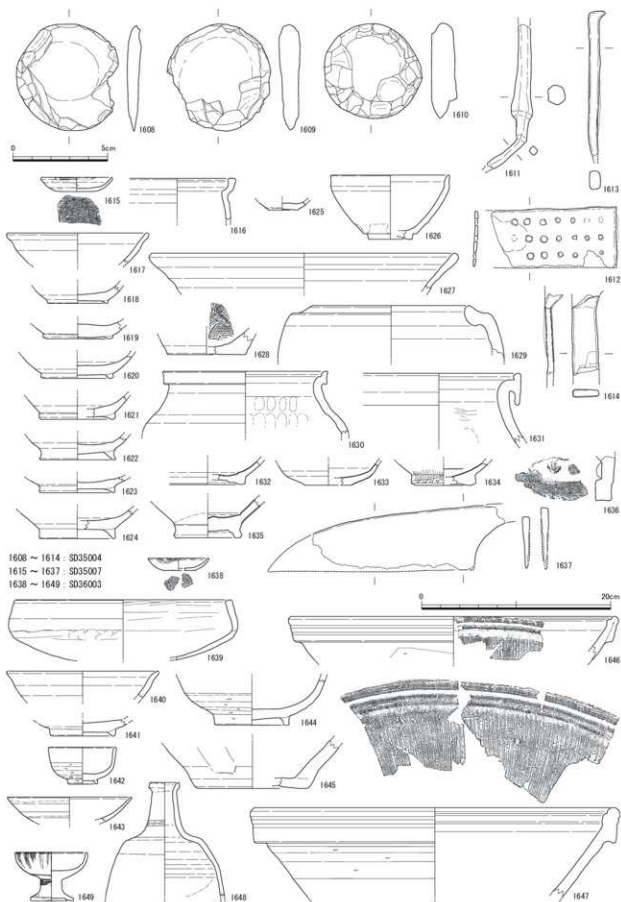
1580～1582は、白磁の碗である。1580・1581の口縁端部は玉縁状に肥厚する。福建省系とみられ、山本編年B期～C期の10世紀後半～12世紀前半にかけてのものと考えられる。1583～1596は、青磁の碗である。1584・1586・1587・1590・1591・1593の外面には錦蓮弁文があり、それ以外は無文様である。1588・1591～1593・1595・1596の内面の見込みには花文などの陰刻がある。1586・1593の錦蓮弁文は1つの蓮弁が大きいもので、1591は細蓮弁文あるいはそれが退化した縦線で表現されている。いずれも龍泉窯系のものでみられ、山本編年F期～Ⅵ類の13世紀初頭～16世紀前半にかけてのものと考えられる。1597は、青磁の香炉である。口縁部は内側へ屈曲して端部は丸い。1598は、白磁の壺である。口縁部は外側へ折り曲げられて蕨手状になる。四耳壺の可能性もある。1599は、青磁の壺である。底部から体部へ立ち上がる部分の破片で、器厚が薄い。内面にはロクロ目の凹凸が顕著にみられ、内外面ともに釉が掛かる。龍泉窯系的大型壺の優品



第IV-41図 出土遺物実測図41(1:4)



第IV-42図 出土遺物実測図 42(1:4)



第IV-43図 出土遺物実測図43 (1:4、1608～1614・1637は1:2)

である可能性がある。

1600 は、丸瓦である。玉縁部を含む破片で、凸面には縦方向のナデ、凹面には棒状圧痕が残る。各端面は面取りされ、一部は面取り後にナデで整えられている。1601 は、滑石製の石鍋である。口縁部の可能性がある破片だが、下方も加工されているため断定できない。内外面ともに平滑で、加工痕または使用時の擦痕が残る。肥前西彼杵半島産の可能性がある⁽³⁷⁾。1602 ～ 1606 は、砥石である。このうち 1603 はほぼ完存したものである。表面には使用時の擦痕が残る。1607 は、石製の碇臼である。上面に礪目が施されている。1608 ～ 1610 は、石製の円盤状製品である。円形に加工されたもので、端部は打ち欠かれて尖っている。片面は加工が表面全体に及んでいるが、もう一方の面は端部以外が自然面となる。いずれも材質は泥岩系のものであると考えられる。現状で類例が見当たらないため、どのように使われたものか不明だが、削器のようなものである可能性が考えられる⁽³⁸⁾。

1611 は、鉄鏝である。鏝身部の断面形状が丸に近い多角形状をしていることから、丸根式であろうか。時期は14世紀以降の可能性⁽³⁹⁾。1612 は、鉄製の小札である。径2～3mmの孔が16～19箇所確認できる。一枚に3列で孔が配されていることから、三ツ目札と考えられる⁽⁴⁰⁾。1613 は、鉄製の釘である。いずれも断面形状は方形で、頂部が折れ曲がった折釘である。1614 は、湾曲する側面があることから、鉄鍔の可能性も考えられる。

SD 35007 (第IV-43 図)

1615 は、土師器の皿である。外面には糸切痕が残り、内外面ともにクロコナデで調整されている。内面全体と口縁部外面には透明釉が掛かり、口縁部には煤が付着している。大坂系のもので、横山編年10段階以降の18世紀中頃以降のものと考えられる。1616 は、土師器の鍋である。口縁部は受口状で、端部上端は面を持つ。鉄鍋を模倣したものであると考えられ、外面には煤が付着している。

1617 ～ 1624 は、陶器の山茶碗である。1619 ～ 1622・1624 は、渥美湖西型、1617・1618・1623 は尾張型のものであると考えられ、12世紀中頃前後～13世紀後半のものと考えられる。1625 は、陶器の山皿

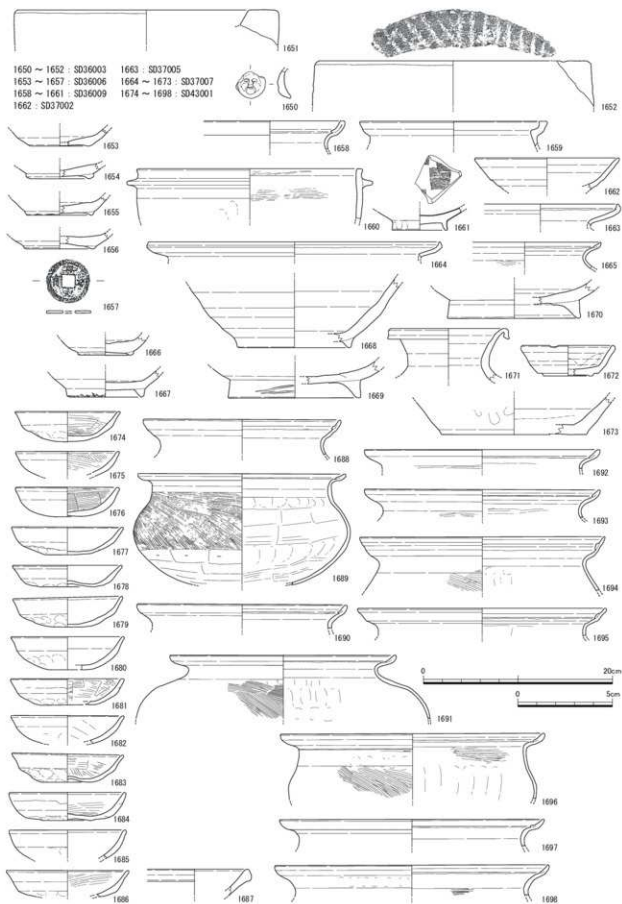
である。1626 は、陶器の天目茶碗である。瀬戸・美濃製品であり、古瀬戸後期様式Ⅱ期の14世紀末～15世紀初頭前後のものと考えられる。1627 は、陶器の片口鉢である。口縁部に向かって外反しながら直線的にのび、端部は丸い。1628 は、陶器の播鉢である。内面の播目は見込みから放射状に施されている。1629 は、陶器の火鉢である。口縁部は内傾し端部は膨らんで丸く収められている。1630 は、陶器の壺である。口縁部は外側へ屈曲し、端部の両端は突出している。常滑製品であり、常滑第2段階6b型式の13世紀後半のものと考えられる。1631 は、陶器の壺である。口縁部は外側へ大きく折り返され、端部の両端は突出して下端は長くのびている。常滑製品であり、常滑第3段階8型式の14世紀後半のものと考えられる。

1632 は、白磁の碗または皿である。1633 は、白磁の皿である。福建省系であり、山本編年D期の12世紀中頃～後半のものと考えられる。1634 は、白磁の碗または壺である。外面は露胎でケズリの単位が顕著に残る。1635 は、白磁の壺である。器厚が厚く、底部内面の中央は凸状に膨らむ。高台の外面と底部外面の見込みは、露胎となる。高台の端部は面取りされている。耳壺の底部である可能性がある。時期の特定は難しいが、高台の形状から山本編年E期の13世紀初頭前後～前半のものである可能性が考えられる。1636 は、軒丸瓦である。頸部分の破片であり、外側に珠文がみられる。1637 は、鉄製の鉢と考えられる。

SD 36003 (第IV-43, 44 図)

1638 は、土師器の皿である。底部外面には糸切痕が残り、口縁端部には煤が付着している。大坂系であり、横山編年10段階以降の18世紀中頃以降のものと考えられる。1639 は、土師器の焙烙である。外面には粘土紐の接合痕が残り、内外面は工具ナデにより調整されている。大坂・明石系であり、横山6段階の17世紀後半のものと考えられる。

1640・1641 は、陶器の山茶碗である。いずれも渥美湖西型2b型式の13世紀前半のものと考えられる。1642 は、陶器の碗である。瀬戸・美濃製品の小碗であり、登窯第2段階第7小期～第3段階第8小期の18世紀中頃～後半のものと考えられる。



第IV-44図 出土遺物実測図 44(1:4、1657は1:2)

1643 は、陶器の皿である。肥前系の銅緑釉皿であり、17 世紀後半～18 世紀後半のものと考えられる。1644 は、陶器の鉢である。瀬戸・美濃製品であり、内面にはトチン痕が残る。登窯第2段階第6小期～第7小期の18 世紀代のものと考えられる。1646・1647 は、陶器の描鉢である。いずれも堺・明石系のもので、1646 は桶原編年Ⅰ～Ⅰ期の18 世紀代のもの、1647 は桶原編年Ⅱ～Ⅱ期の18 世紀後半～19 世紀前半のものと考えられる。1648 は、陶器の徳利である。細長くのびた頸部外面には、3 条の沈線がある。瀬戸・美濃製品とみられ、登窯第2段階第6小期前後の17 世紀末～18 世紀前半のものと考えられる。1645 は陶器の壺である。1649 は、磁器の仏具である。外面には染付で雨降文が描かれている。肥前系であり、17 世紀末～19 世紀初頭頃のものと考えられる。1650 は、土製の人形である。顔面部分の破片で、内面にはユビオサエが残る。型押しにより成形されたと考えられる。1651・1652 は、石製の碾臼である。1651 は外縁から中央部に向かって窪んでいることから上臼であり、1652 は上面に碾臼があることから下臼と考えられる。

SD 36006 (第Ⅳ-44 図)

1653～1656 は、陶器の山茶碗である。1654 は渥美湖西型、1655・1656 は尾張型とみられ、12 世紀前半～13 世紀前半のものと考えられる。1657 は、銭貨の「寛永通寶」である。

SD 36009 (第Ⅳ-44 図)

1658・1659 は、土師器の鍋である。1658 は南伊勢系であり、伊藤編年Ⅱb 期の13 世紀後半～14 世紀前半のものと考えられる。1659 は口縁部が受口状で、上端は水平面を持つ。鉄鍋を模倣したものと考えられる。1660 は、土師器の羽釜である。口縁部は短く直立してのび、鐙は口縁部の直下に取り付いている。1661 は、青磁の碗である。底部内面の見込みには、柳描きの条線で文様が施されている。同安窯系であり、山本編年D 期の12 世紀中頃～後半のものと考えられる。

SD 37002 (第Ⅳ-44 図)

1662 は、陶器の山茶碗である。尾張型第5 型式の13 世紀前半のものと考えられる。

SD 37005 (第Ⅳ-44 図)

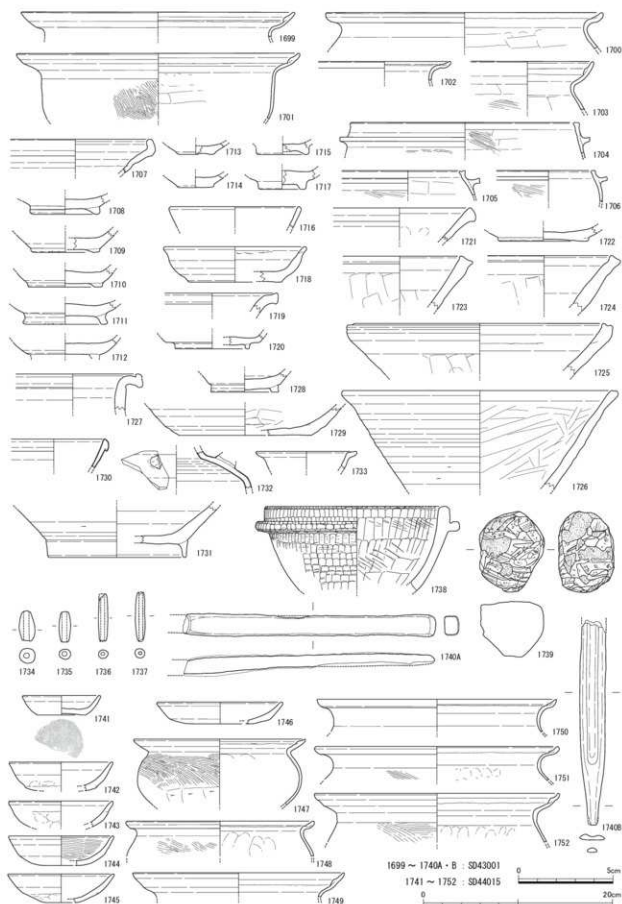
1663 は、土師器の鍋である。口縁端部は摘み上げられている。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅳa 期の15 世紀前半のものと考えられる。

SD 37007 (第Ⅳ-44 図)

1664・1665 は、土師器の鍋である。いずれも南伊勢系である。1664 の口縁端部は摘み上げられており、頸部の屈曲が鈍いもので、伊藤編年中世Ⅳa 期の15 世紀後半のものと考えられる。1665 は、伊藤編年中世Ⅲb 期の15 世紀前半のものと考えられる。1666・1667 は、陶器の山茶碗である。1666 は渥美湖西型、1667 は尾張型とみられ、12 世紀後半～13 世紀前半のものと考えられる。1668～1670 は、陶器の鉢である。いずれも高台の断面形状は逆三角形を呈している。1669 の外面には、工具が当たった沈線状の痕跡がみられる。1671 は、陶器の壺である。広口壺の口縁部とみられ、端部は外側へ大きく折り曲げられている。渥美製品の可能性がある。1672 は、陶器の鉢である。坏に近い形状の小鉢である。口縁端部は丸く収められており、1 箇所に窪みがある。瀬戸・美濃製品であり、古瀬戸後期様式Ⅱ期の14 世紀末～15 世紀初頭のものと考えられる。1673 は、陶器の壺または甕である。外面及び内面の一部に自然釉が掛かっている。常滑製品の可能性がある。

SD 43001 (第Ⅳ-44, 45 図)

1674～1686 は、土師器皿である。1674～1677・1679～1685 は椀に近い形状のもので、1683 は上げ底ぎみの底部を持つ。1674～1676・1681～1684 の内面は工具ナデで調整されている。1678・1686 は、口縁部に向かって外反しながら直線的にのびるものである。1686 の内面は工具ナデで調整されている。1687・1721 は、土師器の鉢である。口縁端部は、両端に広がって肥厚して外傾面を持つ。形状から東播系須恵器の鉢を写したものと考えられる⁽⁴¹⁾。1688～1703 は、土師器の鍋である。すべて南伊勢系のものである。1689～1693・1696～1698・1700・1702 は、口縁端部の粘土が内側へ折り返されて肥厚するもので、伊藤編年中世Ⅱa 期～Ⅱb 期の13 世紀前半～14 世紀前半のものと考えられる。1688・1694・1695・1699・1701・1703 は、口縁端部からやや下がつた内面に断面三角形形状の膨らみを



第IV-45図 出土遺物実測図45 (1:4、1740A・1740Bは1:2)

持つ。伊藤編年中世Ⅲa期～Ⅲb期の14世紀後半～15世紀前半のものと考えられる。1704～1706は、土師器の羽釜である。すべて南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅱb期の13世紀後半～14世紀前半のものと考えられる。

1707・1722は、須恵器の鉢である。1707は色調が黄褐色となっており、焼成不良のものとみられる⁽⁴²⁾。東播系須恵器であり、佐藤編年Ⅳ類の14世紀後半～15世紀代のものと考えられる。1722は底部の破片で、東播系須恵器の可能性はある。1708～1712は、陶器の山茶碗である。すべて渥美湖西型の12世紀後半～13世紀前半のものと考えられる。1712には高台の剥離痕がみられる。1713～1715は、陶器の山皿である。1713・1714は、渥美湖西型2b型式～3b型式の13世紀前半のものと考えられる。1716は陶器の碗、1717は青磁の碗である。1718・1720は、陶器の皿である。1718は、焼成が土師質で不良品と考えられる。1719は、陶器の壺である。口縁部の破片で、端部は外傾面を持つ。1723～1726・1729・1731は、陶器の鉢である。いずれも常滑製品またはその可能性が高いものである。1723・1724は、口縁端部の両端が小さく突出して外傾面を持つもので、常滑第3段階8型式の14世紀後半のものと考えられる。1725・1726は、口縁端部は外形面を持ち、面の中央が沈線状に窪んでいる。常滑第2段階5型式の13世紀前半のものと考えられる。1727は、陶器の壺である。口縁部は外側へ大きく屈曲し、端部の両端が突出して外傾面を持ち、上端は玉縁状に丸く収められている。常滑製品であり、常滑第2段階5型式の13世紀前半のものと考えられる。1728は、陶器の壺とみられる破片である。器厚が厚く、高台の幅が広いもので、瀬戸・美濃製品の可能性がある。

1730は、白磁の碗である。口縁端部は外側へ折り返されて肥厚している。福建省系であり、山本編年C期の11世紀後半～12世紀前半のものと考えられる。1732は、白磁の壺である。体部の肩付近くの破片で、外面には耳が貼り付いていた部分が残る。四耳壺である可能性が高い。山本編年E期の13世紀初頭前後～前半のものと考えられる。1733は、青磁の環である。口縁部は外側へ屈曲してのび、端

部は丸く収められている。1734～1737は、土師である。1734・1735は、中央がやや膨らんだ形状のもの、1736・1737は柱状の形状のもので、外面はナデで調整されている。1738は、滑石製の石鍋である。内外面には鑿による加工痕が残る、内面には使用時の線状痕が残るが、摩耗で表面は滑々である。肥前西彼杵半島産の可能性があり、木戸編年Ⅲ類～Ⅳの13世紀前半のものと考えられる⁽⁴³⁾。1739は、軽石製の砥石である。線状の擦痕がみられる。1740Aは、鉄製の釘と考えられる。断面の形状は方形である。1740Bは銅製の斧である。片方の先端が欠損しており、表面には筋状の窪みがある。

SD 44015 (第Ⅳ-45, 46 図)

1741～1746は、土師器の皿である。1741は平底のもので、外面に糸切痕が残る。1741～1745は、碗形に近い形状のものである。1744の内面は工具ナデで調整されている。1746は、口縁端部に向かって外反して、直線的にのびるものである。1747～1757・1759は、土師器の鍋である。1759は播磨型のもので、それ以外は全て南伊勢系のものである。口縁端部の粘土が内側に折り返されて肥厚するものと、端部から下がったところの内面に断面三角形の膨らみをもつものがある。伊藤編年中世Ⅱa期～Ⅲb期の13世紀～15世紀前半にかけてのものと考えられる。1759は長谷川編年Ⅶ期の16世紀後半～17世紀前半のものと考えられる。1758・1760は、土師器の焙烙である。1758の口縁部は外側に大きく屈曲し、端部は揃み上げられている。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅳc期の16世紀後半～17世紀代のものと考えられる。1760は、大坂・明石系であり、積山編年8段階の18世紀初頭前後のものと考えられる。1761～1763は、土師器の羽釜である。1761・1762の口縁部は短く直線的にのび、鈎は短く突出したものである。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅱb期の13世紀後半～14世紀前半のものと考えられる。1763の口縁部はやや内傾して短くのびたものである。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅳb期の16世紀代のものと考えられる。

1764～1766は、須恵器の鉢である。いずれも東播系須恵器であり、佐藤編年Ⅲ～Ⅲ類～Ⅳ類の13世紀後半～15世紀代にかけてのものと考えられ

る。1767～1772は、陶器の山茶碗である。1767～1770・1772は尾張型、1771は渥美湖西型とみられ、12世紀後半～13世紀後半にかけてのものと考えられる。1773は、陶器の碗または皿の可能性があり、平底のもので器厚が薄い。1774～1776は、陶器の皿でいずれも瀬戸・美濃製品の折縁皿である。1774は、手洗状の形で口縁部は外側へ大きく屈曲し、端部は玉縁状に膨らむ。1775の口縁部は外側へ大きく屈曲し、端部は外傾面を持つ。1774・1775は、古瀬戸中期様式1期の13世紀末～14世紀初頭前後のものと考えられる。1777は、陶器の描鉢である。堺・明石系であり、稲原編年Ⅱ～3期の19世紀前半～後半のものと考えられる。1778～1781は、陶器の甕または壺である。いずれも常滑製品であり、1778・1779は、常滑第2段階5型式～6型式の13世紀前半～後半にかけてのものと考えられる。1782は、磁器の碗である。外面には染付で草花文が描かれており、底部外面の見込みには圈線と文字の一部とみられるものがある。肥前系とみられ、18世紀前半のものと考えられる。1783～1785は、白磁の碗である。1783・1785の口縁端部は肥厚して外傾面を持つ。福建省系であり、山本編年C期の11世紀後半～12世紀前半のものと考えられる。1786・1787は、青磁の皿である。1787は口縁部が大きく外反している。1788は、青磁の香炉である。口縁端部は内側へ屈曲して丸く収められている。1789は、砥石である。表面には細かな擦痕が残る。

SD 44030 (第IV-46図)

1790・1791は、土師器の鍋である。1790は南伊勢系であり、口縁端部は摘み上げられており、伊藤編年中世IVb期の16世紀前半のものと考えられる。1791は播磨型の羽釜形のもので、口縁端部は膨らんで丸く収められており、鈎の突出は小さい。長谷川編年VII期の16世紀前半～後半のものと考えられる。1792は、陶器の山茶碗である。渥美湖西型3a型式の13世紀前半のものと考えられる。1793は、陶器の碗である。天目茶碗の可能性があり、瀬戸・美濃製品とみられる。1794は、陶器の皿または碗である。1795は、陶器の鉢の可能性があり。口縁端部は内側に摘み出されて水平な面を持つ。内外面ともに工具ナデで調整されている。1796は、白磁

の皿の可能性があり。1797は、青磁の器台である。器台の脚部付近の破片で、口縁部を含む上部は欠損している。龍泉窯系の優品とみられ、北畠氏館跡(津市美杉町)で類例がある⁽⁴⁴⁾。

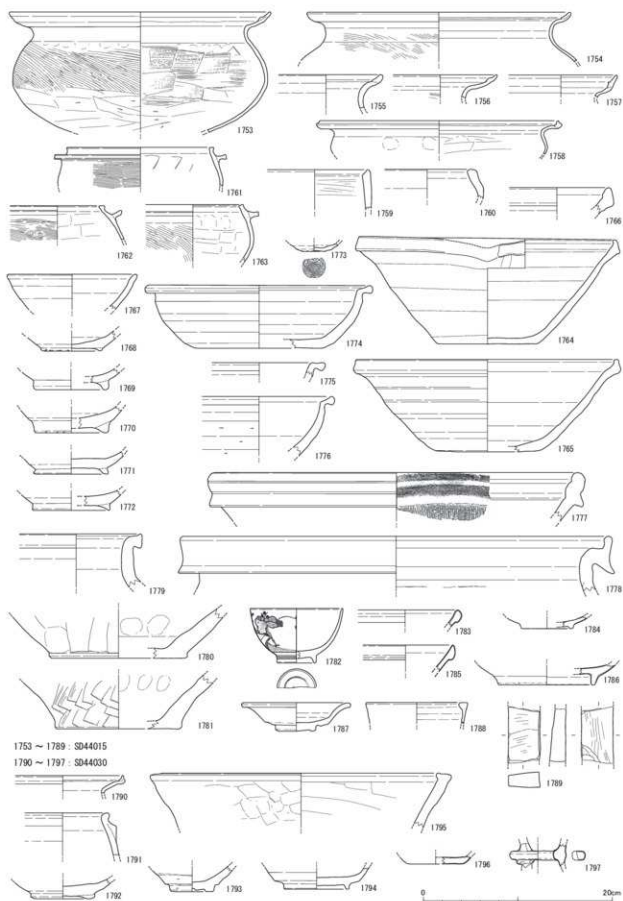
SD 51002 (第IV-47図)

1798～1800は、土師器の焙烙である。いずれも大坂・明石系のもので、口縁部は内傾しながらのび、丸く膨らんで玉縁状になっている。横山編年3段階～7段階の17世紀前半～後半のものと考えられる。1801は、陶器の山茶碗である。尾張型第5型式の12世紀後半のものと考えられる。1802～1805は、陶器の碗である。1802は、口縁端部は丸く収められており、内外面には鉄釉が掛かっている。瀬戸・美濃製品であり、登窯第2段階第7小期の18世紀中頃前後のものと考えられる。1803～1805は天目茶碗である。瀬戸・美濃製品であり、登窯第1段階第4小期の17世紀後半のものと考えられる。1806は陶器の皿である。1807は陶器の壺とみられ、底部に向かって下膨れした体部のものと考えられる。備前製品の可能性がある。1808～1810は、陶器の描鉢である。1808は、瀬戸・美濃製品であり、登窯第1段階第4小期の17世紀後半のものと考えられる。1809の口縁部は内傾面を持つ。備前製品であり、乗阿編年近世3期の17世紀後半～18世紀初頭前後のものと考えられる。1811は、陶器の壺である。内外面は工具ナデにより調整されている。常滑製品の可能性がある。

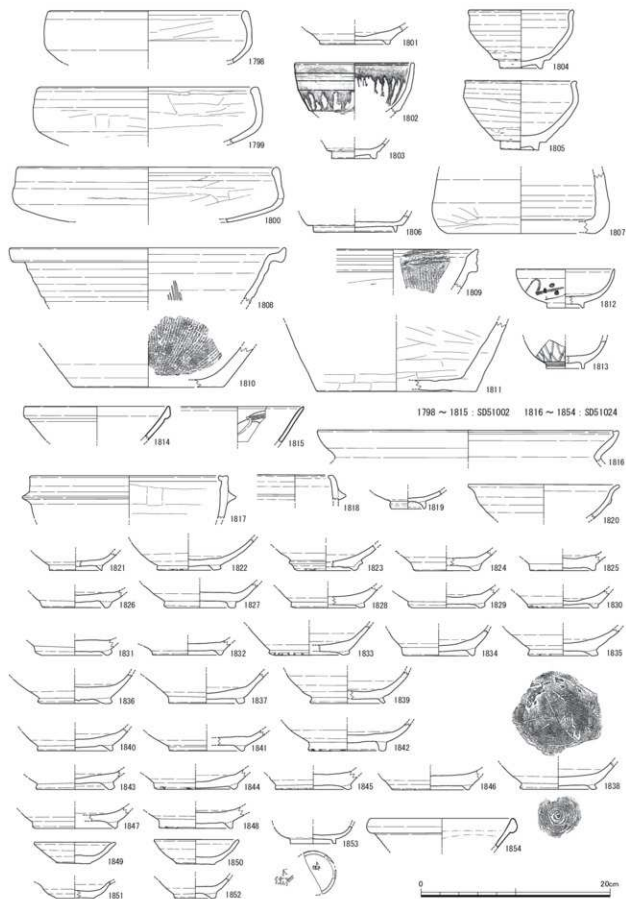
1812・1813は、磁器の碗である。いずれも外面には染付で文様が描かれており、1813には網目文がある。肥前系とみられ、17世紀後半～18世紀前半のものと考えられる。1814は、白磁の碗である。福建省系であり、山本編年C期の11世紀後半～12世紀前半のものと考えられる。1815は、青磁の碗である。口縁部は端部に向かって外反しながら直線的にのびるもので、内面には刻劃文が施されている。龍泉窯系であり、山本編年D期の12世紀中頃～後半のものと考えられる。

SD 51024 (第IV-47図)

1816は、土師器の甕とみられる。口縁部はやや内湾して、端部は肥厚している。1817は、土師器の羽釜である。口縁部は短く直立してのび、端部は



第IV-46 図 出土遺物実測図 46(1:4)



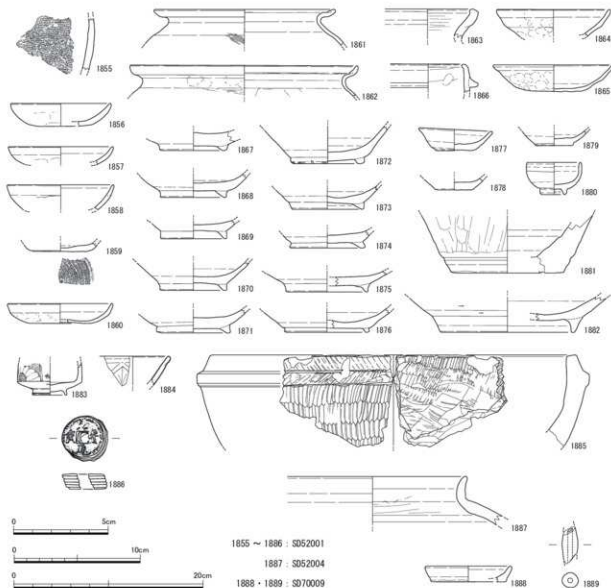
第IV-47図 出土遺物実測図 47(1:4)

内側へ屈曲しており、内面は工具ナデで調整されている。1818 は、瓦質土器の羽釜である。口縁端部は内側に屈曲して丸く収められている。1819 は、灰釉陶器の碗である。三日月形の高台が付くもので、O-53 号窯式～H-72 号窯式期の 10 世紀後半～11 世紀前半のものと考えられる。1820～1848 は、陶器の山茶碗である。12 世紀後半～13 世紀前半にかけての尾張型または渥美湖西型のものと考えられる。1838 の底部内面には葉脈痕とみられる痕跡、底部外面の見込みには棒状工具の先端で施された渦巻状の痕跡がある。何らかの記号の可能性がある。1849～1852 は、陶器の山皿である。渥美湖西型及び尾張型の 12 世紀後半～13 世紀前半のものと考え

られる。1853 は、陶器の碗である。底部外面の見込みには「木下弥」の印刻⁽⁴⁵⁾がみられることから、京焼風陶器と考えられる。肥前系であり、17 世紀後半のものと考えられる。1854 は、白磁の碗である。口縁端部は外側へと膨らみ肥厚している。福建省系であり、山本編年 C 期の 11 世紀後半～12 世紀前半のものと考えられる。

SD 52001 (第 IV-48 図)

1855 は、縄文土器の深鉢である。体部の破片で、外面には条線が施されている。縄文時代中期末以降のものと考えられる。1856～1860 は、土師器の皿である。1857・1860 は、器厚が薄いもので、南伊勢系の可能性がある。1858 は碗に近い形状のもの、



第 IV-48 図 出土遺物実測図 48(1:4, 1855 は 1:3, 1886 は 1:2)

1859 は平底のもので外面に糸切痕が残る。1861・1862 は、土師器の鍋である。口縁端部の粘土は内側に折り返されて肥厚する。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅱb期の13世紀後半～14世紀前半のものと考えられる。1863 は、土師器の甕の可能性ある。口縁端部に向かってやや内湾してのび、端部は内側に小さく肥厚する。1864・1865 は、瓦器の碗である。炭素の吸着が不十分で黄灰色となっている。外面にはユビオサエの指頭痕跡が残り、内外面にミガキや暗文は施されていない。紀伊型のもので、北野編年Ⅳ期の14世紀前半までのものと考えられる。1866 は、瓦質土器の羽釜である。口縁端部は内側に屈曲して丸く収められている。内面は工具ナデで調整されている。

1867～1876 は、陶器の山茶碗である。尾張型または渥美湖西型のものともみられる。12世紀後半～13世紀前半のものと考えられる。1877～1879 は、陶器の山皿である。1879 は、渥美湖西型2a型式の12世紀後半のものと考えられる。1880 は、陶器の碗である。瀬戸・美濃製品の小碗であり、登窯第3段階第8段階～第9段階の18世紀後半～19世紀前半のものと考えられる。1881 は、陶器の壺であ

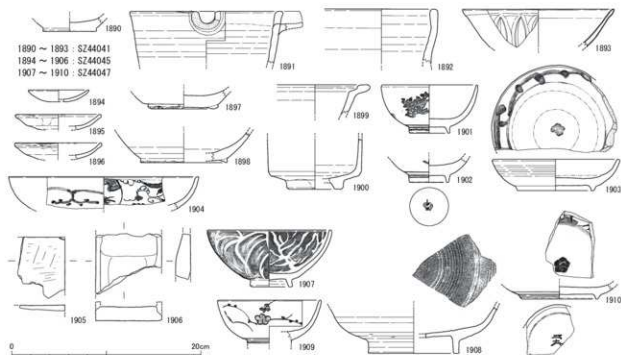
る。外面は工具ナデで調整されている。常滑製品の可能性がある。1882 は、陶器の鉢である。渥美製品であり、渥美2b型式の12世紀末前後～13世紀前半のものと考えられる。1883 は、磁器の碗である。外面には染付で菊花文と格子文が描かれている。肥前系の筒形碗であり、18世紀後半～19世紀前半のものと考えられる。1884 は、青磁の碗である。外面には錦蓮弁文が施されている。龍泉窯系であり、山本編年E期の13世紀前半のものと考えられる。1885 は、滑石製の石鍋である。口縁部の長さが短く、鐙状の部分の突出も短い。内外面ともに鑿による加工痕と線状痕が残る。また、口縁部以外の側面には打ち欠かれた痕跡があることから、二次加工して再利用された可能性がある⁽⁴⁶⁾。1886 は、銅製の銭貨である。6枚が重なって出土したもので、表面に出ているものは「元豊通寶」である。

SD 52004 (第Ⅳ-48 図)

1887 は、陶器の甕または壺である。渥美製品の13世紀代のものと考えられる。

SD 70009 (第Ⅳ-48 図)

1888 は、土師器の皿である。平底のものである。1889 は、土鉢である。外面はナデで調整されている。



第Ⅳ-49 図 出土遺物実測図 49(1:4)

第5節 その他遺構出土遺物

S Z 44041 (第IV-49 図)

1890 は、陶器の山皿である。渥美湖西型 2 b 型の 13 世紀前半のものと考えられる。1891 は、陶器の片口鉢である。口縁部に向かって直線的にのび、端部には片口が付く。瀬戸・美濃製品であり、登窯第 1 段階第 3 小期の 17 世紀中頃前後のものと考えられる。1892 は、陶器の壺の可能性があり。口縁部はほぼ直線的にのびるが、端部の手前で内湾ぎみになり、端部は丸く収められている。1893 は、青磁の碗である。口縁部は外反しながら直線的にのび、端部は丸く収められている。外面には錦蓮弁文が施されている。龍泉窯系であり、山本編年 E 期の 13 世紀初頭前後～前半のものと考えられる。

S Z 44045 (第IV-49 図)

1894～1896 は、土師器の皿である。内面と口縁部には透明釉が掛かり、端部には煤が付着している。大坂系であり、横山編年 10 段階以降の 18 世紀中頃以降のものと考えられる。1897・1898 は、陶器の山茶碗である。高台に枳殻痕が残るもので、13 世紀中頃前後～後半のものと考えられる。1899 は、陶器の皿である。瀬戸・美濃製品の折縁皿であり、古瀬戸中期様式 IV 期の 14 世紀中頃前後のものと考えられる。1900 は、陶器の碗である。筒形のもので、瀬戸・美濃製品の可能性がある。1901・1902 は、磁器の碗である。いずれも外面には染付で文様などが描かれており、1901 にはコンニャク印判の草花文、1902 の底部の見込みにはいわゆる渦福の「福」が記されている。肥前系であり、18 世紀前半～中頃のものと考えられる。1903・1904 は、磁器の皿である。内外面には染付で文様が描かれており、1903 の内面には雲文、1904 の外面には唐草文と内面には草木文がある。肥前系であり、18 世紀前半～中頃のものと考えられる。1905 は、砥石である。表面には線状の擦痕がある。1906 は、石製の碗である。

S Z 44047 (第IV-49 図)

1907 は、陶器の碗である。内外面には、白土を掛けた斑状の文様がある。肥前系とみられ、18 世紀以降のものと考えられる。1908 は、陶器の皿で

ある。高台が長くのびたもので、底部内面にはカキメ状の条線が施されている。肥前系の可能性がある。1909 は、磁器の碗である。外面には染付で梅枝文が描かれている。肥前系とみられ、18 世紀前半～中頃のものと考えられる。1910 は、磁器の皿である。内面の見込みにはコンニャク印判の五弁花文、底部外面の見込みには文字がみられる。肥前系とみられ、18 世紀前半～中頃のものと考えられる。

J - G 21 Pit 7 (第IV-50 図)

1911 は、灰釉陶器の碗である。高台は「ハ」の字状に開いてのび、端部は丸く収められている。高台の外面には工具痕の可能性がある沈線状の窪みがある。百代寺窯式期の 11 世紀前半～後半のものと考えられる。

J - H 18 Pit 4 (第IV-50 図)

1912 は、土師器の皿である。大型のもので、口縁部内外面はヨコナデ、底部外面にはナデ及びユビオサエで調整されている。外面には粘土紐の痕跡が残る。

J - K 14 Pit 2 (第IV-50 図)

1913 は、鉄製の釘の可能性がある。

J - K 20 Pit 2 (第IV-50 図)

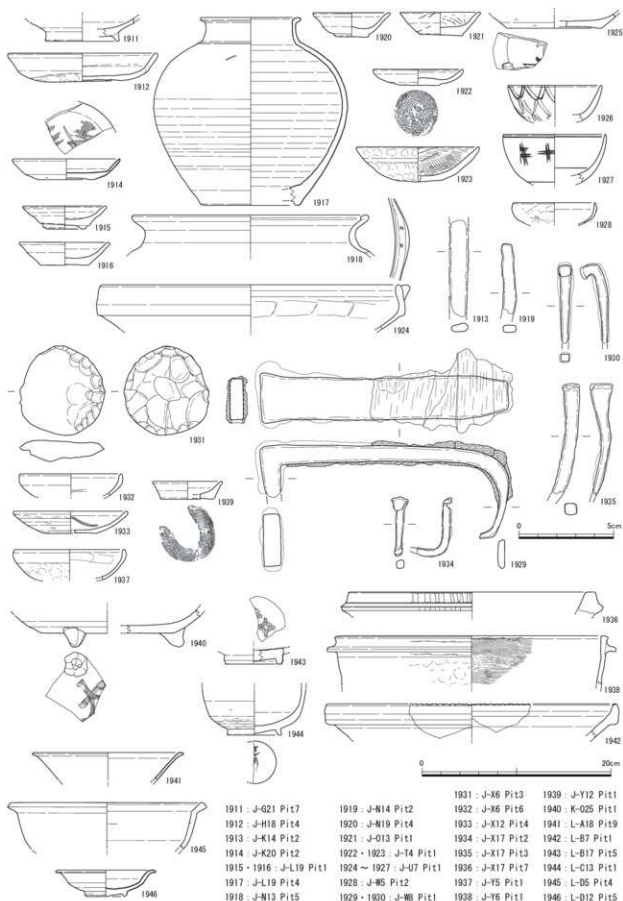
1914 は、青磁の皿である。底部内面の見込みには、細篋の面線と櫛による条線で模様が施されている。条線は点綴文の可能性がある。同安窯系であり、山本編年 D 期の 12 世紀中頃～後半のものと考えられる。

J - L 19 Pit 1 (第IV-50 図)

1915・1916 は、陶器の山皿である。1916 は平底のものである。1915 は渥美湖西型 1 c 型式、1916 は渥美湖西型 2 b 型式で、12 世紀中頃～13 世紀前半のものと考えられる。

J - L 19 Pit 4 (第IV-50 図)

1917 は、陶器の壺である。図は、複数の破片を復元的に図化したものである。口縁部は外側へ屈曲して端部は丸く収められている。体部の肩にはヘラ状工具による文様が描かれていると考えられる。内外面にはオリブ色の釉が掛かり、全体の器厚が薄い。外国産の陶器とみられるが、産地は不明である。



第IV-50図 出土遺物実測図 50(1:4, 1913, 1919, 1929～1931, 1934, 1935は1:2)

J-N 13 Pit 5 (第IV-50図)

1918は、土師器の鍋である。口縁端部は粘土が内側へ折り返されて肥厚する。南伊勢系であり、伊藤編年中世I b期の12世紀後半のものと考えられる。

J-N 14 Pit 2 (第IV-50図)

1919は、鉄製の釘である。頂部の可能性がある。

J-N 19 Pit 4 (第IV-50図)

1920は、陶器の皿である。平底で、底部外面の立ち上がりとの境には段がある。渥美湖西型2 a型式の12世紀後半のものと考えられる。

J-O 13 Pit 1 (第IV-50図)

1921は、陶器の皿である。渥美湖西型2 a型式の12世紀後半のものと考えられる。

J-T 4 Pit 1 (第IV-50図)

1922・1923は、土師器の皿である。1922は小型のもので、底部外面には糸切痕が残る。大坂系であり、横山編年10段階以降の18世紀中頃以降のものと考えられる。1923は、内面に工具ナデが施されており、ハケメ状の条線が顕著に残る。外面にはユビオサエによる指頭圧痕がみられる。

J-U 7 Pit 1 (第IV-50図)

1924は、土師器の焙烙である。口縁端部を外側へ拡張して平坦面を作り、平坦面には2つの孔が穿かれている。孔は貫通せず途中で止まっている。大坂系であり、横山編年9段階の18世紀中頃前後のものと考えられる。1925は、陶器の土瓶または行平鍋の可能性がある。外面には足の痕跡が残る、底部には墨書で記されたの文字の一部がある。瀬戸・美濃製品であろうか。1926・1927は、磁器の碗である。いずれも外面に染付で文様が描かれており、1926は三段の網目文、1927は井桁文がある。肥前系であり、17世紀後半～18世紀前半のものと考えられる。

J-W 5 Pit 2 (第IV-50図)

1928は、土師器の皿である。南伊勢系であり、器厚が薄いもので、外面はナデ及びユビオサエで調整されている。

J-W 8 Pit 1 (第IV-50図)

1929は、鉄製の鋸である。表面には、木質とみられる有機物が付着している。1930は、鉄製の釘

である。頂部が折れ曲がっていることから折釘と考えられる。

J-X 6 Pit 3 (第IV-50図)

1931は、石製の円盤状製品である。端部を細かく打ち欠かいて円形に加工されており尖っている。片面には一部に自然面が残る。材質は泥岩系のもので考えられる。現状で類例が見当たらないため、どのように使われたものか不明だが、削器のようなものである可能性が考えられる⁽⁴⁷⁾。

J-X 6 Pit 6 (第IV-50図)

1932は、土師器の皿である。椀に近い形状のもので、内面は工具ナデで調整されている。

J-X 12 Pit 4 (第IV-50図)

1933は、陶器の皿である。内面には櫛による条線がある。瀬戸・美濃製品であり、大塚第1段階後半の16世紀前半のものと考えられる。

J-X 17 Pit 2 (第IV-50図)

1934は、鉄製の釘である。頂部の形状から、頭巻釘の可能性がある。

J-X 17 Pit 3 (第IV-50図)

1935は、鉄製の釘である。先端と頂部の一部が欠損している。

J-X 17 Pit 7 (第IV-50図)

1936は、滑石製の石鍋である。口縁部から鈎までが辛うじて残る。口縁部の立ち上がりが短く、鈎の断面形状は崩れた台形状で突出が小さい。外面には細かな鑿による加工痕がある。木戸編年Ⅲ類-dの15世紀後半のものと考えられ、肥前西彼半島産の可能性がある⁽⁴⁸⁾。

J-Y 5 Pit 1 (第IV-50図)

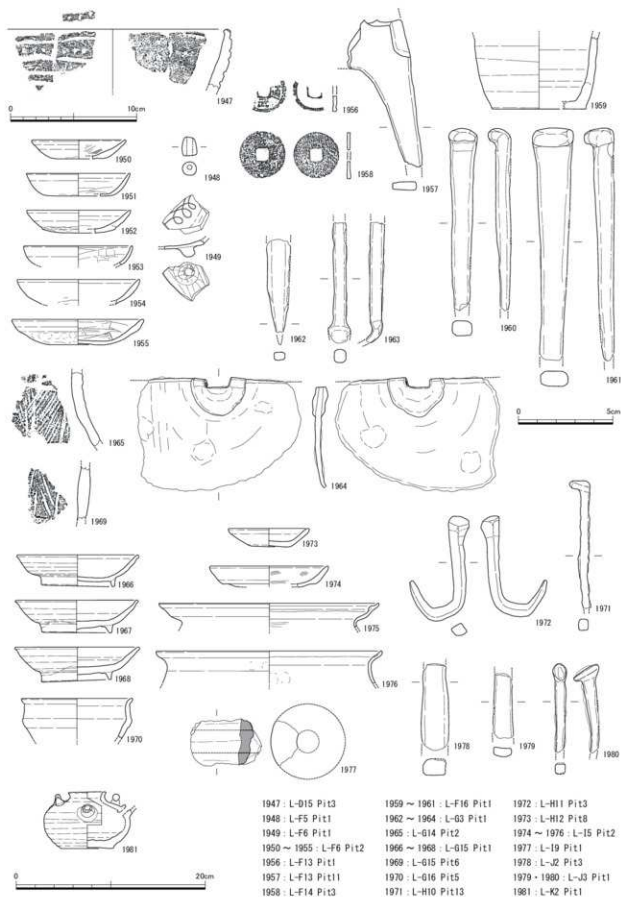
1937は、土師器の皿である。椀に近い形状のもので、内面は工具ナデにより調整されている。

J-Y 6 Pit 1 (第IV-50図)

1938は、土師器の羽釜である。口縁部は短く、端部はやや外傾する面を持つ。鈎は口縁端部のほぼ直下に付く。外面にはユビオサエの指頭圧痕と粘土紐の接合痕が残る、内面はハケメで調整されている。

J-Y 12 Pit 1 (第IV-50図)

1939は、土師器の皿である。底部外面には糸切痕が残る。



第IV-51図 出土遺物実測図 51(1:4, 1947, 1965, 1969 は 1:3、1956 ~ 1958, 1960 ~ 1964, 1971, 1972 は 1:2)

K-O 25 Pit 1 (第IV-50 図)

1940 は、陶器の皿である。三方に足が付くものと考えられる。底部外面には墨書で「大カ」とみられる文字がある。瀬戸・美濃製品であり、古瀬戸後様式期の 14 世紀代のもと考えられる。

L-A 18 Pit 9 (第IV-50 図)

1941 は、白磁の碗である。口縁部は外側へ屈折して、端部は丸く収められている。福建省系であり、山本編年C期の 11 世紀後半～12 世紀前半のもと考えられる。

L-B 7 Pit 1 (第IV-50 図)

1942 は、須恵器の鉢である。口縁端部は波状に加工されている。東播系須恵器であり、佐藤編年III-3 類の 13 世紀後半～14 世紀前半のもと考えられる。

L-B 17 Pit 5 (第IV-50 図)

1943 は、青磁の碗である。内面の見込みには花文の陰刻がある。龍泉窯系であり、山本編年E期の 13 世紀前半のもと考えられる。

L-C 13 Pit 1 (第IV-50 図)

1944 は、陶器の鉢である。体部の下部は露胎となり、底部外面の見込みには墨書の文字がある。瀬戸・美濃製品であり、登窯第 1 段階 4 小期～第 2 段階 5 小期の 17 世紀後半のもと考えられる。

L-D 5 Pit 4 (第IV-50 図)

1945 は、瓦質土器の焙烙である。口縁部は外反して、端部は外傾面をもつ。

L-D 12 Pit 5 (第IV-50 図)

1946 は、白磁の皿である。口縁部は大きく外反し、高台は逆台形状を呈する。陶器質に近い仕上がりで、胎土には微細な黒色粒を含む。広東省系の可能性があり、山本編年C期の 11 世紀後半～12 世紀前半のものであろうか。

L-D 15 Pit 3 (第IV-51 図)

1947 は、縄文土器の深鉢である。外面には多重沈線が施され、沈線間に刺突が充填されており、口縁端部の上端にも刺突がめぐる。縄文時代後期前半のもと考えられる。

L-F 5 Pit 1 (第IV-51 図)

1948 は、土鍾である。外面はナデにより調整されている。

L-F 6 Pit 1 (第IV-51 図)

1949 は、瓦器の香炉とみられる脚部である⁽⁴⁹⁾。外面には工具ナデ及びナデ、内面には連結輪状の暗文が施されている。

L-F 6 Pit 2 (第IV-51 図)

1950～1955 は、土師器の皿である。1950～1953・1955 の内面には、工具ナデが施されている。1953 は、全体的に器厚が薄いもので、南伊勢系と考えられる。

L-F 13 Pit 1 (第IV-51 図)

1956 は、銭貨の「洪武通寶」とみられる破片である。「通」と「武」のみが残る。

L-F 13 Pit 11 (第IV-51 図)

1957 は、鉄製の鎌の破片である。刃部の大部分と柄部の先端が欠損している。

L-F 14 Pit 3 (第IV-51 図)

1958 は、銭貨である。完形だが、表面が摩耗しており文字が判別できない。

L-F 16 Pit 1 (第IV-51 図)

1959 は、須恵器の壺である。内外面ともにクロコナデが施されており、底部外面はヘラ切り後にナデで調整されている。平安時代のものの可能性がある。1960・1961 は、鉄製の釘である。いずれも先端が欠損している。頂部が折れ曲がっていることから折釘と考えられる。

L-G 3 Pit 1 (第IV-51 図)

1962 は、鉄製の釘である。頂部が欠損している。1963 は、鉄製の鉋の可能性のあるものである。先端が欠損しているため刃先の状態は不明である。1964 は、鉄製の用途不明製品である。板状のもので、弧状に曲がっている。破片の側面にソケット状に差し込む穴があり、本体とは別に鉄のパーツと接続する構造のもと考えられる。

L-G 14 Pit 2 (第IV-51 図)

1965 は、縄文土器の深鉢である。頸部付近の破片とみられ、沈線間に条線が羽状に施されたものである。縄文時代中期末～後期前半のもと考えられる。

L-G 15 Pit 1 (第IV-51 図)

1966～1968 は、陶器の皿である。いずれも瀬戸・美濃製品の輪壳皿であり、登窯第 2 段階 6 小期の

18世紀前半のものと考えられる。

L-G 15 Pit 6 (第IV-51図)

1969は、縄文土器の深鉢である。外面には沈線が施されており、沈線間に沈線を充填した文様の可能性がある。縄文時代中期末～後期前半のものと考えられる。

L-G 16 Pit 5 (第IV-51図)

1970は、陶器の天目茶碗である。内外面には白色の釉が掛っている。瀬戸・美濃製品の白天目であり、登窯第1段階第2小期～第3小期の17世紀前半～中頃前後のものと考えられる。

L-H 10 Pit 13 (第IV-51図)

1971は、鉄製の釘である。断面形状は方形で、頂部が折り曲げられた、折釘と考えられる。

L-H 11 Pit 3 (第IV-51図)

1972は、鉄製の釘の可能性ある。断面形状は菱形に近い形状をしている。

L-H 12 Pit 8 (第IV-51図)

1973は、陶器の山皿である。底部から緩やかに屈曲し、口縁端部に向かって直線的に延びている。口縁端部には自然釉が掛る。渥美湖西型第2b型式の13世紀前半のものと考えられる。

L-I 5 Pit 2 (第IV-51図)

1974は、土師器の皿である。口縁部に向かって外反しながら直線的にのび、端部は丸く収められている。内面は工具ナデで調整されている。1975・1976は、土師器の鍋である。いずれも南伊勢系である。1975は、口縁端部からやや下がった内面に断面三角形の影を持つものである。伊藤編年中世Ⅲb期の14世紀末～15世紀前半のものと考えられる。1976の口縁端部は、粘土が内側に折り返されて肥厚する。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅱb期の13世紀後半～14世紀前半のものと考えられる。

L-I 9 Pit 1 (第IV-51図)

1977は、土製の轆轤口である。両端ともに欠損しているが、片側には強い被熱痕があることから、轆轤の先端に近い部分の破片と考えられる。

L-J 2 Pit 3 (第IV-51図)

1978は、鉄製の釘である。断面形状は方形である。

L-J 3 Pit 1 (第IV-51図)

1979は、鉄製の釘である。断面形状は方形である。1980は、鉄製の鉾の可能性ある。先端は欠損しており、断面形状は方形である。

L-K 2 Pit 1 (第IV-51図)

1981は、陶器の水注である。耳と注口が付く。瀬戸・美濃製品であり、大窯第4段階後半～末の17世紀初頭前後のものと考えられる。

L-K 13 Pit 1 (第IV-52図)

1982は、磁器の人形である。頭部が欠損したもので、型押し成形されたものである。

L-N 14 Pit 1 (第IV-52図)

1983は、灰釉陶器の碗とみられる。高台は断面逆三角形のものが付く。百代寺窯式期の11世紀前半～後半のものであろうか。

L-Q 10 Pit 2 (第IV-52図)

1984は、鉄製の釘である。先端は屈曲して全体の形がL字状になっている。

L-R 7 Pit 7 (第IV-52図)

1985は、鉄製の片刃状製品である。先端が刃物状になるものと考えられる。片刃がある鉄鐙の可能性も考えられる。

L-S 6 Pit 1 (第IV-52図)

1986は、土師器の皿である。底部には糸切痕が残る。内面全体と口縁部外面には透明釉が掛っており、底部内面の見込みには四角に囲われた中に「割口合」の文字を配した印刻がある。大坂系であり、積山編年10段階以降の18世紀中頃以降のものと考えられる。

L-T 5 Pit 4 (第IV-52図)

1987は、石製の礪目である。上面に礪目、下面が平坦面になることから下臼と考えられ、中央には芯棒を挿し込む円孔がある。上面の一部が欠損しているが、残存する主溝と副溝の単位から、礪目は全体が8分割で配されたものと考えられる。

L-T 10 Pit 1 (第IV-52図)

1988は、土師器の皿である。器厚が薄く、内面は工具ナデで調整されている。南伊勢系と考えられる。

L-U 5 Pit 10 (第IV-52図)

1989は、陶器の皿である。口縁部は外反し、内外面には緑色系の釉が掛かる。瀬戸・美濃製品であ

り、古瀬戸様式期のものと考えられる。

L-U6 Pit 7 (第IV-52図)

1990は、陶器の皿である。瀬戸・美濃製品の小型丸皿で、底部外面には輪トチの痕が残る。大窯第4段階の16世紀末前後～17世紀前半のものと考えられる。

L-V5 Pit 5 (第IV-52図)

1991は、陶器の皿である。内外面全体に灰白色の釉が掛ったもので、瀬戸・美濃製品の志野皿と考えられる。登窯第1段階の17世紀代のものと考えられる。

L-V6 Pit 8 (第IV-52図)

1992は、陶器の皿である。胎土や釉の色調から肥前系のものと考えられる。

L-W18 Pit 4 (第IV-52図)

1993は、青磁の皿である。内面には、櫛による条線の文様が施されている。同安窯系であり、山本編年D期の12世紀中頃～後半のものと考えられる。

攪乱 (第IV-52図)

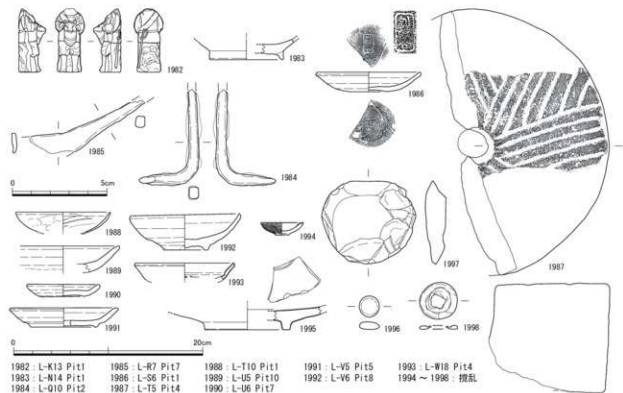
1994は、磁器の紅小皿である。口縁端部は幅広いの面を持ち、1箇所片口状に窪む。外面は貝殻状に型押しされており、釉は内面全体と口縁部外面に掛かる。肥前系のもので、18世紀末前後～19世紀前半のものと考えられる。1995は、青磁の皿である。高台は直線的にのびている。釉の色調や胎土から国産のものと考えられる。1996は、碁石である。材質は泥岩系のもので、表面は平滑である。1997は、石製の円盤状製品である。端部は細かく打ち欠かれて円形に加工されており尖っている。片面には、未加工の自然面が残るが、端部のみ加工が及んでいる。材質は泥岩系のものと考えられる。現状で類別が見当たらないため、どのように使われたものか不明だが、削り器のような使用の可能性が考えられる⁽⁵⁸⁾。1998は、銅製の雁首銭である。煙管の火皿部分を潰して平らにしたものと考えられる。

第6節 表土・包含層等出土遺物

包含層 (第IV-53図)

1999は、陶器の香炉である。三足の脚が付くも

ので、口縁端部は内側へ突出して内傾する。瀬戸・美濃製品の筒形香炉であり、18世紀代のものと考



第IV-52図 出土遺物実測図 52(1:4、1984、1985、1997、1998は1:2)

えられる。2000 は、白磁の壺を転用して作られた加工円盤である。高台に沿って打ち欠かれて円形に加工されている。2001 は、銅製の銭貨「洪武通寶」である。

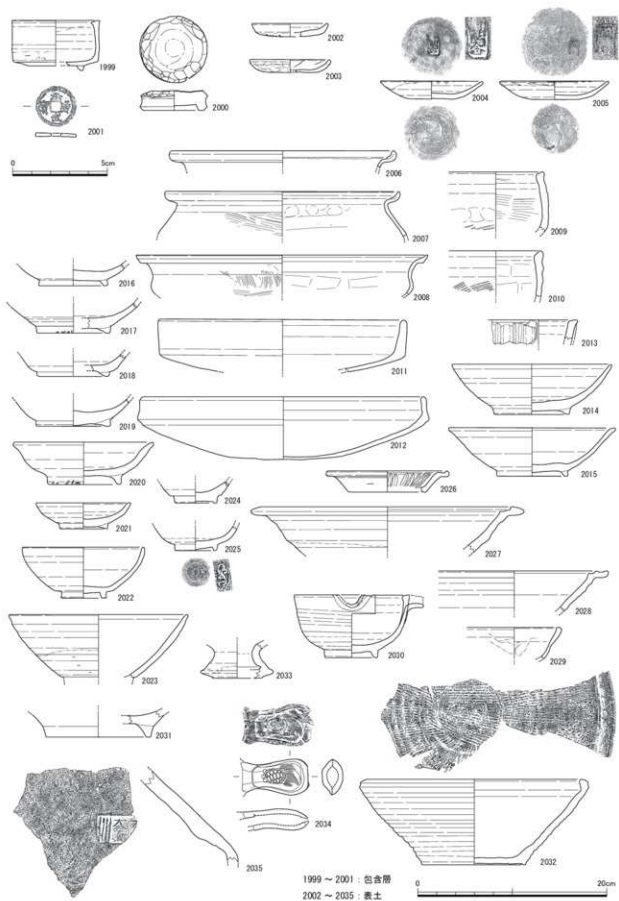
表土 (Ⅳ -53, 54 図)

2002 ～ 2005 は、土師器の皿である。2002 は、底部外面には木目状の凹凸痕が残る。2003 の外面にはユビオサエによる指頭圧痕と粘土紐の接合痕が残る、内面は工具ナデで調整されている。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅲ b 期の 14 世紀末前後～ 15 世紀前半のものと考えられる。2004・2005 の底部には糸切痕が残る、内面と口縁端部外面には透明釉が施され、口縁端部には煤が附着している。いずれも内面の見込みには方形の枠中に文字を配した印刻があり、2004 には「口請合」の文字がみえる。大坂系であり、積山編年 10 段階～ 12 段階の 18 世紀代のものと考えられる。

2006 ～ 2012 は、土師器の鍋または焙烙である。2006 ～ 2008 は南伊勢系、2009 ～ 2012 は播磨型または大坂系のものである。2006・2007 は、口縁端部の粘土が内側に折り返されて肥厚している。伊藤編年中世Ⅱ b 期の 13 世紀後半～ 14 世紀前半のものと考えられる。2008 の口縁端部は外反し、端部は外側へと引き出されている。外面はハケメ、内面は工具ナデで調整されている。伊藤編年近世Ⅱ a 期の 18 世紀前半のものと考えられる。2009・2010 は播磨型のものである。端部に内傾面を持ち、外面は平行タタキ、内面は工具ナデで調整されている。長谷川編年Ⅶ期の 16 世紀後半～ 17 世紀前半のものと考えられる。2011・2012 は大坂系のものである。2011 の口縁部は直立ぎみにのび、端部は丸く収められている。外面の口縁部と底部の境は明瞭に突出している。積山編年 12 段階以降の 18 世紀末前後～ 19 世紀前半のものと考えられる。2012 は、口縁部と体部との境にケズリが施されている。外面には砂の付着がみられることから、型押しされたものとみられる。積山編年 12 段階の 18 世紀末前後のものと考えられる。2013 は、瓦質土器の風炉である。口縁部の破片で、外面にはキザミ状の凹凸がめぐる。大和系であり、14 世紀後半～ 15 世紀前半のものと考えられる⁽⁵¹⁾。

2014 ～ 2020 は、陶器の山茶碗である。2014・2015・2017・2020 は尾張型で、2020 は、口縁部がやや外反するもので、高台には粉殻痕が残る。尾張型第 4 型式の 12 世紀中頃～後半のものと考えられる。2016・2018・2019 は瀬美湖西型とみられる。いずれも 12 世紀中頃～ 13 世紀前半にかけてのものと考えられる。2021 は、陶器の山皿である。口縁部が内湾ぎみにのびるもので、高台の形状は逆三角形を呈する。東濃型の 12 世紀中頃～後半のものと考えられる。2022・2023 は陶器の碗である。2022 は、瀬戸・美濃製品の丸碗で、登窯第 3 段階第 8 小期の 18 世紀後半のものと考えられる。2023 は、瀬戸・美濃製品の平碗で、古瀬戸後期様式Ⅱ期～Ⅲ期の 14 世紀末前後～ 15 世紀前半のものと考えられる。2024 は、陶器の天目茶碗である。2025 は、底部外面の見込みに崩れた字体で「清水」の印刻があることから、肥前系の京焼風陶器と考えられる⁽⁵²⁾。17 世紀後半頃のものと考えられる。2026 ～ 2028 は、陶器の皿である。2026 の内面には、削ぎによる花卉が施されている。瀬戸・美濃製品の折縁皿であり、大塚第 4 段階後半～末の 16 世紀末～ 17 世紀初頭前後のものと考えられる。2027・2028 は、瀬戸・美濃製品の折縁深皿であり、2027 は古瀬戸中期様式Ⅳ期の 14 世紀中頃前後のもの、2028 は古瀬戸後期様式Ⅰ期の 14 世紀後半のものと考えられる。2029 は、陶器の卸皿とみられる。口縁端部は内側に引き出されて突出している。瀬戸・美濃製品であり、古瀬戸中期様式Ⅱ期の 15 世紀初頭前後のものと考えられる。

2030 は、陶器の片口鉢である。瀬戸・美濃製品であり、登窯期の 18 世紀中頃前後のものと考えられる。2031 は、陶器の鉢である。常滑製品であり、常滑第 1 段階 4 型式の 12 世紀末前後～ 13 世紀前半のものと考えられる。2032 は、陶器の権鉢である。口縁部は内側に折り曲げられ、端部は丸く収められている。2033 は、陶器の花皿である。外面には釉が掛かり、内面は露胎となる。瀬戸・美濃製品であり、古瀬戸後期様式期の 14 世紀後半～ 15 世紀後半のものと考えられる。2034 は、陶器の把手である。中空で先端が穿孔されており、上面には亀の文様がみられる。型押し成形されたものと考えられる。行



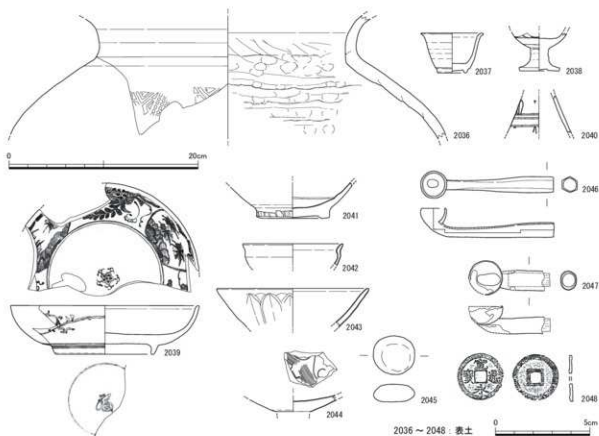
第IV-53図 出土遺物実測図 53(1:4、2001は1:2)

平鍋の把手の可能性があり、18世紀後半～19世紀前半の再興伊賀期の製品である可能性が考えられる⁽⁵³⁾。2035・2036は、陶器の甕である。2025は外面に「大」の文字を意匠した押印⁽⁵⁴⁾がある。2036には格子状と幾何学的な形状の押印⁽⁵⁵⁾があり、内面は成形時のユビオサエによる指頭圧痕と粘土紐の接合痕が顕著に残る。いずれも常滑製品であり、常滑第1段階の12世紀前半～13世紀初頭前後のものと考えられる。

2037は、磁器の小杯である。肥前系であり、17世紀中頃～18世紀前半のものと考えられる。2038は、磁器の仏蘭具である。外面には染付で文様などが描かれている。肥前系であり、17世紀末～19世紀中頃のものと考えられる。2039は、磁器の皿である。内外面には染付で文様が描かれている。外面には唐草文、内面には草花文、底部内面の見込みには五弁花文、底部外面の見込みにいわゆる渦福の「福」の文字がある。肥前系であり、17世紀後半～18世紀後半のものと考えられる。2040は、磁

器の瓶である。外面には染付で網目文が描かれている。肥前系とみられる。2041は、白磁の碗である。内面には墨線がめぐり、高台外面には細かな単位でケズり出された痕跡が残る。山本編年F期～G期の14世紀代のものと考えられる。2042・2043は、青磁の碗である。2042の口縁部は外反して端部は丸く収められている。釉の色調や胎土から国産のものと考えられる。2043の外面には竊蓮弁文が施されている。龍泉窯系であり、山本編年D期～E期の13世紀代のものと考えられる。2044は、青磁の皿である。内面には櫛による条線と刻劃文の一部がみられる。龍泉窯系であり、山本編年D期の12世紀中頃～後半のものと考えられる。

2045は、碁石である。2046・2047は、銅製の煙管である。2046は雁首の部分で小口の形状は断面六角形である。19世紀代のものと考えられる⁽⁵⁶⁾。2047は、雁首の破片であり、表面には緑青が付着し木棒が刺さった状態に残っている。2048は、銭貨の「寛永通寶」である。(渡辺和仁)



第IV-54図 出土遺物実測図 54(1:4、2046～2048は1:2)

【註】

- (1) 佐藤竜馬 1994 「⑤ 18～19 世紀の土器・瓦について」『空港跡地遺跡発掘調査概報 平成5年度』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター、佐藤竜馬・濱野主司 1995 「近世遺跡における土器生産」『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要』Ⅲ 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
- (2) 津野 仁 1990 「古代・中世の鉄鏡」『物質文化』考古学民俗学研究 54 物質文化研究会
- (3) 安井俊則・中野晴久 2012 「第4章特論 第1節押印・刻文」『愛知県史』別編 中世・近世 常滑系 愛知県
- (4) 用途については、推測の域を出ないが、手のひらに収まるサイズの大きさで、端部が尖っていることから、モノを削いたり切ったりするための道具であった可能性を指摘しておきたい。
- (5) 和歌山市の紀ノ川と貴志川が合流する地点の周辺で滑石の産出が知られている。また、紀ノ川南岸にある奥山田遺跡からは滑石製の磁石や石鍋の未製品が出土していることから、紀ノ川流域においても滑石製石鍋の生産地を指摘する意見がある（河内浩一 1991 『和歌山県下における石鍋について』『近世土器の基礎研究』Ⅶ 日本中世土器研究会、前田敬彦 1992 「9. 奥山田遺跡 第3次」『和歌山県埋蔵文化財発掘調査年報』1 財団法人和歌山市文化体育振興事業団）。その可能性を排除することはできないが、現状においては紀ノ川流域での滑石製石鍋の生産が明確に示された状況でないことから、本遺跡の出土資料については、長崎県西彼杵半島の可能性を示しておきたい。
- (6) 新田和史 2022 「第6章 瓦質土器（火鉢・風炉）」『新版 中世土器・陶磁器』真陽社
- (7) 小川 望 2001 『厨房具 2 火消役』『図説 江戸考古学研究事典』柏書房株式会社
- (8) 公益財団法人和歌山県文化財センター 2021 『和歌山城跡』
- (9) 佐藤聖聖氏からのご教示による。
- (10) 前掲註 (2) に同じ。
- (11) 調査指導を受けた佐藤聖聖氏からのご教示による。当該品はカマドの上部であり、時期は中世の中で捉えられるという。
- (12) 前掲註 (4) に同じ。
- (13) 前掲註 (4) に同じ。
- (14) 古泉 弘 2021 「喫煙 1 煙管」『図説 江戸考古学研究事典』柏書房株式会社
- (15) 前掲註 (9) に同じ。
- (16) 前掲註 (5) に同じ。
- (17) 前掲註 (4) に同じ。
- (18) 前掲註 (4) に同じ。
- (19) 三重県埋蔵文化財センター 1997 『安濃津』
- (20) 前掲註 (4) に同じ。
- (21) 前掲註 (4) に同じ。
- (22) 小川 望 2001 『灯火具 3 東鑑』『図説 江戸考古学研究事典』柏書房株式会社
- (23) 前掲註 (22) に同じ。
- (24) 小川 望 2001 「火具 3 燈炉と付属品」『厨房具 1 燈炉』『図説 江戸考古学研究事典』柏書房株式会社
- (25) 大橋康二 1983 『鍋島藩窯跡出土の京焼風陶器（上）－印銘を中心として－』『セラミック九州 佐賀県立九州陶磁文化館報』No. 7 佐賀県立九州陶磁文化館、大橋康二 1989 『肥前陶磁』考古学ライブラリー 55 ニューサイエンス社、角谷津子 2016 「第3章 肥前京焼陶器と京焼」『近世京焼の考古学的研究』鎌山閣
- (26) 福島県教育委員会 1989 『国営清戸川農業水利事業遺跡発掘調査報告 中平遺跡、間坂遺跡、1989 「祖馬藩における近世農業

- 生産の展開」『東北大学埋蔵文化財調査年報』10 東北大学埋蔵文化財調査研究センター、成瀬寛司 2001 『大坂相馬』『図説 江戸考古学研究事典』柏書房株式会社
- (27) 中野晴久 2005 「常滑・瀬美」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』発表要旨集 全国シンポジウム「中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～」実行委員会
 - (28) 大橋康二 1989 『肥前陶磁』考古学ライブラリー 55 ニューサイエンス社
 - (29) 續神一郎 1995 「11. 貿易陶磁器 [3] 中世後期の貿易陶磁器」『概説中世の土器・陶磁器』真陽社
 - (30) 前掲註 (5) に同じ。
 - (31) 前掲註 (4) に同じ。
 - (32) 吉成承三 2007 「四国の土製釜・羽釜、鍋－古代末から中世の土製炊具の様相－」『中近世土器の基礎研究』21 日本中世土器研究会
 - (33) 佐藤聖聖氏からのご教示による。
 - (34) 長谷部崇樹・今井 敦 1995 「日本出土の中国陶磁」中国の陶磁② 平凡社、新宮市教育委員会・公益財団法人和歌山県文化財センター 2021 『新宮城下町遺跡』、新宮市教育委員会 2022 『新宮下町遺跡総合調査報告書』
 - (35) 前掲註 (25) に同じ。
 - (36) 兵庫県教育委員会 1992 『下相野竈址』、長谷川真 2005 「丹波」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』資料集 全国シンポジウム「中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～」実行委員会、田中昭久・木村孝一郎 2005 「越前篇」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』資料集 全国シンポジウム「中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～」実行委員会
 - (37) 前掲註 (5) に同じ。
 - (38) 前掲註 (4) に同じ。
 - (39) 前掲註 (2) に同じ。
 - (40) 笹間良彦 1981 『図録日本の甲冑武器辞典』柏書房株式会社、小川 望 2001 『武器・武具 1 甲冑・具足』『図説 江戸考古学研究事典』柏書房株式会社
 - (41) 佐藤聖聖氏からのご教示による。
 - (42) 前掲註 (41) に同じ。
 - (43) 前掲註 (5) に同じ。
 - (44) 当該の青磁器台は、北島氏館跡第1次調査と第8次調査で出土している。美杉村教育委員会 1997 「多気北島氏遺跡発掘調査報告－北島氏館跡1－」、美杉村教育委員会 2002 「多気北島氏遺跡発掘調査報告－北島氏館跡5－」、美杉村教育委員会 2005 「北島氏館跡9－多気北島氏遺跡第26次調査、北島氏館跡総括編－」
 - (45) 前掲註 (25) に同じ。
 - (46) 前掲註 (5) に同じ。
 - (47) 前掲註 (4) に同じ。
 - (48) 前掲註 (5) に同じ。
 - (49) 前掲註 (41) に同じ。
 - (50) 前掲註 (4) に同じ。
 - (51) 前掲註 (25) に同じ。
 - (52) 前掲註 (25) に同じ。
 - (53) 金子智子・前川嘉宏・竹内英昭 1999 「阿山丸柱所在の弥生期築路について」『研究紀要』第8号－創立10周年記念論文集－三重県埋蔵文化財センター
 - (54) 前掲註 (3) に同じ。
 - (55) 前掲註 (3) に同じ。
 - (56) 前掲註 (14) に同じ。

報告 №	実施 期	種別	産地	グロット	報告者 氏名	調査時 間	口徑 (cm)	器高 (cm)	器径 (cm)	備考	調査・論文・図表等	色調	特記事項
0001	042-05 2次	土師器	黒	I-F10	S820011 P114	S82011 P114	—	—	—	口縁部 外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	—	S186/6	陶伊勢系?
0002	040-02 2次	陶器	山形焼	I-G10	S820011 P111	S82011 P111	15.2	—	—	口縁部 外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	—	2.5Y7/2	尾張型
0003	040-01 2次	陶器	山形焼	I-G10	S820011 P111	S82011 P111	15.6	5.1	7.7	口縁部 外:ヨコナデ, 鉄線模 内:ヨコナデ	—	2.5Y7/3	尾張型 内面黒い鉄線模
0004	041-06 2次	陶器	山形焼	I-G10	S820011 P111	S82011 P111	15.8	—	—	口縁部 外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	—	2.5Y7/2	尾張型
0005	041-08 2次	陶器	山形焼	I-G10	S820011 P111	S82011 P111	—	—	7.0	口縁部 外:ヨコナデ, 赤切模, 鉄線模 内:ヨコナデ, ナデ	—	S17/1	尾張型
0006	042-08 2次	青磁	山	I-F11	S820011 P112	S82011 P112	13.2	—	—	口縁部 外:ヨコナデ, 鉄線 内:ヨコナデ, 鉄線	—	黄: 2.5Y6/1 黒: 2.5Y5/1	—
0007	042-02 2次	土製品	土師	I-G12	S820011 P116	S82011 P116	—	幅 3.4	—	半次 外:ナデ	—	10Y8/3	35.6g
0008	042-01 2次	土製品	土師	I-F10	S820011 P112	S82011 P112	長さ 4.0	幅 3.4	—	実存 外:ナデ	—	2.5Y7/2	37.8g
0009	043-01 2次	土師器	山	I-E11	S820030 P116	S82030 P116	8.0	—	—	口縁部 外:ヨコナデ, ナデ, コビオサエ 内:ヨコナデ	—	10Y8/4	陶伊勢系
0010	034-06 2次	土師器	山形焼	I-F13	S820030 P112	S82030 P112	—	—	—	口縁部 外:ヨコナデ 内:ヨコナデ, ナデ	—	10Y8/2	鉄線模, 外底 付付
0011	040-05 2次	陶器	山形焼	I-G10	S820030 P113	S82030 P113	16.0	5.3	8.0	口縁部 外:ヨコナデ, 赤切模, 鉄線模 内:ヨコナデ	—	2.5Y7/2	尾張型
0012	040-04 2次	陶器	山形焼	I-F11	S820030 P110	S82030 P110	—	—	7.0	口縁部 外:ヨコナデ, 赤切模 内:ヨコナデ	—	2.5Y6/2	—
0013	019-05 2次	鉄製品	釘	I-F11	S820030 P110	S82030 P110	長さ 9.3	幅 1.1	厚さ 0.8	実存 —	—	—	16.6g
0014	041-02 2次	陶器	山形焼	I-F10	S820039 P115	S82039 P115	—	—	7.2	口縁部 外:ヨコナデ, 赤切模, 鉄線模 内:ヨコナデ	—	2.5Y7/1	尾張型
0015	041-03 2次	陶器	山形焼	I-G11	S820040 P110	S82040 P110	—	—	8.0	口縁部 外:ヨコナデ, 赤切模, 鉄線模 内:ヨコナデ	—	2.5Y7/2	尾張型
0016	025-01 2次	陶器	山形焼	I-E14	S820044 P123	S82044 P123	14.2	5.3	6.8	口縁部 外:ヨコナデ, 赤切模, 鉄線模 内:ヨコナデ	—	S17/1	尾張型
0017	013-01 3次	陶器	山形焼	I-W9	S83014 P12	S83014 P12	—	—	4.8	口縁部 外:ヨコナデ, 赤切模 内:ヨコナデ	—	2.5Y7/1	瀬東浜西型
0018	013-02 3次	陶器	山形焼	I-W9	S83014 P12	S83014 P12	—	—	9.0	口縁部 外:ヨコナデ, 赤切模 内:ヨコナデ	—	2.5Y7/2	瀬東浜西型
0019	013-03 3次	陶器	山形焼	I-W9	S83015 P16	S83015 P16	—	—	5.5	口縁部 外:ヨコナデ, 赤切模, 鉄線模 内:ヨコナデ	—	2.5Y8/2	瀬東浜西型
0020	010-09 4次	土製品	土師	I-O12	S83016 P12	S83016 P12	長さ 3.8	幅 1.5	—	実存 外:ナデ	—	2.5Y7/2	6.7g
0021	123-07 3次	鉄製品	鉄線	I-W12	S43022 P14	S43022 P14	—	幅 1.5	厚さ 1.5	実存 —	—	—	角鉄片
0022	027-04 3次	瓦器	黒	I-B17	S834007 P113	S834007 P113	12.4	—	—	口縁部 外:ヨコナデ, コビオサエ 内:ヨコナデ, 2万年	—	8A/0	和型
0023	020-02 3次	陶器	山形焼	I-B16	S834007 P13	S834007 P13	13.9	—	—	口縁部 外:ヨコナデ 内:ヨコナデ, 洗滌	—	2.5Y7/2	尾張型
0024	027-03 3次	陶器	山形焼	I-B16	S834007 P13	S834007 P13	—	—	6.5	口縁部 外:ヨコナデ, 赤切模 内:ヨコナデ	—	2.5Y7/2	尾張型
0025	114-02 3次	土師器	黒	J-O14	S837001 P13	S837001 P13	—	—	—	口縁部 外:ヨコナデ 内:ヨコナデ, ハケメ	—	2.5Y8/6	陶伊勢系
0026	114-03 3次	土師器	黒	J-P13	S837001 P11	S837001 P11	—	—	—	口縁部 外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	—	1.5Y8/3	陶伊勢系
0027	063-08 3次	陶器	山形焼	J-O15	S837001 P12	S837001 P12	15.8	—	—	口縁部 外:ヨコナデ, 輪花 内:ヨコナデ	—	8A/0	瀬東浜西型
0028	114-06 3次	陶器	山形焼	J-P13	S837001 P11	S837001 P11	16.0	—	—	口縁部 外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	—	8Y/0	瀬東浜西型
0029	062-06 3次	陶器	山形焼	J-O15	S837001 P12	S837001 P12	16.5	5.7	7.5	口縁部 外:ヨコナデ, 輪花, 鉄線模 内:ヨコナデ	—	8A/0	瀬東浜西型
0030	062-03 3次	陶器	山形焼	J-O15	S837001 P11	S837001 P11	—	—	—	口縁部 外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	—	8A/0	瀬東浜西型
0031	062-07 3次	陶器	山形焼	J-O15	S837001 P12	S837001 P12	—	—	6.4	口縁部 外:ヨコナデ 内:ヨコナデ, ナデ	—	8A/0	瀬東浜西型
0032	063-02 3次	陶器	山形焼	J-O14	S837001 P13	S837001 P13	—	—	7.2	口縁部 外:ヨコナデ, 赤切模, 鉄線模 内:ヨコナデ	—	8A/0	瀬東浜西型
0033	114-09 3次	白磁	山	J-P13	S837001 P11	S837001 P11	—	—	—	口縁部 外:ヨコナデ, 鉄線 内:ヨコナデ, 鉄線	—	黄: 8A/0 黒: S17/2	瀬東浜系
0034	063-07 3次	土製品	土師	J-O13	S837001 P15	S837001 P15	—	—	8.6	口縁部 外:ヨコナデ, ヲコナデ, 鉄線 内:ヨコナデ, 鉄線	—	黄: 8A/0 黒: 1.5Y8/1	瀬東浜系
0035	114-05 3次	土製品	土師	J-P13	S837001 P11	S837001 P11	長さ 4.1	幅 1.2	—	実存 外:ナデ	—	1.5Y8/3	4.9g
0036	114-04 3次	土製品	土師	J-P13	S837001 P11	S837001 P11	—	幅 1.8	—	半次 外:ナデ	—	10Y8/2	6.4g
0037	064-01 3次	土師器	山形焼	J-O17	S837006 P11	S837006 P11	25.6	—	—	口縁部 外:ヨコナデ, コビオサエ, ナデ 内:ヨコナデ, 工具ナデ	—	2.5Y8/6	外底付付
0038	064-05 3次	陶器	山形焼	J-L19	S837006 P15	S837006 P15	15.9	—	—	口縁部 外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	—	2.5Y6/1	尾張型
0039	064-02 3次	陶器	山形焼	J-O19	S837006 P11	S837006 P11	—	—	6.2	口縁部 外:ヨコナデ, 赤切模 内:ヨコナデ	—	S17/1	瀬東浜西型
0040	064-07 3次	陶器	山形焼	J-L19	S837006 P15	S837006 P15	8.0	1.8	—	口縁部 外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	—	S17/1	尾張型

第IV - 1 表 遺物観察表1

報告 No.	実施 No.	種別	路線	グリッド	報告遺構 No.	調査時 遺構名	口徑 (cm)	最高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調査・施工・施設等	色調	特記事項
0041	06-06 3次	陶器	山田	J-119	S837008 P115	S837008 P115	8.2	2.1	—	口縁部 5/12	外: ロクロナデ, 糸切痕 内: ロクロナデ	2.5Y7/1	尾張型
0042	06-01 3次	石製品	石橋	J-017	S837008 P113	S837008 P113	—	—	—	体部 小片	外: 磨蝕 内: 磨蝕	—	滑石製 肥前の西條神半磨 二次加工による転用 品
0043	124-04 3次	鉄製品	灯	J-017	S837008 P111	S837008 P111	—	幅 0.5	厚さ 0.5	一部欠	—	—	—
0044	06-05 3次	陶器	山田	J-621	S837010 P112	S837010 P112	—	—	3.6	底面 6/12	外: ロクロナデ, 糸切痕 内: ロクロナデ	6B/0	瀬東湖型
0045	125-05 3次	鉄製品	灯	J-721	S837010 P111	S837010 P111	—	幅 2.8	厚さ 0.8	小片	—	—	—
0046	06-05 3次	陶器	山手線	J-019	S837013 P118	S837013 P118	14.8	4.6	5.5	口縁部 11/12	外: ロクロナデ, 糸切痕 内: ロクロナデ	6B/0	尾張型
0047	06-06 3次	陶器	山手線	J-120	S837013 P115	S837013 P115	14.8	—	—	口縁部 1/12	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	6B/0	瀬東湖型
0048	06-04 3次	陶器	山手線	J-021	S837013 P112	S837013 P112	—	—	—	口縁部 小片	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	6B/0	尾張型
0049	06-09 3次	陶器	山田	J-120	S837014 P117	S837014 P117	—	—	4.8	底面 3/12	外: ロクロナデ, 磨蝕痕 内: ロクロナデ	6B/0	尾張型
0050	06-06 3次	陶器	山田	J-120	S837014 P118	S837014 P118	—	—	5.0	底面 8/12	外: ロクロナデ, 糸切痕 内: ロクロナデ	2.5Y7/1	—
0051	06-04 3次	陶器	山田	J-619	S837016 P112	S837016 P112	7.7	1.5	4.5	底面 12/12	外: ロクロナデ, 糸切痕 内: ロクロナデ	6B/0	尾張型
0052	06-03 3次	陶器	山手線	J-619	S837016 P112	S837016 P112	—	—	5.4	底面 4/12	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	6B/0	瀬東湖型
0053	06-07 3次	陶器	山手線	J-615	S837019 P114	S837019 P114	15.0	6.1	7.0	底面 12/12	外: ロクロナデ, 輪花, 糸切痕 内: ロクロナデ	2.5Y7/1	瀬東湖型
0054	06-04 3次	陶器	山手線	J-615	S837020 P113	S837020 P113	—	—	7.2	底面 3/12	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	6B/0	瀬東湖型
0055	012-01 8次	陶器	釜	—	S800019 P1190	S800019 P1190	—	—	—	体部 小片	外: ロクロナデ, 押印・タタキ 内: ユビオサエ, ナデ, 工具ナデ	2.5Y8/2, 5Y6/1	尾張
0056	012-02 8次	陶器	釜?	—	S800019 P1194	S800019 P1194	—	—	—	口縁部 小片	外: ロクロナデ, 磨蝕 内: ロクロナデ, 磨蝕	黄: 2.5Y7/1 緑: 5Y7/3	—
0057	012-03 8次	陶器	山田	—	S800021 P1101	S800021 P1101	10.0	2.9	5.7	底面 12/12	外: ロクロナデ, 糸切痕 内: ロクロナデ	5B/1	尾張型
0058	011-04 8次	陶器	山田	—	S800022 P1113	S800022 P1113	7.4	—	—	口縁部 1/12	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	2.5B/1	尾張型
0059	04-01 10次	陶器	山田	L-411	S800025 P111	S800025 P111	—	—	3.3	底面 6/12	外: ロクロナデ, 糸切痕 内: ロクロナデ	2.5B/2	—
0060	04-06 10次	土師器	田	J-012	S810024 P113	S810024 P113	7.8	—	—	口縁部 2/12	外: ヨコナデ, ユビオサエ 内: ヨコナデ	10B7/3	南伊勢系
0061	04-06 10次	陶器	山手線	L-012	S810024 P119	S810024 P119	—	—	6.8	底面 3/12	外: ロクロナデ, ナデ, 磨蝕痕 内: ロクロナデ	2.5Y7/2	尾張型
0062	04-01 10次	陶器	釜	J-012	S810024 P113	S810024 P113	10.2	—	—	口縁部 2/12	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	7.5B2/1	—
0063	04-03 10次	土師器	田	J-013	S810025 P116	S810025 P116	—	—	—	底面 3/12	外: ロクロナデ, 糸切痕 内: ロクロナデ	7.5B2/4	コクロ土師器
0064	04-06 10次	土師器	鍋または燈 台	J-012	S810025 P118	S810025 P118	—	—	—	口縁部 小片	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ	7.5B5/6	南伊勢系 外見保存型
0065	04-02 10次	土師器	鍋台?	J-013	S810025 P111	S810025 P111	16.0	—	—	口縁部 1/12	外: ヨコナデ, ミガキ 内: ヨコナデ, ミガキ	7.5B5/3	—
0066	04-01 10次	陶器	山手線	J-012	S810030 P112	S810030 P112	—	—	6.0	底面 2/12	外: ロクロナデ 内: ヨコナデ	2.5Y7/2	瀬東湖型
0067	032-03 2次	土師器	鍋	L-113	S820005 S82005	S820005 S82005	25.6	—	—	口縁部 2/12	外: ヨコナデ, ナデ, 工具ナデ, ケ ズリ 内: ヨコナデ, ナデ, 工具ナデ	7.5B7/4	鎌倉型
0068	033-04 2次	陶器	田	L-113	S820005 S82005	S820005 S82005	11.4	3.0	6.4	底面 7/12	外: ロクロナデ, コロコズリ, 磨蝕 内: ロクロナデ, 磨蝕, 磨蝕	黄: 2.5Y6/1 緑: 7.5B4/3, 10B7/1	瀬戸・美濃
0069	033-02 2次	陶器	田	L-113	S820005 S82005	S820005 S82005	—	—	6.6	底面 3/12	外: ロクロナデ, コロコズリ, 磨蝕 内: ロクロナデ, 磨蝕	黄: 2.5Y7/2 緑: 2.5Y6/3, 10B7/1	瀬戸・美濃
0070	033-01 2次	陶器	鉢	L-113	S820005 S82005	S820005 S82005	41.2	—	—	口縁部 1/12	外: ロクロナデ, コロコズリ, 磨蝕 内: ロクロナデ, コロコズリ, 磨蝕, 磨蝕	黄: 5Y6/1 緑: 2.5Y7/1	瀬戸・美濃
0071	032-01 2次	陶器	罐鉢	L-113	S820005 S82005	S820005 S82005	27.0	—	—	口縁部 1/12	外: ロクロナデ, 磨蝕 内: ロクロナデ, 磨蝕, 磨蝕	黄: 10B7/3 緑: 7.5B4/3	瀬戸・美濃
0072	032-02 2次	陶器	罐鉢	L-113	S820005 S82005	S820005 S82005	33.8	—	—	口縁部 1/12	外: ヨコナデ, ナデ, 工具ナデ 内: ヨコナデ, 磨蝕	2.5B5/4	伊・瀬石系
0073	033-03 2次	磁器	碗	L-113	S820005 S82005	S820005 S82005	—	—	3.2	底面 12/12	外: ロクロナデ, 磨蝕 内: ロクロナデ, 磨蝕	黄: 9/0	肥前系
0074	033-05 2次	磁器	碗	L-113	S820005 S82005	S820005 S82005	—	—	4.3	底面 3/12	外: ロクロナデ, 染付, 磨蝕 内: ロクロナデ, 磨蝕	黄: 7.5Y7/1	肥前系 蛇ノ目紋付
0075	032-04 2次	瓦	軒瓦	L-113	S820005 S82005	S820005 S82005	—	—	—	瓦当部 小片	凹: ナデ 凸: ナデ	6A/0	奈良系
0076	039-01 2次	土師器	燈台	L-114	S820007 S82007	S820007 S82007	33.0	5.9	—	口縁部 10/12	外: ヨコナデ, ケズリ, ナデ 内: ヨコナデ, ナデ	5B7/6	大坂系
0077	039-01 2次	土師器	燈台	L-114	S820007 S82007	S820007 S82007	33.6	—	—	口縁部 5/12	外: ヨコナデ, ナデ 内: ヨコナデ, ナデ	5B7/6	大坂系 内面保存型
0078	027-02 2次	陶器	甕じょく	L-114	S820007 S82007	S820007 S82007	5.1	2.4	5.0	口縁部 12/12	外: ロクロナデ, ナデ, 糸切痕, 磨蝕 内: ロクロナデ, 磨蝕	黄: 2.5Y8/2 緑: 10B6/1	瀬戸・美濃
0079	027-01 2次	陶器	鉢	L-114	S820007 S82007	S820007 S82007	—	—	17.8	底面 1/12	外: コロコズリ, 磨蝕 内: ロクロナデ, 磨蝕, 磨蝕	黄: 2.5Y8/2 緑: 2.5Y8/2	瀬戸・美濃
0080	029-01 2次	陶器	片断	L-114	S820007 S82007	S820007 S82007	17.5	—	—	口縁部 5/12	外: ロクロナデ, ナデ, 磨蝕 内: ロクロナデ, 磨蝕	黄: 10B7/3 緑: 2.5Y6/4	瀬戸・美濃

第四 - 2 表 遺物観察表2

報告 No.	実測 No.	種別	用途	グリッド	報告者 氏名	調査時 間	口径 (cm)	高さ (cm)	口径 (cm)	調査 年度	調査・施工・修繕等	色紙	特記事項
0081	028-01 2次	陶器	甕	L-114	SK2007	SK2007	9.6	—	—	発掘 4/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	黄：10YR8/1 黒：10YR7/1	内蔵保存箱
0082	027-04 2次	陶器	甕	L-114	SK2007	SK2007	7.0	1.4	3.0	口縁部 12/12	外：ロクロナデ、ナデ、糸切堀、施釉 内：ロクロナデ、施釉	黄：1.5YR/1 黒：5YR/2	瀬戸・美濃
0083	027-04 2次	陶器	甕	L-114	SK2007	SK2007	6.5	7.5	5.0	口縁部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロナデ、ナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	黄：1.5YR/1 黒：5YR/2	瀬戸・美濃
0084	028-05 2次	陶器	甕	L-114	SK2007	SK2007	7.2	7.9	4.8	口縁部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロナデ、ナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	黄：1.5YR/1 黒：5YR/2	瀬戸・美濃
0085	028-04 2次	陶器	甕鉢	L-114	SK2007	SK2007	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	黄：1.5YR/1 黒：5YR/2	瀬戸・美濃
0086	028-02 2次	陶器	甕	L-114	SK2007	SK2007	6.2	5.3	3.5	口縁部 12/12	外：ロクロナデ、糸切、施釉 内：ロクロナデ、糸切、施釉	黄：8YR/8 黒：5YR/1	肥前系 コンニャク印刷
0087	029-02 2次	陶器	甕	L-114	SK2007	SK2007	9.1	5.1	3.7	口縁部 12/12	外：ロクロナデ、糸切、施釉 内：ロクロナデ、糸切、施釉	黄：1.5YR/8 黒：5YR/1	肥前系
0088	027-05 2次	陶器	甕	L-114	SK2007	SK2007	10.8	6.2	4.0	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、糸切、施釉 内：ロクロナデ、糸切、施釉	黄：8YR/8 黒：5YR/1	瀬戸・美濃？
0089	028-03 2次	陶器	甕	L-114	SK2007	SK2007	9.4	2.4	3.6	口縁部 6/12	外：ロクロナデ、糸切、施釉 内：ロクロナデ、糸切、施釉	黄：8YR/8 黒：5YR/1	肥前系
0090	027-03 2次	陶器	鉢	L-114	SK2007	SK2007	—	—	8.8	底面 6/12	外：ロクロナデ、糸切、施釉 内：ロクロナデ、施釉	黄：1.5YR/8 黒：5YR/1	肥前系
0091	026-01 2次	瓦	軒平瓦	L-114	SK2007	SK2007	—	—	—	瓦部 小片	田：ナデ、ケズリ 凸：ナデ	N3/8	唐楽文
0092	018-02 2次	土師器	鍋	L-1・J14	SK2009	SK2009	24.4	—	—	口縁部 4/12	外：ヨコナデ、ナデ、ケズリ 内：ヨコナデ、ナデ	7.5YR8/3	瀬戸勢系
0093	036-01 2次	土師器	鍋	L-1・J14	SK2009	SK2009	24.4	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ナデ？ 内：ヨコナデ、ナデ	7.5YR7/3	瀬戸勢系 内蔵保存箱
0094	024-01 2次	土師器	鍋	L-1・J14	SK2009	SK2009	33.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ、ケズリ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR6/2	瀬戸勢系
0095	037-01 2次	土師器	鍋	L-1・J14	SK2009	SK2009	24.9	—	—	口縁部 10/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	5YR8/4	瀬戸型 内蔵保存箱
0096	036-02 2次	土師器	鍋	L-1・J14	SK2009	SK2009	26.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、棒子タタキ 内：ヨコナデ、ナデ	5YR7/6	瀬戸型 内蔵保存箱
0097	035-01 2次	土師器	鍋	L-1・J14	SK2009	SK2009	25.2	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ナデ、棒子タタキ、工具ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	5YR7/6	瀬戸型 内蔵保存箱
0098	024-03 2次	陶器	天目茶碗	L-1・J14	SK2009	SK2009	8.4	4.3	3.0	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	黄：1.5YR/2 黒：1.5YR/1	瀬戸・美濃
0099	024-02 2次	陶器	皿	L-1・J14	SK2009	SK2009	10.0	2.5	6.4	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	黄：1.5YR/1 黒：1.5YR/1	瀬戸・美濃
0100	025-06 2次	土師器	皿	L-114	SK2013	SK2013	10.0	1.65	—	口縁部 4/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	7.5YR8/3	
0101	025-07 2次	陶器	内口鉢	L-114	SK2013	SK2013	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、ヒトイサエ、ナデ 内：ロクロナデ	2.5YR8/1	常滑
0102	017-02 2次	土師器	皿	L-015	SK2016	SK2016	7.0	1.7	4.4	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、糸切堀 内：ロクロナデ	10YR8/4	ロクロ土師器
0103	017-03 2次	土師器	皿	L-015	SK2016	SK2016	11.5	3.0	—	口縁部 4/12	外：摩鉢により磨面不揃 内：摩鉢により磨面不揃	10YR7/4	
0104	017-04 2次	土師器	皿	L-015	SK2016	SK2016	11.6	3.4	—	口縁部 9/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR6/3	
0105	017-01 2次	須恵器	鉢	L-015	SK2016	SK2016	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	10YR7/2	瀬戸系
0106	016-01 2次	陶器	山手碗	L-015	SK2016	SK2016	—	—	7.5	底面 3/12	外：ロクロナデ、ナデ 内：摩鉢により磨面不揃	10YR7/1	瀬戸型
0107	016-02 2次	陶器	鉢	L-015	SK2016	SK2016	—	—	10.0	底面 2/12	外：ロクロナデ、糸切堀 内：ロクロナデ	10YR5/1	
0108	016-03 2次	青磁	甕	L-015	SK2016	SK2016	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、結露井文、施釉 内：ロクロナデ、施釉	黄：10YR7/1 黒：5YR/1	瀬戸系
0109	033-07 2次	土師器	皿	L-015	SK2019	SK2019	—	—	6.0	底面 4/12	外：ロクロナデ、糸切堀 内：ロクロナデ	7.5YR8/2	ロクロ土師器
0110	041-01 2次	土師器	皿	L-015	SK2019	SK2019	—	—	7.6	底面 2/12	外：ロクロナデ、糸切堀 内：ロクロナデ	7.5YR8/4	ロクロ土師器
0111	033-06 2次	陶器	山手碗	L-015	SK2019	SK2019	17.0	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	10YR7/1	瀬戸型
0112	026-02 2次	陶器	山手碗	L-014 15	SK2020	SK2020	—	—	8.6	底面 4/12	外：ロクロナデ、糸切堀、磨面 内：ロクロナデ	黄/0	瀬戸型 内蔵品置き箱
0113	024-03 2次	陶器	甕	L-014 15	SK2020	SK2020	—	—	9.6	底面 小片	外：ロクロナデ、ナデ、工具ナデ 内：ロクロナデ	7.5YR5/3	常滑
0114	020-02 2次	鉄製品	鐙	L-013	SK2021	SK2021	—	幅 5.0	厚さ 0.4	一部欠	—	—	
0115	025-02 2次	陶器	皿	L-013	SK2023	SK2023	—	—	5.0	底面 4/12	外：ロクロナデ、糸切堀 内：ロクロナデ	2.5YR/2	
0116	041-07 2次	土師器	鍋	L-F・G10	SK2025	SK2025	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	2.5Y7/3	瀬戸勢系
0117	019-06 2次	鉄製品	釘	L-F・G10	SK2025	SK2025	—	幅 8.7	厚さ 0.45	半欠	—	—	
0118	025-04 2次	土師器	皿	L-F・G11	SK2027	SK2027	11.6	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	2.5YR/2	
0119	025-05 2次	土師器	皿	L-F・G11	SK2027	SK2027	11.8	2.4	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	2.5YR/2	
0120	043-02 2次	土師器	鍋	L-F・G11	SK2027	SK2027	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	10YR7/3	瀬戸勢系 内蔵保存箱

第IV - 3表 遺物観察表3

報告 No.	発掘 期	種別	器種	グリッド	報告遺構 部位	調査時 遺構名	口 径 (cm)	最 高 (cm)	底 径 (cm)	残存 度	調査・論文・図録等	色調	特記事項
0121	019-01 2次	調査路	鉢	I-F・G1	SK20027	SK20027	24.5	11.0	9.6	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、糸文 内：ロクロナデ、ナデ		調査路 内蔵保付書
0122	025-03 2次	陶器	皿	I-F・G1	SK20027	SK20027	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、縞線模様、捺輪 内：ロクロナデ、縞線模様、捺輪	黄：5/8/1 黄：7.5/7/2	瀬戸・美濃
0123	019-06 2次	鉄製品	灯	I-F・G1	SK20027	SK20027	長さ 6.3	幅 1.5	厚さ 1.0	完好	—	—	—
0124	026-08 2次	土製品	土器	I-010	SK20029	SK20029	—	幅 1.8	—	一部欠	外：ナデ	7.5/8/3	7.4a
0125	026-07 2次	土製品	土器	I-010	SK20029	SK20029	—	幅 2.0	—	一部欠	外：ナデ	7.5/8/4	11.5a
0126	026-05 2次	土製品	土器	I-010	SK20029	SK20029	長さ 4.1	幅 1.8	—	完好	外：ナデ	2.5/8/7/6	10.7a
0127	026-06 2次	土製品	土器	I-010	SK20029	SK20029	長さ 4.2	幅 1.9	—	完好	外：ナデ	2.5/8/7/6	11.7a
0128	019-04 10次	陶器	山形鉢	I-B11	SK20031	SK10034	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5/7/1	瀬戸瀧西型
0129	024-05 2次	陶器	碗	I-B10・ 11	SK20031	SK20031	—	—	5.0	底面 9/12	外：ロクロナデ、捺輪 内：ロクロナデ、捺輪	黄：2.5/8/1 黄：7.5/7/2	瀬戸・美濃
0130	024-04 2次	陶器	天目茶碗	I-B10・ 11	SK20031	SK20031	16.4	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ロクロナデ、捺輪 内：ロクロナデ、捺輪	黄：2.5/8/2 黄：5/8/2/1	瀬戸・美濃
0131	026-04 2次	磁器	碗	I-B10・ 11	SK20031	SK20031	12.8	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、捺付、捺輪 内：ロクロナデ、捺付、捺輪	黄：8/8/0	青花磁器?
0132	034-01 2次	陶器	天目茶碗	I-H13	SK20032	SK20032	10.6	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ロクロナデ、捺輪 内：ロクロナデ、捺輪	黄：2.5/8/2 黄：10/8/2/1	瀬戸・美濃
0133	031-05 2次	陶器	天目茶碗	I-H13	SK20032	SK20032	16.8	—	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロナデ、捺輪 内：ロクロナデ、捺輪	黄：2.5/8/2 黄：5/8/3	瀬戸・美濃
0134	034-02 2次	陶器	盃	I-H13	SK20032	SK20032	11.4	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、捺輪 内：ロクロナデ、捺輪	黄：10/8/3 黄：10/8/5/6	瀬戸・美濃
0135	004-01 3次	土師器	台付皿	I-02	SK13003	SK13003	8.6	2.6	4.8	底面 8/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ	10/8/3	
0136	005-01 4次	土師器	皿	I-53	SK13004	SK14008	12.0	2.9	—	口縁部 4/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10/8/2	
0137	005-02 4次	土師器	皿	I-53	SK13004	SK14008	12.0	3.4	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10/8/3	
0138	004-06 4次	土師器	皿	I-53	SK13004	SK14008	12.4	—	—	口縁部 5/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10/8/2	
0139	037-01 4次	陶器	山形鉢	I-53	SK13004	SK14008	—	—	8.0	底面 3/12	外：ロクロナデ、糸文 内：ロクロナデ	2.5/8/2	瀬戸瀧西型
0140	004-02 4次	陶器	筒または片 口鉢	I-53	SK13004	SK13004	—	—	5.8	底面 4/12	外：ロクロナデ、ロクロナデ 内：ロクロナデ、捺輪	黄：2.5/8/2 黄：2.5/8/3/1	瀬戸・美濃 内蔵土師器?
0141	004-07 3次	磁器	碗	I-53	SK13004	SK13004	—	—	3.8	底面 3/12	外：ロクロナデ、ロクロナデ、捺付、捺輪 内：ロクロナデ、捺輪	黄：8/8/0	肥前系
0142	005-03 4次	瓦	丸瓦	I-53	SK13004	SK14008	—	—	—	小片 △：ヨコナデ、捺輪、ナデ 四：捺輪、ナデ、押付瓦、布目瓦	82/0		
0143	006-07 3次	土師器	皿	I-03	SE13005 腹部	SE13005 腹部	8.8	1.6	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	7.5/8/3	
0144	110-07 3次	灰陶 陶器	碗	I-03	SE13005 腹部	SE13005 腹部	—	—	7.0	底面 2/12	外：ロクロナデ、糸文 内：ロクロナデ	2.5/7/1	
0145	005-07 3次	陶器	天目茶碗	I-03	SE13005 腹部	SE13005 腹部	12.0	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、捺輪 内：ロクロナデ、捺輪	黄：2.5/8/2 黄：2.5/8/2/1	瀬戸・美濃
0146	004-04 3次	陶器	皿	I-03	SE13005 糸文部	SE13005 糸文部	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、捺輪 内：ロクロナデ、捺輪	黄：2.5/8/2 黄：7.5/7/3	瀬戸・美濃
0147	005-08 3次	陶器	椀鉢	I-03	SE13005 1層	SE13005 1層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、捺輪 内：ロクロナデ、捺輪	黄：5/7/1 黄：5/8/4	瀬戸・美濃
0148	005-09 3次	陶器	椀鉢	I-03	SE13005 1層	SE13005 1層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、捺輪 内：ロクロナデ、捺輪	黄：10/8/6 黄：7.5/8/5/3	瀬・朝日系
0149	004-05 3次	石製品	結石	I-03	SE13005 腹部	SE13005 腹部	—	幅 5.7	厚さ 1.5	一部欠	捺輪	—	—
0150	004-04 3次	土師器	皿	I-02	SK13008	SK13008	16.4	1.9	6.4	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	7.5/8/3	
0151	004-03 3次	陶器	皿	I-02	SK13008	SK13008	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、捺輪 内：ロクロナデ、捺輪	黄：7.5/8/3 黄：5/8/4	瀬戸・美濃
0152	004-08 3次	土師器	羽釜	I-03	SK13012	SK13012	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ハケメ	10/8/3	外蔵保付書
0153	120-02 3次	磁器	仏蘭地	I-02	SK13013	SK13013	7.0	6.3	4.0	口縁部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロナデ、捺付、捺輪 内：ロクロナデ	黄：9/0	肥前系
0154	004-05 3次	土師器	鉢	I-02	SK13014	SK13014	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	2.5/8/2/1	瀬伊勢系 外蔵保付書
0155	004-06 3次	土師器	鉢	I-03 I-P3	SK13014	SK13014	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10/8/3	瀬伊勢系 外蔵保付書
0156	004-06 3次	石製品	円盤状物品	I-03 I-P3	SK13014	SK13014	径 6.3	厚さ 1.4	—	—	磨削打ち文字、表面剥離	—	77.0a
0157	003-04 3次	土師器	皿	0-023・ 24	SE13016	SE13016 4層	11.0	3.1	—	口縁部 6/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	10/8/2	
0158	006-02 3次	土師器	皿	0-023	SE13016	SE13016 腹部	11.2	3.1	—	口縁部 9/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10/8/2	
0159	003-05 3次	土師器	皿	0-023・ 24	SE13016	SE13016 1層	11.5	3.2	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10/8/2	
0160	003-03 3次	土師器	鉢	0-023・ 24	SE13016	SE13016 1層	25.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ?	10/8/3	瀬伊勢系 外蔵保付書

第四 - 4 表 遺物観察表4

報告 No.	発掘 期	種別	産地	グリッド	報告通称 層位	調査時 通称名	口徑 (cm)	器高 (cm)	器径 (cm)	残存度	調査・施設・発掘等	色調	特記事項
0161	002-01 3次	陶器	鉢	K-423- 24	SE31016	SE31016 B層	—	—	11.6	底面 外: 工具ナデ 内: 厚紙により隠蔽不明	底面 外: ロクロナデ、赤切腹 内: ロクロナデ	5YR7/6	陶片
0162	002-02 3次	陶器	山形碗	L-02	SE31019	SE31019	—	—	6.3	底面 外: ロクロナデ、赤切腹 内: ロクロナデ	底面 外: ロクロナデ、赤切腹 内: ロクロナデ	2.5YR/2	陶器型
0163	009-03 3次	陶器	碗	L-89	SE32002	SE32002	10.8	7.8	4.8	底面 外: ロクロナデ、ロクロナデ、陶片 内: ロクロナデ、陶片	底面 外: ロクロナデ、ロクロナデ、陶片 内: ロクロナデ、陶片	黄: 2.5YR/2 輪: 7.5YR/2	陶片・灰皿
0164	009-02 3次	陶器	皿	L-89	SE32002	SE32002	—	—	7.2	底面 外: ロクロナデ、ロクロナデ、陶片 内: ロクロナデ、陶片	底面 外: ロクロナデ、ロクロナデ、陶片 内: ロクロナデ、陶片	黄: 10YR/2 輪: 7.5YR/3	肥前系
0165	009-01 3次	陶器	皿	—	SE32002	SE32002	32.7	—	—	口縁部 外: ロクロナデ 内: ロクロナデ、ユビオサエ	口縁部 外: ロクロナデ 内: ロクロナデ、ユビオサエ	7.5YR/2 7.5YR/3	陶片
0166	009-04 3次	磁器	碗	—	SE32002	SE32002	11.1	5.4	4.5	底面 外: ロクロナデ、ロクロナデ、染付、陶片 内: ロクロナデ、陶片	底面 外: ロクロナデ、ロクロナデ、染付、陶片 内: ロクロナデ、陶片	黄: 9/0	肥前系 コンニャク印判
0167	124-01 3次	磁器品	灯	L-89	SE32002	SE32002	—	幅 6.8	厚さ 6.8	一部欠	—	—	—
0168	009-04 3次	陶器	磁鉢	L-08	SE32003	SE32003	—	—	—	口縁部 外: ロクロナデ 内: ロクロナデ、陶片	口縁部 外: ロクロナデ 内: ロクロナデ、陶片	5YR4/2	唐・新石系
0169	009-05 3次	陶器	碗	L-08	SE32003	SE32003	—	—	4.3	底面 外: ロクロナデ、ロクロナデ 内: ロクロナデ、陶片	底面 外: ロクロナデ、ロクロナデ 内: ロクロナデ、陶片	黄: 10R5/4	肥前系
0170	010-02 3次	土師器	皿	L-76	SE32005	SE32005	—	—	6.4	底面 外: ロクロナデ、赤切腹 内: ロクロナデ、ナデ	底面 外: ロクロナデ、赤切腹 内: ロクロナデ、ナデ	7.5YR/4	ロクロ土師器
0171	010-03 3次	土師器	皿	L-76	SE32005	SE32005	—	—	7.0	底面 外: ロクロナデ、赤切腹 内: ナデ	底面 外: ロクロナデ、赤切腹 内: ナデ	7.5YR/4	ロクロ土師器
0172	009-07 3次	土師器	台付皿	L-76	SE32005	SE32005	—	—	6.1	底面 外: ロクロナデ、赤切腹 内: ロクロナデ	底面 外: ロクロナデ、赤切腹 内: ロクロナデ	2.5YR/2	ロクロ土師器
0173	010-01 3次	陶器	皿	L-76	SE32005	SE32005	—	—	—	口縁部 外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	口縁部 外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	5Y5/1	瀬来
0174	015-03 3次	土師器	皿	L-70	SE33003	SE33003	11.2	3.2	—	口縁部 外: ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内: ヨコナデ、ナデ	口縁部 外: ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内: ヨコナデ、ナデ	2.5YR/3	—
0175	009-03 3次	土師器	皿	L-70	SE33003	SE33003 2層	11.5	2.7	—	口縁部 外: ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内: ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	口縁部 外: ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内: ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	2.5YR/1	内外面保存付
0176	115-02 3次	土師器	皿	—	SE33003	SE33003	12.2	—	—	口縁部 外: ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内: ヨコナデ、ナデ	口縁部 外: ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内: ヨコナデ、ナデ	10YR/2	陶片断片
0177	017-02 3次	青磁	碗	—	SE33003	SE33003	14.8	—	—	口縁部 外: ロクロナデ、緑澤井文、陶片 内: ロクロナデ、陶片	口縁部 外: ロクロナデ、緑澤井文、陶片 内: ロクロナデ、陶片	黄: 2.5YR/1 輪: 7.5YR/1	肥前系
0178	017-03 3次	青磁	碗	L-70	SE33003	SE33003	16.8	—	—	口縁部 外: ロクロナデ、緑澤井文、陶片 内: ロクロナデ、陶片	口縁部 外: ロクロナデ、緑澤井文、陶片 内: ロクロナデ、陶片	黄: 5Y7/1 輪: 10YR/1	肥前系
0179	021-04 3次	土師器	台付皿	L-71	SE33007	SE33007	10.6	2.2	—	口縁部 外: ヨコナデ、ナデ 内: ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	口縁部 外: ヨコナデ、ナデ 内: ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	10YR/1	—
0180	076-02 3次	土師器	皿	—	SE33008	SE33008 4層	9.8	1.8	—	口縁部 外: ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内: ヨコナデ、ナデ	口縁部 外: ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内: ヨコナデ、ナデ	2.5YR/2	—
0181	022-02 3次	土師器	皿	L-702	SE33008	SE33008	10.8	3.0	—	口縁部 外: ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内: ヨコナデ、工具ナデ	口縁部 外: ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内: ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR/3	—
0182	022-01 3次	土師器	皿	L-702	SE33008	SE33008	11.6	3.3	—	口縁部 外: ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内: ヨコナデ、工具ナデ	口縁部 外: ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内: ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR/3	—
0183	009-04 3次	土師器	台付皿	L-702	SE33008	SE33008 2層	10.0	2.2	5.2	底面 外: ヨコナデ、ナデ 内: ヨコナデ	底面 外: ヨコナデ、ナデ 内: ヨコナデ	10YR/3	—
0184	022-03 3次	土師器	鍋	L-702	SE33008	SE33008	—	—	—	口縁部 外: ヨコナデ 内: ヨコナデ	口縁部 外: ヨコナデ 内: ヨコナデ	7.5YR/3	陶片断片 外面保存付
0185	009-02 3次	瓦器	甕	L-702	SE33008	SE33008 4層	12.6	3.9	4.8	底面 外: ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内: ヨコナデ、ミガキ、陶文	底面 外: ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内: ヨコナデ、ミガキ、陶文	6Y5/0	紀伊型
0186	181-03 3次	陶器	山形碗	L-702	SE33008	SE33008	—	—	—	口縁部 外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	口縁部 外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	10Y5/6	尾道型
0187	022-04 3次	土師器	鍋	L-713	SE33009	SE33009	—	—	—	口縁部 外: ヨコナデ 内: ヨコナデ	口縁部 外: ヨコナデ 内: ヨコナデ	10YR/1	陶片断片 外面保存付
0188	023-02 3次	土師器	羽釜	L-713	SE33009	SE33009 2層	—	—	—	口縁部 外: ヨコナデ 内: ヨコナデ	口縁部 外: ヨコナデ 内: ヨコナデ	10YR/2	陶片断片 外面保存付
0189	022-05 3次	陶器	山形碗	L-713	SE33009	SE33009	—	—	7.0	底面 外: ロクロナデ、赤切腹 内: ロクロナデ	底面 外: ロクロナデ、赤切腹 内: ロクロナデ	6Y1/0	瀬来焼成型
0190	023-03 3次	白磁	皿	L-713	SE33009	SE33009 2層	—	—	5.2	底面 外: ロクロナデ、ヘラ切腹、陶片 内: ロクロナデ、陶片	底面 外: ロクロナデ、ヘラ切腹、陶片 内: ロクロナデ、陶片	黄: 6Y1/0 輪: 7.5YR/1	瀬来系
0191	022-06 3次	青磁	碗	L-713	SE33009	SE33009	15.6	—	—	口縁部 外: ロクロナデ、陶片 内: ロクロナデ、陶片	口縁部 外: ロクロナデ、陶片 内: ロクロナデ、陶片	黄: 6Y1/0 輪: 5Y7/1	肥前系
0192	023-01 3次	石磁品	石鍋	L-713	SE33009	SE33009	12.8	—	—	口縁部 外: 断面 内: 断面	口縁部 外: 断面 内: 断面	—	焼成 肥前西岸平島
0193	023-05 3次	土師器	台付皿	L-713	SE33011	SE33011	10.2	2.4	5.2	底面 外: ヨコナデ、ナデ、工具ナデ 内: ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	底面 外: ヨコナデ、ナデ、工具ナデ 内: ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	7.5YR/4	—
0194	023-04 3次	陶器	磁鉢	L-713	SE33011	SE33011	—	—	—	口縁部 外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	口縁部 外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	10Y5/4	瀬来
0195	026-04 3次	磁器	碗	L-713	SE33011	SE33011	—	—	4.4	口縁部 外: ロクロナデ、染付、陶片 内: ロクロナデ、陶片	口縁部 外: ロクロナデ、染付、陶片 内: ロクロナデ、陶片	黄: 2.5YR/2	肥前系
0196	007-01 3次	土師器	鍋	L-111	SE33013	SE33013	28.2	—	—	口縁部 外: ヨコナデ、工具ナデ 内: ヨコナデ	口縁部 外: ヨコナデ、工具ナデ 内: ヨコナデ	10YR/3	陶片断片 外面保存付
0197	025-01 3次	陶器	山形碗	L-111	SE33013	SE33013	14.4	5.1	5.6	底面 外: ロクロナデ、赤切腹、緑澤井文 内: ロクロナデ、ナデ	底面 外: ロクロナデ、赤切腹、緑澤井文 内: ロクロナデ、ナデ	5Y7/2	尾道型
0198	009-01 3次	土師器	皿	L-416	SE34001	SE34001	10.8	3.3	—	口縁部 外: ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内: ヨコナデ、工具ナデ	口縁部 外: ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内: ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR/3	—
0199	029-03 3次	土師器	皿	L-416	SE34001	SE34001	11.2	—	—	口縁部 外: ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内: ヨコナデ、ナデ	口縁部 外: ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内: ヨコナデ、ナデ	10YR/3	瀬来保存付
0200	029-04 3次	土師器	皿	J-716	SE34002	SE34002	11.5	3.1	—	口縁部 外: ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内: 厚紙により隠蔽不明	口縁部 外: ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内: 厚紙により隠蔽不明	10YR/2	—

第IV - 5 表 遺物観察表5

標号 No.	実測 No.	種別	基座	グリッド	報告遺構 部位	調査時 遺構名	口径 (cm)	最高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調査、出土、発掘等	色澤	特記事項
0201	029-02 1/2	河原部	鉢	J-116	SK34002	SK34002	24.8	—	—	口縁部 外：ロウロナデ 内：ロウロナデ	調査：5/17/2	青褐色 内面緑色付着	
0202	029-04 3/2	河原部	鉢	J-116	SK34002	SK34002	—	—	—	口縁部 外：ロウロナデ 内：ロウロナデ	調査：5/16/1	5/16/1	
0203	029-01 3/2	土師部	増縁	L-117	SK34003	SK34003	24.0	—	—	口縁部 外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	調査：5/16/4	5/16/4	大塚・朝石系 外周緑色付着
0204	029-04 3/2	河原部	鉢	L-117	SK34003	SK34003	—	—	15.6	底面 外：ロウロナデ、工具痕？ 内：ロウロナデ	調査：5/17/2	5/17/2	
0205	029-05 3/2	河原部	鉢	L-117	SK34003	SK34003	—	—	4.4	底面 外：ロウロナデ、磨蝕痕、鉄粉 内：ロウロナデ、磨蝕？、鉄粉	調査：5/16/1 5/16/2	5/16/1 5/16/2	同大塚系？
0206	029-03 3/2	土師部	鉢	L-016	SK34004	SK34004	—	—	—	口縁部 外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	調査：5/17/4	5/17/4	磨蝕・鉄粉 内面緑色付着
0207	029-05 3/2	河原部	皿	L-016	SK34004	SK34004	9.8	2.4	4.4	底面 外：ロウロナデ、ロウロナデ、鉄粉 内：ロウロナデ、鉄粉	調査：10/18/2 5/17/4	5/17/4	磨蝕・鉄粉 内面緑色付着
0208	027-08 3/2	瓦葺土 土師部	風炉	L-015	SK34005	SK34005	—	—	—	口縁部 外：ナデ、キズ状凹凸 内：ナデ	調査：10/18/4	10/18/4	大塚系
0209	027-05 3/2	河原部	皿	L-115	SK34006	SK34006	—	—	5.8	底面 外：ロウロナデ、ロウロナデ、鉄粉 内：ロウロナデ、鉄粉	調査：2.5/17/3 5/17/3	5/17/3	磨蝕・鉄粉 内面緑色付着
0210	027-04 3/2	河原部	土師部	L-015	SK34006	SK34006	—	—	—	口縁部 外：ナデ 内：ナデ	調査：5/17/6/4	5/17/6/4	
0211	116-07 3/2	土師部	皿	L-015	SK34006	SK34006	5.7	1.1	—	口縁部 外：ロウロナデ、赤色痕、鉄粉 内：ロウロナデ、鉄粉	調査：5/17/4 5/17/4	5/17/4	大塚系 ロウロナデ土師部
0212	116-06 3/2	土師部	皿	L-015	SK34006	SK34006	6.0	1.1	—	口縁部 外：ロウロナデ、赤色痕、鉄粉 内：ロウロナデ、鉄粉	調査：5/17/4 5/17/4	5/17/4	大塚系 ロウロナデ土師部
0213	116-05 3/2	土師部	皿	L-015	SK34006	SK34006	6.0	1.3	—	口縁部 外：ロウロナデ、赤色痕、鉄粉 内：ロウロナデ、鉄粉	調査：5/17/4 5/17/4	5/17/4	大塚系 ロウロナデ土師部
0214	116-04 3/2	土師部	皿	L-015	SK34006	SK34006	9.3	1.9	—	口縁部 外：ロウロナデ、赤色痕、鉄粉 内：ロウロナデ、鉄粉	調査：5/17/4 5/17/4	5/17/4	大塚系 ロウロナデ土師部
0215	116-03 3/2	土師部	皿	L-015	SK34006	SK34006	9.4	1.8	—	口縁部 外：ロウロナデ、赤色痕、鉄粉 内：ロウロナデ、鉄粉	調査：5/17/4 5/17/4	5/17/4	大塚系 ロウロナデ土師部
0216	116-02 3/2	土師部	皿	L-015	SK34006	SK34006	—	—	—	底面 外：ロウロナデ、赤色痕 内：ロウロナデ、印痕、鉄粉	調査：5/17/4 5/17/4	5/17/4	大塚系 ロウロナデ土師部
0217	116-01 3/2	土師部	増縁	L-015	SK34006	SK34006	27.0	—	—	口縁部 外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ	調査：5/17/4	5/17/4	大塚系 外周緑色付着
0218	115-05 3/2	土師部 土師部	鉢	L-015	SK34006	SK34006	16.4	3.3	—	口縁部 外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ	調査：5/17/6/4	5/17/6/4	内面緑色付着
0219	034-01 3/2	土師部 土師部	風炉	L-015	SK34006	SK34006	—	—	47.4	底面 外：ロウロナデ、磨蝕痕 内：ロウロナデ、工具痕	調査：10/18/2 5/17/4	5/17/4	内面緑色付着
0220	032-01 3/2	河原部	鉢	L-015	SK34006	SK34006	6.4	3.9	2.9	底面 外：ロウロナデ、ロウロナデ、鉄粉 内：ロウロナデ、鉄粉	調査：5/17/1 5/17/1	5/17/1	磨蝕・鉄粉
0221	032-03 3/2	河原部	鉢	L-015	SK34006	SK34006	16.0	6.7	5.1	底面 外：ロウロナデ、ロウロナデ、鉄粉 内：ロウロナデ、鉄粉	調査：5/17/1 5/17/1	5/17/1	磨蝕・鉄粉
0222	121-01 3/2	河原部	鉢	L-015	SK34006	SK34006	—	—	3.8	底面 外：ロウロナデ、ロウロナデ、鉄粉 内：ロウロナデ、鉄粉	調査：2.5/18/1 10/17/1	2.5/18/1 10/17/1	磨蝕・鉄粉 底面外周に磨蝕
0223	030-02 3/2	河原部	皿	L-015	SK34006	SK34006	26.6	6.1	8.0	底面 外：ロウロナデ、ロウロナデ、鉄粉 内：ロウロナデ、鉄粉	調査：10/18/2 5/17/3	5/17/3	磨蝕・鉄粉
0224	115-04 3/2	河原部	鉢	L-015	SK34006	SK34006	—	—	12.5	底面 外：ロウロナデ、ロウロナデ、鉄粉 内：ロウロナデ、鉄粉	調査：2.5/17/2 5/17/2	5/17/2	磨蝕・鉄粉 底面外周に磨蝕
0225	113-02 3/2	河原部	風炉	L-015	SK34006	SK34006	—	—	—	底面 外：ロウロナデ、磨蝕？、ナデ、鉄粉 内：ロウロナデ、鉄粉	調査：10/18/2 5/17/4	5/17/4	磨蝕・鉄粉 内面緑色付着
0226	031-02 3/2	河原部	土師部	L-015	SK34006	SK34006	31.2	—	—	口縁部 外：ロウロナデ 内：ロウロナデ、磨蝕	調査：2.5/18/4	2.5/18/4	磨蝕
0227	031-01 3/2	河原部	土師部	L-115	SK34006	SK34006	31.4	—	—	口縁部 外：ロウロナデ、ロウロナデ、ナデ、鉄粉 内：ロウロナデ、磨蝕	調査：2.5/18/4	2.5/18/4	磨蝕・鉄粉
0228	032-01 3/2	河原部	鉢	L-015	SK34006	SK34006	26.6	12.0	7.6	口縁部 外：ロウロナデ、ロウロナデ、ナデ、鉄粉 内：ロウロナデ、鉄粉	調査：5/16/1 5/16/3	5/16/1 5/16/3	磨蝕・鉄粉
0229	032-02 3/2	河原部	鉢	L-015	SK34006	SK34006	9.0	11.7	8.4	底面 外：ロウロナデ、ロウロナデ、ナデ、磨蝕痕 内：ロウロナデ、鉄粉	調査：5.5/16/1 2.5/17/4	5.5/16/1 2.5/17/4	磨蝕・鉄粉
0230	033-02 3/2	河原部	土師部	L-015	SK34006	SK34006	7.0	12.5	8.0	底面 外：ロウロナデ、ロウロナデ、鉄粉 内：ロウロナデ、鉄粉	調査：5.5/18/4 5/16/3	5.5/18/4 5/16/3	磨蝕・鉄粉
0231	033-03 3/2	河原部	土師部	L-015	SK34006	SK34006	7.0	8.1	5.6	底面 外：ロウロナデ、ロウロナデ、鉄粉 内：ロウロナデ、鉄粉	調査：2.5/17/1 5/17/1	2.5/17/1 5/17/1	磨蝕・鉄粉 底面外周に磨蝕
0232	117-02 3/2	河原部	鉢	L-015	SK34006	SK34006	9.6	5.0	4.0	底面 外：ロウロナデ、ロウロナデ、染付、鉄粉 内：ロウロナデ、鉄粉	調査：2.5/18/1	2.5/18/1	磨蝕
0233	099-01 3/2	河原部	土師部	L-015	SK34006	SK34006	—	—	—	底面 外：ロウロナデ、ロウロナデ、鉄粉 内：ロウロナデ	調査：10/18/1 5/17/1	10/18/1 5/17/1	磨蝕・鉄粉
0234	117-01 3/2	河原部	鉢	L-015	SK34006	SK34006	—	—	4.6	底面 外：ロウロナデ、ロウロナデ、鉄粉 内：ロウロナデ	調査：2.5/17/2 10/17/1	2.5/17/2 10/17/1	磨蝕・鉄粉
0235	115-03 3/2	河原部	土師部	L-015	SK34006	SK34006	11.5	7.4	2.0	底面 外：ロウロナデ、鉄粉 内：ロウロナデ	調査：—	—	磨蝕・鉄粉
0236	095-01 3/2	河原部	土師部	L-016	SK34010	SK34010	23.0	—	—	口縁部 外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	調査：5.5/18/4	5.5/18/4	大塚・朝石系 外周緑色付着
0237	097-02 3/2	河原部	土師部	L-016	SK34010	SK34010	26.2	5.5	—	口縁部 外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	調査：5/16/4	5/16/4	大塚・朝石系
0238	099-01 3/2	河原部	土師部	L-016	SK34010	SK34010	26.0	5.0	—	口縁部 外：ヨコナデ、ナデ？ 内：ヨコナデ、ナデ	調査：2.5/18/4	2.5/18/4	大塚・朝石系 外周緑色付着
0239	097-01 3/2	河原部	土師部	L-016	SK34010	SK34010	27.8	—	—	口縁部 外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ	調査：5/16/4	5/16/4	大塚・朝石系 外周緑色付着
0240	119-02 3/2	河原部	土師部	L-016	SK34010	SK34010	—	—	6.4	底面 外：ロウロナデ、ロウロナデ、鉄粉、鉄粉 内：ロウロナデ、鉄粉	調査：2.5/18/2 5/17/3	2.5/18/2 5/17/3	磨蝕・鉄粉 底面外周に磨蝕

第四 - 6 表 遺物観察表6

報告 №	実施 期	種別	産地	ブリット	報告種類 部位	調査時 通称名	口徑 (cm)	容高 (cm)	底径 (cm)	備考	調査・論文・図表等	色調	特記事項
0241	08-02 3次	陶磁	豊	J-W16	SK34010	SK34010	13.8	—	—	底面 2/12	外：ナデ 内：ロクロナデ	2.5YR5/3	陶磁?
0242	04-05 3次	陶磁	山道または 山手橋	J-W17	SK35002	SK35009	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	無/0	蓬莱瀝青
0243	04-04 3次	土師器	山	—	SE35010 彫刻	SK35010 彫刻	—	—	6.2	底面 4/12	外：ロクロナデ、赤切縁 内：ロクロナデ	2.5YR6/4	ロクロ土師器
0244	11-08 3次	陶磁	山手橋	J-V18	SK35010	SK35010	—	—	6.0	底面 4/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5YR6/1	蓬莱瀝青
0245	09-05 3次	青磁	山	J-V18	SK35010	SK35010	14.2	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、彫輪 内：ロクロナデ、彫輪	黄：2.5YR/2 黒：5YR/2	
0246	04-03 3次	青磁	山	—	SK35010 彫刻	SK35010 彫刻	16.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、彫輪 内：ロクロナデ、彫輪	黄：無/0 黒：2.5YR/2	
0247	05-03 3次	陶磁	御岳	J-S14	SK36004	SK36004	13.2	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、彫輪 内：ロクロナデ、彫輪	黄：10YR8/3 黒：5YR/3	瀬戸・美濃
0248	06-04 3次	土師器	羽黒	J-V15	SK36007	SK36007	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	5YR6/4	外瀬戸行書
0249	107-01 3次	陶磁	片口鉢	J-V15	SK36007	SK36007	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5YR5/3 無/0	陶青
0250	09-06 3次	白磁	山	J-V15	SK36007	SE36007	14.0	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、彫輪 内：ロクロナデ、彫輪	黄：5YR/1 黒：10YR/1	陶青系
0251	06-04 3次	白磁	山	J-V15	SK36007	SE36007	—	—	5.4	底面 2/12	外：ロクロナデ、彫輪 内：ロクロナデ、彫輪	黄：無/0 黒：2.5YR/2	陶青系
0252	072-05 3次	土師器	山	J-W20	SK37003	SK37003	9.4	1.8	—	口縁部 5/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR7/3	浜み類書
0253	072-02 3次	土師器	山	J-W20	SK37003	SK37003	13.5	3.2	—	口縁部 9/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ、線刻 内：ヨコナデ	10YR8/3	線刻に線刻系
0254	073-02 3次	土師器	山?	J-W20	SK37003	SK37003	18.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	2.5YR/1	外瀬戸行書
0255	074-03 3次	陶磁	山手橋	J-W20	SK37003	SK37003	14.4	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、彫輪 内：ロクロナデ	2.5YR/1	蓬莱瀝青
0256	074-02 3次	陶磁	山手橋	J-W20	SK37003	SK37003	15.6	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5YR/2	陶青
0257	073-05 3次	陶磁	山手橋	J-W20	SK37003	SK37003	16.0	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5YR/1	蓬莱瀝青
0258	074-01 3次	陶磁	山手橋	J-W20	SK37003	SK37003	17.2	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	5Y7/1	蓬莱瀝青
0259	107-07 3次	陶磁	山手橋	J-W20	SK37003	SK37003	—	—	7.2	底面 1/12	外：ロクロナデ、赤切縁 内：ロクロナデ	無/0	蓬莱瀝青
0260	073-03 3次	陶磁	山手橋	J-W20	SK37003	SK37003	—	—	7.4	底面 6/12	外：ロクロナデ、赤切縁 内：ロクロナデ	2.5YR/1	蓬莱瀝青
0261	073-04 3次	陶磁	山手橋	J-W20	SK37003	SK37003	—	—	7.4	底面 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	5Y7/1	蓬莱瀝青
0262	074-04 3次	陶磁	山手橋	J-W20	SK37003	SK37003	—	—	7.4	底面 6/12	外：ロクロナデ、赤切縁 内：ロクロナデ	5Y7/1	蓬莱瀝青
0263	074-07 3次	陶磁	山岳	J-W20	SK37003	SK37003	8.4	2.0	4.2	底面 12/12	外：ロクロナデ、赤切縁 内：ロクロナデ	2.5YR/2	蓬莱瀝青
0264	074-05 3次	陶磁	山岳	J-W20	SK37003	SK37003	8.6	2.4	3.8	底面 12/12	外：ロクロナデ、赤切縁 内：ロクロナデ	2.5YR/1	蓬莱瀝青
0265	074-06 3次	陶磁	山岳	J-W20	SK37003	SK37003	8.8	1.9	4.2	口縁部 6/12	外：ロクロナデ、赤切縁 内：ロクロナデ	2.5YR/2	蓬莱瀝青
0266	107-08 3次	陶磁	山岳	J-W20	SK37003	SK37003	—	—	4.4	底面 3/12	外：ロクロナデ、赤切縁 内：ロクロナデ	無/0	蓬莱瀝青
0267	073-01 3次	陶磁	片口鉢	J-W20	SK37003	SK37003	40.0	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5YR/1	蓬莱
0268	108-01 3次	陶磁	片口鉢	J-W20	SK37003	SK37003	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	5YR6/2	陶青
0269	072-01 3次	陶磁	山	J-W20	SK37003	SK37003	—	—	—	底面 小片	外：タタキ（黄文の巻状工具?）、ナデ、彫輪 内：工具ナデ、ナデ?	黄：2.5YR/2 黒：1.5YR6/4	陶青?
0270	072-03 3次	青磁	山	J-W20	SK37003	SK37003	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、彫輪 内：ロクロナデ、彫輪	黄：5Y7/2 黒：2.5YR/1	
0271	069-01 3次	陶磁	山手橋	J-W17	SK37004	SK37004	—	—	7.0	底面 9/12	外：ロクロナデ、赤切縁 内：ロクロナデ	2.5YR/1	蓬莱瀝青
0272	069-02 3次	陶磁	山手橋	J-W17	SK37004	SK37004	—	—	8.0	底面 2/12	外：ロクロナデ、赤切縁 内：ロクロナデ	2.5YR/1 10YR7/2	
0273	069-04 3次	陶磁	山手橋	J-G21	SE37009	SK37009	18.0	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5YR/2	陶青
0274	069-05 3次	灰黒 陶磁?	山	J-G21	SE37009	SK37009	—	—	7.3	底面 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5YR/1	
0275	071-02 3次	陶磁	山岳	J-G21	SE37009 土師	SK37009 土師	8.0	1.6	5.0	底面 6/12	外：ロクロナデ、赤切縁 内：ロクロナデ	2.5YR/3	蓬莱瀝青
0276	067-02 3次	陶磁	山手橋	J-W18	SK37012	SK37012	14.8	—	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、輪刻 内：ロクロナデ	無/0	蓬莱瀝青
0277	069-03 3次	陶磁	山手橋	J-W18	SK37012	SK37012	—	—	7.0	底面 12/12	外：ロクロナデ、赤切縁 内：ロクロナデ	10YR7/1 10YR7/2	蓬莱瀝青 底面外面に磨書
0278	079-01 3次	陶磁	山	J-W18 J-119 2次	SK37012 P114 P111	SK37012 P114 P111	25.4	46.3	13.0	底面 8/12	外：ロクロナデ、ナデ、格子タタキ、線刻 内：ロクロナデ、ユビオサエ、ナデ	5Y5/1	陶青
0279	067-01 3次	陶磁	豊	J-W18	SK37012	SK37012	10.4	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、磨書文 内：ロクロナデ	無/0	陶青
0280	079-01 3次	陶磁	山	J-W18	SK37012	SK37012	47.2	—	—	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、格子タタキ 内：ロクロナデ、ユビオサエ、ナデ	10YR5/2	蓬莱

第IV - 7 表 遺物観察表7

報告 No.	発掘 No.	種別	基礎	グリッド	報告遺構 部位	調査時 遺構名	口径 (cm)	最高 (cm)	底径 (cm)	埋存度	調査・施工・発掘等	色調	特記事項
0281	033-04 4区	縄文 土器	深鉢	L-V3	SK41002 底部	SK41002 底部	—	—	—	口縁部 小片	外:ミガキ、赤褐色、ナデ 内:ミガキ、ナデ	7.5197/4	
0282	033-01 4区	縄文 土器	深鉢	L-V3	SK41002 底部	SK41002 底部	—	—	—	底部 小片	外:赤褐色、ミガキ 内:ミガキ	7.5197/4	
0283	033-02 4区	縄文 土器	深鉢	L-V3	SK41002 底部	SK41002 底部	—	—	—	底部 小片	外:赤褐色 内:ミガキ	7.5196/4	
0284	033-05 4区	縄文 土器	深鉢	L-V3	SK41002 底部	SK41002 底部	—	—	—	底部 小片	外:赤褐色 内:ミガキ	7.5197/4	
0295	033-03 4区	縄文 土器	深鉢	L-V3	SK41002 底部	SK41002 底部	—	—	11.0	底部 2/12	外:赤褐色、ナデ 内:ミガキ	7.5196/4	
0296	036-04 4区	陶器	鉢	L-V3	SK41002 底部	SK41002 底部?	—	—	—	口縁部 小片	外:ロクロナデ、工夫ナデ、ユビオサエ 内:ロクロナデ、ナデ	7.5196/4 2.515/2	底書
0297	004-02 4区	土師器	皿	L-14	SK41004	SK41004	6.3	1.5	—	口縁部 12/12	外:ロクロナデ、赤切焼 内:ロクロナデ	7.5196/6	大阪系 ロクロ土師器 内外面磨付書
0298	004-03 4区	土師器	皿	L-14	SK41004	SK41004	6.4	1.4	—	口縁部 6/12	外:ロクロナデ、赤切焼 内:ロクロナデ	7.5197/6	大阪系 ロクロ土師器 外面磨付書
0299	004-04 4区	土師器	皿	L-13	SK41007	SK41007	11.4	3.1	—	口縁部 3/12	外:ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内:ヨコナデ、ナデ	10198/2	
0290	004-05 4区	土師器	燈台	L-13	SK41007	SK41007	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナデ、ナデ、押延焼? 内:ヨコナデ	7.5195/4	大阪・堺系 外面磨付書
0291	004-01 4区	土師器	鉢	L-13	SK41009	SK41009	26.5	—	—	口縁部 2/12	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	10197/4	河内勢系 外面磨付書
0292	037-02 4区	陶器	山形鉢	L-13	SK41009	SK41009	—	—	—	口縁部 小片	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	2.519/1	
0293	007-07 4区	土師器	皿	L-P5	SK41010 No.6	SK41010 No.6	9.3	2.7	—	口縁部 4/12	外:ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内:ヨコナデ、ナデ	2.519/1	内外面磨付書
0294	006-02 4区	土師器	皿	L-P5	SK41010	SK41010 No.3	10.5	3.2	—	口縁部 10/12	外:ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内:ヨコナデ、ナデ	10198/2	
0295	006-03 4区	土師器	皿	L-P5	SK41010	SK41010 No.5	10.6	3.0	—	口縁部 6/12	外:ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内:ヨコナデ、ナデ	10198/1	
0296	006-04 4区	土師器	皿	L-P5	SK41010	SK41010 No.9	10.6	3.3	—	口縁部 4/12	外:ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内:ヨコナデ、工夫ナデ	10198/2	
0297	009-06 4区	土師器	皿	L-P5	SK41010	SK41010 No.3	10.8	3.1	—	口縁部 3/12	外:ヨコナデ、ナデ 内:ヨコナデ、ナデ	10198/2	摩利鉢器
0298	009-03 4区	土師器	皿	L-P5	SK41010	SK41010 No.1	11.4	3.3	—	口縁部 2/12	外:ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内:ヨコナデ、工夫ナデ、ナデ	10198/3	
0299	009-04 4区	土師器	皿	L-P5	SK41010	SK41010	11.6	—	—	口縁部 4/12	外:ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内:ヨコナデ、工夫ナデ、ナデ	2.519/1	
0300	009-05 4区	土師器	皿	L-P5	SK41010	SK41010	12.0	—	—	口縁部 3/12	外:ヨコナデ、ナデ 内:ヨコナデ、ナデ	10198/2	摩利鉢器
0301	007-08 4区	土師器	皿	L-010	SE42001	SE42001	9.8	—	—	底部 3/12	外:ヨコナデ、ナデ 内:ヨコナデ	2.519/1	
0302	010-04 4区	土師器	皿	L-013	SE42001	SE42001 上層	11.5	3.4	—	口縁部 5/12	外:ヨコナデ、ナデ 内:ヨコナデ、工夫ナデ	10198/2	
0303	007-06 4区	土師器	皿	L-010	SE42001	SE42001 中層	11.5	—	—	口縁部 3/12	外:ヨコナデ、ナデ 内:ヨコナデ、工夫ナデ	2.519/1	
0304	009-06 4区	土師器	皿	L-P11	SE42001	SE42001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内:ヨコナデ、ナデ	10198/2	内外面磨付書
0305	007-03 4区	土師器	台付皿	L-013	SE42001	SE42001 3層	—	—	4.2	底部 12/12	外:ヨコナデ、ナデ 内:ヨコナデ、ナデ	10198/2	
0306	007-02 4区	土師器	台付皿	L-013	SE42001	SE42001 3層	—	—	5.5	底部 3/12	外:ヨコナデ、ナデ 内:ヨコナデ、ナデ	10198/2	
0307	007-07 4区	土師器	台付皿	L-010	SE42001	SE42001 下層	—	—	5.6	底部 12/12	外:ロクロナデ、ナデ 内:ロクロナデ?	10198/2	
0308	007-01 4区	土師器	台付皿	L-013	SE42001	SE42001 上層	—	—	5.7	底部 5/12	外:ヨコナデ、ナデ 内:ヨコナデ、ナデ	10198/2	
0309	009-03 4区	土師器	台付皿	L-P11	SE42001	SE42001 上層	—	—	6.8	底部 9/12	外:ロクロナデ、ナデ、赤切焼 内:ロクロナデ	7.5198/2	
0310	008-01 4区	土師器	羽釜	L-013	SE42001	SE42001 3層	11.2	—	—	口縁部 3/12	外:ヨコナデ、ハクメ 内:ヨコナデ、ナデ	7.5196/3 10197/3	河内勢系 内外面磨付書
0311	007-04 4区	土師器	羽釜	L-013	SE42001	SE42001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナデ、ハクメ 内:ヨコナデ	10196/2	河内勢系 外面磨付書
0312	007-05 4区	土師器	羽釜	L-013	SE42001	SE42001 3層	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ、ナデ	10196/2	河内勢系 外面磨付書
0313	008-04 4区	土師器	羽釜	L-P11	SE42001	SE42001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナデ、ハクメ 内:ヨコナデ、工夫ナデ	10196/2	河内勢系
0314	008-05 4区	土師器	羽釜	L-P11	SE42001	SE42001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナデ、ハクメ 内:ヨコナデ、工夫ナデ	7.5196/3	河内勢系
0315	030-03 4区	陶器	山形鉢	L-013	SE42001	SE42001 上層	—	—	7.4	底部 3/12	外:ロクロナデ、赤切焼、磨緑焼 内:ロクロナデ	10197/1	尾張系
0316	030-01 4区	陶器	鉢	L-P11	SE42001	SE42001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	2.519/1	底書
0317	010-02 4区	白磁	皿	L-013	SE42001	SE42001 上層	—	—	4.4	底部 12/12	外:ロクロナデ、磨緑 内:ロクロナデ、磨緑	表: 黒/0 裏: 10197/1	福徳書系
0318	010-01 4区	白磁	皿	L-013	SE42001	SE42001 上層	8.8	1.4	4.8	口縁部 3/12	外:ロクロナデ、磨緑、灰文、磨緑 内:ロクロナデ、磨緑	表: 黒/0 裏: 黒/0	
0319	010-03 4区	白磁	皿	L-P11	SE42001	SE42001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外:ロクロナデ、磨緑 内:ロクロナデ、磨緑	表: 黒/0 裏: 5047/1	福徳書系
0320	009-02 4区	石製品	硯	L-010	SE42001	SE42001 中層	—	幅 5.0	厚さ 1.0	小片	磨緑	—	

第IV - 8 表 遺物観察表8

報告 No.	実用 No.	種別	用途	グリップ	報告者 氏名	調査時 間	口徑 (cm)	容高 (cm)	口径 (cm)	容深 (cm)	残存度	調査・施工・備考等	色調	特記事項
0321	019-1 4次	鉄製品	刀子?	I-013	SE42001	SE42001 下層	—	—	—	口径 5.7	半欠	外:ロクロナデ、糸切機、ナデ 内:ナデ	—	
0322	019-07 4次	土師器	台付皿	I-P11	SE42003	SE42003	—	—	5.4	口径 4.7/2	—	外:ロクロナデ、糸切機、ナデ 内:ナデ	10YR8/2	
0323	019-06 4次	土師器	台付皿	I-P11	SE42003	SE42003 中層	—	—	7.2	口径 4.7/2	—	外:ロクロナデ、糸切機 内:ナデ	2.5YR/1	
0324	019-05 4次	土師器	鍋	I-P11	SE42003	SE42003 下層	—	—	—	口径部 小欠	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	1.5YR7/2	底付勢系	
0325	057-07 4次	鉄製品	鉄鍋	I-P11	SE42003	SE42003	—	—	口径 1.3	口径 5.7	一部欠	—	—	製法式
0326	019-08 4次	土師器	皿	I-P12	SE42004	SE42004	—	—	—	口径部 3/7/2	外:ナデ? 内:ナデ?	—	10YR8/2	
0327	038-02 4次	陶器	碗	I-07	SK42008	SK42008	—	—	5.1	口径部 4.7/2	外:ロクロナデ、 内:ロクロナデ、鉄鍋	—	黄:1.5YR/2 輪:1.5YR/3	瀬戸・美濃
0328	038-04 4次	陶器	碗	I-07	SK42008	SK42008	—	—	5.3	口径部 3/7/2	外:ロクロナデ、ロクロナデ、鉄鍋 内:ロクロナデ、鉄鍋	—	黄:10YR7/3 輪:1.5YR/3	瀬戸・美濃
0329	036-06 4次	陶器	皿	I-07	SK42008	SK42008	13.0	3.9	4.6	口径部 12/12	外:ロクロナデ、ロクロナデ、鉄鍋 内:ロクロナデ、鉄鍋	—	黄:10YR8/3 輪:1.5YR/1	肥後系 内山重仁蔵き板、外 山重仁蔵
0330	038-05 4次	陶器	皿	I-07	SK42008	SK42008	—	—	6.0	口径部 2/7/2	外:ロクロナデ、鉄鍋 内:ロクロナデ、鉄鍋	—	黄:10YR8/2 輪:1.5YR/3	瀬戸・美濃
0331	014-03 4次	土師器	羽蓋	I-08	SK43002	SK43002	—	—	—	口径部 小欠	外:ヨコナデ、ハクモ 内:ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ	—	10YR8/2 10YR7/2	底付勢系
0332	014-07 4次	土師器	皿	I-08	SK43004	SK43004	12.0	3.2	—	口径部 5/7/2	外:ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内:ヨコナデ、ナデ	—	2.5YR/1	
0333	015-01 4次	土師器	増地	I-L4	SK44001	SK44001	23.2	—	—	口径部 5/7/2	外:ヨコナデ、工具ナデ 内:ヨコナデ、工具ナデ	—	1.5YR8/3	大塚・朝石系 外山重仁蔵
0334	017-01 4次	土師器	増地	I-L4	SK44001	SK44001	26.0	—	—	口径部 4/7/2	外:ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ、工具ナデ 内:ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	—	1.5YR8/2 5YR8/6	大塚・朝石系
0335	018-02 4次	土師器	鍋	I-L4	SK44001	SK44001	—	—	—	口径部 小欠	外:ヨコナデ、ユビオサエ 内:ヨコナデ	—	10YR7/3	底付勢系 内山重仁蔵
0336	042-05 4次	陶器	天目黒碗	I-L4	SK44001	SK44001	11.6	—	—	口径部 2/7/2	外:ロクロナデ、ロクロナデ、鉄鍋 内:ロクロナデ、鉄鍋	—	黄:1.5YR/2 輪:1.5YR/2	瀬戸・美濃
0337	042-04 4次	陶器	天目黒碗	I-L4	SK44001	SK44001	—	—	5.4	口径部 2/7/2	外:ロクロナデ、ロクロナデ、鉄鍋 内:ロクロナデ、鉄鍋	—	黄:1.5YR/2 輪:1.5YR/2	瀬戸・美濃
0338	043-05 4次	陶器	鉢	I-J1	SK44005	SK44005	—	—	12.8	口径部 3/7/2	外:ロクロナデ、ロクロナデ、鉄鍋 内:ロクロナデ、鉄鍋	—	10YR8/3	瀬戸・美濃 内山重仁蔵き板
0339	072-01 4次	陶器	鉢鉢	I-J1	SK44005	SK44005	11.8	7.1	6.6	口径部 4/7/2	外:ロクロナデ、ロクロナデ、鉄鍋 内:ロクロナデ、鉄鍋	—	黄:10YR8/3 輪:1.5YR/4	瀬戸・美濃 内山重仁蔵き板
0340	071-02 4次	磁器	皿	I-J1	SK44005	SK44005	13.4	4.4	7.8	口径部 5/7/2	外:ロクロナデ、染付、繪花、鉄鍋 内:ロクロナデ、染付、鉄鍋	—	黄:1.5YR/1	肥後系 コンニャク印刷
0341	057-01 4次	鉄製品	灯	I-J1	SK44005	SK44005	—	—	口径 1.0	口径 0.9	一部欠	—	—	
0342	044-06 4次	陶器	徳利	I-J2	SE44006	SE44006	3.2	—	—	口径部 3/7/2	外:ロクロナデ、鉄鍋 内:ロクロナデ、鉄鍋	—	黄:10YR8/3 輪:10YR7/3 10YR8/4	瀬戸・美濃
0343	018-03 4次	青磁	燈	I-J2	SE44006	SE44006	—	—	—	口径部 小欠	外:ロクロナデ、ロクロナデ、鉄鍋 内:ロクロナデ	—	黄:10YR8/2 輪:1.5YR7/1	
0344	056-08 4次	鉄製品	灯	I-J2	SE44006	SE44006	—	—	口径 0.7	口径 0.5	小欠	—	—	
0345	056-07 4次	鉄製品	灯	I-J2	SE44006	SE44006	—	—	—	口径 1.4	口径 1.8	一部欠	—	
0346	043-04 4次	陶器	碗	I-05	SK44008	SK44008 上層	12.2	5.4	4.2	口径部 12/12	外:ロクロナデ、ロクロナデ、鉄鍋 内:ロクロナデ、鉄鍋	—	黄:10YR7/2 輪:2.5YR/2	瀬戸・美濃
0347	045-01 4次	陶器	鉢	I-05	SK44008	SK44008	—	—	13.7	口径部 3/7/2	外:ロクロナデ、ロクロナデ、鉄鍋 内:ロクロナデ	—	2.5YR/2	肥後
0348	054-04 4次	鉄製品	灯	I-05	SK44008	SK44008	—	—	口径 1.0	口径 0.8	小欠	—	—	
0349	056-05 4次	鉄製品	金具?	I-05	SK44008	SK44008	—	—	口径 1.4	口径 1.8	小欠	—	—	
0350	018-04 4次	土師器	皿	I-J5	SK44009	SK44009	6.5	1.2	—	口径部 12/12	外:ロクロナデ、糸切機 内:ロクロナデ、ナデ	—	1.5YR8/4	大塚系 ロクロナデ、鉄鍋
0351	045-02 4次	陶器	皿	I-J5	SK44009	SK44009	11.6	3.2	6.3	口径部 12/12	外:ロクロナデ、ロクロナデ、鉄鍋、鉄鍋 内:ロクロナデ、鉄鍋	—	黄:10YR8/3 輪:10YR8/3 5YR7/1	瀬戸・美濃
0352	044-03 4次	陶器	香炉	I-J5	SK44009	SK44009	10.6	6.1	7.1	口径部 1/7/2	外:ロクロナデ、ロクロナデ、鉄鍋 内:ロクロナデ、鉄鍋	—	黄:2.5YR/3 輪:2.5YR/3	瀬戸・美濃
0353	018-05 4次	土師器	土鍋	I-J5	SK44009	SK44009	黄:3.4	—	口径 3.0	—	寛容	外:ナデ	10YR7/1	21.7g
0354	043-03 4次	陶器	山手碗	I-L4	SK44010	SK44010	—	—	8.6	口径部 2/7/2	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	—	2.5YR/2	
0355	044-05 4次	陶器	碗	I-L4	SK44010	SK44010	—	—	4.8	口径部 12/12	外:ロクロナデ、鉄鍋 内:ロクロナデ、ロクロナデ	—	黄:10YR8/3 輪:10YR8/3	瀬戸・美濃?
0356	017-04 4次	土師器	皿	I-66	SK44012	SK44012 下層	11.3	3.4	—	口径部 7/7/2	外:ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内:ヨコナデ、工具ナデ	—	2.5YR/2	
0357	017-02 4次	土師器	増地	I-66	SK44012	SK44012	23.0	—	—	口径部 3/7/2	外:ヨコナデ、ナデ 内:ヨコナデ、工具ナデ	—	1.5YR8/3	大塚・朝石系
0358	044-01 4次	陶器	山手碗	I-F1	SK44013	SK44013 下層	16.4	5.4	7.3	口径部 5/7/2	外:ロクロナデ、糸切機 内:ロクロナデ	—	2.5YR/1	瀬戸・美濃 内山重仁蔵き板
0359	044-02 4次	陶器	山手碗	I-F1	SK44013	SK44013 下層	16.4	—	—	口径部 2/7/2	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	—	2.5YR/1	瀬戸型
0360	044-04 4次	陶器	山手碗	I-F1	SK44013	SK44013 下層	16.8	—	—	口径部 1/7/2	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	—	2.5YR/2	瀬戸型

第IV - 9表 遺物観察表9

報告 No.	実測 No.	種別	番地	グリッド	報告遺構 部位	調査時 遺構名	口 径 (cm)	最高 (cm)	底 径 (cm)	残存 度	調査・施工・熟考等	色調	特記事項
0361	043-01 4次	陶器	山手線	I-F1	SK44013	SK44013	17.6	—	—	口縁部 3/12	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	5/17/1	陶器型
0362	019-01 4次	土製品	移動式 カマド	I-F1	SK44013	SK44013	29.8	—	—	口縁部 1/12	外: ヨコナデ、ハケム、ユビオサエ 内: ヨコナデ、工員ナデ	5/17/4 7.5/16/2	調整または両内?
0363	048-02 4次	陶器	山手線	I-F1	SK44016	SK44016	14.4	—	—	口縁部 1/12	外: ロクロナデ、ナデ 内: ロクロナデ	16/0	陶器型
0364	048-03 4次	灰釉 陶器	山手線	I-G1	SK44018	SK44018	16.4	—	—	口縁部 1/12	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	16/0	
0365	022-01 4次	土師器	茶室	I-F3	SK44019	SK44019	11.6	—	—	口縁部 16/12	外: ヨコナデ、ナデ、ハケム、ユビオサエ、クズリ 内: ヨコナデ、工員ナデ、粘土練焼合	5/17/6 7.5/17/4	陶器型系 外底縁付
0366	048-04 4次	陶器	番付	I-F3	SK44019	SK44019	13.8	—	—	口縁部 2/12	外: ロクロナデ、陶輪 内: ロクロナデ、陶輪	16/0 1.5/18/2	陶器・美濃
0367	048-06 4次	陶器	番付	I-F3	SK44019	SK44019	34.8	—	—	口縁部 1/12	外: ロクロナデ、ロクロナデ、陶輪 内: ロクロナデ、陶輪	16/0 2.5/18/3	陶器・美濃
0368	048-05 4次	陶器	番付	I-F3	SK44019	SK44019	—	6.2	底面 6/12	外: ロクロナデ、ナデ、陶輪 内: ロクロナデ、陶輪	16/0 1.5/18/2	陶器・美濃	
0369	024-03 4次	磁器	硯	I-F3	SK44019	SK44019	11.1	5.3	4.8	底面 6/12	外: ロクロナデ、ロクロナデ、染付、陶輪 内: ロクロナデ、陶輪	16/0 1.5/18/2	磁器系
0370	024-04 4次	磁器	皿	I-F3	SK44019	SK44019	14.2	3.8	7.8	口縁部 6/12	外: ロクロナデ、ロクロナデ、陶輪 内: ロクロナデ、染付、陶輪	16/0 2.5/18/1	磁器系 コンニャク印刷
0371	071-01 4次	陶器	土瓶	J-B5	SK44020	SK44020	16.0	—	—	口縁部 9/12	外: ロクロナデ、ロクロナデ、陶輪 内: ロクロナデ、陶輪	16/0 1.5/18/2	陶器・信濃系?
0372	071-02 4次	磁器	硯	J-S5	SK44022	SK44022	12.0	5.1	4.8	口縁部 3/12	外: ロクロナデ、ロクロナデ、染付、陶輪 内: ロクロナデ、陶輪	16/0 1.5/18/2	磁器系 硯系/目録割ぎ
0373	071-03 4次	磁器	硯	J-S5	SK44022	SK44022	—	—	4.2	底面 12/12	外: ロクロナデ、ロクロナデ、染付、陶輪 内: ロクロナデ、陶輪	16/0	磁器系 硯系/目録割ぎ
0374	025-03 4次	陶器	山田	J-B4	SK44023	SK44023	8.3	2.7	4.3	底面 3/12	外: ロクロナデ、磨製焼 内: ロクロナデ	2.5/18/1	産地調査型
0375	027-04 4次	白磁	硯	J-B4	SK44023	SK44023	—	—	—	口縁部 小片	外: ロクロナデ、陶輪 内: ロクロナデ、陶輪	16/0 1.5/18/1	陶器型 コンニャク系
0376	073-04 4次	陶器	皿	I-A4	SK44025	SK44025 中腹	5.7	1.7	4.3	口縁部 6/12	外: ロクロナデ、陶輪 内: ロクロナデ、ロクロナデ	16/0 2.5/18/4	陶器・美濃 内外底縁付
0377	073-03 4次	陶器	皿	I-A4	SK44025	SK44025 中腹	8.6	3.0	5.0	口縁部 3/12	外: ロクロナデ、陶輪 内: ロクロナデ、ロクロナデ	16/0 1.5/18/2	陶器・美濃
0378	073-05 4次	磁器	硯	I-A4	SK44025	SK44025 上腹	8.0	5.0	3.4	底面 4/12	外: ロクロナデ、ロクロナデ、染付、陶輪 内: ロクロナデ、陶輪	16/0 1.5/18/2	磁器系
0379	073-06 4次	磁器	硯	I-A4	SK44025	SK44025 上腹	—	—	5.8	底面 5/12	外: ロクロナデ、ロクロナデ、染付、陶輪 内: ロクロナデ、染付、陶輪	16/0 1.5/18/2	磁器系
0380	077-07 4次	土製品	L字状製品	I-A4	SK44025	SK44025 上腹	—	幅 5.7	厚さ 1.3	半欠	凸: ヨコナデ、ナデ 凹: 工員ナデ?	16/0/2	断面L字形 凹凸面縁付
0381	032-05 4次	石製品	円筒状製品	I-A6	SK44025	SK44025 中腹	表径 3.7	短径 3.5	厚さ 6.8	—	縁部打ち欠、表面磨製	—	3.5g
0382	032-04 4次	石製品	円筒状製品	I-A6	SK44025	SK44025 上腹	表径 6.4	短径 6.3	厚さ 1.2	—	縁部打ち欠、表面磨製	—	6.1g
0383	057-02 4次	鉄製品	板状製品	I-A4	SK44025	SK44025 上腹	—	幅 2.5	厚さ 0.7	小片	—	—	—
0384	057-03 4次	鉄製品	釘	I-A4	SK44025	SK44025 上腹	—	幅 1.4	厚さ 1.0	一部欠	—	—	—
0385	026-01 4次	土師器	燈台	I-C2	SK44027	SK44027	24.0	—	—	口縁部 6/12	外: ヨコナデ、ナデ 内: ヨコナデ、ナデ	5/18/6	大瓶・朝石系 外底縁付
0386	071-01 4次	陶器	小坪	I-C2	SK44027	SK44027	6.6	4.5	2.8	底面 5/12	外: ロクロナデ、ロクロナデ、磨製、陶輪 内: ロクロナデ、陶輪	16/0 1.5/18/2	陶器・美濃
0387	052-05 4次	陶器	山手線	J-S4	SK44028	SK44028	—	—	7.3	底面 3/12	外: ロクロナデ、赤土陶 内: ロクロナデ	2.5/17/2	陶器型 外底縁付
0388	077-03 4次	陶器	硯	J-S4	SK44028	SK44028	9.5	4.7	4.0	底面 6/12	外: ロクロナデ、染付、陶輪 内: ロクロナデ、陶輪	16/0 1.5/18/2	陶器・美濃
0389	053-02 4次	陶器	皿	J-S4	SK44028	SK44028	11.2	3.2	4.3	口縁部 4/12	外: ロクロナデ、ロクロナデ、陶輪 内: ロクロナデ、陶輪	16/0 1.5/18/2	陶器系
0390	053-03 4次	陶器	鉢?	J-S4	SK44028	SK44028	—	—	7.0	底面 5/12	外: ロクロナデ、陶輪 内: ロクロナデ、陶輪	16/0 1.5/18/2	陶器・美濃
0391	029-01 4次	磁器	皿	J-S4	SK44028	SK44028	13.8	3.8	7.2	口縁部 7/12	外: ロクロナデ、染付、陶輪 内: ロクロナデ、染付、陶輪	16/0 1.5/18/2	磁器系 コンニャク印刷
0392	027-05 4次	瓦	軒瓦	J-S4	SK44028	SK44028	—	—	—	瓦当部 破片	外: クズリ、ナデ 内: ナデ	16/0	瓦文、凹文
0393	029-03 4次	石製品	磁石	J-S4	SK44028	SK44028	—	幅 4.1	厚さ 2.7	半欠	磨製	—	132.0g
0394	029-04 4次	石製品	硯	J-S4	SK44028	SK44028	—	幅 6.9	厚さ 3.4	半欠	磨製	—	—
0395	054-04 4次	青磁	硯	I-J5	SK44031	SK44031	—	—	5.4	底面 8/12	外: ロクロナデ、陶輪 内: ロクロナデ、陶輪	16/0 1.5/18/2	陶器・美濃
0396	073-03 4次	土師器	皿	I-H5	SK44032	カクラン1	7.2	1.5	2.6	口縁部 4/12	外: ロクロナデ、赤土陶、陶輪 内: ロクロナデ、陶輪	2.5/18/4 1.5/18/2	大瓶系 口クロ土師器 内外底縁付
0397	079-01 4次	陶器	皿	I-H5	SK44032	カクラン1	33.0	—	—	口縁部 1/12	外: ロクロナデ、陶輪 内: ロクロナデ、ユビオサエ、工員ナデ	16/0 1.5/18/2	陶器
0398	079-02 4次	陶器	皿	I-H5	SK44032	カクラン1	34.0	—	—	口縁部 2/12	外: ロクロナデ、磨製 内: ロクロナデ、ユビオサエ	2.5/18/1	陶器
0399	079-02 4次	磁器	硯	I-H5	SK44032	カクラン1	11.0	—	—	口縁部 4/12	外: ロクロナデ、ロクロナデ、染付、陶輪 内: ロクロナデ、染付、陶輪	16/0 1.5/18/2	磁器系
0400	079-04 4次	土製品	人形	I-H5	SK44032	カクラン1	—	幅 4.2	—	半欠	外: 磨製 内: ナデ、ユビオサエ	7.5/18/4	

第IV-10表 遺物観察表10

報告 番号	発行 年	種別	形態	グリップ	報告者 氏名	調査時 遺構名	口径 (cm)	高さ (cm)	厚さ (cm)	保存度	調査・施工・発掘等	色調	特記事項
0401	096-06 4次	陶器	陶	L-66	SKA4033	カクラン1	—	—	4.6	底面 5/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、刷毛目文様、 内:ロクロナデ	表:7.5YR4/7 輪:10YR5/1, 10YR6/2	肥前系
0402	095-04 4次	陶器	陶	L-66	SKA4033	カクラン1	10.0	5.8	3.8	口縁部 3/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ7、染付、 内:ロクロナデ、染付	表:15/0	肥前系
0403	097-03 4次	陶器	陶	L-66	SKA4033	カクラン1	10.5	5.2	4.0	口縁部 10/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ7、染付、 内:ロクロナデ、染付	表:16/0	肥前系 灰、目録別
0404	077-03 4次	陶器	陶	L-72	SKA4034	カクラン①	11.0	6.5	4.6	底面 12/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、 内:ロクロナデ、染付	表:17/0 輪:5YR5/6	瀬戸・美濃
0405	078-01 4次	陶器	陶	L-72	SKA4034	カクラン①	9.9	5.0	3.8	口縁部 4/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、染付、 内:ロクロナデ、染付	表:5YR7/1	肥前系
0406	076-05 4次	土師器	滑埴	K-125	SKA4035	カクラン	28.4	—	—	口縁部 2/12	外:ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内:ヨコナデ	5YR5/4	大塚・朝石系 内装保存行
0407	076-04 4次	陶器	陶	K-125	SKA4035	カクラン	8.4	—	—	口縁部 2/12	外:ロクロナデ、色絵、 内:ロクロナデ、色絵、 内:ロクロナデ、染付、 内:ロクロナデ、染付、	表:16/0	肥前系
0408	076-02 4次	陶器	陶	K-125	SKA4035	カクラン	10.6	6.0	3.6	底面 10/12	外:ロクロナデ、染付、 内:ロクロナデ、染付、	表:5YR7/1	肥前系
0409	077-01 4次	陶器	紅小皿	K-125	SKA4035	カクラン	6.0	1.5	2.0	底面 8/12	外:藍押し、 内:藍押し、	表:16/0	肥前系
0410	076-03 4次	陶器	蓋	K-125	SKA4035	カクラン	8.8	2.7	—	口縁部 6/12	外:ロクロナデ、染付、 内:ロクロナデ、染付、	表:5YR7/1	肥前系
0411	076-01 4次	陶器	鉢	K-125	SKA4035	カクラン	16.8	8.2	10.1	口縁部 1/12	外:ロクロナデ、染付、 内:ロクロナデ、染付、	表:5YR7/1	肥前系
0412	077-02 4次	土製品	土鍋	K-125	SKA4035	カクラン	長さ 4.4	幅 1.2	—	完好	外:ナデ	2.5YR6/4	4.8g
0413	081-01 4次	陶器	磁鉢	L-H1	SKA4036	カクラン?	30.6	11.7	13.8	底面 2/12	外:ロクロナデ、ナデ 内:ロクロナデ、磁目	2.5YR5/4	瀬戸・朝石系
0414	081-02 4次	陶器	陶	L-H1	SKA4036	カクラン?	10.6	5.7	4.0	口縁部 11/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、染付、 内:ロクロナデ、染付、	表:16/0	肥前系
0415	080-01 4次	土師器	滑埴	L-F3	SKA4037	カクラン1	24.4	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナデ、ナデ、ナズリ 内:ヨコナデ、工真ナデ	5YR4/2	大塚・朝石系 内装保存行
0416	082-03 4次	陶器	陶	L-J4	SKA4038	カクラン①	11.8	4.5	4.0	底面 9/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、 内:ロクロナデ、染付、	表:16/0 輪:7.5YR2	肥前・信濃系?
0417	082-01 4次	陶器	片口鉢	L-J4	SKA4038	カクラン①	16.0	8.6	7.0	口縁部 10/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、 内:ロクロナデ、染付、	表:12.5YR2 輪:5YR2	肥前系
0418	082-02 4次	陶器	陶	L-J4	SKA4038	カクラン①	10.8	5.4	3.8	底面 12/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、染付、 内:ロクロナデ、染付、	表:16/0	肥前系
0419	080-02 4次	陶器	蓋	L-G5	SKA4039	カクラン1	6.0	—	—	口縁部 6/12	外:ロクロナデ、 内:ロクロナデ	表:7.5YR6/4 輪:12.5YR4	瀬戸・美濃
0420	080-04 4次	陶器	蓋	L-G5	SKA4039	カクラン1	—	—	7.5	口縁部 10/12	外:ロクロナデ、赤切堀、 内:ロクロナデ	表:7.5YR7/2 輪:10YR2	瀬戸・美濃
0421	080-05 4次	陶器	香たばは器	L-G5	SKA4039	カクラン1	—	—	8.4	底面 8/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、 内:ロクロナデ	表:16/0 輪:10YR3/4	瀬戸・美濃
0422	090-01 4次	陶器	陶	L-G5	SKA4039	カクラン1	10.5	5.7	4.3	口縁部 6/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、染付、 内:ロクロナデ、染付、	表:16/0	肥前系
0423	031-05 4次	青磁	香炉	L-G5	SKA4039	カクラン1	11.6	—	—	口縁部 2/12	外:ロクロナデ、 内:ロクロナデ、	表:16/0 輪:5G7/1	信濃青磁
0424	084-04 4次	土師器	皿	J-K3	SKA4040	カクラン1	8.9	—	—	口縁部 2/12	外:ロクロナデ、 内:ロクロナデ、	7.5YR7/4 輪:透	大塚系 ロクロナズリ
0425	085-02 4次	陶器	陶	J-K3	SKA4040	カクラン1	6.8	5.8	3.3	底面 12/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、 内:ロクロナデ、染付、	表:12.5YR1	肥前・美濃
0426	085-01 4次	陶器	陶	J-K3	SKA4040	カクラン1	7.7	4.9	3.5	口縁部 12/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、染付、 内:ロクロナデ、染付、	表:10YR1	肥前系
0427	086-03 4次	土師器	皿	L-O3	SKA4042	カクラン	6.5	6.9	4.6	口縁部 2/12	外:ロクロナデ、赤切堀、 内:ロクロナデ、	7.5YR7/6 輪:透	大塚系 ロクロナズリ
0428	086-02 4次	土師器	皿	L-O3	SKA4042	カクラン	6.5	7.1	3.8	口縁部 5/12	外:ロクロナデ、赤切堀、 内:ロクロナデ、	7.5YR7/6 輪:透	大塚系 ロクロナズリ
0429	086-01 4次	土師器	皿	L-O3	SKA4042	カクラン	10.0	1.8	5.4	口縁部 1/12	外:ロクロナデ、赤切堀、 内:ロクロナデ、	7.5YR7/6 輪:透	大塚系 ロクロナズリ
0430	086-07 4次	陶器	陶	L-J2	SKA4043	カクラン	10.8	6.0	5.3	口縁部 10/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、染付、 内:ロクロナデ、染付、	表:10YR3/3 輪:10YR1	肥前・美濃?
0431	087-06 4次	陶器	皿	J-V4	SKA4044	カクラン	24.8	—	—	口縁部 3/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、 内:ロクロナデ、染付、	表:12.5YR2 輪:5YR1	瀬戸・美濃
0432	087-05 4次	陶器	仏具類	J-V4	SKA4044	カクラン	—	—	4.0	底面 12/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、染付、 内:ロクロナデ、染付、	表:10YR8/1 輪:16/0	肥前系
0433	087-04 4次	陶器	陶	J-V4	SKA4044	カクラン	9.6	5.2	3.5	口縁部 12/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、染付、 内:ロクロナデ、染付、	表:16/0	肥前系
0434	082-04 4次	陶器	陶	L-C2	SKA4046	カクラン1	11.8	7.2	5.3	底面 12/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、 内:ロクロナデ、	表:10YR8/2 輪:5YR3/2	瀬戸・美濃
0435	088-03 4次	陶器	仏具類	L-C2	SKA4046	カクラン1	6.0	—	—	口縁部 4/12	外:ロクロナデ、 内:ロクロナデ、	表:16/0 輪:7.5YR2	瀬戸・美濃
0436	088-02 4次	陶器	磁利	L-C2	SKA4046	カクラン1	—	—	9.8	底面 5/12	外:ロクロナデ、 内:ロクロナデ、	表:5YR7/4 輪:10Y5/4	瀬戸・美濃
0437	089-02 4次	陶器	陶	L-C2	SKA4046	カクラン1	—	—	4.0	口縁部 12/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、染付、 内:ロクロナデ、	表:16/0	肥前系
0438	088-04 4次	陶器	紅小皿	L-C2	SKA4046	カクラン1	4.6	1.5	1.4	口縁部 3/12	外:藍押し、 内:藍押し、	表:16/0	肥前系
0439	089-01 4次	陶器	蓋	L-C2	SKA4046	カクラン1	—	—	3.2	横断面 12/12	外:ロクロナズリ、ロクロナデ、染付、 内:ロクロナデ、染付、	表:16/0	肥前系
0440	031-02 4次	白磁	陶	L-C2	SKA4046	カクラン1	—	—	—	口縁部 9/12	外:ロクロナデ、 内:ロクロナデ、	表:16/0 輪:7.5YR1	信濃青系

第IV-11表 遺物観察表 11

報告 No.	発掘 No.	種別	組織	グリッド	報告遺構 部位	調査時 遺構名	口徑 (cm)	最高 (cm)	底深 (cm)	残存度	調査・論文・図録等	色調	特記事項
0441	031-01 5区	土師器	焼	J-10	SAS1004	SAS1004	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	7.5YR/3	陶伊勢系 内面磨け付
0442	031-01 5区	土師器	焼結	J-50	SAS1006	SAS1006	25.2	—	—	口縁部 2/12	外:ヨコナデ, ケズリ 内:ヨコナデ, ナデ	5YR/8	大塚・明石系
0443	031-02 5区	陶器	焼結	J-50	SAS1006	SAS1006	26.4	—	—	口縁部 1/12	外:ロクロナデ, ロクロケズリ 内:ロクロナデ, 磨目	10R5/6	堺・明石系
0444	031-03 5区	陶器	焼結	J-50	SAS1006	SAS1006	—	—	15.0	底部 1/12	外:ロクロナデ, ロクロケズリ 内:ロクロナデ, 磨目	2.5YR5/4	—
0445	031-07 5区	磁器	焼	J-50	SAS1006	SAS1006	9.4	5.3	3.7	底部 12/12	外:ロクロナデ, ロクロケズリ?, 染付, 磨目 内:ロクロナデ, 磨目	黒: 7.5YR/1	肥前系
0446	034-01 5区	磁器	焼	J-50	SAS1006	SAS1006	10.3	4.4	4.0	底部 4/12	外:ロクロナデ, ロクロケズリ?, 染付, 磨目 内:ロクロナデ, 磨目	黒: 5YR/1	肥前系 底/自動磨き
0447	031-06 5区	磁器	焼	J-50	SAS1006	SAS1006	10.4	4.2	4.0	口縁部 1/12	外:ロクロナデ, ロクロケズリ?, 染付, 磨目 内:ロクロナデ, 磨目	黒: 2.5YR/1	肥前系 底/自動磨き
0448	031-08 5区	磁器	焼	J-50	SAS1006	SAS1006	10.8	—	—	口縁部 2/12	外:ロクロナデ, 染付, 磨目 内:ロクロナデ, 磨目	黒: 5YR/1	肥前系
0449	031-05 5区	磁器	出	J-50	SAS1006	SAS1006	14.7	2.3	8.0	口縁部 3/12	外:ロクロナデ, ロクロケズリ?, 染付, 磨目 内:ロクロナデ, 染付, 磨目	黒: 10YR/1	肥前系
0450	031-04 5区	青磁	焼	J-50	SAS1006	SAS1006	—	—	4.1	底部 5/12	外:ロクロナデ, 磨目 内:ロクロナデ, 磨目	黒: 5Y7/1 緑: 1.5G/1	内面磨き機
0451	031-02 5区	石製品	砥石	J-50	SAS1006	SAS1006	—	幅 4.5	厚さ 1.2	一部欠	磨面	—	72.7g
0452	031-04 5区	陶器	焼	J-56	SAS1008	SAS1008	6.7	3.8	3.0	底部 12/12	外:ロクロナデ, ロクロケズリ, 磨目 内:ロクロナデ, 磨目	黒: 2.5Y7/2 緑: 2.5YR/2	瀬戸・美濃
0453	031-03 5区	磁器	出	J-56	SAS1008	SAS1008	—	—	8.0	底部 1/12	外:ロクロナデ?, 磨目 内:ロクロナデ?, 磨目	黒: 5YR/1	—
0454	031-02 5区	土師器	焼結	J-56	SAS1009	SAS1009	24.6	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナデ, ケズリ, 変形し? 内:ヨコナデ	5YR2/4	大塚・明石系 内面磨け付
0455	031-01 5区	土師器	出	J-106	SAS1010	SAS1010	—	—	4.5	底部 12/12	外:ロクロナデ, 赤点磨, 磨目 内:ロクロナデ, 印刻, 磨目	7.5YR5/4 黒: 黒	大塚系 ロクロ土師器
0456	031-02 5区	陶器	小坪	J-106	SAS1010	SAS1010	—	—	3.0	底部 12/12	外:ロクロナデ, ロクロケズリ, 磨目 内:ロクロナデ?, 磨目	黒: 2.5YR/4 緑: 2.5YR/2	瀬戸・美濃
0457	031-03 5区	陶器	黒	J-106	SAS1010	SAS1010	6.4	—	—	口縁部 1/12	外:ロクロナデ, 磨目 内:ロクロナデ	黒: 10YR/2 緑: 2.5YR/4	瀬戸・美濃
0458	031-01 5区	陶器	仏具用	J-106	SAS1010	SAS1010	6.0	4.2	3.8	口縁部 12/12	外:ロクロナデ, 磨目 内:ロクロナデ, シリシ磨, 磨目	黒: 2.5YR/2 緑: 2.5Y7/1	大塚系 内面磨け付
0459	031-01 5区	陶器	焼結	J-106	SAS1010	SAS1010	35.7	14.8	16.1	底部 12/12	外:ロクロナデ, ケズリ, 工具ナデ, 磨目 内:ロクロナデ, 磨目	黒: 7.5R4/6 緑: 1.5R/1	堺・明石系 内面磨き機?
0460	031-06 5区	磁器	焼	J-106	SAS1010	SAS1010	11.0	—	—	口縁部 2/12	外:ロクロナデ, 染付, 磨目 内:ロクロナデ, 染付, 磨目	黒: 黒0	肥前系
0461	031-05 5区	磁器	焼	J-106	SAS1010	SAS1010	—	—	4.6	底部 2/12	外:ロクロナデ, ロクロケズリ?, 染付, 磨目 内:ロクロナデ, 磨目	黒: 黒0	肥前系
0462	031-04 5区	磁器	黒	J-106	SAS1010	SAS1010	—	—	底部 3.8	磨 1/12	外:ロクロケズリ, ロクロナデ, 染付, 磨目 内:ロクロナデ, 染付, 磨目	黒: 黒0	肥前系
0463	031-03 5区	土師器	出	J-108	SAS1011	SAS1011	9.5	—	—	口縁部 4/12	外:ロクロナデ, 磨目 内:ロクロナデ, 磨目	5YR5/8 緑: 黒	大塚系 ロクロ土師器
0464	031-02 5区	土師器	出	J-108	SAS1011	SAS1011	9.6	2.0	—	口縁部 5/12	外:ロクロナデ, 赤点磨, 磨目 内:ロクロナデ, 磨目	7.5YR/4 緑: 黒	大塚系 ロクロ土師器
0465	031-01 5区	土師器	出	J-108	SAS1011	SAS1011	11.2	2.2	—	口縁部 3/12	外:ロクロナデ, 赤点磨, 磨目 内:ロクロナデ, 印刻, 磨目	7.5YR/4 緑: 黒	大塚系 ロクロ土師器
0466	031-05 5区	陶器	出	J-108	SAS1011	SAS1011	17.4	5.3	7.2	口縁部 5/12	外:ロクロナデ, ロクロケズリ, 磨目 内:ロクロナデ, 磨目	黒: 2.5Y7/2 緑: 10Y7/1	瀬戸・美濃
0467	031-04 5区	陶器	仏具用	J-108	SAS1011	SAS1011	—	—	4.2	底部 10/12	外:ロクロナデ?, ロクロケズリ, 磨目 内:ロクロナデ?, 磨目	黒: 5YR/1 緑: 1.5YR/1	瀬戸・美濃
0468	031-06 5区	陶器	鉢	J-108	SAS1011	SAS1011	—	—	6.8	底部 4/12	外:ロクロケズリ, 刷毛目文様, 磨目 内:ロクロナデ, 磨目	黒: 7.5YR/3 緑: 10Y5/2	肥前系
0469	031-07 5区	陶器	土瓶	J-108	SAS1011	SAS1011	—	—	—	口縁部 小片	外:ロクロナデ, ナデ?, 磨目 内:ロクロナデ, 磨目	黒: 10YR/3 緑: 5YR/3	瀬戸・美濃
0470	031-09 5区	陶器	加工工程 (焼)	J-108	SAS1011	SAS1011	長径 3.8	短径 3.6	—	—	外:ロクロケズリ 内:ロクロナデ, 磨目	黒: 2.5YR/2 緑: 7.5Y7/2	12.0g 磨面打文文
0471	031-07 5区	磁器	焼	J-108	SAS1011	SAS1011	10.4	—	—	口縁部 5/12	外:ロクロナデ, 染付, 磨目 内:ロクロナデ, 磨目	黒: 9/0	肥前系
0472	031-03 5区	磁器	焼	J-108	SAS1011	SAS1011	11.5	5.5	4.6	口縁部 8/12	外:ロクロナデ, 染付, 磨目 内:ロクロナデ, 染付, 磨目	黒: 9/0	肥前系 コシニヤ印刷
0473	031-02 5区	磁器	焼口	J-108	SAS1011	SAS1011	7.6	6.4	5.9	口縁部 4/12	外:ロクロナデ, ロクロケズリ?, 染付, 磨目 内:ロクロナデ, 染付, 磨目	黒: 9/0	肥前系
0474	031-04 5区	磁器	鉢	J-108	SAS1011	SAS1011	2.0	—	—	口縁部 9/12	外:ロクロナデ?, 染付, 磨目 内:ロクロナデ, 磨目	黒: 9/0	肥前系
0475	031-05 5区	土製品	L字状製品	J-108	SAS1011	SAS1011	—	幅 5.0	厚さ 1.2	一部欠	△:ナデ □:ナデ, ユビオサエ	10YR/4	磨面L字印 凸面磨け付
0476	031-08 5区	瓦	軒平瓦	J-108	SAS1011	SAS1011	—	—	—	瓦当部 小片	△:ナデ △:ナデ	黒0	遺失
0477	031-06 5区	石製品	砥石	J-108	SAS1011	SAS1011	—	幅 4.9	厚さ 2.4	平文	磨面	—	81.0g
0478	031-05 5区	陶器	黒	J-116	SAS1012	SAS1012	4.9	1.8	3.3	口縁部 4/12	外:ロクロナデ, ロクロケズリ, 磨目 内:ロクロナデ, 磨目	黒: 2.5Y7/1 緑: 5YR/3	瀬戸・美濃
0479	031-04 5区	陶器	鉢	J-116	SAS1012	SAS1012	3.3	—	—	口縁部 1/12	外:ロクロナデ, ロクロケズリ, 磨目 内:ロクロナデ, 磨目	黒: 2.5YR/2 緑: 5YR/3	瀬戸・美濃
0480	031-03 5区	石製品	砥石	J-116	SAS1012	SAS1012	長さ 16.5	幅 4.6	厚さ 1.9	完全	磨面	—	434.0g

第IV-12表 遺物観察表12

報告 No.	実測 No.	種別	用途	グリッド	報告者 氏名	調査時 間	口徑 (cm)	高さ (cm)	口径 (cm)	備考	調査・施工・備考等	色紙	特記事項
0481	021-04 7次	土師器	皿	18E10	SXS1013	SK7002 9月	6.2	1.3	—	口縁部 1/2	外：ロクロナデ、糸切痕、胎線 内：ロクロナデ、胎線	5187/6 輪：5	大宮系 ロクロ土師器
0482	044-03 5次	土師器	皿	J-08	SXS1013	SXS1013	6.4	1.1	—	口縁部 2/2	外：ロクロナデ、ユビオサエ、糸切痕 内：ロクロナデ、ユビオサエ	10187/3	大宮系 ロクロ土師器 内内面付着
0483	013-03 10次	土師器	滑盤	J-09	SXS1013	SK10009	30.0	—	—	口縁部 1/2	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	5186/4	大宮・新石系 内内面付着
0484	031-08 5次	陶器	山形鉢	J-08	SXS1013	SXS1013	—	—	7.7	底面 1/2	外：ロクロナデ、胎線痕、糸切痕 内：ロクロナデ	517/1	瀬田型西型
0485	021-05 7次	陶器	皿	18E10	SXS1013	SK7002	6.2	3.8	2.8	底面 12/12	外：ロクロナデ、ロクロナズリ、胎線 内：ロクロナデ、胎線	黒：2.517/1 輪：5677/1	瀬戸・美濃
0486	014-01 10次	陶器	皿	J-08	SXS1013	SK10009	9.8	—	—	口縁部 3/2	外：ロクロナデ、ロクロナズリ、胎線 内：ロクロナデ、胎線	黒：1.5187/3 輪：1.5186/2、 5186/3	瀬戸・美濃
0487	031-05 5次	陶器	皿	J-08	SXS1013	SXS1013	12.9	—	—	口縁部 1/2	外：ロクロナデ、ロクロナズリ、胎線 内：ロクロナデ、胎線	黒：2.517/2 輪：517/2	瀬戸・美濃
0488	021-01 7次	陶器	皿	18E10	SXS1013	SK7002	20.0	6.6	8.2	底面 12/12	外：ロクロナデ、ロクロナズリ、胎線 内：ロクロナデ、胎線	黒：2.518/2 輪：518/2	瀬戸・美濃
0489	014-03 10次	陶器	皿	J-09	SXS1013	SK10009	18.7	—	—	口縁部 1/2	外：ロクロナデ、胎線 内：ロクロナデ、胎線	黒：1.2.517/1 輪：2.517/3	瀬戸・美濃
0490	013-04 10次	陶器	深鉢	J-09	SXS1013	SK10009	35.6	—	—	口縁部 2/2	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、腹筋	1085/2	香・新石系
0491	014-02 10次	陶器	唐利まほし 盆	J-09	SXS1013	SK10009	—	—	13.2	底面 2/2	外：ロクロナズリ 内：ロクロナデ、胎線	黒：1.5186/3 輪：5186/3	瀬戸・美濃？
0492	013-01 10次	磁器	皿	J-09	SXS1013	SK10009	9.8	5.2	3.7	底面 12/12	外：ロクロナデ、ロクロナズリ、染付、胎線 内：ロクロナデ、染付、胎線	黒：1018/1	肥前系 コンニャク印判
0493	021-06 7次	磁器	皿	18E10	SXS1013	SK7002	10.0	5.4	4.0	口縁部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロナズリ、染付、胎線 内：ロクロナデ、染付、胎線	黒：9/0	肥前系 高田屋付着
0494	031-06 5次	磁器	皿	J-08	SXS1013	SXS1013	10.9	—	—	口縁部 2/2	外：ロクロナデ、染付、胎線 内：ロクロナデ、染付、胎線	黒：86/0	肥前系
0495	031-07 5次	磁器	皿	J-08	SXS1013	SXS1013	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、染付、胎線 内：ロクロナデ、染付、胎線	黒：86/0	肥前系
0496	021-03 7次	磁器	小鉢	18E10	SXS1013	SK7002	—	—	3.3	底面 12/12	外：ロクロナデ、ロクロナズリ、染付、胎線 内：ロクロナデ、染付、胎線	黒：86/0	肥前系 高田屋付着
0497	013-02 10次	磁器	皿	J-09	SXS1013	SK10009	10.3	3.7	細径 4.0	口縁部 10/12	外：ロクロナデ、染付、胎線 内：ロクロナデ、染付、胎線	黒：1018/1	肥前系
0498	014-05 10次	磁器	水筒	J-09	SXS1013	SK10009	—	—	—	小片	外：型押し、染付、ナデ 内：ナデ	黒：1.2.518/1	肥前系
0499	014-04 10次	磁器	加工工戸 （南または 北）	J-09	SXS1013	SK10009	長径 3.3	短径 3.2	—	—	上：ロクロナデ？、胎線 下：ロクロナデ？、染付、胎線	黒：518/1	12.0g 瀬戸打ち文 コンニャク印判
0500	014-03 10次	磁器	加工工戸 （小片）	J-09	SXS1013	SK10009	長径 3.5	短径 3.0	—	—	外：ロクロナズリ、胎線 内：ロクロナデ、胎線	黒：1018/2	5.0g 瀬戸打ち文
0501	014-02 10次	磁器	加工工戸 （小片）	J-09	SXS1013	SK10009	長径 4.3	短径 4.2	—	—	外：ロクロナズリ、胎線 内：ロクロナデ、胎線	黒：9/0	16.0g 瀬戸打ち文
0502	014-01 10次	陶器	加工工戸 （破）	J-09	SXS1013	SK10009	長径 5.0	短径 4.6	—	—	外：ロクロナズリ、胎線 内：ロクロナデ、胎線	黒：1018/2 輪：517/2	32.0g 瀬戸打ち文
0503	015-02 10次	陶器	皿	J-09	SXS1013	SK10009	—	—	5.1	底面 3/2	外：ロクロナズリ、胎線 内：ロクロナデ、胎線	黒：1018/2 輪：1016/2	—
0504	032-01 5次	土製品	L字状製品	J-08	SXS1013	SXS1013	—	幅 5.2	厚さ 1.3	半欠	凸：ナデ 凹：ナデ、工具ナデ？	2.517/1	新石系 凸面付着
0505	015-01 10次	土製品	L字状製品	J-09	SXS1013	SK10009	—	幅 6.4	厚さ 1.4	一部欠	凸：ナデ 凹：ナデ、工具ナデ？	7.5187/4	新石系 凸面付着
0506	015-04 10次	石製品	砥石	J-09	SXS1013	SK10009	—	幅 3.0	厚さ 2.9	半欠	断面	—	62.0g
0507	015-03 10次	石製品	円盤状製品	J-09	SXS1013	SK10009	長径 4.9	短径 5.0	厚さ 1.2	—	断面打ち文、表面磨面	—	30.0g
0508	011-02 10次	鉄製品	鍋	J-09	SXS1013	SK10009	—	—	厚さ 0.5	口縁部 小片	—	—	鎌倉
0509	080-01 7次	鉄製品	鍋	18E10	SXS1013	SK7002 2期	—	—	厚さ 0.9	底面 小片	—	—	鎌倉
0510	079-03 7次	銅製品	滑盤 （磨面）	18E10	SXS1013	SK7002	長さ 7.6	幅 1.4	厚さ 0.1	両面	—	—	内面付着
0511	079-04 7次	銅製品	滑盤 （磨面）	18E10	SXS1013	SK7002	—	幅 1.0	厚さ 0.1	一部欠	—	—	—
0512	079-04 5次	陶器	皿	J-X7	SXS1014	SXS1014	8.4	4.1	4.0	底面 10/12	外：ロクロナデ、ロクロナズリ、胎線 内：ロクロナデ、胎線	黒：2.518/1 輪：5182/1	瀬戸・美濃
0513	079-02 5次	陶器	皿	J-X7	SXS1014	SXS1014	9.2	—	—	口縁部 2/2	外：ロクロナデ、胎線 内：ロクロナデ、胎線	黒：2.518/2 輪：2.518/3	瀬戸・美濃
0514	039-05 5次	陶器	火鉢	J-X7	SXS1014	SXS1014	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、胎線？ 内：ロクロナデ、胎線？	黒：5187/4 輪：2.5185/4	坂井（赤地）
0515	039-03 5次	陶器	鉢	J-X7	SXS1014	SXS1014	21.4	—	—	口縁部 1/2	外：ロクロナデ、染付、胎線 内：ロクロナデ、染付、胎線	黒：86/0	肥前系
0516	041-05 5次	陶器	山皿	J-X7	SXS1015	SXS1015	—	—	5.2	底面 2/2	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.517/1	—
0517	041-09 5次	縄文土器	深鉢	J-Y6	SXS1016	SXS1016	—	—	—	口縁部 小片	外：ナデ？、波線 内：ナデ？	7.5184/2 輪：7.5187/4	内内面付着
0518	041-06 5次	土師器	台付皿	J-Y6	SXS1016	SXS1016	—	—	—	小片	外：ヨコナデ？ 内：ナデ？	7.5186/4	—
0519	041-07 5次	土師器	鉢	J-Y6	SXS1016	SXS1016	22.0	—	—	口縁部 2/2	外：ヨコナデ、ユビオサエ、工具ナデ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、工具ナデ	5187/6	瀬戸系
0520	042-01 5次	陶器	山皿	J-Y6	SXS1016	SXS1016	7.8	—	—	口縁部 1/2	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	10187/1	瀬田型

第IV-13表 遺物観察表 13

報告 No.	発掘 No.	種別	基礎	グリッド	報告遺構 部位	調査時 遺構名	口径 (cm)	最高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調査・施工・熟練等	色調	特記事項
0521	041-08 5区	陶器	鉢?	J-16	SAS1016	SAS1016	—	—	9.8	底部 1/12	外: ロクロナデ、ナデ?, 糸切歯 内: ロクロナデ	2.5YR/1	瀬戸・美濃
0522	042-02 5区	土製品	土器	J-16	SAS1016	SAS1016	—	幅 2.7	—	一部欠	外: ナデ	10YR8/2	21.0g
0523	041-02 5区	土師器	皿	J-16	SAS1017	SAS1017	3.5	1.3	—	口縁部 7/12	外: ヨコナデ, ユビオサエ, ナデ 内: ヨコナデ, ナデ	10YR8/2	
0524	041-03 5区	土師器	皿	J-16	SAS1017	SAS1017	3.8	—	—	口縁部 2/12	外: ヨコナデ, ユビオサエ, ナデ 内: ヨコナデ, ナデ	10YR8/2	
0525	041-04 5区	土師器	皿	J-16	SAS1017	SAS1017	3.8	—	—	口縁部 1/12	外: ヨコナデ, ユビオサエ, ナデ 内: ヨコナデ, ナデ	10YR8/2	
0526	041-01 5区	土師器	皿	J-16	SAS1017	SAS1017	8.7	1.5	—	口縁部 4/12	外: ヨコナデ, ユビオサエ, ナデ 内: ヨコナデ, ユビオサエ, ナデ	10YR8/2	
0527	040-02 5区	土師器	鉢	J-16	SAS1017	SAS1017	24.0	—	—	口縁部 4/12	外: ヨコナデ, ユビオサエ, ナデ, ケズリ 内: ヨコナデ, ユビオサエ, ケズリ	7.5YR7/3 7.5YR5/2	瀬伊勢系 外底保存層
0528	040-03 5区	瓦器	筒	J-16	SAS1017	SAS1017	12.4	3.6	3.5	口縁部 8/12	外: ヨコナデ, ユビオサエ, ナデ 内: ヨコナデ, ナデ, ミガキ, 略文	6S/0	紀伊型
0529	050-01 5区	瓦器	筒	J-16	SAS1017	SAS1017	13.0	—	—	口縁部 2/12	外: ヨコナデ, ユビオサエ, ナデ 内: ヨコナデ, 略文	2.5Y7/1 7.5Y5/1	和歌型
0530	040-01 5区	陶器	山車鉢	J-16	SAS1017	SAS1017	14.2	5.2	6.5	底部 9/12	外: ロクロナデ, ヘラ切歯, 輪切歯 内: ロクロナデ	2.5Y7/1	尾道型
0531	040-04 5区	陶器	山車	J-16	SAS1017	SAS1017	—	—	4.8	底部 4/12	外: ロクロナデ, 糸切歯 内: ロクロナデ	10YR7/1	
0532	042-05 5区	土師器	増縁	L-C7	SAS1018	SAS1018	—	—	—	口縁部 小片	外: ヨコナデ?, ナデ? 内: ヨコナデ?, ナデ	5YR5/8	大塚・新石系 外底保存層
0533	043-03 5区	陶器	天目黒陶	L-C7	SAS1018	SAS1018	10.5	—	—	口縁部 4/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ?, 輪飾 内: ロクロナデ, 輪飾	黒: 2.5Y7/2 輪: 2.5Y2/1	瀬戸・美濃
0534	042-04 5区	陶器	天目黒陶	L-C7	SAS1018	SAS1018	—	—	4.5	底部 6/12	外: ロクロナデ?, 輪飾 内: ロクロナデ?, 輪飾	黒: 2.5Y7/2 輪: 2.5Y2/1	瀬戸・美濃
0535	043-01 5区	陶器	燗鉢	L-C7	SAS1018	SAS1018	—	—	—	底部 小片	外: ロクロナデ, 輪飾 内: ロクロナデ, 燗鉢, 輪飾	黒: 7.5YR7/3 輪: 10B3/1	
0536	043-02 5区	磁器	筒	L-C6	SAS1018	SAS1018	11.8	—	—	口縁部 1/12	外: ロクロナデ, 染付, 輪飾 内: ロクロナデ, 輪飾	黒: 黒/0	肥前系
0537	017-04 5区	陶器	皿	L-06	SAS1019	SAS1019	13.7	3.0	6.3	底部 12/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ?, 輪飾 内: ロクロナデ, 輪飾	黒/0・赤濃 輪: 2.5Y7/4	瀬戸・美濃 底部外底保存層
0538	021-04 5区	石製品	磁石	L-06	SAS1019	SAS1019	長さ 6.6	幅 4.2	厚さ 3.6	—	断面	—	軽石製 16.0g
0539	030-07 小片	土師器	鉢	L-47	SAS1020	SAS1020	—	—	—	口縁部 小片	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ	7.5YR8/3	瀬伊勢系 外底保存層
0540	040-04 5区	陶器	筒	L-84	SAS1021	SAS1021	—	—	6.2	底部 2/12	外: ロクロナデ?, 輪飾 内: ロクロナデ?, 輪飾	黒: 2.5YR6/4 輪: 7.5YR2/3	瀬戸・美濃
0541	043-03 5区	陶器	皿	L-84	SAS1021	SAS1021	—	—	5.6	底部 2/12	外: ロクロナデ?, 輪飾 内: ロクロナデ?, 輪飾系統, 輪飾	黒: 2.5YR/3 輪: 5Y6/2	瀬戸・美濃
0542	044-01 5区	陶器	香炉	L-84	SAS1021	SAS1021	13.1	—	—	口縁部 1/12	外: ロクロナデ, 輪飾 内: ロクロナデ, 輪飾	黒: 2.5Y7/3 輪: 5Y7/4	瀬戸・美濃
0543	044-02 5区	磁器	筒	L-84	SAS1021	SAS1021	9.8	—	—	口縁部 2/12	外: ロクロナデ, 染付, 輪飾 内: ロクロナデ, 輪飾	黒: 黒/0	肥前系
0544	040-03 5区	土師器	増縁	L-C7	SAS1025	カクラン1	22.8	—	—	口縁部 1/12	外: ナデ, ヨコナデ 内: 土師ナデ	5YR7/6	大塚・新石系 外底保存層
0545	040-05 5区	土師器	皿	J-17	SAS1026	カクラン1	7.4	1.4	3.8	底部 5/12	外: ロクロナデ, 糸切歯, 輪飾 内: ロクロナデ, 輪飾	5YR8/4 輪: 濃	大塚系 ロクロ土師器
0546	040-06 5区	土師器	皿	J-17	SAS1026	カクラン1	8.2	1.1	4.4	底部 6/12	外: ロクロナデ, 糸切歯, 輪飾 内: ロクロナデ, 輪飾	10YR8/2 輪: 濃	大塚系 ロクロ土師器
0547	040-03 5区	陶器	水注	J-17	SAS1026	カクラン1	3.8	2.7	4.9	口縁部 12/12	外: ロクロナデ?, ロクロナデ?, , ヘラ切歯, 輪飾 内: ロクロナデ?, 輪飾	濃: 2.5YR/2 輪: 7.5YR/2	瀬戸・美濃
0548	040-01 5区	陶器	鉢	J-17	SAS1026	カクラン1	21.2	—	—	口縁部 1/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ?, 輪飾 内: ロクロナデ, 輪飾	黒: 10YR8/2 輪: 2.5YR/2	瀬戸・美濃
0549	040-02 5区	陶器	鉢	J-17	SAS1026	カクラン1	—	—	12.0	底部 6/12	外: ロクロナデ?, 輪飾 内: ロクロナデ, 輪飾	黒: 2.5YR/2 輪: 10YR/1	瀬戸・美濃 内底保存層
0550	040-04 5区	磁器	筒	J-17	SAS1026	カクラン1	—	—	3.8	底部 5/12	外: ロクロナデ?, 染付, 輪飾 内: ロクロナデ?, 輪飾	黒: 黒/0	肥前系
0551	040-06 3/12	磁器	皿	J-17	SAS1026	カクラン1	9.3	2.7	3.6	口縁部 3/12	外: ロクロナデ, 染付, 輪飾 内: ロクロナデ, 輪飾	黒: 黒/0	肥前系
0552	040-02 5区	皮製 陶器	筒	L-86	SAS1027	カクラン1	—	—	7.6	底部 2/12	外: ロクロナデ, ナデ 内: ロクロナデ	黒/0	
0553	051-04 5区	磁器	皿	L-C5-6	SAS1028	カクラン1 カクラン2	12.8	—	—	口縁部 3/12	外: ロクロナデ, 染付, 輪飾 内: ロクロナデ, 輪飾	黒: 9/0	肥前系
0554	051-05 5区	石製品	磁石	L-C5-6	SAS1028	カクラン1 カクラン2	長さ 8.7	幅 5.4	厚さ 4.4	—	断面	—	軽石製 27.9g
0555	051-01 5区	陶器	土瓶	J-17	SAS1029	カクラン1	10.0	—	—	口縁部 2/12	外: ロクロナデ, 輪飾 内: ロクロナデ, 輪飾	黒: 2.5YR6/4 輪: 5Y6/4	
0556	044-04 5区	陶器	山車鉢	J-H12	SAS3002	SAS3002	—	—	—	口縁部 小片	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	2.5Y7/2	瀬戸・美濃
0557	071-02 7区	陶器	甕	2E30	SAT0013	SAT0013	11.6	—	—	口縁部 3/12	外: ロクロナデ, 輪飾 内: ロクロナデ, 輪飾	黒: 2.5Y7/2 輪: 7.5YR2/2	瀬戸・美濃
0558	070-02 7区	土製品	L字状磁石	2E34	SAT0019	SAT0019	—	幅 6.2	厚さ 1.4	平欠	△: ナデ, ヨコナデ 四: ナデ, ユビオサエ, 工具ナデ	7.5YR7/4 四: 濃	瀬戸・美濃 外底保存層
0559	072-03 7区	土製品	L字状磁石	2E34	SAT0019	SAT0019	—	幅 5.4	厚さ 1.2	小片	△: ナデ, ヨコナデ 四: ナデ	7.5YR4/1 10YR2/1	瀬戸・美濃 外底保存層
0560	070-01 7区	瓦	平瓦	2E34	SAT0019	SAT0019	—	—	—	小片	四: ナデ, ヨコナデ △: 工具ナデ, ナデ, ヨコナデ	6S/0 6S/0	

第IV-14表 遺物観察表 14

報告 №	発掘 期	種別	用途	グロット	報告者 氏名	調査時 遺構名	口径 (cm)	底径 (cm)	厚さ (cm)	構造	調査・施工・特徴等	色調	特記事項
0561	022-01 7次	瓦	平瓦	2区54	SK70019	SK70019	—	—	—	小片	田：ナデ、ヨコナデ 凸：ヨコナデ、ナデ、工員ナデ？、ヨコナデ	94/0	
0562	022-02 7次	瓦	平瓦	2区54	SK70019	SK70019	—	—	—	小片	田：ナデ、ヨコナデ 凸：ナデ、ヨコナデ 凸：ナデ、ヨコナデ	93/0	
0563	020-03 7次	瓦	丸瓦	2区54	SK70019	SK70019	—	—	—	小片	凸：ナデ 田：工員ナデ、布目瓦	95/0	
0564	003-01 8次	陶磁	皿	—	SK80002	SK80002	12.4	3.6	4.5	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、ロクワズリ、染付、陶磁 内：ロクロナデ、トナリ皿、陶磁	黒：10YR6/4 輪：2.5YR/2	肥前系
0565	003-04 8次	土師器	煎茶	—	SK80003	SK80003	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ	7.5YR/4	
0566	003-03 8次	陶磁	皿または鉢	—	SK80003	SK80003	—	—	8.0	底面 3/12	外：ロクロナデ、ナデ、陶磁 内：ロクロナデ	黒：2.5YR/1 輪：7.5YR/3	瀬戸・美濃
0567	003-05 8次	陶磁	皿	—	SK80003	SK80003	—	—	4.2	底面 12/12	外：ロクロナデ、陶磁 内：ロクロナデ、陶磁	黒：2.5YR/1 輪：2.5YR/1	肥前・佐賀系？
0568	003-02 8次	陶磁	皿	—	SK80003	SK80003	9.2	—	—	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、染付、陶磁 内：ロクロナデ、陶磁	黒：8.0/0	肥前系
0569	001-02 8次	陶磁	天目茶碗	—	SK80004	SK80004	11.0	—	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、ロクワズリ、陶磁 内：ロクロナデ、陶磁	黒：2.5YR/1 輪：1.5YR/2	瀬戸・美濃
0570	001-04 8次	陶磁	皿	—	SK80004	SK80004	7.0	1.9	4.6	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、金切皿、陶磁 内：ロクロナデ、陶磁	黒：2.5YR/2 輪：5YR/2	瀬戸・美濃
0571	002-01 8次	陶磁	磁鉢	—	SK80004	SK80004	27.4	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ロクワズリ 内：ロクロナデ、磁石	5YR/3	樽・用石系
0572	002-02 8次	陶磁	磁鉢	—	SK80004	SK80004	—	—	8.4	底面 12/12	外：ロクロナデ、ナデ、陶磁 内：ロクロナデ	黒：10YR/4 輪：5YR/2	瀬戸・美濃
0573	002-03 8次	陶磁	皿口	—	SK80004	SK80004	8.4	6.2	6.0	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、ロクワズリ、染付、陶磁 内：ロクロナデ、染付、陶磁	黒：5YR/1	肥前系
0574	001-05 8次	石製品	砥石	—	SK80004	SK80004	—	—	厚さ 2.3	一断面	—	砥石 13.5g	
0575	001-01 8次	石製品	戸隠状製品	—	SK80004	SK80004	—	—	厚さ 2.2	半欠	断面打ち欠け、表面割れ	—	223.5g
0576	001-03 8次	石製品	石板	—	SK80004	SK80004	—	—	厚さ 0.3	破片	縦切面、割れ	—	15.7g
0577	002-04 8次	陶磁	—	—	SK80005	SK80005	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、ヨコナデ	2.5YR/4	瀬戸（赤地）
0578	002-05 8次	陶磁	弘明具	—	SK80007	SK80007	7.2	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、陶磁 内：ロクロナデ、陶磁	黒：2.5YR/2 輪：5YR/2	瀬戸・美濃
0579	002-06 8次	陶磁	土瓶	—	SK80007	SK80007	7.7	11.2	8.7	底面 12/12	外：ロクロナデ、ナデ、ロクワズリ、陶磁 内：ロクロナデ、陶磁	黒：10YR/4 輪：7.5YR/1、 7.5YR/2	瀬戸・美濃
0580	002-07 8次	陶磁	皿	—	SK80007	SK80007	—	—	6.0	底面 5/12	外：ロクロナデ、ロクワズリ、染付、陶磁 内：ロクロナデ、染付、陶磁	黒：7.5YR/1	肥前系
0581	003-08 8次	石製品	砥石	—	SK80007	SK80007	—	幅 2.6	厚さ 1.8	半欠	断面	—	32.4g
0582	004-01 8次	陶磁	皿	—	SK80008	SK80008	7.3	5.3	3.6	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、ロクワズリ、染付、陶磁 内：ロクロナデ、染付、陶磁	黒：2.5YR/1	肥前系 コンニャク印付
0583	003-03 10次	土師器	皿	J-113	SK80009	SK10029	10.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR/2	
0584	004-02 8次	土師器	皿	—	SK80009	SK80009	16.2	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ、ヨコナデ 内：ヨコナデ、工員ナデ、ナデ	2.5YR/1	
0585	004-03 8次	土師器	皿	—	SK80009	SK80009	16.2	2.6	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ナデ、ヨコナデ 内：ヨコナデ、工員ナデ、ナデ	2.5YR/2	
0586	007-01 10次	土師器	皿	J-113	SK80009	SK10029	10.4	3.0	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工員ナデ	10YR/1	外周口縁部保存
0587	007-05 10次	土師器	皿	—	SK80009	SK10029	10.6	2.0	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工員ナデ、ナデ	10YR/1	
0588	007-08 10次	土師器	皿	—	SK80009	SK10029 3皿	11.0	1.8	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ヨコナデ、ナデ、粘土層結合 内：ヨコナデ、工員ナデ、ナデ	10YR/2	
0589	007-02 10次	土師器	皿	J-113	SK80009	SK10029	11.2	2.6	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工員ナデ、ナデ	10YR/1	
0590	007-04 10次	土師器	皿	J-113	SK80009	SK10029	12.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR/1	
0591	007-06 10次	土師器	皿	—	SK80009	SK10029 3皿	12.1	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工員ナデ、ナデ	10YR/2	
0592	009-04 10次	土師器	盃？	J-112	SK80009	SK10029	8.2	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR/3	
0593	008-02 10次	土師器	鍋	J-113	SK80009	SK10029	24.0	—	—	口縁部 4/12	外：ヨコナデ、ハクメ 内：ヨコナデ、ヨコナデ、ヨコナデ、ナデ	10YR/3	瀬戸系 外周保存
0594	009-01 10次	土師器	鍋	J-113	SK80009	SK10029	24.8	—	—	口縁部 6/12	外：ヨコナデ、ヨコナデ、ハクメ 内：ヨコナデ、ヨコナデ、ナデ、工員ナデ？	10YR/2	瀬戸系
0595	009-02 10次	土師器	鍋	—	SK80009	SK10029 3皿	26.4	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	10YR/3	瀬戸系
0596	009-01 10次	土師器	鍋	—	SK80009	SK10029 4皿	26.8	—	—	口縁部 5/12	外：ヨコナデ、ヨコナデ、ハクメ、ウズリ 内：ヨコナデ、工員ナデ、ナデ	10YR/3	瀬戸系 外周保存
0597	005-05 8次	瓦	雨	—	SK80009	SK80009	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ミガキ 内：ヨコナデ、ミガキ	95/0、5YR/1	
0598	009-05 10次	瓦	皿または鉢	J-113	SK80009	SK10029	—	—	4.0	底面 3/12	外：ヨコナデ、金切皿 内：ヨコナデ、ナデ	10YR/1	
0599	002-02 16次	漆器	鉢	J-113	SK80009	SK10029	23.2	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、工員ナデ	10YR/2	美濃系
0600	002-01 16次	漆器	鉢	J-113	SK80009	SK10029	24.0	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、工員ナデ 内：ロクロナデ、工員ナデ	10YR/3、 10YR/1	美濃系 使用痕跡

第IV-15表 遺物観察表 15

台数	発売 年月	種別	巻数	グランド	制作会社	原案/監 理会社	白紙 (巻)	巻数 (巻)	巻数 (巻)	再放送	展開・原文・熟語等	色調	特記事項
0601	004-02 83年	漫画系	単	—	SX0009	SX0009	30.8	—	—	■上部 1/12	外：ロコナデ 内：ロコナデ	516/1	漫画系
0602	002-03 10年	漫画系	単	J-113	SX0009	SX0029	—	—	—	■上部 小片	外：ロコナデ 内：ロコナデ、工員ナデ	10188/2、 7,518/1	漫画系
0603	003-05 10年	漫画系	単	J-112	SX0009	SX0029	—	—	—	■上部 小片	外：ロコナデ 内：ロコナデ	N/0	漫画系
0604	005-01 10年	漫画系	単	J-112	SX0009	SX0029	—	—	—	■上部 小片	外：種子タナホ 内：当て馬、ナデ	515/1	—
0605	004-08 10年	漫画	山岸組	J-113	SX0009	SX0029	—	—	7.0	■上部 2/12	外：ロコナデ 内：ロコナデ	2,517/1	漫画型
0606	005-01 83年	漫画	山岸組	—	SX0009	SX0009	16.2	—	—	■上部 1/12	外：ロコナデ 内：ロコナデ	2,517/2	漫画型
0607	004-04 83年	漫画	山岸組	—	SX0009	SX0009	—	—	5.8	■上部 2/12	外：ロコナデ 内：ロコナデ	2,517/2	漫画型
0608	003-06 10年	漫画	山岸組	J-112	SX0009	SX0029	—	—	6.4	■上部 3/12	外：ロコナデ、赤切、情報	2,516/1	漫画型
0609	002-05 10年	漫画	山岸組	J-113	SX0009	SX0029	—	—	8.4	■上部 2/12	外：ロコナデ 内：ロコナデ、赤切	2,516/1	漫画型
0610	002-04 10年	漫画	山岸組	J-113	SX0009	SX0029	—	—	—	■上部 小片	外：ロコナデ 内：ロコナデ、赤切	N/0	—
0611	003-06 10年	漫画	山田	J-112	SX0009	SX0029	—	—	3.1	■上部 12/12	外：ロコナデ、赤切 内：ロコナデ	N/0	漫画型
0612	004-07 10年	漫画	却山	J-113	SX0009	SX0029	14.2	—	—	■上部 1/12	外：ロコナデ、動物 内：ロコナデ、却山、動物	黒：2,516/3 青：2,516/1	漫画・実写
0613	005-04 83年	漫画	却山	—	SX0009	SX0009	—	—	—	■上部 小片	外：ロコナデ、ロコナズ 内：ロコナデ、却山	黒：2,516/3 青：2,516/1	漫画・実写
0614	005-02 10年	漫画	単	J-113	SX0009	SX0029	—	—	—	■上部 小片	外：ロコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ロコナデ	7,514/2 515/1	実写
0615	002-06 10年	漫画	単	J-113	SX0009	SX0029	—	—	10.8	■上部 3/12	外：ロコナデ、ロコナズ、赤切、情報 内：ロコナデ	N/0	実写
0616	003-07 10年	漫画	単	J-112	SX0009	SX0029	—	—	11.0	■上部 1/12	外：ロコナデ 内：ロコナデ	N/0	漫画
0617	007-07 10年	漫画	漫画	—	SX0009	SX0029	—	—	—	■上部 小片	外：ロコナデ、工員ナデ 内：ロコナデ、漫画	2,516/6	漫画
0618	004-04 10年	漫画	漫画	J-112	SX0029	18.8	—	—	—	■上部 1/12	外：ロコナデ 内：ロコナデ	2,517/1	実写
0619	004-01 10年	漫画	漫画	J-113	SX0009	SX0029	36.6	—	—	■上部 1/12	外：ロコナデ、ユビオサエ、粘土組、情報、動物 内：ロコナデ、動物	黒：5,517/1 青：518/3	実写
0620	001-01 10年	漫画	漫画	J-113	SX0009	SX0029	—	—	13.8	■上部 5/12	外：工員ナデ、タナホ、ナデ、ユビオサエ、粘土組、情報、動物 内：工員ナデ、動物、ナデ、粘土組、情報	N/0	漫画
0621	007-09 10年	漫画	漫画	J-112	SX0009	SX0029	—	—	—	■上部 小片	外：ロコナデ 内：ロコナデ	7/0	漫画
0622	004-02 10年	漫画	漫画	J-113	SX0009	SX0029	—	—	17.3	■上部 7/12	外：ロコナデ、工員ナデ、ナデ、ユビオサエ 内：工員ナデ、ユビオサエ、ナデ、粘土組、情報	黒：2,517/1 青：518/3	実写
0623	003-01 10年	漫画	漫画	J-113	SX0009	SX0029	—	—	—	■上部 小片	外：ロコナデ、動物 内：ロコナデ、動物	黒：N/0 青：1,515/3	中国東南地方?
0624	004-05 10年	白紙	漫画	J-113	SX0009	SX0029	—	—	—	■上部 小片	外：ロコナデ、動物 内：ロコナデ、動物	黒：3,517/1 青：2,517/1	漫画系
0625	004-06 10年	白紙	漫画	J-113	SX0009	SX0029	—	—	6.6	■上部 1/12	外：ロコナズ 内：ロコナデ、動物	黒：9/0 青：9/0	漫画系
0626	004-02 10年	青紙	漫画	J-112	SX0009	SX0029	11.8	—	—	■上部 2/12	外：ロコナデ、動物 内：ロコナデ、動物	黒：1017/3 青：517/2	漫画系
0627	003-04 10年	青紙	漫画	J-112	SX0009	SX0029	—	—	—	■上部 小片	外：ロコナデ、輪転、動物 内：ロコナデ、情報、動物	黒：N/0 青：2,506/1	漫画系
0628	004-03 10年	青紙	漫画	J-112	SX0009	SX0029	—	—	—	■上部 小片	外：ロコナデ、動物 内：ロコナデ、動物、情報、動物	黒：1017/3 青：2,507/1	同漫画系
0629	004-01 10年	青紙	漫画	J-112	SX0009	SX0029	—	—	6.0	■上部 2/12	外：ロコナズ 内：ロコナデ、動物	黒：2,516/2 青：1016/1	—
0630	005-03 83年	青紙	漫画	—	SX0009	SX0009	—	—	6.1	■上部 4/12	外：ロコナズ 内：ロコナデ、動物	黒：2,516/2 青：1017/1	—
0631	003-03 10年	青紙	漫画	J-112	SX0009	SX0029	—	—	6.4	■上部 1/12	外：ロコナデ、ロコナズ、情報、文、動物 内：ロコナデ、動物	黒：N/0 青：2,506/1	漫画系
0632	003-02 10年	青紙	漫画	J-113	SX0009	SX0029	—	—	6.0	■上部 2/12	外：ロコナデ、赤切、動物 内：ロコナデ、動物	黒：N/0 青：1017/1	—
0633	009-03 10年	石製品	石鏡	J-112	SX0009	SX0029	—	—	—	■上部 小片	外：動物 内：動物、情報	—	滑石製 京都府京丹波市平島
0634	009-04 10年	石製品	石鏡	J-112	SX0009	SX0029	—	—	—	■中部 小片	外：動物 内：動物、情報	—	滑石製 京都府京丹波市 平島 外島県平島
0635	005-03 10年	石製品	磁石	J-113	SX0009	SX0029	長さ 7.7	幅 3.1	厚さ 2.1	—	静電	—	軽石製 12.09
0636	049-01 10年	鉄製品	刀子	J-112	SX0009	SX0029	—	幅 3.1	厚さ 1.1	1/1	平欠	—	—
0637	049-03 10年	鉄製品	片刃状磁石	—	SX0009	SX0029	—	長さ 2.2	幅 1.1	小片	—	—	鉄製?
0638	049-02 10年	鉄製品	磁	J-113	SX0009	SX0029	長さ 8.7	幅 4.5	厚さ 1.5	一断面	—	—	—
0639	005-06 83年	土製品	土鍋蓋	—	SX0010	SX0010	6.7	1.4	—	■上部 5/12	外：ロコナデ、赤切 内：ロコナデ	7,518/4	大阪府 オクノ土器器
0640	009-07 10年	瓦葺	火鉢	—	SX0010	SX0010	22.2	—	—	■上部 1/12	外：ヨコナデ、ケズリ、ナデ 内：ヨコナデ	516/1、85/0	足利製鐵所あり

第IV-16表 遺物觀察表 16

報告 No.	発掘 期	地層	グリッド	報告者 氏名	調査時 間	口徑 (cm)	高さ (cm)	厚さ (cm)	保存 状態	調査・施工・特徴等	色調	特記事項
0641	006-02 8次	陶器	鉢	—	SK0010	SK0010	—	—	—	口縁部 小片 外：ロクロナデ、ロクワズリ、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黄：2.5YR/2 輪：3.5Y/2	瀬戸・美濃
0642	006-01 8次	陶器	甕鉢	—	SK0010	SK0010	—	—	—	口縁部 小片 外：ロクロナデ、ロクワズリ 内：ロクロナデ、陶胎	2.5YR5/1	香・磐石系
0643	021-05 10次	陶器	甕	J-817	SK0010	SK10037	—	6.4	—	底面 2/12 外：ロクワズリ、陶胎 内：ロクロナデ	黄：10YR7/3 輪：10YR5/6	—
0644	021-01 10次	陶器	甕	J-817	SK0010	SK10037	11.0	—	—	口縁部 3/12 外：ロクロナデ、染付、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黄：8/0	肥前系
0645	006-03 8次	石製品	燧石	—	SK0010	SK0010	—	幅 4.0 厚さ 2.9	半欠	擦痕	—	155.4g
0646	007-03 8次	土師器	皿	—	SK0011	SK0011	8.0	1.6	—	口縁部 8/12 外：ロクロナデ、赤切痕 内：ロクロナデ	5YR6/6	大坂系 ロク土師器
0647	007-02 8次	土師器	皿	—	SK0011	SK0011	9.8	1.9	—	口縁部 2/12 外：ロクロナデ、赤切痕 内：ロクロナデ	7.5YR6/4 10YR6/2	大坂系 ロク土師器
0648	007-04 8次	陶器	皿	—	SK0011	SK0011	11.8	2.8	6.1	底面 12/12 外：ロクロナデ、ロクワズリ、ハク切痕、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎、黒ねねき痕、陶胎	黄：2.5Y/3 輪：1.5Y/2	瀬戸・美濃
0649	006-05 8次	土師器	埴輪	—	SK0011	SK0011	25.0	—	—	口縁部 2/12 外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、土質ナデ	7.5YR6/4	大坂・磐石系 外周保存付
0650	007-01 8次	土師器	埴輪	—	SK0011	SK0011	30.0	—	—	口縁部 2/12 外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、土質ナデ	7.5YR6/1	大坂・磐石系 外周保存付
0651	006-04 8次	陶器	甕	—	SK0011	SK0011	9.4	4.9	3.9	口縁部 5/12 外：ロクロナデ、ロクワズリ、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黄：8B/0	肥前系
0652	008-01 8次	陶器	加工戸蓋 (山形組)	—	SK0011	SK0011	長径 4.2	短径 4.2	—	外：ロクロナデ 内：赤切痕	—	20.5g 磨削打ち欠き
0653	008-02 8次	石製品	刀型片	—	SK0011	SK0011	長径 5.4	短径 5.2	厚さ 1.2	—	—	47.9g
0654	008-03 8次	石製品	燧石	—	SK0011	SK0011	長径 5.2	幅 4.3	厚さ 4.2	—	—	111.7g
0655	008-04 8次	土師器	鉢または甕 口	—	SE0015	SE0015	—	—	—	口縁部 小片 外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	10YR6/3	瀬戸系
0656	009-02 8次	陶器	皿	—	SE0015	SE0015	11.2	—	—	口縁部 2/12 外：ロクロナデ、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黄：2.5YR/2 輪：1.5Y/2	—
0657	008-05 12次	陶器	皿	—	SE0015	SE0015	—	—	6.2	底面 12/12 外：ロクロナデ、ロクワズリ 内：ロクロナデ、陶胎	黄：2.5YR/3 輪：2.5YR/1	瀬戸・美濃
0658	009-01 8次	陶器	皿	—	SE0015	SE0015	—	—	4.0	底面 7/12 外：ロクロナデ、ロクワズリ 内：ロクロナデ、トロン痕、陶胎	黄：1.5YR/3 輪：5YR/2	肥前系？
0659	009-04 8次	陶器	甕鉢	—	SE0015	SE0015	—	—	9.7	底面 2/12 外：ロクロナデ、ナデ 内：ロクロナデ、陶胎	2.5YR5/1	—
0660	010-01 8次	陶器	甕鉢	—	SE0015	SE0015	—	—	—	底面 小片 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、陶胎	5YR6/1	—
0661	009-03 8次	陶器	甕	—	SE0015	SE0015	37.2	—	—	口縁部 小片 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、陶胎	2.5YR6/2 2.5YR5/3	香博
0662	010-03 8次	青磁	甕	—	SE0015	SE0015	—	—	—	口縁部 小片 外：ロクロナデ、緑青文、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黄：5Y/7 輪：2.50Y/1	豊後系
0663	010-02 8次	青磁	甕	—	SE0015	SE0015	—	—	7.2	底面 1/12 外：ロクワズリ、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黄：2.5YR/2 輪：10Y/2	—
0664	010-04 8次	石製品	刀型片	—	SE0015	SE0015	長径 4.4	短径 4.6	厚さ 0.7	—	—	21.1g
0665	004-05 12次	瓦葺 土師	甕	—	SK0018	SK0018	27.0	—	—	口縁部 3/12 外：ヨコナデ、ナデ、タタキ？ 内：ヨコナデ、ナデ	9B/0、7.5YR/6	双紋鉢 内周保存付
0666	011-06 10次	土師器	皿	J-813	SK10003	SK10003	5.8	1.0	—	口縁部 11/12 外：ロクロナデ、赤切痕 内：ロクロナデ、陶胎	5YR6/4 輪：黄	大坂系 ロク土師器 外周保存付
0667	011-05 10次	土師器	皿	J-813	SK10003	SK10003	8.2	1.4	—	口縁部 3/12 外：ロクロナデ、赤切痕 内：ロクロナデ、陶胎	7.5YR6/4 輪：黄	大坂系 ロク土師器 外周保存付
0668	012-02 10次	陶器	鉢	J-813	SK10003	SK10003	17.2	—	—	口縁部 1/12 外：ロクロナデ、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黄：2.5YR/2 輪：5YR/2	瀬戸・美濃
0669	011-07 10次	陶器	鉢	J-813	SK10004	SK10004	—	—	15.0	底面 2/12 外：ロクロナデ、ロクワズリ、ハク切痕、陶胎 内：ロクロナデ、黒ねねき痕	黄：10YR8/2 輪：5Y/3	瀬戸・美濃
0670	012-01 10次	陶器	甕	J-813	SK10004	SK10004	5.8	5.2	3.4	底面 12/12 外：ロクロナデ、ロクワズリ、染付、陶胎 内：ロクロナデ、染付、陶胎	黄：8B/0	肥前系
0671	011-04 10次	土師器	皿	J-812	SK10005	SK10005	—	—	—	口縁部 小片 外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR6/2	—
0672	011-03 10次	陶器	香炉	J-812	SK10005	SK10005	12.8	—	—	口縁部 1/12 外：ロクロナデ、ロクワズリ、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黄：10YR8/3 輪：10YR5/6	瀬戸・美濃
0673	011-01 10次	須恵系 磁器不詳	J-V11	SK10007	SK10007	—	—	—	—	小片 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	9A/0	戸田の透かしが重 なりあり、部分不明 (磨削？)
0674	011-02 10次	陶器	甕	J-811	SK10010	SK10010	—	—	—	口縁部 小片 外：ロクロナデ、染付、陶胎 内：ロクロナデ、染付、陶胎	黄：8B/0	肥前系
0675	010-01 10次	陶器	甕	J-V8	SK10013	SK10013	6.0	—	—	口縁部 4/12 外：ロクロナデ、ロクワズリ 内：ロクロナデ	黄：2.5YR/2 輪：2.50Y/1	瀬戸・美濃
0676	010-03 10次	陶器	甕	J-V8	SK10014	SK10014	5.4	—	—	口縁部 4/12 外：ロクロナデ、陶胎 内：ロクロナデ	黄：10YR8/2 輪：2.5YR6/1	瀬戸・美濃
0677	010-02 10次	陶器	加工戸蓋 (甕)	J-V8	SK10014	SK10014	長径 5.8	短径 5.4	—	外：ロクワズリ、陶胎 内：ロクロナデ、染付、陶胎	黄：8B/0	56.0g 磨削打ち欠き
0678	010-04 10次	陶器	甕鉢	J-V8	SK10015	SK10015	—	—	—	底面 小片 外：ロクロナデ、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黄：10YR8/2 輪：10B4/1	瀬戸・美濃
0679	010-06 10次	陶器	皿	J-V8	SK10016	SK10016	—	—	—	口縁部 小片 外：ロクロナデ、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黄：2.5Y/3 輪：2.50Y/1	瀬戸・美濃
0680	010-05 10次	陶器	甕鉢	J-V8	SK10016	SK10016	—	—	—	底面 小片 外：ロクロナデ、ナデ 内：ロクロナデ、陶胎	10B6/6 2.5YR5/2	—

第IV-17表 遺物観察表 57

報告 No.	実施 No.	種別	品名	グリッド	報告遺構 部位	調査時 遺構名	口径 (cm)	最高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調査・施工・熟練等	色調	特記事項
0681	010-07 10x	磁器	碗	J-108	SK10016	SK10016	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、染付、熟練 内：ロクロナデ、熟練	黄/0	肥前系 コンチャク印刷
0682	012-03 10x	土師器	皿	L-412	SK10017	SK10017	11.4	2.0	—	口縁部 6/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	7.5108/2	
0683	012-06 10x	陶器	山皿	L-412	SK10017	SK10017	8.0	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	黄/0	瀬川河内型
0684	012-04 10x	土製品	土罐	L-412	SK10017	SK10017	長さ 3.9	幅 3.3	—	完存	外：ナデ	7.5108/3	33.0g
0685	012-05 10x	土製品	土罐	L-412	SK10017	SK10017	長さ 4.1	幅 3.2	—	完存	外：ナデ	7.5108/3	35.0g
0686	017-02 10x	土師器	皿	J-011	SK10018	SK10018	8.0	—	—	口縁部 1/12	外：ナデ、ユビオサエ、粘土練合 内：ナデ	10103/4	南伊勢系
0687	017-03 10x	土師器	皿	J-011	SK10018	SK10018	8.8	—	—	口縁部 3/12	外：ナデ、ユビオサエ 内：ナデ	7.5107/4	南伊勢系
0688	017-01 10x	土師器	皿	J-011	SK10018	SK10018	9.8	1.5	—	口縁部 10/12	外：ナデ、ユビオサエ 内：ナデ	10103/4	南伊勢系
0689	017-04 10x	土師器	皿	J-011	SK10021	SK10021	9.0	—	—	口縁部 2/12	外：ナデ、ユビオサエ 内：ナデ	10103/4	南伊勢系
0690	017-05 10x	土師器	茶釜	J-011	SK10021	SK10021	9.0	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	7.5106/4	外瀬川河内
0691	017-06 10x	陶器	山手鉢	J-011	SK10021	SK10021	14.4	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.517/2	瀬川河内
0692	018-03 10x	土師器	皿	J-112	SK10027	SK10027	10.8	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ、粘土練合 内：ヨコナデ、工夫ナデ	10103/2	
0693	018-04 10x	陶器	鉢	J-012	SK10027	SK10027	22.6	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.516/1	瀬川系
0694	018-05 10x	土師器	皿	J-011	SK10028	SK10028	10.4	2.1	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、赤切、熟練 内：ロクロナデ、熟練	7.5107/4 黄：遺	大坂系 クロロ土師器、内外 面に緑部付着
0695	019-02 10x	陶器	碗	J-011	SK10028	SK10028	9.8	—	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、染付、熟練 内：ロクロナデ、熟練	黄：510/1	瀬川河内
0696	019-01 10x	陶器	鉢	J-011	SK10028	SK10028	20.6	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	514/1	瀬川
0697	019-03 10x	磁器	皿	J-011	SK10028	SK10028	8.1	—	—	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、熟練 内：ロクロナデ、工夫ナデ（カキメツ）、熟練	黄：9/0	肥前系
0698	020-04 10x	土師器	皿	L-08	SK10032	SK10032	7.0	1.3	—	口縁部 9/12	外：ロクロナデ、赤切 内：ロクロナデ	7.5107/4	大坂系 クロロ土師器、内外 面に緑部付着
0699	020-03 10x	土師器	皿	L-08	SK10032	SK10032	10.6	2.1	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、赤切 内：ロクロナデ、熟練	5105/6 黄：遺	大坂系 クロロ土師器、内外 面に緑部付着
0700	020-02 10x	土師器	鉢	L-08	SK10032	SK10032	21.6	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工夫ナデ、ナデ	7.5105/3	大坂系 外瀬川河内
0701	020-05 9/12	陶器	香炉	L-08	SK10032	SK10032	9.4	5.8	—	口縁部 9/12	外：ロクロナデ、ロクロナズリ、ナデ、熟練 内：ロクロナデ、熟練	黄：2.517/1 黄：2.516/4	瀬川・美濃
0702	021-01 10x	陶器	皿	L-08	SK10032	SK10032	7.4	3.1	—	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロナズリ、熟練 内：ロクロナデ	黄：2.517/3 黄：5104/3	瀬川・美濃
0703	021-02 10x	磁器	横口	L-08	SK10032	SK10032	—	—	5.6	底部 6/12	外：ロクロナデ、ロクロナズリ、染付、熟練 内：ロクロナデ、熟練	黄：010/0	肥前系
0704	021-04 10x	青磁	碗	L-08	SK10032	SK10032	—	—	5.6	底部 3/12	外：ロクロナズリ、熟練 内：ロクロナズリ、熟練	黄：517/1 黄：514/2	
0705	021-03 10x	石製品	基石	L-08	SK10032	SK10032	—	幅 5.0	長さ 4.0	半欠	縦断面、加工面？	—	35.0g
0706	020-01 10x	土師器	鉢	J-108	SK10033	SK10033	36.9	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ケズリ 内：ヨコナデ、工夫ナデ、ケズリ	10103/2 7.5104/4	南伊勢系
0707	022-02 10x	陶器	山皿	L-012	SK10038	SK10038	10.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.517/2	瀬川河内型
0708	022-03 10x	土師器	茶釜	L-08	SK10040	SK10040	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ハクツ 内：ヨコナデ、ナデ、粘土練合	5106/6	南伊勢系
0709	022-04 10x	磁器	碗	L-08	SK10040	SK10040	10.8	4.4	4.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロナズリ、染付、熟練 内：ロクロナデ、熟練	黄：9/0	肥前系
0710	024-02 10x	土師器	皿	L-012	SK10041	SK10041	6.4	1.8	3.8	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、本目？ 内：ロクロナデ	5108/4	
0711	024-03 10x	土師器	皿	L-012	SK10041	SK10041	6.8	1.9	3.8	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、本目？ 内：ロクロナデ	5105/4 10108/2	
0712	024-04 10x	土師器	皿	L-012	SK10041	SK10041	11.4	3.3	—	口縁部 9/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、工夫ナデ	2.5107/4	
0713	024-05 10x	陶器	山皿	L-012	SK10041	SK10041	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	510/1	瀬川河内型
0714	024-06 10x	石製品	石鍋	L-012	SK10041	SK10041	—	—	—	底部 小片	外：磨面 内：磨面	—	津石鍋 肥前河内土師系 外瀬川河内
0715	025-01 10x	石製品	石鍋	L-012	SK10041	SK10041	—	—	—	底部 小片	外：磨面 内：磨面	—	津石鍋 肥前河内土師系 外瀬川河内
0716	025-02 10x	石製品	石鍋	L-012	SK10041	SK10041	—	—	—	底部 小片	外：磨面 内：磨面、縦断面	—	津石鍋 肥前河内土師系 外瀬川河内
0717	050-01 10x	鉄製品	L字状物品	L-012	SK10041	SK10041	—	幅 8.2	長さ 1.1	半欠	—	—	—
0718	026-02 10x	土師器	皿	L-011	SK10042	SK10042	10.6	2.1	—	口縁部 6/12	外：ロクロナデ、赤切、熟練 内：ロクロナデ、印、熟練	10106/2 黄：遺	大坂系 クロロ土師器、内外 面に緑部付着
0719	026-01 10x	土師器	鉢	L-011	SK10042	SK10042	25.6	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工夫ナデ、ナデ	5106/6	大坂系 外瀬川河内
0720	027-01 10x	陶器	碗	L-011	SK10042	SK10042	5.6	3.6	2.6	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロナズリ、熟練 内：ロクロナズリ、熟練	黄：2.516/1 黄：517/1	瀬川・美濃

第IV-18表 遺物観察表 18

報告 №	実測 期	種別	産地	グロッソ	報告産地 番号	調査時 産地名	口 径 (cm)	底 高 (cm)	底 径 (cm)	注	調査・論文・図表等	色調	特記事項
0721	014-04 10次	陶器	皿	J-B11	SK10042	SK10042	18.3	5.3	9.0	口縁部 12/12	外：ロクロナデ、ロクワズリ、胎土 内：ロクロナデ、胎土	黄：10YR7/2 輪：5Y6/1	瀬戸・美濃
0722	029-01 10次	陶器	片口鉢	L-B11	SK10042	SK10042	15.0	7.2	6.0	完整	外：ロクロナデ、ナデ、ロクワズリ、胎土 内：ロクロナデ、胎土	黄：2.5YR/2 輪：2.5YR3/4	瀬戸・美濃
0723	029-02 10次	陶器	土瓶	L-B11	SK10042	SK10042	18.6	—	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、ナデ、ユビオサエ、ロクワズリ、胎土 内：ロクロナデ、胎土	黄：2.5YR/2 輪：5YR3/4	瀬戸・美濃
0724	029-04 10次	陶器	罎	L-B11	SK10042	SK10042	6.2	5.2	3.6	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクワズリ、染付、胎土 内：ロクロナデ、染付、胎土	黄：10YR/1	肥前系
0725	027-04 10次	陶器	罎	L-B11	SK10042	SK10042	16.3	5.5	4.1	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクワズリ、染付、胎土 内：ロクロナデ、胎土	黄：9/0	肥前系 「成化年製」疑
0726	027-02 10次	陶器	罎	L-B11	SK10042	SK10042	18.7	5.7	4.6	底部 8/12	外：ロクロナデ、ロクワズリ、染付、胎土 内：ロクロナデ、染付、胎土	黄：9/0	肥前系
0727	029-03 10次	陶器	小鉢	L-B11	SK10042	SK10042	6.2	3.2	2.6	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、ロクワズリ、胎土 内：ロクロナデ、胎土	黄：2.5YR/1	肥前系
0728	027-03 10次	陶器	罎	L-B11	SK10042	SK10042	9.4	3.0	縁部 3/3	口縁部 6/12	外：ロクロナデ、ロクワズリ、染付、胎土 内：ロクロナデ、染付、胎土	黄：9/0	肥前系 「成化年製」疑
0729	029-03 10次	土製品	魚形製品	L-B11	SK10042	SK10042	—	—	—	小片	外：聖押し 内：ナデ、ユビオサエ	10YR7/4	
0730	026-06 10次	土製品	伊達	L-B11	SK10042	SK10042	—	—	—	小片	ナデ?	—	ガラス類の産地不明付着
0731	026-04 10次	瓦?	瓦?	L-B11	SK10042	SK10042	—	—	—	小片	凸：ナデ、タタキ? 凹：布目痕	2.5YR6/6	
0732	026-05 10次	土製品	灰石	L-B11	SK10042	SK10042	—	—	—	小片	押痕	—	
0733	024-01 10次	土師器	罎	L-A10	SK10045	SK10045	6.8	1.5	—	口縁部 8/12	外：ロクロナデ、赤切痕 内：ロクロナデ	5YR8/4	大塚系 ロクロ土師器、内外 口縁部産地不明
0734	027-01 10次	陶器	深鉢	L-A10	SK10045	SK10045	25.8	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、ロクワズリ 内：ロクロナデ、胎土	2.5YR8/3	伊・明石系
0735	027-02 10次	陶器	罎	L-A10	SK10045	SK10045	18.5	5.5	4.1	底部 9/12	外：ロクロナデ、ロクワズリ、染付、胎土 内：ロクロナデ、胎土	黄：黒/0	肥前系
0736	027-03 10次	陶器	罎	L-A10	SK10045	SK10045	5.8	—	—	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、染付、胎土 内：ロクロナデ	黄：黒/0	肥前系
0737	027-04 10次	陶器	鉢	L-A10	SK10045	SK10045	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、染付、胎土 内：ロクロナデ、聖押し、胎土	黄：黒/0	肥前系
0738	027-05 10次	土製品	円筒状製品	L-A10	SK10045	SK10045	長さ 6.8	幅 6.7	厚さ 1.5	—	断面打ち欠き、表面磨削	—	63.0g
0739	051-01 10次	鉄製品	鐙	L-A10	SK10045	SK10045	—	幅 7.5	厚さ 1.0	平欠	—	—	—
0740	041-04 2次	陶器	山形罎	L-013	S020022	S02022	—	—	8.0	底部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5YR/1	
0741	041-05 2次	陶器	山形罎	L-013	S020022	S02022	—	—	8.8	底部 4/12	外：ロクロナデ、ナデ、赤切痕、磨削痕 内：ロクロナデ	2.5YR/2	尾瀬型
0742	015-02 2次	陶器	天目茶碗	L-013	S020022	S02022	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、胎土 内：ロクロナデ、胎土	黄：2.5YR/2 輪：10Y2/1	瀬戸・美濃
0743	042-07 2次	陶器	罎	L-013	S020022	S02022	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、胎土 内：ロクロナデ、胎土	黄：2.5YR/2 輪：5.5YR/3	瀬戸・美濃
0744	042-03 2次	土製品	土師	L-010	S020022	S02022	長さ 4.9	幅 1.2	—	完整	外：ナデ	2.5YR/3	6.3g
0745	042-04 2次	土製品	土師	L-012	S020022	S02022	長さ 5.1	幅 1.4	—	完整	外：ナデ	2.5YR/2	8.0g
0746	031-06 2次	土師器	鉢	L-C12	S020028	S02028	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	2.5YR8/4	海伊勢系 外産品付
0747	031-07 2次	陶器	深鉢	L-C12	S020028	S02028	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、胎土 内：ロクロナデ、胎土、胎土	黄：W/0 輪：10Y5/2	備前
0748	087-04 3次	土師器	罎	L-03	S031001	S031001	8.1	—	—	口縁部 4/12	外：ヨコナデ、工藤ナデ、オサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/2	
0749	012-03 7次	土師器	罎	20R29	S031001	S070012	16.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ	10YR8/2	
0750	088-02 3次	土師器	罎	L-02	S031001	S031001	11.4	3.4	2.9	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	2.5YR8/3	
0751	088-03 3次	土師器	罎	L-02	S031001	S031001	11.4	3.8	2.0	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、工藤ナデ	10YR8/2	
0752	081-03 3次	土師器	罎	L-02	S031001	S031001	11.6	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	2.5YR/2	
0753	096-08 3次	土師器	罎	L-03	S031001	S031001	11.8	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/2	
0754	013-06 7次	土師器	罎	20R32・ 38	S031001	S070012	12.0	3.1	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ?	10YR8/2 10YR5/3	
0755	081-04 3次	土師器	罎	L-02	S031001	S031001	12.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	2.5YR/3	
0756	098-07 3次	土師器	罎	L-03	S031001	S031001	12.0	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/2	
0757	013-01 7次	土師器	罎	20R32	S031001	S070012 一様	12.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、工藤ナデ	2.5YR7/3	
0758	013-04 7次	土師器	罎	20R32・ 38	S031001	S070012	12.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/2	
0759	013-05 7次	土師器	罎	20R32・ 38	S031001	S070012	12.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ? 内：ヨコナデ、ナデ?	10YR8/3	
0760	083-02 3次	土師器	罎	L-02	S031001	S031001	13.6	—	—	口縁部 2/12	外：ナデ 内：ナデ	2.5YR/3	

第IV-19表 遺物観察表 19

報告 No.	発掘 期	種別	器種	グリッド	報告遺構 部位	調査時 遺構名	口径 (cm)	最高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調査・施工・発掘等	色調	特記事項
0761	012-02 7次	土師器	皿	Z29	S031001	S070012	8.4	1.4	6.0	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、赤切焼 内：ロクロナデ	10YR8/3	ロクロ土師器
0762	009-04 3次	土師器	台付皿	I-03	S031001	S031001	—	—	8.0	底部 5/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ?	5S10R/3 2.5YR/1	
0763	008-04 3次	土師器	台付皿	I-03	S031001	S031001	14.6	4.1	8.0	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、ナデ 内：ロクロナデ	10YR8/2	
0764	014-02 7次	土師器	鉢	Z232・ 38	S031001	S070012	21.6	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ハケム 内：ロクロナデ、ユビオサエ、ナデ	7.5YR7/4	南伊勢系
0765	002-01 3次	土師器	鉢	I-02	S031001	S031001	22.0	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y7/3	南伊勢系 外周部付着
0766	006-01 3次	土師器	鉢	—	S031001	S090002	22.0	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、ハケム	7.5YR4/1	南伊勢系
0767	008-03 3次	土師器	鉢	I-02	S031001	S031001	24.0	—	—	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、ハケム 内：ロクロナデ、工具ナデ	2.5Y7/3	南伊勢系 内外周部付着
0768	001-01 3次	土師器	鉢	I-52	S031001	S031001	25.9	—	—	口縁部 10/12	外：ロクロナデ、ハケム、ウズリ 内：ロクロナデ、ユビオサエ、工具ナデ	10YR7/4	南伊勢系 外周部付着
0769	001-01 3次	土師器	鉢	I-52	S031001	S031001	26.8	—	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、ハケム 内：ロクロナデ、ユビオサエ、ナデ	2.5Y7/3	南伊勢系 外周部付着
0770	000-02 3次	土師器	鉢	I-02	S031001	S031001	27.2	—	—	口縁部 6/12	外：ロクロナデ、ハケム 内：ロクロナデ、ナデ、ハケム	2.5Y7/3	南伊勢系
0771	000-01 3次	土師器	鉢	I-02	S031001	S031001	28.0	—	—	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、ハケム 内：ロクロナデ、ナデ	10YR4/2	南伊勢系 内外周部付着
0772	001-02 3次	土師器	鉢	I-02	S031001	S031001	28.0	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ハケム 内：ロクロナデ、工具ナデ	2.5Y7/3	南伊勢系 内外周部付着
0773	002-02 3次	土師器	鉢	I-02	S031001	S031001	28.0	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y7/3	南伊勢系 外周部付着
0774	006-02 3次	土師器	鉢	—	S031001	S090002	28.4	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ユビオサエ、ハケム 内：ロクロナデ、ナデ、工具ナデ	10YR5/2	南伊勢系
0775	002-03 3次	土師器	鉢	I-03	S031001	S031001	27.6	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ユビオサエ、ハケム 内：ロクロナデ、ユビオサエ、ナデ	7.5YR7/3	南伊勢系 外周部付着
0776	014-01 7次	土師器	鉢	Z232	S031001	S070012 一皿	28.4	—	—	口縁部 10/12	外：ロクロナデ、ナデ、ハケム 内：ロクロナデ、ユビオサエ、ナデ	7.5YR7/3	外周部付着 南伊勢系
0777	002-03 3次	土師器	鉢	I-02	S031001	S031001	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、ハケム	2.5Y7/3	南伊勢系
0778	002-04 3次	土師器	鉢	I-Y1	S031001	S031001	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	10YR7/3	南伊勢系 外周部付着
0779	002-05 3次	土師器	鉢	I-02	S031001	S031001	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y7/3	南伊勢系 内外周部付着
0780	002-06 3次	土師器	鉢	I-02	S031001	S031001	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y7/3	南伊勢系 外周部付着
0781	003-03 3次	土師器	鉢	I-Y1	S031001	S031001	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5YR/2	南伊勢系
0782	004-03 3次	土師器	鉢	I-02	S031001	S031001	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	10YR7/4	南伊勢系 内外周部付着
0783	007-01 3次	土師器	羽釜	I-R2	S031001	S031001	24.8	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5YR6/4	南伊勢系 外周部付着
0784	007-03 3次	土師器	羽釜	I-03	S031001	S031001	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、ハケム 内：ロクロナデ、ナデ	7.5YR7/4	南伊勢系 外周部付着
0785	006-03 3次	土師器	羽釜	—	S031001	S090002	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、工具ナデ、ハケム 内：ロクロナデ、工具ナデ、ナデ、割目、粘土継ぎ 合痕	7.5YR6/2	南伊勢系
0786	015-03 7次	土師器	羽釜	Z232・ 38	S031001	S070012	29.0	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ナデ 内：ロクロナデ、ユビオサエ、ナデ	10YR7/3	南伊勢系 外周部付着
0787	013-02 7次	灰土器	鉢	Z232・ 38	S031001	S070012	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	10YR7/2	東瀬系
0788	002-05 3次	陶器	山手碗	—	S031001	S090002	—	—	6.2	底部 3/12	外：ロクロナデ、赤切焼 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	尾張型
0789	008-01 3次	陶器	山手碗	I-03	S031001	S031001	—	—	6.3	底部 11/12	外：ロクロナデ、工具焼?、赤切焼 内：ロクロナデ	10YR7/2	東瀬系陶器型
0790	110-01 3次	陶器	山手碗	I-R2	S031001	S031001	—	—	6.4	底部 3/12	外：ロクロナデ、赤切焼 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	東瀬系陶器型
0791	019-06 3次	陶器	山手碗	I-R3	S031001	S031001	—	—	6.5	底部 10/12	外：ロクロナデ、赤切焼 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	東瀬系陶器型
0792	019-03 3次	陶器	山手碗	I-03	S031001	S031001	—	—	7.0	底部 3/12	外：ロクロナデ、赤切焼 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	東瀬系陶器型
0793	013-07 7次	陶器	山手碗	Z232・ 38	S031001	S070012	—	—	7.0	底部 2/12	外：ロクロナデ、ナデ、赤切焼 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	尾張型
0794	013-08 7次	陶器	山手碗	Z232・ 38	S031001	S070012	—	—	7.3	底部 2/12	外：ロクロナデ、ナデ、赤切焼 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	東瀬系陶器型
0795	019-02 3次	陶器	山手碗	I-03	S031001	S031001	—	—	7.5	底部 4/12	外：ロクロナデ、赤切焼、磨緑痕 内：ロクロナデ	2.5YR/1	尾張型
0796	012-04 7次	陶器	山手碗	Z29	S031001	S070012	—	—	7.6	底部 2/12	外：ロクロナデ、磨緑痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	尾張型
0797	019-01 3次	陶器	山手碗	I-03	S031001	S031001	—	—	8.7	底部 2/12	外：ロクロナデ、赤切焼 内：ロクロナデ	10YR8/1	東瀬系陶器型
0798	002-04 3次	陶器	皿	I-03	S031001	S031001	—	—	—	底部 小片	外：ロクロナデ?、磨緑 内：ロクロナデ、磨緑	黄：2.5Y7/2 黄：10Y7/1	瀬戸・東瀬 外周部付着
0799	013-03 7次	陶器	皿	Z232	S031001	S070012	31.0	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5YR/1 2.5Y7/1	
0800	007-06 3次	陶器	片口鉢	I-03	S031001	S031001	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、工具ナデ、ユビオサエ 内：ロクロナデ、工具ナデ	N5-0	尾張

第IV-20表 遺物観察表 20

品名	実売日	種類	原産	ブランド	輸入業者 登録番号	製造元 登録番号	白箱 (g)	黄箱 (g)	重量 (kg)	内容量	調製・加工・熟成等	色紙	特記事項	
0001	112-02 3区	肉類	豚	L-Q3	S031001	S031001	—	—	—	口蓋部 小片	外：ロクロナデ、エリナデ 内：ロクロナデ、エリナデ	H5-/0	焼酎	
0002	012-05 3区	肉類	豚	ZBZ9	S031001	S070012	—	—	13.0	底部 1/12	外：ロクロナデ？、ナデ？ 内：使用による厚膜のため不明	S18/1	焼酎	
0003	112-01 3区	肉類	鶏	L-V1	S031001	S031001	—	—	13.2	底部 3/12	外：ロクロナデ、ケズリ、ナデ 内：ナデ	2,S18S/4	—	
0004	096-01 3区	肉類	鶏	L-Q3	S031001	S031001	18.0	—	—	口蓋部 3/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、ユビオサエ	S18A/8	焼酎	
0005	003-01 3区	肉類	鶏	—	S031001	S090002	16.4	—	—	口蓋部 2/12	外：ロクロナデ、エリナデ 内：ロクロナデ、ユビオサエ、ナデ	1018A/1	焼酎	
0006	007-02 3区	肉類	鶏	L-V2	S031001	S031001	24.2	—	—	口蓋部 2/12	外：ロクロナデ、熟成 内：ロクロナデ、熟成	黒：S17/1 緑：T,S15/3	焼酎	
0007	006-04 3区	白濁	酒	—	S031001	S090002	—	—	—	口蓋部 小片	外：ロクロナデ、熟成 内：ロクロナデ、熟成	黒：2,S18/1 緑：S18/2	醸造清酒	
0008	014-03 3区	青魚	鰯	ZBZ12、 38	S031001	S070012	16.8	—	—	口蓋部 1/12	外：ロクロナデ、熟成 内：ロクロナデ、熟成	黒：9/8 緑：T,S162/1	—	
0009	015-01 3区	青魚	鰯	ZBZ29	S031001	S070012	—	—	5.7	底部 6/12	外：ロクロナデ、熟成 内：ロクロナデ、刺繍文、熟成	黒：S17/1 緑：T,S15/2	醸造清酒	
0010	014-04 3区	青白濁	梅枝 (メイヒン)	ZBZ29	S031001	S070012	—	—	9.8	底部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロナデ、結文、熟成 内：ロクロナデ、ロクロナデ、熟成	黒：S18/1 緑：16G1/1	—	
0011	012-06 3区	土製品	土鍋	ZBZ29	S031001	S070012	長さ 3.5	幅 2.7	—	一部欠	外：ナデ	1018V/2	28.0g	
0012	007-05 3区	土製品	土鍋	L-Q3	S031001	S031001	長さ 6.6	幅 3.2	—	完形	外：ナデ	7,S18H/4	46.0g	
0013	112-03 3区	石製品	碇石	L-Q3	S031001	S031001	—	幅 5.9	—	一部欠	磨面	—	132.1g	
0014	015-02 3区	石製品	碇石	ZBZ30	S031001	S070012	—	幅 11.5	—	厚さ 7.7	平欠	磨面	—	566.0g
0015	004-04 3区	石製品	碇石	—	S031001	S090002	長さ 5.4	幅 5.2	—	—	敲打痕	—	160.4g	
0016	005-01 3区	土師器	鍋	L-V1	S031002	S031002	19.8	—	—	口蓋部 1/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	2,S18/1 7,S186/2	南伊勢系	
0017	000-05 3区	土師器	鍋	ZBZ43	S031002	S070006	29.4	—	—	口蓋部 1/12	外：ヨコナデ、ハクメ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	1018B/3	南伊勢系 外面付磨目	
0018	009-01 3区	土師器	鍋	ZBZ23	S031002	S070006	—	—	—	口蓋部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	7,S18Z/4	南伊勢系	
0019	009-02 3区	土師器	羽釜	ZBZ23	S031002	S070006	—	—	—	口蓋部 小片	外：ヨコナデ 内：ハクメ	7,S18M/3	南伊勢系	
0020	000-04 3区	肉類	鶏	ZBZ43	S031002	S070006	—	—	11.2	底部 1/12	外：ナデ 内：ナデ？	黒：R5/0 緑：S18S/3	焼酎？	
0021	006-01 3区	土師器	鍋	L-Q3	S031009	S031009	21.2	—	—	口蓋部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ、エリナデ	7,S18Z/4	備前型 外面付磨目	
0022	005-03 3区	土師器	鍋	L-P3	S031009	S031009	—	—	—	口蓋部 小片	外：ヨコナデ、ハクメ 内：ヨコナデ	1018B/3	南伊勢系 外面付磨目	
0023	007-04 3区	石製品	円盤状土製品	L-S2	S031009	S031009	長さ 3.8	短径 3.3	—	厚さ 0.4	隅角打ち欠け、表面磨削	—	7.9g	
0024	005-02 3区	土師器	鍋	L-Q3	S031011	S031011	—	—	—	口蓋部 小片	外：ヨコナデ、ハクメ 内：ヨコナデ	1018Y/3	南伊勢系	
0025	005-04 3区	肉類	山岸鰯	L-Q3	S031011	S031011	—	—	5.8	底部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	N6/0	鹿児島西派	
0026	005-05 3区	肉類	山岸鰯	L-R2	S031011	S031011	—	—	6.8	底部 4/12	外：ロクロナデ、赤切燗 内：ロクロナデ	N6/0	鹿児島西派	
0027	016-03 3区	肉類	山岸鰯	ZBZ55	S031011	S070017	—	—	3.2	底部 2/12	外：ロクロナデ、赤切燗、朝顔燗 内：ロクロナデ	2,S17/2	備前型	
0028	016-04 3区	肉類	山鰯	ZBZ55	S031011	S070017	—	—	7.2	底部 12/12	外：ロクロナデ、赤切燗 内：ロクロナデ	2,S17/2	鹿児島西派	
0029	019-01 3区	肉類	豚	ZBZ55	S031011	S070017	32.4	10.0	14.2	口蓋部 1/12	外：ロクロナデ、ケズリ 内：ロクロナデ	N7/0	焼酎	
0030	000-05 3区	肉類	豚	L-P2	S031011	S031011	—	—	11.6	底部 2/12	外：ロクロナデ、赤切燗 内：ロクロナデ	2,S17/1	焼酎	
0031	010-04 3区	肉類	鶏	ZBZ55	S031011	S070017	—	—	10.0	底部 2/12	外：エリナデ、ナデ？ 内：ロクロナデ、ナデ	S18S/1	—	
0032	010-03 3区	肉類	鶏	ZBZ49	S031011	S070017 1磨	—	—	12.2	底部 2/12	外：エリナデ、ナデ 内：ロクロナデ？	7,S18A/1 N7/0	—	
0033	005-06 3区	青魚	鰯	L-R2	S031011	S031011	14.8	—	—	口蓋部 1/12	外：ロクロナデ、熟成 内：ロクロナデ、熟成	黒：R7/0 緑：10Y5/2	—	
0034	014-02 3区	土師器	羽釜	ZBZ48	S031020	S070018 1磨	14.6	—	—	口蓋部 2/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、エリナデ	1018V/2	南伊勢系 外面付磨目	
0035	019-03 3区	土師器	羽釜	ZBZ54	S031020	S070018	16.6	—	—	口蓋部 1/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ハクメ 内：ヨコナデ、エリナデ	S18A/2	南伊勢系 外面付磨目	
0036	003-02 3区	土師器	羽釜	L-Q3	S031020	S031020	20.4	—	—	口蓋部 3/12	外：ヨコナデ、ハクメ 内：ヨコナデ、エリナデ、ナデ	2,S18/3	南伊勢系 外面付磨目	
0037	002-05 3区	肉類	山岸鰯	L-R2	S031020	S031020	—	—	8.4	底部 3/12	外：ロクロナデ、赤切燗、朝顔燗 内：ロクロナデ	2,S17/2	備前型	
0038	015-04 3区	土師器	盆	L-111	S032004	S033002	7.2	1.7	5.2	口蓋部 3/12	外：ロクロナデ、赤切燗 内：ロクロナデ	S18V/4	ロクロ土師器	
0039	112-05 3区	土師器	盆	L-111	S032004	S033002	16.6	—	—	口蓋部 1/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、エリナデ、エリナデ	2,S18/1	—	
0040	014-04 3区	肉類	山岸鰯	L-110	S032004	S033002	—	—	5.7	底部 8/12	外：ロクロナデ、赤切燗、朝顔燗 内：ロクロナデ	2,S17/2	備前型	

第IV-21表 遺物觀察表 21

報告 No.	発掘 No.	種別	路線	グリッド	報告遺構 部位	調査時 遺構名	口径 (cm)	最高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調査・施工・施設等	色調	特記事項
0041	014-05 4/12	陶器	山手線	L-10	S032004	S033002	—	—	8.0	底部 外: ロクロナデ、赤切腹 内: ロクロナデ	—	2.5Y7/2	遺物調査区
0042	015-02 3次	陶器	線	L-19	S032004	S033002	—	—	14.0	底部 2/12 外: ロクロナデ、ロクロナデ 内: ロクロナデ	—	5.1Y7/1	窯跡
0043	014-05 3次	白磁	線	L-1・4	S032004	S033002 最下層	15.3	—	—	口縁部 1/12 外: ロクロナデ、陶輪 内: ロクロナデ、陶輪	—	黄: 2.5Y8/2 黒: 7.5Y7/1	磁器倉庫
0044	123-01 3次	鉄製品	灯	L-19	S032004	S033002	—	幅 5.9	厚さ 5.6	平次	—	—	—
0045	033-07 4次	縄文 土器	深鉢	L-93	S032006	S041001 トレンチ	—	—	—	口縁部 小片 外: ミガキ、赤線 内: ミガキ	—	7.5Y8/4	—
0046	034-01 4次	縄文 土器	深鉢	L-93	S032006	S041001 トレンチ	—	—	—	底部 小片 外: 赤線、ナデ 内: ミガキ	—	7.5Y8/4	—
0047	034-02 4次	縄文 土器	深鉢	L-93	S032006	S041001 トレンチ	—	—	—	底部 小片 外: 赤線、ナデ 内: ミガキ	—	7.5Y8/4	—
0048	001-04 4次	土師器	皿	L-54	S032006	S041001 上層	7.5	2.0	5.6	底部 9/12 外: ロクロナデ、ナデ、赤切腹 内: ロクロナデ	—	7.5Y8/4	10Y8/2
0049	001-05 4次	土師器	皿	L-14	S032006	S041001 下層	7.6	1.7	6.0	口縁部 3/12 外: ヨコナデ、ナデ 内: ヨコナデ、ナデ	—	7.5Y8/3	—
0050	002-01 4次	土師器	皿	L-03	S032006	S041001 上層	10.6	—	—	口縁部 9/12 外: ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内: ヨコナデ、ナデ	—	7.5Y8/3	—
0051	002-04 4次	土師器	皿	L-14	S032006	S041001 下層	11.0	—	—	口縁部 2/12 外: ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内: ヨコナデ、工具ナデ	—	2.5Y8/2	—
0052	002-05 4次	土師器	皿	L-14	S032006	S041001 下層	11.4	—	—	口縁部 2/12 外: ヨコナデ、ナデ 内: ヨコナデ、工具ナデ	—	10Y8/3	—
0053	001-03 4次	土師器	皿	L-93	S032006	S041001 上層	11.4	2.7	—	口縁部 2/12 外: ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内: ヨコナデ、工具ナデ	—	10Y8/2	—
0054	002-03 4次	土師器	皿	L-03	S032006	S041001 下層	11.8	1.9	—	口縁部 2/12 外: ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内: ヨコナデ、工具ナデ	—	10Y8/2	—
0055	002-04 4次	土師器	皿	L-93	S032006	S041001 アザ層	10.9	3.7	—	口縁部 10/12 外: ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内: ヨコナデ、工具ナデ	—	10Y8/2	—
0056	002-02 4次	土師器	皿	L-95	S032006	S041001 下層	12.0	—	—	口縁部 1/12 外: ヨコナデ、ナデ 内: ヨコナデ、ナデ	—	10Y8/2	—
0057	009-02 4次	土師器	皿	L-18	S032006	S043003	12.0	3.0	—	口縁部 2/12 外: ヨコナデ、ナデ 内: ヨコナデ、ナデ	—	2.5Y8/2	—
0058	009-03 4次	土師器	皿	L-18	S032006	S043003	12.0	2.9	—	口縁部 1/12 外: ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内: ヨコナデ、工具ナデ	—	10Y8/3	—
0059	002-03 4次	土師器	皿	L-05	S032006	S041001	12.1	—	—	口縁部 2/12 外: ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内: ヨコナデ、ナデ	—	10Y8/2	—
0060	002-02 4次	土師器	皿	L-04	S032006	S041001	12.4	—	—	口縁部 2/12 外: ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内: ヨコナデ、工具ナデ	—	7.5Y8/3	—
0061	001-05 4次	土師器	皿	L-93	S032006	S041001 上層	12.7	—	—	口縁部 1/12 外: ヨコナデ、ナデ 内: ヨコナデ、工具ナデ	—	10Y8/2	—
0062	002-04 4次	土師器	皿	L-03	S032006	S041001 下層	12.8	—	—	口縁部 2/12 外: ヨコナデ、ナデ 内: ヨコナデ、工具ナデ	—	10Y8/3	—
0063	002-01 4次	土師器	皿	L-93	S032006	S041001 中層	13.0	3.3	—	口縁部 2/12 外: ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内: ヨコナデ、工具ナデ	—	10Y8/3	—
0064	001-04 4次	土師器	皿	L-93	S032006	S041001 中層	15.7	—	—	口縁部 1/12 外: ヨコナデ、ナデ 内: ヨコナデ、ナデ	—	10Y8/3	10Y8/2
0065	028-02 7次	土師器	皿	25E	S032006	S070011 上層 4・5Y層	6.7	1.3	—	口縁部 3/12 外: ロクロナデ、赤切腹、陶輪 内: ロクロナデ、陶輪	—	5Y8/6 黄: 濃	大坂系 ロクロ土師器
0066	028-01 7次	土師器	皿	25E	S032006	S070011 上層 5Y層	6.8	1.2	—	口縁部 6/12 外: ロクロナデ、赤切腹 内: ロクロナデ、ナデ	—	7.5Y8/6	大坂系 ロクロ土師器 外周部付着
0067	028-03 7次	土師器	皿	25E	S032006	S070011 上層 1・3・4Y層	7.0	1.7	—	口縁部 2/12 外: ロクロナデ、赤切腹、陶輪 内: ロクロナデ、陶輪	—	5Y8/8 黄: 濃	大坂系 ロクロ土師器
0068	027-04 7次	土師器	皿	25E	S032006	S070011 上層 4・5Y層	9.7	2.1	—	口縁部 6/12 外: ロクロナデ、赤切腹、陶輪 内: ロクロナデ、陶輪	—	5Y8/8 黄: 濃	大坂系 ロクロ土師器 内外周部付着
0069	027-04 10次	土師器	台付皿	—	S032006	S010001	11.0	—	6.1	底部 6/12 外: ヨコナデ、ナデ 内: ヨコナデ、ナデ	—	10Y8/2	—
0070	014-01 3次	土師器	台付皿	—	S032006	S033001 1層	—	—	10.4	底部 10/12 外: ヨコナデ 内: ヨコナデ	—	7.5Y8/4	—
0071	030-03 10次	土師器	鉢	J-910	S032006	S010001	18.8	—	—	口縁部 2/12 外: ヨコナデ 内: ヨコナデ、ナデ	—	10Y8/3	南伊勢系
0072	005-03 6次	土師器	鉢	—	S032006	S020001	22.4	—	—	口縁部 1/12 外: ヨコナデ、ハクメ 内: ヨコナデ、ナデ、工具ナデ?	—	10Y8/3	南伊勢系
0073	029-03 4次	土師器	鉢	L-95	S032006	S041001 下層	23.8	—	—	口縁部 1/12 外: ヨコナデ、ハクメ 内: ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ	—	10Y8/3	南伊勢系 外周部付着
0074	004-02 4次	土師器	鉢	L-93	S032006	S041001 中層	24.0	—	—	口縁部 1/12 外: ヨコナデ、工具ナデ、ハクメ 内: ヨコナデ、工具ナデ	—	10Y8/1 10Y8/2	南伊勢系
0075	009-04 4次	土師器	鉢	L-18	S032006	S043003	24.0	—	—	口縁部 3/12 外: ヨコナデ 内: ヨコナデ、ナデ	—	10Y8/3	南伊勢系 外周部付着
0076	020-02 4次	土師器	鉢	L-18	S032006	S043003	24.0	—	—	口縁部 1/12 外: ヨコナデ、ナデ、ハクメ、ユビオサエ 内: ヨコナデ、ナデ	—	10Y8/3	南伊勢系 内外周部付着
0077	009-05 4次	土師器	鉢	L-18	S032006	S043003	24.3	—	—	口縁部 1/12 外: ヨコナデ、ユビオサエ 内: ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ	—	10Y8/3	南伊勢系 外周部付着
0078	040-04 10次	土師器	鉢	南側	S032006	S010001	24.6	—	—	口縁部 1/12 外: ヨコナデ、ハクメ 内: ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	—	7.5Y8/4	南伊勢系
0079	070-03 4次	土師器	鉢	L-18	S032006	S043003	25.0	—	—	口縁部 2/12 外: ヨコナデ 内: ヨコナデ、ハクメ	—	10Y8/3	南伊勢系 外周部付着
0080	010-04 3次	土師器	鉢	L-05	S032006	S032006 2層	25.8	—	—	口縁部 2/12 外: ヨコナデ、ハクメ 内: ヨコナデ	—	7.5Y8/3	南伊勢系 外周部付着

第IV-22表 遺物観察表 22

報告 №	実施 期	種別	用途	グリッド	報告連携 層位	調査時 調査機	口徑 (cm)	掘高 (cm)	掘径 (cm)	残存度	調査・施工・発掘等	色調	特記事項
0081	064-04 4次	土師器	鍋	I-03	S022006	S041001 トレンチン	26.0	—	—	口縁部 4/72	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	10Y06/3	陶片断片 外周部付着
0082	065-01 4次	土師器	鍋	I-V3	S022006	S041001 トレンチン	26.0	—	—	口縁部 5/12	外:ヨコナデ、ハクメ 内:ヨコナデ、ナデ	10Y07/3	陶片断片 外周部付着
0083	066-01 4次	土師器	鍋	I-V3	S022006	S041001 上層	26.3	—	—	口縁部 4/72	外:ヨコナデ、ハクメ、ユビオサエ 内:ヨコナデ、上層ナデ、ユビオサエ	10Y07/2 10Y08/2	陶片断片 内外周部付着
0084	066-04 4次	土師器	鍋	I-V3	S022006	S041001 下層	26.6	—	—	口縁部 6/12	外:ヨコナデ、ハクメ、上層ナデ 内:ヨコナデ、ハクメ、上層ナデ	7.5Y04/1 10Y08/2	陶片断片 外周部付着
0085	059-02 4次	土師器	鍋	I-V3	S022006	S041001 下層	26.9	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	10Y07/3	陶片断片 外周部付着
0086	066-04 4次	土師器	鍋	I-V3	S022006	S041001 下層	26.9	—	—	口縁部 3/72	外:ヨコナデ、ナデ 内:ヨコナデ、ナデ	10Y07/2 7.5Y05/2	陶片断片 外周部付着
0087	061-01 4次	土師器	鍋	I-V3	S022006	S041001 下層	27.0	—	—	口縁部 3/72	外:ヨコナデ、ナデ、ハクメ 内:ヨコナデ、上層ナデ	7.5Y05/2 10Y07/3	陶片断片 外周部付着
0088	070-01 4次	土師器	鍋	I-J0	S022006	S043003	27.0	—	—	口縁部 2/12	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	10Y07/3	陶片断片 外周部付着
0089	058-01 4次	土師器	鍋	I-14	S022006	S041001 下層	27.4	—	—	口縁部 9/12	外:ヨコナデ、ハクメ、クズリ 内:ヨコナデ、ハクメ、ユビオサエ、ナデ	10Y06/4	陶片断片 外周部付着
0090	003-01 4次	土師器	鍋	I-03	S022006	S041001 下層	27.8	—	—	口縁部 2/12	外:ヨコナデ、ハクメ 内:ヨコナデ、ユビオサエ、上層ナデ	10Y08/3	陶片断片 外周部付着
0091	059-01 4次	土師器	鍋	I-V3	S022006	S041001 下層	27.8	—	—	口縁部 3/12	外:ヨコナデ、上層ナデ 内:ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ	10Y07/3	陶片断片 外周部付着
0092	058-02 4次	土師器	鍋	I-14	S022006	S041001 下層	28.0	—	—	口縁部 4/72	外:ヨコナデ、ハクメ 内:ヨコナデ、ナデ、上層ナデ、ユビオサエ	10Y07/3	陶片断片 外周部付着
0093	065-02 4次	土師器	鍋	I-03	S022006	S041001 アゼ上層	28.0	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナデ、ハクメ 内:ヨコナデ	10Y07/2	陶片断片 外周部付着
0094	030-02 10次	土師器	鍋	J-V10	S022006	S010001 下層	28.8	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナデ、ハクメ 内:ヨコナデ、ナデ	10Y07/3	陶片断片
0095	040-03 3次	土師器	鍋	J-011	S022006	S030001	29.6	—	—	口縁部 2/12	外:ヨコナデ、ハクメ 内:ヨコナデ	7.5Y07/4	陶片断片 外周部付着
0096	050-03 3次	土師器	鍋	J-011	S022006	S030001	31.0	—	—	口縁部 4/72	外:ヨコナデ、ハクメ 内:ヨコナデ、ナデ	7.5Y07/3	陶片断片 外周部付着
0097	062-08 4次	土師器	鍋	I-04	S022006	S041001 上層	31.0	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナデ、ナデ 内:ヨコナデ、ナデ	10Y07/3 10Y08/3	陶片断片 外周部付着
0098	002-03 7次	土師器	鍋	10E12	S022006	S070001 新層	36.0	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	10Y08/3	陶片断片 外周部付着
0099	041-05 10次	土師器	鍋	—	S022006	S010001	31.0	—	—	口縁部 2/12	外:ヨコナデ、ユビオサエ、ハクメ 内:ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	10Y07/3	陶片断片
0100	062-07 4次	土師器	鍋	I-03	S022006	S041001 上層	32.8	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ、ナデ	10Y07/3	陶片断片 外周部付着
0101	042-02 10次	土師器	鍋	J-V10	S022006	S010001	33.4	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ、ナデ	7.5Y08/3	陶片断片
0102	026-03 7次	土師器	鍋	20E3	S022006	S070011 最上層	29.8	—	—	口縁部 3/12	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	5Y04/2 7.5Y06/3	陶片断片 外周部付着
0103	042-04 10次	土師器	鍋	南側	S022006	S010001 一様	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	7.5Y05/2	陶片断片 外周部付着
0104	042-05 10次	土師器	鍋	南側	S022006	S010001 一様	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	10Y07/3	陶片断片 外周部付着
0105	014-04 4次	土師器	鍋	I-J0	S022006	S043003 上層	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナデ、ナデ 内:ヨコナデ、ナデ	7.5Y07/3 7.5Y06/3	陶片断片 外周部付着
0106	014-03 4次	土師器	鍋	I-J0	S022006	S043003 下層	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナデ、ナデ 内:ヨコナデ、ナデ	10Y07/3	陶片断片 外周部付着
0107	014-02 3次	土師器	鍋	I-06	S022006	S033001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ、ナデ	7.5Y07/3	陶片断片 外周部付着
0108	040-04 3次	土師器	鍋	J-011	S022006	S030001	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナデ、ハクメ 内:ヨコナデ、ナデ	10Y08/3	陶片断片 外周部付着
0109	003-02 4次	土師器	鍋	I-06	S022006	S041001 下層	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナデ、ユビオサエ、ハクメ 内:ヨコナデ、ユビオサエ、上層ナデ	10Y08/2	陶片断片
0110	026-04 7次	土師器	鍋	20E21	S022006	S070011 5f	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	7.5Y08/3	陶片断片 外周部付着
0111	001-01 7次	土師器	焙焼	10E12	S022006	S070001	32.0	—	—	口縁部 3/12	外:ヨコナデ、ユビオサエ、ハクメ、クズリ 内:ヨコナデ、クズリ	10Y05/2 7.5Y07/3	陶片断片 外周部付着
0112	001-03 7次	土師器	焙焼	10E12	S022006	S070001	36.8	—	—	口縁部 5/12	外:ヨコナデ、ハクメ、上層ナデ 内:ヨコナデ、上層ナデ	10Y04/2 7.5Y07/4	陶片断片 外周部付着
0113	030-01 10次	土師器	焙焼	J-V10	S022006	S010001 下層	33.8	—	—	口縁部 2/12	外:ヨコナデ、ハクメ、クズリ 内:ヨコナデ、ナデ、ハクメ	10Y07/3	陶片断片
0114	002-01 7次	土師器	焙焼	10E12	S022006	S070001	36.0	—	—	口縁部 2/12	外:ヨコナデ、ナデ 内:ヨコナデ、上層ナデ	7.5Y07/4	陶片断片 外周部付着
0115	001-04 7次	土師器	焙焼	10E12	S022006	S070001	31.0	—	—	口縁部 3/12	外:ヨコナデ、ハクメ、ユビオサエ、ナデ 内:ヨコナデ、上層ナデ	7.5Y07/3	陶片断片 外周部付着
0116	026-04 7次	土師器	焙焼	20E	S022006	S070011 下層(23層)	31.8	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナデ、ナデ、ハクメ 内:ヨコナデ、上層ナデ	10Y08/3	陶片断片 外周部付着
0117	001-02 7次	土師器	焙焼	10E12	S022006	S070001	32.2	—	—	口縁部 3/12	外:ヨコナデ、ハクメ、上層ナデ 内:ヨコナデ、上層ナデ	7.5Y05/2 10Y07/3	陶片断片 外周部付着
0118	002-02 7次	土師器	焙焼	10E12	S022006	S070001	33.0	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	7.5Y06/2 7.5Y07/3	陶片断片 外周部付着
0119	026-02 7次	土師器	焙焼	20E	S022006	S070011上層 1-3-4f層	33.8	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナデ、ナデ 内:ヨコナデ、上層ナデ	5Y04/1 7.5Y07/3	陶片断片 外周部付着
0120	011-01 3次	土師器	鍋	I-05	S022006	S022006 1層	26.1	—	—	口縁部 3/12	外:ヨコナデ、ナデ、平行タタキ 内:ヨコナデ、ナデ	5Y07/4	焼物型 外周部付着

第IV-23表 遺物観察表 23

報告 No.	実施 No.	種別	路線	グリッド	報告遺構 位置	調査時 遺構名	口徑 (cm)	最高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調査・施工・発掘等	色調	特記事項
0921	043-03 102	土師器	横	南側	S032006	S070001 上層	—	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、平行タタキ 内:ヨコナガ、ナデ	7.5196/4	横断型 外周部付着、厚肉部 11
0922	049-01 32	土師器	横	J-011	S032006	S036001 上層	26.4	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、平行タタキ、ナデ 内:ヨコナガ、工員ナデ	7.5196/4	横断型 外周部付着
0923	024-02 7	土師器	横	Z5E	S032006	S070001 上層	29.8	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、ナデ、格子タタキ 内:ヨコナガ、工員ナデ	2.5196/6	横断型 外周部付着
0924	104-01 32	土師器	横	J-011	S032006	S036001 上層	22.0	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、格子タタキ、ウズリ 内:ヨコナガ、工員ナデ	7.5196/3	横断型 内外面部付着
0925	044-01 102	土師器	横	—	S032006	S070001 上層	23.5	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、ナデ、格子タタキ 内:ヨコナガ、工員ナデ	7.5196/3 7.5195/2	横断型 外周部付着
0926	049-02 32	土師器	横	J-011	S032006	S036001 上層	23.8	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、ユビオサエ、ナデ 内:ヨコナガ、工員ナデ	5.917/6	横断型 外周部付着
0927	052-01 7	土師器	横	1B12	S032006	S070001 上層	24.0	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、格子タタキ 内:ヨコナガ、工員ナデ	5.916/6	横断型 外周部付着
0928	026-01 32	土師器	横	Z5E21	S032006	S070011 上層	24.0	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、格子タタキ 内:ヨコナガ、工員ナデ、ナデ?	2.5196/6	横断型 外周部付着
0929	001-02 7	土師器	横	1B12	S032006	S070001 上層	24.3	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、格子タタキ 内:ヨコナガ、工員ナデ	5.916/4	横断型 外周部付着
0930	044-02 102	土師器	横	—	S032006	S070001 上層	22.8	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、ナデ、平行タタキ、粘土継接合痕 内:ヨコナガ、工員ナデ	5.916/6 10196/1	横断型 外周部付着、破損
0931	023-03 102	土師器	横	南側	S032006	S070001 一説	23.8	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、平行タタキ、ナデ 内:ヨコナガ、工員ナデ	5.917/6	横断型 外周部付着
0932	029-03 102	土師器	横	J-Y10	S032006	S070001 上層	25.2	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、ナデ、平行タタキ 内:ヨコナガ、工員ナデ	7.5196/4	横断型 外周部付着
0933	029-04 102	土師器	横	J-Y10	S032006	S070001 上層	26.5	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、ナデ、ユビオサエ、平行タタキ 内:ヨコナガ、工員ナデ	7.5196/4	横断型 外周部付着
0934	014-03 32	土師器	横	—	S032006	S030001 上層	24.0	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、ナデ、平行タタキ 内:ヨコナガ、ナデ	7.5196/4	横断型 外周部付着
0935	022-01 7	土師器	横	Z5E	S032006	S070011 上層	22.6	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、ナデ、工員ナデ 内:ヨコナガ、ナデ、工員ナデ、粘土継接合痕	5.916/2 5.915/3	大皿・碗石系 外周部付着
0936	042-02 3/12	土師器	横	—	S032006	S070001 上層	23.2	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、工員ナデ、ナデ、粘土継接合痕 内:ヨコナガ、工員ナデ、ナデ	7.5196/4	大皿・碗石系 外周部付着
0937	043-01 102	土師器	横	南側	S032006	S070001 一説	25.4	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、ナデ、ユビオサエ、工員ナデ 内:ヨコナガ、工員ナデ	5.916/6	大皿・碗石系 外周部付着
0938	027-02 7	土師器	横	Z5E 0+ 45-33.4	S032006	S070011 最上層	25.6	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、ナデ 内:ヨコナガ、ヘムナデ、工員ナデ、ナデ	5.916/6	大皿・碗石系 外周部付着
0939	024-01 7	土師器	横	Z5E	S032006	S070011 上層	25.8	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、ナデ、工員ナデ、粘土継接合痕 内:ヨコナガ、ヘムナデ、工員ナデ、ナデ	2.5196/6	大皿・碗石系 外周部付着
0940	025-02 7	土師器	横	Z5E 0+45- 33.4	S032006	S070011 最上層	26.0	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、ナデ、工員ナデ、粘土継接合痕 内:ヨコナガ、工員ナデ、ナデ?	7.5193/1 5.916/3	大皿・碗石系 外周部付着
0941	025-01 7	土師器	横	Z5E3	S032006	S070011 上層	26.6	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、工員ナデ 内:ヨコナガ、工員ナデ、ナデ	2.5196/6	大皿・碗石系 外周部付着
0942	024-03 7	土師器	横	Z5E	S032006	S070011 上層	27.0	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、ナデ、工員ナデ 内:ヨコナガ、ナデ、工員ナデ、粘土継接合痕	2.5197/8 5.916/4	大皿・碗石系 外周部付着
0943	025-03 7	土師器	横	Z5E15	S032006	S070011 47F	27.2	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、ナデ、粘土継接合痕 内:ヨコナガ、ヘムナデ、ナデ、工員ナデ、 ユビオサエ、粘土継接合痕	7.5197/3	大皿・碗石系 外周部付着
0944	023-03 7	土師器	横	Z5E	S032006	S070011 上層	27.8	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、ナデ、工員ナデ 内:ヨコナガ、工員ナデ、ナデ?	5.916/6	大皿・碗石系 外周部付着
0945	027-01 7	土師器	横	Z5E 0+ 45-33.4	S032006	S070011 最上層	28.0	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、ナデ 内:ヨコナガ、工員ナデ、ナデ	7.5196/6	大皿・碗石系
0946	022-04 7	土師器	横	Z5E	S032006	S070011 上層	28.0	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、平行タタキ、ウズリ、ナデ、工員 ナデ?	7.5197/3	大皿・碗石系 外周部付着
0947	025-01 102	土師器	横	南側	S032006	S070011 上層	30.0	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、平行タタキ、ナデ 内:ヨコナガ	7.5196/6	大皿・碗石系
0948	023-02 7	土師器	横	Z5E	S032006	S070011 上層	31.8	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、ナデ、工員ナデ 内:ヨコナガ、工員ナデ、ナデ、粘土継接合痕	5.915/4 5.916/6	大皿・碗石系 外周部付着
0949	027-03 7	土師器	横	Z5E 0+33.4- 38	S032006	S070011 最上層(灰 層)	—	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、ナデ? 内:ヨコナガ	7.5196/6	大皿・碗石系 外周部付着
0950	049-06 4	土師器	羽	L-18	S032006	S043003	17.0	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、ハケム 内:ヨコナガ、ナデ、ユビオサエ	10197/3	内面付着 外周部付着
0951	041-03 4	土師器	羽	L-43	S032006	S041001 下層	19.2	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、ハケム 内:ヨコナガ、工員ナデ	10197/2	内面付着 内外面部付着
0952	041-02 4	土師器	羽	L-43	S032006	S041001 下層	19.3	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、ハケム 内:ヨコナガ、工員ナデ、ユビオサエ	10197/3	内面付着 内外面部付着
0953	117-06 32	土師器	羽	J-011	S032006	S036001 上層	19.4	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、ナデ 内:ヨコナガ、ナデ	10197/2	内面付着
0954	045-05 4	土師器	羽	L-43	S032006	トレンチ 上層	19.8	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、ハケム 内:ヨコナガ、工員ナデ、ユビオサエ	10197/3	内面付着 外周部付着
0955	016-02 4	土師器	羽	L-18	S032006	S043003	—	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、ユビオサエ 内:ヨコナガ、ユビオサエ	10196/2	内面付着 外周部付着
0956	071-03 102	土師器	土師	東側	J-Y10	S032006	S070001 上層	4.3	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、ヒガマ、ナデ 内:ヨコナガ、ナデ	7.5197/4	外周部付着
0957	044-05 土師器	土師	東側	Z5E	S032006	S070011 上層	4.4	—	—	—	口縁部 外:クロコナガ、ナデ、印刷、鉄輪 内:ナデ、印刷(青黒文)、鉄輪	7.5198/4 輪:遺	equal text
0958	033-04 102	土師器	土師	自由	J-Y10	S032006	S070001 上層	—	—	—	ナデ	5.916/6	
0959	071-02 7	土師器	土師	馬戸または 火鉢	Z5E 横トレ	S070011 上層	26.6	—	—	—	口縁部 外:ヨコナガ、工員ナデ、ユビオサエ 内:ヨコナガ	2.5196/6	
0960	072-01 7	土師器	土師	馬戸または 火鉢	Z5E	S070011 上層	—	—	23.0	底径 6/12	口縁部 外:ヨコナガ、厚肉 内:ヨコナガ、厚肉	7.5196/6	厚肉部深い

第IV-24表 遺物観察表 24

報告 No.	実施 期	種別	産地	グロット	報告者 氏名	調査時 間	口徑 (cm)	底高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調査・施工・発掘等	色調	特記事項
0961	072-02 7次	土師器 土器	底伊または 火鉢	2区	SD3206	SD7011 上層 51f層	—	—	26.7	底部 12/12	外:ヨコナデ、ミガキ、工舞ナデ、穿孔 内:ヨコナデ、工舞ナデ	518/6	
0962	039-05 10次	土師器 土器	底伊または 火鉢	2区	SD3206	SD7001 下層	—	—	—	口縁部 4/7	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ、ユビササエ、ナデ、結土層結合部	7.5187/4	内蔵口縁部保存付
0963	071-01 7次	土師器 土器	底伊または 火鉢	J-10	SD3206	SD7011 上層	25.0	—	—	口縁部 2/12	外:ヨコナデ、工舞ナデ 内:ヨコナデ、工舞ナデ	2.5186/6	内蔵保存付
0964	003-04 4次	須恵器 鉢	丸	L-02	SD3206	SD4101 下層	—	—	—	口縁部 小片	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ、ナデ	丸/0	
0965	003-03 4次	須恵器 鉢	丸	L-03	SD3206	SD4101 下層	—	—	—	口縁部 小片	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ、工舞ナデ	1006/1	須恵器 内蔵保存付
0966	091-04 4次	須恵器 陶器	丸	L-05	SD3206	SD4101 下層	—	—	6.0	底部 3/12	外:ロクロナデ、赤切燻 内:ロクロナデ	7.5187/2	内蔵保存付
0967	110-02 3次	陶器 山形瓶	丸	L-05	SD3206	SD3206 B層	—	—	6.6	底部 4/12	外:ロクロナデ、鞍轡燻 内:ロクロナデ	10187/1	楽楽器燻燻
0968	041-05 4次	陶器 山形瓶	丸	L-18	SD3206	SD4303	—	—	6.6	底部 4/12	外:ロクロナデ、赤切燻 内:ロクロナデ	2.518/2	楽楽器燻燻
0969	029-05 7次	陶器 山形瓶	丸	2区21	SD3206	SD7011 5f層	—	—	6.9	底部 2/12	外:ロクロナデ、赤切燻 内:ロクロナデ	2.517/2	楽楽器燻燻
0970	039-04 10次	陶器 山形瓶	丸	楽楽	SD3206	SD1001 一底	—	—	7.0	底部 4/12	外:ロクロナデ、赤切燻 内:ロクロナデ	2.518/1	楽楽器燻燻
0971	040-05 10次	陶器 山形瓶	丸	楽楽	SD3206	SD1001	—	—	7.0	底部 4/12	外:ロクロナデ、赤切燻 内:ロクロナデ	10187/1	楽楽器燻燻
0972	035-03 4次	陶器 山形瓶	丸	L-05	SD3206	SD4101 下層	—	—	7.2	底部 4/12	外:ロクロナデ、赤切燻 内:ロクロナデ	2.518/3	楽楽器燻燻
0973	054-01 3次	陶器 山形瓶	丸	—	SD3206	SD3301 1層	—	—	7.3	底部 12/12	外:ロクロナデ、赤切燻、鞍轡燻 内:ロクロナデ	518/2	楽楽器燻燻
0974	035-04 4次	陶器 山形瓶	丸	L-05	SD3206	SD4101 下層	—	—	7.4	底部 4/12	外:ロクロナデ、赤切燻 内:ロクロナデ	NT/0	楽楽器燻燻
0975	002-04 9次	陶器 山形瓶	丸	—	SD3206	SD0001 下層	—	—	7.5	底部 5/12	外:ロクロナデ、鞍轡燻、赤切燻 内:ロクロナデ	2.517/2	楽楽器燻燻
0976	028-04 7次	陶器 山形瓶	丸	2区	SD3206	SD7011 上層 1・3・4f層	—	—	8.0	底部 11/12	外:ロクロナデ、ナデ、赤切燻、鞍轡燻 内:ロクロナデ	10187/2	楽楽器燻燻
0977	041-07 4次	陶器 山形瓶	丸	L-18	SD3206	SD4303 下層	—	—	8.2	底部 2/12	外:ロクロナデ、赤切燻 内:ロクロナデ	2.518/2	楽楽器燻燻
0978	002-05 7次	陶器 山形瓶	丸	1872	SD3206	SD7001	—	—	8.6	底部 3/12	外:ロクロナデ、赤切燻、鞍轡燻 内:ロクロナデ	10187/2	楽楽器燻燻
0979	029-02 10次	陶器 山形瓶	丸	J-10	SD3206	SD7001 最下層	—	—	—	残部 小片	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	2.517/1	
0980	002-06 9次	陶器 山形瓶	丸	—	SD3206	SD0001 上層	9.0	1.9	—	口縁部 2/12	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	2.517/1	楽楽器燻燻
0981	115-06 7次	陶器 山形瓶	丸	L-05	SD3206	SD3206 B層	—	—	3.8	底部 3/12	外:ロクロナデ、赤切燻、鞍轡燻 内:ロクロナデ、ナデ	2.518/3	楽楽器燻燻
0982	104-02 3次	陶器 山形瓶	丸	J-110	SD3206	SD3601	—	—	3.9	底部 6/12	外:ロクロナデ、ナデ、赤切燻 内:ロクロナデ	2.517/2	楽楽器燻燻
0983	003-05 4次	陶器 丸	丸	L-05	SD3206	SD4101 下層	8.4	—	—	口縁部 2/12	外:ロクロナデ、鞍轡燻 内:ロクロナデ、鞍轡燻	表:2.518/1 裏:7.5018/1	楽楽・楽楽
0984	003-03 9次	陶器 丸	丸	—	SD3206	SD0001 一底	14.8	5.9	4.4	底部 5/12	外:ロクロナデ、ロクロナデ、鞍轡燻 内:ロクロナデ、鞍轡燻、赤切燻	表:2.517/2 裏:3.517/3	楽楽・楽楽
0985	096-02 7次	陶器 丸	丸	L-17	SD3206	SD3301 1層	15.3	7.3	5.0	底部 小片	外:ロクロナデ、ロクロナデ、赤切燻、鞍轡燻 内:ロクロナデ、鞍轡燻	表:2.518/3 裏:2.517/3	楽楽・外蔵に花押 内蔵器口縁部燻燻
0986	037-03 4次	陶器 丸	丸	L-13	SD3206	SD4101 トレンチ	—	—	—	口縁部 小片	外:ロクロナデ、ロクロナデ、鞍轡燻 内:ロクロナデ、鞍轡燻	表:10187/3 裏:2.517/3	楽楽・外蔵に花押 内蔵器口縁部燻燻
0987	029-05 7次	陶器 丸	丸	J-110	SD3206	SD1001 下層	—	—	5.0	底部 4/12	外:ロクロナデ、ロクロナデ、鞍轡燻 内:ロクロナデ、鞍轡燻	表:2.517/2 裏:2.517/3	楽楽・楽楽
0988	053-01 7次	陶器 丸	丸	2区9	SD3206	SD7011 3f層	6.4	3.9	3.0	底部 12/12	外:ロクロナデ、ロクロナデ、鞍轡燻 内:ロクロナデ、鞍轡燻	表:518/1 裏:1.518/2	楽楽・楽楽
0989	053-06 7次	陶器 丸	丸	2区	SD3206	SD7011 上層 51f層	7.5	4.3	3.2	底部 12/12	外:ロクロナデ、ロクロナデ、鞍轡燻 内:ロクロナデ、鞍轡燻	表:2.517/2 裏:517/2	楽楽・楽楽
0990	051-04 7次	陶器 丸	丸	2区	SD3206	SD7011 上層 1・3・4f層	7.6	4.0	4.3	底部 6/12	外:ロクロナデ、ロクロナデ、鞍轡燻 内:ロクロナデ、鞍轡燻	表:10188/2 裏:2.517/6	楽楽・楽楽
0991	041-04 10次	陶器 丸	丸	J-110	SD3206	SD1001	7.6	3.3	4.4	口縁部 3/12	外:ロクロナデ、ロクロナデ、鞍轡燻 内:ロクロナデ、鞍轡燻	表:10188/2 裏:10183/4	楽楽・楽楽
0992	051-05 7次	陶器 丸	丸	2区	SD3206	SD7011 上層 1・3・4f層	7.6	4.8	3.7	底部 12/12	外:ロクロナデ、ロクロナデ、鞍轡燻 内:ロクロナデ、鞍轡燻	表:2.517/2 裏:2.517/3	楽楽・楽楽
0993	033-03 10次	陶器 丸	丸	J-110	SD3206	SD1001 上層	8.2	6.3	4.4	底部 4/12	外:ロクロナデ、ロクロナデ、鞍轡燻 内:ロクロナデ、鞍轡燻	表:10188/2 裏:2.518/2	楽楽・楽楽
0994	051-03 7次	陶器 丸	丸	2区	SD3206	SD7011 上層 1・3・4f層	9.0	5.4	3.8	底部 7/12	外:ロクロナデ、ロクロナデ、鞍轡燻 内:ロクロナデ、鞍轡燻	表:518/2 裏:518/4	楽楽・楽楽
0995	050-03 7次	陶器 丸	丸	2区	SD3206	SD7011 上層 1・3・4f層	11.0	7.2	4.9	底部 12/12	外:ロクロナデ、ロクロナデ、鞍轡燻 内:ロクロナデ、鞍轡燻	表:NT/0 裏:5185/6	楽楽・楽楽
0996	052-02 7次	陶器 丸	丸	2区	SD3206	SD7011 上層 1・3・4f層	11.0	—	—	口縁部 3/12	外:ロクロナデ、カキミ鉢燻、南宮、鞍轡燻 内:ロクロナデ、鞍轡燻	表:10188/2 裏:7.5184/3、 517/2	楽楽・楽楽?
0997	040-03 7次	陶器 丸	丸	2区	SD3206	SD7011 上層 51f層	11.8	5.6	3.9	底部 12/12	外:ロクロナデ、ロクロナデ、鞍轡燻 内:ロクロナデ、鞍轡燻	表:NT/0、 10188/2 裏:1018/1	楽楽・楽楽
0998	053-04 7次	陶器 丸	丸	2区21	SD3206	SD7011 5f層	12.4	5.5	4.2	底部 3/12	外:ロクロナデ、ロクロナデ、鞍轡燻 内:ロクロナデ、鞍轡燻	表:2.517/2 裏:2.517/1	楽楽・楽楽
0999	053-02 7次	陶器 丸	丸	2区	SD3206	SD7011 上層 4・5f層	12.6	5.7	4.0	底部 7/12	外:ロクロナデ、ロクロナデ、鞍轡燻 内:ロクロナデ、鞍轡燻	表:2.517/2 裏:7.518/2	楽楽・楽楽
1000	050-04 7次	陶器 丸	丸	2区15	SD3206	SD7011 4f層	13.0	6.5	4.7	底部 9/12	外:ロクロナデ、ロクロナデ、鞍轡燻 内:ロクロナデ、鞍轡燻	表:2.518/2 裏:1002/1	楽楽・楽楽

第IV-25表 遺物観察表 25

報告 No.	実施 No.	種別	路線	グリッド	報告遺構 部位	調査時 遺構名	口徑 (cm)	最高 (cm)	底高 (cm)	残存度	調査・論文・図録等	色澤	特記事項
1001	035-01 4区	陶磁	横	L-05	S032006	S041001 小片	—	—	—	口縁部 小片	外: ロクロナデ, 施釉 内: ロクロナデ, 施釉	黄: 2.5/7/3 黄: 5/6/1	瀬戸・美濃
1002	051-07 7区	陶磁	横	Z06	S032006	S070011 上層 1-3・4区層	—	—	5.3	底面 12/12	外: ロクロナデ, 施釉 内: ロクロナデ, 施釉	黄: 5/9/4 黄: 10/16/2	瀬戸・美濃
1003	039-02 10区	陶磁	天目茶碗	南南	S032006	S010001 一底	11.2	—	—	口縁部 3/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 施釉 内: ロクロナデ, 施釉	黄: 10/17/2 黄: 5/13/4	瀬戸・美濃
1004	019-05 3区	陶磁	天目茶碗	L-54・5	S032006	S032006 上層	12.4	—	—	口縁部 3/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 施釉 内: ロクロナデ, 施釉	黄: 2.5/1/2 黄: 10/11.7/1	瀬戸・美濃
1005	049-03 7区	陶磁	天目茶碗	Z06	S032006	S070011 上層 1-3・4区層	—	—	4.2	底面 3/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 施釉 内: ロクロナデ, 施釉	黄: 2.5/1/2 黄: 5/13/2	瀬戸・美濃
1006	037-05 10区	陶磁	横	—	S032006	S010001	—	—	5.2	底面 9/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ 内: ロクロナデ, 施釉	黄: 2.5/1/2 黄: 5/17/3	瀬戸・美濃 陶胎染付
1007	052-01 7区	陶磁	横	Z06	S032006	S070011 上層 1-3・4区層	8.6	6.4	4.2	底面 9/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 染付, 施釉 内: ロクロナデ, 施釉	黄: 5/18/1	瀬戸・美濃 陶胎染付
1008	051-02 7区	陶磁	横	Z06 5+33.4 南	S032006	S070011 最上層(横)	8.8	5.6	3.6	底面 3/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 染付, 施釉 内: ロクロナデ, 施釉	黄: 5/18/1 黄: 5/17/2	瀬戸・美濃 陶胎染付
1009	051-01 7区	陶磁	横	Z06 0+45- 33.4	S032006	S070011 最上層	9.8	5.1	3.9	底面 12/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 染付, 施釉 内: ロクロナデ, 施釉	黄: 9/8 黄: 7.5/17/1	瀬戸・美濃 陶胎染付
1010	039-03 7区	陶磁	横	Z06	S032006	S070011 上層 4・5区層	—	—	4.0	底面 6/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 染付, 施釉 内: ロクロナデ, 施釉	黄: 10/8/0	肥前系 陶胎染付? 「大谷組」製? 「清水」印付?
1011	051-08 7区	陶磁	横	Z06	S032006	S070011 上層 1-3・4区層	8.8	5.7	4.2	底面 12/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 印付, 施釉 内: ロクロナデ, 施釉	黄: 5.1/1/2	肥前系 伊賀焼陶器?
1012	052-04 7区	陶磁	横	Z06	S032006	S070011 上層 1-3・4区層	8.8	4.9	3.8	底面 5/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 刷毛目文様, 施 釉 内: ロクロナデ, 刷毛目文様, 施釉	黄: 5/18/2 黄: 10/13/2	肥前系
1013	031-06 10区	陶磁	横	J-Y10	S032006	S010001 上層	11.0	—	—	口縁部 2/12	外: ロクロナデ, 施釉 内: ロクロナデ, 施釉	黄: 10/18/2 黄: 2.5/1/2	肥前系 伊賀焼陶器?
1014	053-05 7区	陶磁	横	Z06	S032006	S070011 上層 5区層	—	—	4.6	底面 4/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 印付, 施釉 内: ロクロナデ, 施釉	黄: 10/18/2	肥前系 伊賀焼陶器?
1015	052-05 7区	陶磁	横	Z06	S032006	S070011 上層 1-3・4区層	11.2	5.7	4.2	底面 12/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 刷毛目文様, 施 釉 内: ロクロナデ, 刷毛目文様, 施釉	黄: 5/15/1 黄: 5/10/4 黄: 5/12/2 黄: 2.5/1/1	肥前系
1016	052-06 7区	陶磁	横	Z06	S032006	S070011 上層 1-3・4区層	—	—	4.7	底面 10/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 施釉 内: ロクロナデ, 施釉	黄: 7.5/17/4 黄: 2.5/15/1	肥前系?
1017	052-03 7区	陶磁	横	Z06	S032006	S070011 上層 1-3・4区層	—	—	4.8	底面 6/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 刷毛目文様, 施 釉 内: ロクロナデ	黄: 5/15/2 黄: 5/12/1	肥前系?
1018	052-07 7区	陶磁	横	Z06	S032006	S070011 上層 1-3・4区層	—	—	5.0	底面 4/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 施釉 内: ロクロナデ	黄: 2.5/15/4 黄: 10/8/0	肥前系?
1019	030-01 10区	陶磁	横	J-Y10	S032006	S010001	10.0	—	—	口縁部 3/12	外: ロクロナデ, 金銀, 型押し, 施釉, 施釉 内: ロクロナデ, 施釉	黄: 7.5/18/1 黄: 7.5/15/2 黄: 10/14/2	大谷組 刷毛目文様?
1020	053-03 7区	陶磁	横	Z06	S032006	S070011 上層 4・5区層	9.0	5.0	3.0	底面 12/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 色絵, 施釉 内: ロクロナデ, 施釉	黄: 2.5/17/3 黄: 2.5/17/3	肥前系?
1021	037-03 10区	陶磁	田または横	J-Y10	S032006	S010001 下層	—	—	7.0	底面 3/12	外: ロクロナデ, 赤切腹 内: ロクロナデ	10/18/2	
1022	051-07 4区	陶磁	田	L-Y3	S032006	S041001 上層	12.0	2.4	5.4	底面 6/12	外: ロクロナデ, 赤切腹, 施釉 内: ロクロナデ, 施釉	黄: 2.5/17/3 黄: 7.5/16/2	瀬戸・美濃 内底面文様付
1023	051-02 4区	陶磁	田	L-14	S032006	S041001 上層	12.0	—	—	口縁部 2/12	外: ロクロナデ, 施釉 内: ロクロナデ, 施釉	黄: 2.5/17/2 黄: 5/16/3	瀬戸・美濃
1024	051-01 3区	陶磁	田	L-14	S032006	S032006 小片	—	—	—	口縁部 小片	外: ロクロナデ, 施釉 内: ロクロナデ, 施釉	黄: 10/8/0 黄: 7.5/17/2	瀬戸・美濃
1025	036-03 4区	陶磁	田	L-54	S032006	S041001 小片	—	—	—	口縁部 小片	外: ロクロナデ, 施釉 内: ロクロナデ, 施釉	黄: 2.5/17/6 黄: 2.5/17/6	瀬戸・美濃
1026	040-01 10区	陶磁	田	南南	S032006	S010001 一底	8.7	2.3	5.3	底面 10/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 施釉 内: ロクロナデ, 施釉	黄: 2.5/18/1 黄: 5/13/3	瀬戸・美濃
1027	048-06 3区	陶磁	田	J-Y11	S032006	S036001	10.4	2.5	6.4	底面 3/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 施釉 内: ロクロナデ, 施釉	黄: 5/18/1 黄: 7.5/17/3	瀬戸・美濃
1028	003-03 7区	陶磁	田	10/12	S032006	S070001	10.5	2.4	6.4	口縁部 8/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 施釉 内: ロクロナデ, 施釉	黄: 2.5/18/2 黄: 2.5/17/3	瀬戸・美濃 外底面文様付
1029	030-04 10区	陶磁	田	J-Y10	S032006	S010001 上層	14.1	2.8	6.8	口縁部 4/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 施釉 内: ロクロナデ, 施釉	黄: 10/17/1 黄: 2.5/17/4	瀬戸・美濃
1030	003-04 5区	陶磁	田	—	S032006	S020001 最上層	—	—	—	底面 小片	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 施釉 内: ロクロナデ, 印付	黄: 10/17/3 黄: 5/17/3	瀬戸・美濃
1031	058-03 7区	陶磁	田	Z06	S032006	S070011 上層 1-3・4区層	10.6	2.5	6.2	底面 5/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 施釉 内: ロクロナデ, 施釉	黄: 10/18/2 黄: 5/18/1	瀬戸・美濃
1032	050-01 7区	陶磁	田	Z06	S032006	S070011 上層 1-3・4区層	11.4	2.9	6.4	口縁部 2/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 施釉 内: ロクロナデ, 施釉	黄: 2.5/16/1 黄: 2.5/16/2	瀬戸・美濃
1033	029-02 7区	陶磁	田	Z06	S032006	S070011 1区層	11.8	—	—	口縁部 1/12	外: ロクロナデ, 施釉 内: ロクロナデ, 施釉	黄: 10/17/3 黄: 5/18/2	瀬戸・美濃
1034	056-03 7区	陶磁	田	Z06	S032006	S070011 上層 5区層	11.8	2.9	6.5	底面 4/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 施釉 内: ロクロナデ, 施釉	黄: 2.5/17/1 黄: 5/17/2	瀬戸・美濃
1035	032-05 10区	陶磁	田	J-Y10	S032006	S010001 上層	12.4	2.7	5.9	口縁部 12/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 施釉 内: ロクロナデ, 施釉	黄: 2.5/17/1 黄: 5/17/3	瀬戸・美濃
1036	055-02 7区	陶磁	田	Z06	S032006	S070011 上層 1-3・4区層	13.0	2.1	5.2	底面 12/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 施釉 内: ロクロナデ, 型押し, 施釉	黄: 2.5/18/2 黄: 5/17/3	瀬戸・美濃

第IV-26表 遺物観察表 26

報告 №	発掘 期	種別	用途	グリッド	報告通称 層位	調査時 通称	口徑 (cm)	底高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調査・施工・発掘等	色図	特記事項
1037	032-04 10次	陶器	皿	J-Y10	S02006	S01001 上層	13.0	3.1	6.8	底面 7/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、陶胎 内:ロクロナデ、黒い斑模様、陶胎	黄:1098/2 黒:519/2	瀬戸・美濃
1038	055-03 7次	陶器	皿	Z0E	S02006	S01011 上層 1-3-4f層	13.3	2.9	8.0	底面 3/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、陶胎 内:ロクロナデ、陶胎	黄:2,517/1 黒:517/2	瀬戸・美濃
1039	060-01 7次	陶器	皿	Z0E15	S02006	S01011 4f層	13.4	2.5	9.0	口縁部 3/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、陶胎 内:ロクロナデ、陶胎	黄:2,518/2 黒:517/2	瀬戸・美濃
1040	055-01 7次	陶器	皿	Z0E	S02006	S01011 上層 1-3-4f層	13.6	3.7	6.0	底面 6/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、陶胎 内:ロクロナデ、陶胎	黄:2,518/2 黒:518/3	瀬戸・美濃
1041	043-02 8次	陶器	皿	—	S02006	S00001 上層	13.6	3.0	7.0	口縁部 3/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、陶胎 内:ロクロナデ、黒い斑模様、陶胎	黄:2,518/2 黒:2,517/3	瀬戸・美濃
1042	045-01 10次	陶器	皿	—	S02006	S01001	14.6	4.9	7.4	底面 5/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、陶胎 内:ロクロナデ、陶胎	2,518/2 2,517/3	瀬戸・美濃
1043	056-02 7次	陶器	皿	Z0E	S02006	S01011 上層 5f層	15.2	4.2	6.8	底面 12/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、陶胎 内:ロクロナデ、陶胎	黄:1098/2 黒:7,517/1	瀬戸・美濃
1044	051-05 7次	陶器	皿	Z0E	S02006	S01011 上層 1-3-4f層	16.8	—	—	口縁部 1/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、陶胎 内:ロクロナデ、陶胎	黄:1098/3 黒:2,518/3	瀬戸・美濃
1045	064-01 7次	陶器	皿	Z0E	S02006	S01011 上層 1-3-4f層	—	—	7.4	底面 11/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、陶胎 内:ロクロナデ、陶胎	黄:2,518/2 黒:518/1	瀬戸・美濃
1046	004-01 5次	陶器	鉢	—	S02006	S00001 最上層	27.6	—	—	口縁部 2/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、陶胎 内:ロクロナデ、陶胎	黄:2,517/1 黒:517/2, 1095/2	瀬戸・美濃?
1047	041-01 10次	陶器	皿または鉢	J-Y10	S02006	S01001	—	—	—	口縁部 小片	外:ロクロナデ、陶胎 内:ロクロナデ、陶胎	黄:2,518/1 黒:518/2	陶胎染付
1048	054-04 7次	陶器	皿	Z0E	S02006	S01011 上層 1-3-4f層	11.8	3.7	4.5	底面 12/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、陶胎 内:ロクロナデ、カキメ状条線、陶胎	黄:1098/2 黒:7,518/1, 515/4	肥前系 陶胎系
1049	054-03 7次	陶器	皿	Z0E	S02006	S01011 上層 1-3-4f層	11.9	3.8	4.5	底面 12/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、陶胎 内:ロクロナデ、カキメ状条線、陶胎	黄:1098/2 黒:7,518/3	肥前系 陶胎系
1050	032-02 10次	陶器	皿	J-Y10	S02006	S01001 上層	12.2	3.6	3.8	底面 10/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、陶胎 内:ロクロナデ、カキメ状条線、陶胎	黄:1098/2 黒:506/1, 1057/1	肥前系 陶胎系
1051	032-03 10次	陶器	皿	J-Y10	S02006	S01001 上層	14.0	3.3	5.1	底面 12/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、陶胎 内:ロクロナデ、陶胎	黄:1098/2 黒:2,518/2	肥前系?
1052	059-03 7次	陶器	皿	Z0E	S02006	S01011 上層 1-3-4f層	15.6	5.9	5.4	底面 5/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、陶胎 内:ロクロナデ、黒毛目文様、陶胎	黄:85/0 黒:7,518/2	肥前系
1053	054-05 7次	陶器	皿	Z0E	S02006	S01011 上層 1-3-4f層	16.8	5.4	5.3	底面 12/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、陶胎 内:ロクロナデ、陶胎	黄:2,518/2 黒:515/3	肥前系
1054	060-04 7次	陶器	皿	Z0E	S02006	S01011 上層 5f層	19.0	4.6	9.2	底面 4/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、陶胎 内:ロクロナデ、黒毛目文様、陶胎	黄:1095/4 黒:1098/4	肥前系
1055	054-02 7次	陶器	皿	Z0E	S02006	S01011 上層 1-3-4f層	20.4	—	—	口縁部 3/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、陶胎 内:ロクロナデ、カキメ状条線、陶胎	黄:2,518/1 黒:2,517/2, 1091/2	肥前系
1056	056-01 7次	陶器	皿	Z0E9	S02006	S01011 上層	20.6	6.7	13.2	底面 5/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、陶胎 内:ロクロナデ、陶胎	黄:1098/2 黒:1098/3	肥前系?
1057	054-01 7次	陶器	皿	Z0E	S02006	S01011 上層 1-3-4f層	—	—	8.4	底面 5/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、陶胎 内:ロクロナデ、陶胎	黄:2,517/2 黒:7,518/3	肥前系?
1058	037-01 10次	陶器	皿	J-Y10	S02006	S01001	30.6	—	—	口縁部 1/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、陶胎 内:ロクロナデ、陶胎	黄:2,515/1 黒:1098/4, 7,505/1	肥前系?
1059	060-03 7次	陶器	皿	Z0E	S02006	S01011 上層 5f層	19.6	4.5	12.6	口縁部 1/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、赤地模?、印 目、陶胎 内:ロクロナデ、陶胎	黄:518/1 黒:2,518/2	瀬戸・美濃
1060	010-06 7次	陶器	鉢皿	L-54・5	S02006	S02006 B層	—	—	6.0	底面 2/12	外:ロクロナデ、赤地模 内:赤地、陶胎	黄:2,518/1 黒:518/1	瀬戸・美濃
1061	003-04 7次	陶器	鉢皿	1E12	S02006	S01001 新層	—	—	5.8	底面 12/12	外:ロクロナデ、赤地模 内:ロクロナデ、黒目	2,517/2	瀬戸・美濃
1062	049-06 7次	陶器	香炉	Z0E	S02006	S01011 上層 1-3-4f層	9.8	5.7	—	口縁部 4/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ?、へう切模、陶胎 内:ロクロナデ、陶胎	黄:2,518/2 黒:1098/4	瀬戸・美濃 肥前系
1063	059-02 7次	陶器	香炉	Z0E	S02006	S01011 上層 1-3-4f層	10.0	—	—	口縁部 1/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、へう切模、陶胎 内:ロクロナデ、陶胎	黄:2,517/2 黒:514/4	瀬戸・美濃 肥前系
1064	050-01 7次	陶器	香炉	Z0E	S02006	S01011 上層 1-3-4f層	10.2	4.9	—	口縁部 3/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、へう切模、陶胎 内:ロクロナデ、陶胎	黄:517/1 黒:2,518/6	瀬戸・美濃
1065	049-04 7次	陶器	香炉	Z0E	S02006	S01011 上層 1-3-4f層	10.4	5.9	—	口縁部 12/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、黒目、へう切 模、陶胎 内:ロクロナデ、陶胎	黄:7,518/3 黒:518/1	瀬戸・美濃
1066	050-05 7次	陶器	香炉	Z0E	S02006	S01011 上層 5f層	10.4	6.2	—	口縁部 5/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、へう切模、陶胎 内:ロクロナデ、陶胎	黄:2,517/1 黒:2,514/4	瀬戸・美濃 肥前系
1067	049-05 7次	陶器	香炉	Z0E B+45- 33.4	S02006	S01011 最上層	11.6	6.7	—	口縁部 9/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、黒目、へう切 模、陶胎 内:ロクロナデ、陶胎	黄:1098/3 黒:1098/6	瀬戸・美濃 肥前系
1068	053-07 7次	陶器	仏具類	Z0E	S02006	S01011 上層 5f層	6.4	—	—	口縁部 5/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ?、陶胎 内:ロクロナデ、陶胎	黄:517/2 黒:517/2	瀬戸・美濃
1069	059-05 7次	陶器	仏具類	Z0E3	S02006	S01011 1f層	—	—	5.2	底面 11/12	外:ロクロナデ、しぼり模 内:ロクロナデ、陶胎	黄:2,517/1 黒:1096/2	瀬戸・美濃
1070	031-04 10次	陶器	香爐	J-Y10	S02006	S01001 上層	—	—	4.4	底面 10/12	外:ロクロナデ、赤地模、陶胎 内:ロクロナデ、ナデ、陶胎	黄:2,517/2 黒:2,514/4	瀬戸・美濃
1071	064-04 7次	陶器	蓋	Z0E	S02006	S01011 上層 5f層	8.4	3.1	—	底面 小片	外:ロクロナデ、トチン模、陶胎 内:ロクロナデ、陶胎	黄:2,518/2 黒:2,513/2	瀬戸・美濃
1072	035-02 4次	陶器	鉢	L-05	S02006	S04101 下層	—	—	—	口縁部 小片	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	7,515/1	瀬戸

第IV-27表 遺物観察表27

報告 No.	実施 年度	種別	路線	グリッド	報告連絡 部位	調査時 連絡名	口徑 (cm)	最高 (cm)	底高 (cm)	残存度	調査・施工・監視等	色調	特記事項
1073	075-05 4区	陶器	鉢	L-05	S032006	S041001 上層	—	—	12.0	底部 3/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ 内: ロクロナデ	7.5/6/1	遺物
1074	075-06 4区	陶器	鉢	L-03	S032006	S041001 中層	—	—	14.2	底部 2/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 工具ナデ? 内: ロクロナデ	2.5/7/2	地層
1075	041-02 10区	陶器	鉢	J-K10	S032006	S010001	—	—	14.7	底部 1/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, ナデ, ユビオサ ナ 内: ロクロナデ	2.5/6/1	地層
1076	036-01 10区	陶器	楕円鉢または 鉢	南側	S032006	S010001 一説	32.0	—	—	口縁部 1/12	外: ロクロナデ, ユビオサ, ナデ 内: ロクロナデ, 工具ナデ	5/15/4	地層?
1077	014-04 3区	陶器	鉢	L-06	S032006	S031001 2層	26.0	—	—	口縁部 1/12	外: ロクロナデ, 陶胎 内: ロクロナデ, 陶胎	黒: 10/18/2 緑: 7.5/15/3	瀬戸・美濃
1078	062-01 7区	陶器	鉢	2区	S032006	S070011 下層 4・5f層	26.4	13.0	18.0	底部 5/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 陶胎 内: ロクロナデ, トンチン, 陶胎	黒: 5/18/2 緑: 2.5/16/4, 7.5/16/3	瀬戸・美濃
1079	063-02 7区	陶器	鉢	2区	S032006	S070011 上層 1・3・4f層	29.2	6.3	15.0	底部 7/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 陶胎 内: ロクロナデ, 陶胎, 陶胎	黒: 5/18/2 緑: 2.5/16/2, 7.5/16/3	瀬戸・美濃
1080	045-02 10区	陶器	鉢	J-K10	S032006	S010001	39.4	—	—	口縁部 2/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 陶胎 内: ロクロナデ, 陶胎, 陶胎	2.5/18/3 2.5/17/3	瀬戸・美濃
1081	057-01 7区	陶器	鉢	2区 6+ 45-33.4	S032006	S070011 最上層	—	—	9.2	底部 2/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ 内: ロクロナデ, 網目瓦, 陶胎	黒: 10/15/4 緑: 2/16/2	肥前系
1082	060-02 7区	陶器	鉢	2区	S032006	S070011 3f層	—	—	9.4	底部 4/12	外: ロクロナデ, 陶胎 内: ロクロナデ, 網目瓦, 陶胎	黒: 5/18/4 緑: 10/17/2	肥前系
1083	064-02 7区	陶器	鉢	2区	S032006	S070011 3f層	—	—	15.0	底部 2/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 陶胎 内: ロクロナデ, 網目瓦, 陶胎	黒: 5/18/3 緑: 5/18/2, 2.5/16/2	肥前系?
1084	061-03 7区	陶器	片口鉢	2区	S032006	S070011 上層 1・3・4f層	11.3	7.4	5.7	底部 12/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 陶胎 内: ロクロナデ, 陶胎	黒: 2.5/18/2 緑: 2.5/16/2	瀬戸・美濃
1085	061-01 7区	陶器	片口鉢	2区	S032006	S070011 上層 1・3・4f層	16.2	9.7	6.7	底部 12/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 陶胎 内: ロクロナデ, トンチン, 陶胎	黒: 10/18/2 緑: 5/18/2, 5/15/4	瀬戸・美濃 外置物等
1086	061-02 7区	陶器	片口鉢	2区	S032006	S070011 上層 1・3・4f層	17.0	—	—	口縁部 4/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 陶胎 内: ロクロナデ, 陶胎	黒: 10/18/2 緑: 5/17/2, 7.5/16/3	瀬戸・美濃
1087	062-02 7区	陶器	片口鉢	2区 45+33.4 〜	S032006	S070011 最上層 (灰 土)	18.3	12.9	11.5	底部 5/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 陶胎 内: ロクロナデ, 陶胎	黒: 2.5/18/3 緑: 2.5/17/6	瀬戸・美濃
1088	075-06 4区	陶器	柄口口鉢	L-03	S032006	S041001 トレンチ②	—	—	—	把手部 破片	外: ロクロナデ, 陶胎 内: ロクロナデ, 陶胎	黒: 5/18/3 緑: 5/17/3	瀬戸・美濃
1089	070-02 7区	陶器	楕円鉢	2区	S032006	S070011 3f層	31.6	—	—	口縁部 1/12	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ, 窪目	7.5/18/2	備前
1090	061-02 7区	陶器	楕円鉢	L-03	S032006	S041001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外: ロクロナデ, ユビオサ, 陶胎 内: ロクロナデ, 陶胎	黒: 2.5/18/2 緑: 5/18/3	備前
1091	062-04 7区	陶器	楕円鉢	18区2	S032006	S070001 新割	—	—	—	口縁部 小片	外: ロクロナデ, ナデ 内: ロクロナデ, 陶胎	2.5/18/2 5/18/4	備前
1092	014-02 3区	陶器	楕円鉢	—	S032006	S030001 1層	—	—	—	口縁部 小片	外: ロクロナデ, 陶胎 内: ロクロナデ, 窪目, 陶胎	黒: 5/18/1 緑: 10/15/2	備前
1093	065-03 7区	陶器	楕円鉢	L-04	S032006	S041001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外: ロクロナデ, 陶胎 内: ロクロナデ, 窪目, 陶胎	黒: 5/18/1 緑: 2.5/18/3	備前
1094	029-03 7区	陶器	楕円鉢	2区	S032006	S070011 1f層	26.2	—	—	口縁部 1/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ 内: ロクロナデ, 窪目	5/18/2	備・磯石系
1095	070-01 7区	陶器	楕円鉢	2区15	S032006	S070011 新割	26.4	9.8	11.6	底部 7/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ 内: ロクロナデ, 窪目	10/15/6	備・磯石系
1096	069-01 7区	陶器	楕円鉢	2区	S032006	S070011 上層 1・3・4f層	31.8	14.2	15.8	底部 3/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 工具ナデ 内: ロクロナデ, 窪目	2.5/18/4	備・磯石系
1097	069-02 7区	陶器	楕円鉢	2区	S032006	S070011 上層 1・3・4f層	32.4	—	—	口縁部 1/12	外: ロクロナデ, 陶胎 内: ロクロナデ, 窪目, 陶胎	黒: 10/15/4 緑: 5.5/15/3	備・磯石系
1098	017-03 7区	陶器	楕円鉢	2区	S032006	S070011 新割	—	—	—	底部 小片	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ, 窪目	10/15/6	底部遺物
1099	011-02 3区	陶器	楕円鉢	L-54・5	S032006	S032006 1層	—	—	10.2	底部 5/12	外: ロクロナデ, ユビオサ, 赤切, 陶胎 内: ロクロナデ, 窪目, 陶胎	黒: 2.5/18/2 緑: 8/13	瀬戸・美濃?
1100	057-03 7区	陶器	茶入	2区 6+33.4 33.4	S032006	S070011 最上層(瓦)	4.1	7.7	4.8	底部 12/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 赤切, 陶胎 内: ロクロナデ, 陶胎	黒: 2.5/18/2 緑: 2.5/17/1, 2.5/13/3	瀬戸・美濃?
1101	064-03 7区	陶器	花瓶	2区 45+ 33.4	S032006	S070011 最上層	—	—	—	底部 3/12	外: ロクロナデ, ナデ, 陶胎 内: ロクロナデ, 陶胎	黒: 2.5/18/1 緑: 10/12/2	瀬戸・美濃
1102	070-03 10区	陶器	花瓶	南側	S032006	S010001 一説	—	—	6.5	底部 12/12	外: ロクロナデ, 赤切, 陶胎 内: ロクロナデ	黒: 7.5/18/2 緑: 7.5/15/3	瀬戸・美濃
1103	067-01 7区	陶器	土瓶	2区	S032006	S070011 上層 5f層	7.4	11.7	8.3	底部 12/12	外: ロクロナデ, 工具ナデ (ハケメタ), ナデ, ロクロナデ, 陶胎 内: ロクロナデ, 陶胎	黒: 10/15/2 緑: 5/18/3, 5/18/3	瀬戸・美濃?
1104	067-02 7区	陶器	土瓶	2区	S032006	S070011 上層 5f層	10.3	12.2	7.3	底部 12/12	外: ロクロナデ, ナデ, ロクロナデ, 陶胎 内: ロクロナデ, 陶胎	黒: 10/15/2 緑: 5/18/3	瀬戸・美濃?
1105	075-02 7区	陶器	土瓶	2区	S032006	S070011 上層 1・3・4f層	—	—	—	底部 小片	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 陶胎 内: ロクロナデ	黒: 2.5/18/2 緑: 2	京都・佐賀系
1106	066-05 10区	陶器	徳利	2区	S032006	S070011 5f層	—	—	8.4	底部 10/12	外: ロクロナデ, ナデ, 陶胎 内: ロクロナデ	黒: 10/18/2 緑: 2.5/18/4	瀬戸・美濃?
1107	039-01 10区	陶器	徳利?	J-K10	S032006	S010001 上層	—	—	9.8	底部 4/12	外: ロクロナデ, 陶胎 内: ロクロナデ, 陶胎	黒: 10/18/2 緑: 2.5/17/1	瀬戸・美濃?
1108	066-02 7区	陶器	徳利	2区21	S032006	S070011 5f層	—	—	10.3	底部 6/12	外: ロクロナデ, ナデ, 陶胎 内: ロクロナデ	黒: 10/18/2 緑: 2.5/18/2	瀬戸・美濃?
1109	034-01 10区	陶器	徳利	南側	S032006	S010001 一説	—	—	10.8	底部 5/12	外: ケズリ, ナデ 内: ロクロナデ	7.5/18/2	瀬戸・美濃?

第IV-28表 遺物観察表 28

報告 No.	実測 No.	種別	用途	グリッド	報告座標 緯度	調査時 座標名	口徑 (cm)	高さ (cm)	口径 (cm)	備考	調査・施工・備考等	色紙	特記事項
1110	063-01 7次	陶磁	馬または倉	2区	S032006	S070011 上層 1-3-47r層	—	—	7.4	底部 11/12	外:ロクロナデ?、ロクロナズリ?、刷毛目文 様、陶磁 内:ロクロナデ	表:516/1 裏:516/2	肥前系
1111	064-04 7次	陶磁	瓦	2区21	S032006	S070011 上層 51r層	—	—	9.0	底部 10/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、染付、陶磁 内:ロクロナデ	表:1097/2 裏:516/1、 516/2	陶磁染付
1112	057-04 7次	陶磁	馬または倉	2区 B+33.4 南	S032006	S070011 最上層(焼)	—	—	—	体部 小内	外:ロクロナデ、陶磁 内:ロクロナデ、陶磁	表:焼/0 裏:516/1、 516/2	—
1113	063-03 7次	陶磁	馬または倉	2区 南トレ	S032006	S070011 上層 1-3-47r層	—	—	9.5	底部 4/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、陶磁 内:ロクロナデ、トナリ板?、陶磁	表:2.516/1 裏:517/2、 516/6	—
1114	034-03 10次	陶磁	瓦	—	S032006	S010001	18.6	—	—	口縁部 1/12	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ、工具ナデ、ユビオサエ、ナデ	表:— 裏:1083/2	瓦溝
1115	036-01 4次	陶磁	瓦	1-03	S032006	S041001 下層	—	—	—	口縁部 小内	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	2.516/1 1085/3	瓦溝
1116	073-01 7次	陶磁	瓦	2区	S032006	S070011 下層 4-51r層	11.6	33.7	14.0	底部 9/12	外:ロクロナデ、ナデ、線状板、陶磁 内:ロクロナデ、ナデ、ユビオサエ	表:516/4 裏:1083/2	瓦溝
1117	062-05 4次	陶磁	瓦	1-05	S032006	S041001 下層	—	—	14.0	底部 2/12	外:工具ナデ、ナデ、陶磁 内:工具ナデ、ナデ、陶磁	表:1.516/4 裏:2.516/3	瓦溝
1118	033-02 10次	陶磁	瓦	南側	S032006	S010001	11.6	—	—	口縁部 2/12	外:ロクロナデ、行方タタキ、ナデ? 内:ロクロナデ、工具ナデ、板土板板合板	表:9 裏:516/1	瓦溝 破損か
1119	064-01 7次	陶磁	瓦	2区21	S032006	S070011 51r	9.4	—	—	口縁部 2/12	外:ロクロナデ、陶磁 内:ロクロナデ、陶磁	表:1098a/2 裏:2.516/4	破損?
1120	001-01 4次	陶磁	瓦	1-03	S032006	S041001 上層	—	—	21.0	底部 1/12	外:ロクロナデ、工具ナデ、工具板(線状?)、陶 磁 内:ロクロナデ、工具ナデ、陶磁	表:2.516/6 裏:2.516/3	破損?
1121	066-03 7次	陶磁	瓦	2区 B+45- 33.4	S032006	S070011 最上層	—	—	7.6	底部 11/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、赤切板、陶磁 内:ロクロナデ	表:1097/2 裏:1095/3	破損・変色?
1122	062-07 9次	陶磁	瓦	—	S032006	S060001 上層	—	—	11.8	底部 3/12	外:ロクロナズリ、ヘラ切板、陶磁 内:ロクロナデ	表:2.517/3 裏:2.516/3	破損・変色?
1123	074-01 7次	陶磁	瓦	2区	S032006	S070011 上層 1-3-47r層	—	—	10.4	底部 2/12	外:ロクロナズリ、ロクロナデ、ナデ 内:ロクロナデ	表:— 裏:—	破損・変色?
1124	057-02 7次	陶磁	馬または倉	2区 B+45- 33.4	S032006	S070011 最上層	—	—	7.0	底部 2/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、陶磁 内:ロクロナデ	表:2.517/1 裏:516/2	肥前系?
1125	005-04 7次	陶磁	瓦	1区12	S032006	S010001 表層	11.0	—	—	口縁部 2/12	外:ロクロナデ、陶磁 内:ロクロナデ、ナデ?、陶磁	表:1097/2 裏:1093/2	破損・変色?
1126	035-02 10次	陶磁	瓦	南側	S032006	S010001 一迭	23.2	—	—	口縁部 2/12	外:ロクロナデ、瓦、ユビオサエ、板土板板合 板、内:ロクロナデ、工具ナデ、ユビオサエ、 板土板板合板	516a/6	瓦溝(赤板)
1127	032-01 10次	陶磁	瓦	J-VI0	S032006	S010001 上層	43.8	—	—	口縁部 1/12	外:ロクロナデ、ユビオサエ、ナデ 内:ロクロナデ	2.516A/3	瓦溝
1128	068-01 7次	陶磁	瓦	2区	S032006	S070011 上層 1-3-47r層	54.6	—	—	口縁部 1/12	外:ロクロナデ、工具ナデ 内:ロクロナデ、工具ナデ、ユビオサエ	2.5167/6	瓦溝(赤板)
1129	005-03 7次	陶磁	瓦	1区12	S032006	S070001	—	—	—	口縁部 小内	外:ロクロナデ、工具ナデ、陶磁 内:ロクロナデ、陶磁	表:1095/1 裏:1.516/3	—
1130	038-03 10次	陶磁	谷村製品	—	S032006	S010001	—	—	—	底部 小内	外:染付し、線文様 内:ナデ、ユビオサエ、工具ナデ?	1.516a/6、 2.516A/3	破損八角形
1131	051-06 7次	陶磁	加工工場 (焼)	2区	S032006	S070011 上層 1-3-47r層	表径 6.4	短径 6.4	—	—	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、色紙、陶磁 内:ロクロナデ、陶磁?	表:1085/4 裏:2.516/1	44.0g 破損打5次
1132	059-04 7次	陶磁	加工工場 (焼)	2区3	S032006	S070011 11r	表径 5.2	短径 5.2	—	—	外:ロクロナズリ 内:ロクロナデ、陶磁	表:1093/6 裏:516/2	37.0g 破損打5次
1133	031-05 10次	陶磁	加工工場 (焼)	J-VI0	S032006	S010001 上層	表径 6.0	短径 5.7	—	—	外:ロクロナズリ 内:ロクロナデ、陶磁	表:1098/3 裏:1093/1	50.0g 破損打5次
1134	043-01 7次	陶磁	陶	2区 B+45- 33.4	S032006	S070011 最上層	7.7	7.0	4.0	口縁部 8/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、染付、陶磁 内:ロクロナデ、染付、陶磁	表:表/0	肥前系
1135	043-03 7次	陶磁	陶	2区	S032006	S070011 上層 51r層	7.8	6.3	3.6	底部 6/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、染付、陶磁 内:ロクロナデ、染付、陶磁	表:表/0	肥前系 コンニャク印刷
1136	036-04 10次	陶磁	陶	J-VI0	S032006	S010001	16.2	7.0	4.0	底部 12/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、染付、陶磁 内:ロクロナデ、陶磁	表:2.517/1	肥前系
1137	043-02 7次	陶磁	陶	2区	S032006	S070011 上層 51r層	7.2	3.9	3.2	底部 6/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、染付、陶磁 内:ロクロナデ、陶磁	表:517/1	肥前系
1138	043-04 7次	陶磁	陶	2区	S032006	S070011 上層 1-3-47r層	7.6	4.2	2.9	底部 12/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、染付、陶磁 内:ロクロナデ、陶磁	表:表/0	肥前系
1139	043-05 7次	陶磁	陶	2区 B+33.4 南	S032006	S070011 最上層 (焼)	7.8	4.4	3.0	口縁部 4/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、染付、陶磁 内:ロクロナデ、陶磁	表:表/0	肥前系
1140	043-03 7次	陶磁	陶	2区	S032006	S070011 上層 1-3-47r層	7.9	4.2	2.9	底部 12/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、染付、陶磁 内:ロクロナデ、陶磁	表:516/1	肥前系 コンニャク印刷
1141	041-01 7次	陶磁	陶	2区	S032006	S070011 上層 51r層	9.2	5.2	3.2	口縁部 12/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、染付、陶磁 内:ロクロナデ、陶磁	表:表/0	肥前系
1142	042-05 7次	陶磁	陶	2区	S032006	S070011 上層 51r層	9.3	6.7	5.6	底部 12/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、染付、陶磁 内:ロクロナデ、陶磁	表:9/0	肥前系
1143	037-01 7次	陶磁	陶	2区	S032006	S070011 上層 1-3-47r層	9.6	5.4	4.0	底部 12/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、染付、陶磁 内:ロクロナデ、陶磁	表:1.5167/2	肥前系
1144	037-02 7次	陶磁	陶	2区	S032006	S070011 上層 1-3-47r層	9.6	5.1	4.0	口縁部 5/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、染付、陶磁 内:ロクロナデ、陶磁	表:表/0	肥前系
1145	038-01 7次	陶磁	陶	2区	S032006	S070011 上層 1-3-47r層	9.6	5.2	3.8	底部 12/12	外:ロクロナデ、ロクロナズリ、染付、陶磁 内:ロクロナデ、陶磁	表:表/0	肥前系 コンニャク印刷

第IV-29表 遺物観察表 29

報告 No.	実施 No.	種別	組織	グリッド	報告遺構 部位	調査時 遺構名	口径 (cm)	最高 (cm)	底面 (cm)	残存度	調査・施工・施設等	色調	特記事項
1146	039-01 1次	竪坑	坑	2区	S032006	S070011 上層 1-3・4f+層	9.6	5.6	4.0	口縁部 10/12	外：ロクロナデ、ロクロワズリ、染付、陶磁 内：ロクロナデ、陶磁	黄：黄/0	肥前系 コンニャク印判
1147	041-03 1次	竪坑	坑	2区	S032006	S070011 上層 1-3・4f+層	9.7	5.1	3.7	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロワズリ、染付、陶磁 内：ロクロナデ、陶磁	黄：黄/0	肥前系
1148	039-04 1次	竪坑	坑	2区	S032006	S070011 上層 4・5f+層	10.0	5.5	4.0	底面 6/12	外：ロクロナデ、ロクロワズリ、染付、陶磁 内：ロクロナデ、陶磁	黄：黄/0	肥前系 コンニャク印判
1149	040-02 1次	竪坑	坑	2区	S032006	S070011 上層 5f+層	10.0	5.2	3.8	口縁部 11/12	外：ロクロナデ、ロクロワズリ、染付、陶磁 内：ロクロナデ、陶磁	黄：黄/0	肥前系
1150	041-02 1次	竪坑	坑	2区	S032006	S070011 上層 1-3・4f+層	10.0	5.2	3.6	底面 12/12	外：ロクロナデ、ロクロワズリ、染付、陶磁 内：ロクロナデ、染付、陶磁	黄：黄/0	肥前系 コンニャク印判
1151	030-05 1次	竪坑	坑	2区	S032006	S070011 上層 1-3・4f+層	10.1	6.0	4.0	底面 12/12	外：ロクロナデ、ロクロワズリ、染付、陶磁 内：ロクロナデ、陶磁	黄：黄/0	肥前系 「大塚年表」載
1152	030-02 1次	竪坑	坑	2区	S032006	S070011 上層 1-3・4f+層	10.2	4.5	4.0	底面 7/12	外：ロクロナデ、土器ナデ（カキメ鉢）、ロクロ ワズリ、染付、陶磁 内：ロクロナデ、陶磁	黄：黄/0	肥前系 型紙判り
1153	030-03 1次	竪坑	坑	2区	S032006	S070011 上層 1-3・4f+層	10.2	5.0	4.2	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロワズリ、染付、陶磁 内：ロクロナデ、陶磁	黄：黄/0	肥前系
1154	041-02 1次	竪坑	坑	2区	S032006	S070011 上層 1-3・4f+層	10.2	5.4	3.8	底面 12/12	外：ロクロナデ、ロクロワズリ、染付、陶磁 内：ロクロナデ、陶磁	黄：黄/0	肥前系
1155	042-02 1次	竪坑	坑	2区	S032006	S070011 上層 1-3・4f+層	10.2	5.4	4.0	底面 7/12	外：ロクロナデ、ロクロワズリ、染付、陶磁 内：ロクロナデ、染付、陶磁	黄：黄/0	肥前系
1156	041-05 1次	竪坑	坑	2区	S032006	S070011 上層 4f+層	10.3	5.8	4.3	口縁部 6/12	外：ロクロナデ、ロクロワズリ、染付、陶磁 内：ロクロナデ、染付、陶磁	黄：2.5/17/2	肥前系 コンニャク印判
1157	030-04 1次	竪坑	坑	2区	S032006	S070011 上層 1-3・4f+層	10.4	5.6	3.8	底面 12/12	外：ロクロナデ、ロクロワズリ、染付、陶磁 内：ロクロナデ、陶磁	黄：黄/0	肥前系 コンニャク印判
1158	037-03 1次	竪坑	坑	2区	S032006	S070011 上層 1-3・4f+層	11.6	3.9	4.0	底面 5/12	外：ロクロナデ、ロクロワズリ、染付、陶磁 内：ロクロナデ、陶磁	黄：黄/0	肥前系
1159	040-01 1次	竪坑	坑	2区	S032006	S070011 上層 5f+層	12.1	5.9	4.4	底面 12/12	外：ロクロナデ、ロクロワズリ、染付、陶磁 内：ロクロナデ、染付、陶磁	黄：黄/0	肥前系 コンニャク印判
1160	037-04 1次	竪坑	坑	2区	S032006	S070011 上層 1-3・4f+層	—	—	3.5	底面 10/12	外：ロクロナデ、ロクロワズリ、染付、陶磁 内：ロクロナデ、陶磁	黄：黄/0	肥前系
1161	044-01 1次	竪坑	坑	2区	S032006	S070011 上層 1-3・4f+層	—	—	3.5	底面 7/12	外：ロクロナデ、ロクロワズリ、染付、陶磁 内：ロクロナデ、陶磁	黄：黄/0	肥前系
1162	044-02 1次	竪坑	坑	2区	S032006	S070011 上層 1-3・4f+層	—	—	3.7	底面 7/12	外：ロクロナデ、ロクロワズリ、染付、陶磁 内：ロクロナデ、陶磁	黄：黄/0	肥前系 「大塚年表」載
1163	045-04 4次	竪坑	坑	1-54	S032006	S040101 上層 1-3・4f+層	—	—	3.8	底面 4/12	外：ロクロナデ、染付、陶磁 内：ロクロナデ、染付、陶磁	黄：9/0	肥前系
1164	037-05 1次	竪坑	坑	2区	S032006	S070011 上層 1-3・4f+層	—	—	4.0	底面 6/12	外：ロクロナデ、ロクロワズリ、染付、陶磁 内：ロクロナデ、陶磁	黄：黄/0	肥前系 「大塚年表」載
1165	041-04 1次	竪坑	坑	2区	S032006	S070011 上層 1-3・4f+層	—	—	4.0	底面 5/12	外：ロクロナデ、ロクロワズリ、染付、陶磁 内：ロクロナデ、染付、陶磁	黄：黄/0	肥前系
1166	039-02 1次	竪坑	坑	2区	S032006	S070011 上層 1-3・4f+層	—	—	4.4	底面 10/12	外：ロクロナデ、ロクロワズリ、染付、陶磁 内：ロクロナデ、陶磁	黄：黄/0	肥前系
1167	017-04 1次	竪坑	坑	1-46	S032006	S033001 1層	—	—	4.8	底面 5/12	外：ロクロナデ、ロクロワズリ、染付、陶磁 内：ロクロナデ、陶磁	黄：2.5/16/1	肥前系
1168	033-03 1次	竪坑	坑	2区 0+・ 45～33.4	S032006	S070011 最上層	—	—	6.0	底面 3/12	外：ロクロナデ、ロクロワズリ、染付、陶磁 内：ロクロナデ、染付、陶磁	黄：9/0	肥前系
1169	047-06 1次	竪坑	坑	2区	S032006	S070011 上層 1-3・4f+層	—	—	—	底部 不明	外：ロクロナデ、ロクロワズリ、染付、陶磁 内：ロクロナデ、陶磁	黄：9/0	肥前系
1170	034-02 10次	竪坑	坑	南側	S032006	S010001 1層	9.4	5.6	4.2	底面 9/12	外：ロクロナデ、ロクロワズリ、色絵、陶磁 内：ロクロナデ、陶磁	黄：黄/0	肥前系
1171	040-01 1次	竪坑	坑	2区	S032006	S070011 上層 1-3・4f+層	9.9	—	—	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、色絵、陶磁 内：ロクロナデ、陶磁	黄：黄/0	肥前系
1172	046-05 1次	竪坑	小坪	2区	S032006	S070011 上層 5f+層	6.4	5.2	3.0	底面 4/12	外：ロクロナデ、ロクロワズリ、染付、陶磁 内：ロクロナデ、陶磁	黄：9/0	肥前系
1173	047-01 1次	竪坑	小坪	2区 0+・ 33.46	S032006	S070011 最上層(南)	7.6	4.7	4.0	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロワズリ、染付、陶磁 内：ロクロナデ、陶磁	黄：9/0	肥前系
1174	046-06 1次	竪坑	狭口	2区 0+・ 33.46	S032006	S070011 最上層(南)	—	—	4.1	底面 9/12	外：ロクロナデ、ロクロワズリ、染付、陶磁 内：ロクロナデ、陶磁	黄：9/0	肥前系
1175	017-02 1次	竪坑	仏具殿	2区	S032006	S070011 上層 1-3・4f+層	7.5	4.7	3.4	底面 8/12	外：ロクロナデ、染付、陶磁 内：ロクロナデ、陶磁	黄：黄/0	肥前系 源邸遺構
1176	036-05 10次	竪坑	仏具殿	J-110	S032006	S010001	7.0	5.0	4.0	底面 12/12	外：ロクロナデ、ロクロワズリ、染付、陶磁 内：ロクロナデ、陶磁	黄：9/0	肥前系
1177	032-03 1次	竪坑	皿	2区3	S032006	S070011 1f+層	7.6	1.9	4.2	底面 12/12	外：型押し、陶磁 内：型押し、染付、陶磁	黄：2.5/16/1	肥前系 型紙判り
1178	032-02 1次	竪坑	皿	2区	S032006	S070011 上層 1-3・4f+層	12.2	4.2	3.7	口縁部 6/12	外：ロクロナデ、ロクロワズリ、陶磁 内：ロクロナデ、染付、陶磁	黄：9/0	肥前系
1179	041-05 1次	竪坑	皿	2区	S032006	S070011 上層 1-3・4f+層	12.9	3.3	5.0	底面 12/12	外：ロクロナデ、ロクロワズリ、陶磁 内：ロクロナデ、染付、陶磁	黄：黄/0	肥前系
1180	032-01 1次	竪坑	皿	2区	S032006	S070011 上層 1-3・4f+層	13.0	4.1	5.2	底面 12/12	外：ロクロナデ、ロクロワズリ、陶磁 内：ロクロナデ、染付、陶磁	黄：2.5/16/2	肥前系

第IV -30 表 遺物観察表 30

報告 №	発掘 期	種別	用途	グリッド	報告通称 層位	調査時 層位	口徑 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	残存度	調査・施工・特徴等	色調	特記事項
1181	030-01 7次	磁器	皿	2区	S02206	S07011 上層 1-3-4fr層	13.4	3.5	7.6	底面 5/12	外:ロクロナデ、ロクワズリ、染付、施釉 内:ロクロナデ、染付、施釉	黄:9/0	肥前系 「コンニャク印刷」 「大相堂」 施
1182	030-02 7次	磁器	皿	2区	S02206	S07011 上層 4fr	13.4	3.2	7.8	口縁部 6/12	外:ロクロナデ、ロクワズリ、染付、施釉 内:ロクロナデ、染付、施釉	黄:9/0	肥前系 「コンニャク印刷」 「大相堂」 施
1183	031-01 7次	磁器	皿	2区	S02206	S07011 上層 5fr層	13.4	3.8	8.0	口縁部 8/12	外:ロクロナデ、ロクワズリ、染付、施釉 内:ロクロナデ、染付、施釉	黄:9/0	肥前系 「コンニャク印刷」
1184	031-02 7次	磁器	皿	2区	S02206	S07011 上層 1-3-4fr層	13.4	3.9	8.7	底面 5/12	外:ロクロナデ、ロクワズリ、施釉、染付、施 内:ロクロナデ、染付、施釉	黄:9/0	肥前系 「コンニャク印刷」
1185	031-03 7次	磁器	皿	2区	S02206	S07011 上層 1-3-4fr層	13.5	3.3	8.0	底面 4/12	外:ロクロナデ、ロクワズリ、染付、施釉 内:ロクロナデ、染付、施釉	黄:9/0	肥前系
1186	031-04 7次	磁器	皿	2区	S02206	S07011 上層 1-3-4fr層	14.5	4.0	9.2	底面 12/12	外:ロクロナデ、ロクワズリ、施釉、染付、施 内:ロクロナデ、染付、施釉	黄:9/0	肥前系 「関江」 施
1187	032-02 7次	磁器	皿	2区	S02206	S07011 上層 1-3-4fr層	18.8	5.5	10.0	底面 4/12	外:ロクロナデ、ロクワズリ、染付、施釉 内:ロクロナデ、染付、施釉	黄:9/0	肥前系
1188	034-01 7次	磁器	皿	2区	S02206	S07011 上層 1-3-4fr層	25.2	4.0	15.3	底面 12/12	外:ロクロナデ、ロクワズリ、施釉、染付、施 内:ロクロナデ、染付、施釉	黄:9/0	肥前系 「大相堂」 施
1189	034-01 7次	磁器	皿	2区 6+ 33.4層	S02206	S07011 最上層(焼)	—	—	17.2	底面 12/12	外:ロクロナデ、ロクワズリ、染付、施釉 内:ロクロナデ、染付、施釉	黄:9/0	肥前系
1190	047-03 7次	磁器	皿	2区	S02206	S07011 上層 1-3-4fr層	—	—	—	口縁部 小片	外:ロクロナデ、ロクワズリ、染付、施釉 内:ロクロナデ、染付、施釉	黄:9/0	肥前系
1191	035-02 7次	磁器	皿	2区 博トレ	S02206	S07011 上層	—	—	4.6	底面 3/12	外:ロクロナデ、染付、施釉 内:染付、施釉	黄:9/0	肥前系
1192	034-02 7次	磁器	皿	2区 6+ 33.4層	S02206	S07011 最上層(焼)	—	—	11.6	底面 2/12	外:ロクロナデ、ロクワズリ、染付、施釉 内:ロクロナデ、染付、施釉	黄:9/0	肥前系
1193	034-03 7次	磁器	皿	2区 6+ 33.4層	S02206	S07011 最上層(焼)	—	—	13.6	底面 2/12	外:ロクロナデ、ロクワズリ、染付、施釉 内:ロクロナデ、染付、施釉	黄:9/0	肥前系
1194	047-02 7次	磁器	皿	2区	S02206	S07011 上層 1-3-4fr層	9.4	—	—	口縁部 2/12	外:ロクロナデ、ロクワズリ、染付、施釉 内:ロクロナデ、染付、施釉	黄:9/0	肥前系
1195	035-01 7次	磁器	皿	2区	S02206	S07011 上層 4-5fr層	9.6	—	—	口縁部 5/12	外:ロクロナデ、染付、施釉 内:ロクロナデ、カキム状条線、施釉	黄:9/0	肥前系
1196	035-03 7次	磁器	皿	2区	S02206	S07011 上層 5fr層	11.4	4.6	—	口縁部 6/12	外:ロクロナデ、染付、施釉 内:ロクロナデ、カキム状条線、施釉	黄:9/0	肥前系
1197	042-04 7次	磁器	鉢	2区	S02206	S07011 上層 4-5fr層	—	—	8.0	底面 3/12	外:ロクロナデ、ロクワズリ、染付、施釉 内:ロクロナデ、染付、施釉	黄:9/0	肥前系
1198	047-07 7次	磁器	水筒	2区	S02206	S07011 上層 1-3-4fr層	—	幅 3.3	—	半欠	外:染付、市目、染付、施釉 内:ナデ	黄:9/0	肥前系
1199	044-02 7次	磁器	瓶	2区	S02206	S07011 上層 5fr層	1.8	10.4	4.2	口縁部 12/12	外:ロクロナデ、ロクワズリ、染付、施釉 内:ロクロナデ、施釉	黄:7.5/8/1	肥前系
1200	045-03 7次	磁器	瓶	2区	S02206	S07011 上層 1-3-4fr層	2.2	15.0	4.6	口縁部 12/12	外:ロクロナデ、ロクワズリ、染付、施釉 内:ロクロナデ、施釉	黄:9/0	肥前系
1201	039-05 10次	磁器	瓶	南側	S02206	S01001 一巻	2.5	—	—	底面 12/12	外:ロクロナデ、染付、施釉 内:ロクロナデ、施釉	黄:5/8/1	肥前系
1202	045-05 7次	磁器	瓶	2区3	S02206	S07011 1fr	—	—	4.0	底面 4/12	外:ロクロナデ、ロクワズリ、染付、施釉 内:ロクロナデ	黄:5/8/1	肥前系
1203	045-02 7次	磁器	瓶	2区	S02206	S07011 上層 1-3-4fr層	—	—	4.4	底面 12/12	外:ロクロナデ、ロクワズリ、染付、施釉 内:ロクロナデ	黄:9/0	肥前系
1204	044-04 7次	磁器	瓶	2区	S02206	S07011 上層 1-3-4fr層	—	—	4.4	底面 12/12	外:ロクロナデ、ロクワズリ、染付、施釉 内:ロクロナデ	黄:9/0	肥前系
1205	017-04 3次	磁器	瓶	—	S02206	S03001 1層	—	—	4.5	底面 4/12	外:ロクロナデ、施釉 内:ロクロナデ、施釉	黄:8/0	肥前系
1206	045-04 7次	磁器	瓶	2区	S02206	S07011 上層 1-3-4fr層	—	—	4.6	底面 2/12	外:ロクロナデ、ロクワズリ、染付、施釉 内:ロクロナデ	黄:5/8/1	肥前系
1207	045-01 7次	磁器	瓶	2区	S02206	S07011 上層 1-3-4fr層	—	—	5.0	底面 12/12	外:ロクロナデ、ロクワズリ、染付、施釉 内:ロクロナデ、施釉	黄:9/0	肥前系
1208	044-01 7次	磁器	瓶	2区21	S02206	S07011 上層 5fr	—	—	5.0	底面 12/12	外:ロクロナデ、ロクワズリ、染付、施釉 内:ロクロナデ	黄:9/0	肥前系
1209	045-02 7次	磁器	瓶?	2区	S02206	S07011 上層 1-3-4fr層	—	—	5.4	底面 5/12	外:ロクロナデ、染付、施釉 内:ロクロナデ、施釉	黄:8/0 黄:5/8/1	肥前系
1210	044-02 7次	磁器	瓶	2区 6+33.4 層	S02206	S07011 最上層	—	—	—	底面 7/12	外:ロクロナデ、ロクワズリ、染付、施釉 内:ロクロナデ	黄:7.5/8/1	肥前系
1211	044-04 7次	磁器	瓶	2区3	S02206	S07011 上層 1fr	—	—	4.2	底面 6/12	外:ロクロナデ、ロクワズリ、色絵、施釉 内:ロクロナデ	黄:2.5/8/1	肥前系
1212	049-02 7次	磁器	瓶	2区	S02206	S07011 上層 1-3-4fr層	—	—	4.6	底面 5/12	外:ロクロナデ、ロクワズリ、色絵、施釉 内:ロクロナデ	黄:8/0	肥前系
1213	047-04 7次	磁器	水筒	2区	S02206	S07011 上層 1-3-4fr層	—	—	—	底面 3/12	外:ロクロナデ、染付、施釉 内:ロクロナデ、施釉	黄:5/8/1	肥前系
1214	038-02 10次	青磁	青戸	—	S02206	S01001	—	—	—	底面 小片	外:ロクロナデ、施釉 内:ロクロナデ、施釉	黄:9/0 黄:7.5/8/1	国産青磁
1215	054-05 7次	青磁	青戸	2区	S02206	S07011 上層 1-3-4fr層	8.4	—	—	口縁部 1/12	外:ロクロナデ、施釉 内:ロクロナデ、施釉	黄:8/0 黄:16/8/1	国産青磁

第IV-31表 遺物観察表 31

報告 No.	発掘 No.	種別	基礎	グリッド	報告遺構 部位	調査時 遺構名	口径 (cm)	最高 (cm)	底面 (cm)	残存度	調査・施工・発掘等	色調	特記事項
1216	059-01 7次	青磁	香炉	2区	S02806	S07011 上層 1・3・47-間	16.4	—	6.1	底部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロナデ、陶胎 内：ロクロナデ	黒：黒/0 焼：2.567/1	国産青磁
1217	059-02 7次	青磁	香炉	2区	S02806	S07011 上層 1・3・47-間	—	—	7.8	底部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロナデ、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黒：黒/0 焼：160/1	国産青磁
1218	059-04 7次	青磁	仏花箱	2区	S02806	S07011 上層 1・3・47-間	—	—	—	底部 6/12	外：ロクロナデ、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黒：黒/0 焼：160/1	国産青磁
1219	049-02 7次	磁器	加工陶器 (碗)	2区	S02806	S07011 上層 1・3・47-間	長径 4.6	短径 4.4	—	—	外：ロクロナデ、染付、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黒：黒/0 焼：160/1	25.0g 底部打ち文
1220	049-01 7次	磁器	加工陶器 (碗)	2区	S02806	S07011 上層 1・3・47-間	長径 5.8	短径 5.4	—	—	外：ロクロナデ、染付、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黒：黒/0 焼：160/1	26.0g 底部打ち文
1221	049-03 7次	磁器	加工陶器 (碗)	2区 0+45- 33.4	S02806	S07011 最上層	長径 1.6	短径 1.2	—	—	外：ロクロナデ、染付、陶胎 内：ロクロナデ、染付、陶胎	黒：黒/0 焼：160/1	21.0g 底部打ち文
1222	036-02 10次	白磁	碗	南側	S02806	S010001 一底	14.6	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黒：2.5/7/1 焼：2.5/7/2	福建系
1223	045-04 7次	白磁	碗	28区	S02806	S07011 3fr	—	—	—	口縁部 小所	外：ロクロナデ、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黒：2.5/7/2 焼：2.5/7/1	福建系
1224	045-07 7次	白磁	碗	28区15	S02806	S07011 4fr	—	—	—	口縁部 小所	外：ロクロナデ、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黒：2.5/7/2 焼：2.5/7/2	福建系
1225	037-02 10次	白磁	碗	J-110	S02806	S010001	—	—	5.1	底部 11/12	外：ロクロナデ、ロクロナデ、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黒：2.5/8/1 焼：2.5/8/1	福建系
1226	045-05 7次	白磁	碗	28区	S02806	S07011	—	—	6.0	底部 6/12	外：ロクロナデ、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黒：2.5/7/1 焼：2.5/7/1	福建系
1227	029-01 10次	白磁	碗	L-A10	S02806	S010001 最下層	—	—	6.4	底部 1/12	外：ロクロナデ、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黒：10/8/1 焼：2.5/7/2	福建系
1228	031-02 10次	青磁	碗	J-110	S02806	S010001 下層	15.4	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黒：2.5/8/1 焼：10/6/2	—
1229	099-04 10次	青磁	碗	L-813	S02806	S433001	15.6	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、福建外文、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黒：8/7/0 焼：10/6/1	龍泉系
1230	042-01 7次	青磁	碗	—	S02806	S090001 上層	16.9	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、福建外文、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黒：2.5/7/1 焼：2.5/7/1	龍泉系
1231	016-04 6次	青磁	碗	L-07	S02806	S043003	—	—	—	底部 小所	外：ロクロナデ、ロクロナデ、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黒：8/7/0 焼：2.5/6/1	—
1232	045-08 7次	青磁	碗	28区15	S02806	S07011 4fr	—	—	—	口縁部 小所	外：ロクロナデ、福建外文、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黒：2.5/7/1 焼：10/6/2	龍泉系
1233	040-03 7次	青磁	碗	南側	S02806	S010001	—	—	—	口縁部 小所	外：ロクロナデ、福建外文、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黒：2.5/8/1 焼：2.5/7/1	龍泉系
1234	043-03 7次	青磁	碗	—	S02806	S090001 上層	—	—	4.5	底部 3/12	外：ロクロナデ、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黒：2.5/7/1 焼：2.5/7/1	—
1235	045-04 7次	青磁	碗	2区	S02806	S07011 上層 1・3・47-間	—	—	4.8	底部 3/12	外：ロクロナデ、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黒：2.5/7/1 焼：2.5/7/2	—
1236	042-02 10次	青磁	碗	南側	S02806	S010001 一底	—	—	5.0	底部 2/12	外：ロクロナデ、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黒：8/7/0 焼：2.5/8/2	—
1237	031-07 10次	青磁	碗	J-110	S02806	S010001 上層	—	—	5.5	底部 3/12	外：ロクロナデ、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黒：10/8/1 焼：2.5/8/2	—
1238	020-04 7次	青磁	碗	28区	S02806	S07011 1fr	—	—	6.0	底部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロナデ、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黒：2.5/7/1 焼：2.5/8/2	—
1239	045-03 7次	青磁	碗	2区	S02806	S07011 上層 1・3・47-間	—	—	6.4	底部 6/12	外：ロクロナデ、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黒：2.5/8/6 焼：2.5/7/1	—
1240	040-06 10次	青磁	碗	J-110	S02806	S010001	—	—	6.5	底部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロナデ、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黒：2.5/7/1 焼：2.5/6/1	—
1241	042-02 6次	青磁	皿	—	S02806	S090001 上層	16.4	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黒：2.5/8/1 焼：10/7/1	—
1242	036-03 10次	青磁	皿?	南側	S02806	S010001 一底	—	—	8.0	底部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロナデ、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黒：2.5/7/1 焼：2.5/8/3	—
1243	045-01 4次	青磁	盤	2区	S02806	S07011 上層 1・3・47-間	—	—	6.8	底部 3/12	外：ロクロナデ、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黒：10/8/1 焼：2.5/8/2	龍泉系
1244	044-01 4次	白磁	盤	L-04	S02806	S041001 上層	—	—	—	底部 小所	外：ロクロナデ、陶胎 内：ロクロナデ、陶胎	黒：2.5/7/1 焼：2.5/7/1	—
1245	017-05 4次	青花 磁器	碗	—	S02806	S033001	13.6	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、染付、陶胎 内：ロクロナデ、染付、陶胎	黒：2.5/8/1 焼：2.5/7/1	漳州系
1246	016-07 4次	土製品	土罐	L-17	S02806	S043003	長径 4.7	幅 1.9	—	完好	外：ナデ	5.187/4	11.3g
1247	016-06 4次	土製品	土罐	L-17	S02806	S043003	長径 4.7	幅 1.5	—	完好	外：ナデ	7.5187/4	26.7g
1248	016-08 4次	土製品	土罐	L-17	S02806	S043003	長径 4.6	幅 1.6	—	一部欠	外：ナデ	5.187/4	7.4g
1249	044-02 5次	土製品	土罐	—	S02806	S090001 最上層	—	—	厚さ 2.8	平欠	外：ナデ	1.9187/3	10.4g
1250	041-04 4次	土製品	L字灰製品	L-54	S02806	S041001 上層	—	—	幅 1.1	小片	凸：ナデ 凹：工真ナデ?	2.5187/4 1.9187/3	断面L字形
1251	037-04 10次	土製品	灰製品	—	S02806	S010001	—	—	厚さ 2.2	底部 小所	ナデ、ユビオサエ	1.918/4	—
1252	044-03 5次	土製品	人形	—	S02806	S090001 最上層	—	—	厚さ 1.3	平欠	外：型押し、ナデ、ユビオサエ 凸：ナデ 凹：ナデ	7.5187/4	—
1253	074-02 7次	瓦	軒丸瓦	2区	S02806	S07011 上層 5fr南	—	—	—	瓦当部 小所	凸：ナデ 凹：ナデ、ユビオサエ	83/0	唐文、巴文
1254	037-01 10次	瓦	軒丸瓦	J-110	S02806	S010001 下層	—	—	—	瓦当部 小所	凸：ナデ 凹：ナデ、貼土接合面	2.518/1	菊文

第IV-32表 遺物観察表 32

報告 №	発掘 期	種別	産地	グロット	報告者 氏名	調査時 間	口徑 (cm)	底高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調査・施設・人物等	色調	特記事項
1255	074-03 7次	瓦	野平瓦	2B3	S02006	S070011 1層	—	—	—	瓦部 小片	凹：ナデ 凸：ナデ、面取り	94/0	産地文
1256	079-01 10次	石製品	石鍋	南側	S02006	S070001 —	34.0	—	—	口縁部 1/12	外：縦溝、 内：縦溝、線状溝	—	横石製 肥前西彼半島 外産品付
1257	029-01 7次	石製品	石鍋	2B3	S02006	S070011 —	—	—	—	小片	外：縦溝、 内：縦溝、線状溝	—	横石製 肥前西彼半島 二次加工品？
1258	095-01 9次	石製品	甕石	—	S02006	S090001 上層	長さ 7.9	幅 4.9	厚さ 3.8	—	摩痕	—	横石製 45.3g
1259	095-02 9次	石製品	甕石	—	S02006	S090001 下層	長さ 5.2	幅 4.6	厚さ 3.4	—	摩痕	—	横石製 13.6g
1260	028-07 7次	石製品	甕石	2B3	S02006	S070011 3層	—	幅 4.4	厚さ 1.9	半欠	摩痕	—	103.0g
1261	018-01 7次	石製品	甕石	2B5	S02006	S070011 上層 1-3・4層	長さ 7.0	幅 6.4	厚さ 5.8	—	磨打痕	—	330.0g
1262	028-08 7次	石製品	円盤状製品	2B5	S02006	S070011 上層 1-3・4層	長さ 4.7	幅 4.7	厚さ 1.0	—	磨打打ち欠き、表面剥離	—	24.0g
1263	018-02 7次	石製品	円盤状製品	2B5	S02006	S070011 4層	長さ 5.2	幅 5.2	厚さ 0.8	—	磨打打ち欠き、表面剥離	—	37.0g 両面磨面
1264	031-08 10次	石製品	円盤状製品	J-170	S02006	S070001 上層	長さ 6.3	幅 6.0	厚さ 1.4	—	磨打打ち欠き、表面剥離	—	54.0g
1265	079-01 7次	鉄製品	刀状製品	2B3	S02006	S070011 1層	—	幅 4.3	厚さ 0.8	小片	—	—	—
1266	079-02 7次	鉄製品	刀状製品	2B5 遺トレ	S02006	S070011 上層	—	幅 4.4	厚さ 6.1	小片	—	—	—
1267	079-01 7次	鉄製品	釘	2B5	S02006	S070011 上層 1-3・4層	長さ 23.0	幅 3.6	厚さ 1.5	完好	—	—	大型品
1268	079-06 7次	鉄製品	釘	2B3	S02006	S070011 3層	—	幅 2.0	厚さ 0.7	半欠	—	—	—
1269	079-03 7次	鉄製品	釘	2B5	S02006	S070011 上層 1-3・4層	—	幅 4.0	厚さ 1.1	半欠	—	—	—
1270	075-05 4次	鉄製品	釘	L-05	S02006	S041001 下層	—	幅 1.1	厚さ 0.7	半欠	—	—	—
1271	079-05 7次	鉄製品	釘	2B3	S02006	S070011 3層	—	幅 2.2	厚さ 0.8	半欠	—	—	—
1272	001-01 9次	鉄製品	釘	—	S02006	S090001 最下層	—	幅 1.3	厚さ 0.5	小片	—	—	—
1273	057-06 4次	鉄製品	釘	L-05	S02006	S041001 下層	—	幅 1.2	厚さ 1.0	半欠	—	—	—
1274	057-04 4次	鉄製品	釘	L-05	S02006	S041001 下層	—	幅 1.2	厚さ 0.8	小片	—	—	—
1275	078-04 7次	鉄製品	釘	2B5	S02006	S070011 上層 1-3・4層	—	幅 3.8	厚さ 0.6	半欠	—	—	—
1276	113-02 3次	鉄製品	板状製品	J-011	S02006	S060001	—	幅 4.9	厚さ 0.5	小片	—	—	—
1277	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1278	018-05 3次	土師器	皿	L-112	S033004	S033004	10.4	3.5	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、コビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	1018/2	内産品付
1279	018-03 3次	土師器	皿	L-110	S033004	S033004	10.6	2.5	—	口縁部 5/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	1018/2	—
1280	018-06 3次	土師器	皿	L-112	S033004	S033004	10.6	3.4	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、コビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ？	1018/2	—
1281	019-03 3次	土師器	皿	L-111	S033004	S033004	10.8	3.4	—	口縁部 1/12	外：摩耗により剥離不明 内：ヨコナデ、ナデ？	1018/2	—
1282	112-06 3次	土師器	皿	L-112	S033004	S033004	11.2	2.5	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、コビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.518/4	—
1283	018-04 3次	土師器	皿	L-112	S033004	S033004	11.4	3.3	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、コビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	1018/2	—
1284	112-07 3次	土師器	皿	L-112	S033004	S033004	11.8	2.7	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、コビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.518/2	内内面口縁部剥離
1285	016-03 3次	土師器	鍋	L-110	S033004	S033004	21.8	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ	1018/2	磨り粉系 外産品付
1286	016-01 3次	土師器	鍋	L-18	S033004	S033004	29.8	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ	1018/3	磨り粉系 外産品付
1287	018-02 3次	土師器	甕蓋	L-18	S033004	S033004	19.8	—	—	口縁部 4/12	外：ヨコナデ、ハケム 内：ヨコナデ、ナデ	1018/2	磨り粉系 外産品付
1288	019-01 3次	土師器	甕蓋	L-111	S033004	S033004	20.2	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ、コビオサエ 内：ヨコナデ、工具ナデ	1018/2	磨り粉系 外産品付
1289	019-02 3次	土師器	甕蓋	L-112	S033004	S033004	23.4	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ、コビオサエ 内：ヨコナデ、ハケム	7.518/4	磨り粉系 外産品付
1290	077-02 3次	土師器	甕蓋	L-112	S033004	S033004	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ハケム	2.518/1	磨り粉系 外産品付
1291	101-04 3次	陶器	山形	L-18	S033004	S033004	—	—	4.6	底部 10/12	外：ロクロナデ、ナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	W7/0	—
1292	110-03 3次	陶器	山形	L-18	S033004	S033004	—	—	7.4	底部 3/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.517/2	産地不明
1293	015-05 3次	陶器	山形	L-118	S033004	S033004	—	—	—	底部 小片	外：ロクロナデ、糸切痕、磨痕 内：ロクロナデ、磨痕、磨痕	磨：2.517/2 軸：1.517/1	磨り・産地
1294	015-01 3次	陶器	鉢	L-111	S033004	S033004 2層	25.5	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	7.518/1	産地

第IV-33表 遺物観察表 33

報告 No.	発掘 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 部位	調査時 遺構名	口径 (cm)	最高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調査・施工・熟練等	色調	特記事項
1295	019-04 3次	陶磁	青	L-112	S033004	S033004	18.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	5/17/1	灰青
1296	018-01 3次	陶磁	黄	L-110	S033004	S033004	36.3	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	10/184/2	灰青
1297	017-01 3次	青磁	黄	L-112	S033004	S033004	—	—	5.0	底部 12/12	外：ロクロナズリ、煎焼 内：ロクロナデ、煎焼	黄：5/17/1 黒：2.5/15/2	煎焼黒系
1298	113-01 3次	青磁	黄	L-112	S033004	S033004	—	—	6.0	底部 2/12	外：ロクロナズリ、煎焼 内：ロクロナデ、煎焼	黄：2.5/18/1 黒：5/16/3	
1299	123-06 3次	鉄製品	灯	L-111	S033004	S033004	—	幅 6.9	高さ 6.7	平文	—	—	
1300	020-01 3次	土師器	緑	L-100	S033006	S033006	27.2	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	7.5/187/3	南伊勢系 外底保存層
1301	020-02 3次	土師器	緑	L-110	S033006	S033006	27.2	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	10/185/3	南伊勢系 外底保存層
1302	020-03 3次	土師器	緑	L-100	S033006	S033006	31.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハケム 内：ヨコナデ	10/186/3	南伊勢系 外底保存層
1303	014-02 3次	土師器	緑	L-100	S033006	S033006 1層	19.4	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ、平行タタキ 内：ヨコナデ、工具ナデ	5/186/3	横紋型 外底保存層
1304	021-02 3次	土師器	緑	L-100	S033006	S033006	25.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ、格子タタキ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5/186/4	横紋型 外底保存層
1305	021-03 3次	土師器	緑	L-100	S033006	S033006	25.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、工具ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	5/187/6	横紋型 外底保存層
1306	021-01 3次	土師器	緑	L-100	S033006	S033006	27.6	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ？ 内：ヨコナデ、工具ナデ？	7.5/187/4	横紋型 外底保存層
1307	101-05 3次	陶磁	山田	L-100	S033006	S033006	—	—	3.9	底部 10/12	外：ロクロナデ、赤切焼 内：ロクロナデ	黒/0	
1308	076-03 3次	土師器	山	L-114	S033012	S033012 1層	10.8	2.7	—	口縁部 9/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	2.5/18/2	
1309	026-02 3次	土師器	山	L-103	S033012	S033012 2層	11.2	2.4	—	口縁部 4/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ	2.5/18/2	南伊勢系？
1310	024-05 3次	土師器	台付皿	L-103	S033012	S033012 2層	9.6	—	4.8	底部 12/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	7.5/188/4	
1311	025-04 3次	土師器	台付皿	L-103	S033012	S033012 2層	—	—	8.0	底部 5/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ナデ	2.5/18/3	
1312	005-02 3次	土師器	緑	L-103	S033012	S033012 1層	20.6	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハケム 内：ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	10/187/3	南伊勢系
1313	006-02 3次	土師器	緑	L-103	S033012	S033012 1層	20.6	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	10/187/3	南伊勢系 外底保存層
1314	006-01 3次	土師器	緑	—	S033012	S033012 1層	20.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハケム 内：ヨコナデ	10/185/3	南伊勢系 外底保存層
1315	004-01 3次	土師器	緑	—	S033012	S033012 1層	27.4	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハケム、ケズリ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	10/186/4	南伊勢系
1316	011-01 3次	土師器	緑	—	S033012	S033012 1層	29.2	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハケム 内：ヨコナデ、ナデ	7.5/187/4	南伊勢系 外底保存層
1317	026-07 3次	土師器	緑	L-103	S033012	S033012 2層	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	10/187/4	南伊勢系 外底保存層
1318	004-02 3次	土師器	緑	L-104	S033012	S033012 1層	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	7.5/187/4	南伊勢系
1319	006-05 3次	土師器	緑	南アゼ	S033012	S033012 1層	34.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ハケム 内：ヨコナデ、工具ナデ	10/186/3	南伊勢系 外底保存層
1320	006-04 3次	土師器	緑	L-103	S033012	S033012 1層	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	10/188/3	南伊勢系 外底保存層
1321	024-01 3次	土師器	緑	L-114	S033012	S033012 1層	23.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	5/186/4	横紋型 外底保存層
1322	024-03 3次	土師器	黄	L-103	S033012	S033012 2層	20.4	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5/185/4	外底保存層
1323	005-03 3次	土師器	黄	南アゼ	S033012	S033012 1層	21.2	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ハケム、工具ナデ	10/186/4	保存層
1324	006-03 3次	土師器	黄	L-114	S033012	S033012 1層	12.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハケム 内：ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	10/187/3	外底保存層
1325	026-01 3次	瓦葺	山	L-103	S033012	S033012 1層	13.6	2.2	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	2.5/18/2	
1326	025-02 3次	陶磁	山田	L-114	S033012	S033012 2層	16.0	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	5/17/2	灰青型
1327	025-03 3次	陶磁	山田	L-114	S033012	S033012 2層	—	—	7.0	底部 9/12	外：ロクロナデ、赤切焼 内：ロクロナデ	5/17/1	煎焼黒系型
1328	101-06 3次	陶磁	山田	南アゼ	S033012	S033012 1層	—	—	3.9	底部 9/12	外：ロクロナデ、赤切焼 内：ロクロナデ	黒/0	煎焼黒系型
1329	024-04 3次	陶磁	片断	L-114	S033012	S033012 1層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、ロクロナズリ、ナデ 内：ロクロナデ、ユビオサエ、ナデ	5/16/2	
1330	026-05 3次	陶磁	鉢	L-114	S033012	S033012 1層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5/17/2	
1331	025-05 3次	陶磁	鉢	L-114	S033012	S033012 2層	—	—	13.2	底部 3/12	外：ロクロナデ、ナデ、赤切焼 内：厚地より調査不明	2.5/17/2	
1332	026-01 3次	陶磁	天長黒陶	L-115	S033012	S033012 2層	—	—	3.4	底部 12/12	外：ロクロナズリ 内：ロクロナデ、煎焼	黄：2.5/17/1 黒：5/12/1	瀬戸・美濃
1333	026-06 3次	陶磁	黄	L-114	S033012	S033012 1層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、煎焼	黄：5/16/1 黒：2.5/13/2	瀬戸
1334	006-03 3次	白磁	山	L-103	S033012	S033012 1層	—	—	5.2	底部 4/12	外：ロクロナデ、ハケム、煎焼 内：ロクロナデ、煎焼	黄：黒/0 黒：2.50/18/1	
1335	025-06 3次	青磁	黄	L-103	S033012	S033012 2層	16.0	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、横紋井文、煎焼 内：ロクロナデ、煎焼	黄：2.5/17/2 黒：10/18/2	煎焼黒系
1336	025-07 3次	青磁	黄	L-103	S033012	S033012 2層	—	—	6.0	底部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロナズリ、煎焼 内：ロクロナデ、煎焼	黄：5/17/1 黒：5/16/3	煎焼黒系

第IV-34表 遺物観察表 34

報告 №	発掘 期	種別	用途	グリッド	報告通称 層位	調査時 通称	口徑 (cm)	底高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調査・施設・名称等	色調	特記事項
1337	122-01 3次	青白磁	陶器 (メイビン)	-B14	S03012	S03012 1層	—	—	—	外部 小片	外：緑黄褐色、条線、胎線 内：ロクロナデ	黄：10YR3/3 黒：10YR/3	
1338	077-01 3次	土師器	鍋	J-S19	S03003	S03003	24.0	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ハクメ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR/4	内伊勢系 外底保存層
1339	058-04 3次	土師器	鍋	J-B14	S03003	S03005	25.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハクメ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR/3	内伊勢系 外底保存層
1340	091-02 3次	土師器	鍋	J-S19	S03003	S03003	26.0	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ハクメ 内：ヨコナデ	10YR/4	内伊勢系 外底保存層
1341	091-03 3次	土師器	鍋	J-S19	S03003	S03003	26.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハクメ 内：ヨコナデ	10YR/4	内伊勢系 外底保存層
1342	087-03 3次	土師器	鍋	J-S19	S03003	S03003 下層	26.0	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ハクメ 内：ヨコナデ	10YR/4	内伊勢系
1343	089-02 3次	土師器	鍋	J-S19	S03003	S03003	26.2	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハクメ 内：ヨコナデ	10YR/4	内伊勢系
1344	089-03 3次	土師器	鍋	J-S19	S03003	S03003	26.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハクメ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR7/4	内伊勢系
1345	093-04 3次	土師器	鍋	J-S19	S03003	S03003	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ハクメ 内：ヨコナデ、ナデ?	10YR/4	内伊勢系 外底保存層
1346	088-01 3次	土師器	鍋	J-S19	S03003	S03003	27.4	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハクメ 内：ヨコナデ	10YR/4	内伊勢系
1347	089-04 3次	土師器	鍋	J-S19	S03003	S03003	27.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハクメ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR/4	内伊勢系
1348	090-04 3次	土師器	鍋	J-S19	S03003	S03003	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ナデ、ハクメ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	10YR/4	内伊勢系 外底保存層
1349	092-03 3次	土師器	鍋	J-S19	S03003	S03003	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ハクメ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR/4	内伊勢系 外底保存層
1350	026-07 5次	陶磁	山手磁	J-B8	S03003	表土 (S051003遺上)	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	黄/0	磁器型
1351	026-08 5次	陶磁	山手磁	J-B8	S03003	S051003	—	—	6.8	底面 3/12	外：ロクロナデ、赤切肌 内：ロクロナデ	黄/0	磁器型底面
1352	094-04 5次	陶磁	皿	J-S19	S03003	S03003	11.3	1.8	6.0	底面 9/12	外：ロクロナデ、赤切肌、胎線 内：ロクロナデ、ナデ、胎線	黄：5Y7/6 黒：10YR/3	陶片・表裏
1353	027-03 5次	陶磁	碗	J-B8	S03003	表土 (S051003遺上)	—	—	4.0	底面 12/12	外：ロクロナデ、胎線 内：ロクロナデ	黄：7.5YR/2 黒：10YR/3	陶片・表裏
1354	037-02 3次	陶磁	磁鉢	—	S03003	S03003	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、底面	10YR/4 7.5YR7/4	陶片
1355	034-01 3次	陶磁	磁鉢	J-S19	S03003	S03003	—	11.0	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、底面	7.5YR5/3	陶片
1356	058-05 3次	陶磁	皿	—	S03003	S03005	13.9	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	5YR4/1	陶片
1357	038-02 3次	陶磁	皿	—	S03003	S03003	—	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	10YR/4	陶片
1358	053-06 3次	土師器	皿	J-S13	S03004	S03002 2層	6.8	1.6	5.0	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、赤切肌 内：ロクロナデ	10YR/3	ロクロ土師器
1359	092-04 3次	土師器	皿	J-T18	S03004	S03004	12.0	—	—	口縁部 4/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR6/6	
1360	001-02 5次	土師器	皿	—	S03004	S051001 上層	6.5	1.4	—	口縁部 2/12	外：ナデ、ユビオサエ 内：ナデ	10YR/4	内伊勢系
1361	001-01 5次	土師器	皿	—	S03004	S051001 上層	7.0	1.2	—	口縁部 2/12	外：ナデ 内：ナデ	10YR/4	内伊勢系
1362	092-01 3次	土師器	鍋	J-T18	S03004	S03004	18.4	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハクメ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	10YR/4	内伊勢系 外底保存層
1363	090-06 3次	土師器	鍋	J-S19	S03004	S03004	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR/4	内伊勢系
1364	091-04 3次	土師器	鍋	J-T19	S03004	S03004	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	10YR/4	内伊勢系
1365	093-01 3次	土師器	鍋	J-T18	S03004	S03004	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ハクメ 内：ヨコナデ、工具ナデ	2.5YR/4	内伊勢系 外底保存層
1366	093-03 3次	土師器	鍋	J-T19	S03004	S03004	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ハクメ 内：ヨコナデ、工具ナデ?	10YR/4	内伊勢系
1367	013-03 5次	土師器	鍋	J-S6	S03004	S051001 表層下層	24.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ	10YR/3	内伊勢系 外底保存層
1368	001-03 5次	土師器	鍋	—	S03004	S051001 上層	25.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ハクメ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR/3	内伊勢系 外底保存層
1369	013-02 5次	土師器	鍋	J-S6	S03004	S051001 表層下層	26.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ	7.5YR/3	内伊勢系 外底保存層
1370	001-04 5次	土師器	鍋	J-S6	S03004	S051001 表層上層	28.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	10YR/3	内伊勢系 外底保存層
1371	013-01 5次	土師器	鍋	J-S6	S03004	S051001 表層下層	28.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ	10YR/3	内伊勢系 外底保存層
1372	055-01 3次	土師器	鍋	J-T12	S03004	S03002 2層	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ハクメ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR/3	内伊勢系 外底保存層
1373	090-02 3次	土師器	鍋	J-T19	S03004	S03004	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ナデ、工具ナデ 内：ヨコナデ	7.5YR/4	内伊勢系 外底保存層
1374	090-03 3次	土師器	鍋	J-T19	S03004	S03004	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ナデ、ハクメ 内：ヨコナデ	10YR/4	内伊勢系
1375	090-05 3次	土師器	鍋	J-T19	S03004	S03004	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ナデ、ハクメ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、工具ナデ	10YR/4	内伊勢系 外底保存層
1376	091-05 3次	土師器	鍋	J-T19	S03004	S03004	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ	10YR/4	内伊勢系 外底保存層
1377	092-02 3次	土師器	鍋	J-T19	S03004	S03004	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ハクメ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	2.5YR/4	内伊勢系 外底保存層

第IV -35 表 遺物観察表 35

報告 No.	実施 No.	種別	路線	グリッド	報告遺構 位置	調査時 遺構名	口径 (cm)	最高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調査・施工・施設等	色調	特記事項
1378	093-02 5次	土師器	横	J-T18	5035004	5035004	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナデ、ハウメ 内:ヨコナデ、ナデ?	10YR8/3	陶器類 外底残存
1379	095-01 5次	土師器	横	1区 1・2・ 4・5	5035004	5070004	26.6	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナデ、ハウメ 内:ヨコナデ、工員ナデ	7.5YR8/6	陶器類 外底残存
1380	094-01 5次	土師器	横	J-S13	5035004	5036002 2層	35.2	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナデ、ナデ、ケズリ 内:ヨコナデ、ケズリ	7.5YR8/3	陶器類 外底残存
1381	027-03 4次	土師器	横	J-R5	5035004	5044021 下層	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナデ、ハウメ 内:ヨコナデ、ナデ	7.5YR8/3	陶器類 外底残存
1382	026-04 5次	土師器	横	J-S5	5035004	5044021 上層	20.3	—	—	口縁部 2/12	外:ヨコナデ、タタキ 内:ヨコナデ、工員ナデ	7.5YR8/3 5YR8/3	陶器類 外底残存
1383	026-05 4次	土師器	横	J-S5	5035004	5044021 上層	23.0	—	—	口縁部 2/12	外:ヨコナデ、タタキ 内:ヨコナデ、工員ナデ	7.5YR7/4 5YR7/4	陶器類 外底残存
1384	013-04 5次	土師器	横	J-S6	5035004	5051001 下層	15.4	—	—	口縁部 2/12	外:ヨコナデ、平行タタキ 内:ヨコナデ、工員ナデ	7.5YR5/3	陶器類 外底残存
1385	002-03 5次	土師器	横	J-S6	5035004	5051001 新土上層	20.5	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナデ、ナデ、平行タタキ 内:ヨコナデ、ナデ	7.5YR7/6	陶器類 外底残存
1386	004-01 7次	土師器	横	1区 1・2・ 4・5	5035004	5070004	27.8	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナデ、ナデ、格子タタキ 内:ヨコナデ、工員ナデ	7.5YR7/6	陶器類 外底残存
1387	004-02 7次	土師器	横	1区 1・2・ 4・5	5035004	5070004	18.0	—	—	口縁部 3/12	外:ヨコナデ、ナデ、平行タタキ 内:ヨコナデ、工員ナデ	2.5YR5/3	陶器類
1388	005-02 7次	土師器	横	1区5	5035004	5070004	20.8	—	—	口縁部 3/12	外:ヨコナデ、ナデ、格子タタキ 内:ヨコナデ、工員ナデ	5YR7/6	陶器類 外底残存
1389	004-03 5次	土師器	横	1区 1・2・ 4・5	5035004	5070004	20.8	—	—	口縁部 2/12	外:ヨコナデ、ナデ、平行タタキ 内:ヨコナデ、工員ナデ	5YR8/3	陶器類 外底残存
1390	044-03 5次	土師器	横	J-T19	5035004	5035004	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	5YR7/6	陶器類 外底残存
1391	001-05 5次	土師器	横	J-S7	5035004	5051001 上層	19.8	—	—	口縁部 2/12	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ、工員ナデ	7.5YR5/4	大塚・新石系 外底残存
1392	018-01 5次	土師器	横	J-S7	5035004	5051001 上層	21.6	—	—	口縁部 9/12	外:ヨコナデ、ナデ、粘土網模合模 内:ヨコナデ、工員ナデ、ナデ	5YR5/4	大塚・新石系 外底残存
1393	002-02 5次	土師器	横	J-S7	5035004	5051001 上層	23.8	—	—	口縁部 2/12	外:ヨコナデ、工員ナデ、ナデ 内:ヨコナデ、工員ナデ	7.5YR7/4	大塚・新石系 外底残存
1394	044-01 5次	土師器	横	J-T19	5035004	5035004	24.4	—	—	口縁部 2/12	外:ヨコナデ、ナデ? 内:ヨコナデ	5YR7/6	大塚・新石系 外底残存
1395	058-04 3次	土師器	横	J-S11	5035004	5036002 1層	25.2	—	—	口縁部 2/12	外:ヨコナデ、ナデ 内:ヨコナデ、工員ナデ	5YR8/6	大塚・新石系 外底残存
1396	051-01 3次	土師器	横	J-S11	5035004	5036002 1層	28.0	—	—	口縁部 2/12	外:ヨコナデ、オサエ 内:ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ	5YR8/6	大塚・新石系 外底残存
1397	002-01 5次	土師器	横	—	5035004	5051001 上層	26.4	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナデ、工員ナデ、粘土網模合模 内:ヨコナデ	7.5YR8/6	大塚・新石系 外底残存
1398	025-01 4次	土師器	横	—	5035004	5044021 上層	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナデ、ナデ、ハウメ? 内:ヨコナデ、ナデ	7.5YR5/4	大塚・新石系 外底残存
1399	027-01 4次	土師器	横	J-S5	5035004	5044021 下層	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナデ、ナデ? 内:ヨコナデ、工員ナデ	5YR8/6	大塚・新石系 外底残存
1400	001-04 5次	土師器	横	—	5035004	5051001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナデ、ナデ 内:ヨコナデ	10YR8/4	大塚・新石系 外底残存
1401	001-07 5次	土師器	横	J-S6	5035004	5051001 新土上層	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ、工員ナデ	7.5YR5/3	大塚・新石系 外底残存
1402	002-05 5次	土師器	横	J-S8	5035004	5051001 新土上層	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ?	10YR7/4	外底残存
1403	014-02 5次	土師器	横	—	5035004	5051001 1層(新土上層)	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナデ 内:厚粘土より調査不明	10YR7/3	
1404	090-01 3次	土師器	横	J-T18	5035004	5035004	11.8	—	—	口縁部 3/12	外:ヨコナデ、ハウメ 内:ヨコナデ、ナデ	10YR8/3	陶器類
1405	002-04 5次	瓦甕 土師	横	—	5035004	5051001 西側大トレ ンチ 上層	21.8	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ、ハウメ	10Y5/1	外底残存
1406	110-05 3次	灰被 陶器	横	J-S11	5035004	5036002 1層	—	—	7.0	底面 2/12	外:ロクロナデ、ナデ? 内:ロクロナデ	2.5YR/1	
1407	105-08 3次	灰被 陶器	横	J-S15	5035004	5036002 1層	—	—	9.2	底面 3/12	外:ロクロナデ、赤切焼 内:ロクロナデ	2.5YR/2	
1408	051-01 4次	陶器	山手線	J-R5	5035004	5044021 上層	15.5	—	—	口縁部 1/12	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	2.5Y7/2	灰被型
1409	003-01 5次	陶器	山手線	J-S8	5035004	5051001 アゼ上層	—	—	—	口縁部 小片	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	2.5YR/1	灰被型
1410	047-06 4次	陶器	山手線	J-S4	5035004	5044021 アゼ上層	—	—	5.0	底面 5/12	外:ロクロナデ、赤切焼、網模 内:ロクロナデ	4YR/8	灰被型
1411	012-02 5次	陶器	山手線	J-S8	5035004	5051001 アゼ上層	—	—	5.0	底面 11/12	外:ロクロナデ、赤切焼 内:ロクロナデ	4YR/8	灰被型
1412	105-06 5次	陶器	山手線	J-T13	5035004	5036002 1層	—	—	5.6	底面 2/12	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	2.5Y7/1	灰被型
1413	049-05 4次	陶器	山手線	J-R4	5035004	5044021 下層	—	—	5.8	底面 4/12	外:ロクロナデ、ナデ 内:ロクロナデ	2.5YR/1	灰被型
1414	003-02 5次	陶器	山手線	—	5035004	5051001 上層	—	—	6.0	底面 3/12	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	2.5YR/2	灰被型
1415	003-04 5次	陶器	山手線	—	5035004	5051001 上層	—	—	6.0	底面 4/12	外:ロクロナデ、赤切焼 内:ロクロナデ	2.5Y7/2	灰被型
1416	104-07 5次	陶器	山手線	J-S14	5035004	5036002 2/12	—	—	6.1	底面 2/12	外:ロクロナデ、赤切焼、網模 内:ロクロナデ	10YR7/1	灰被型
1417	013-05 5次	陶器	山手線	J-S6	5035004	5051001 下層	—	—	6.2	底面 4/12	外:ロクロナデ、ヨコナデ、赤切焼 内:ロクロナデ	2.5YR/2	灰被型

第IV-36表 遺物観察表 36

報告 №	実施 期	種別	産地	グリッド	報告産地 層位	調査時 産地名	口徑 (cm)	容高 (cm)	産地 (cm)	残存度	調査・施設・特徴等	色調	特記事項
1418	014-03 5次	陶磁	山形県	—	S035004	S036021 下層(東トレン チ)	—	—	6.4	底面 8/12	外:ロクロナデ、赤切櫃、精製櫃 内:ロクロナデ	黒/赤	陶磁型
1419	051-05 5次	陶磁	山形県	J-T13	S035004	S036002 2層	—	—	6.5	底面 5/12	外:ロクロナデ、赤切櫃 内:ロクロナデ	2.5Y7/1	産地調査品 内山産品調査品
1420	079-03 5次	陶磁	山形県	J-T18・ 19	S035004	S035004	—	—	6.6	底面 4/12	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	2.5Y7/2	陶磁型
1421	051-07 5次	陶磁	山形県	J-S4	S035004	S044021 上層	—	—	6.6	底面 4/12	外:ロクロナデ、赤切櫃、精製櫃 内:ロクロナデ	10Y8/1	陶磁型
1422	014-05 5次	陶磁	山形県	—	S035004	S051001 下層(東トレン チ)	—	—	6.6	底面 3/12	外:ロクロナデ、赤切櫃 内:ロクロナデ	黒/赤	産地調査品
1423	014-07 5次	陶磁	山形県	—	S035004	S051001 西側大トレン チ	—	—	6.6	底面 4/12	外:ロクロナデ、赤切櫃 内:ロクロナデ	2.5Y7/2	産地調査品
1424	053-02 3次	陶磁	山形県	J-S13	S035004	S036002 2層	—	—	6.7	底面 12/12	外:ロクロナデ、赤切櫃 内:ロクロナデ	2.5Y7/1	産地調査品
1425	053-03 3次	陶磁	山形県	J-S15	S035004	S036002 2層	—	—	6.7	底面 10/12	外:ロクロナデ、赤切櫃 内:ロクロナデ	2.5Y7/2	産地調査品
1426	052-06 4次	陶磁	山形県	J-R5	S035004	S044021 最下層	—	—	6.7	底面 1/12	外:ロクロナデ、赤切櫃 内:ロクロナデ	2.5Y8/2	産地調査品
1427	003-05 5次	陶磁	山形県	J-S6	S035004	S051001 東側上層	—	—	6.7	底面 4/12	外:ロクロナデ、赤切櫃、精製櫃 内:ロクロナデ	2.5Y7/1	産地調査品
1428	104-04 3次	陶磁	山形県	J-T12	S035004	S036002 1層	—	—	6.8	底面 3/12	外:ロクロナデ、ナデ 内:ロクロナデ	2.5Y7/2	産地調査品 外山産品調査品
1429	050-04 4次	陶磁	山形県	J-R4	S035004	S044021 トレンチ 上層	—	—	6.8	底面 3/12	外:ロクロナデ、赤切櫃 内:ロクロナデ	2.5Y7/1	陶磁型
1430	051-06 4次	陶磁	山形県	J-S5	S035004	S044021 下層	—	—	6.8	底面 4/12	外:ロクロナデ、赤切櫃、精製櫃 内:ロクロナデ	2.5Y7/1	陶磁型
1431	003-03 5次	陶磁	山形県	—	S035004	S051001 上層	—	—	6.8	底面 3/12	外:ロクロナデ、赤切櫃 内:ロクロナデ	2.5Y7/1	陶磁型 内山産品調査品
1432	003-07 5次	陶磁	山形県	—	S035004	奥土 (S051001)	—	—	6.8	底面 3/12	外:ロクロナデ、赤切櫃、精製櫃 内:ロクロナデ	2.5Y7/2	産地調査品
1433	005-01 5次	陶磁	山形県	—	S035004	S051001 上層	—	—	6.8	底面 3/12	外:ロクロナデ、赤切櫃 内:ロクロナデ	2.5Y8/1	産地調査品
1434	005-06 5次	陶磁	山形県	J-S7	S035004	S051001 上層	—	—	6.4	底面 4/12	外:ロクロナデ、赤切櫃、精製櫃 内:ロクロナデ	黒/赤	産地調査品
1435	014-04 5次	陶磁	山形県	—	S035004	S051001 下層(東トレン チ)	—	—	6.8	底面 3/12	外:ロクロナデ、赤切櫃 内:ロクロナデ	5Y7/1	産地調査品
1436	041-04 3次	陶磁	山形県	J-T19	S035004	S035004	—	—	6.9	底面 12/12	外:ロクロナデ、赤切櫃 内:ロクロナデ、ナデ	2.5Y7/2	産地調査品
1437	106-03 3次	陶磁	山形県	J-S15	S035004	S036002 2層	—	—	6.9	底面 2/12	外:ロクロナデ、赤切櫃、精製櫃 内:ロクロナデ	2.5Y7/2	陶磁型
1438	040-04 3次	陶磁	山形県	J-T18	S035004	S035004	—	—	7.0	底面 5/12	外:ロクロナデ、赤切櫃、精製櫃 内:ロクロナデ	5Y7/1	陶磁型
1439	102-08 3次	陶磁	山形県	J-T18・ 19	S035004	S035004	—	—	7.0	底面 2/12	外:ロクロナデ、ケズリ、精製櫃 内:ロクロナデ	5Y8/1	陶磁型
1440	103-06 3次	陶磁	山形県	J-T18・ 19	S035004	S035004	—	—	7.0	底面 4/12	外:ロクロナデ、赤切櫃 内:ロクロナデ	2.5Y8/2	陶磁型
1441	105-01 3次	陶磁	山形県	J-T12	S035004	S036002 2層	—	—	7.0	底面 7/12	外:ロクロナデ、赤切櫃、精製櫃 内:ロクロナデ	2.5Y7/2	陶磁型
1442	106-02 3次	陶磁	山形県	J-S15	S035004	S036002 2層	—	—	7.0	底面 3/12	外:ロクロナデ、赤切櫃 内:ロクロナデ	2.5Y7/3	産地調査品 外山産品調査品
1443	049-06 4次	陶磁	山形県	J-R4	S035004	S044021 下層	—	—	7.0	底面 5/12	外:ロクロナデ、精製櫃 内:ロクロナデ	2.5Y7/1	陶磁型
1444	049-07 4次	陶磁	山形県	J-S4	S035004	S044021 下層	—	—	7.0	底面 4/12	外:ロクロナデ、ナデ 内:ロクロナデ	NT/8	陶磁型
1445	050-03 4次	陶磁	山形県	J-S5	S035004	S044021 下層	—	—	7.0	底面 4/12	外:ロクロナデ、赤切櫃 内:ロクロナデ	2.5Y7/2	陶磁型
1446	051-04 4次	陶磁	山形県	J-S4	S035004	S044021 上層	—	—	7.0	底面 7/12	外:ロクロナデ、赤切櫃、精製櫃 内:ロクロナデ	2.5Y7/1	陶磁型
1447	051-08 4次	陶磁	山形県	—	S035004	S044021 上層	—	—	7.0	底面 10/12	外:ロクロナデ、赤切櫃 内:ロクロナデ	2.5Y7/2	陶磁型
1448	003-06 5次	陶磁	山形県	J-S8	S035004	S051001 アゼ上層	—	—	7.0	底面 2/12	外:ロクロナデ、ナデ、赤切櫃 内:ロクロナデ	2.5Y7/2	陶磁型
1449	040-03 3次	陶磁	山形県	J-T18	S035004	S035004	—	—	7.2	底面 4/12	外:ロクロナデ、赤切櫃 内:ロクロナデ	5Y6/1	産地調査品
1450	106-04 3次	陶磁	山形県	J-T18・ 19	S035004	S035004	—	—	7.2	底面 4/12	外:ロクロナデ、赤切櫃 内:ロクロナデ	2.5Y7/1	陶磁型
1451	110-06 3次	陶磁	山形県	J-S12	S035004	S036002 1層	—	—	7.2	底面 3/12	外:ロクロナデ、赤切櫃、精製櫃 内:ロクロナデ	2.5Y7/1	産地調査品
1452	049-04 4次	陶磁	山形県	J-R4	S035004	S044021 下層	—	—	7.2	底面 10/12	外:ロクロナデ、ナデ 内:ロクロナデ	2.5Y7/2	産地調査品
1453	051-05 4次	陶磁	山形県	J-S5	S035004	S044021 下層	—	—	7.4	底面 2/12	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	2.5Y7/2	陶磁型
1454	013-06 5次	陶磁	山形県	J-S7	S035004	S051001 下層	—	—	7.4	底面 2/12	外:ロクロナデ、赤切櫃 内:ロクロナデ	2.5Y8/2	陶磁型
1455	041-02 3次	陶磁	山形県	J-T19	S035004	S035004	—	—	7.6	底面 3/12	外:ロクロナデ、赤切櫃 内:ロクロナデ	2.5Y7/2	陶磁型
1456	053-04 3次	陶磁	山形県	J-T12	S035004	S036002 2層	—	—	7.6	底面 5/12	外:ロクロナデ、赤切櫃 内:ロクロナデ	10Y8/2	産地調査品 内山産品調査品
1457	103-04 3次	陶磁	山形県	J-T18・ 19	S035004	S035004	—	—	7.6	底面 1/12	外:ロクロナデ、ナデ 内:ロクロナデ	NT/8	陶磁型

第IV-37表 遺物観察表 37

報告 No.	実施 No.	建別	番地	グリッド	報告遺構 部位	調査時 遺構名	口径 (cm)	最高 (cm)	底面 (cm)	残存度	調査・施工・発掘等	色調	特記事項
1458	104-05 3次	海部	山手線	J-T12	5035004	5036002 1層	—	—	7.6	底部 2/12	外：ロコナデ、赤切 内：ロコナデ	2.516/2	遺失消型
1459	105-04 3次	海部	山手線	J-S13	5035004	5036002 2層	—	—	7.6	底部 4/12	外：ロコナデ、赤切 内：ロコナデ	2.516/2	遺失消型
1460	105-07 3次	海部	山手線	J-S14	5035004	5036002 2層	—	—	7.6	底部 5/12	外：ロコナデ、赤切、縦筋 内：ロコナデ	2.517/3	尾型
1461	041-05 3次	海部	山手線	J-T18	5035004	5035004	—	—	7.8	底部 10/12	外：ロコナデ、ナデ、縦筋 内：ロコナデ、ナデ	2.517/2	遺失消型
1462	103-02 3次	海部	山手線	J-T18+ 19	5035004	5035004	—	—	8.4	底部 2/12	外：ロコナデ 内：厚板により調査不能	尾/0	尾型
1463	014-06 3次	海部	山手線	—	5035004	5051001 の掘込トレン チ	—	—	8.4	底部 3/12	外：ロコナデ 内：ロコナデ	2.516/1	尾型
1464	102-07 3次	海部	山手線	J-T18+ 19	5035004	5035004	—	—	8.5	底部 2/12	外：ロコナデ 内：ロコナデ	尾/0	遺失消型
1465	106-01 3次	海部	山手線	J-S15	5035004	5036002 2層	—	—	9.0	底部 4/12	外：ロコナデ、赤切 内：ロコナデ	2.517/2	尾型
1466	004-04 3次	海部	山手線	1B5	5035004	5070004	—	—	9.0	底部 3/12	外：ロコナデ、赤切 内：ロコナデ	10102/2	尾型
1467	005-02 3次	海部	山手	—	5035004	5051001 上層	9.2	—	—	口縁部 1/12	外：ロコナデ 内：ロコナデ	尾/0	遺失消型
1468	014-08 3次	海部	山手	—	5035004	5051001 の掘込トレン チ	9.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロコナデ 内：ロコナデ	2.517/2	尾型
1469	052-01 4次	海部	山手	J-S5	5035004	5044021 下層	—	—	3.5	底部 12/12	外：ロコナデ、赤切 内：ロコナデ	2.517/1	遺失消型
1470	103-05 3次	海部	山手	J-T18	5035004	5035004	—	—	4.0	底部 4/12	外：ロコナデ、赤切 内：ロコナデ	2.518/2	遺失消型
1471	104-03 3次	海部	山手	J-S11	5035004	5036002 2層	—	—	4.0	底部 6/12	外：ロコナデ、赤切 内：ロコナデ	2.518/1	遺失消型
1472	041-06 3次	海部	山手	—	5035004	5035004	—	—	4.5	底部 7/12	外：ロコナデ、赤切 内：ロコナデ	2.517/2	遺失消型
1473	041-03 3次	海部	山手	J-T19	5035004	5035004	—	—	4.6	底部 6/12	外：ロコナデ、赤切 内：ロコナデ	2.517/2	尾型
1474	049-01 4次	海部	磯	J-R4	5035004	5044021 上層	17.4	6.5	4.0	口縁部 3/12	外：ロコナデ、ロコナデ、鉄筋 内：ロコナデ、鉄筋	表：10102/2 裏：516/4	溝戸・実測
1475	047-05 3次	海部	磯	1-R4	5035004	5044021 トレンチ 上層	7.8	4.5	3.3	底部 12/12	外：ロコナデ、ロコナデ、鉄筋 内：ロコナデ、鉄筋	表：10102/3 裏：2.518/3	溝戸・実測
1476	000-01 3次	海部	磯	J-S6	5035004	5051001 掘込上層	11.6	—	—	口縁部 6/12	外：ロコナデ？、ロコナデ、鉄筋 内：ロコナデ、鉄筋	表：10102/4 裏：516/2、 5102/1	溝戸・実測
1477	000-03 3次	海部	磯	J-S7	5035004	5051001 上層	11.2	—	—	口縁部 3/12	外：ロコナデ、ロコナデ、鉄筋 内：ロコナデ、鉄筋	表：10102/3 裏：5.518/2	溝戸・実測
1478	000-07 3次	海部	磯	J-S7	5035004	5051001 上層・下層	9.2	—	—	口縁部 9/12	外：ロコナデ、ロコナデ、鉄筋 内：ロコナデ、鉄筋	表：10102/3 裏：2.518/3	溝戸・実測
1479	017-01 7次	海部	磯	1B5	5035004	5070004 付添上層	—	—	2.8	底部 8/12	外：ロコナデ、ロコナデ、鉄筋 内：ロコナデ、鉄筋	表：5.518/3 裏：7.507/1	底部実測
1480	104-06 3次	海部	磯	J-T12	5035004	5036002 1層	—	—	3.7	底部 11/12	外：ロコナデ 内：ロコナデ、鉄筋	表：10102/2 裏：10105/6	溝戸・実測
1481	000-04 3次	海部	磯	J-S7	5035004	5051001 上層	—	—	4.4	底部 6/12	外：ロコナデ、ロコナデ、鉄筋 内：ロコナデ、鉄筋	表：516/4 裏：5.518/2、 10102/3	肥前系
1482	000-05 3次	海部	磯	J-S7	5035004	5051001 5051002	—	—	4.8	底部 3/12	外：ロコナデ？、ロコナデ、鉄筋 内：ロコナデ、鉄筋	表：10102/2 裏：2.518/1	肥前系、上層
1483	040-01 4次	海部	天目線	J-R4	5035004	5044021	10.8	—	—	口縁部 2/12	外：ロコナデ、ロコナデ、鉄筋 内：ロコナデ、鉄筋	表：2.518/2 裏：2.518/4	溝戸・実測
1484	007-06 3次	海部	天目線	J-S6	5035004	5051001 掘込上層	10.8	—	—	口縁部 5/12	外：ロコナデ、ロコナデ、鉄筋 内：ロコナデ、鉄筋	表：10102/3 裏：5.518/2	溝戸・実測
1485	077-03 3次	海部	天目線	J-S15	5035004	5036002 2層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロコナデ、ロコナデ、鉄筋 内：ロコナデ、鉄筋	表：516/4、T1、 T300/3	溝戸・実測
1486	007-04 3次	海部	磯	—	5035004	5051001 上層	—	—	4.9	底部 12/12	外：ロコナデ、ロコナデ、鉄筋、鉄筋 内：ロコナデ、鉄筋	表：10102/1 裏：2.518/2	肥前系
1487	047-03 4次	海部	磯	J-S5	5035004	5044021 上層	—	—	4.2	底部 11/12	外：ロコナデ、ロコナデ、鉄筋 内：ロコナデ、鉄筋	表：7.5102/4 裏：5.518/2	肥前系
1488	047-04 4次	海部	磯	1-R4	5035004	5044021 トレンチ 上層	—	—	4.6	底部 12/12	外：ロコナデ、ロコナデ、鉄筋 内：ロコナデ、鉄筋	表：5102/4 裏：5.507/1	肥前系
1489	051-02 4次	海部	磯	J-S4	5035004	5044021 上層	—	—	4.3	底部 10/12	外：ロコナデ、鉄筋 内：ロコナデ、鉄筋	表：2.517/1 裏：5.518/3	肥前系
1490	050-01 3次	海部	山	J-S5	5035004	5044021 下層	21.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロコナデ 内：ロコナデ	10102/3	溝戸・実測
1491	044-03 3次	海部	山	J-T18	5035004	5035004	26.4	—	—	口縁部 1/12	外：ロコナデ、鉄筋 内：ロコナデ、鉄筋	表：2.517/2 裏：517/4	溝戸・実測
1492	045-03 3次	海部	山	J-T18	5035004	5035004	—	—	4.6	底部 6/12	外：ロコナデ、赤切、鉄筋 内：ロコナデ、鉄筋	表：2.517/3 裏：5.516/2	溝戸・実測
1493	040-01 3次	海部	山	J-T19	5035004	5035004	11.5	3.2	5.9	底部 10/12	外：ロコナデ、ロコナデ、鉄筋 内：ロコナデ、鉄筋	表：2.518/1 裏：10102/2	溝戸・実測 外周部コンクリート
1494	049-02 4次	海部	山	J-R5	5035004	5044021 上層	13.0	2.5	7.6	底部 8/12	外：ロコナデ、ロコナデ、鉄筋 内：ロコナデ、鉄筋	表：尾/0 裏：5.518/2	溝戸・実測 内周部コンクリート
1495	050-05 4次	海部	山	J-R4	5035004	5044021 トレンチ 上層	14.0	3.4	7.7	底部 11/12	外：ロコナデ、ロコナデ、鉄筋、鉄筋 内：ロコナデ、鉄筋	表：2.518/2 裏：2.518/2	溝戸・実測
1496	049-03 4次	海部	山	J-S5	5035004	5044021 上層	12.0	2.8	6.5	底部 12/12	外：ロコナデ、ロコナデ、鉄筋 内：ロコナデ、鉄筋	表：2.518/2 裏：2.507/1	溝戸・実測
1497	007-05 3次	海部	山	—	5035004	5051001 上層	12.8	3.8	6.4	口縁部 1/12	外：ロコナデ、ロコナデ、鉄筋 内：ロコナデ、鉄筋	表：2.518/1 裏：516/1	溝戸・実測 底部内面コンクリート

第IV-38表 遺物観察表 38

報告 番号	実施 年度	種別	組織	グッド	報告連携 機関	調査時 間	口徑 (cm)	高さ (cm)	口径 (cm)	保存 状況	調査・施工・修繕等	色調	特記事項
1496	007-03 5次	陶磁	皿	—	SD35004	SD51001 上層	13.3	3.5	6.7	底面 4/72	外：ロクロナデ、ロクロズリ、南ざ、熟焼 内：ロクロナデ、熟焼	黄：10YR5/3 黒：2.5YR/4	瀬戸・美濃
1499	055-02 3次	陶磁	皿	J-T13	SD35004	SD36002 1層	14.5	3.7	6.2	底面 3/72	外：ロクロナデ、ロクロズリ、熟焼 内：ロクロナデ、熟焼	黄：10YR5/3 黒：2.5YR/2	瀬戸・美濃
1500	006-02 7次	陶磁	皿	1区	SD35004	SD7000449近 最上層	19.6	—	—	口縁部 2/72	外：ロクロナデ、ロクロズリ、熟焼 内：ロクロナデ、熟焼	黄：10YR7/2 黒：1.5YR/1	瀬戸・美濃
1501	042-03 3次	陶磁	皿	J-T18	SD35004	SD35004	—	—	4.9	底面 4/72	外：ロクロナデ、赤切焼 内：ロクロナデ、熟焼	黄：2.5YR/3 黒：5YR/3	瀬戸・美濃
1502	046-02 3次	陶磁	皿	J-T19	SD35004	SD35004	—	—	5.5	底面 6/72	外：ロクロナデ、熟焼 内：ロクロナデ、熟焼	黄：2.5YR/3 黒：5YR/3	瀬戸・美濃 内装面ロクロナデ
1503	050-02 3次	陶磁	皿	J-T13	SD35004	SD36002 1層	—	—	8.3	底面 12/72	外：ロクロナデ、ロクロズリ、熟焼 内：ロクロナデ、熟焼	黄：10YR/1 黒：10YR/1	瀬戸・美濃
1504	009-01 5次	陶磁	皿	J-S7	SD35004	SD51001 上層	34.4	—	—	口縁部 1/72	外：ロクロナデ、赤切焼、熟焼 内：ロクロナデ、熟焼	黄：10YR/3 黒：10YR/1	肥前系
1505	047-02 4次	陶磁	皿	L-54	SD35004	SD44021 上層	—	—	3.0	底面 7/72	外：ロクロナデ、ロクロズリ、熟焼 内：ロクロナデ、熟焼	黄：10YR/0 黒：1.5YR/2	肥前系
1506	054-03 3次	陶磁	煎茶	J-T12	SD35004	SD36002 2層	13.2	—	—	口縁部 2/72	外：ロクロナデ、熟焼 内：ロクロナデ、煎茶、熟焼	黄：10YR5/3 黒：10YR/2	瀬戸・美濃
1507	105-02 3次	陶磁	煎茶	J-T12	SD35004	SD36002 2層	13.8	—	—	口縁部 1/72	外：ロクロナデ、熟焼 内：ロクロナデ、煎茶、熟焼	黄：10YR7/3 黒：5YR/3	瀬戸・美濃
1508	105-03 3次	陶磁	煎茶	J-S13	SD35004	SD36002 小片	—	—	—	底面 小片	外：ロクロナデ、赤切焼、熟焼 内：ロクロナデ、煎茶、熟焼	黄：10YR7/2 黒：2.5YR/1	瀬戸・美濃
1509	094-03 3次	陶磁	煎茶	J-S13	SD35004	SD36002 2層	—	—	9.0	底面 3/72	外：ロクロナデ、赤切焼、熟焼 内：ロクロナデ、煎茶、熟焼	黄：10YR5/3 黒：2.5YR/2	瀬戸・美濃
1510	050-02 4次	陶磁	鉢	J-S5	SD35004	SD44021 下層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	黄/0	瀬戸
1511	051-03 4次	陶磁	鉢	J-S5	SD35004	SD44021 下層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、ロクロズリ 内：ロクロナデ	2.5YR/1	瀬戸
1512	005-07 5次	陶磁	鉢	J-S7	SD35004	SD51001 小片	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	黄/0	瀬戸
1513	020-01 5次	陶磁	皿	J-S6	SD35004	SD51001 上層	23.8	5.7	10.0	底面 12/72	外：ロクロナデ、赤切焼、熟焼 内：ロクロナデ、熟焼	黄：10YR5/2 黒：2.5YR/2	内装面ロクロナデ
1514	005-05 5次	陶磁	鉢	J-S7	SD35004	SD51001 上層	—	—	11.2	底面 2/72	外：ロクロナデ、ロクロズリ、ナデ 内：ロクロナデ	黄/0	瀬戸
1515	012-01 5次	陶磁	鉢	J-S8	SD35004	SD51001 アゼ中層	—	—	13.4	底面 1/72	外：ロクロナデ、ナデ 内：ロクロナデ	黄/0	瀬戸
1516	040-01 7次	陶磁	片口鉢	—	SD35004	SD35004	28.0	11.7	10.0	口縁部 2/72	外：ロクロナデ、ケズリ 内：ロクロナデ	2.5YR/2	肥前
1517	044-02 3次	陶磁	鉢	J-T19	SD35004	SD35004	35.4	—	—	口縁部 2/72	外：ロクロナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ロクロナデ	5YR6/3	肥前
1518	008-06 5次	陶磁	片口鉢	J-S7	SD35004	SD51001 上層	17.0	—	—	口縁部 1/72	外：ロクロナデ、熟焼 内：ロクロナデ、熟焼	黄：2.5YR/1 黒：1.5YR/2、 2.5YR/2	瀬戸・美濃
1519	103-01 3次	陶磁	片口鉢	J-T18・ T9	SD35004	SD35004	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	黄/0	瀬戸
1520	040-02 3次	陶磁	片口鉢	J-T18	SD35004	SD35004	—	—	11.0	底面 5/72	外：ロクロナデ、ケズリ 内：ロクロナデ、ナデ	5YR/1	肥前
1521	075-02 3次	陶磁	片口鉢	J-T18・ T9	SD35004	SD35004	—	—	13.8	底面 2/72	外：ロクロナデ、ナデ、赤切焼 内：ロクロナデ	5YR/1	尾道型 内装面ロクロナデ
1522	025-04 4次	陶磁	覆鉢	—	SD35004	SD44021 上層 壁	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、黄白 内：ロクロナデ、黄白	5YR6/2	瀬戸
1523	054-02 3次	陶磁	覆鉢	J-S13	SD35004	SD36002 2層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、黄白	5YR/1	瀬戸
1524	014-01 5次	陶磁	覆鉢	J-S7	SD35004	SD51001 下層	34.0	—	—	口縁部 1/72	外：ロクロナデ、ユビオサエ 内：ロクロナデ、黄白	2.5YR5/2	瀬戸
1525	039-02 3次	陶磁	覆鉢	J-T19	SD35004	SD35004	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、黄白	5YR5/1	瀬戸
1526	097-02 3次	陶磁	覆鉢	J-T18	SD35004	SD35004	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、エナナデ 内：ロクロナデ、黄白	2.5YR4/2	瀬戸
1527	012-03 5次	陶磁	覆鉢	J-S8	SD35004	SD51001 アゼ中層	—	—	—	底面 小片	外：ロクロナデ、熟焼 内：ロクロナデ、黄白、熟焼	黄：5YR5/1 黒：2.5YR/2	瀬戸
1528	037-01 3次	陶磁	覆鉢	J-T18	SD35004	SD35004	25.4	11.6	12.3	口縁部 小片	外：ロクロナデ、黄白 内：ロクロナデ、黄白	2.5YR5/1	瀬戸
1529	038-01 3次	陶磁	覆鉢	J-T19	SD35004	SD35004	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、黄白	2.5YR7/6	瀬戸
1530	006-03 5次	陶磁	覆鉢	J-S7	SD35004	SD51001 上層	24.4	8.9	9.2	口縁部 1/72	外：ロクロナデ、ケズリ 内：ロクロナデ、黄白	10Y5/6	瀬戸
1531	006-02 5次	陶磁	覆鉢	J-S7	SD35004	SD51001 上層	29.4	—	—	口縁部 2/72	外：ロクロナデ、ロクロズリ、熟焼 内：ロクロナデ、黄白、熟焼	黄：2.5YR5/1 黒：10Y5/6	瀬戸
1532	006-01 5次	陶磁	覆鉢	J-S7	SD35004	SD51001 上層	34.6	—	—	口縁部 1/72	外：ロクロナデ、熟焼 内：ロクロナデ、黄白、熟焼	黄：2.5YR5/3 黒：10Y5/3	瀬戸
1533	004-03 5次	陶磁	覆鉢	—	SD35004	SD51001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、黄白	5YR7/6	瀬戸
1534	005-08 5次	陶磁	覆鉢	J-S7	SD35004	SD51001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、熟焼 内：ロクロナデ、黄白、熟焼	黄：黄/0 黒：2.5YR4/1	瀬戸
1535	036-02 3次	陶磁	覆鉢	J-T19	SD35004	SD35004	—	—	13.0	底面 2/72	外：ロクロナデ、ケズリ 内：ロクロナデ、黄白	5YR7/6	瀬戸
1536	051-02 3次	陶磁	覆鉢	J-S14	SD35004	SD36002 1層	—	—	12.6	底面 2/72	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、黄白	10Y6/6	瀬戸
1537	043-03 3次	陶磁	覆鉢	J-T19	SD35004	SD35004 1層	28.3	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、黄白	5YR4/3	瀬戸・朝石系
1538	005-04 5次	陶磁	覆鉢	—	SD35004	黄土 (SD51001)	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、熟焼 内：ロクロナデ、黄白、熟焼	黄：10Y5/6 黒：10Y5/4	瀬戸・朝石系

第IV -39 表 遺物観察表 39

報告 No.	実測 No.	建別	基礎	グリッド	報告遺構 部位	調査時 遺構名	口径 (cm)	最高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調査・施工・熟練等	色調	特記事項
1539	076-04 3次	陶磁	障子	1区	S035004	S070004付近 遺構上層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、工芸ナデ、煎焼 内：ロクロナデ、障子、煎焼	黄：108A/1 黄：2.5YR4/4	障・硝子系
1540	075-03 3次	陶磁	障子	—	S035004	S044021 上層 焼	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、障子	7.5B/2	障・硝子系
1541	079-01 3次	陶磁	障子	J-T18	S035004	S035004	29.6	10.0	9.8	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、赤切焼 内：ロクロナデ、障子	5YR4/4 7.5YR4/4	障戸・美濃
1542	074-01 3次	陶磁	障子	J-R5	S035004	S044021 上層	32.4	11.5	14.2	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、ナデ、ユビオサエ、ケズリ 内：ロクロナデ、障子	5YR7/6	
1543	084-01 5次	陶磁	障子	—	S035004	S051001 上層	32.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、工芸ナデ、煎焼 内：ロクロナデ、煎焼	黄：10YR8/2 黄：2.5YR6/6	障戸・美濃
1544	084-02 5次	陶磁	障子	—	S035004	S051001 上層	29.4	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ロクロナデリ、煎焼 内：ロクロナデ、障子、煎焼	黄：10YR6/2 黄：2.5YR4/4	障戸・美濃
1545	074-01 3次	陶磁	障子	J-T12	S035004	S034002 上層	33.6	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、煎焼 内：ロクロナデ、障子、煎焼	黄：10YR8/2 黄：5YR4/2	障戸・美濃
1546	074-04 3次	陶磁	障子	J-T12	S035004	S034002 2層	—	—	9.5	底部 3/12	外：ロクロナデ、赤切焼、煎焼 内：ロクロナデ、障子、煎焼	黄：10YR8/2 黄：5YR4/1	障戸・美濃
1547	084-04 5次	陶磁	障子	—	S035004	S051001 小片	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、煎焼 内：ロクロナデ、煎焼	黄：2.5YR2 黄：2.5YR4/3	障戸・美濃
1548	071-03 3次	陶磁	障子	J-T13	S035004	S034002 1層	—	—	12.0	底部 4/12	外：ロクロナデ、赤切焼 内：ロクロナデ、障子	10B5/2	障戸・美濃
1549	087-01 7次	陶磁	火鉢	1区	S035004	S070004 (西側)	—	—	—	口縁部 小片	外：ナデ 内：ナデ	2.5YR6/6	灰滑(赤物) 内面付付着
1550	086-02 5次	陶磁	花瓶	J-S6	S035004	S051001 煎焼上層	—	—	—	底部 12/12	外：ロクロナデ、煎焼 内：ロクロナデ	黄：10YR7/2 黄：5YR4/3	障戸・美濃
1551	087-01 5次	陶磁	香または徳 利	—	S035004	S051001 上層	13.0	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、煎焼 内：ロクロナデ、煎焼	黄：5YR5/1 黄：5YR4/3	
1552	074-01 3次	陶磁	香または徳 利	J-T13	S035004	S034002 1層	16.0	—	—	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、ナデ、煎焼 内：ロクロナデ、ユビオサエ、ナデ、煎焼	黄：10B6/6 黄：2.5YR4/3	焼物？
1553	045-01 3次	陶磁	香または徳 利	—	S035004	S035004	18.2	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5YR/1	灰滑
1554	073-03 3次	陶磁	香または徳 利	J-T18	S035004	S035004	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5YR/1	灰滑
1555	072-03 3次	陶磁	香または徳 利	J-S15	S035004	S034002 2層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、ユビオサエ 内：ロクロナデ	10B/0	灰滑
1556	072-04 3次	陶磁	香または徳 利	J-T12	S035004	S034002 2層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	黄：2.5Y7/1 黄：5YR5/2	灰滑
1557	072-04 5次	陶磁	香または徳 利	—	S035004	S051001 西側トレン チ	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、煎焼 内：ロクロナデ、煎焼	黄：2.5YR5/8 黄：2.5YR5/3	灰滑
1558	085-03 5次	陶磁	香または徳 利	—	S035004	焼土 (S051001)	—	—	6.5	底部 6/12	外：ロクロナデ、ロクロナデリ、煎焼 内：ロクロナデ、煎焼	黄：2.5Y7/1 黄：2.5YR3/1	障戸・美濃？
1559	087-02 5次	陶磁	香または徳 利	—	S035004	焼土 (S051001)	—	—	10.8	底部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロナデリ、煎焼 内：ロクロナデ、煎焼	黄：2.5YR2 黄：5YR4/3	障戸・美濃？ 内面灰化跡
1560	073-02 4次	陶磁	香または徳 利	J-S4	S035004	S044021 下層	—	—	12.2	底部 6/12	外：ロクロナデ、煎焼 内：ロクロナデ、煎焼	黄：10B/0 黄：5YR3/2	
1561	086-01 7次	陶磁	皿	10B5	S035004	S070004	35.6	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、煎焼 内：ロクロナデ、煎焼	黄：2.5YR2/2 黄：5Y4/2	煎焼
1562	073-02 3次	陶磁	皿	J-T18	S035004	S035004	25.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、ナデ、工芸ナデ、ユビオサエ	2.5YR5/3	灰滑
1563	075-01 3次	陶磁	皿	J-T18	S035004	S035004	30.0	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	5YR4/1	灰滑
1564	072-01 3次	陶磁	皿	J-S15	S035004	S034002 2層	40.7	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、煎焼 内：ロクロナデ、工芸ナデ、煎焼	黄：2.5Y7/1 黄：2.5YR5/3	灰滑
1565	072-02 5次	陶磁	皿	J-S13	S035004	S034002 2層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、煎焼 内：ロクロナデ、煎焼	黄：2.5Y7/1 黄：2.5YR5/3	灰滑
1566	073-07 5次	陶磁	皿	J-S8	S035004	S051001 煎下層	—	—	12.0	底部 2/12	外：工芸ナデ、ユビオサエ、煎焼 内：工芸ナデ	黄：7.5YR7/3 黄：5YR5/3	灰滑
1567	041-01 3次	陶磁	皿	J-T19	S035004	S035004	—	—	13.4	底部 3/12	外：工芸ナデ、ユビオサエ 内：工芸ナデ、ロクロナデ、ユビオサエ	10YR7/3	灰滑
1568	053-01 3次	陶磁	加工工面 (山形側)	J-S13	S035004	S034002 上層	長径 7.4	短径 7.0	—	—	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	75.0 煎焼付打ち
1569	076-02 4次	磁器	碗	J-R4	S035004	S044021 トレンチ	7.3	4.0	3.1	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロナデリ、染付、煎焼 内：ロクロナデ、煎焼	黄：10B/0	肥前系
1570	075-05 5次	磁器	碗	J-S13	S035004	S034002 4/12	10.5	—	—	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、染付、煎焼 内：ロクロナデ、染付、煎焼	黄：10B/0	肥前系
1571	046-01 5次	磁器	碗	J-T19	S035004	S035004 1層	10.6	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、染付、煎焼 内：ロクロナデ、煎焼	黄：10B/0	肥前系
1572	070-01 5次	磁器	碗	—	S035004	焼土 (S051001)	—	—	3.2	底部 9/12	外：ロクロナデ、ロクロナデリ、染付、煎焼 内：ロクロナデ、染付、煎焼	黄：10B/0	肥前系
1573	070-02 5次	磁器	碗または瓶	J-S7	S035004	S051001 上層	—	—	4.1	底部 6/12	外：ロクロナデ、ロクロナデリ、染付、煎焼 内：ロクロナデ、煎焼	黄：10B/0	肥前系
1574	070-05 5次	磁器	小鉢	—	S035004	S051001 上層	7.2	—	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、染付、煎焼 内：ロクロナデ、煎焼	黄：10B/0	肥前系
1575	076-03 7次	磁器	皿	10B	S035004	S070004付近 遺構上層	13.5	3.8	7.8	底部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロナデリ、染付、煎焼 内：ロクロナデ、煎焼	黄：10B/0	肥前系
1576	070-04 5次	磁器	皿	—	S035004	焼土 (S051001)	14.2	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、染付、煎焼 内：ロクロナデ、染付、煎焼	黄：10B/0	肥前系
1577	070-03 5次	磁器	皿	—	S035004	焼土 (S051001)	19.0	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、煎焼 内：ロクロナデ、染付、煎焼	黄：10B/0	肥前系
1578	074-02 4次	磁器	皿	—	S035004	S044021 上層	18.8	4.8	10.0	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロナデリ、染付、煎焼 内：ロクロナデ、染付、煎焼	黄：10B/0	肥前系 コンニャク印刷
1579	089-02 5次	磁器	皿	J-S7	S035004	S051001 上層	24.6	4.9	8.4	底部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロナデリ、煎焼 内：ロクロナデ、煎焼	黄：10B/0	肥前系 肥前ノ目紋付

第IV-40表 遺物観察表 40

報告 番号	発掘 年度	種別	用途	グリッド	報告者 氏名	調査時 間	口徑 (cm)	底高 (cm)	底径 (cm)	構造	調査・施工・発掘等	色図	特記事項
1580	026-01 4次	白磁	陶	J-84	5035004	5048021 トレンチ 上層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、胎釉 内：ロクロナデ、胎釉	黄：518/1 黄：517/1	陶器片
1581	027-02 4次	白磁	陶	J-55	5035004	5048021 下層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、胎釉 内：ロクロナデ、胎釉	黄：109X/2 黄：518/1	陶器片
1582	045-04 3次	白磁	陶	—	5035004	5035004	—	—	4.6	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、胎釉 内：ロクロナデ、胎釉	黄：12.518/2 黄：518/1	—
1583	011-02 5次	青磁	陶	J-56	5035004	5051001 陶器上層	13.2	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、胎釉 内：ロクロナデ、胎釉	黄：86/0 黄：567/1	—
1584	105-05 3次	青磁	陶	J-513	5035004	5036002 2層	13.7	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、胎釉 内：ロクロナデ、胎釉	黄：516/1 黄：1.515/2	陶器片
1585	014-09 5次	青磁	陶	—	5035004	西側大トレンチ 5051001	13.8	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、胎釉 内：ロクロナデ、胎釉	黄：1018/1 黄：1.516/2	—
1586	042-02 3次	青磁	陶	J-T18	5035004	5035004	13.4	—	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、胎釉 内：ロクロナデ、胎釉	黄：517/1 黄：515/2	陶器片
1587	011-01 5次	青磁	陶	—	5035004	5051001 上層	14.0	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、胎釉 内：ロクロナデ、胎釉	黄：86/0 黄：1017/2	陶器片
1588	010-06 3次	青磁	陶	J-58	5035004	5051001 アゼ土層	14.4	7.0	5.8	底面 12/12	外：ロクロナデ、ロクロナデ、胎釉 内：ロクロナデ、胎釉	黄：86/0 黄：1017/2	陶器片
1589	055-04 3次	青磁	陶	J-513	5035004	5036002 2層	15.2	—	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、胎釉 内：ロクロナデ、胎釉	黄：12.517/1 黄：1.516/2	—
1590	099-03 3次	青磁	陶	J-12	5035004	5036002 2層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、胎釉 内：ロクロナデ、胎釉	黄：1018/1 黄：1.567/1	陶器片
1591	049-05 3次	青磁	陶	J-513	5035004	5036002 2層	—	—	4.6	底面 12/12	外：ロクロナデ、ロクロナデ、胎釉 内：ロクロナデ、胎釉	黄：518/1 黄：12.561/1	陶器片
1592	055-03 3次	青磁	陶	J-513	5035004	5036002 2層	—	—	5.0	底面 11/12	外：ロクロナデ、胎釉 内：ロクロナデ、胎釉	黄：1018/2 黄：516/1	陶器片
1593	026-03 4次	青磁	陶	J-54	5035004	5048021 上層	—	—	5.3	底面 12/12	外：ロクロナデ、ロクロナデ、胎釉 内：ロクロナデ、胎釉	黄：1.518/2 黄：1016/2	陶器片
1594	042-04 3次	青磁	陶	J-T19	5035004	5035004	—	—	5.6	底面 6/12	外：ロクロナデ、胎釉 内：ロクロナデ、胎釉	黄：12.516/2 黄：12.515/2	—
1595	042-01 3次	青磁	陶	J-T18	5035004	5035004	—	—	5.7	底面 12/12	外：ロクロナデ、ロクロナデ、胎釉 内：ロクロナデ、胎釉	黄：12.518/2 黄：1.515/2	陶器片
1596	042-06 3次	青磁	陶	—	5035004	5035004	—	—	5.8	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、胎釉 内：ロクロナデ、胎釉	黄：516/1 黄：12.515/2	陶器片
1597	042-05 3次	青磁	青砂	—	5035004	5035004	11.2	—	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、胎釉 内：ロクロナデ、胎釉	黄：8/0 黄：1.567/1	—
1598	045-05 3次	白磁	器	—	5035004	5035004	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、胎釉 内：ロクロナデ、胎釉	黄：1018/1 黄：1.516/2	—
1599	017-05 5次	青磁	器	J-84	5035004	5051001 5048021	—	—	—	底部 小片	外：ロクロナデ、胎釉 内：ロクロナデ、胎釉	黄：12.517/1 黄：12.561/1 515/1	陶器片 トレンチ上層
1600	023-01 4次	瓦	瓦	J-85	5035004	5048021 上層	幅 13.1	—	—	小片	凸：ナデ、面取り、工具ナデ 凹：ナデ、面取り、棒状圧痕	瓦/0	—
1601	094-04 3次	石製品	石鏡	J-T19	5035004	5035004	—	—	—	口縁部 小片	外：磨蝕、磨蝕痕 内：磨蝕痕	—	津石鏡 肥前西遊件 中層 二次加工物
1602	045-02 3次	石製品	砥石	J-T19	5035004	5035004	—	幅 4.2	厚さ 1.7	—	磨蝕	—	102.0g
1603	025-02 4次	石製品	砥石	—	5035004	5048021 上層 磨	長さ 14.7	幅 4.3	厚さ 1.2	—	磨蝕	—	149.1g
1604	011-03 5次	石製品	砥石	—	5035004	5051001 上層	—	幅 4.9	厚さ 0.8	—	磨蝕	—	30.9g
1605	011-04 5次	石製品	砥石	J-56	5035004	5051001 陶器上層	—	幅 3.4	厚さ 0.6	—	磨蝕	—	16.4g
1606	011-05 5次	石製品	砥石	—	5035004	5051001 上層	—	幅 4.8	厚さ 1.6	—	磨蝕	—	61.4g
1607	097-02 7次	石製品	磨石	1区 1・2・ 4・5	5035004	5070004	—	—	—	小片	上面：磨蝕 前面：加工か？	—	下口
1608	032-01 4次	石製品	円盤状製品	—	5035004	5048021 上層	長さ 5.6	短径 5.4	厚さ 0.7	—	端部打ち欠き、表面磨蝕	—	33.5g
1609	032-02 4次	石製品	円盤状製品	J-85	5035004	5048021 上層	長さ 5.6	短径 5.6	厚さ 1.1	—	端部打ち欠き、表面磨蝕	—	35.8g
1610	032-03 4次	石製品	円盤状製品	J-85	5035004	5048021 上層	長さ 5.2	短径 5.0	厚さ 1.3	—	端部打ち欠き、表面磨蝕	—	45.3g
1611	123-04 3次	鉄製品	鉄鏃	(L-511)	5035004	5036002 1層	—	幅 8.9	長さ 1.0	半欠	—	—	丸頭式
1612	053-02 4次	鉄製品	小丸	—	5035004	5051001 上層	—	幅 3.3	厚さ 0.2	一部欠	円孔三列	—	三ツ目丸
1613	124-03 3次	鉄製品	釘	J-513	5035004	5036002 1層	—	幅 8.6	厚さ 0.9	一部欠	—	—	—
1614	124-05 3次	鉄製品	鉄鏃？	J-513	5035004	5036002 1層	—	幅 4.4	長さ 9.5	小片	—	—	—
1615	117-07 3次	土師器	皿	J-014	5035007	5036008 上層	7.4	1.5	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、赤切堀 内：ロクロナデ	7.5187/4	大坂系 ロクロ土師器、内外 面二層器付着
1616	043-05 3次	土師器	鍋	J-017	5035007	5035007 2層	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10187/3	外周保行書
1617	059-02 3次	陶器	山形瓶	J-015	5035007	5036008 目録	15.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	瓦/0	瓦器型
1618	060-03 3次	陶器	山形瓶	J-015	5035007	5036008 目録	—	—	4.0	底面 4/12	外：ロクロナデ、赤切堀 内：ロクロナデ	瓦/0	瓦器型 底部外面に磨蝕
1619	047-04 3次	陶器	山形瓶	J-019	5035007	5035007	—	—	6.4	底面 2/12	外：ロクロナデ 内：磨蝕により表面不明	瓦/0	磨蝕面不明

第IV-41表 遺物観察表41

報告 No.	発掘 No.	種別	経緯	グリッド	報告遺構 部位	調査時 遺構名	口径 (cm)	最高 (cm)	底面 (cm)	残存度	調査・施工・熟練等	色調	特記事項
1620	059-01 3/12	陶器	山手線	J-U15	5035007	5036008	—	—	7.0	底部 3/12	外: ロクロナデ, ヨコナデ, 糸切縁 内: ロクロナデ	W7/0	遺失品型
1621	107-03 3/12	陶器	山手線	—	5035007	5036008	—	—	7.6	底部 3/12	外: ロクロナデ, ナデ, 糸切縁 内: ロクロナデ	W6/0	遺失品型
1622	043-04 3/12	陶器	山手線	J-U17	5035007	5035007 2層	—	—	7.8	口縁部 2/12	外: ロクロナデ, 糸切縁 内: ロクロナデ	2.5/17/3	遺失品型
1623	047-05 3/12	陶器	山手線	J-U18	5035007	5035007 2層	—	—	7.8	底部 1/12	外: ロクロナデ, 糸切縁 内: ロクロナデ	5/16/1	尾型型
1624	119-04 3/12	陶器	山手線	J-U18	5035007	5035007 2層	—	—	7.8	底部 2/12	外: ロクロナデ, 糸切縁 内: ロクロナデ	2.5/17/2	遺失品型
1625	107-04 3/12	陶器	山手線	J-U15	5035007	5036008 1層	—	—	3.2	底部 6/12	外: ロクロナデ, 糸切縁 内: ロクロナデ	W6/0	—
1626	059-03 3/12	陶器	天竺山線	J-U15	5035007	5036008 1層	12.4	6.8	4.6	底部 3/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 糸切縁 内: ロクロナデ, 糸切縁	W: 5/16/4 W: 5.5/12/1	瀬戸・美濃
1627	043-02 3/12	陶器	片口線	J-U18	5035007	5035007 2層	32.0	—	—	口縁部 1/12	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	2.5/17/1	—
1628	107-02 3/12	陶器	篠井	—	5035007	5036008	—	—	8.0	底部 1/12	外: ロクロナデ, 糸切縁, 糸切縁 内: ロクロナデ, 篠井	W: 10/16/2 W: 5.5/16/1	瀬戸・美濃
1629	043-01 3/12	陶器	天竺山線	J-U18	5035007	5035007 1層	16.4	—	—	口縁部 1/12	外: ロクロナデ, ナデ 内: ロクロナデ	7.5/16/2 5/16/3	—
1630	060-01 3/12	陶器	篠井	J-U15	5035007	5036008 1層	17.4	—	—	口縁部 1/12	外: ロクロナデ, ユビオサエ, ナデ 内: ロクロナデ	5/16/3 7.5/16/1	尾型
1631	060-02 3/12	陶器	篠井	J-U15	5035007	5036008 1層	—	—	—	口縁部 小片	外: ロクロナデ, ユビオサエ, 工員ナデ 内: ロクロナデ	1/16/4	尾型
1632	059-04 3/12	白磁	横濱線	J-U15	5035007	5036008 1層	—	—	—	口縁部 小片	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ, 糸切縁	W: W6/0 W: 5.5/17/2	—
1633	099-02 3/12	白磁	山手線	J-U17	5035007	5035007 1層	—	—	5.0	底部 2/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 糸切縁 内: ロクロナデ, 糸切縁	W: 10/16/2 W: 10/16/1	瀬戸系
1634	059-05 3/12	白磁	横濱線	J-U15	5035007	5036008 1層	—	—	5.8	底部 3/12	外: ロクロナデ, ナデ, 糸切縁 内: ロクロナデ, 糸切縁	W: W6/0 W: 5/16/1	—
1635	048-02 3/12	白磁	篠井	J-U17	5035007	5035007 1層	—	—	6.8	底部 3/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 糸切縁 内: ロクロナデ, 糸切縁	W: W6/0 W: W6/0	—
1636	059-06 3/12	瓦	野丸瓦	J-U15	5035007	5036008 1層	—	—	—	瓦蓋部 小片	外: ナデ 内: ナデ	W6/0 W5/0	尾文
1637	125-04 3/12	鉄製品	鉄	—	5035007	5036008	—	縦 3.3	厚さ 0.4	平文	—	—	片割のみ
1638	004-05 3/12	土師器	山手線	1B3	5036003	5070063	6.4	1.2	—	口縁部 4/12	外: ロクロナデ, 工員ナデ, 糸切縁 内: ロクロナデ	7.5/16/4	大形系 ロクロナデ系 内面線付系
1639	021-01 3/12	土師器	山手線	J-R8	5036003	5051005	23.0	—	—	口縁部 5/12	外: ヨコナデ, 工員ナデ, ナデ 内: ヨコナデ, 工員ナデ, ナデ	7.5/16/3	大形・野丸系 外表面線付系
1640	020-05 3/12	陶器	山手線	J-R8	5036003	5051005	16.0	—	—	口縁部 1/12	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	1/16/1	遺失品型
1641	023-03 3/12	陶器	山手線	J-R8	5036003	5051005	—	—	6.8	底部 1/12	外: ロクロナデ, 糸切縁 内: ロクロナデ	2.5/17/1	遺失品型
1642	056-04 3/12	陶器	山手線	J-T13	5036003	5036003	6.9	4.9	3.0	底部 12/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 糸切縁 内: ロクロナデ, 糸切縁	W: 2.5/16/1 W: 5/17/1	瀬戸・美濃
1643	020-04 3/12	陶器	山手線	J-R8	5036003	5051005 表土	13.0	—	—	口縁部 4/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 糸切縁 内: ロクロナデ, 糸切縁	W: 10/16/1 W: 10/16/1	瀬戸系 瀬戸系
1644	056-03 3/12	陶器	山手線	J-T13	5036003	5036003	—	—	7.6	底部 12/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 糸切縁 内: ロクロナデ, 糸切縁	W: 2.5/16/2 W: 5/17/2	瀬戸・美濃 内面線付系
1645	023-02 3/12	陶器	山手線	J-R8	5036003	5051005	—	—	11.5	底部 2/12	外: 工員ナデ, ロクロナデ 内: ロクロナデ	7.5/16/2	—
1646	057-02 3/12	陶器	篠井	L-R11	5036003	5036003	34.5	—	—	口縁部 1/12	外: ロクロナデ, ケリ 内: ロクロナデ, 篠井	2.5/14/2	瀬戸・美濃
1647	057-01 3/12	陶器	篠井	L-R11	5036003	5036003	38.0	—	—	口縁部 3/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ 内: ロクロナデ, 篠井	2.5/16/2 2.5/16/4	瀬戸・美濃
1648	056-02 3/12	陶器	篠井	J-T13	5036003	5036003	3.0	—	—	口縁部 12/12	外: ロクロナデ, 糸切縁 内: ロクロナデ, 糸切縁	W: 2.5/17/2 W: 7.5/16/2	瀬戸・美濃
1649	056-01 3/12	陶器	篠井	L-R11	5036003	5036003	7.4	5.1	4.4	底部 12/12	外: ロクロナデ, ロクロナデ, 糸切縁 内: ロクロナデ, 糸切縁	W: 7.5/16/1	瀬戸系
1650	058-02 3/12	土師器	山手線	L-R11	5036003	5036003	—	—	—	一部欠 内: ナデ, ユビオサエ	7.5/16/4	—	
1651	118-02 3/12	石製品	瀬戸	L-R11	5036003	5036003	横 28.0	—	—	小片	上面: 加工面	—	上白
1652	119-01 3/12	石製品	瀬戸	L-R11	5036003	5036003	横 36.0	—	—	小片	上面: 瀬戸	—	下白
1653	106-08 3/12	陶器	山手線	J-S12	5036006	5036006	—	—	6.2	底部 2/12	外: ロクロナデ, 糸切縁 内: ロクロナデ	2.5/17/2	—
1654	106-07 3/12	陶器	山手線	J-S12	5036006	5036006	—	—	6.3	底部 3/12	外: ロクロナデ, 糸切縁 内: ロクロナデ	2.5/17/2	遺失品型
1655	106-06 3/12	陶器	山手線	J-S12	5036006	5036006	—	—	7.0	底部 6/12	外: ロクロナデ, 糸切縁, 瀬戸 内: ロクロナデ	5/17/1	尾型型
1656	106-05 3/12	陶器	山手線	J-S11	5036006	5036006	—	—	7.4	底部 4/12	外: ロクロナデ, 糸切縁 内: ロクロナデ	2.5/16/2	尾型型
1657	123-08 3/12	陶製品	篠井	L-S12	5036006	5036006	横 2.3	—	縦 0.2	完全	—	—	瀬戸系
1658	061-03 3/12	土師器	山手線	J-T16	5036009	5036009	19.8	—	—	口縁部 小片	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ	10/16/3	瀬戸系 外表面線付系
1659	061-02 3/12	土師器	山手線	J-T16	5036009	5036009	19.8	—	—	口縁部 1/12	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ	2.5/16/2	瀬戸系
1660	061-01 3/12	土師器	山手線	J-T16	5036009	5036009	23.8	—	—	口縁部 1/12	外: ヨコナデ, ユビオサエ, ナデ 内: ヨコナデ, 工員ナデ	7.5/16/4	外表面線付系

第IV-42表 遺物観察表 42

報告 №	発掘 期	種別	産地	グリッド	報告通称 層位	調査時 通称	口徑 (cm)	器高 (cm)	器径 (cm)	残存度	調査・施文・特徴等	色調	特記事項
1661	060-05 3次	陶器	岡	J-Y16	S036009	S036009	—	—	5.8	底面 2/12	外:ロクロナズリ、施釉 内:ロクロナズリ、施釉	黄:緑色 黄:1.5Y7/2	同定無し
1662	072-04 3次	陶器	山形県	J-L・P15	S037002	S037002	15.0	—	—	口縁部 2/12	外:ロクロナズリ 内:ロクロナズリ	2.5Y7/2	陶器型
1663	070-05 3次	土師器	岡	J-K20	S037005	S037005	—	—	—	口縁部 小片	外:ロクロナズリ 内:ロクロナズリ	2.5Y8/3	陶器型 内面保存層
1664	070-01 3次	土師器	岡	J-K19	S037007	S037007	31.0	—	—	口縁部 2/12	外:ロクロナズリ 内:ロクロナズリ	2.5Y8/3	陶器型 内面保存層
1665	070-06 3次	土師器	岡	J-K19	S037007	S037007	—	—	—	口縁部 小片	外:ロクロナズリ、ハケム 内:ロクロナズリ	2.5Y7/4	陶器型 内面保存層
1666	070-03 3次	陶器	山形県	J-J21	S037007	S037007	—	—	4.5	底面 1/12	外:ロクロナズリ、赤切堀 内:ロクロナズリ	2.5Y7/2	施文陶器型
1667	070-04 3次	陶器	山形県	J-J21	S037007	S037007	—	—	7.6	底面 5/12	外:ロクロナズリ、赤切堀、施釉 内:ロクロナズリ	2.5Y7/2	陶器型
1668	070-02 3次	陶器	林	J-J21	S037007	S037007	—	—	11.5	底面 3/12	外:ロクロナズリ、赤切堀 内:ロクロナズリ	2.5Y7/2	
1669	071-04 3次	陶器	林	J-K19	S037007	S037007	—	—	14.0	底面 1/12	外:ロクロナズリ、赤切堀、工具痕？ 内:ロクロナズリ？	2.5Y7/2	
1670	071-06 3次	陶器	林	J-K19	S037007	S037007	—	—	14.0	底面 1/12	外:ロクロナズリ、赤切堀 内:ロクロナズリ	2.5Y7/2	
1671	071-01 3次	陶器	豊	J-K19	S037007	S037007	12.0	—	—	口縁部 1/12	外:ロクロナズリ 内:ロクロナズリ	2.5Y7/2	逆装？
1672	071-05 3次	陶器	林	J-J21	S037007	S037007	9.6	3.2	5.2	口縁部 5/12	外:ロクロナズリ、ロクロナズリ、施釉 内:ロクロナズリ、施釉	黄:1.5Y8/3 黄:1.5Y5/3	逆装・黄泥
1673	071-03 3次	陶器	豊または岡	J-J21	S037007	S037007	—	—	15.2	底面 1/12	外:ロクロナズリ、ユビオサエ、施釉 内:ロクロナズリ	黄:1.5Y7/2 黄:1.5Y8/2	施文
1674	071-02 4次	土師器	岡	J-J17	S043001	S043001 下層	10.1	3.2	—	口縁部 4/12	外:ヨコナナ、ナデ、ユビオサエ 内:ヨコナナ、工具ナデ	10Y8/2	
1675	067-05 4次	土師器	岡	J-J16	S043001	S043001 下層	10.8	—	—	口縁部 2/12	外:ヨコナナ、ナデ 内:ヨコナナ、工具ナデ	10Y8/2	
1676	068-03 4次	土師器	岡	J-J17	S043001	S043001 下層	10.8	3.1	—	口縁部 1/12	外:ヨコナナ、ナデ 内:ヨコナナ、工具ナデ	10Y8/2	
1677	072-06 4次	土師器	岡	J-J19	S043001	S043001 土師器層	11.2	2.9	—	口縁部 6/12	外:ヨコナナ、ナデ、ユビオサエ 内:ヨコナナ、ナデ、ユビオサエ	10Y8/2	
1678	072-04 4次	土師器	岡	J-J19	S043001	S043001 土師器中	11.4	2.3	—	口縁部 1/12	外:ヨコナナ、ナデ、ユビオサエ 内:ヨコナナ、工具ナデ	10Y8/2	
1679	072-05 4次	土師器	岡	J-J19	S043001	S043001 土師器中	11.5	3.3	—	口縁部 11/12	外:ヨコナナ、ナデ、ユビオサエ 内:ヨコナナ、ナデ	10Y8/2	
1680	073-03 4次	土師器	岡	J-J18	S043001	S043001 下層	11.7	3.5	—	口縁部 2/12	外:ヨコナナ、ナデ、ユビオサエ 内:ヨコナナ、ナデ	10Y8/2	
1681	071-03 4次	土師器	岡	J-J18	S043001	S043001	11.8	2.8	—	口縁部 4/12	外:ヨコナナ、ナデ、ユビオサエ 内:ヨコナナ、工具ナデ	10Y8/2 1.5Y8/1	
1682	066-03 4次	土師器	岡	J-J18	S043001	S043001 アザ層下層	11.8	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナナ、ナデ、ユビオサエ 内:ヨコナナ、工具ナデ	1.5Y8/3	
1683	073-01 4次	土師器	岡	—	S043001	S043001 上層	11.9	3.1	—	口縁部 3/12	外:ヨコナナ、ナデ、ユビオサエ 内:ヨコナナ、工具ナデ	10Y8/2	
1684	072-02 4次	土師器	岡	J-J15	S043001	S043001	12.0	3.0	—	口縁部 2/12	外:ヨコナナ、ナデ、ユビオサエ 内:ヨコナナ、工具ナデ	10Y8/2	
1685	067-03 4次	土師器	岡	J-J14	S043001	S043001 下層	12.2	—	—	口縁部 2/12	外:ヨコナナ、ナデ 内:ヨコナナ、ナデ	10Y8/2	
1686	067-04 4次	土師器	岡	J-J16	S043001	S043001 下層	12.8	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナナ、ナデ 内:ヨコナナ、工具ナデ	1.5Y8/3	
1687	074-05 4次	土師器	林	J-J18	S043001	S043001 下層	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナナ？、ロクロナズリ？ 内:ヨコナナ？、ロクロナズリ？	10Y8/3	施文系須臾器写し
1688	068-02 4次	土師器	岡	J-J18	S043001	S043001 下層	20.8	—	—	口縁部 2/12	外:ヨコナナ 内:ヨコナナ、ナデ	10Y8/3	陶器型 内面保存層
1689	068-02 4次	土師器	岡	J-J17	S043001	S043001 下層	21.0	—	—	口縁部 3/12	外:ヨコナナ、ハケム、クズリ 内:ヨコナナ、工具ナデ、ユビオサエ、クズリ？	10Y8/2	陶器型 内面保存層
1690	064-01 4次	土師器	岡	J-J18	S043001	S043001 下層	22.0	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナナ 内:ヨコナナ	1.5Y8/3	陶器型 内面保存層
1691	066-05 4次	土師器	岡	J-J19	S043001	S043001 下層	23.8	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナナ、ハケム 内:ヨコナナ、ナデ、ユビオサエ	1.5Y8/3	
1692	067-01 4次	土師器	岡	J-J19	S043001	S043001 下層	24.6	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナナ、ハケム 内:ヨコナナ、工具ナデ	5Y8/4	陶器型 内面保存層
1693	064-01 4次	土師器	岡	J-J18	S043001	S043001 下層	24.8	—	—	口縁部 3/12	外:ヨコナナ、ハケム 内:ヨコナナ、工具ナデ	1.5Y8/3	陶器型 内面保存層
1694	063-01 4次	土師器	岡	J-J18	S043001	S043001 下層	25.8	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナナ、ハケム 内:ヨコナナ、ナデ、ユビオサエ	10Y8/3	陶器型 内面保存層
1695	072-01 4次	土師器	岡	J-J15	S043001	S043001	26.2	—	—	口縁部 2/12	外:ヨコナナ 内:ヨコナナ、工具ナデ	1.5Y8/2 1.5Y8/3	陶器型 内面保存層
1696	063-03 4次	土師器	岡	J-J19	S043001	S043001 下層	27.8	—	—	口縁部 3/12	外:ヨコナナ、ナデ、ハケム 内:ヨコナナ、工具ナデ、ナデ、ユビオサエ	1.5Y8/3	陶器型 内面保存層
1697	063-02 4次	土師器	岡	J-J18	S043001	S043001 上層	28.0	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナナ 内:ヨコナナ	1.5Y8/2	陶器型 内面保存層
1698	063-04 4次	土師器	岡	J-J18	S043001	S043001 下層	28.8	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナナ 内:ヨコナナ、工具ナデ	10Y8/3	陶器型 内面保存層
1699	062-02 4次	土師器	岡	J-J14	S043001	S043001 下層	28.8	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナナ 内:ヨコナナ、ナデ	1.5Y8/3	陶器型 内面保存層
1700	068-01 4次	土師器	岡	J-J16	S043001	S043001 下層	29.0	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナナ、ナデ 内:ヨコナナ、工具ナデ、ユビオサエ	1.5Y8/3 10Y8/3	陶器型 内面保存層
1701	063-05 4次	土師器	岡	J-J18	S043001	S043001 下層	29.7	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナナ、ハケム 内:ヨコナナ、工具ナデ、ユビオサエ	10Y8/3	陶器型 内面保存層
1702	071-08 4次	土師器	岡	—	S043001	S043001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外:ロクロナズリ 内:ロクロナズリ	2.5Y8/2	陶器型

第IV-43表 遺物観察表 43

報告 No.	実測 No.	産別	産種	グリッド	報告遺構 部位	調査時 遺構名	口径 (cm)	最高 (cm)	底径 (cm)	埋存度	調査・論文・図説等	色調	特記事項
1703	06-03 4区	土師器	鉢	I-18	5043001	5043001 下層	—	—	—	口縁部 小片	外: ヨコナデ, ハクメ 内: ヨコナデ, ナデ	7.5YR5/2	陶伊勢系 外周縁付着
1704	06-02 4区	土師器	羽釜	I-18 I-13	5043001	5043001 下層	24.0	—	—	口縁部 4/12	外: ヨコナデ, ハクメ 内: ヨコナデ, 工夫ナデ	7.5YR6/3	陶伊勢系 内外周縁付着
1705	011-07 4区	土師器	羽釜	—	5043001	5043001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外: ヨコナデ, ハクメ 内: ヨコナデ, 工夫ナデ	7.5YR5/2	陶伊勢系 内外周縁付着
1706	06-04 4区	土師器	羽釜	I-19	5043001	5043001 下層	—	—	—	口縁部 小片	外: ヨコナデ, ハクメ 内: ヨコナデ, ナデ	7.5YR6/3	陶伊勢系 内外周縁付着
1707	011-05 4区	須恵系	鉢	—	5043001	5043001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外: ロクロナデ, ナデ 内: ロクロナデ, ナデ	10YR7/2	須恵系 周縁付着
1708	079-03 4区	陶器	山手碗	—	5043001	5043001 上層	—	—	6.7	底面 1/12	外: ロクロナデ, 赤切焼 内: ロクロナデ	10YR6/1	須恵系四型
1709	038-08 4区	陶器	山手碗	—	5043001	5043001 上層	—	—	7.0	底面 2/12	外: ロクロナデ, 赤切焼, 輪切焼 内: ロクロナデ	10YR7/1	須恵系四型
1710	079-02 4区	陶器	山手碗	—	5043001	5043001 上層	—	—	7.7	底面 3/12	外: ロクロナデ, 赤切焼 内: ロクロナデ	10YR7/2	須恵系四型
1711	040-02 4区	陶器	山手碗	—	5043001	5043001 上層	—	—	8.6	底面 3/12	外: ロクロナデ, 赤切焼, 輪切焼 内: ロクロナデ	2.5Y7/1	須恵系四型
1712	079-01 4区	陶器	山手碗	—	5043001	5043001 上層	—	—	—	底部 5/12	外: ロクロナデ, 赤切焼 内: ロクロナデ	2.5Y7/1	須恵系四型
1713	041-04 4区	陶器	山皿	—	5043001	5043001 トレンチ1	—	—	3.0	底面 4/12	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	8Y/0	須恵系四型
1714	079-04 4区	陶器	山皿	—	5043001	5043001 上層	—	—	3.6	底面 12/12	外: ロクロナデ, 赤切焼 内: ロクロナデ	2.5Y7/2	須恵系四型
1715	041-03 4区	陶器	山皿	—	5043001	5043001 トレンチ3	—	—	5.2	底面 1/12	外: ロクロナデ, ナデ 内: ロクロナデ	8Y/0	—
1716	040-04 4区	陶器	碗	I-117	5043001	5043001 上層	13.5	—	—	口縁部 1/12	外: ロクロナデ, 鉄焼 内: ロクロナデ, 鉄焼	黄: 8Y/0 輪: 10YR/1	—
1717	013-04 4区	青磁	碗	I-113	5043001	5043001 下層	—	—	4.5	底面 5/12	外: ロクロナデ, ロクロズリ, 鉄焼 内: ロクロナデ, 鉄焼	黄: 5Y7/1 輪: 5Y6/2	—
1718	011-04 4区	陶器	皿	—	5043001	5043001 上層	15.2	3.8	10.0	底面 3/12	外: ロクロナデ, 赤切焼 内: ロクロナデ	5YR7/6	焼成不良
1719	041-02 4区	陶器	皿	—	5043001	5043001 トレンチ3	—	—	—	口縁部 小片	外: ロクロナデ, 鉄焼 内: ロクロナデ, 鉄焼	黄: 2.5YR/2 輪: 7.5YR/2	—
1720	038-04 4区	陶器	皿	—	5043001	5043001 上層	—	—	7.8	底面 1/12	外: ロクロナデ, 鉄焼 内: ロクロナデ, 鉄焼	黄: 5YR/1 輪: 10YR/1	—
1721	011-06 4区	土師器	鉢	—	5043001	5043001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外: ロクロナデ, ナデ 内: ロクロナデ, ナデ	10YR8/3	外周縁付着
1722	014-02 4区	須恵系	鉢	I-116	5043001	5043001 上層	—	—	9.3	底面 5/12	外: ナデ, 赤切焼 内: ナデ	10YR5/1	須恵系
1723	079-07 4区	陶器	鉢	—	5043001	5043001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外: ロクロナデ, 工夫ナデ 内: ロクロナデ, ナデ	5YR7/4	底滑
1724	014-01 4区	陶器	鉢	I-117	5043001	5043001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外: ロクロナデ, 工夫ナデ 内: ロクロナデ	5YR5/2	底滑
1725	040-01 4区	陶器	鉢	—	5043001	5043001 上層	26.2	—	—	口縁部 1/12	外: ロクロナデ, 工夫ナデ 内: ロクロナデ	5YR5/3 5YR5/1	底滑
1726	041-01 4区	陶器	鉢	I-112	5043001	5043001 下層	29.0	—	—	口縁部 4/12	外: ロクロナデ, ロクロズリ 内: ロクロナデ, ナデ	5YR/1	底滑
1727	040-03 4区	陶器	皿	—	5043001	5043001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	5Y5/1	底滑
1728	038-07 4区	陶器	皿?	—	5043001	5043001 上層	—	—	7.0	底面 3/12	外: ロクロナデ, 鉄焼 内: ロクロナデ, 鉄焼	黄: 2.5YR/2 輪: 5YR/1	瀬戸・美濃?
1729	039-05 4区	陶器	鉢	—	5043001	5043001 上層	—	—	14.0	底面 2/12	外: ロクロナデ, 赤切焼 内: 工夫ナデ	2.5Y7/2	—
1730	012-03 4区	白磁	碗	—	5043001	5043001 トレンチ3	—	—	—	口縁部 小片	外: ロクロナデ, 鉄焼 内: ロクロナデ, 鉄焼	黄: 7.5Y7/1 輪: 10Y7/2	須恵系
1731	040-05 4区	陶器	鉢	I-117	5043001	5043001 アゼ上層	—	—	14.3	底面 3/12	外: ロクロナデ, ロクロズリ, ヘラ切焼 内: ロクロナデ	2.5Y7/1	—
1732	091-02 4区	白磁	皿	I-116	5043001	5043001 下層	—	—	—	底部 小片	外: ロクロナデ, 鉄焼 内: ロクロナデ, 鉄焼	黄: 5Y6/1 輪: 50Y7/1	—
1733	014-04 4区	青磁	坪	—	5043001	5043001 上層	18.5	—	—	口縁部 1/12	外: ロクロナデ, 鉄焼 内: ロクロナデ, 鉄焼	黄: 5YR/1 輪: 2.50Y7/1	—
1734	011-01 4区	土師器	土師	I-117	5043001	5043001 上層	長さ 3.2	幅 1.1	—	底面	外: ナデ	5YR7/6	6.3g
1735	011-02 4区	土師器	土師	I-117	5043001	5043001 上層	長さ 3.2	幅 1.2	—	底面	外: ナデ	7.5YR8/4	3.1g
1736	010-18 4区	土師器	土師	I-116	5043001	5043001 下層	—	—	—	一部欠	外: ナデ	2.5YR6/6	3.1g
1737	047-04 4区	土師器	土師	I-116	5043001	5043001 下層	長さ 5.1	幅 1.0	—	底面	外: ナデ	10YR/8 5YR7/4	4.0g
1738	014-04 4区	石製品	石鉢	I-114	5043001	5043001 下層	19.0	—	—	口縁部 6/12	外: 磨蝕 内: 磨蝕, 磨蝕痕	—	須恵系 肥前産内 半周 外周縁付着 二次 加工による転写品
1739	040-01 4区	石製品	砥石	—	5043001	5043001 上層	長さ 9.0	幅 6.9	厚さ 5.0	—	磨蝕	—	砥石 54.0g
1740	091-02 4区	鉄製品	釘	I-113	5043001	5043001 上層	—	—	—	一部欠	—	—	—
1740	091-01 4区	鉄製品	釘	—	5043001	5043001 上層	—	—	—	一部欠	—	—	—
1741	012-01 7区	土師器	皿	2842	5044015	5070010	8.0	2.1	5.2	底面 5/12	外: ロクロナデ, 赤切焼 内: ロクロナデ	10YR8/2	クロロ土師器
1742	079-05 4区	土師器	皿	2842	5044015	5070010	10.8	—	—	口縁部 1/12	外: ヨコナデ, ユビオサエ, ナデ 内: ヨコナデ, ナデ?	10YR8/3	—

第IV-44表 遺物観察表 44

報告 No.	実施 期	種別	用途	グリッド	報告者 氏名	調査時 間	口徑 (cm)	高さ (cm)	用途	保存度	調査・施工・修繕等	色調	特記事項
1343	018-02 16次	土師器	皿	J-18 L-48	SD44015	S010023	10.8	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナデ, ユビオサエ, ナデ, 粘土組織混合 内:ヨコナデ, ナデ	1018/2	
1344	021-02 4次	土師器	皿	L-J5	SD44015	SD44015 下層	11.0	3.1	—	口縁部 6/12	外:ヨコナデ, ナデ 内:ヨコナデ, 工具ナデ	1018/2	
1345	021-01 4次	土師器	皿	L-E7	SD44015	SD44015 下層	11.1	—	—	口縁部 3/12	外:ヨコナデ, ナデ, ユビオサエ 内:ヨコナデ, ナデ	2.518/2	
1346	018-01 16次	土師器	皿	J-18 L-48	SD44015	S010023	13.2	2.3	—	口縁部 1/12	外:ヨコナデ, ナデ 内:ヨコナデ, ナデ?	1018/2	
1347	018-02 4次	土師器	鉢	L-L4	SD44015	SD44015 中層	18.0	—	—	口縁部 4/12	外:ヨコナデ, ハクメ, クズリ 内:ヨコナデ, ナデ	7.5185/3 10187/2	江戸野鳥 内蔵保存
1348	015-05 7次	土師器	鉢	2X8-40	SD44015	S070016	19.0	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナデ, ハクメ 内:ヨコナデ, ユビオサエ, ナデ	10187/3	江戸野鳥 内蔵保存
1349	021-04 4次	土師器	鉢	L-E7	SD44015	SD44015 下層	22.3	—	—	口縁部 2/12	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ, ナデ	10186/3	江戸野鳥 内蔵保存
1350	018-01 7次	土師器	鉢	2X8-36	SD44015	S070010 4層	25.3	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナデ, ナデ 内:ヨコナデ	10186/2	江戸野鳥 内蔵保存
1351	018-02 7次	土師器	鉢	2X8-36	SD44015	S070010 4層	25.6	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナデ, ハクメ 内:ヨコナデ, ユビオサエ, ナデ	10186/3	江戸野鳥 内蔵保存
1352	009-06 7次	土師器	鉢	2X8-42	SD44015	S070010	25.8	—	—	口縁部 3/12	外:ヨコナデ, ハクメ 内:ヨコナデ, ユビオサエ, ナデ	10187/3	江戸野鳥 内蔵保存
1353	042-01 16次	土師器	鉢	J-98	SD44015	S010023	27.6	—	—	口縁部 6/12	外:ヨコナデ, ハクメ, クズリ 内:ヨコナデ, ユビオサエ, 工具ナデ, クズリ	10187/4	江戸野鳥 内蔵保存
1354	009-05 7次	土師器	鉢	2X8-42	SD44015	S070010	27.8	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナデ, ハクメ 内:ヨコナデ, ナデ?	10186/3	江戸野鳥 内蔵保存
1355	019-04 4次	土師器	鉢	L-66	SD44015	SD44015 中層	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	10187/2	江戸野鳥 内蔵保存
1356	019-05 4次	土師器	鉢	L-L4	SD44015	SD44015 中層	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナデ, ハクメ 内:ヨコナデ, ナデ	10186/1	江戸野鳥 内蔵保存
1357	009-07 7次	土師器	鉢	2X8-42	SD44015	S070010	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	7.5187/3	江戸野鳥 内蔵保存
1358	015-04 7次	土師器	甕	2X8-40	SD44015	S070016	25.2	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナデ, ユビオサエ, ナデ 内:ヨコナデ, ユビオサエ, 工具ナデ	10187/3	江戸野鳥 内蔵保存
1359	018-03 7次	土師器	鉢	2X8-42	SD44015	S070010	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナデ, ナデ? 内:ヨコナデ, 工具ナデ	5187/6	縄文型 内蔵保存
1360	018-04 7次	土師器	甕	2X8-42	SD44015	S070010	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナデ, ナデ? 内:ヨコナデ, ナデ	5186/4	大宮・駒石系 内蔵保存
1361	021-03 4次	土師器	甕	L-J5	SD44015	SD44015 下層	15.4	—	—	口縁部 3/12	外:ヨコナデ, ハクメ 内:ヨコナデ, 工具ナデ	10187/3	江戸野鳥
1362	019-03 4次	土師器	甕	L-L4	SD44015	SD44015 中層	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナデ, ハクメ 内:ヨコナデ, 工具ナデ	5186/3 7.5188/3	江戸野鳥
1363	021-05 4次	土師器	甕	L-F6	SD44015	SD44015 下層	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナデ, ハクメ 内:ヨコナデ, ユビオサエ, 工具ナデ	10187/2	江戸野鳥 内蔵保存
1364	019-01 4次	須恵器	鉢	L-L4	SD44015	SD44015 中層	27.0	11.4	10.5	口縁部 5/12	外:ロクロナデ, 赤切縁 内:ロクロナデ	96/9	須恵系
1365	017-03 4次	須恵器	鉢	L-L4	SD44015	SD44015 下層	27.6	9.8	11.1	口縁部 3/12	外:ロクロナデ, 赤切縁 内:ロクロナデ, ナデ	10187/4 7.5187/4	須恵系
1366	020-01 4次	須恵器	鉢	L-F6	SD44015	SD44015 下層	—	—	—	口縁部 小片	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	95/9 97/9	須恵系
1367	017-08 16次	陶器	山手鉢	J-18 L-48	SD44015	S010023	13.4	—	—	口縁部 4/12	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	2.5187/1	須恵型
1368	017-07 16次	陶器	山手鉢	J-98	SD44015	S010023	—	—	6.0	底部 2/12	外:ロクロナデ, 赤切縁, 軽切縁 内:ロクロナデ	2.5187/2	須恵型
1369	011-03 7次	陶器	山手鉢	2X81・2	SD44015	S070010 21r	—	—	7.4	底部 2/12	外:ロクロナデ, 赤切縁 内:ロクロナデ	10187/2 10186/1	須恵型
1370	011-02 7次	陶器	山手鉢	2X81・2	SD44015	S070010 21r	—	—	7.5	底部 1/12	外:ロクロナデ, 赤切縁 内:ロクロナデ	2.5187/1	須恵型
1371	011-01 7次	陶器	山手鉢	2X81・2	SD44015	S070010 21r	—	—	7.7	底部 2/12	外:ロクロナデ, 赤切縁 内:ロクロナデ	10187/2	須恵型四段
1372	018-02 7次	陶器	山手鉢	2X81・2	SD44015	S070016	—	—	8.0	底部 4/12	外:ロクロナデ, 赤切縁 内:ロクロナデ	10187/3	須恵型
1373	046-05 4次	陶器	阿波丸鉢	L-L4	SD44015	SD44015 中層	—	—	2.4	底部 9/12	外:ロクロナデ, 赤切縁 内:ロクロナデ	2.5184/1 1084/1	
1374	043-02 4次	陶器	皿	L-L4	SD44015	SD44015 下層	23.2	6.6	13.2	底部 2/12	外:ロクロナデ, ロクロズリ, ナデ, 熟焼 内:ロクロナデ, 熟焼	表:10187/2 裏:518/2	瀬戸・美濃
1375	046-04 4次	陶器	皿	L-L4	SD44015	SD44015 中層	—	—	—	口縁部 小片	外:ロクロナデ, 熟焼 内:ロクロナデ, 熟焼	表:10188/1 裏:2.567/1	瀬戸・美濃
1376	011-06 7次	陶器	皿	2X8-42	SD44015	S070010	—	—	—	口縁部 小片	外:ロクロナデ, ロクロズリ, 熟焼 内:ロクロナデ, 熟焼	表:10187/3 裏:1.518/1	瀬戸・美濃
1377	011-04 7次	陶器	深鉢	2X811	SD44015	S070010 61r	38.4	—	—	口縁部 1/12	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ, 磨面	表:2.5184/2 裏:1083/2	瀬戸・美濃
1378	046-01 4次	陶器	皿	L-65	SD44015	SD44015 下層	44.8	—	—	口縁部 1/12	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	2.5185/2	瀬戸
1379	011-05 7次	陶器	甕	2X8-42	SD44015	S070010	—	—	—	口縁部 小片	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	10187/3	瀬戸
1380	046-02 4次	陶器	皿	L-J5	SD44015	SD44015 下層	—	—	14.0	底部 2/12	外:工具ナデ, ナデ 内:ナデ, ユビオサエ	2.5184/3	瀬戸
1381	046-03 4次	陶器	皿	L-F6	SD44015	SD44015 下層	—	—	13.0	底部 2/12	外:工具ナデ, ナデ 内:ナデ, ユビオサエ	7.5187/4	内蔵 内蔵保存
1382	047-01 4次	磁器	碗	L-96	SD44015	SD44015 中層	9.6	5.8	3.8	口縁部 5/12	外:ロクロナデ, ロクロズリ, 染付, 熟焼 内:ロクロナデ, 熟焼	表:66/9	肥前系
1383	020-02 4次	白磁	碗	L-L4	SD44015	SD44015 中層	—	—	—	口縁部 小片	外:ロクロナデ, 熟焼 内:ロクロナデ, 熟焼	表:7.518/1 裏:7.5187/2	肥前系

第IV-45表 遺物観察表 45

報告 No.	実施 No.	種別	路線	グリッド	報告遺構 部位	調査時 遺構名	口徑 (cm)	最高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調査・施工・熟練等	色調	特記事項
1784	029-04 4/12	白磁	硯	L-14	S044015	S044015 中層	—	—	5.4	底部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、熟練 内：ロクロナデ、熟練	黒：2.518/1 黒：1.018/1	
1785	017-09 10/1	白磁	硯	J-18 L-48	S044015	S010023	—	—	—	口縁部 小穴	外：ロクロナデ、ナデ 内：ロクロナデ、熟練	黒：5.7/1 黒：5.7/2	竊盗被害
1786	029-03 4/2	青磁	皿	L-15	S044015	S044015 下層	—	—	10.2	底部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、熟練 内：ロクロナデ、熟練	黒：1.018/2 黒：5.7/3	
1787	019-01 4/2	青磁	皿	Z840	S044015	S070016	11.0	3.0	3.2	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、熟練 内：ロクロナデ、熟練	黒：1.018/2 黒：5.7/3/3	
1788	030-04 5/2	青磁	蓋伊	L-16	S044015	S044015 中層	10.6	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、ナデ 内：ロクロナデ、熟練	黒：1.018/2 黒：5.7/3/3	
1789	021-07 4/2	石製品	砥石	L-14	S044015	S044015 下層	—	幅 3.4	厚さ 1.6	半欠	磨削、磨削痕	—	54.0g
1790	022-05 5/2	土師器	鉢	J-18	S044030	S051007	—	—	—	口縁部 小穴	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	2.518/4	南伊勢系 内外面磨削付
1791	029-04 6/2	土師器	鉢	J-14	S044030	S044030 トレンチ	—	—	—	口縁部 小穴	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	2.518/7	摩訶系 外周磨削付
1792	022-04 5/2	陶器	山車輪	J-18	S044030	S051007	—	—	6.8	底部 5/12	外：ロクロナデ、糸切機 内：ロクロナデ、ナデ	2.517/1	摩訶系 磨削型
1793	022-02 4/2	陶器	天目茶碗	J-16	S044030	S051007	—	—	4.4	底部 10/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、熟練 内：ロクロナデ、熟練	黒：1.018/3 黒：7.518/4	瀬戸・美濃
1794	052-02 4/2	陶器	田楽鉢	J-14	S044030	S044030 トレンチ	—	—	6.7	底部 6/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、熟練 内：ロクロナデ、熟練	黒：1.018/3 黒：2.518/2	
1795	022-03 4/2	陶器	鉢	J-16	S044030	S051007	29.2	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、工具ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	5186/4	
1796	029-02 4/2	白磁	皿?	J-14	S044030	S044030 トレンチ	—	—	6.0	底部 3/12	外：ロクロナデ、熟練 内：ロクロナデ、熟練	黒：518/1 黒：517/1	
1797	011-01 4/2	青磁	皿	J-14	S044030	S044030 トレンチ	—	—	—	小穴	外：ロクロナデ、熟練 内：ロクロナデ、熟練	黒：2.517/1 黒：5.018/1	摩訶系
1798	019-01 5/2	土師器	鉢	J-16	S051002	S051002	21.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	2.518/4	大坂・新石系 内外面磨削付
1799	018-03 5/2	土師器	鉢	J-16	S051002	S051002	22.8	—	—	口縁部 4/12	外：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	2.518/4	大坂・新石系 内外面磨削付
1800	018-02 5/2	土師器	鉢	J-16	S051002	S051002	27.2	—	—	口縁部 4/12	外：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	2.518/4	大坂・新石系 内外面磨削付
1801	014-04 5/2	陶器	山車輪	J-16	S051002	S051002	—	—	7.2	底部 2/12	外：ロクロナデ、ナデ 内：ロクロナデ	黒/0	尾張系
1802	019-05 5/2	陶器	硯	J-16	S051002	S051002	12.4	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、熟練 内：ロクロナデ、熟練	黒：1.018/3 黒：5.018/2 黒：5.183/1	瀬戸・美濃
1803	019-03 5/2	陶器	天目茶碗	J-16	S051002	S051002	—	—	4.6	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、熟練 内：ロクロナデ、熟練	黒：1.018/3 黒：7.518/3	瀬戸・美濃
1804	019-04 5/2	陶器	天目茶碗	J-16	S051002	S051002	10.9	6.2	4.4	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、熟練 内：ロクロナデ、熟練	黒：1.018/3 黒：5.018/2 黒：5.183/1	瀬戸・美濃
1805	019-02 5/2	陶器	天目茶碗	J-16	S051002	S051002	11.5	7.3	4.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、熟練 内：ロクロナデ、熟練	黒：2.518/2 黒：5.183/1	瀬戸・美濃
1806	018-01 5/2	陶器	皿	J-16	S051002	S051002	—	—	8.8	底部 1/12	外：ロクロナデ、熟練 内：ロクロナデ、熟練	黒：1.018/3 黒：5.183/3	
1807	017-03 5/2	陶器	皿?	J-18	S051002	S051002	—	—	15.4	底部 1/12	外：ロクロナデ、ナデ 内：ロクロナデ、ナデ	黒：2.518/4 黒：2.518/3	磨削?
1808	015-01 5/2	陶器	膳鉢	J-16	S051002	S051002	29.0	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、熟練 内：ロクロナデ、磨削、熟練	黒：7.518/3 黒：2.518/3	瀬戸・美濃
1809	014-02 5/2	陶器	膳鉢	J-16	S051002	S051002	—	—	—	口縁部 小穴	外：ロクロナデ、ロクロズリ、熟練 内：ロクロナデ、磨削、熟練	黒：84/0 黒：5.184/2	磨削
1810	014-01 5/2	陶器	膳鉢	J-16	S051002	S051002	—	—	15.2	底部 1/12	外：ロクロナデ、ナデ 内：磨削	2.518/7	
1811	015-02 5/2	陶器	皿	J-16	S051002	S051002	—	—	16.0	底部 2/12	外：工具ナデ、ナデ 内：工具ナデ	2.518/4 黒：2.518/4	常滑 内外面磨削付
1812	029-03 5/2	磁器	硯	J-16	S051002	S051002	10.3	4.1	3.8	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、染付、熟練 内：ロクロナデ、熟練	黒：2.518/1	肥後系 施・磨削付
1813	029-02 5/2	磁器	硯	J-16	S051002	S051002	5/12	—	4.0	底部 5/12	外：ロクロナデ、熟練 内：ロクロナデ、熟練	黒：518/1	肥後系
1814	017-02 5/2	白磁	硯	J-18	S051002	S051002	15.2	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、熟練 内：ロクロナデ、熟練	黒：84/0 黒：7.518/1	竊盗被害
1815	017-01 5/2	青磁	硯	J-16	S051002	S051002	—	—	—	口縁部 小穴	外：ロクロナデ、熟練 内：ロクロナデ、磨削、熟練	黒：87/0 黒：5.018/1	摩訶系
1816	029-01 5/2	土師器	皿?	J-18	S051024	S052002	31.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	5186/3	外周磨削付
1817	009-03 1/12	土師器	羽釜	10C1	S051024	S070006	20.6	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	5186/4	外周磨削付
1818	029-02 5/2	瓦葺 土師	羽釜	J-18	S051024	S052002	—	—	—	口縁部 小穴	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	黒/0	
1819	029-03 5/2	灰釉 陶器	硯	J-18	S051024	S052002	—	—	3.4	底部 3/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.517/2	
1820	032-05 5/2	陶器	山車輪	J-110	S051024	S052002	15.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.518/1	摩訶系 磨削型
1821	022-01 5/2	陶器	山車輪	J-18	S051024	S051024 31-3層	—	—	5.5	底部 2/12	外：ロクロナデ、糸切機 内：ロクロナデ	517/1	尾張系
1822	029-06 5/2	陶器	山車輪	J-110	S051024	S052002	—	—	5.7	底部 5/12	外：ロクロナデ、磨削機 内：ロクロナデ、ナデ	2.517/1	摩訶系 磨削型
1823	009-02 1/12	陶器	山車輪	10C1	S051024	S070006 21層	—	—	6.0	底部 1/12	外：ロクロナデ、磨削機 内：ロクロナデ、ナデ	2.517/2	摩訶系 磨削型
1824	030-04 5/2	陶器	山車輪	J-110	S051024	S052002	—	—	6.4	底部 4/12	外：ロクロナデ、ナデ 内：ロクロナデ	黒/0	摩訶系 磨削型

第IV-46表 遺物観察表 46

報告 No.	発掘 No.	種別	産地	グリッド	報告通称 層位	調査時 通称名	口徑 (cm)	器高 (cm)	器径 (cm)	残存度	調査・施設・名称等	色調	特記事項
1825	029-09 5次	陶器	山形県	J-110	S051824	S052002	—	—	6.6	底面 4/12	外：ロクロナデ、赤切櫃 内：ロクロナデ	2.5YR/1	
1826	029-05 5次	陶器	山形県	J-110	S051824	S052002	—	—	6.7	底面 9/12	外：ロクロナデ、赤切櫃 内：ロクロナデ	6L/0	遼東瀋陽型 外底保存槽？
1827	028-05 5次	陶器	山形県	J-000	S051824	S052002	—	—	6.9	底面 12/12	外：ロクロナデ、赤切櫃 内：ロクロナデ、ナデ	2.5YR/1	尾張型
1828	032-03 5次	陶器	山形県	J-000	S051824	S052002	—	—	6.8	底面 4/12	外：ロクロナデ、ナデ、赤切櫃 内：ロクロナデ	2.5YR/1 2.5YR/1	遼東瀋陽型 外底意匠彫刻
1829	029-04 5次	陶器	山形県	J-000	S051824	S052002	—	—	7.0	底面 4/12	外：ロクロナデ、赤切櫃 内：ロクロナデ、ナデ	2.5YR/2	
1830	029-02 5次	陶器	山形県	J-110	S051824	S052002	—	—	7.0	底面 6/12	外：ロクロナデ、赤切櫃 内：ロクロナデ	6L/0	尾張型 外底保存槽？
1831	029-08 5次	陶器	山形県	J-110	S051824	S052002	—	—	7.0	底面 3/12	外：ロクロナデ、ヘラ切櫃？ 内：ロクロナデ	6L/0	遼東瀋陽型 外底保存槽？
1832	030-05 5次	陶器	山形県	J-000	S051824	S052002	—	—	7.2	底面 18/12	外：ロクロナデ、赤切櫃 内：ロクロナデ	NT/0	尾張型
1833	030-07 5次	陶器	山形県	J-000	S051824	S052002	—	—	7.2	底面 4/12	外：ロクロナデ、赤切櫃 内：ロクロナデ	2.5YR/1	尾張型
1834	032-07 5次	陶器	山形県	J-000	S051824	S052002	—	—	7.2	底面 1/12	外：ロクロナデ、赤切櫃 内：ロクロナデ	2.5YR/2	遼東瀋陽型
1835	032-08 5次	陶器	山形県	J-000	S051824	S052002	—	—	7.2	底面 1/12	外：ロクロナデ、精緻櫛、赤切櫃 内：ロクロナデ	10YR/1	遼東瀋陽型
1836	029-01 5次	陶器	山形県	J-110	S051824	S052002	—	—	7.3	底面 9/12	外：ロクロナデ、ヘラ切櫃 内：ロクロナデ	6L/0	遼東瀋陽型 外底保存槽？
1837	029-08 5次	陶器	山形県	J-000	S051824	S052002	—	—	7.3	底面 11/12	外：ロクロナデ、赤切櫃 内：ロクロナデ	NT/0	尾張型
1838	029-04 5次	陶器	山形県	J-110	S051824	S052002	—	—	7.5	底面 10/12	外：ロクロナデ、ナデ、工具痕？ 内：ロクロナデ	6L/0	遼東瀋陽型 内底意匠彫刻？
1839	029-03 5次	陶器	山形県	J-110	S051824	S052002	—	—	7.6	底面 1/12	外：ロクロナデ、赤切櫃 内：ロクロナデ	2.5YR/1	遼東瀋陽型
1840	030-03 5次	陶器	山形県	J-110	S051824	S052002	—	—	7.8	底面 5/12	外：ロクロナデ、ヘラ切櫃？ 内：ロクロナデ	NT/0	遼東瀋陽型
1841	029-06 5次	陶器	山形県	J-000	S051824	S052002	—	—	7.8	底面 2/12	外：ロクロナデ、赤切櫃 内：ロクロナデ	6L/0	遼東瀋陽型
1842	030-09 5次	陶器	山形県	J-000	S051824	S052002	—	—	7.8	底面 6/12	外：ロクロナデ、ナデ、精緻櫛 内：ロクロナデ	NT/0	遼東瀋陽型
1843	029-04 5次	陶器	山形県	J-110	S051824	S052002	—	—	7.9	底面 6/12	外：ロクロナデ、ナデ、赤切櫃 内：ロクロナデ	NT/0	尾張型
1844	030-02 5次	陶器	山形県	J-110	S051824	S052002	—	—	8.0	底面 6/12	外：ロクロナデ、精緻櫛、赤切櫃 内：ロクロナデ	NT/0	尾張型
1845	032-02 5次	陶器	山形県	J-000	S051824	S052002	—	—	8.0	底面 12/12	外：ロクロナデ、ナデ、赤切櫃 内：ロクロナデ	10YR/1	尾張型
1846	032-04 5次	陶器	山形県	J-000	S051824	S052002	—	—	8.0	底面 5/12	外：ロクロナデ、ナデ、精緻櫛、赤切櫃 内：ロクロナデ	10YR/1	尾張型
1847	029-07 5次	陶器	山形県	J-110	S051824	S052002	—	—	8.4	底面 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	NT/0	遼東瀋陽型
1848	030-01 5次	陶器	山形県	J-110	S051824	S052002	—	—	9.6	底面 2/12	外：ロクロナデ、精緻櫛、赤切櫃？ 内：ロクロナデ	6L/0	遼東瀋陽型
1849	031-09 5次	陶器	山形県	J-110	S051824	S052002	8.5	2.3	3.5	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、ナデ、赤切櫃 内：ロクロナデ	2.5YR/1	尾張型
1850	031-10 5次	陶器	山形県	J-110	S051824	S052002	8.8	3.1	4.0	底面 12/12	外：ロクロナデ、赤切櫃 内：ロクロナデ	2.5YR/1	遼東瀋陽型
1851	032-09 5次	陶器	山形県	J-000	S051824	S052002	—	—	4.0	底面 3/12	外：ロクロナデ、赤切櫃 内：ロクロナデ	2.5YR/1	
1852	032-10 5次	陶器	山形県	J-000	S051824	S052002	—	—	4.0	底面 2/12	外：ロクロナデ、赤切櫃 内：ロクロナデ	10YR/1	遼東瀋陽型
1853	008-01 7次	陶器	山形県	18E	S051824	S070006 調査区名別	—	—	4.8	口縁部 6/12	外：ロクロナデ、ロクロナデリ、印紋、磨輪 内：ロクロナデ、磨輪	黄：2.5YR/1 黄：5YR/2	肥前系 内底意匠彫刻 （木下式）印刷
1854	032-04 5次	白磁	山形県	J-000	S051824	S052002	15.0	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、磨輪 内：ロクロナデ、磨輪	黄：5YR/1 黄：5YR/2	磨輪系 外底保存槽
1855	023-03 5次	縄文 土器	山形県	J-110	S052001	S052001	—	—	—	口縁部 小口	外：糸織 内：ナデ？	5YR/4 7.5YR/3	
1856	024-02 5次	土師器	山形県	J-000	S052001	S052001	18.5	2.4	—	口縁部 5/12	外：磨輪により磨面不明 内：磨輪により磨面不明	10YR/2	
1857	024-04 5次	土師器	山形県	J-000	S052001	S052001	11.0	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ヨコナデ 内：ヨコナデ	10YR/1	磨輪系？
1858	024-03 5次	土師器	山形県	J-000	S052001	S052001	11.2	—	—	口縁部 3/12	外：磨輪により磨面不明 内：磨輪により磨面不明	10YR/2	
1859	023-01 5次	土師器	山形県	J-110	S052001	S052001	—	—	5.8	底面 2/12	外：ロクロナデ、赤切櫃 内：ロクロナデ	10YR/3	ロクロナデ
1860	024-05 5次	土師器	山形県	J-000	S052001	S052001	18.9	2.0	—	口縁部 4/12	外：ヨコナデ、ヨコナデ 内：ヨコナデ	10YR/2	磨輪系？
1861	024-01 5次	土師器	山形県	J-000	S052001	S052001	19.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ハクメ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR/3	磨輪系？
1862	023-02 5次	土師器	山形県	J-110	S052001	S052001	24.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハクメ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR/4	磨輪系 外底保存槽
1863	023-07 5次	土師器	山形県	J-000	S052001	S052001	—	—	—	口縁部 小口	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	5YR/4	
1864	023-04 5次	瓦器	山形県	J-000	S052001	S052001	12.0	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ	2.5YR/1	紀伊型
1865	023-05 5次	瓦器	山形県	J-000	S052001	S052001	12.8	2.8	—	口縁部 12/12	外：ヨコナデ、ヨコナデ 内：ヨコナデ	2.5YR/1	紀伊型

第IV -47 表 遺物観察表 47

報告 №	発行 年	種別	品名	グリッド	報告遺構 部位	調査時 遺構名	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	残存度	調査・論文・図録等	色図	特記事項
1866	023-06 5次	瓦葺 土蔵	羽釜	J-09	S052001	S052001	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ, 工具ナデ	84/0	
1867	025-04 5次	陶磁	山手碗	J-19	S052001	S052001	—	—	6.6	口縁部 1/12	外:ロクロナデ, 赤切碗 内:ロクロナデ	86/0	蓮花瀝器型
1868	025-05 5次	陶磁	山手碗	J-19	S052001	S052001	—	—	6.8	底面 5/12	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ, ナデ	2.518/1	蓮花瀝器型
1869	026-03 5次	陶磁	山手碗	J-09	S052001	S052001	—	—	6.8	底面 2/12	外:ロクロナデ, 赤切碗 内:ロクロナデ	2.518/2	蓮花瀝器型 内底面?
1870	026-04 5次	陶磁	山手碗	J-09	S052001	S052001	—	—	6.8	底面 12/12	外:ロクロナデ, 赤切碗 内:ロクロナデ	87/0	蓮花瀝器型 外底面跡面?
1871	026-01 5次	陶磁	山手碗	J-K10	S052001	S052001	—	—	7.0	底面 12/12	外:ロクロナデ, 赤切碗 内:ロクロナデ	86/0	蓮花瀝器型 外底面跡面?
1872	026-06 5次	陶磁	山手碗	J-09	S052001	S052001	—	—	7.1	底面 12/12	外:ロクロナデ, 赤切碗, 刷毛碗 内:ロクロナデ	87/0	刷毛碗
1873	025-07 5次	陶磁	山手碗	J-K10	S052001	S052001	—	—	7.4	底面 8/12	外:ロクロナデ, 赤切碗 内:ロクロナデ	86/0	刷毛碗
1874	025-08 6/12	陶磁	山手碗	J-K10	S052001	S052001	—	—	7.6	底面 8/12	外:ロクロナデ, 赤切碗 内:ロクロナデ	2.518/1	蓮花瀝器型
1875	025-01 5次	陶磁	山手碗	J-09	S052001	S052001	—	—	8.4	底面 1/12	外:ロクロナデ, 赤切碗 内:ロクロナデ	86/0	蓮花瀝器型
1876	025-06 5次	陶磁	山手碗	J-09	S052001	S052001	—	—	8.6	底面 1/12	外:ロクロナデ, ナデ 内:ロクロナデ	518/1	蓮花瀝器型
1877	025-02 5次	陶磁	山手	J-09	S052001	S052001	7.6	2.4	3.6	底面 2/12	外:ロクロナデ, 赤切碗 内:ロクロナデ	86/0	蓮花瀝器型
1878	025-03 5次	陶磁	山手	J-19	S052001	S052001	—	—	3.6	底面 10/12	外:ロクロナデ, 赤切碗 内:ロクロナデ	86/0	
1879	026-05 5次	陶磁	山手	J-09	S052001	S052001	—	—	3.6	底面 6/12	外:ロクロナデ, 赤切碗 内:ロクロナデ	86/0	蓮花瀝器型
1880	027-05 5次	陶磁	小碗	J-09	S052001	S052001	5.6	3.4	2.4	底面 6/12	外:ロクロナデ, ロクロナズリ, 染付, 刷毛 内:ロクロナデ, 刷毛	高: 2.517/1 幅: 2.567/1	瀬戸・美濃
1881	027-02 5次	陶磁	鉢	J-T9	S052001	S052001	—	—	11.0	底面 3/12	外:工具ナデ 内:ロクロナデ	83/0 2.515/1	尾山
1882	026-02 5次	陶磁	鉢	J-09	S052001	S052001	—	—	14.2	底面 1/12	外:ロクロナズリ, ロクロナデ 内:ロクロナデ	87/0	瀬戸
1883	027-06 5次	磁器	碗	J-09	S052001	S052001	—	—	3.5	底面 1/12	外:ロクロナデ?, ロクロナズリ?, 染付, 刷毛 内:ロクロナデ?, 刷毛		肥前系
1884	027-04 5次	青磁	碗	J-09	S052001	S052001	—	—	—	口縁部 小片	外:ロクロナデ, 刷毛碗, 染付, 刷毛 内:ロクロナデ, 刷毛	高: 1.517/1 幅: 1016/2	龍泉窯系
1885	027-01 5次	石製品	石鍋	J-09	S052001	S052001	36.6	—	—	口縁部 1/12	外:甕蓋, 甕蓋, 摩耗? 内:甕蓋	—	清石製 肥前系 二次加工物
1886	025-04 5次	銅製品	銭貨	J-09	S052001	S052001	—	—	—	—	—	—	元禄通寶 銭貨の印面
1887	027-03 5次	陶磁	置または器	1883	S052004	S070005	—	—	—	口縁部 小片	外:ロクロナデ, ナデ? 内:ロクロナデ, 工具ナデ	2.517/3	瀬戸
1888	009-03 7次	土師器	皿	J-211	S070009	S070009	8.9	1.7	7.8	底面 2/12	外:ロクロナデ?, 赤切碗? 内:ロクロナデ?	1018/2	
1889	009-04 7次	土師器	皿	J-215	S070009	S070009	—	—	—	—	—	1018/3	3.3g
1890	025-05 4次	陶磁	山手	J-16	S244041	カクラン1 上層	—	—	5.8	底面 3/12	外:ロクロナデ, 赤切碗 内:ロクロナデ, ナデ	7.5187/3	蓮花瀝器型
1891	026-05 4次	陶磁	片口鉢	J-16	S244041	カクラン1 上層	16.0	—	—	口縁部 1/12	外:ロクロナデ, 刷毛 内:ロクロナデ, 刷毛	高: 2.517/2 幅: 7.5184/3	瀬戸・美濃
1892	031-04 4次	陶磁	器?	J-16	S244041	カクラン1 上層	—	—	—	口縁部 小片	外:ロクロナデ, 刷毛 内:ロクロナデ	高: 2.5185/4 幅: 2.5184/3	
1893	031-03 4次	青磁	碗	J-16	S244041	カクラン1 上層	16.0	—	—	口縁部 1/12	外:ロクロナデ, 刷毛碗, 染付, 刷毛 内:ロクロナデ, 刷毛	高: 86/0 幅: 1016/2	龍泉窯系
1894	023-05 4次	土師器	皿	J-T-15	S244045	カクラン	6.3	1.2	—	口縁部 3/12	外:ナデ 内:ナデ	7.5187/6	
1895	027-01 4次	土師器	皿	J-14	S244045	カクラン1	8.9	—	—	口縁部 2/12	外:ロクロナデ, 刷毛 内:ロクロナデ, 刷毛	10185/2 幅: 7.5184/3	大坂系 ロクロ土師器 内外面刷毛
1896	027-02 4次	土師器	皿	J-14	S244045	カクラン1	9.0	—	—	口縁部 1/12	外:ロクロナデ, 刷毛 内:ロクロナデ, 刷毛	7.5187/6 幅: 7.5184/3	大坂系 ロクロ土師器 内外面刷毛
1897	025-03 4次	陶磁	山手碗	J-14	S244045	カクラン1	—	—	6.7	底面 7/12	外:ロクロナデ, 赤切碗, 刷毛碗 内:ロクロナデ	2.517/2	
1898	025-04 4次	陶磁	山手碗	J-14	S244045	カクラン1	—	—	8.9	底面 3/12	外:ロクロナデ, 赤切碗, 刷毛碗 内:ロクロナデ	2.517/1	
1899	025-02 4次	陶磁	皿	J-14	S244045	カクラン1	—	—	—	口縁部 小片	外:ロクロナデ, 刷毛 内:ロクロナデ, 刷毛	高: 2.518/1 幅: 2.517/3	瀬戸・美濃
1900	023-02 4次	陶磁	碗	J-T-15	S244045	カクラン	—	—	5.4	底面 3/12	外:ロクロナデ, ロクロナズリ, 刷毛 内:ロクロナデ	高: 2.517/3 幅: 5184/3	瀬戸・美濃?
1901	023-02 4次	磁器	碗	J-T-15	S244045	カクラン	10.0	5.1	4.2	底面 4/12	外:ロクロナデ, ロクロナズリ, 染付, 刷毛 内:ロクロナデ, 刷毛	高: 518/1	肥前系 コンニャク印
1902	023-01 4次	磁器	碗	J-T-15	S244045	カクラン	—	—	4.0	底面 12/12	外:ロクロナデ, ロクロナズリ, 染付, 刷毛 内:ロクロナデ, 刷毛	高: 517/1	肥前系
1903	023-04 4次	磁器	皿	J-T-15	S244045	カクラン	13.2	3.3	6.0	底面 8/12	外:ロクロナデ, ロクロナズリ, 刷毛 内:ロクロナデ, 染付, 刷毛	高: 2.517/1	肥前系 蛇ノ目紋
1904	024-01 4次	磁器	皿	J-T-15	S244045	カクラン	20.0	—	—	口縁部 1/12	外:ロクロナデ, 染付, 刷毛 内:ロクロナデ, 染付, 刷毛	高: 1018/1	肥前系
1905	023-06 4次	石製品	碓石	J-T-15	S244045	カクラン	—	—	—	小片	—	—	23.0g

第IV-48表 遺物観察表 48

報告 №	発掘 年度	種別	用途	グリッド	報告書 番号	調査時 遺構名	口径 (cm)	深さ (cm)	厚さ (cm)	形状	調査・施工・発掘等	色調	特記事項
1906	087-03 4次	石製品	焼	J-54	SZ404T	カクラン	—	電 1.0	厚さ 1.5	小片	摩損	—	
1907	084-02 1次	陶器	陶	J-Y3	SZ404T	カクラン	13.0	6.0	4.2	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクワズリ、表状文様、施物 内：ロクロナデ、模文様、施物	黄：1978/4 緑：2, 597/3	肥前系
1908	084-05 4次	陶器	皿	J-Y3	SZ404T	カクラン	—	—	9.5	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、ロクワズリ、 内：ロクロナデ、カキメギ卓縁、施物	黄：1984/1 緑：82/0	肥前系？
1909	084-03 4次	陶器	陶	J-Y3	SZ404T	カクラン	10.8	—	—	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、ロクワズリ、染付、施物 内：ロクロナデ、施物	黄：518/1	肥前系
1910	083-07 4次	陶器	皿	J-Y3	SZ404T	カクラン	—	—	8.0	底部 2/12	外：ロクロナデ、ロクワズリ、施物 内：ロクロナデ、染付、施物	黄：7, 5188/3	肥前系 コンニャク印前
1911	067-08 3次	灰陶 陶器	陶	J-G21	P17	P17	—	—	7.8	口縁部 4/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	517/1	
1912	068-03 3次	土師器	皿	J-H18	P14	P14	15.7	3.1	—	口縁部 6/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10188/2	
1913	053-03 5次	鉄製品	釘？	J-K14	P12	P12	—	電 1.0	厚さ 0.5	小片	—	—	
1914	097-03 3次	青磁	皿	J-K20	P12	P12	11.2	2.2	6.2	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ロクワズリ、施物 内：ロクロナデ、点線文、施物	黄：87/0 緑：516/2	河内系
1915	064-05 3次	陶器	山皿	J-L19	P11	P11	8.8	2.5	4.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、赤切縁 内：ロクロナデ、ナデ	2, 517/1	近畿河内系 高橋の印
1916	065-01 3次	陶器	山皿	J-L19	P11	P11	9.3	2.4	5.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、赤切縁 内：ロクロナデ	2, 517/2	近畿河内系
1917	064-02 3次	陶器	皿	J-L19	P14	P14	10.3	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、赤切縁 内：ロクロナデ、施物	黄：516/2 緑：10184/1	近畿河内系
1918	063-01 3次	土師器	鉢	J-H13	P15	P15	24.2	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	7, 5185/3 7, 5183/2	肥前系 外産保存書
1919	124-06 3次	鉄製品	釘	J-H14	P12	P12	—	電 8.6	厚さ 0.4	小片	—	—	
1920	063-05 3次	陶器	山皿	J-H19	P14	P14	8.0	2.6	3.3	底部 12/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	87/0	近畿河内系
1921	095-06 3次	陶器	山皿	J-D13	P11	P11	8.4	2.5	4.5	底部 12/12	外：ロクロナデ、赤切縁 内：ロクロナデ	10187/2	近畿河内系
1922	028-03 4次	土師器	皿	J-T4	P11	P11	9.4	1.7	4.5	口縁部 12/12	外：ロクロナデ、赤切縁 内：ロクロナデ、ナデ	7, 5188/3	大島系 クロク土師器
1923	074-02 4次	土師器	皿	J-T4	P11	P11	12.8	3.7	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7, 5188/2	
1924	047-01 5次	土師器	増地	J-G7	P11	P11	31.4	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	2, 5186/6	大島系 外産保存書 近畿河内系？
1925	047-02 5次	陶器	土器または 行平鉢	J-G7	P11	P11	—	—	10.0	底部 1/12	外：ロクワズリ 内：ロクロナデ、施物	黄：7, 5188/3 緑：5184/2	瀬戸・美濃 肥前外産に属書
1926	047-03 5次	陶器	陶	J-G7	P11	P11	9.8	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、染付、施物 内：ロクロナデ、施物	黄：86/0	肥前系
1927	047-04 5次	陶器	陶	J-G7	P11	P11	10.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、染付、施物 内：ロクロナデ、染付、施物	黄：86/0	肥前系
1928	045-05 5次	土師器	皿	J-W5	P12	P12	8.6	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ、工具物？ 内：ヨコナデ	10188/3	肥前系
1929	053-05 5次	鉄製品	鉢	J-W6	P11	P11	長さ 13.6	電 4.5	厚さ 1.3	一部欠	—	—	外産保存書
1930	053-01 5次	鉄製品	釘	J-W6	P11	P11	—	電 6.9	厚さ 0.6	一部欠	—	—	
1931	049-01 5次	石製品	円盤状製品	J-X6	P13	P13	長さ 4.7	短径 4.5	厚さ 1.1	—	輪郭打ち欠き、表面剥離	—	30. 0g
1932	045-04 5次	土師器	皿	J-X6	P16	P16	10.7	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10188/2	
1933	047-07 10次	陶器	皿	J-X12	P14	P14	12.0	2.3	5.4	底部 5/12	外：ロクロナデ、ロクワズリ、施物 内：ロクロナデ、模文様、施物	黄：2, 517/2 緑：517/2	瀬戸・美濃
1934	123-02 3次	鉄製品	釘	J-X17	P12	P12	—	電 8.9	厚さ 0.4	一部欠	—	—	
1935	123-05 3次	鉄製品	釘	J-X17	P13	P13	—	電 1.2	厚さ 0.6	一部欠	—	—	
1936	047-01 3次	石製品	石鏡	J-X17	P17	P17	26.0	—	—	口縁部 1/12	外：磨面 内：磨面	—	淡石鏡 肥前西産半島
1937	045-06 5次	土師器	皿	J-Y5	P11	P11	11.5	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	10188/2	
1938	045-02 5次	土師器	羽釜	J-Y16	P11	P11	27.6	—	—	底部 1/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ハクメ	7, 5187/4	外産保存書
1939	048-05 10次	土師器	皿	J-Y12	P11	P11	7.3	1.9	5.7	底部 9/12	外：ロクロナデ、赤切縁 内：ロクロナデ	10188/3	クロク土師器
1940	082-01 3次	陶器	皿	K-025	P11	P11	—	—	—	底部 2/12	外：ロクワズリ、ナデ 内：ロクロナデ、施物	黄：2, 518/2 緑：516/3	瀬戸・美濃 「大」字
1941	027-01 2次	白磁	陶	L-A18	P19	P19	14.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施物 内：ロクロナデ、施物	黄：517/1 緑：517/2	福徳系
1942	046-02 5次	滑石器	鉢	L-B7	P11	P11	30.5	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、刻目？ 内：ロクロナデ	516/1	東洋系
1943	027-02 3次	青磁	陶	L-B17	P15	P15	—	—	4.9	底部 3/12	外：ロクワズリ、施物 内：ロクロナデ、模刻、施物	黄：86/1 緑：567/1	肥前系
1944	034-03 2次	陶器	陶	L-C13	P11	P11	—	—	5.6	底部 6/12	外：ロクロナデ、ロクワズリ、施物 内：ロクロナデ、施物	黄：2, 518/3 緑：517/2	瀬戸・美濃 内山・トシノ、遺書 文字
1945	030-06 4次	瓦質 土器	増地	L-D5	P14	P14	20.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ	86/0	
1946	042-06 2次	白磁	皿	L-D12	P15	P15	10.0	2.0	4.0	底部 10/12	外：ロクロナデ、ロクワズリ、施物 内：ロクロナデ、施物	黄：518/1 緑：518/1	近畿河内系？

第IV -49 表 遺物観察表 49

報告 No.	発出 No.	種別	器種	グリッド	報告連絡 部位	調査時 連絡名	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	残存度	調査・論文・図録等	色調	特記事項
1947	027-06 3次	縄文 土器	深鉢	L-015	P113	P113	—	—	—	口縁部 小片	外：ナデ、洗刷、皮磨 内：ナデ	10YR7/3	
1948	074-04 3次	土製品	土器	L-F5	P111	P111	高さ 1.9	幅 1.5	—	完好	外：ナデ 内：ミガキ、刷毛	7.5YR6/3	3.4g
1949	091-03 4次	瓦器	香炉	L-F6	P111	P111	—	—	—	口縁部 小片	外：工真ナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ミガキ、刷毛	2.5YR6/4 02/0	
1950	074-06 4次	土器	皿	L-F6	P112	P112	9.8	2.0	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、工真ナデ	5YR6/4	
1951	074-07 4次	土器	皿	L-F6	P112	P112	11.0	2.4	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、工真ナデ	5YR6/4	
1952	074-08 4次	土器	皿	L-F6	P112	P112	11.0	2.4	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、工真ナデ	7.5YR6/2	
1953	074-10 4次	土器	皿	L-F6	P112	P112	11.4	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工真ナデ	2.5YR/2	磨擦部
1954	074-09 4次	土器	皿	L-F6	P112	P112	13.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR6/2	
1955	074-05 4次	土器	皿	L-F6	P112	P112	13.0	2.7	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、工真ナデ	7.5YR6/4	
1956	019-02 2次	銅製品	鏡	L-F13	P111	P111	径 2.4	—	厚さ 0.2	半欠	—	—	炭化遺物
1957	029-01 2次	銅製品	鏡	L-F13	P111	P111	—	幅 4.2	厚さ 0.4	小片	—	—	
1958	019-03 2次	銅製品	鏡	L-F14	P113	P113	径 2.5	—	厚さ 0.2	完好	—	—	
1959	029-01 3次	銅製品	鏡	L-F16	P111	P111	—	—	9.7 底面 5/12	外：ロウロナデ、ナデ、ハラ切磨 内：ロウロナデ	2.5Y/2		
1960	125-02 3次	銅製品	灯	L-F16	P111	P111	—	幅 1.5	厚さ 0.8	一部欠	—	—	
1961	125-03 3次	銅製品	灯	L-F16	P111	P111	—	幅 2.1	厚さ 0.8	一部欠	—	—	
1962	054-03 4次	銅製品	灯	L-G3	P111	P111	—	幅 1.2	厚さ 0.7	半欠	—	—	
1963	054-02 4次	銅製品	鏡?	L-G3	P111	P111	—	幅 1.4	厚さ 0.3	半欠	—	—	
1964	054-09 4次	銅製品	不明銅品	L-G3	P111	P111	—	幅 6.1	厚さ 0.7	小片	—	—	
1965	040-03 2次	縄文 土器	深鉢	L-G14	P112	P112	—	—	—	底部 小片	外：ナデ、洗刷、赤磨 内：ミガキ	7.5YR6/4 7.5YR6/4	
1966	030-02 2次	陶器	皿	L-G15	P111	P111	12.7	3.4	7.4	口縁部 11/12	外：ロウロナデ、ロウロズリ、赤切磨、洗磨 内：ロウロナデ、洗磨	黄：10Y/0 黄：7.5Y/2	磨戸・洗磨 内面磨削面
1967	030-01 2次	陶器	皿	L-G15	P111	P111	12.8	3.4	7.1	口縁部 12/12	外：ロウロナデ、ロウロズリ、赤切磨、洗磨 内：ロウロナデ、洗磨	黄：10Y/0 黄：7.5Y/2	磨戸・洗磨 内面磨削面
1968	030-02 2次	陶器	皿	L-G15	P111	P111	13.0	3.7	7.0	口縁部 12/12	外：ロウロナデ、ロウロズリ、赤切磨、洗磨 内：ロウロナデ、洗磨	黄：10Y/0 黄：7.5Y/2	磨戸・洗磨 内面磨削面
1969	030-04 3次	縄文 土器	深鉢	L-G16	P116	P116	—	—	—	底部 小片	外：ナデ、洗磨 内：ミガキ	10YR6/3	
1970	117-04 3次	陶器	天目茶碗	L-G16	P115	P115	11.6	—	—	口縁部 2/12	外：ロウロナデ、洗磨 内：ロウロナデ、洗磨	黄：10YR7/2 黄：10YR6/2	磨戸・洗磨
1971	019-07 2次	銅製品	灯	L-H10	P113	P113	—	幅 0.8	厚さ 0.45	一部欠	—	—	
1972	019-09 2次	銅製品	灯	L-H11	P113	P113	高さ 5.8	幅 1.2	厚さ 0.6	完好	—	—	
1973	031-04 2次	陶器	山皿	L-H12	P118	P118	8.4	2.0	4.0	底部 12/12	外：ロウロナデ、赤切磨 内：ロウロナデ	2.5Y/1	磨削面
1974	075-03 4次	土器	皿	L-15	P112	P112	12.4	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工真ナデ	10YR6/2	外底保付
1975	075-02 4次	土器	鉢	L-15	P112	P112	23.2	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、工真ナデ	5YR6/2	磨戸・洗磨 外底保付
1976	075-01 4次	土器	鉢	L-15	P112	P112	23.7	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ	7.5YR6/3	磨戸・洗磨 外底保付
1977	040-06 2次	土製品	縄文口	L-19	P111	P111	—	—	—	小片	外：ナデ	7.5YR6/6	破損
1978	054-06 4次	銅製品	灯	L-J2	P113	P113	—	幅 1.5	厚さ 0.9	小片	—	—	
1979	052-01 4次	銅製品	灯	L-J3	P111	P111	—	幅 1.1	厚さ 0.5	小片	—	—	
1980	052-02 4次	銅製品	鏡?	L-J3	P111	P111	—	幅 0.8	厚さ 0.4	半欠	—	—	
1981	090-02 4次	陶器	水注	L-K2	P111	P111	3.8	6.0	5.7	口縁部 8/12	外：ロウロナデ、赤切磨、洗磨 内：ロウロナデ	黄：2.5YR6/2 黄：5YR6/4	磨戸・洗磨
1982	012-03 3次	磁器	人形	L-K13	P111	P111	—	幅 2.5	—	一部欠	型押し	9/0	把持部
1983	111-02 3次	灰釉 陶器	碗	L-M14	P111	P111	—	—	7.8 底面 2/12	外：ロウロナデ、赤切磨 内：ロウロナデ	2.5Y/2		
1984	123-03 3次	銅製品	灯	L-Q10	P112	P112	—	幅 8.6	厚さ 0.5	—	—	—	
1985	125-01 3次	銅製品	片刀銅品	L-R7	P117	P117	—	幅 1.1	厚さ 0.4	半欠	—	—	鉄屑?
1986	119-03 3次	土器	皿	L-S6	P111	P111	16.0	2.1	4.2	底面 9/12	外：ロウロナデ、赤切磨、洗磨 内：ロウロナデ、印刷、洗磨	5YR6/6 黄：濃	大塚系 「磨」印
1987	118-01 3次	石製品	樋口	L-T5	P114	P114	径 28.0	—	厚さ 11.5	半欠	上面：磨削	—	下口
1988	112-04 3次	土器	皿	L-T10	P111	P111	10.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、工真ナデ	10YR6/2	磨戸・洗磨

第IV-50表 遺物観察表 50

報告 №	実施 期	種別	産地	グリッド	報告種類 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	底高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調査・施工・発掘等	色調	特記事項
1989	111-04 3次	陶器	皿	L-05	P110	P110	—	—	—	口縁部 小片	外:ロクロナデ、胎土 内:ロクロナデ、胎土	黄:2.5Y7/2 輪:1.5Y8/2	瀬戸・美濃
1990	013-04 3次	陶器	皿	L-06	P117	P117	7.4	1.3	4.4	口縁部 12/12	外:ロクロナデ、胎土 内:ロクロナデ、胎土	黄:5Y7/1 輪:5Y6/3	瀬戸・美濃 内瀬戸ナデ
1991	013-07 3次	陶器	皿	L-05	P115	P115	11.1	2.1	7.0	口縁部 2/12	外:ロクロナデ、ロクロナデ、胎土 内:ロクロナデ、胎土	黄:2.5Y8/2 輪:2.5Y7/3	瀬戸・美濃
1992	013-06 3次	陶器	皿	L-06	P118	P118	11.4	3.8	4.6	口縁部 8/12	外:ロクロナデ、ロクロナデ、胎土 内:ロクロナデ、胎土	黄:10Y8/3 輪:5Y5/3	肥前系
1993	100-04 3次	青磁	皿	L-018	P114	P114	16.3	—	—	口縁部 1/12	外:ロクロナデ、胎土 内:ロクロナデ、胎土	黄:2.5Y7/1 輪:1.5Y8/2	河内系
1994	115-01 3次	磁器	紅小皿	L-55	腹底	カクラン	4.5	1.3	1.4	口縁部 12/12	外:型押し、胎土 内:型押し、胎土	黄:2.5Y8/2	肥前系
1995	015-04 4次	青磁	皿	—	腹底	カクラン	—	—	8.6	底面 1/12	外:ロクロナデ、ロクロナデ、胎土 内:ロクロナデ、胎土	黄:10Y8/2 輪:10Y7/1	福徳青磁
1996	025-03 16次	石製品	磨石	L-012	腹底	カクラン	表径 2.2	底径 2.1	厚さ 0.8	実存	—	—	5.0g
1997	032-06 4次	石製品	円蓋状製品	—	腹底	カクラン	表径 4.9	底径 4.3	厚さ 1.1	—	縁部打ち欠き、表面剥離	—	27.0g
1998	057-08 4次	銅製品	筒首瓶	L-05	腹底	カクラン	径 2.0	—	厚さ 0.3	実存	—	—	—
1999	075-05 7次	陶器	香炉	Ⅰ区・Ⅱ 区・Ⅲ 区・Ⅳ 区	包含層	包含層	9.1	5.3	—	口縁部 4/12	外:ロクロナデ、ロクロナデ、胎土 内:ロクロナデ、胎土	黄:2.5Y7/2 輪:2.5Y5/3	瀬戸・美濃
2000	075-01 7次	白磁	加工工戸 (器)	Ⅰ区・Ⅱ 区	包含層	実2トレン チ	表径 7.2	底径 7.0	—	—	外:ロクロナデ、胎土 内:ロクロナデ、胎土	黄:6Y8/2 輪:2.5Y7/1	127.0g 縁部打ち欠き
2001	079-02 7次	銅製品	銭貨	Ⅱ区・Ⅲ 区・Ⅳ 区・Ⅴ 区	包含層	包含層	径 2.2	—	厚さ 0.2	実存	—	—	汎品通貨
2002	050-04 5次	土師器	皿	—	表土	表土	8.0	1.4	—	口縁部 3/12	外:ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ、本荘状土 内:ヨコナデ、ナデ	10Y8/3	—
2003	052-02 5次	土師器	皿	—	表土	表土	8.4	1.4	—	口縁部 5/12	外:ナデ、ユビオサエ 内:ナデ	10Y8/3	瀬戸系
2004	014-04 2次	土師器	皿	L-E12	表土	表土(黒 土)	10.8	1.9	4.6	底面 12/12	外:ロクロナデ、赤切 内:ロクロナデ、印刷、胎土	7.5Y8/6 輪:造	大塚系、ロクロ土師 系、(口縁部)印 刷、口縁部保存層
2005	013-04 2次	土師器	皿	L-E12	表土	表土(黒 土)	11.6	4.6	1.9	底面 12/12	外:ロクロナデ、赤切、胎土 内:ロクロナデ、印刷、胎土	7.5Y8/6 輪:造	大塚系 ロクロ土師 口縁部保存層
2006	002-03 1次	土師器	鍋	Ⅰ-5区	表土	地層	24.0	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	10Y8/4	瀬戸系
2007	052-06 5次	土師器	鍋	J-110	表土	表土	24.7	—	—	口縁部 2/12	外:ヨコナデ、ハケム 内:ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	7.5Y8/4	瀬戸系 外底保存層
2008	015-02 4次	土師器	増埴	—	表土	表土	30.8	—	—	口縁部 2/12	外:ヨコナデ、ユビオサエ、ハケム 内:ヨコナデ、工土ナデ	7.5Y8/2 7.5Y8/3	瀬戸系 外底保存層
2009	009-02 4次	土師器	鍋	L-14	表土	表土	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ、タタキ 内:ヨコナデ、工土ナデ	5Y8/6	瀬戸系 外底保存層
2010	014-01 4次	土師器	鍋	—	表土	表土	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナデ、タタキ 内:ヨコナデ、工土ナデ	5Y8/6	瀬戸系 外底保存層
2011	030-01 4次	土師器	増埴	—	表土	表土	25.8	—	—	口縁部 1/12	外:ヨコナデ、ナデ 内:ヨコナデ、ナデ	5Y8/6	大塚系 外底保存層
2012	012-01 3次	土師器	増埴	—	表土	表土	29.6	6.6	—	口縁部 3/12	外:ヨコナデ、ナデ 内:ヨコナデ、ナデ	7.5Y8/4	大塚系
2013	052-05 瓦割 土師	風戸	J-011	表土	表土	表土	—	—	—	口縁部 小片	外:ヨコナデ、ナデ、キヤミ被さ 内:ヨコナデ、ナデ	7.5Y8/4	大塚系
2014	004-01 2次	陶器	山形碗	L-011	表土	表土	16.6	5.3	8.0	底面 12/12	外:ロクロナデ、赤切 内:ロクロナデ、胎土	10Y8/2	河内系
2015	018-01 2次	陶器	山形碗	L-011	表土	表土	17.6	5.1	7.6	底面 12/12	外:ロクロナデ、赤切 内:ロクロナデ、胎土	10Y8/2	河内系
2016	001-03 1次	陶器	山形碗	Ⅰ-4区	表土	旧耕作土	—	—	7.2	底面 9/12	外:ロクロナデ、赤切 内:ロクロナデ、胎土	2.5Y7/1	瀬戸系河内系
2017	001-04 1次	陶器	山形碗	Ⅰ-4区	表土	旧耕作土	—	—	7.6	底面 2/12	外:ロクロナデ、赤切 内:ロクロナデ、胎土	2.5Y8/2	河内系
2018	003-04 1次	陶器	山形碗	Ⅱ-1区	表土	表土(カク ラン)	—	—	7.6	底面 1/12	外:ロクロナデ、赤切 内:ロクロナデ、胎土	2.5Y8/1	瀬戸系河内系
2019	003-02 1次	陶器	山形碗	Ⅰ-5区	表土	旧耕作土	—	—	8.0	底面 12/12	外:ロクロナデ、赤切 内:ロクロナデ、胎土	2.5Y8/2	瀬戸系河内系
2020	001-01 2次	陶器	山形碗	—	表土	表土	9.6	2.8	4.8	底面 7/12	外:ロクロナデ、赤切、胎土 内:ロクロナデ、胎土	河内系	河内系
2021	001-02 2次	陶器	山形碗	—	表土	表土	10.4	2.8	5.2	底面 4/12	外:ロクロナデ、赤切 内:ロクロナデ、胎土	河内系	河内系
2022	101-02 3次	陶器	皿	L-05	表土	表土	12.6	5.4	4.6	底面 11/12	外:ロクロナデ、ロクロナデ、胎土 内:ロクロナデ、胎土	黄:10Y8/3 輪:5Y7/3	瀬戸・美濃
2023	042-03 4次	陶器	鍋	—	表土	表土	18.8	—	—	口縁部 1/12	外:ロクロナデ、ロクロナデ、胎土 内:ロクロナデ、胎土	黄:10Y8/3 輪:1.5Y7/2	瀬戸・美濃
2024	001-01 1次	陶器	天目茶碗	Ⅰ-3区	表土	旧耕作土	—	—	4.4	底面 12/12	外:ロクロナデ、胎土 内:ロクロナデ、胎土	2.5Y7/3	瀬戸・美濃
2025	008-02 2次	陶器	鍋	—	表土	表土	—	—	4.4	底面 6/12	外:ロクロナデ、ロクロナデ、胎土 内:ロクロナデ、ナデ、胎土	黄:1.5Y8/4 輪:2.5Y8/3	肥前系 河内系河内系 (河内系)印刷
2026	050-07 3次	陶器	皿	—	表土	表土	12.6	—	—	口縁部 1/12	外:ロクロナデ、ロクロナデ、胎土 内:ロクロナデ、胎土	黄:10Y8/3 輪:2.5Y8/3	瀬戸・美濃
2027	042-01 4次	陶器	皿	—	表土	表土	26.6	—	—	口縁部 1/12	外:ロクロナデ、胎土 内:ロクロナデ、胎土	黄:1.5Y8/3 輪:1.5Y7/3	瀬戸・美濃
2028	042-02 4次	陶器	皿	—	表土	表土	—	—	—	口縁部 小片	外:ロクロナデ、胎土 内:ロクロナデ、胎土	黄:10Y8/2 輪:1.5Y7/3	瀬戸・美濃

第IV-51表 遺物観察表51

標号 No.	実測 年代	種別	器種	グリップ	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調査・図文・動植物等	色澤	特記事項
2029	187-96 3次	陶器	鉢皿	J-515	表土	表土	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、胎土 内：ロクロナデ、胎土	黄：10YR5/2 輪：10YR/2	瀬戸・灰土
2030	009-04 4次	陶器	片口鉢	—	表土	埴土	12.0	6.4	5.4	底部 9/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、胎土 内：ロクロナデ、胎土	黄：10YR5/2 輪：5YR/2	瀬戸・灰土 内面酸化剥き出し 外面部部部付着
2031	003-03 1次	陶器	鉢	2-4区	表土	田舎作土(カ クラン)	—	—	11.2	底部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	5Y6/1	灰土
2032	001-02 3次	陶器	燗鉢	—	表土	表土	22.7	9.0	10.8	底部 5/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、燗付	2.5Y7/1 2.5Y/1	—
2033	111-05 3次	陶器	花瓶	L-116	表土	表土	—	—	5.2	底部 3/12	外：ロクロナデ、赤電線、胎土 内：ロクロナデ	黄：10YR3/2 輪：7.5YR4/3	瀬戸・灰土
2034	001-03 3次	陶器	肥子	L-01	表土	表土	—	幅 3.8	—	肥子部 破片	外：ナデ、雲母し、胎土	黄：10YR5/3 輪：7.5YR5/4	内面伊賀？ 行平鍋の肥子？
2035	008-01 4次	陶器	皿	—	表土	表土	—	—	—	底部 小片	外：工具ナデ、押印、胎土 内：ナデ、ユビオサエ	黄：7.5YR5/1 内：2.5YR5/3	灰土
2036	077-01 7次	陶器	皿	2区	表土	表土	—	—	—	底部 2/12	外：ロクロナデ、押印、タタキ、胎土 内：ロクロナデ、ユビオサエ、ナデ	2.5Y6/3 5Y5/1	灰土
2037	076-04 7次	磁器	小鉢	2区	表土	埴土	6.4	4.2	3.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、胎土 内：ロクロナデ、胎土	黄：6Y/0	肥前系
2038	076-03 7次	磁器	仏懸真	2区24	表土	表土	—	—	4.2	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、染付、胎土 内：ロクロナデ、胎土	黄：9/0	肥前系
2039	072-02 6次	磁器	皿	—	表土	表土	20.0	5.1	10.4	底部 6/12	外：ロクロナデ、染付、胎土 内：ロクロナデ、染付、胎土	黄：9/0	肥前系
2040	003-01 1次	磁器	皿	1-5区	表土	表土(トレン ヂ)	—	—	—	底部 小片	外：ロクロナデ、染付、胎土 内：ロクロナデ、胎土	黄：7.5YR5/2	肥前系
2041	030-03 4次	白磁	碗	—	表土	表土	—	—	6.4	底部 6/12	外：ロクロズリ 内：ロクロナデ、胎土	黄：6Y/0 輪：10YR/1	—
2042	015-03 4次	青磁	碗	—	表土	表土	16.5	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、胎土 内：ロクロナデ、胎土	黄：5YR/1 輪：5YR/1	瀬戸青磁
2043	001-01 3次	青磁	碗	—	表土	表土	15.9	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、燗澤丹文、胎土 内：ロクロナデ、胎土	黄：2.5Y7/1 輪：5Y6/1	隠岐系
2044	025-04 1次	青磁	皿	—	表土	埴土	—	—	—	底部 4/12	外：ロクロナデ、胎土 内：ロクロナデ、刺繍文、燗澤丹文、胎土	黄：6Y/0 輪：10Y/2	隠岐系
2045	075-04 3次	石製品	磨石	—	表土	表土	径 2.2	—	厚さ 0.9	完好	—	—	5.7g
2046	004-01 1次	銅製品	燗壺 (燗蓋)	2-1区	表土	田舎作土	長さ 7.1	幅 0.8	高さ 1.6	完好	—	—	—
2047	019-04 2次	銅製品	燗壺 (燗蓋)	L-112	表土	表土	長さ 4.3	幅 1.0	高さ 1.4	一部欠	—	—	—
2048	019-01 2次	銅製品	銭貨	L-112	表土	表土	径 2.5	—	厚さ 0.15	完好	—	—	寛永通寶

Ⅳ-52 表 遺物観察表 52